鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　9

平成4年度発掘調査報告
（第2分冊）

平成5年3月

鎌倉市教育委員会

目　次

（第１分冊）

序文…… i

例言…… ii

平成４年度の概観…… 1

1．由比ガ浜中世集団墓地遺跡 …… 11

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 20

第二章　調査の経過と概要 …… 27

第三章　検出した遺構・遺物 …… 28

(1)　上層遺構 …… 28

(2)　下層遺構 ……182

第四章　まとめ ……196

（第２分冊）

2．大倉幕府周辺遺跡群 …… 1

第一章　調査地点の概観 …… 7

第二章　調査の概要 …… 12

第三章　調査結果 …… 14

第１節　中世の遺構と遺物 …… 14

第四章　調査のまとめ ……112

3．長谷小路周辺遺跡 ……145

第一章　調査の概要 ……153

第１節　調査に至る経緯 ……153

第２節　調査体制 ……153

第３節　調査の成果 ……154

第二章　遺跡地の概要 ……155

第１節　歴史地理的環境 ……155
第２節　調査地点 ……158

第三章　発見された遺構と遺物 ……160
第１節　中世以前 ……160
第２節　中世 ……167
第３節　上層遺物包含層 ……246
第四章　まとめ ……249

（第３分冊）

4．保寧寺跡 …… 1
第一章　遺跡の歴史地理的環境 …… 5
第二章　発見された遺構と遺物 …… 8
第１節　第１面で発見された遺構と遺物 …… 8
第２節　第１面包含層出土遺物 …… 19
第３節　第２面で発見された遺構と遺物 …… 26
第４節　第２面包含層出土遺物 …… 37
第三章　調査の成果と問題点 …… 52
5．多宝寺跡 …… 69
第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 72
第二章　調査の概要 …… 73
第１節　調査方法 …… 73
第２節　堆積土層 …… 74
第三章　検出遺構と出土遺物 …… 76
第１節　第一面の遺構と遺物 …… 76
第２節　第二面の遺構と遺物 …… 78
第３節　第三面の遺構と遺物 …… 80
第４節　第三面下の遺物 …… 85
第四章　調査のまとめ …… 89

6．宇津宮辻子幕府跡 ……103
第一章　遺跡の位置と歴史的環境 ……107
第二章　調査経過と概要 ……108
第三章　検出した遺構と遺物 ……109
(1)　遺構 ……109
(2)　遺物 ……115
第四章　まとめ ……124
7．大倉幕府周辺遺跡群 ……131
第一章　遺跡の位置と歴史的環境 ……135
第二章　調査の概要 ……136
第三章　検出遺構と出土遺物 ……137
第四章　まとめ ……151
8．政所跡 ……165
第一章　遺跡の位置 ……170
第二章　調査の経緯 ……173
第三章　検出された遺構と遺物 ……175
第１節　上層で検出された遺構と遺物 ……175
第２節　第１面で検出された遺構と遺物 ……180
第３節　第１面かわらけ溜 ……185
第４節　かわらけ溜内出土遺物 ……229
第５節　第１面包含層出土遺物 ……230
第６節　第２面で検出された遺構 ……233
第７節　第２面の遺構と包含層出土遺物 ……236
第四章　調査の成果と問題点 ……238
9．若宮大路周辺遺跡群 ……259
第一章　調査地点の位置 ……263
第二章　調査の経過と概要 ……264
第三章　検出された遺構と遺物 ……266

(1) 遺構 ……266
(2) 遺物 ……270
第四章 まとめ ……272
10. 若宮大路周辺遺跡群 ……277
第一章 調査地の位置と環境 ……281
第二章 調査軸線の設定 ……284
第三章 調査の経過と堆積土層 ……285
Ⅰ. 調査の経過 ……285
Ⅱ. 堆積土層 ……286
第四章 遺構と遺物 ……288
Ⅰ. 調査概要 ……288
Ⅱ. 遺構と遺物 ……288
第五章 まとめと考察 ……306
Ⅰ. 検出遺構の年代 ……306
Ⅱ. 遺構15について ……307
Ⅲ. 遺構の変遷について ……309

2．　大倉幕府周辺遺跡群

二階堂字荏柄38番１（No.49）

例　言

1．本報は、鎌倉市二階堂字荏柄38番１地点所在遺跡の発掘調査のうち、国庫補助事業にかかる個人住宅部分についての報告である。

2．本報の掲載資料は１に述べた理由により部分的成果にとどまっているが、資料的意義が高いと認められるものは出土地区を問わず本報に掲載した。

3．第三章第２節　原始・古代の遺構と遺物　および調査の総括的な成果は、追って刊行予定の発掘調査団分の本報告書で提示する。

4．調査体制は次のとおり。

担　当　者　　馬淵和雄

調　査　員　　山田健二・園部雅之・及川加代子・太田美知子・渡部律子・山上玉恵・南保由利

調査補助員　　坂倉美恵子・兼行侊枝・森本康二・丹行正・小松茂憲・小西さつき・佐藤一仁

調査協力者　　神谷敏一・増田保・岩間敏雄・岸名富雄・高橋健一郎・御園生正民・斉藤政蔵・長島三男・小原謙一・青木綾子・成田初枝・池谷ツル・蒲谷由利子・黒崎真理・小川喜司・本田誠一・岡陽一郎・鈴木健太郎・鈴金美和

5．本報の執筆・編集は馬淵がおこなった。

6．本報掲載写真は、遺構を馬淵･山田･園部が、遺物を黒崎が撮った。全景写真は（株）サンシャインによる。

7．遺構図墨入れは太田・森本・南保が、遺物実測図墨入れは馬淵がおこなった。

8．本発掘調査の出土遺物等の資料は鎌倉市教育委員会が保管している。

目　　次

例　言 …… 2

目　次 …… 3

第一章　調査地点の概観 …… 7

第二章　調査の概要 …… 12

第三章　調査結果 …… 14

第１節　中世の遺構と遺物 …… 14

1　二階堂大路関連施設 …… 14

a　二階堂大路側溝 …… 14

b　柱穴列１～５ …… 16

2　東御門川旧流路（大倉御所東堀）と関連施設 …… 20

a　東御門川旧流路（大倉御所東堀） …… 20

b　道状遺構 …… 20

3　平坦部の遺構 …… 44

a　柱穴列６ …… 44

b　掘立柱建物 …… 44

c　井戸 …… 44

d　据甕遺構 …… 44

e　埋納遺構 …… 44

f　土壙 …… 44

g　土師器溜り …… 44

第四章　まとめ …… 112

付編　大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄38番１）の花粉化石 …… 113

挿図目次

図1　調査地点と周辺の主な発掘調査地点・旧跡　8
図2　調査地点位置図　9
図3　調査区設定図　12
図4　中世遺構配置図　15
図5　調査区南半遺構群　折込み
図6　溝6切石列　19
図7　溝1・6出土遺物　21
図8　溝2・3・16出土遺物　23
図9　溝7・8出土遺物　26
図10　溝9・10・11出土遺物　28
図11　溝14出土遺物　31
図12　柱穴列1～4　折込み
図13　柱穴列1出土遺物（1）　35
図14　柱穴列1出土遺物（2）　36
図15　東御門川旧流路と関連施設　40
図16　東御門川旧流路出土遺物　41
図17　柱穴列6（上）・建物1（下）　45
図18　建物3　46
図19　建物2　折込み
図20　建物4　49
図21　建物6　50
図22　建物5　折込み
図23　建物5石組雨落溝　53
図24　建物8　54
図25　建物7　折込み
図26　建物9　57
図27　建物10　58
図28　建物11　59
図29　建物12　60
図30　井戸1・同出土遺物　61
図31　井戸2・同出土遺物（1）　63
図32　井戸2出土遺物（2）　64
図33　井戸2出土遺物（3）　66
図34　井戸3・同出土遺物　67
図35　井戸4・同出土遺物　69
図36　井戸5・同出土遺物　70
図37　井戸6・同出土遺物（1）　74
図38　井戸6出土遺物（2）　75
図39　井戸7・同出土遺物（1）　76
図40　井戸7出土遺物（2）　78
図41　井戸7出土遺物（3）　79
図42　井戸8・同出土遺物　81
図43　井戸9・同出土遺物　82
図44　井戸10・同出土遺物　84
図45　井戸11・同出土遺物（1）　85
図46　井戸11出土遺物（2）　87
図47　井戸11出土遺物（3）　88
図48　井戸12・同出土遺物　89
図49　井戸13・同出土遺物（1）　91
図50　井戸13出土遺物（2）　92
図51　井戸13出土遺物（3）　93
図52　井戸14・同出土遺物　96
図53　据甕遺構・同出土遺物　99
図54　埋納遺構・同出土遺物　100
図55　土壙1・同出土遺物（1）　101
図56　土壙1出土遺物（2）　102
図57　土師器溜り1（溝25上層）・同出土遺物　105
図58　土師器溜り2（溝29上層）・同出土遺物（1）　106
図59　土師器溜り2出土遺物（2）　107
図60　原始・古代遺構配置図　111

付図１　中世遺構全図

付図２　原始・古代遺構全図

表　目　次

表１　溝１・６出土遺物観察表（１）　22
表２　溝１・６出土遺物観察表（２）　24
表３　１・６出土遺物観察表（３）　25
表４　溝２・３・16出土遺物観察表（１）　25
表５　溝２・３・16出土遺物観察表（２）　27
表６　溝７・８出土遺物観察表（１）　27
表７　溝７・８出土遺物観察表（２）　29
表８　溝９・10・11出土遺物観察表（１）　29
表９　溝９・10・11出土遺物観察表（２）　30
表10　溝14出土遺物観察表（１）　30
表11　溝14出土遺物観察表（２）　32
表12　柱穴列１出土遺物観察表（１）　37
表13　柱穴列１出土遺物観察表（２）　38
表14　柱穴列１出土遺物観察表（３）　39
表15　東御門川旧流路出土遺物観察表（１）　42
表16　東御門川旧流路出土遺物観察表（２）　43
表17　井戸１出土遺物観察表　62
表18　井戸２出土遺物観察表（１）　62
表19　井戸２出土遺物観察表（２）　65
表20　井戸３出土遺物観察表　68
表21　井戸４出土遺物観察表　69
表22　井戸５出土遺物観察表（１）　71
表23　井戸５出土遺物観察表（２）　72
表24　井戸６出土遺物観察表（１）　72
表25　井戸６出土遺物観察表（２）　73
表26　井戸７出土遺物観察表（１）　77
表27　井戸７出土遺物観察表（２）　80
表28　井戸８出土遺物観察表　80
表29　井戸９出土遺物観察表（１）　80
表30　井戸９出土遺物観察表（２）　83
表31　井戸10出土遺物観察表　83
表32　井戸11出土遺物観察表　86
表33　井戸12出土遺物観察表　90
表34　井戸13出土遺物観察表（１）　94
表35　井戸13出土遺物観察表（２）　95
表36　井戸13出土遺物観察表（３）　97
表37　井戸14出土遺物観察表（１）　97
表38　井戸14出土遺物観察表（２）　98
表39　据甕遺構出土遺物観察表　99
表40　埋納遺構出土遺物観察表　100
表41　土壙１出土遺物観察表（１）　102
表42　土壙１出土遺物観察表（２）　103
表43　土壙１出土遺物観察表（３）　104
表44　土師器溜り１出土遺物観察表（１）104
表45　土師器溜り１出土遺物観察表（２）108
表46　土師器溜り２出土遺物観察表（１）108
表47　土師器溜り２出土遺物観察表（２）109
表48　土師器溜り２出土遺物観察表（３）110

図版目次

図版１　中世遺構面全景
図版２－１　調査区南半部全景
２　溝６切石列（東から）
３　同上（西から）
図版３－１　東御門川旧流路（南から）
２　同上（東から）
３　溝８（西から）
４　柱穴列１－Ｋ（北から）
図版４－１　井戸１（南から）
２　同上壁面と石積の様相（西から）
図版５－１　井戸２（北から）
２　同上遺物出土状況（北から）
３　同上完掘状況（北から）
図版６－１　井戸３（西から）
２　井戸４（西から）
３　井戸５（南から）
図版７－１　井戸６（左）・井戸９（西から）
２　井戸６（西から）
３　同左竹出土状況
図版８－１　井戸７（西から）
２　井戸８（西から）
３　同上石積の様相（北から）
図版９－１　５・６・Ｄ・Ｅ付近井戸検出状況（東から）
２　井戸９（西から）
３　井戸10（西から）
図版10－１　井戸11（北から）
２　同上木製品出土状況（東から）
３　井戸12（北から）
図版11－１　井戸13（東から）
２　同上漆椀出土状況
３　井戸14（南から）
図版12－１　土壙３（北から）
２　土壙７（東から）
３　柱穴603（東から）
図版13－１　土師器溜り１（西から）
２　土師器溜り２（南から）
３　同左集中部分の様相
図版14－１　土師器溜り３（南東から）
２　土師器溜り４（北西から）
３　石組雨落溝（西から）
図版15－１　埋納遺構（北から）
２　同上（上から）
３　据甕遺構
図版16－１　井戸１出土遺物
２　井戸２出土遺物（１）
図版17－１　井戸２出土遺物（２）
２　井戸３出土遺物
３　井戸４出土遺物
４　井戸５出土遺物
５　井戸６出土遺物（１）
図版18－１　井戸６出土遺物（２）
２　井戸７出土遺物（１）
図版19－１　井戸７出土遺物（２）
２　井戸８出土遺物
３　井戸９出土遺物
４　井戸10出土遺物
５　井戸11出土遺物
６　井戸12出土遺物
図版20－１　井戸13出土遺物
２　井戸14出土遺物

第一章　調査地点の概観

立地

かつて六浦路と呼ばれていた県道金沢・鎌倉線は、鶴岡八幡宮の東側にある筋替橋から約500mの間、真っ直ぐ東に延びる。この直線部分の東端を東南角とした東西約280m・南北約210mの平行四辺形区画が、「大倉御所」の跡地とされている。「御所」とは権力者の居館の謂であり、つまりは幕府の所在地を意味する。調査地点はこの地の東南角近くの臨地にあって、「大倉幕府周辺遺跡群」という名称の与えられた遺跡地（鎌倉市No.49）の一角に位置する。現在の地番は鎌倉市二階堂字荏柄38番１。

大倉幕府東南の角はまた、永福寺惣門に通じる二階堂大路が六浦路から分岐する場所でもあるが、現在では狭い路地に過ぎなくなったこの二階堂大路に調査地点は南辺を接している。つまり本地点は、幕府の東南角と二階堂大路起点近くに挟まれた三角地帯のような場所である。

地勢上からみれば、この付近は朝比奈峠に源を発した滑川の本流が狭隘な谷間を抜け、二階堂川や大御堂川、東御門川などと合流して、鎌倉中心域の沖積平野を形成し始める辺りである。標高は大体12mから13mの間で、若宮大路一帯に比べおよそ４ｍ～８ｍほど高い河岸段丘上にある。往時には由比ケ浜の辺まで一望できたであろう。調査地点から滑川までの距離は約60mを測る。

歴史的環境

この一帯は日当たりのよい南向きの微高地で、水利にも恵まれていたためか、はやくに人の往来があったらしく、1936年に縄文時代前期～中期の土器や石器など数10点が荏柄天神社前から採集されている[註1]他、鶴岡八幡宮東隣の横浜国大付属小学校からも後期の土器が地表下４ｍの深さから出土している[註2]。

弥生時代に入ると、本地点から300～400m西方の３地点（図１－８・９・10）で、中期から後期にかけての住居址数軒が検出され[註3]、また東方約400mの杉本寺周辺遺跡の調査の際にも土器片が出土しているところから[註4]、この一帯の河岸段丘上の広い範囲に集落が営まれていたことが分かる。

古墳時代の遺構は今のところ明白ではないが、本地点に隣接する雪ノ下字大倉耕地569番１地点[註5]や先の杉本寺周辺遺跡で土器片が採集されており、また海岸砂丘地帯を中心に竪穴住居も数軒検出され、古墳群の存在も伝えられるので、いずれこの近辺でも確認される可能性は高い。

律令期の鎌倉地方には、今小路西遺跡の鎌倉郡衙[註6]に明らかなように大規模な集落が存在していたとみられ、この付近でも向荏柄遺跡で８～10世紀の竪穴住居７軒が検出されている[註7]。またこの一帯は当時「荏草郷」と呼ばれていたようで、天平七年（735）の『相模国封戸租交易帳』にその名が見え、平安時代の辞典『和名類聚鈔』には「荏草」はエカラと振られている。滑川沿いでは、本地点から約500m東に天平六年（734）創建と伝えられる杉本寺があり、朝比奈峠に近い十二所鑪ケ

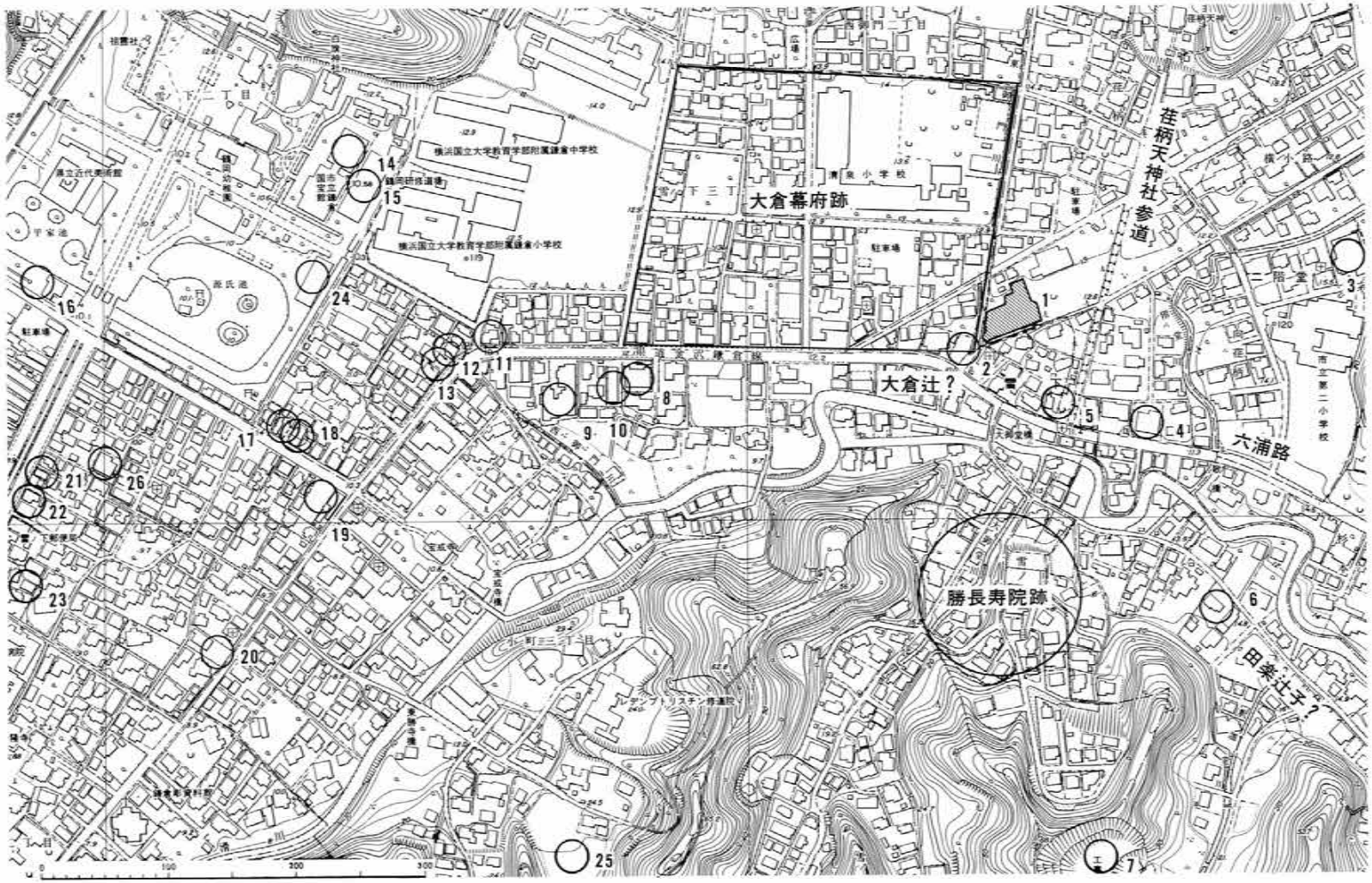


図１　調査地点近辺の主な発掘調査地点・旧跡

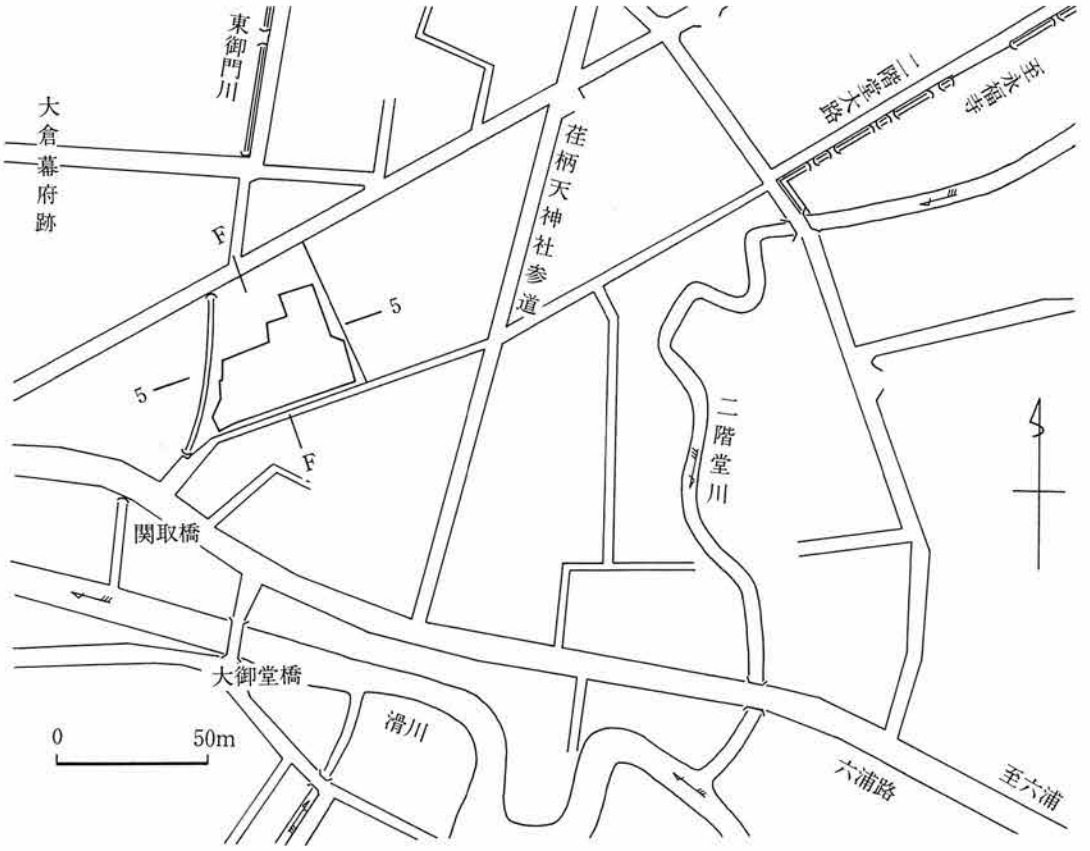


図 2　調査地点位置図

〔図 1 調査地点名〕

①. 大倉幕府周辺遺跡（調査地点）　②. 大倉幕府周辺遺跡群（雪ノ下字大倉569番 1 地点）　③. 向荏柄遺跡　④. 横小路周辺遺跡　⑤. 大倉幕府周辺遺跡（雪ノ下字大倉耕地565番 4 地点）　⑥. 浄明寺釈迦堂田楽辻子遺跡　⑦. 浄明寺釈迦堂遺跡　⑧. 大倉南御門遺跡（A地点）　⑨. 大倉南御門遺跡（B地点）　⑩. 大倉南御門遺跡（C地点）　⑪. 政所跡周辺遺跡（雪ノ下三丁目606番 1 地点）　⑫. 政所跡（雪ノ下三丁目965番地点）　⑬. 政所跡（雪ノ下三丁目966番 1 地点）　⑭. 鶴岡八幡宮境内遺跡（国宝館用地）　⑮. 鶴岡八幡宮境内遺跡（研修道場用地）　⑯. 鶴岡八幡宮前遺跡（銀杏用地）　⑰. 政所跡（雪ノ下三丁目988番地点）　⑱. 政所跡（雪ノ下三丁目987番1, 2地点）　⑲. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目395番地点）　⑳. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目432番 2 地点）　㉑. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目371番 1 地点）　㉒. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目372番 7 地点）　㉓. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目419番 3 地点）　㉔. 鶴岡八幡宮境内遺跡（源平茶屋）　㉕. 東勝寺遺跡　㉖. 北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目374番 4 地点）

谷北遺跡でも奈良・平安時代の土器が採集されている[註8]。こういった点からみて、本地点が律令期の鎌倉に展開した集落のただ中にあることは間違いない。

平安時代末期には、正確な年月は未詳だが調査地点北方約250mの山腹に荏柄天神社が勧請されている。社蔵の『荏柄山天満宮略縁起』によれば、長治元年（1104）8月に里民が当地に社殿を建立したと伝える。後に源頼朝が大倉に館を造営した際、鬼門鎮守の社として崇められた。

この地がいつ頃から大倉と呼ばれはじめたかは不明だが、一説に頼朝によるともいう。また11世紀に源頼義・義家が鎌倉に初めて居館を構えたところとも伝える（『保暦間記』など）。

『吾妻鏡』治承四年（1180）十二月十二日条は、頼朝の新亭が「大倉郷」にでき移徙の儀が行われたことを記す。それは初め父義朝の亀ケ谷の館跡に構えようとしたが、場所が広くない上に、すでに岡崎義実が義朝の菩提を弔うための寺院を建てていたので中止し、大庭景義に命じて大倉に新造したという。同書によるとその頃の鎌倉には由比郷・小林郷・大倉郷などがあった。これらの郷が先の『和名類聚鈔』の「鎌倉郷」に代わって平安時代に分立した新しい郷か、それとも頼朝が新たに「村里に号を授（同日条）」けたものか明らかでない。

さて、この「新亭」＝「大倉御所」は、以後頼朝・頼家・実朝のいわゆる源氏三代の将軍が幕政に当たる場所として、嘉禄元年（1225）まで45年間続く。この間調査地点付近の消息は『吾妻鏡』にしばしば伝わる。そのうち最も卑近なのは、建保元年（1213）の和田の乱に関係する諸事件である。この乱の委細には謎が多いが、和田義盛が執権北条義時に対し、謀叛の企ての露顕した甥和田平太胤長の処罰が苛烈だとして挙兵したものの、利あらず、一族はほとんど滅んだ。この時、胤長の「屋地」の収公をめぐって、乱の一因ともなる相論が義盛や義時らの間に起きるが、その場所が「荏柄の前にあり、御所の東隣たるによって（三月二十日条）」とある。つまり調査地点近辺に他ならない。さらに五月四日、乱の時、「尼御台所（北条政子）御第」として「東御所」とみえ、貫達人氏はそれを「幕府の郭外で、東方の近くにあった」と推定する。また貞應二年（1223）二月二十七日の記事から、「勝長寿院の北方にあたり、大体大倉幕府の東の辺と勝長寿院の奥を結ぶ線上にあった」とした[註9]。「東御所」は建保元年八月一日条では「東殿」とも呼ばれている。『吾妻鏡』には義時の「大倉亭」についての記事もいくつか見え、貫氏はそれを、寛喜三年（1231）正月十四日条などから、杉本寺の西方で、二階堂大路の辺、つまり現在の関取橋の付近に比定している。以上を整理すると、大倉御所存続期の当地点一帯の居館について、それぞれの広さが不明なので決定するには至らないが、ほぼ次のような位置関係が想定されよう。

和田胤長の屋敷は、三月二十日条により本地点北方のさほど遠くない場所であることがわかる。北条義時の「大倉亭」はおそらく、二階堂大路を挟んだ本地点向かい側である。すると、「大倉幕府の東の辺」だという「東御所（「東殿」）」の位置が問題となる。貫氏の推定に従うならば、それは胤長の屋地の南側、義時亭の二階堂大路向かい側、つまり調査地点付近が最も妥当な場所ということになる。しかしもちろん、決め手があるわけではない。

話は前後するが、頼朝は文治元年（1185）、本地点南側の谷戸に父義朝追福のため勝長寿院を建て、続いて同五年（1189）、大倉の地に「霊地」を得て大刹永福寺を建てている（年代は両寺共に事始めの際のもの）。先述のように、六浦路から分れて永福寺惣門にいたる道は二階堂大路と呼ばれていたと考えられ、調査地点南辺を通じる路地がそれに当たる。なお、六浦路が朝比奈峠をこえて六浦津まで通じるのは、仁治元年（1240）北条泰時が執権であった時で、それ以前に六浦路の名はなかったと思われる。

嘉禄元年七月十一日、政子が死ぬ。すると十月三日には御所移転が群議され、翌四日に宇津宮辻子と若宮大路等の候補地が巡検される。この時はじめて丈尺が打たれている。そして十二月にははやくも新御所（「宇津宮辻子御所」）が完成し、二十日に将軍藤原頼経移徙の儀が行われた。慌ただしいとしか言いようがないが、いずれにせよこの年に大倉御所は廃絶したわけである。これ以降政治の中心が若宮大路周辺に移ったため、調査地点近辺の記事は減る。だが、六浦津で陸揚げされた貨物や、六浦一帯で生産された塩などの搬路として六浦路が開かれてからは、その脇にあって、おおいに賑わっていたことは間違いない。建長三年（1251）と文永二年（1265）には、「大倉辻」が「鎌倉中」に設置された七ケ所の商業地の一つに指定されている。この「大倉辻」は六浦路と二階堂大路の分岐点のことであろう[註10]。

『吾妻鏡』にはまたこの一帯の火事を伝える記事も頻繁にみえるが、『北条九代記』等の記載と併せて『鎌倉市史　総説編』に詳しく、『向荏柄遺跡発掘調査報告書』に筆者も抜粋しておいたのでここでは繰り返さない。

鎌倉時代末の動乱期には、武蔵方面から朝比奈峠を経て鎌倉に入ってくる敵を防ぐため、本地点から約400m東の杉本寺裏山に山城が築かれている（「杉本城」）。しかし建武四年（1337——南朝の延元二年）、鎌倉に攻め入った北畠顕家らの軍勢により陥落する（『鶴岡社務記録』他）。

降って文安三年（1446）二月十八日付の「白田憲景譲状」により、白田氏の屋地が荏柄谷にあったことがわかるが、場所は明らかでない（『白田文書』）。

天文十七年(1548)、小田原城主北条氏康は荏柄社社殿造営のため、現在の関取橋の名の由来ともなった関所を六浦路に設け、通行の人馬から税を徴収してそれに充てた（「荏柄天神社造営関定書案」）。関所は西の橋詰にあったという。先年この場所が発掘調査され、それらしき礎石建物が検出されている[註11]。

江戸時代後期には、六浦路は相模湾の魚を江戸に送る交通路として、かなりな往来があったらしい。明治二年には調査地点北東に鎌倉宮が建立され、新たな参詣路が二階堂大路北側に平行して敷設された。現在のバス通りがそれである。

註1　赤星直忠『鎌倉市史　考古編』吉川弘文館　1959
2　註1に同じ
3　1980・1981・1983年度にそれぞれ調査。地点10出土遺物が註5の書で紹介されている。
4　1990年度に調査
5　馬淵和雄『大倉幕府周辺遺跡群　雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団　1990
6　河野真知郎他『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　1990
7　馬淵和雄他『向荏柄遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会　1985
8　馬淵和雄『鑪ケ谷北遺跡』鑪ケ谷北遺跡発掘調査団　1983
9　貫達人「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第8号　神奈川県立金沢文庫　1971　3～8頁
10　高柳光壽『鎌倉市史　総説編』吉川弘文館　1959（再版1967）　281・282頁
11　註5に同じ

第二章　調査の概要

掘削面積は全体で約1000㎡、その内集合住宅部分を大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団が、個人住宅部分を鎌倉市教育委員会が調査したが、遺跡発掘調査という作業の性格上、地区割りにおいても工程においても両者の明確な区分はそれほど意識していない。調査は1991年５月28日に始まり、試掘調査では認められなかった原始・古代遺構の検出という予想外の事態が加わったものの、ほぼ予定通り、1992年１月いっぱいに終了した。

鎌倉市教育委員会文化財保護による試掘調査によれば、地表下およそ70～100cmにある中世基盤層の直上まで、ほぼ全面に近・現代の耕作土や客土層が認められるという。そこで調査に当たっては、深さ約70cmまで重機を導入し、以下を人力によって掘ることにした。調査区は全体的には東西に長く、北東部分が張り出した形をしている。のちに判明するが、南壁と西壁に沿って大きな溝が走行しており、この部分で基盤層が深く落ち込んでいる他、北東部を除いて大方後世に削平されている。

測量基準線の設置の際は、北西調査区外の任意の点から東西と南北の双方向に５m間隔の軸線を派生させ、前者に算用数字１以下の、後者にアルファベットＡ以下の名称を付した。東西軸を調査区南側の二階堂大路の主軸線に沿うようにしたため、南北軸は正南北方位に一致していない。南北

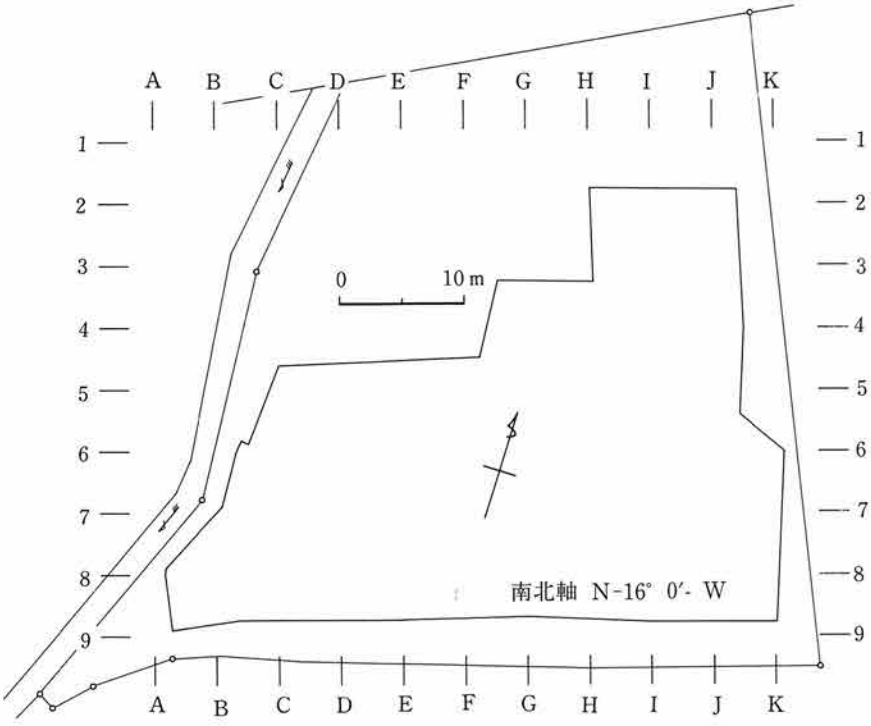


図３　調査区設定図

軸方位N－16°－W。各方眼区画の名称は、北西角の軸線交点を充てた。標高の基準杭は11.70mと12.20mに置いた。

発掘作業は5月の終わりに重機を導入して始められた。これは一週間ほどで終わるが、重機の後を追うかたちで、作業員による遺構面検出が続いた。残土は場外搬出を基本とした。先述のように、大半の部分は中世基盤層まで削平を被っており、近・現代層を剝がすとすぐに遺構検出が可能となる。中世基盤層は鎌倉市内のほとんどを覆っている暗茶褐色または黒褐色の強粘性土で、中世遺構は次章で述べるように調査区全域にわたってまんべんなく検出された。

遺構掘削は南側と西側の溝部分から始め、漸次平坦面に移った。西側溝については中世以前に自然の河川であったことが判明したが、大量の埋土すべてを排出することは日程上不可能で、重機の導入も工程に危険が伴うところから、下層まで掘り下げることは断念した。

中世遺構は、検出面がほとんど削平されていたため、その大半を同一面上で検出した。したがって次章にみる通り、その主体は削平の弊をそれほど受けていない鎌倉時代前期にあり、それ以降のものについては、井戸や溝など限られた深い遺構にいくつか痕跡をとどめているに過ぎない。検出自体は比較的容易であったため、ここ数年の気象傾向である秋の長雨にもかかわらず、11月中に厖大な遺構の出た中世面の調査をほぼ終え、残りの期間を予定外の原始・古代の調査に充てることができた。12月2日には気球による航空撮影を行う。

原始・古代遺構は、掘削開始直後から遺物が頻繁に採集されていたため、その存在が予想されていたが、やはりというべきか果して中世遺構の壁面からそれらしい落ち込みがいくつも確認されはじめた。それで中世面調査後の12月初めから検出作業に入り、以後調査終了までの2カ月を充当した。遺構は弥生時代から平安時代に及び、すべて中世面から10～20㎝下にある黄白色の砂層上面に検出した。ほとんどが中世遺構によってひどく撹乱されていたため検出はかなり難渋したが、1992年1月31日に調査を終了した。

現地作業から報告書作成にいたる間、様々の方の御教示・助言をいただいた。名前を次に記して感謝の意を表する（順不同）。

吉田章一郎・吉岡康暢・石井進・網野善彦・服部敬史・小野正敏・大上周三・柳川清彦・服部実喜・大三輪龍彦・松尾宣方・玉林美男・永井正憲・福田誠・佐久間貴士・伊藤正義・亀井明徳・飯村均・合田芳正・金井安子・今泉潔・及川良彦・手塚直樹・河野真知郎・原広志・田代郁夫・菊川英政・宇野隆夫・鋤柄俊夫・田島明人・越田賢一郎・下川達弥・原田信男・河野通明・松尾剛次・三浦純夫・千葉孝弥・松本建速・笹生衛・井上哲朗

第三章　調査結果

第１節　中世の遺構と遺物

当該期の遺構はおよそ次の通り

柱穴約2620口（掘立柱建物12棟・柱穴列６列を含む）・溝33条（石組雨落溝１条を含む）・道状遺構１条・土壙23基・井戸14基・土師器溜り５・埋納遺構１基・据甕遺構１基・その他。

これらの遺構群は大きく二つに分けることができる。一つは調査区南壁と西壁に沿って走る溝とそれに伴う柵列や道路の部分であり、もう一つは掘立柱建物の密集する平坦面である。前者の溝は共に非常に大きく、後者の平坦面をその一部とする屋敷地の境界を示すものと思われた。南壁のそれら溝や柱穴列は他の遺構群とは主軸方位を全く異にし、明らかに南側調査区外の旧二階堂大路軸線の規制を受けているところから、大路側溝とその関連施設であることは間違いない。また、西壁のそれが東御門川旧流路で、同時に大倉御所東側の堀であることも言をまたない。いずれも頻繁に改修・浚渫されながら、最近まで機能していたことが窺えた。

前章で述べたように、中世基盤層は調査区北東部を除いて大半が削平を受けているため、ほとんどの遺構は暗茶褐色土上面で検出された。この面の標高は調査区北域でおよそ11.50m前後、南西域はより深い削平を受けているために、11m前後にある。このような事情により、検出遺構の過半は鎌倉時代前期に属し、おそらく上層に存在していたであろうそれ以降のものは、井戸や溝・土壙など深い掘方をもつものに限られる。またこの状況は、切込み面の層序による遺構の新旧判断を困難にし、切合い関係のみを確実な基準とすることを我々に余儀なくした。

１　二階堂大路関連施設

溝１～20・柱穴列１～５などが相当する。先述のように、これらの主軸方位は他の遺構とは異なり、二階堂大路のそれに一致している。二階堂大路そのものは、頻繁な溝の掘削によって調査区内ではほとんど消滅しており、東南角近くでわずかにその痕跡をとどめるにすぎない。

a　二階堂大路側溝（図５～11）

鎌倉時代初期から近世にかけ、20数回にわたって付け替えられており、その結果全体として複雑な掘方形状を呈するようになった。またD軸近辺からH軸東側付近にかけて、近代期の池に大きく撹乱されているため、延長に不明な点が多い。しかも残念なことに、西壁沿いの東御門川旧流路を近代に付け替える際、破砕シルト岩の地業を地表下深く行っているため、合流地点の様相も全く把握できなかった。

これらの溝は大きく四期の群に分けることができる。ただ溝という遺構の性質上、出土遺物にかなり混乱のあることは避けがたく、図７～11に提示したのは、個別に出土溝を確定できたものにと

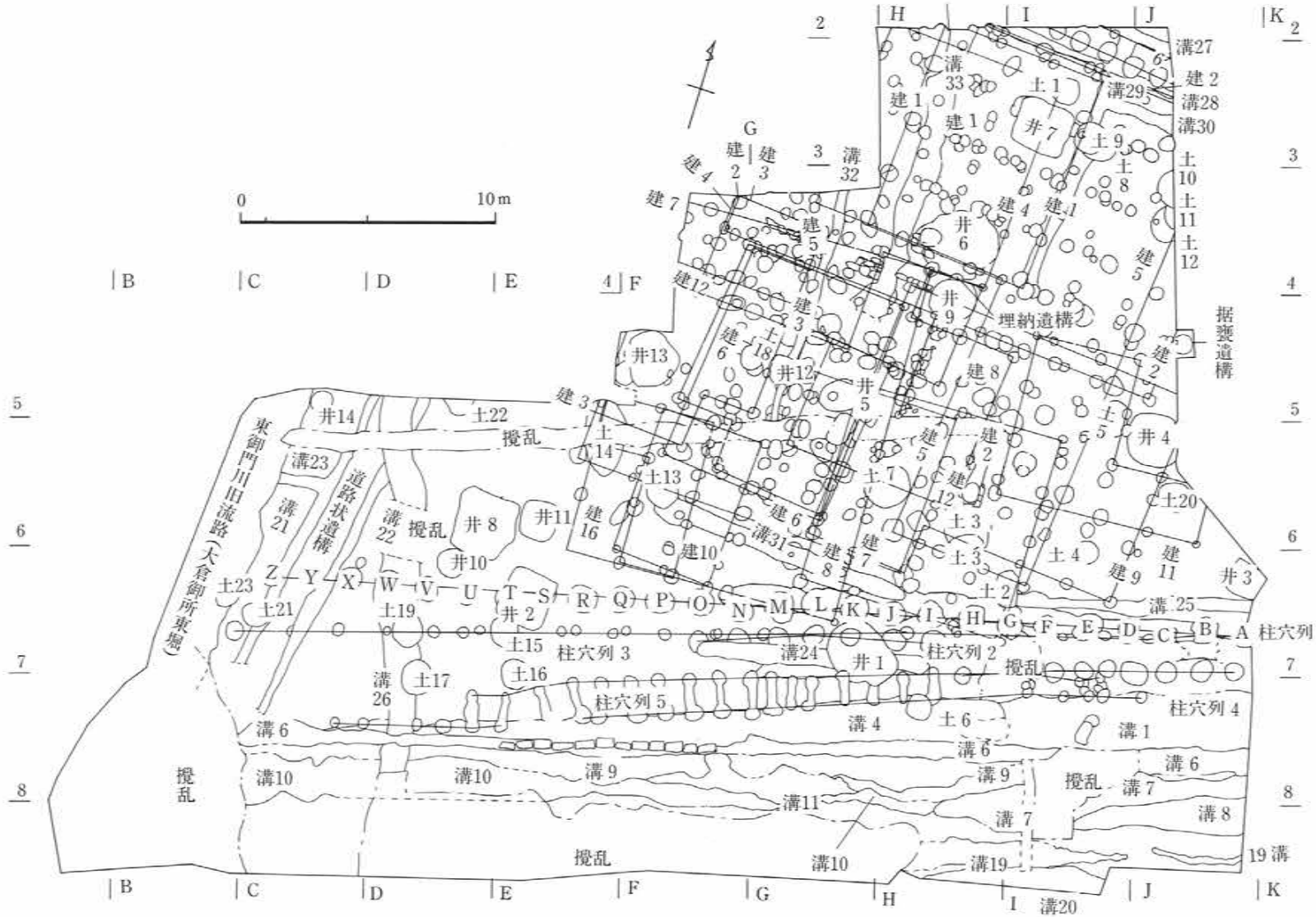

0
10m
東御門川旧流路（大倉御所東堀）
道路状遺構
埋納遺構
据褒遺構
撹乱
柱穴列1
柱穴列2
柱穴列3
柱穴列4
柱穴列5
溝1
溝4
溝6
溝7
溝8
溝9
溝10
溝11
溝19
溝20
溝24
溝25
溝26
溝27
溝28
溝29
溝30
溝31
溝32
溝33
井1
井2
井3
井4
井5
井6
井7
井8
井9
井10
井11
井12
井13
井14
土1
土2
土3
土4
土5
土6
土7
土8
土9
土10
土11
土12
土13
土14
土15
土16
土17
土18
土19
土20
土21
土22
土23

図4　中世遺構配置図

どまる。

Ⅰ期　この一群は概ね整った箱型の断面を呈し、側溝のなかでは最も北側に位置している（溝１～６）。後述する柱穴列のうち、１・２・４などがこの時期に属する。年代は鎌倉時代初期～前期とみてよかろう。幅はそれぞれ溝によっても、場所によっても異なるが、大体底部で90cm程度であるは不明)。このうち溝６は約60cm前後と他よりも狭く、Ｅ軸からＧ軸にかけて凝灰質砂岩(「鎌倉石」)切石が縦列に置かれている。なおこの時期に伴うとみられる砂礫の硬化層が調査区東壁際にわずかに認められた。二階堂大路の版築の下部層の可能性がある。

Ⅱ期　この時期になると、溝は８軸付近に移動する(溝７～11)。この時期には総じて逆台形または皿型の断面になり、幅は広いもので約120cm、狭いもので60～70cm程となる。東壁際南側に残る二階堂大路の痕跡は、この時期に伴う可能性が強い。年代は、遺物にやや混乱があるが、鎌倉時代後期～南北朝時代と思われる。Ｈ軸付近以西は撹乱されて委細不明。

Ⅲ期　この時期の一群はやや北側に後退し、Ⅰ期群とⅡ期群の中間に位置する(溝12～16)。この期のものは概ねＶ字形または薬研形の断面をしており、上部の幅は推定約90cm～120cm程と思われる。年代は、これも遺物に混入が多いが、大体室町時代～戦国時代であろう。

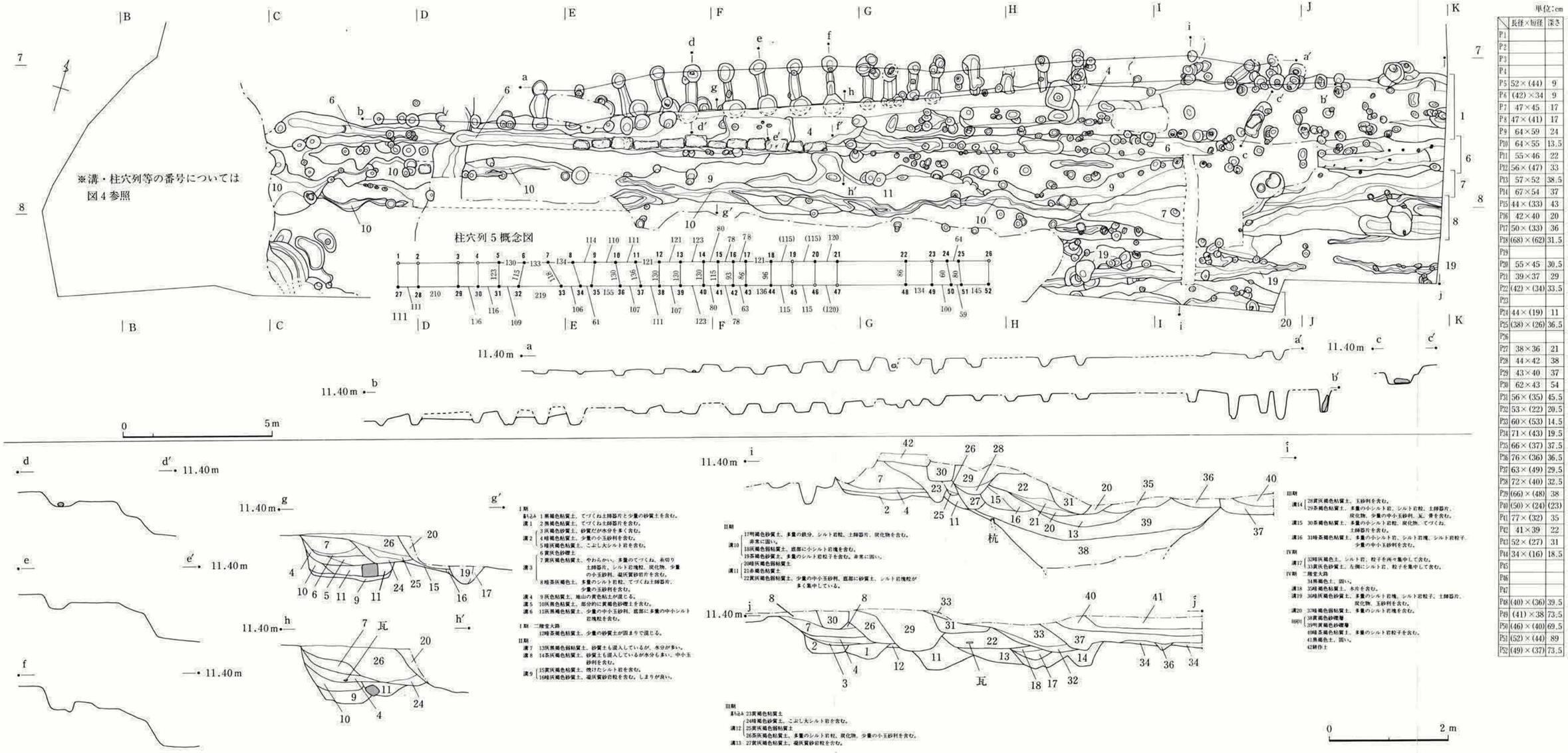
Ⅳ期　敷地が前面にせりだしたとみえ、側溝は調査区南辺にまで移動する(溝17～20)。溝断面は逆台形を呈するが、貧弱な上帯水した痕跡もなく、形骸化というに近い。出土遺物に乏しく、年代を確定しがたいが、江戸時代以降とみられる。

ｂ　柱穴列１～５（図12～14）

１　二階堂大路側溝の北側を平行して東西に走る。調査区内だけで25間の柱間があり、さらに東側に延びるのは間違いない。西側については東御門川旧流路上層の近代掘込み地業により、続きを確認できなかった。主軸方位は二階堂大路側溝Ⅰ期の溝のうち、とりわけ溝６によく一致し、出土遺物の年代も共通するところから、両者併存の可能性が強い。一部を除き平行する列がなく、柵列を想定させるが、柱穴はどれも直径１ｍを超える整った円筒形で、非常に大型の堅固な上部施設を考えざるをえない。柱根等を検出できなかったので柱の詳細は不明。いくつかに残る根固めの石の状況から、柱は抜き去られた可能性がある。柱穴Ｂ～Ｎ間に溝25を伴う。出土遺物の年代は、鎌倉時代のごく初期に比定される。

２　柱穴列１の柱穴Ｉ～Ｏ南側に平行する。主軸方位が僅かに１とずれているものの、並び自体はよく揃っているので、１の付帯施設の可能性がある。出土遺物は少ないが、態様からみて１と同時期であろう。これも大体円筒形をしているが、直径90cm前後で、柱穴は１のそれよりも一回り小さい。この柱穴列に接するように、すぐ南側にはほぼ同じ長さの溝24がある。付帯施設の可能性が考えられよう。

３　柱穴列１の南側にある。柵列であろう。後述する４・５ほどではないが、これも１とは少し主軸方位がずれる。東側は調査区外に延び、西側は１と同様の理由で不明。１や２、後述の４などと比較して、柱穴は二回り以上小さく、並びも疎らで、粗略になった印象を拭えない。１の柱穴Ａ



単位:cm

	長径×短径	深さ
P1		
P2		
P3		
P4		
P5	52×(44)	9
P6	(42)×34	9
P7	47×45	17
P8	47×(41)	17
P9	64×59	24
P10	64×55	13.5
P11	55×46	22
P12	56×(47)	33
P13	57×52	38.5
P14	67×54	37
P15	44×(33)	43
P16	42×40	20
P17	50×(33)	36
P18	(68)×(62)	31.5
P19		
P20	55×45	30.5
P21	39×37	29
P22	(42)×(34)	33.5
P23		
P24	44×(19)	11
P25	(38)×(26)	36.5
P26		
P27	38×36	21
P28	44×42	38
P29	43×40	37
P30	62×43	54
P31	56×(35)	45.5
P32	53×(22)	20.5
P33	60×(53)	14.5
P34	71×(43)	19.5
P35	66×(37)	37.5
P36	76×(36)	36.5
P37	63×(49)	29.5
P38	72×(40)	32.5
P39	(66)×(48)	38
P40	(50)×(24)	(23)
P41	77×(32)	35
P42	41×39	22
P43	52×(27)	31
P44	34×(16)	18.5
P45		
P46		
P47		
P48	(40)×(36)	39.5
P49	(41)×38	73.5
P50	(46)×(40)	69.5
P51	(52)×(44)	89
P52	(49)×(37)	73.5

図5　二階堂大路関連施設

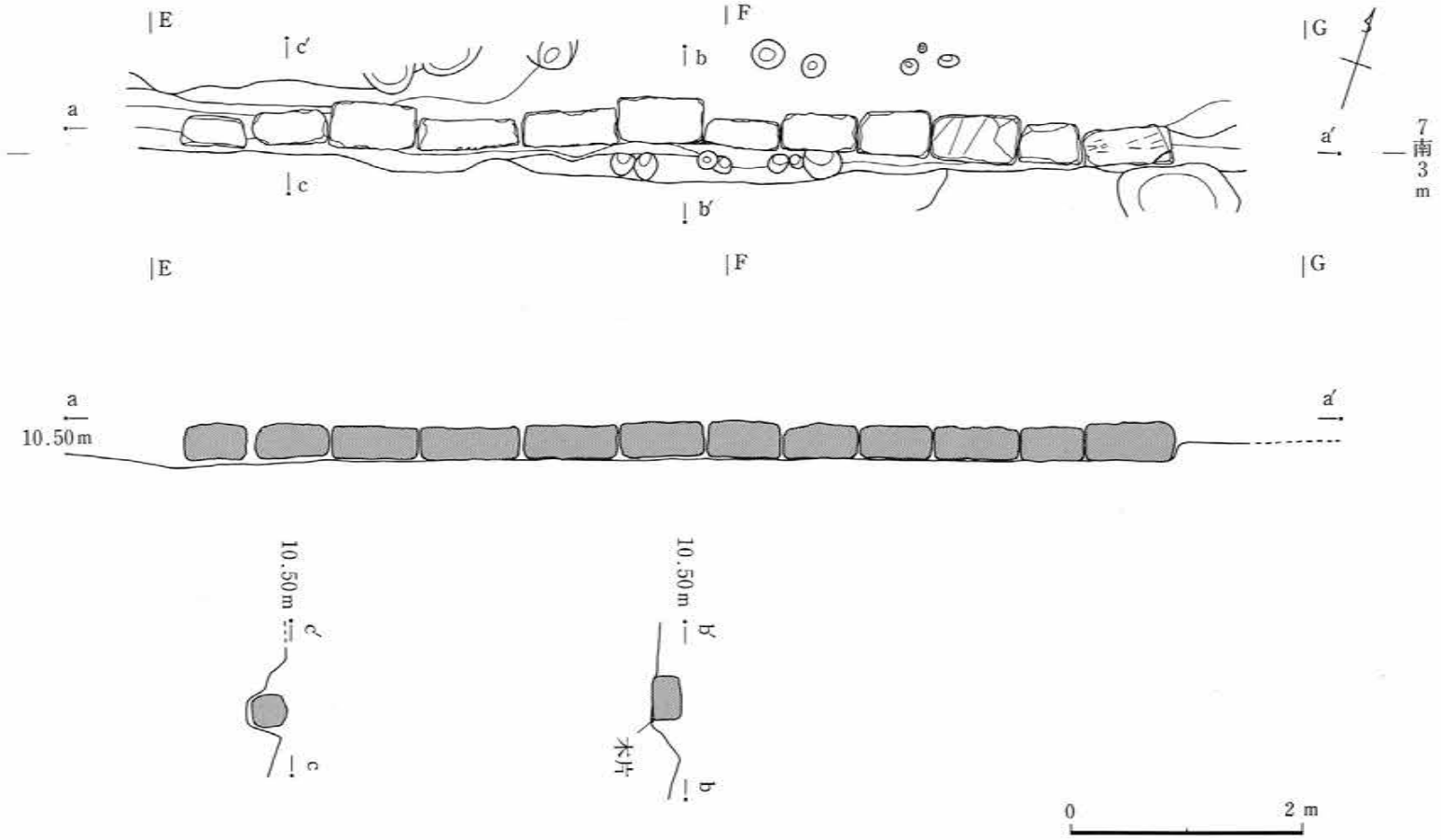


図6　溝6切石列

・Bを切る。年代判定の材料を欠くが、鎌倉時代中期以降に盛行する２mの柱間がいくつかみられる。

4　ほぼ７軸上の東壁寄りにある。東側は調査区外に延びる可能性がある。これも遺物に乏しいものの、２と同様の様相を持つ点や、Ⅰ期の溝２に主軸方位が一致している点からみて、平行した時期が考えられよう。

5　二つの柱穴を溝でつなぐ、「布堀」または「溝持ち」形式の掘方を持つ。西側と東側は明瞭に検出していないが、西側は削平されたともみられる。これはおそらく、千葉地東遺跡や若宮大路周辺遺跡群雪ノ下一丁目210番他地点などですでに検出されている、溝側板をとめる柱と、それを背後から引いて支える控え柱の掘方であろう。なお鎌倉市内におけるこの形態の溝の検出例は、今のところ鎌倉時代中期以降である。

2　東御門川旧流路（大倉御所東堀）と関連施設

調査区の西脇を流れる東御門川という小さな川は、鎌倉時代前期に大倉御所の東を限る堀の役割を果たしていたことは間違いない。調査区西壁沿いに検出した大溝はその旧状であり、それに平行する道状遺構はその東側の通りだと思われる。

a　東御門川旧流路（図15・16）

流路壁は約30°～45°の傾斜で西に向かって落ち、対岸は調査区外にあるものの、逆台形の箱堀状になると予想される。先に述べたとおり、この上部には近代の流路付け替え時のシルト岩による地業が深く入り込んでいるため、二階堂大路側溝との交点付近の状況は不明である。また検出した大溝は、出土遺物から大体15世紀以降掘削されたものと思われ、中世初期の形状はこの部分では窺えない。溝肩口に柱穴の並びなどがみられないことなどと併せ、この頃に削り取られた事も考えられる。出土遺物も年代的に混乱している。

川を挟んだ臨地の雪ノ下字大倉耕地569番１地点で流路対岸の肩が検出されており、年代が違うので単純な対応には無理があるにしても、ひとまず幅約９mという数値が得られた。ただこの数値は全容判明まで保留しておきたい。

中世期の底面からは、中世以前の河川も検出された。このことは大倉御所の堀が、すでに存在していた自然流路を踏襲して作られた可能性があることを示している。

b　道状遺構（図15）

東御門川旧流路東岸に平行する２本の溝（21・22）がある。溝に挟まれた幅120cm前後の平坦面に版築層が認められたので道としたが、土塁の基底部の可能性もある。北は調査区外に延び、南は撹乱されて不明である。主軸方位はＮ－10°－Ｅで、流路とは僅かにずれるが関連施設とみてよかろう。溝21からは東御門川旧流路に向け溝23が派生する。出土遺物に乏しく年代判定の材料を欠くが、両側の溝出土遺物から概ね鎌倉時代前期に比定される。

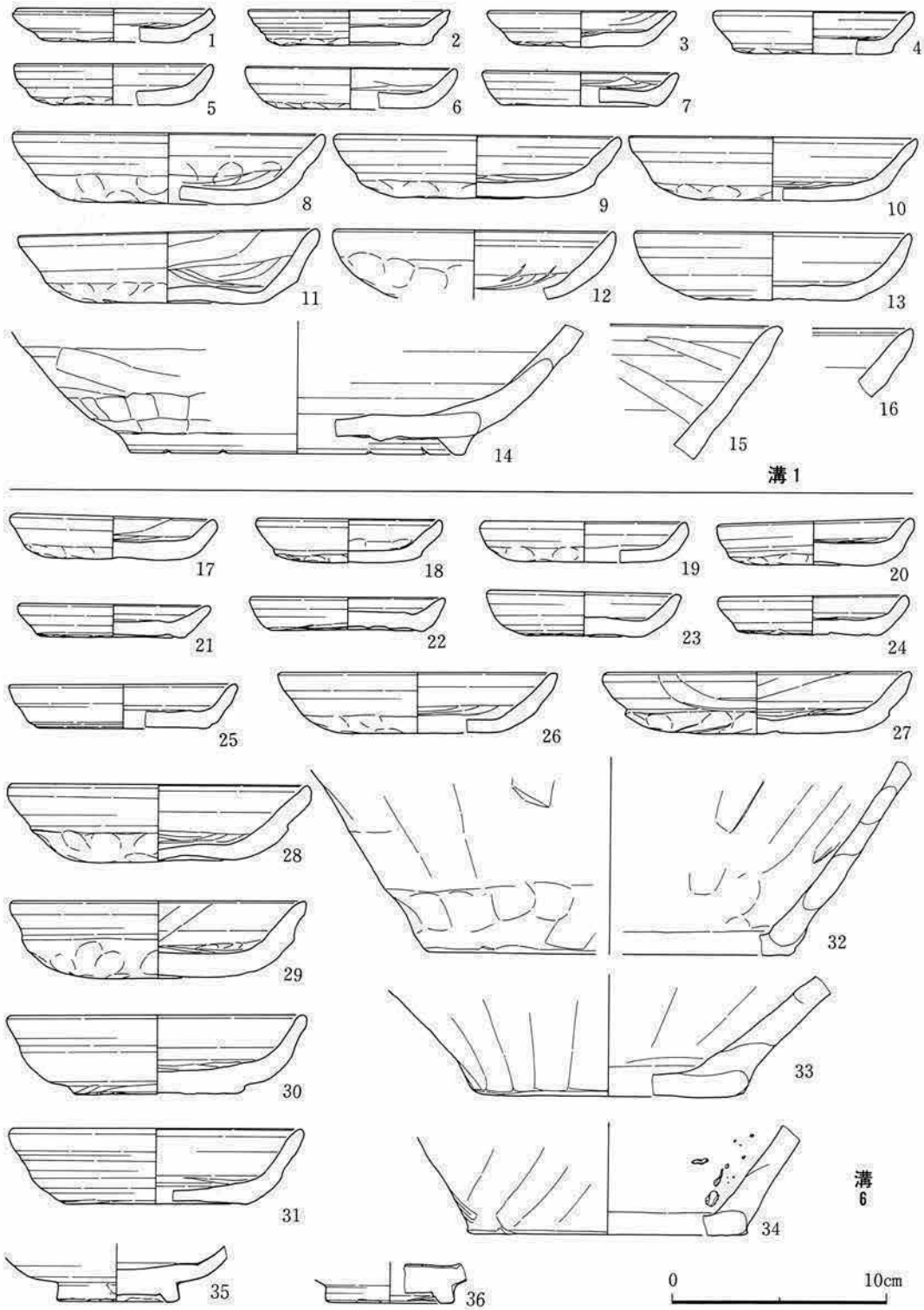

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
溝1
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
溝6
35
36
0
10cm

図7　溝1・6出土遺物

溝1	1	土師器	法量　口径9.25cm　底径6.4cm　器高1.6cm　成形　手づくね　胎土　微量の砂含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径9.4cm　底径6.7cm　器高1.65cm　成形　手づくね　内底部ナデ　胎土　微量の砂含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	3	土師器	法量　口径8.65cm　底径5.8cm　器高1.6cm　成形　手づくね　口縁から内底にかけてナデ　底部手頭痕　胎土　小石、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
	4	土師器	法量　口径9.4cm　底径6.9cm　器高1.95cm　成形　手づくね　胎土　赤色小石粒、針状物質含む　色調　淡橙色　焼成　良好
	5	土師器	法量　口径9.3cm　底径6.0cm　器高1.9cm　成形　手づくね　口縁から内底にかけてナデ　底部手頭痕　胎土　針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	6	土師器	法量　口径9.9cm　底径6.8cm　器高1.95cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙色　焼成　良好
	7	土師器	法量　口径9.2cm　底径7.8cm　器高1.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　赤色小石、針状物質　色調　灰褐色　焼成　良好
	8	土師器	法量　口径14.6cm　底径8.1cm　器高3.3cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　内底指頭痕　胎土　針状物質、雲母含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	9	土師器	法量　口径13.3cm　底径7.6cm　器高2.9cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　底部手頭痕　スノコ痕有り　胎土　微量の砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	10	土師器	法量　口径13.45cm　底径7.3cm　器高2.9cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　底部手頭痕　スス付着　胎土　赤色小石、小石含む　色調　明橙色　焼成　良好
	11	土師器	法量　口径14.15cm　底径8.3cm　器高3.3cm　成形　手づくね　口縁部内底部ナデ　底部手頭痕　胎土　針状物質、少量の小石含む　色調　灰橙色　焼成　良好　完形　備考　底物質カキ傷有り
	12	土師器	法量　口径13.2cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	13	土師器	法量　口径13.0cm　底径7.6cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質、赤色小石、砂粒、雲母含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	14	渥美こね鉢	法量　底径15.5cm　成形　輪積　高台貼り付け　外面下位回転ヘラ削り後指頭ナデ　胎土　堅緻　小石若干含む　色調　暗灰色　焼成　普通
	15	渥美こね鉢	成形　胴部上位から口縁にかけて横位のナデ　胎土　砂質　小石若干含む　口縁部内外面に自然釉　色調　灰褐色　焼成　普通
	16	常滑こね鉢	成形　口縁内外面横位のナデ　胎土　暗灰褐色　小石、粗砂含む　色調　褐色　内面に降灰　焼成　普通
溝6	17	土師器	法量　口径9.7cm　底径6.0cm　器高2.0cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　小石、砂、針状物質含む、気孔有り　色調　灰橙色　焼成　良好

表Ⅰ　溝Ⅰ・6出土遺物観察表（Ⅰ）

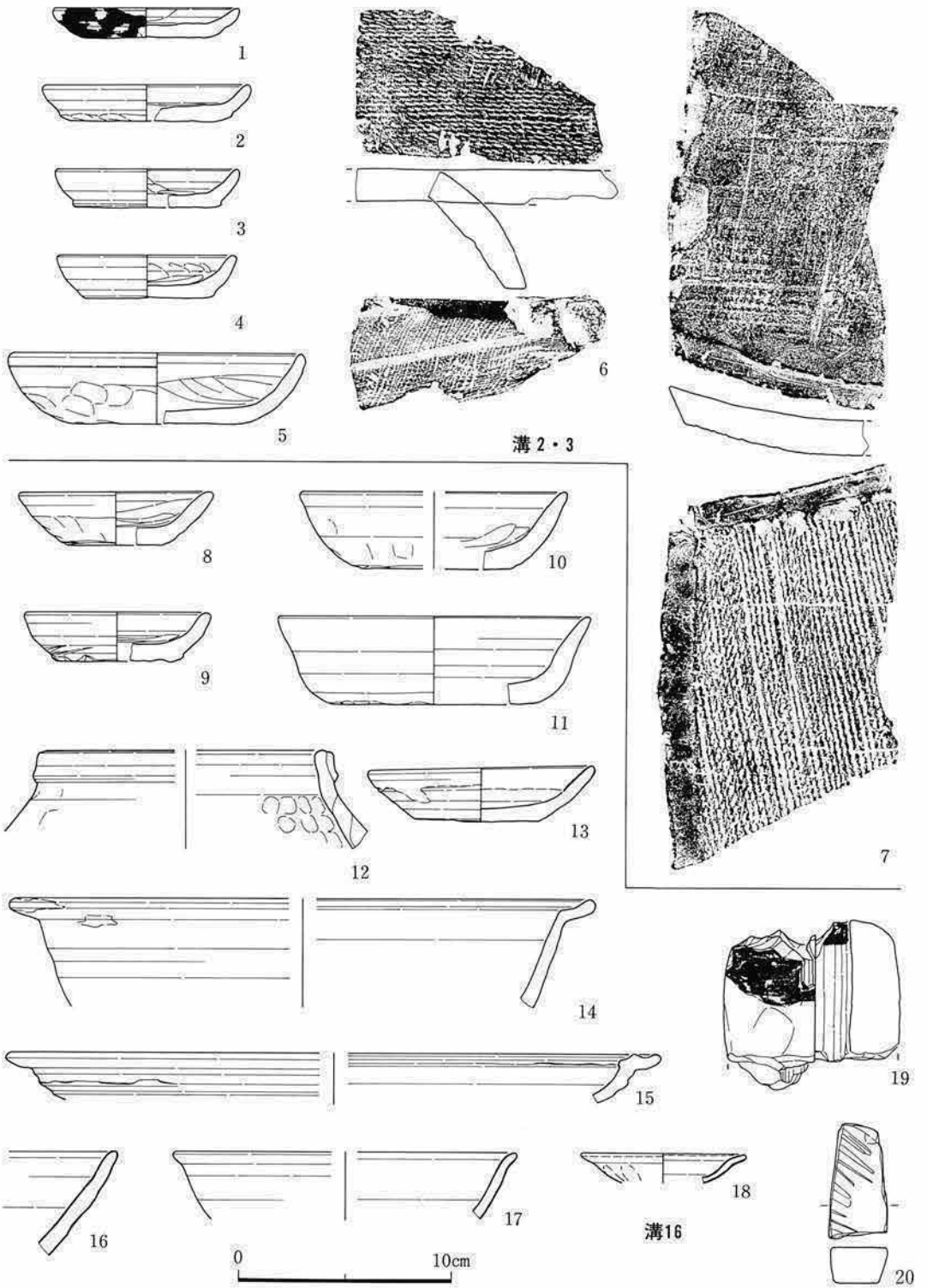


図8　溝2・3・16出土遺物

溝6	18	土師器	法量　口径8.7cm　底径5.0cm　器高2.0cm　成形　手づくね、指頭痕有り　口縁部、内底部ナデ　胎土　微砂粒、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	19	土師器	法量　口径9.7cm　底径6.2cm　器高1.9cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　微量の砂、針状物質含む、　色調　灰橙色　焼成　良好
	20	土師器	法量　口径9.3cm　底径5.5cm　器高2.1cm　成形　手づくね　口縁部から内底部ナデ　胎土　小石、多量の砂、針状物質含む、気孔有り　色調　橙褐色　焼成　良好
	21	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.8cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　多量の砂、針状物質含む、やや粗い　色調　灰橙色　焼成　良好
	22	土師器	法量　口径9.15cm　底径7.2cm　器高1.55cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　多量の砂、針状物質含む、気孔有り　やや粗い　色調　灰橙色　焼成　良好
	23	土師器	法量　口径9.1cm　底径5.4cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂、少量の赤色砂粒、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	24	土師器	法量　口径8.95cm　底径6.2cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　口縁部スス付着　胎土　砂、小石、針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	25	土師器	法量　口径10.7cm　底径8.0cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　内底部に線状のカキ傷有り　胎土　砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	26	土師器	法量　口径13.0cm　底径7.2cm　器高2.75cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　微砂粒、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	27	土師器	法量　口径14.5cm　底径8.5cm　器高2.6cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　内外部強いナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	28	土師器	法量　口径14.2cm　底径7.0cm　器高3.5cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　外底部カキ傷有り　胎土　小石、針状物質含む、気孔有り　色調　灰褐色　焼成　良好
	29	土師器	法量　口径13.1cm　底径6.0cm　器高3.55cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、微砂粒含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	30	土師器	法量　口径14.0cm　底径8.0cm　器高3.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　多量の微砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好　備考　内外面磨耗
	31	土師器	法量　口径13.75cm　底径8.2cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　口縁部強いナデ、内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	32	常滑甕	法量　底径17.2cm　成形　輪積　内外面横ナデ　外底部ヘラ調整後ハケ調整　胎土　暗灰褐色　小石含む　色調　明褐色　内面に降灰　焼成　普通
	33	常滑こね鉢	法量　底径12.7cm　成形　内面下位から内底にかけ横位のナデ　外面下位から底部に向かってヘラ調整　胎土　暗灰褐色　小石含む、気孔有り　きめ細かい　色調　外面明褐色　焼成　普通　備考　外面に自然釉　外底部砂付着

表2　溝1・6出土遺物観察表（2）

溝6	34	常滑 甕	法量　底径13.0cm　成形　内外部横ナデ　外面ハケ　胎土　灰色　きめ細かい　色調　自然釉　内面灰緑色　外面明褐色　焼成　普通
	35	青磁 龍泉窯 碗	法量　底径5.6cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　内面体部に画花文素地　淡褐色　高台部暗灰色　釉薬　緑味褐色透明　高台畳付、高台内露胎　焼成　やや不良
	36	青磁 龍泉窯 碗	法量　底径6.0cm　成形　ロクロ　高台削り出し　素地　灰白色、気孔多い　釉薬　灰緑色半透明　高台畳付、高台内露胎　焼成　良好

表3　溝1・6出土遺物観察表（3）

溝2・3	1	土師器	法量　口径9.7cm　底径5.7cm　器高1.4cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　外面にスス付着　胎土　砂粒、針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径9.7cm　底径6.7cm　器高1.7cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、微砂粒含む、きめ細かい　色調　灰褐色　焼成　良好
	3	土師器	法量　口径8.65cm　底径6.4cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　胎土　小石、赤色粗砂粒、針状物質含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	4	土師器	法量　口径8.5cm　底径6.0cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	5	土師器	法量　口径14.0cm　底径8.0cm　器高3.3cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、粗砂粒含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	6	丸瓦	法量　厚さ1.45cm　成形　凸面縄目叩き　凹面粗布目　胎土　暗灰色瓦質砂粒含む、きめ細かい　色調　暗灰色　焼成　普通
	7	平瓦	法量　厚さ1.6cm　成形　凸面縄目叩き　凹面糸切り、砂付着　胎土　暗灰色須恵質、砂粒含む　色調　胎芯部灰色　焼成　普通
溝16	8	土師器	法量　口径9.2cm　底径4.4cm　器高2.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　胎土　赤色粗砂粒、針状物質含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	9	土師器	法量　口径8.8cm　底径6.2cm　器高2.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切りスノコ痕有り　胎土　小石、赤色砂粒、針状物質含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	10	土師器	法量　口径12.4cm　底径7.0cm　器高3.6cm　成形　ロクロ　外底部回転内底部ナデ　胎土　小石、赤色砂粒、針状物質含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
	11	土師器	法量　口径14.8cm　底径9.6cm　器高4.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　小石、針状物質含む、やや粗い　色調　暗灰褐色　焼成　良好
	12	常滑 壺	法量　口径14.3cm　成形　輪積　口縁部内外面ナデ　肩部内面指頭圧痕　胎土　灰褐色、小石、粗砂多く含む　色調　赤褐色　焼成　普通　備考　表面酸化現象

表4　溝2・3・16出土遺物観察表（1）

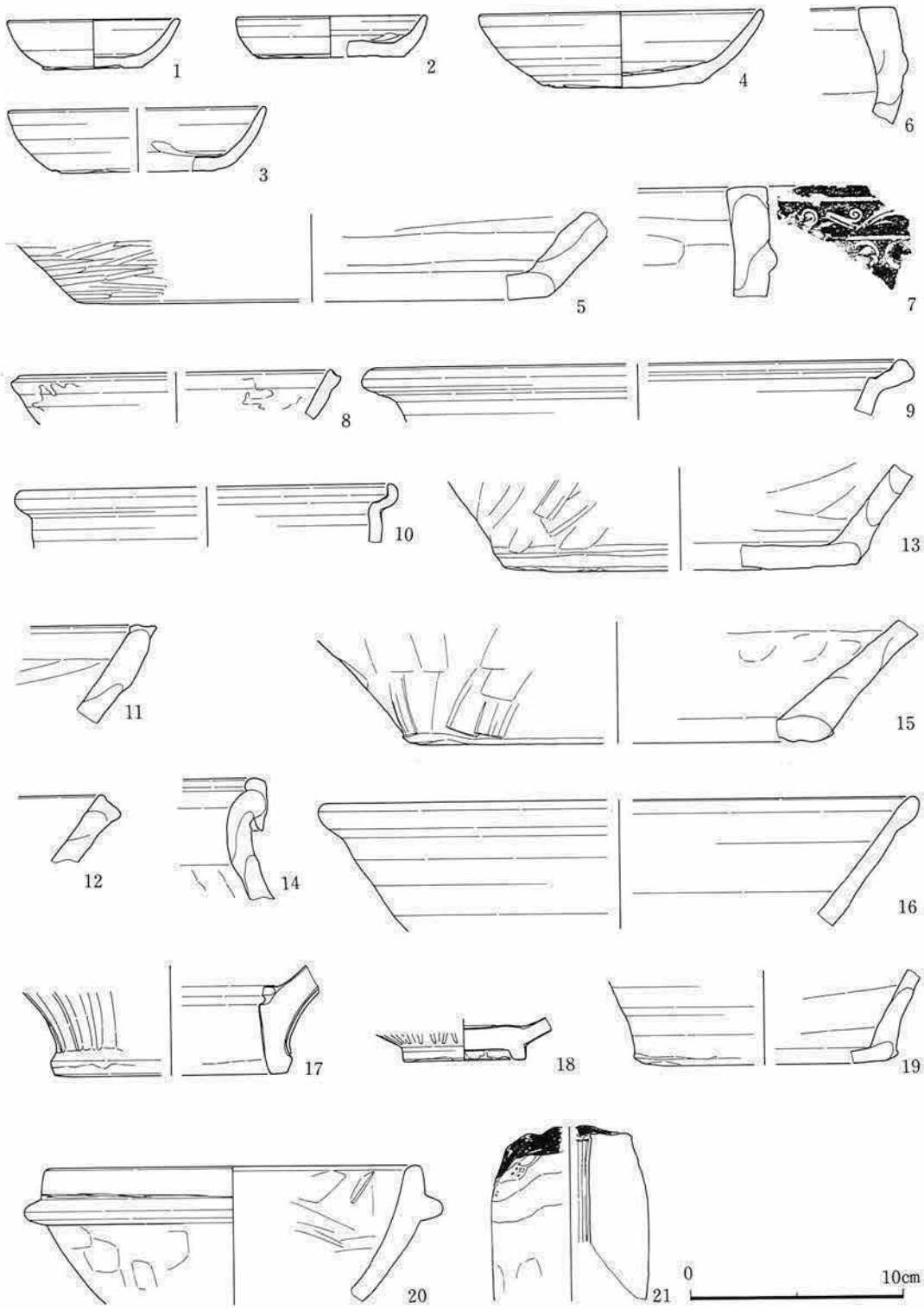


図 9　溝 7 ・ 8 出土遺物

溝16	13	瀬戸 緑釉小皿	法量　口径10.7cm　底径5.8cm　器高2.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り素地　黄褐色、微気孔有り　釉薬　淡緑色灰釉、一部白濁　焼成　良好
	14	瀬戸 折縁深皿	法量　口径27.0cm　成形　ロクロ　素地　灰褐色、きめ細かい　釉薬　淡緑色灰釉透明　焼成　良好
	15	瀬戸系 折縁皿	法量　口径30.8cm　成形　ロクロ　素地　黄灰色、微気孔有り　釉薬　灰釉、二次焼成で表面が白濁　焼成　むら有り
	16	瀬戸 太平鉢	法量　口径29.0cm　成形　ロクロ　口縁部横ナデ　素地　灰白色、気孔有り　釉薬　淡黄褐色灰釉透明　焼成　良好
	17	青磁 龍泉窯系　碗	法量　口径16.0cm　成形　ロクロ　素地　灰白色　釉薬　緑味を帯びた褐色、透明　焼成　良好
	18	青白磁 口兀小皿	法量　口径7.8cm　成形　ロクロ　体部中位から外反　文様　外面体部蓮弁文　素地　白色、きめ細かい　釉薬　淡青色、二次焼成で白濁、口縁部露胎　焼成　良好
	19	羽口	法量　口径8.3cm　孔径3.4cm　成形　棒に粘土を巻き付けて成形　外面ナデ先端部熔融　胎土　小石、粗砂粒含む、気孔有り　色調　先端部暗灰色　体部灰褐色　焼成　良好
	20	砥石	法量　(長さ5.3cm)　幅2.7cm　厚さ1.7cm　石材　石灰岩　色調　灰緑色　備考　4面とも砥面

表5　溝2・3・16出土遺物観察表（2）

溝7・8	1	土師器	法量　口径8.1cm　底径4.6cm　器高2.25cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　赤色小石粒子含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径9.1cm　底径6.9cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂含む　色調　灰橙色　焼成　良好
	3	土師器	法量　口径12.1cm　底径7.0cm　器高2.95cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　赤色小石粒子、砂粒含む　色調　橙色　焼成　良好
	4	土師器	法量　口径13.1cm　底径6.8cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　赤色砂粒、針状物質、小石含む　色調　橙色　焼成　良好
	5	火鉢	法量　底径21.2cm　成形　輪積　内面横ナデ　外面横位のヘラ磨き　胎土　灰褐色瓦質　砂粒含む、気孔有り　色調　器表面暗灰色　焼成　普通
	6	火鉢	成形　内面横位のナデ　外面ヘラ磨き　文様　外面口縁から下へ沈線、菊花文押印、連珠文　胎土　灰色瓦質　色調　外面暗灰色　焼成　普通
	7	火鉢	法量　口径34.8cm　成形　内面横ナデ　外面横位のヘラ磨き　文様　外面口縁から下へ沈線、唐草文押印、沈線、貼り付け型押しの連珠　胎土　灰褐色瓦質　色調　内面橙褐色　焼成　やや不良
	8	瀬戸 おろし皿	法量　口径15.4cm　成形　口縁部横ナデ　素地　灰色　小石含む、やや粗い　釉薬　淡灰緑色透明　焼成　良好
	9	瀬戸 折縁皿	法量　口径25.8cm　成形　ロクロ　素地　灰褐色　砂粒、小石含む、やや粗い　釉薬　緑褐色透明　焼成　良好
	10	瀬戸 折縁皿	法量　口径17.9cm　成形　ロクロ　素地　灰褐色　釉薬　緑褐色透明　焼成　良好

表6　溝7・8出土遺物観察表（1）

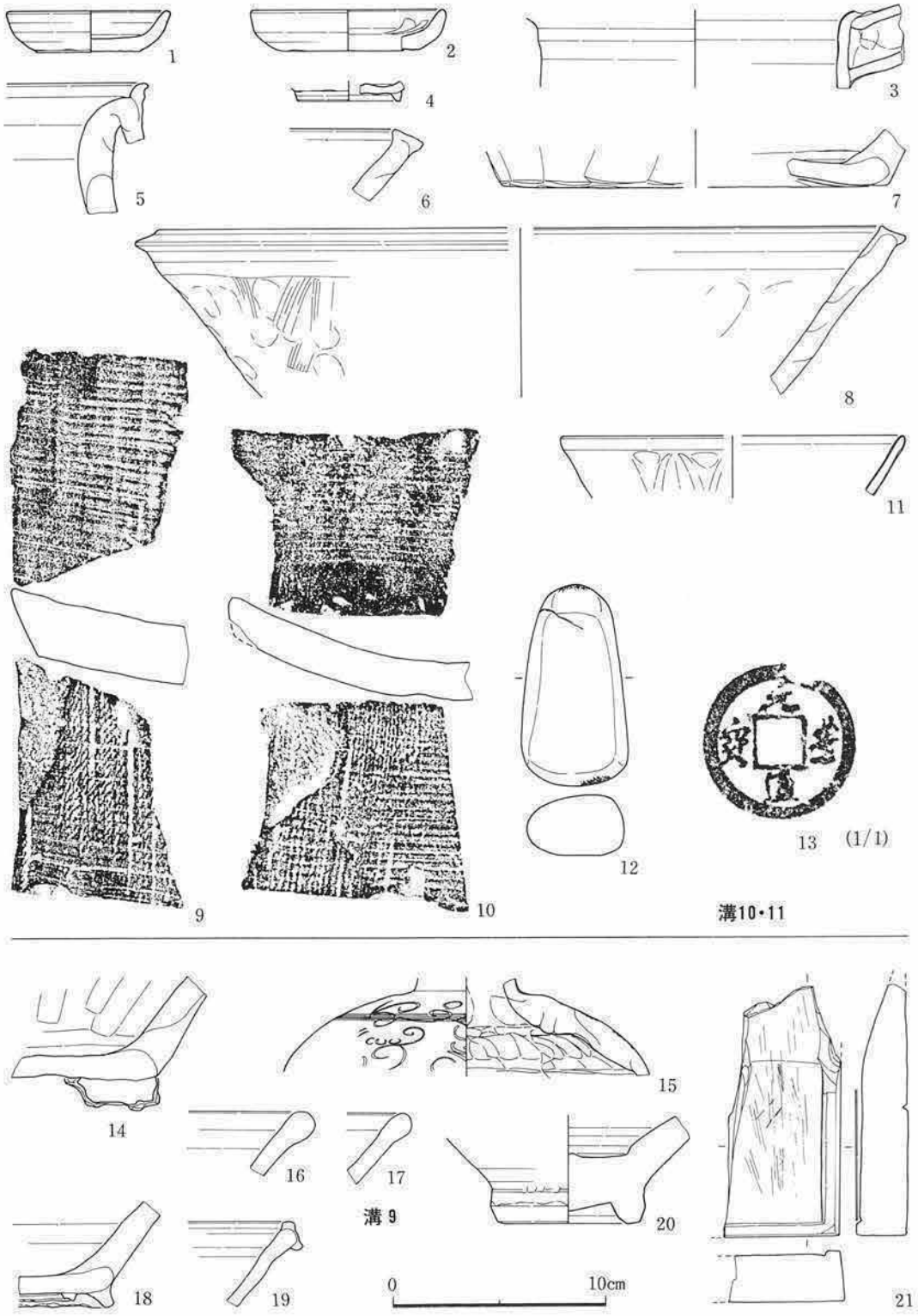


図10　溝 9 ・10・11出土遺物

溝7・8	11	常滑 こね鉢	成形　内外部横ナデ　　胎土　石英、砂粒、小石含む　　色調　明褐色　　焼成　良好
	12	常滑 こね鉢	成形　内外面上位横ナデ　　胎土　暗灰褐色　小石含む　　色調　黒褐色　　焼成　良好
	13	常滑 こね鉢	法量　底径16.6cm　　成形　輪積　外底部脇横ナデ　外底面ヘラ調整後ハケ目　胎土　暗灰褐色、白色クレー粒含む　　色調　外底部赤褐色　　焼成　普通
	14	常滑 甕	成形　輪積　口縁部内外面横ナデ　　胎土　赤色砂粒、粗砂含む　　色調　赤褐色　焼成　良好
	15	常滑 甕	法量　底径20.2cm　　成形　輪積　底部脇内外面横ナデ　外面櫛歯状工具による調整　内部指頭痕　　胎土　灰褐色　　色調　赤褐色　内側に降灰　　焼成　良好
	16	山茶碗窯系 こね鉢	法量　口径28.2cm　　成形　輪積後ロクロ　　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　色調　灰色　　焼成　良好
	17	青磁 龍泉窯酒会壺	法量　底径9.6cm　　成形　ロクロ　底部を釉薬で体部に熔着　　文様　外面蓮弁文　　素地　灰白色　　釉薬　青灰色失透　高台畳付露胎　　焼成　良好
	18	青磁 龍泉窯　碗	法量　底径5.7cm　　成形　ロクロ　高台削り出し　ヘラ調整　　文様　外面蓮弁文　　素地　暗灰色、緻密　　釉薬　暗灰緑色半透明　　焼成　むら有り
	19	褐釉 壷	法量　底径12.4cm　　成形　ロクロ　内面横ナデ　　素地　小石、砂粒含む、気孔有り　　色調　灰色　　焼成　良好
	20	滑石鍋	法量　口径17.6cm　　成形　口縁外面に横位の削り痕　体部内外面に使用痕　　色調　灰赤味褐色　　備考　鍔下にスス付着
	21	羽口	法量　最大径7.1cm　　成形　棒に粘土を巻き付けて成形　外面にナデ　　胎土　赤色砂粒、針状物質含む、気孔有り　　色調　橙褐色　　焼成　良好

表7　溝7・8出土遺物観察表（2）

溝10・11	1	土師器	法量　口径7.0cm　底径4.2cm　器高1.9cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　小石含む　　色調　暗橙色　　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径9.1cm　底径6.6cm　器高1.85cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り内底部ナデ　　胎土　小石、砂粒、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
	3	瀬戸 行平	法量　胴部径14.6cm　　成形　ロクロ　把手貼り付け　　胎土　灰白色　きめ細かい　　釉薬　灰釉　透明　　焼成　良好
	4	瀬戸内系 土器碗	法量　底径4.8cm　　成形　手づくね　高台貼り付け　　胎土　暗灰色　きめ細かい　　砂粒含む　　色調　器表面近く灰茶褐色　　焼成　良好
	5	常滑 甕	成形　輪積　口縁部横ナデ　　胎土　砂粒含む、きめ細かい　　色調　暗灰褐色　焼成　良好
	6	常滑 こね鉢	法量　口径25.2cm　　成形　輪積　口縁部横ナデ　　胎土　白色砂粒、小石含む気孔有り、やや粗い　　色調　暗灰褐色　　焼成　良好

表8　溝9・10・11出土遺物観察表（1）

溝10・11	7	常滑 こね鉢	法量　底径18.2cm　成形　輪積　内底部ナデ、外面下部ヘラナデ　外底面に離れ砂有り　胎土　白色砂粒、小石含む　色調　暗褐色　焼成　良好
	8	常滑 こね鉢	法量　口径32.0cm　成形　輪積　胴体部に指頭痕有り　口縁部、内外面ナデ　外面上部ナデ下部に櫛目状工具による調整　胎土　小石、砂粒含む、粗い、気孔有り　色調　暗褐色　焼成　良好
	9	平瓦	法量　厚さ2.8cm　成形　凸面縄目　凹面糸切り痕　胎土　瓦質、きめ細かい、砂粒含む、気孔有り　色調　灰色～暗灰色　焼成　普通　備考　両面に砂付着
	10	平瓦	法量　厚さ1.8cm　成形　凸面糸切り痕、粗布目　凹面糸切り痕　胎土　瓦質、砂粒含む、気孔有り、きめ細かい　色調　灰色　焼成　普通　備考　両面に砂付着
	11	青磁 龍泉窯　碗	法量　口径16.2cm　成形　ロクロ　文様　体部外面蓮弁文　素地　灰白色きめ細かい、微気孔有り　釉薬　灰緑色不透明　焼成　良好
	12	敲き石	法量　長径9.3cm　短径4.5cm　厚さ3.0cm　石材　ホルンフェルス系の円礫　備考　両端に敲き痕有り
	13	銭	元豊通寶　(行書)
溝9	14	常滑 甕	成形　輪積　内底部指頭ナデ　外面下位から底部にむかってヘラ調整　胎土　灰褐色、砂粒含む、粘性強　色調　内面緑褐色　外面暗褐色　焼成　普通　備考　底に粘土片と砂付着
	15	瀬戸瓶子	成形　ロクロ　内底指頭圧痕有り　文様　唐草文　素地　灰色、精緻、気孔有り　釉薬　淡緑色透明　頸部内外面施釉　焼成　良好
	16	山茶碗窯系 こね鉢	成形　口縁分内外面ロクロ横ナデ　胎土　きめ細かい　色調　暗灰色、口縁に降灰　焼成　良好
	17	山茶碗窯系 こね鉢	成形　口縁分内外面ロクロ横ナデ　胎土　砂粒、小石含む　色調　暗灰色　焼成　良好
	18	渥美 こね鉢	成形　輪積後ロクロ　高台貼り付け　外面指頭ナデ、下部ヘラ削り　高台底部にもみ殻痕有り　胎土　小石、砂粒含む　色調　暗灰色　焼成　良好
	19	東播系 こね鉢	成形　輪積後ロクロ　胎土　小石、砂粒含む　色調　暗灰青色　焼成　良好　備考　口縁に自然釉
	20	福建系 白磁四耳壺	法量　底径6.6cm　成形　ロクロ高台削り出し　素地　灰白色、緻密、気孔有り　釉薬　淡青白色透明、内外面施釉、高台部露胎　焼成　良好
	21	硯	法量　厚さ2.2cm　成形　平面は長方形　海部に向かって深く落ちる　陸部は平坦側面は外傾　石材　粘板岩　色調　黒色

表9　溝9・10・11出土遺物観察表（2）

溝14	1	土師器	法量　口径10.05cm　底径6.0cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り、スノコ痕有り　胎土　赤石粒子、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径12.4cm　底径7.2cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質、小石、砂、雲母含む　色調　明灰褐色　焼成　良好

表10　溝14出土遺物観察表（1）

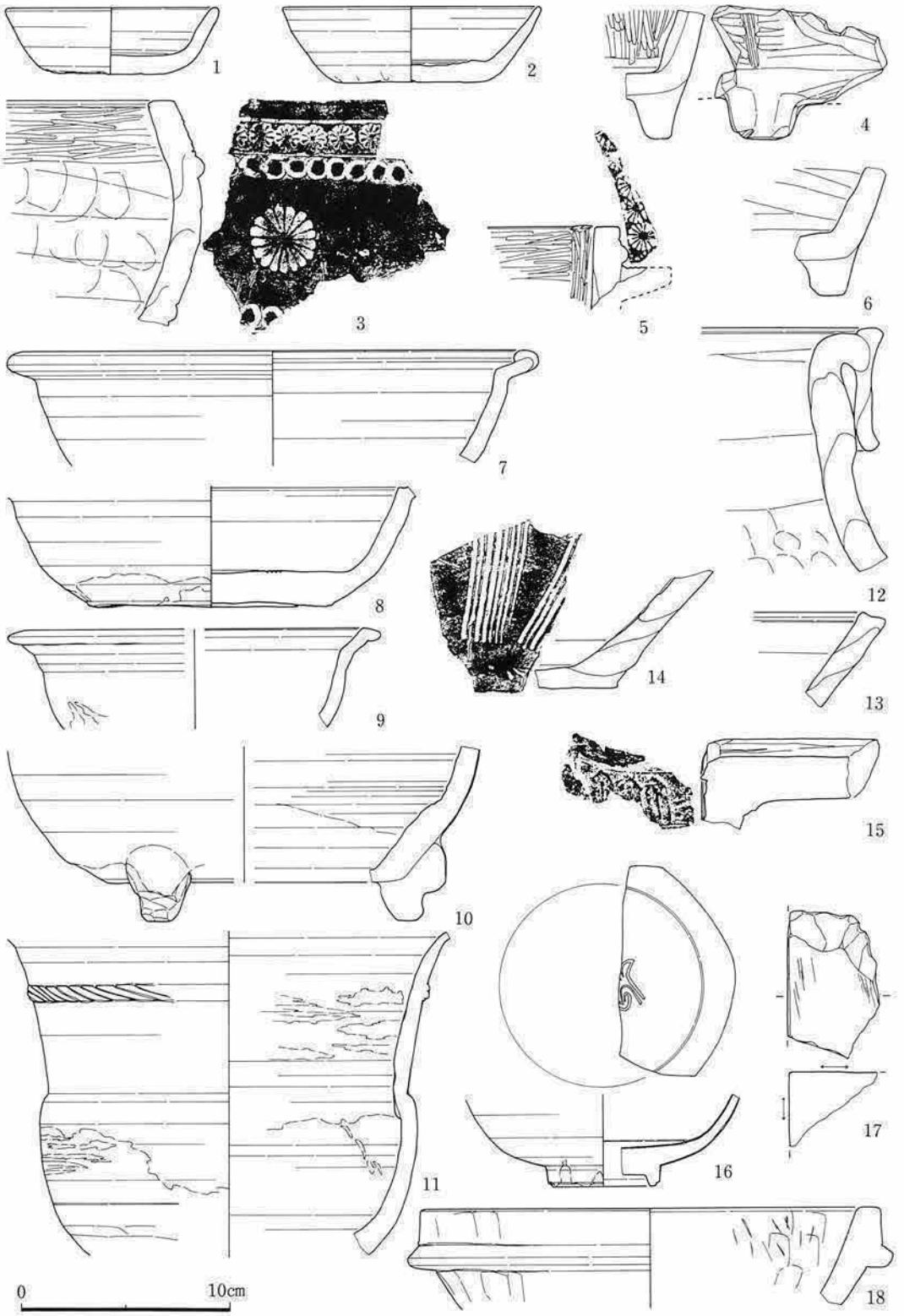
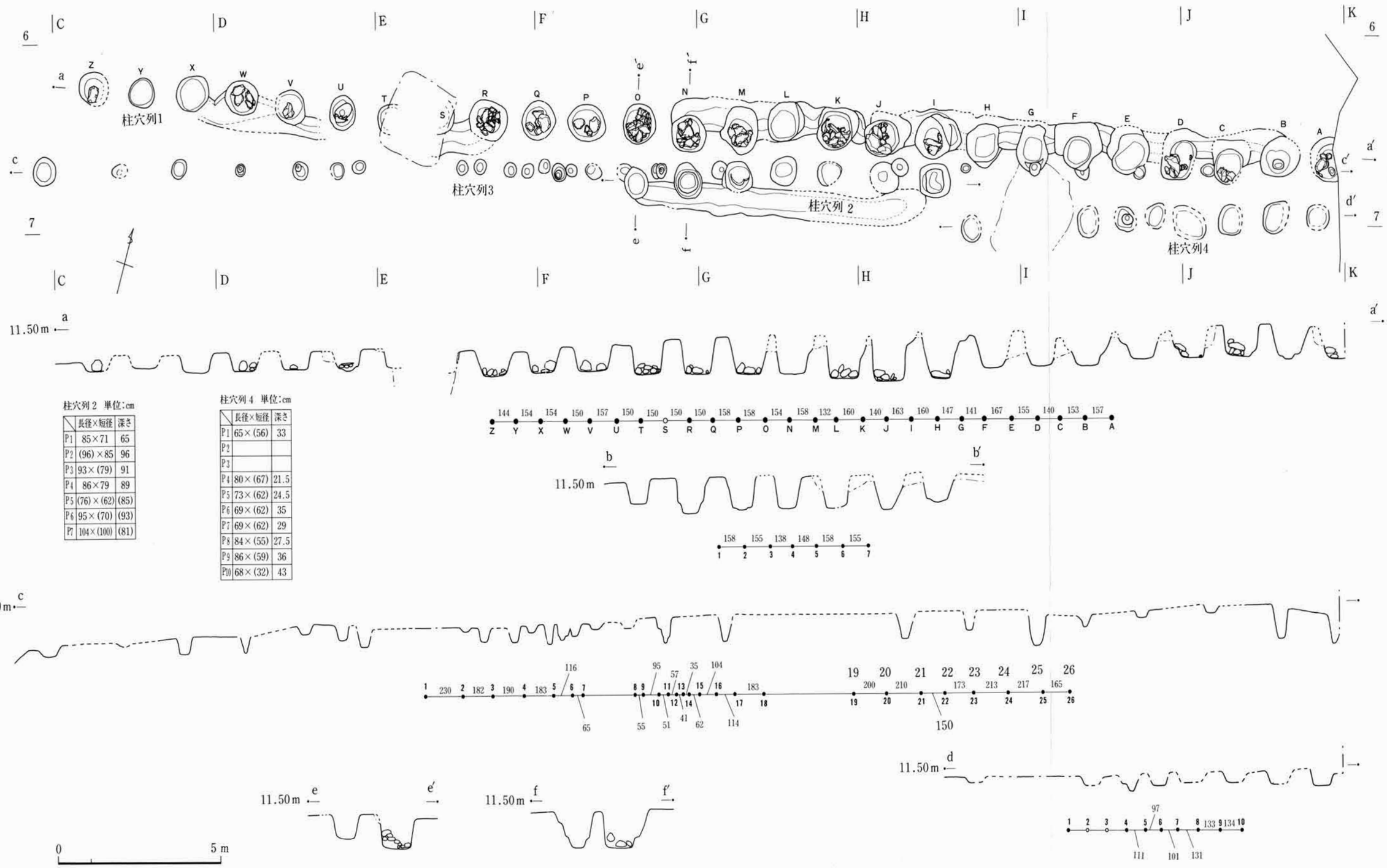


図11　溝14出土遺物

溝14	3	火　鉢	成形　輪積　口縁部、外面部、内面上部ヘラ磨き　　文様　外面上位から沈線、連続小菊花文押印、沈線、連珠文押印、大菊花文押印、連珠文押印　　胎土　瓦質　小石含む、気孔有り　　色調　灰色　外表面黒色処理　　焼成　良好
	4	輪花型火鉢	成形　胴部内面縦位のヘラ磨き、脚部逆台形板状の貼り付け、脚部底部外面ヘラ調整　　胎土　瓦質　やや粗い　　色調　灰色　表面黒色処理　　焼成　良好
	5	鍔付火鉢	成形　口縁部貼り付け、内外面ヘラ磨き　　文様　口縁部外面上位から沈線、連珠文押印　鍔上面連続菊花文押印　　胎土　瓦質、砂粒含む　　色調　灰色　表面黒色処理　　焼成　良好
	6	輪花型火鉢	成形　同部内面斜位のナデ、内底部横ナデ、同部外面斜位のヘラ磨き、脚部台形板状の貼り付け　　胎土　瓦質、小石、砂含む　気孔有り　やや粗い　　色調　灰白色　表面暗灰色　　焼成　良好
	7	瀬　戸 折縁皿	法量　口径25.3cm　　成形　ロクロ　　素地　黄灰色、小石含む、小気孔有り　釉薬　黄褐色透明、小気孔有り　　焼成　良好
	8	瀬　戸 折縁皿	法量　底径11.5cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　　文様　内底面に４周の沈線　　素地　黄灰色、小石含む、気孔有り　　釉薬　灰緑色、白濁　内面と外面同部に施釉　　焼成　良好
	9	瀬　戸 折縁皿	法量　口径17.6cm　　成形　ロクロ　　素地　淡黄灰色、気孔有り　　釉薬　灰緑色、口縁部白濁　　焼成　良好
	10	瀬　戸 香　炉	法量　底径13.0cm　　成形　ロクロ　外面ヘラ調整　脚部獣足の貼り付け　　素地　黄灰色、小気孔有り、きめ細かい　　釉薬　同部外面黒褐色の施釉　内底部淡緑色透明釉　　焼成　良好
	11	瀬　戸 香　炉	成形　ロクロ　頚部上位に貼付の縄目帯　　素地　黄灰色、小石含む、微気孔有り　釉薬　灰緑色透明、一部白濁　外面と内面頚部まで施釉　　焼成　良好
	12	常　滑 甕	成形　輪積　内外面横ナデ　内面に指頭痕有り　　胎土　暗灰色、砂、小石含む　小気孔有り　　色調　内面茶褐色　外面緑褐色、降灰　　焼成　良好
	13	常　滑 こね鉢	成形　内外面横ナデ　外面ハケ調整　口縁外側に口唇脇の指頭圧痕有り　　胎土　暗灰褐色　　小石、粗砂含む　　色調　内面暗灰褐色　外面暗茶褐色　　焼成　普通
	14	備　前 すり鉢	成形　輪積　内外面横ナデ　条線１束８本　　胎土　赤褐色、小石含む、気孔有り　きめ細かい　　色調　黒褐色の自然釉、外面は所々白濁　　焼成　良好
	15	軒平瓦	法量　厚さ2.2cm　　成形　瓦当部と平瓦を貼り付け　頚部指頭及びヘラによるナデ痕　　文様　剣頭文　　胎土　瓦質、小石含む、やや粗い　　色調　胎芯部灰色、器表面近く灰橙色　表面暗褐色、一部灰橙色　　焼成　普通
	16	青　磁 龍泉窯 碗	法量　底径5.3cm　　成形　ロクロ　高台削り出し　　文様　内底面画花文　内底と内側面の間に線刻の円圏有り　　素地　暗灰色、微気孔有り、きめ細かい　　釉薬　灰緑色半透明　高台畳付、高台内露胎　　焼成　良好
	17	砥　石	法量　長さ5.8cm　　幅4.2cm　厚さ3.7cm　　石材　砂岩　　色調　黒灰色　備考　４面とも砥面
	18	滑石鍋	法量　口径22.0cm　　成形　鍔の断面が三角に近い　内面に使用痕有り　　色調　灰白色　器表面は赤みを帯びる

表11　溝14出土遺物観察表



柱穴列1 単位:cm

	長径×短径	深さ
A	117×(70)	82
B	124×(103)	80
C	(97)×(82)	78
D	(105)×(82)	83
E	(125)×(105)	72
F	(85)×(82)	(90)
G	(120)×(99)	(90)
H	(115)×(11)	85
I	(131)×(115)	111
J	(135)×(115)	(126)
K	(116)×(98)	(109)
L	(116)×(103)	(103)
M	(124)×(115)	96
N	105×(95)	95
O	104×100	85
P	118×97	68
Q	103×98	67
R	117×(100)	70
S		
T		
U	94×77	47
V	(99)×(89)	52
W	(101)×(90)	50
X	103×(91)	54
Y	(80)×(78)	(38)
Z	85×(66)	43

柱穴列2 単位:cm

	長径×短径	深さ
P1	85×71	65
P2	(96)×85	96
P3	93×(79)	91
P4	86×79	89
P5	(76)×(62)	(85)
P6	95×(70)	(93)
P7	104×(100)	(81)

柱穴列4 単位:cm

	長径×短径	深さ
P1	65×(56)	33
P2		
P3		
P4	80×(67)	21.5
P5	73×(62)	24.5
P6	69×(62)	35
P7	69×(62)	29
P8	84×(55)	27.5
P9	86×(59)	36
P10	68×(32)	43

柱穴列3 単位:cm

	長径×短径	深さ
P1	(79)×(69)	40.5
P2	(46)×(35)	(13.5)
P3	54×45	44.5
P4	(35)×(31)	23.5
P5	51×48	25.5
P6	45×(35)	36.5
P7	41×(36)	54.5
P8	39×36	11.5
P9	44×37	35.5
P10	(39)×(37)	42
P11	41×35	20.5
P12	39×34	51.5
P13	50×40	41.5
P14	38×33	33.5
P15	51×(38)	16.5
P16	(50)×46	15.5
P17	40×(31)	66.5
P18	49×(39)	69
P19	54×(44)	73
P20	(28)×(25)	(39.5)
P21	(37)×(33)	68
P22	45×(27)	30.5
P23	(39)×(32)	16.5
P24	(40)×33	19.5
P25	(37)×(29)	(78)
P26	(27)×(20)	(75.5)

図12　柱穴列1～4

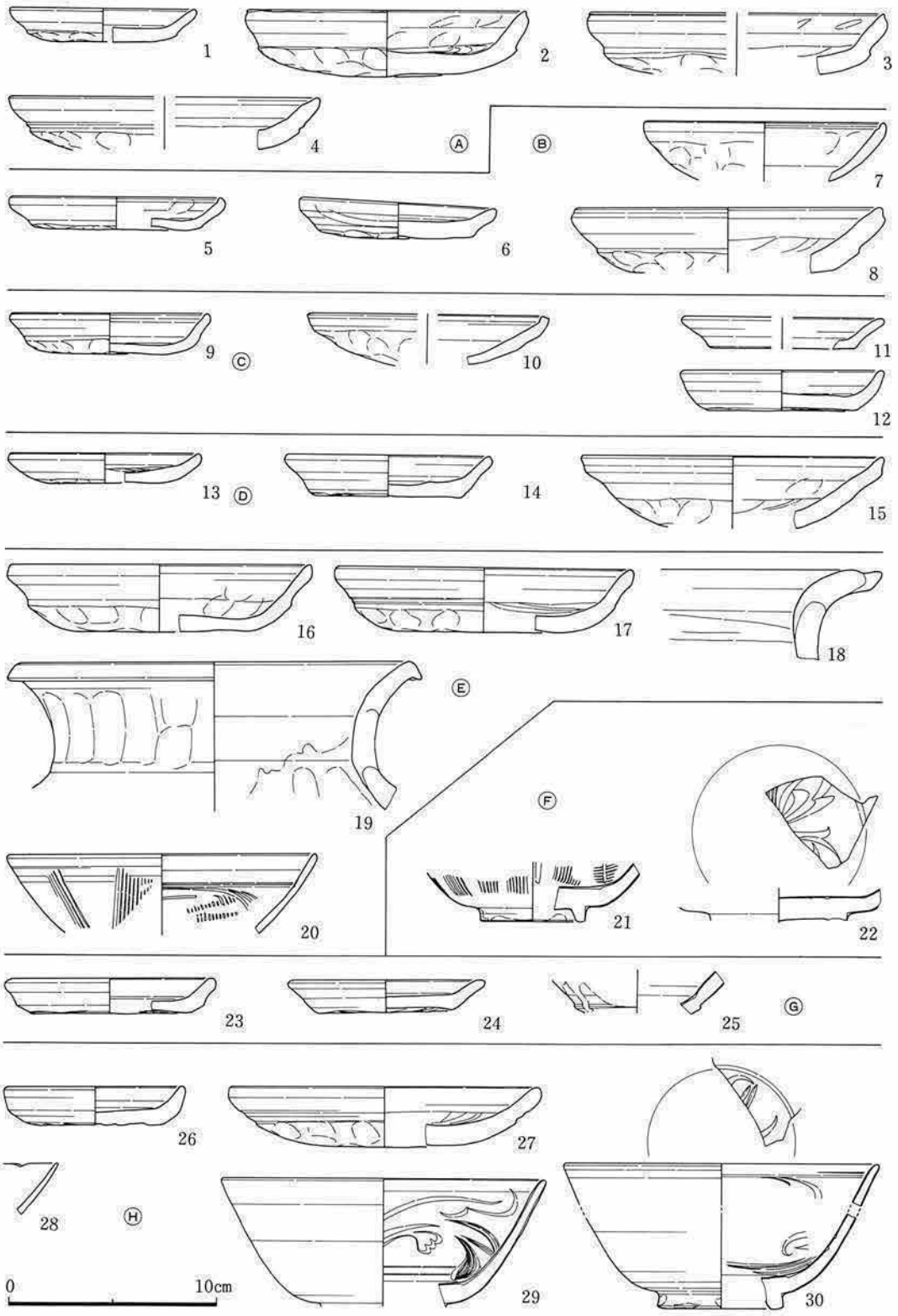


図13　柱穴列 1 出土遺物(1)

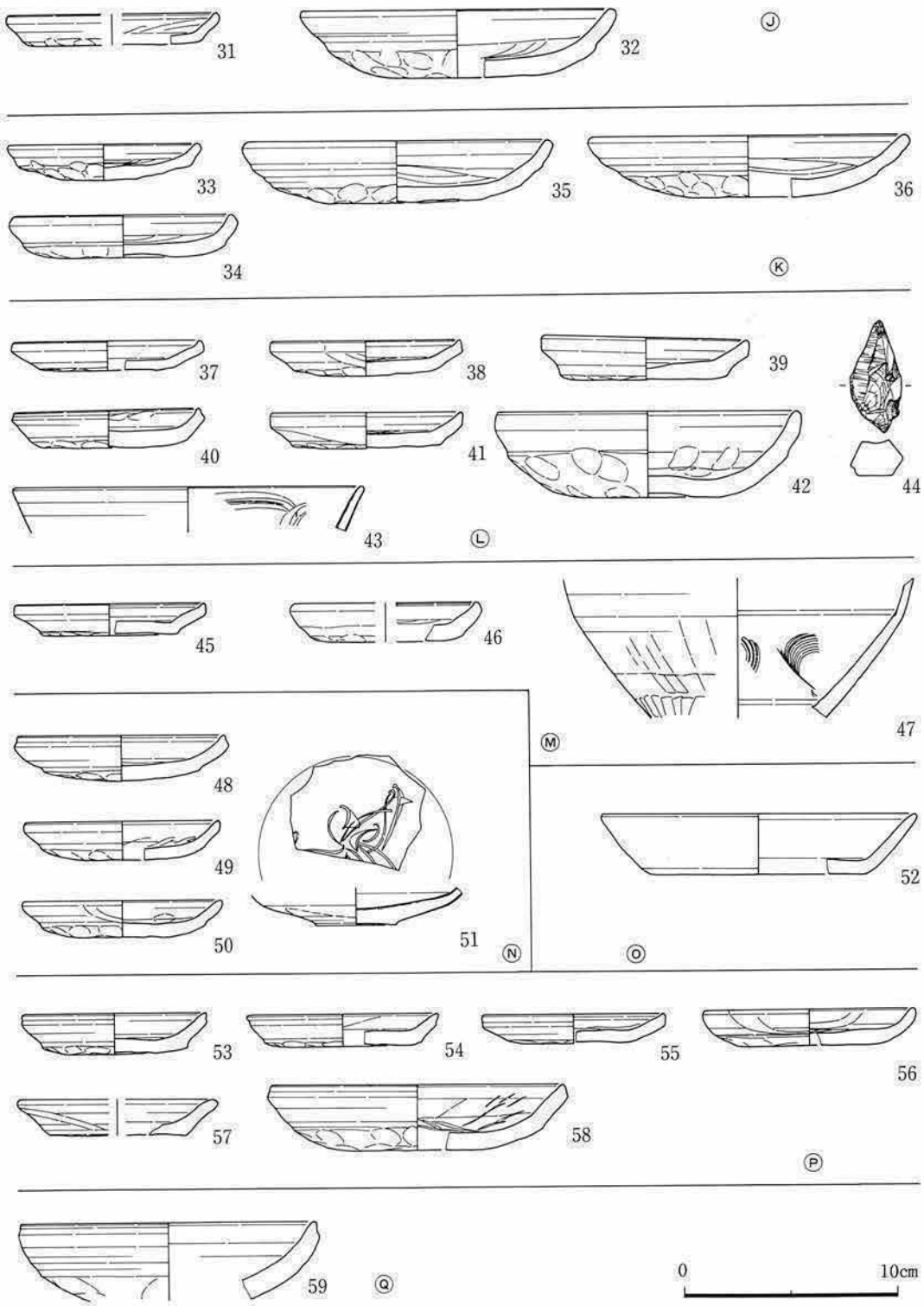


図14　柱穴列1出土遺物(2)

A	1	土師器	法量　口径9.0cm　底径4.4cm　器高1.6cm　成形　手づくね　口縁部強いナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
	2	土師器	法量　口径13.6cm　底径5.0cm　器高3.15cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　内底部指頭痕　胎土　針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	3	土師器	法量　口径14.4cm　底径8.0cm　器高3.2cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰茶褐色　焼成　良好
	4	土師器	法量　口径15.0cm　底径7.0cm　器高3.0cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
B	5	土師器	法量　口径10.4cm　底径6.6cm　器高1.5cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	6	土師器	法量　口径9.6cm　底径4.5cm　器高1.6cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む、ややきめ細かい　色調　橙褐色　焼成　良好　完形
	7	土師器	法量　口径11.6cm　成形　外底部手づくね　胎土　砂粒含む、二次焼成があり堅い　色調　暗褐色　焼成　良好
	8	土師器	法量　口径15.0cm　底形8.5cm　器高3.1cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　灰茶褐色　焼成　良好
C	9	土師器	法量　口径9.6cm　底形5.4cm　器高2.0cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰茶褐色　焼成　良好
	10	土師器	法量　口径11.6cm　成形　外底部手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
	11	土師器	法量　口径9.8cm　底径6.8cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	12	土師器	法量　口径9.8cm　底径7.0cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部右回転糸切りスノコ痕有り　胎土　砂粒含む、やや粗い　色調　灰茶褐色　焼成　良好
D	13	土師器	法量　口径9.2cm　底径5.0cm　器高1.4cm　成形　手づくね　内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
	14	土師器	法量　口径10.0cm　底径6.9cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部右回転糸切りスノコ痕有り　内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　淡橙褐色　焼成　良好
	15	土師器	法量　口径14.6cm　底径6.0cm　器高3.2cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　スス付着　焼成　良好
E	16	土師器	法量　口径14.6cm　底径8.2cm　器高3.2cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む、やや粗い　色調　灰茶褐色　焼成　良好
	17	土師器	法量　口径14.4cm　底径7.8cm　器高3.0cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　灰茶褐色　焼成　良好
	18	渥美　甕	成形　輪積　内側面横ナデ　胎土　小石含む、やや粗い　色調　外面灰緑色　内面褐色　口縁に降灰　焼成　普通
	19	渥美　壷	法量　口径20.0cm　成形　輪積　口縁部外面指頭ナデ　胎土　小石含む　色調　暗青灰褐色　口縁内側に降灰　焼成　普通
	20	青磁　同安窯系碗	法量　口径15.0cm　成形　ロクロ　文様　内外面櫛描き　素地　灰褐色　やや粗い　釉薬　淡灰青緑色透明　焼成　良好

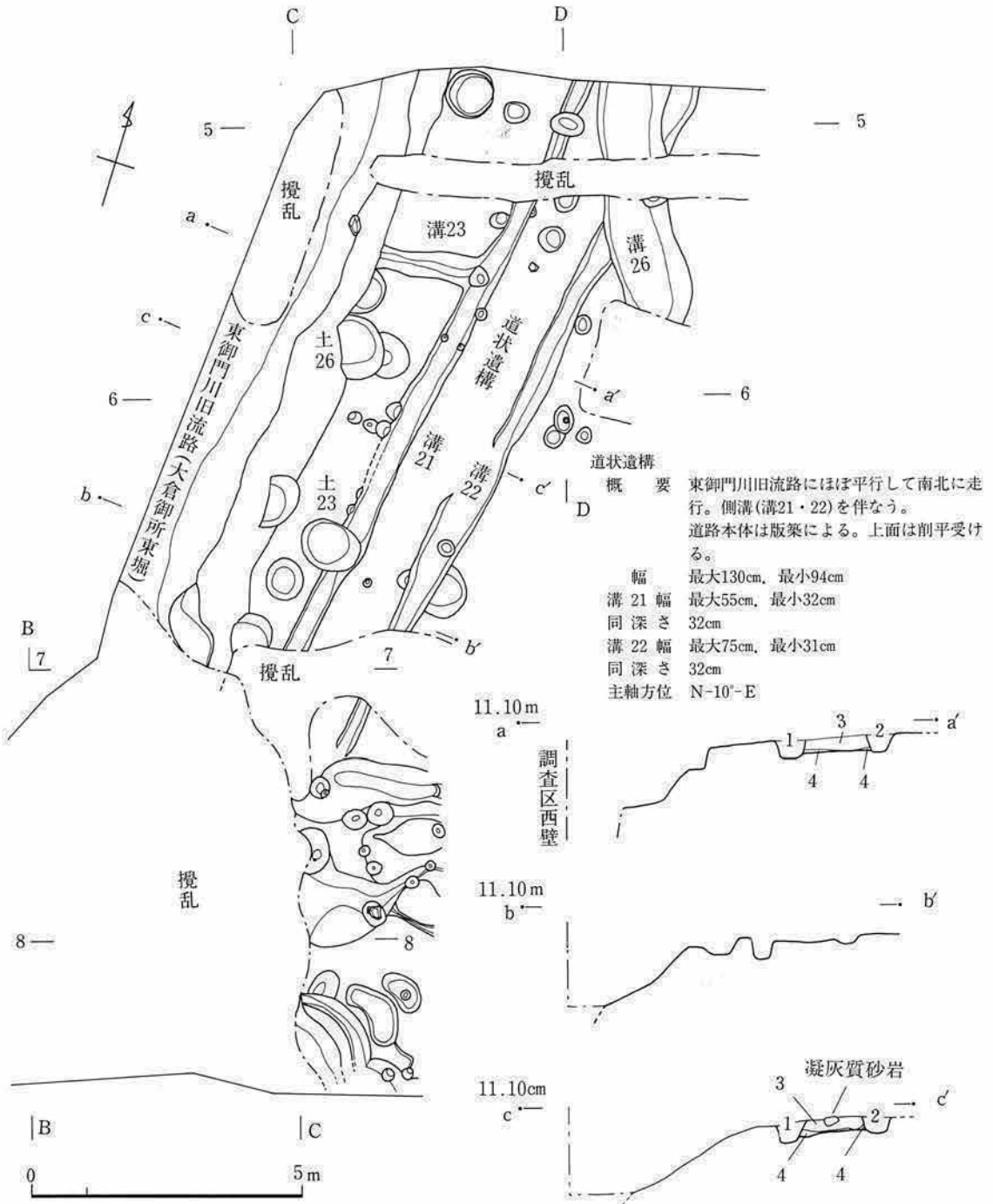
表12　柱穴列Ⅰ出土遺物観察表（Ⅰ）

F	21	青　磁 同安窯系碗	法量　底径6.6cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　内外面櫛描き 素地　灰褐色やや粗い、気孔有り　釉薬　暗灰緑色透明、気泡有り　焼成　良好
	22	青　磁 龍泉窯　碗	法量　底径5.0cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　底部画花文　素 地　灰褐色きめ細かい、微気孔有り　釉薬　暗緑褐色透明　焼成　良好
G	23	土師器	法量　口径10.2cm　底径7.2cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　底部右回転糸切り 胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
	24	土師器	法量　口径9.4cm　底径6.3cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　底部右回転糸切り スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼 成　良好
	25	天　目 茶　碗	成形　ロクロ高台わきヘラ削り　素地　灰褐色きめ細かい　釉薬　黒色不透明 焼成　良好
H	26	土師器	法量　口径8.7cm　底径7.0cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　底部右回転糸切り 内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　橙 褐色　焼成　良好　完形
	27	土師器	法量　口径13.4cm　底径6.0cm　器高3.0cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナ デ　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　白橙褐色　焼成　良好
	28	青白磁 輪花　皿	成形　型入れ　口縁輪花　素地　白色　釉薬　水青色透明　焼成　良好
	29	青　磁 龍泉窯　碗	法量　口径15.7cm　成形　ロクロ　文様　内側面画花文　素地　灰褐色き め細かい、気孔有り　釉薬　暗緑褐色半透明、気泡有り　焼成　良好
	30	青　磁 龍泉窯　碗	法量　底径6.0cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　画花文　素地 灰褐色きめ細かい、気孔有り　釉薬　緑褐色透明　焼成　良好
J	31	土師器	法量　口径10.0cm　底径6.9cm　器高1.3cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	32	土師器	法量　口径14.9cm　底径6.8cm　器高3.1cm　成形　手づくね　口縁部ナデ、ス 付着　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　白橙褐色　焼成　良好
K	33	土師器	法量　口径9.0cm　底径3.4cm　器高1.7cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	34	土師器	法量　口径10.6cm　底径5.8cm　器高1.9cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	35	土師器	法量　口径15.0cm　底径6.8cm　器高2.9cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナ デ　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	36	土師器	法量　口径15.0cm　底径4.9cm　器高2.9cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナ デ　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
L	37	土師器	法量　口径9.0cm　底径5.3cm　器高1.3cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	38	土師器	法量　口径9.0cm　底径4.6cm　器高1.6cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質含む、ややきめ細か　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	39	土師器	法量　口径9.7cm　底径6.5cm　器高2.0cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む、粗い　色調　灰橙褐色　焼成　良好

表13　柱穴列１出土遺物観察表（２）

	40	土師器	法量　口径8.9cm　底径5.8cm　器高1.8cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	41	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.8cm　器高1.7cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む、ややきめ細か　色調　橙褐色　焼成　良好
	42	土師器	法量　口径14.4cm　底径6.5cm　器高4.0cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	43	青　磁 龍泉窯　碗	法量　口径16.4cm　成形　ロクロ　文様　内面ヘラ描き文　素地　灰褐色、きめ細かい　釉薬　緑褐色透明　焼成　良好
	44	水晶	法量　長さ5.25cm　最大幅2.4cm　両端、両側縁に使用痕有り
M	45	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.0cm　器高1.4cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む、ややきめ細か　色調　橙褐色　焼成　良好
	46	土師器	法量　口径9.0cm　底径5.4cm　器高1.8cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	47	青　磁 同安窯系碗	成形　ロクロ　文様　内面櫛目描き　素地　灰褐色、気孔有り　釉薬　緑褐色半透明、体部下半が露胎　焼成　良好
N	48	土師器	法量　口径10.0cm　底径1.9cm　器高2.1cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	49	土師器	法量　口径9.2cm　底径3.8cm　器高1.8cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　白橙褐色　焼成　良好
	50	土師器	法量　口径9.4cm　底径4.3cm　器高1.7cm　成形　外底部手づくね　口縁部ナデ 内底に指頭痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	51	青　磁 同安窯系皿	法量　底径3.8cm　成形　ロクロ　体部から底部にかけてヘラ削り　文様　ヘラ描き文　素地　灰褐色気孔有り　釉薬　内面と外体部途中まで緑褐色半透明　焼成　良好
O	52	土師器	法量　口径14.8cm　底径10.0cm　器高2.8cm　成形　ロクロ　糸切り痕不明瞭 胎土　針状物質、雲母含む　色調　茶褐色　焼成　良好
P	53	土師器	法量　口径8.6cm　底径4.9cm　器高1.8cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	54	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.0cm　器高1.5cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	55	土師器	法量　口径8.6cm　底径4.8cm　器高1.3cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	56	土師器	法量　口径10.0cm　底径6.0cm　器高1.7cm　成形　手づくね　口縁部ナデ 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
	57	土師器	法量　口径9.0cm　底径5.0cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　外底部右回転糸切り 胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　橙褐色　焼成　良好
	58	土師器	法量　口径14.0cm　底径6.0cm　器高3.1cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
Q	59	土師器	法量　口径14.0cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む 色調　灰橙褐色　焼成　良好

表14　柱穴列Ⅰ出土遺物観察表（3）



東御門川旧流路

概　要	中世以前の自然流路を利用，断面逆台形の箱堀
	壁傾斜角約30°～45°
幅	推定約９ｍ（臨地調査地点との対比による）
深　さ	確認面から110～130cm
主軸方位	N-7°-E

道状遺構

概　要	東御門川旧流路にほぼ平行して南北に走行。側溝（溝21・22）を伴なう。
	道路本体は版築による。上面は削平受ける。
幅	最大130cm，最小94cm
溝 21 幅	最大55cm，最小32cm
同 深 さ	32cm
溝 22 幅	最大75cm，最小31cm
同 深 さ	32cm
主軸方位	N-10°-E

1　暗褐色砂質土
　シルト岩粒子・土師器片等含む（溝21）
2　黄褐色砂質土
　シルト岩粒子・土師器片多く含む（溝22）
3　灰褐色砂質土
　シルト岩粒子・土師器片を含み、固い（道路版築層）
4　暗褐色粘質土
　シルト岩粒子・土師器片を含み固い（同上）

図15　東御門川旧流路と関連施設

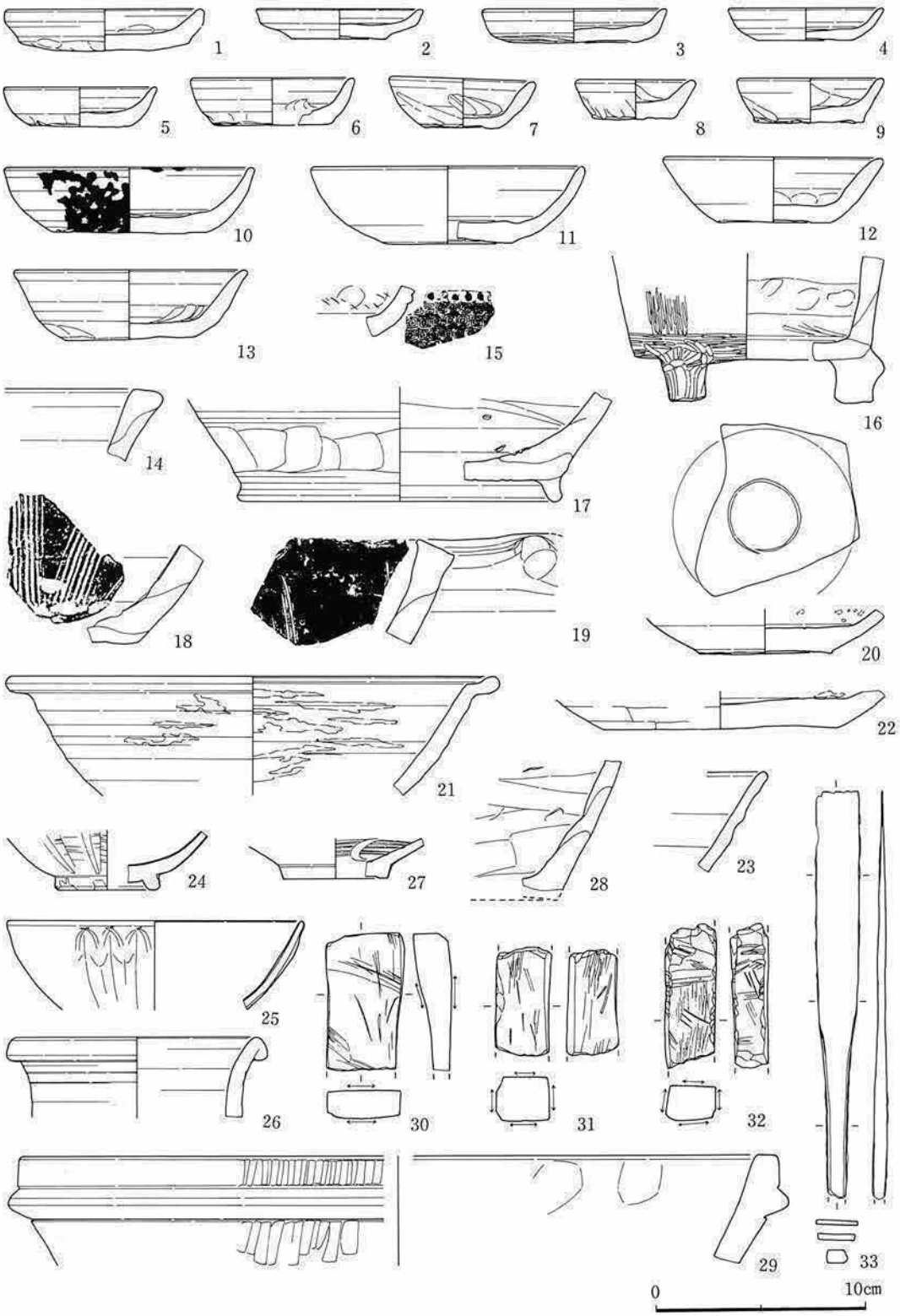


図16　東御門川旧流路出土遺物

1	土師器	法量　口径9.6cm　底径4.8cm　器高2.0cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　白粒含む　色調　橙色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径8.0cm　底径4.6cm　器高1.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む、粗い　色調　淡橙褐色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径8.9cm　底部5.9cm　器高1.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、白粒含む　色調　灰橙色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径7.4cm　底部4.7cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　胎土　砂粒、赤色粒、雲母含む　色調　淡橙色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径7.4cm　底部4.8cm　器高1.85cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径7.8cm　底部5.8cm　器高2.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　ス ス付着　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
7	土師器	法量　口径7.0cm　底部3.6cm　器高2.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好　半完形
8	土師器	法量　口径5.7cm　底部3.85cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
9	土師器	法量　口径7.0cm　底部5.2cm　器高2.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
10	土師器	法量　口径12.0cm　底部7.4cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　ス ス付着　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　橙褐色　焼成　良好
11	土師器	法量　口径13.1cm　底部6.1cm　器高3.65cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　白粒、雲母含む　色調　橙褐色　焼成　良好
12	土師器	法量　口径10.6cm　底部5.4cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒、雲母、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好
13	土師器	法量　口径11.6cm　底部6.05cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒、針状物質、雲母含む　色調　灰橙色　焼成　良好　半完形
14	手焙り	成形　ロクロ　胎土　灰褐色、砂粒含む　色調　表面黒色処理　焼成　良好
15	瓦　質 香　炉	成形　内面指頭痕　文様　外側体部に連珠文、4段以上の雷文押印　胎土　砂粒含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
16	瓦　質 香　炉	法量　底形10.6cm　成形　輪積　獣足三足貼付　体部外面、脚部ヘラ磨き　胎土　砂粒含む　色調　灰褐色　内部、外底部黒灰色　焼成　良好
17	山茶碗窯系 こね鉢	法量　底径15.4cm　成形　輪積後ロクロ　高台貼付　高台脇強いナデ　外面下位ヘラ削り　胎土　砂粒、小石含む　色調　灰色　焼成　良好
18	備　前 すり鉢	成形　輪積　条線1束8本　胎土　灰褐色、粘性強い、砂粒、小石含む　色調　灰黒色　焼成　良好

表15　東御門川旧流路出土遺物（1）

19	備前 すり鉢	成形　輪積後ロクロナデ　口唇脇指頭圧痕　条線1束6本以上　　胎土　赤褐色、砂粒、小石含む　　色調　褐色　　焼成　やや不良
20	瀬戸 鉢	法量　底部6.3cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　　文様　内底部に環状の刻線が一条　　素地　灰褐色、気孔有り　　釉薬　内底部に灰釉の飛沫　　焼成　良好
21	瀬戸 折縁皿	法量　口径23.6cm　　成形　ロクロ　　素地　黄灰褐色、砂粒含む　　釉薬　灰釉半透明　刷毛塗り　　焼成　良好
22	瀬戸 鉢	法量　底部11.1cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　外面ヘラ削り　　素地　灰褐色、気孔有り、粗い　　釉薬　内底部に灰釉が白濁　　焼成　良好　　備考　内底部に重ね焼きの痕有り
23	瀬戸 鉢	成形　ロクロ　　素地　灰褐色　　釉薬　灰釉が白濁　　焼成　良好　　備考　二次焼成の痕有り
24	青磁 龍泉窯 碗	法量　底部5.0cm　　成形　ロクロ　高台削り出し　　文様　外側複弁　　素地　灰褐色、気孔有り　　釉薬　淡緑色半透明　高台畳付、高台内露胎　　焼成　良好
25	青磁 龍泉窯　碗	法量　口径14.3cm　　成形　ロクロ　　文様　外側単弁　　素地　淡灰色、黒粒含む　　釉薬　灰緑色半透明　　焼成　良好
26	白磁 壺	法量　口径12.5cm　　成形　ロクロ　縁帯部貼り付け　　素地　淡灰褐色、気孔有り、やや粗い　　釉薬　灰褐色透明　　焼成　良好
27	青白磁 碗	法量　底径5.0cm　　成形　ロクロ　高台浅く削り出し　　文様　内体部片切彫りの上に櫛描き文　　素地　淡灰褐色、黒粒含む　　釉薬　水色透明　高台畳付、高台内露胎　　焼成　良好
28	褐釉 壺	成形　輪積　内外面横ナデ　　素地　茶褐色～暗灰褐色、砂粒、小石含む　　釉薬　一部に黒褐釉　内底部に降灰　　焼成　良好　　備考　外底部剥離
29	滑石鍋	法量　口径36.3cm　　成形　鍔部が三角に近い　のみ状工具痕、使用痕有り　スス付着　色調　灰色
30	砥石	法量　(長さ6.5cm)　幅3.5cm　厚さ0.6～1.45cm　　産地　上野　　色調　灰緑色　備考　中砥　4面とも砥面
31	砥石	法量　(長さ4.9cm)　幅2.4cm　厚さ2.1cm　　産地　不明　　石材　砂岩　　色調　灰褐色　　備考　中砥　4面とも砥面
32	砥石	法量　(長さ6.3cm)　幅2.2cm　厚さ1.4cm　　産地　上野　　色調　灰緑色　　備考　中砥　4面とも砥面

表16　東御門川旧流路出土遺物（2）

3　平坦部の遺構

二階堂大路と大倉御所に南・西面を限られたこの屋敷地の平坦面からは、夥しい数の遺構を検出した。柱穴列１条・掘立柱建物12棟・溝８条（石組雨落溝を含む）・井戸14基・土壙23基・据甕遺構１・埋納遺構１・土師器溜り５・その他で、年代は鎌倉時代初期から戦国時代に及ぶ。しかし本節冒頭に述べた通り、上層遺構は井戸や土壙など深い掘方を持つもの以外、良好な遺存状態になかった。また、井戸や土壙などが場所を問わず検出されたのに対し、建物配置には偏在性が認められる。

a　柱穴列６（図17）

調査区東北角にあり、両端は調査区外に延びる。北隣の溝27、南隣の溝28とともに東御門川に直交する主軸方位にある。また後述する建物のほとんどがここより北には延びない。何らかの境界を示すものであろう。遺物が少なく年代の詳細は不明だが、建物を規制している以上概ね同時期とみられる。柱間の平均が110cm前後と、柱穴列４のそれとほぼ共通する点も同時性を示唆している。

b　掘立柱建物（図17～29）

検出された建物のほとんどがＦ軸とＪ軸の間におさまり、北は溝27・28・柱穴列６の線を越えない。個別の詳細は各々の図を参照されたい。この内には確認範囲のみで８間×５間に及ぶもの（建物２）や、面積で200㎡を超える大規模なもの（建物２・５）がある。これらは主軸方位から大きく二つに分けることができる。一つは真北から４°前後東に偏差を持つ一群、もう一つは真北にほとんど一致する一群である。建物については、屋敷地の変遷と併せ、後日刊行予定の総括報告書で改めて考察する。また溝についてもそのときに譲る。

c　井戸（図30～52）

形態・規模等に様々な変種があるが、ほぼ円筒形で素掘りのものと、方形の掘方に方形の木枠を持つものに大別できる。これらはごく大雑把に言って次のような変遷をたどる。

鎌倉時代前期は円筒形で素掘りのものが中心で、鎌倉後期以降方形の木枠を持つようになり、中世後期には再び素掘りのものが多くなる。井戸については、年代観を第４章に記す。

d　据甕遺構（図53）

常滑を据えたもの。遺構切り込み肩と口縁部を欠くため年代不明。層位からみて鎌倉時代中期以降に下るまい。甕の中には何もなかった。

e　埋納遺構（図54）

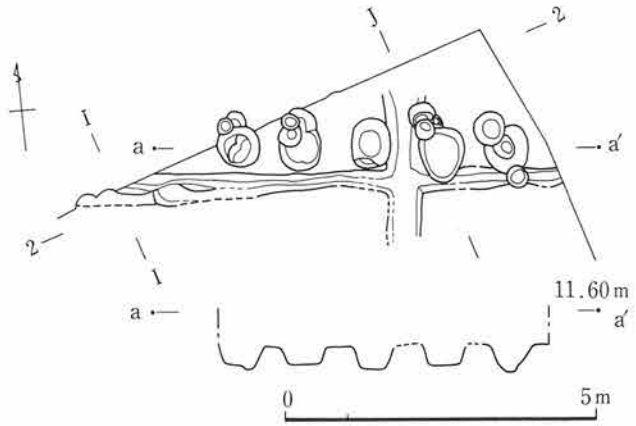
個別図参照。これについての考察も、総括報告書に譲る。

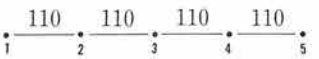
f　土壙（図55・56）

図に掲載したものの他は総括報告書に譲る。

g　土師器溜り（図57・58）

図に掲載したものの他は総括報告書に譲る。

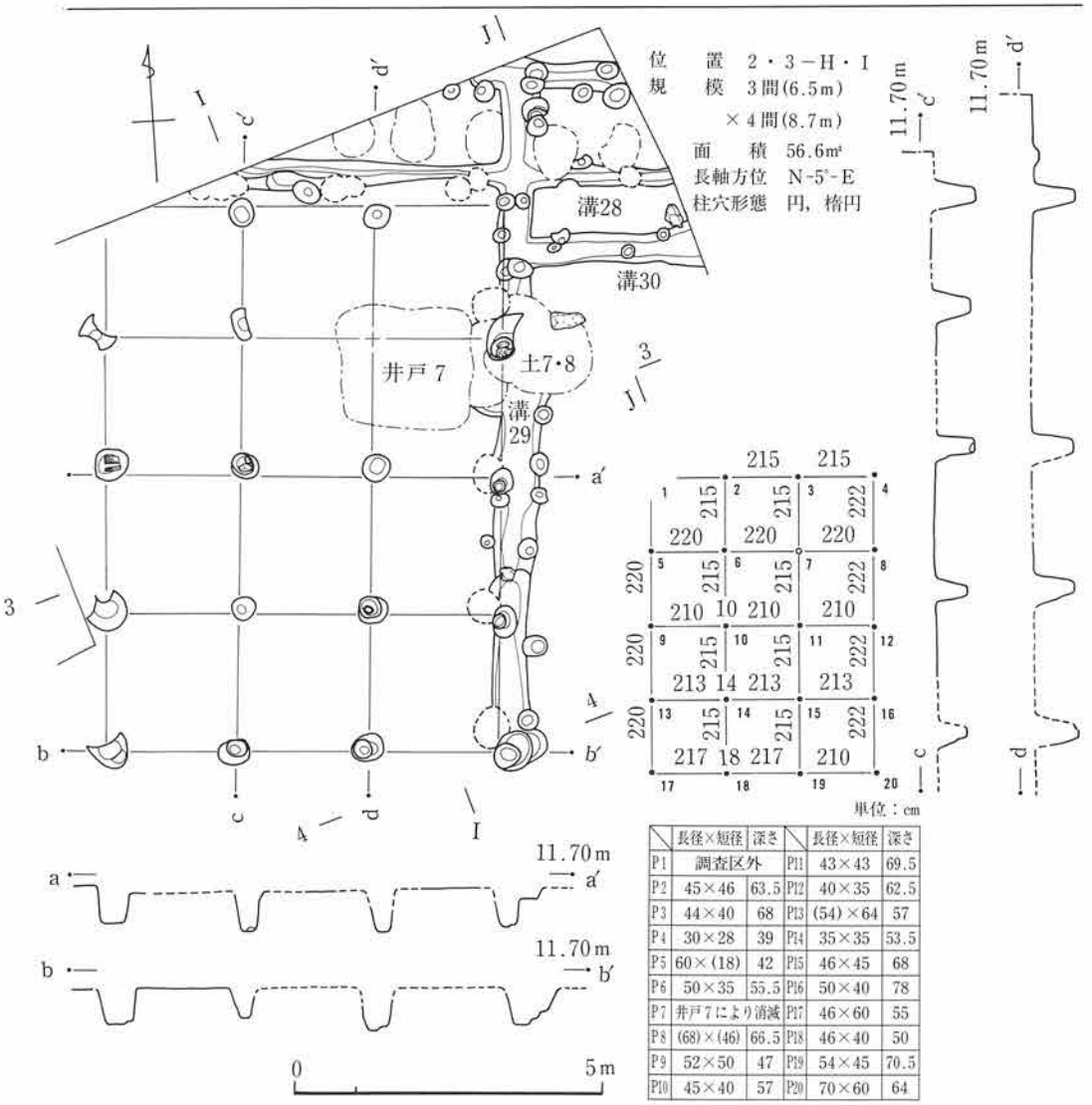




単位：cm

	長径×短径	深さ
P1	70×65	36
P2	(60)×65	29
P3	80×60	37
P4	90×70	32
P5	80×70	44

位　置　2-I・J
長軸方位　N-75°-W
柱穴形態　楕円形

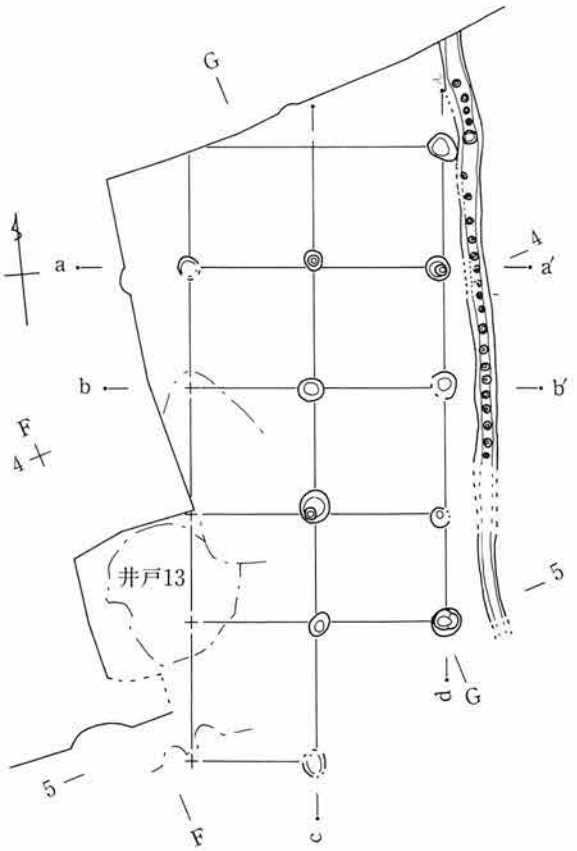


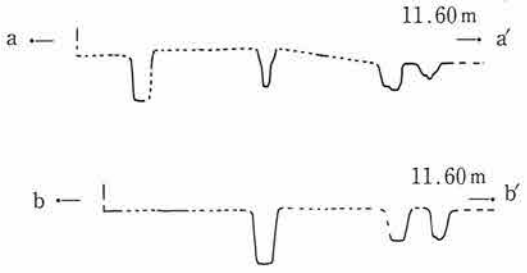
位　置　2・3－H・I
規　模　3間(6.5m)
　　×4間(8.7m)
面　積　56.6m²
長軸方位　N-5°-E
柱穴形態　円，楕円

単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	調査区外		P11	43×43	69.5
P2	45×46	63.5	P12	40×35	62.5
P3	44×40	68	P13	(54)×64	57
P4	30×28	39	P14	35×35	53.5
P5	60×(18)	42	P15	46×45	68
P6	50×35	55.5	P16	50×40	78
P7	井戸7により消滅		P17	46×60	55
P8	(68)×(46)	66.5	P18	46×40	50
P9	52×50	47	P19	54×45	70.5
P10	45×40	57	P20	70×60	64

図17　柱穴列6（上）・建物1（下）





位　置　3・4－F・G
規　模　2間(4.1m)×4間(7.6m)
　　南面張出し部分1間(2.0m)×1間(2.2m)
面　積　31.16㎡
　　4.4㎡
平面形　長方形
柱穴形態　円，楕円
長軸方位　N-6°-E

0　5m

単位：cm

	長径×短径	深さ
P1	調査区外	
P2	50×40	57
P3	40×38	78.5
P4	30×30	60
P5	40×40	42
P6	撹乱により消滅	
P7	40×35	82
P8	45×40	50
P9	撹乱により消滅	
P10	52×50	90
P11	32×30	57.5
P12	井戸13により消滅	
P13	40×28	25
P14	50×45	36
P15	井戸13により消滅	
P16	45×40	30

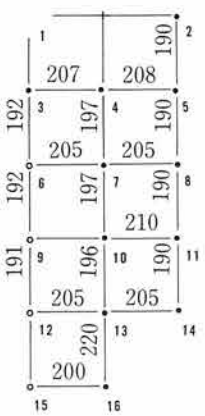


図18　建物3

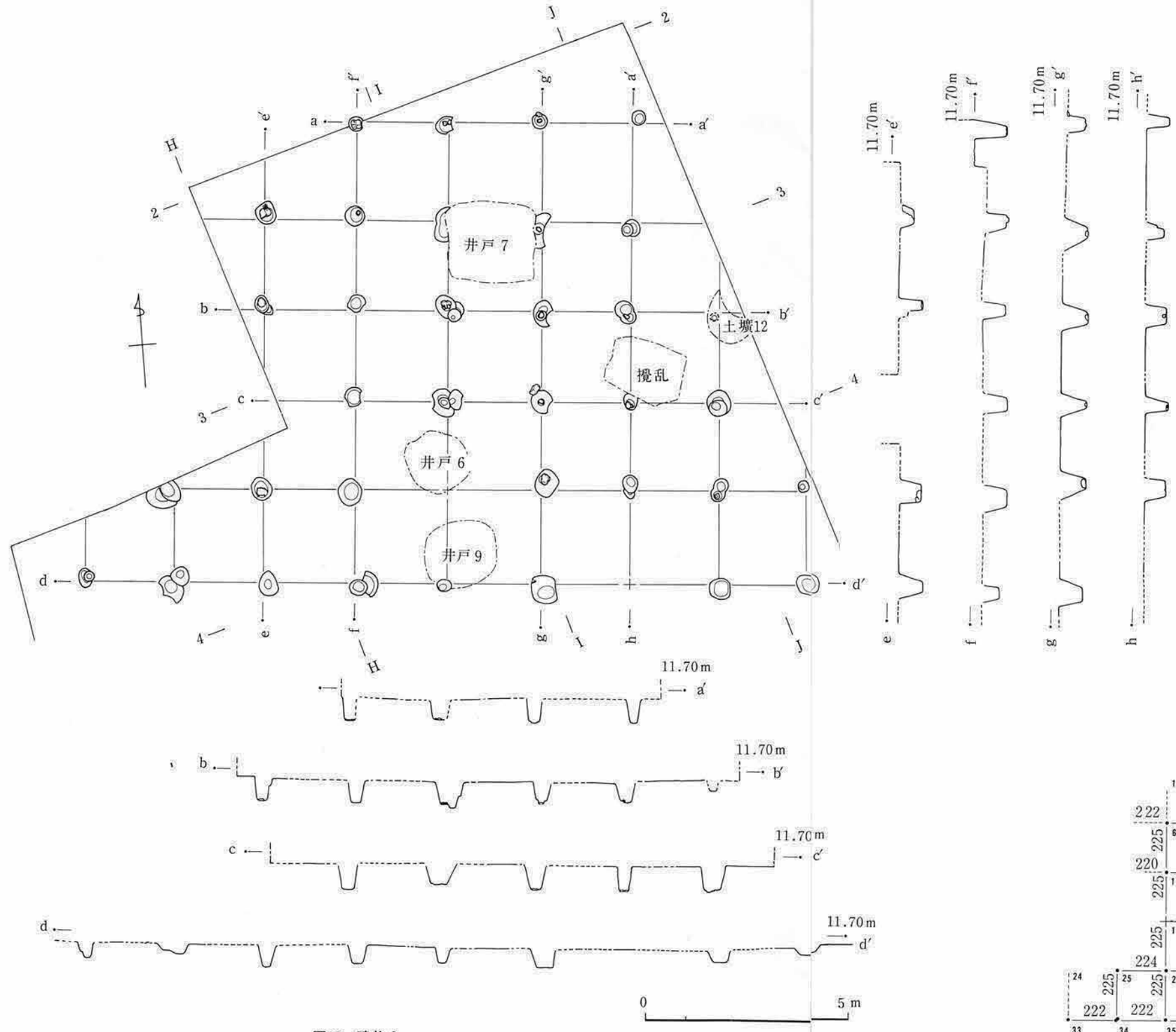
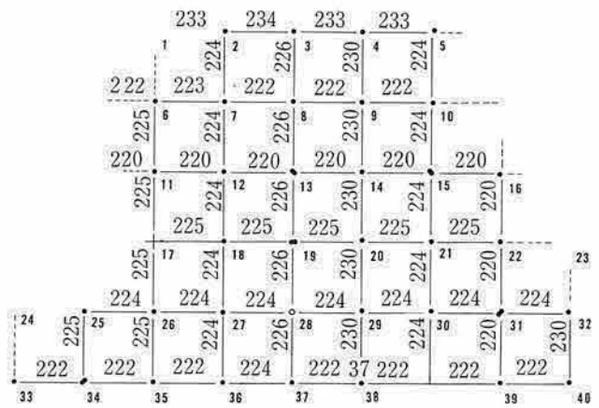


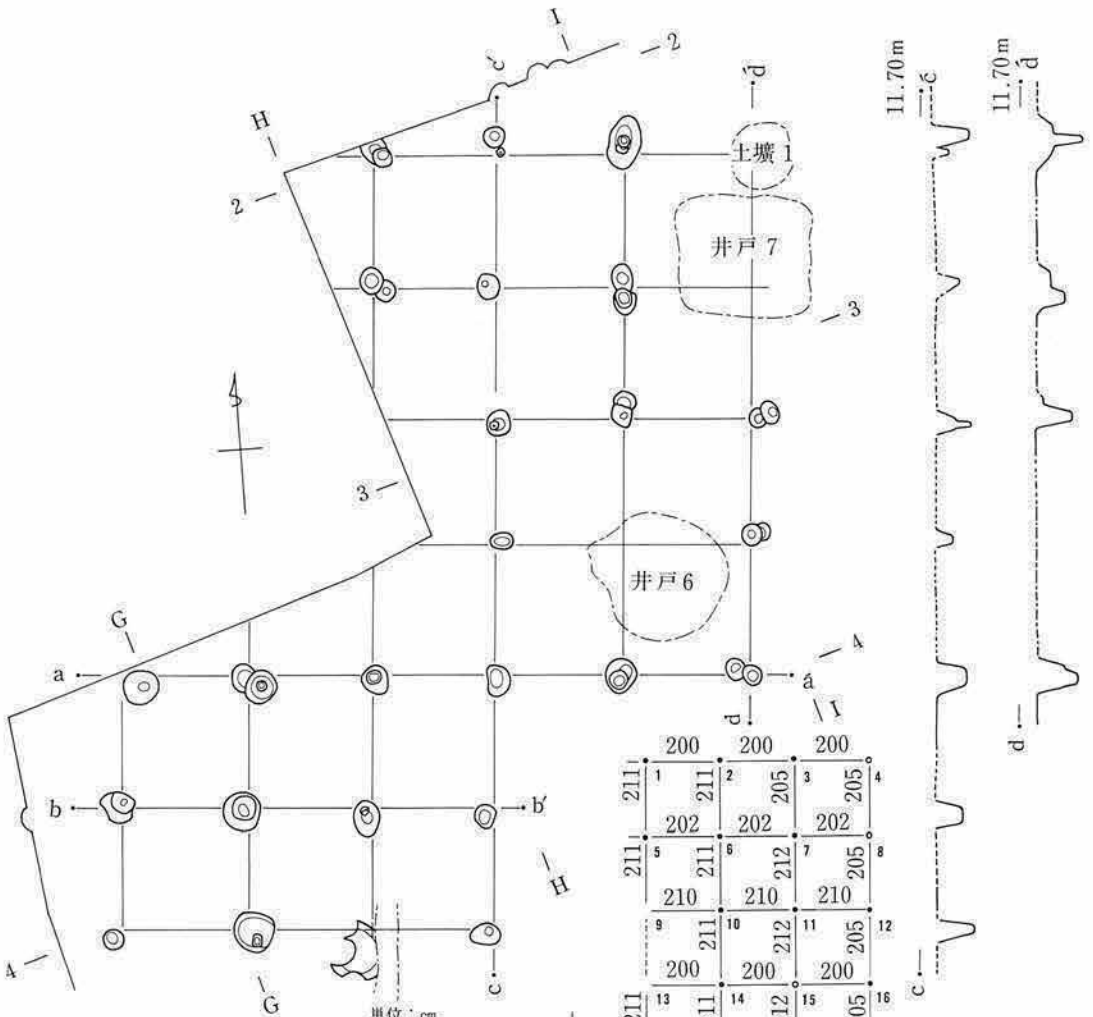
図19　建物2

位　　置　2・3・4－H・I・J
推定規模　8間(17.8m)×5間(11.3m)
推定面積　201㎡
平 面 形　長方形
長軸方位　N-88°-W
柱穴形態　円，楕円
備　　考　P2，P3，P4，P6，P9，P13，P20，P21，P26，P29に礎石あり

単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	調査区外		P21	44×34	61
P2	38×38	60	P22	68×50	57
P3	40×48	54	P23	調査区外	
P4	38×38	57	P24	調査区外	
P5	38×34	57	P25	52×44	57
P6	52×46	30	P26	58×50	52
P7	48×48	52	P27	60×58	62
P8	(50)×(16)	43	P28	井戸により消滅	
P9	88×(24)	52	P29	60×54	59
P10	32×28	43	P30	48×36	56
P11	48×34	51	P31	(30)×34	63
P12	44×(34)	52	P32	28×26	53
P13	(44)×46	52	P33	24×24	37
P14	62×(34)	52	P34	48×42	25
P15	44×(44)	51	P35	60×44	45
P16	(20)×(20)	16	P36	44×38	48
P17	調査区外		P37	38×(28)	47
P18	46×(30)	65	P38	66×(52)	57
P19	70×(34)	48	P39	52×52	24
P20	54×54	60	P40	60×48	17

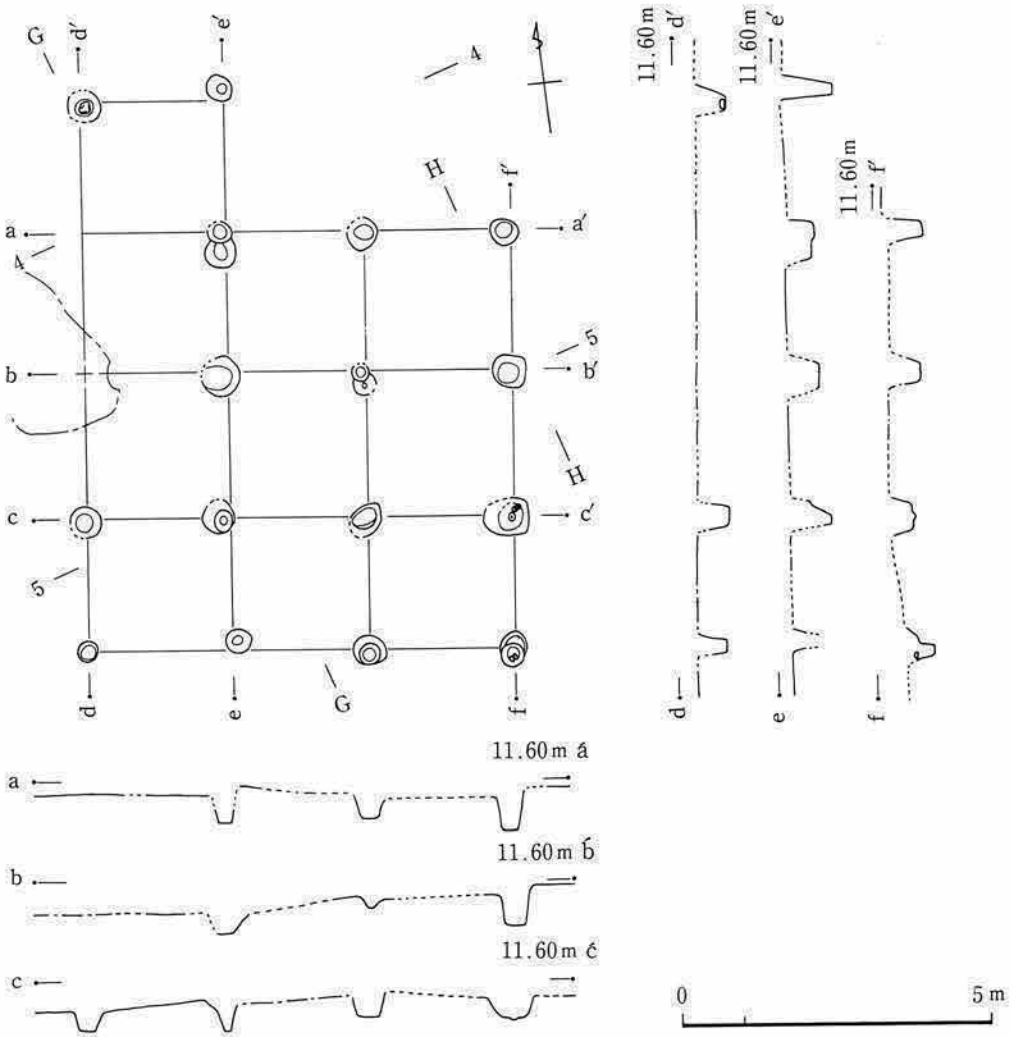


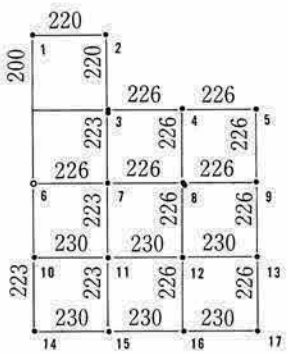


単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	30×30	67	P13	調査区外		P25	60×40	40
P2	36×34	60	P14	38×26	24	P26	40×34	45
P3	86×54	43	P15	井戸6により消滅		P27	30×34	90
P4	土壙1により消滅		P16	34×32	46	P28	(64)×64	39
P5	44×40	68	P17	58×52	66	P29	90×(32)	27
P6	42×36	34	P18	(30)×42	46	P30	50×34	61
P7	44×38	42	P19	48×42	59			
P9	井戸7により消滅		P20	50×36	46			
P9	調査区外		P21	52×48	58			
P10	40×38	56	P22	34×30	54			
P11	30×30	57	P23	56×(50)	53			
P12	32×(20)	48	P24	60×60	48			

図20　建物4





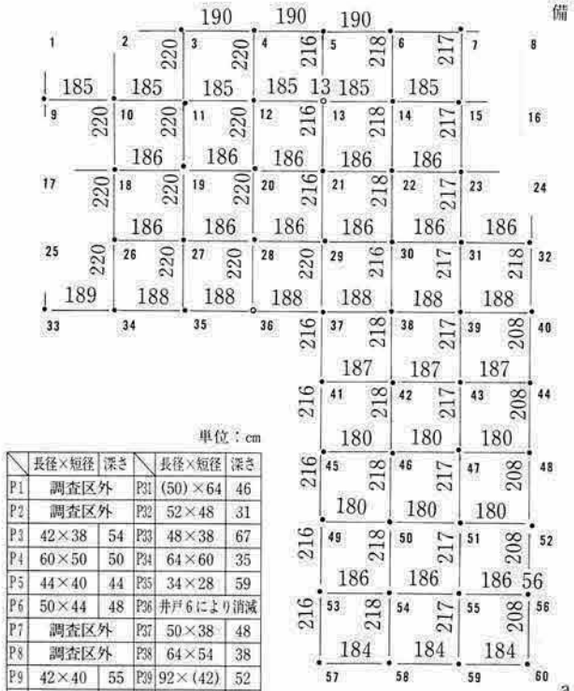
単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	52×50	51	P11	54×50	46
P2	46×38	84	P12	60×48	36
P3	40×36	41	P13	74×62	34
P4	52×48	41	P14	34×32	48
P5	46×42	80	P15	42×38	26
P6	攪乱17により消滅		P16	52×48	47
P7	64×60	31	P17	38×38	63
P8	30×28	54			
P9	54×50	57			
P10	50×50	29			

位　置　4・5－G・H
規　模　3間(6.7m)×3間(6.9m)
　　北面張出し部分
　　1間(2.0m)×1間(2.26m)
面　積　46.23m², 4.52m²
平面形　方形　一部方形張出し
長軸方位　N-83°-W
柱穴形態　円形，楕円形
備　考　P1，P18 礎石あり
　　P14　柱痕あり

図21　建物6

位　置　2・3・4・5－H・I・J
規　模　7間(13m)×4間(8.8m)
　　南面張り出し部分
　　3間(10.8m)×5間(9.3m)
面　積　114.4㎡，100.4㎡
平面形　カギ形
長軸方位　N-6°-E
柱穴形態　円，楕円形
備　考　P3，P4，P5，P6
　　P9，P20，P21，P23
　　P38，P41，P42，P43
　　P49に礎石あり
　　P18に礎石あり



単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	調査区外		P31	(50)×64	46
P2	調査区外		P32	52×48	31
P3	42×38	54	P33	48×38	67
P4	60×50	50	P34	64×60	35
P5	44×40	44	P35	34×28	59
P6	50×44	48	P36	井戸6により消滅	
P7	調査区外		P37	50×38	48
P8	調査区外		P38	64×54	38
P9	42×40	55	P39	92×(42)	52
P10	60×50	63	P40	80×68	40
P11	64×(30)	49	P41	44×40	52
P12	90×(26)	56	P42	62×50	42
P13	井戸7により消滅		P43	56×48	47
P14	44×30	44	P44	80×70	50
P15	66×48	38	P45	54×36	47
P16	調査区外		P46	58×50	50
P17	調査区外		P47	80×60	70
P18	56×54	62	P48	56×50	50
P19	40×28	64	P49	(84)×(72)	62
P20	52×44	64	P50	72×(14)	49
P21	44×42	41	P51	48×(24)	51
P22	44×38	54	P52	86×70	40
P23	46×42	52	P53	110×70	57
P24	調査区外		P54	42×32	54
P25	調査区外		P55	52×52	40
P26	88×64	55	P56	(24)×40	53
P27	48×40	60	P57	94×78	57
P28	72×(48)	32	P58	50×(42)	56
P29	32×28	52	P59	(30)×42	59
P30	56×48	57	P60	45×40	30

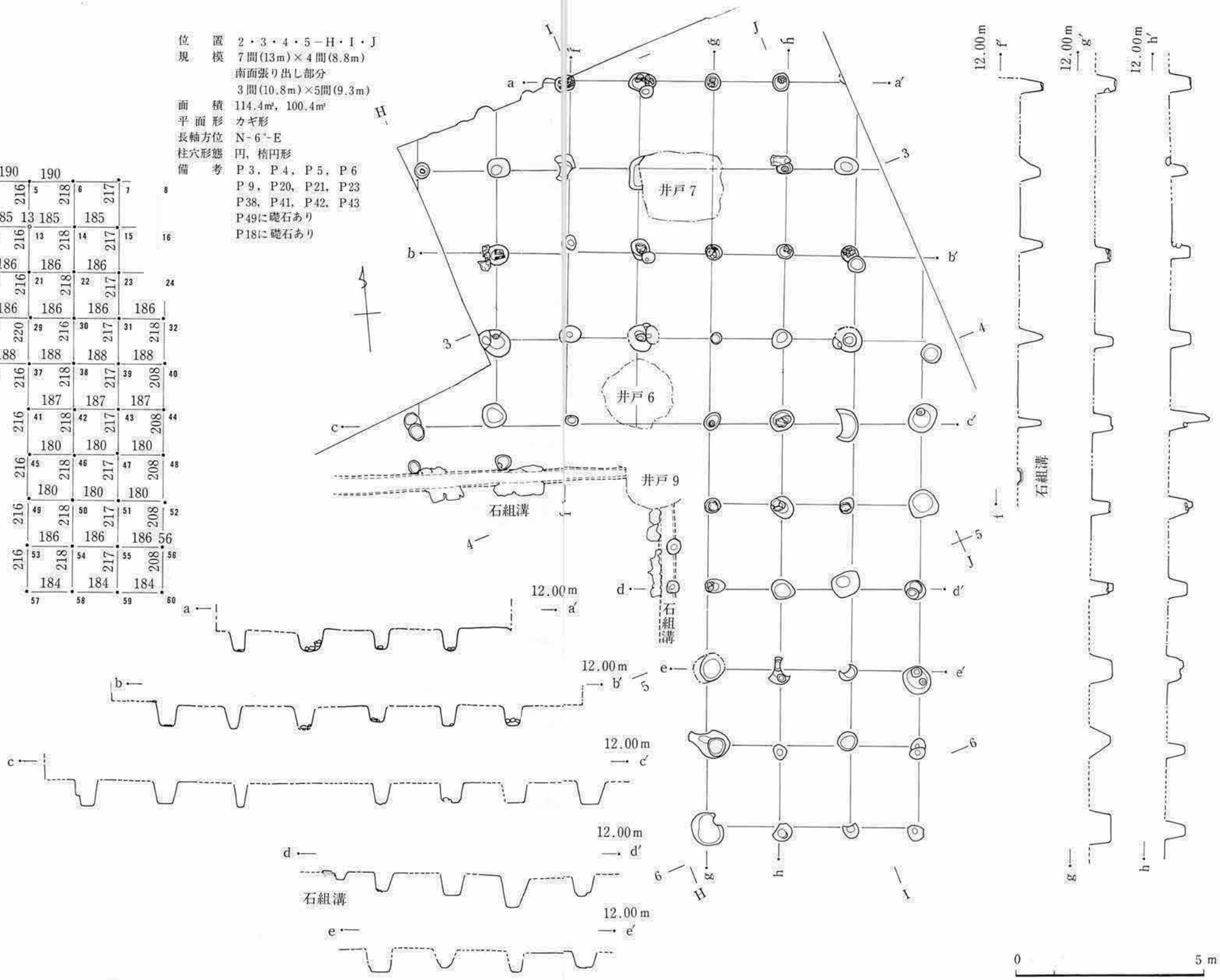


図22　建物5

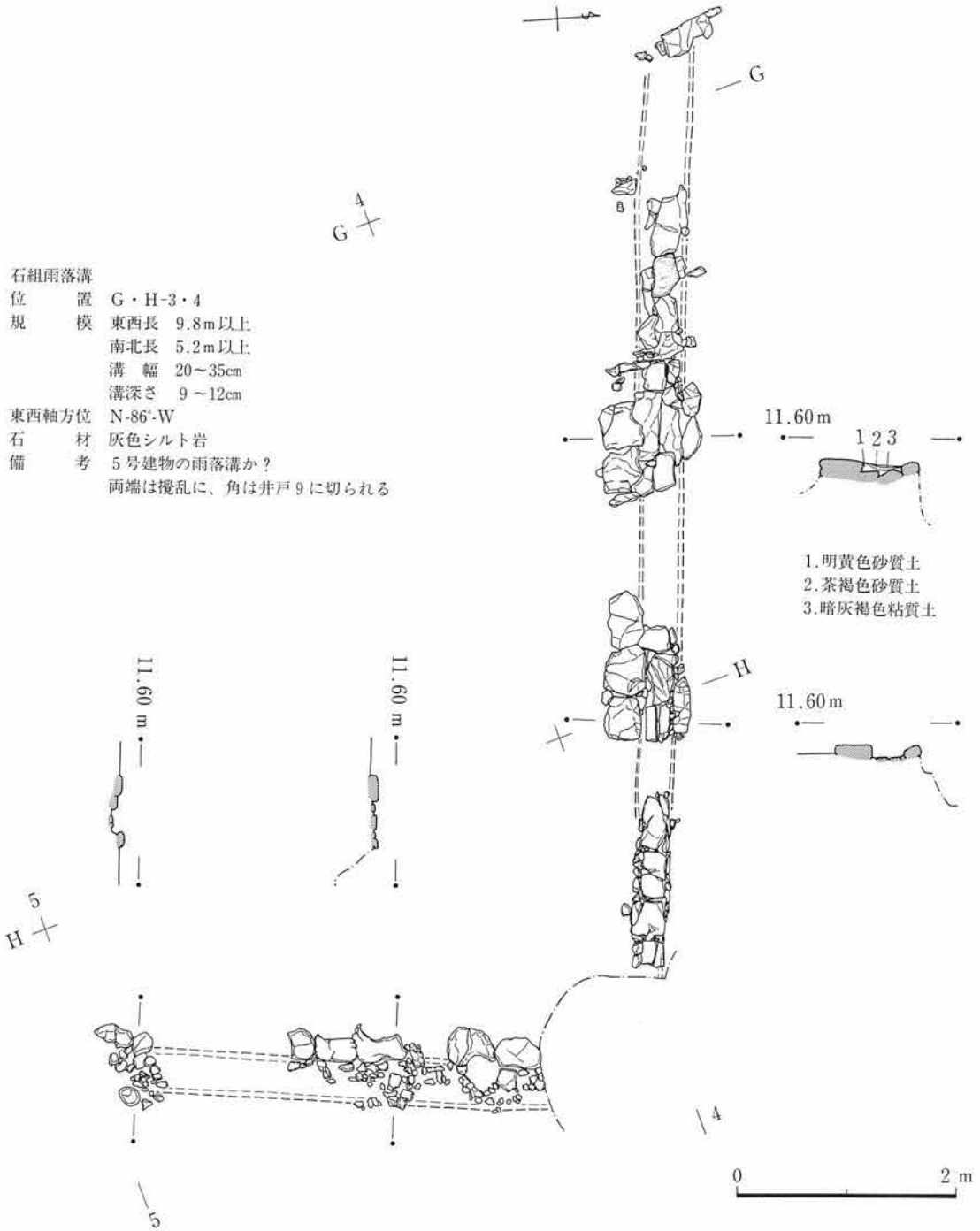
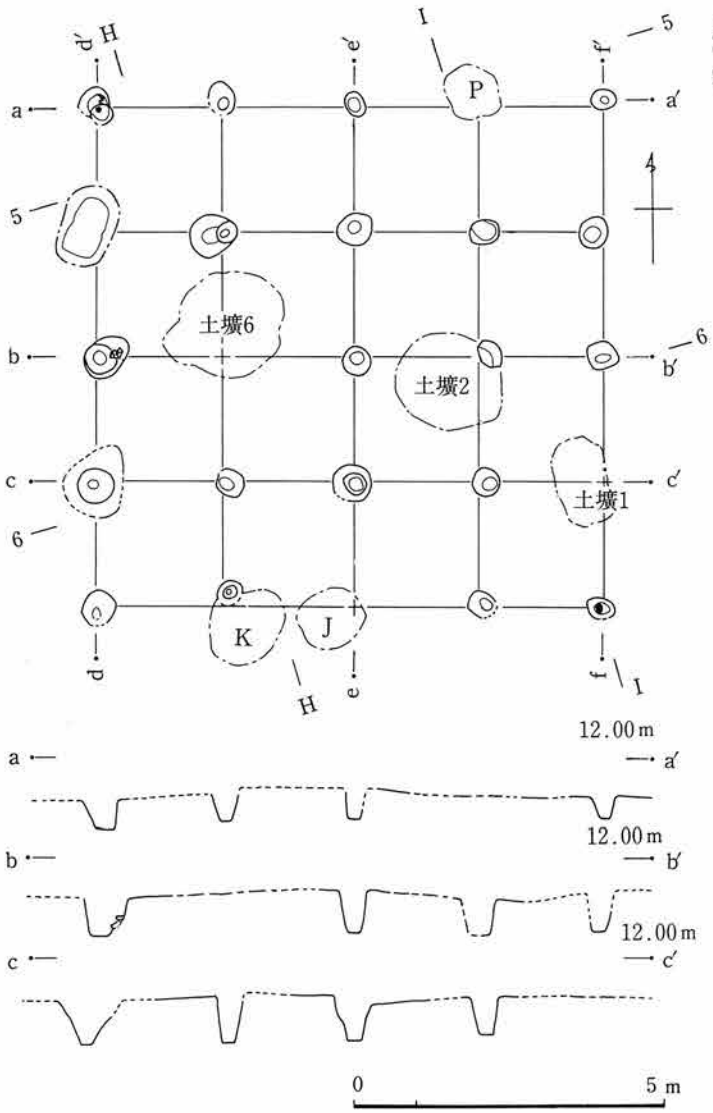


図23　建物5石組雨落溝

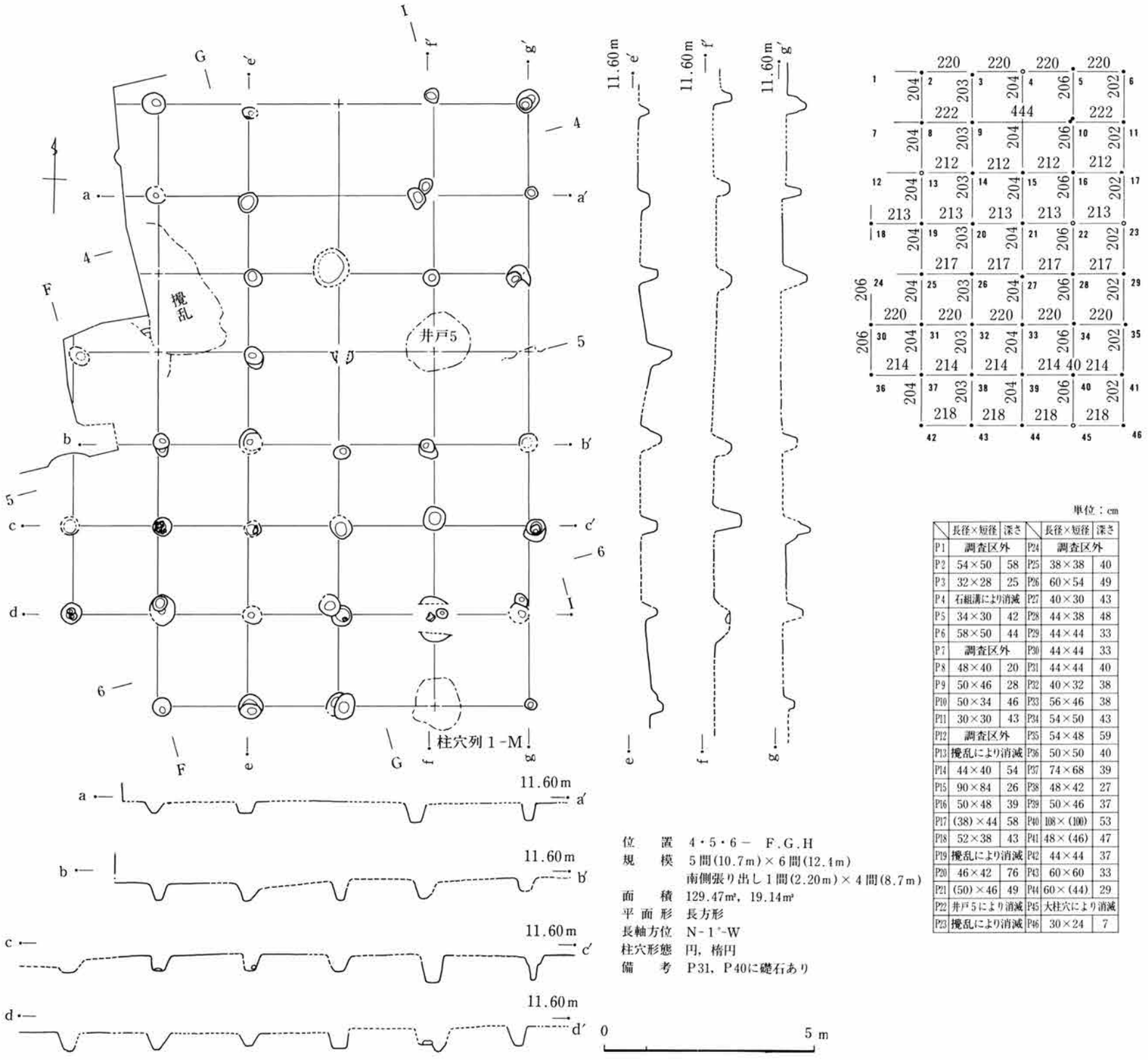


単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	50×(40)	43	P16	(100)×(98)	72
P2	54×42	44	P17	50×44	77
P3	42×30	48	P18	64×62	69
P4	P.1148により消滅		P19	48×44	63
P5	42×32	36	P20	土壙1により消滅	
P6	120×86	38	P21	58×48	54
P7	126×60	67	P22	44×(38)	42
P8	60×50	87	P23	ピットJにより消滅	
P9	50×46	64	P24	(48)×38	30
P10	52×46	50	P25	48×36	53
P11	78×58	62			
P12	土壙6により消滅				
P13	48×44	57			
P14	50×(36)	58			
P15	54×46	63			

位　置　5・6－H・I
規　模　4間(8.2m)×4間(8.2m)
面　積　67.24㎡
平面形　正方形
長軸方位　N-0°
柱穴形態　円形、楕円形
備　考　P1　土師器、礎石片あり
　　P11　礎石あり

図24　建物8



位　　置　4・5・6－　F.G.H
規　　模　5間(10.7m)×6間(12.4m)
　　南側張り出し1間(2.20m)×4間(8.7m)
面　　積　129.47㎡，19.14㎡
平 面 形　長方形
長軸方位　N-1°-W
柱穴形態　円，楕円
備　　考　P31，P40に礎石あり

単位：cm

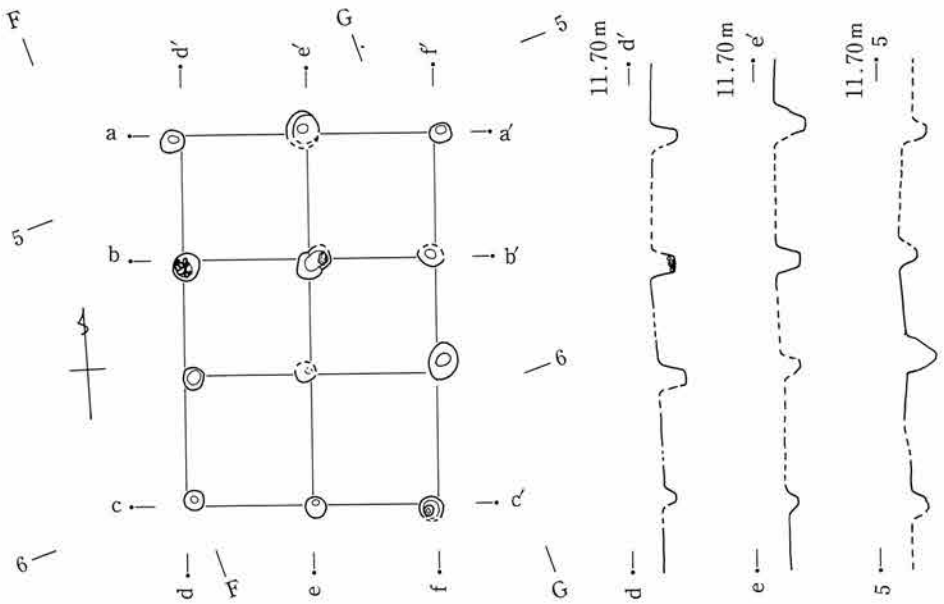
	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	調査区外		P24	調査区外	
P2	54×50	58	P25	38×38	40
P3	32×28	25	P26	60×54	49
P4	石組溝により消滅		P27	40×30	43
P5	34×30	42	P28	44×38	48
P6	58×50	44	P29	44×44	33
P7	調査区外		P30	44×44	33
P8	48×40	20	P31	44×44	40
P9	50×46	28	P32	40×32	38
P10	50×34	46	P33	56×46	38
P11	30×30	43	P34	54×50	43
P12	調査区外		P35	54×48	59
P13	撹乱により消滅		P36	50×50	40
P14	44×40	54	P37	74×68	39
P15	90×84	26	P38	48×42	27
P16	50×48	39	P39	50×46	37
P17	(38)×44	58	P40	108×(100)	53
P18	52×38	43	P41	48×(46)	47
P19	撹乱により消滅		P42	44×44	37
P20	46×42	76	P43	60×60	33
P21	(50)×46	49	P44	60×(44)	29
P22	井戸5により消滅		P45	大柱穴により消滅	
P23	撹乱により消滅		P46	30×24	7

図25　建物7

単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	52×44	15	P11	48×40	63
P2	撹乱により消滅		P12	136×84	58
P3	40×40	35	P13	64×60	72
P4	32×32	68	P14	72×64	44
P5	44×40	48	P15	64×52	39
P6	28×28	60	P16	56×48	52
P7	調査区外		P17	68×60	60
P8	76×68	56	P18	52×44	36
P9	撹乱により消滅		P19	80×60	67
P10	72×68	55	P20	80×80	38
P11	52×44	41	P21	100×76	16
P12	52×52	49	P22	撹乱により消滅	
P13	44×40	63	P23	36×28	44
P14	井戸4により消滅		P24	92×80	58
P15	40×36	33	P25	48×44	72
P16	96×62	40	P26	60×80	41
P17	56×40	10	P27	40×40	30
P18	56×52	54	P28	64×64	25
P19	48×40	51	P29	44×44	59
P20	60×56	56			

図26　建物 9



位　置　56-I・F・G
規　模　2間(3.85m)×3間(6.05m)
面　積　23.3㎡
平面形　長方形
長軸方位　N-3°-E
柱穴形態　円形、楕円形
備　考　P4、P5礎石あり

0　5m

単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	39×36	39	P11	34×32	10
P2	62×53	39	P12	40×40	29
P3	36×32	38			
P4	46×43	35			
P5	65×38	39			
P6	44×36	26			
P7	38×32	44			
P8	34×32	29			
P9	60×46	60			
P10	32×32	18			

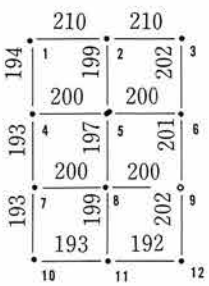
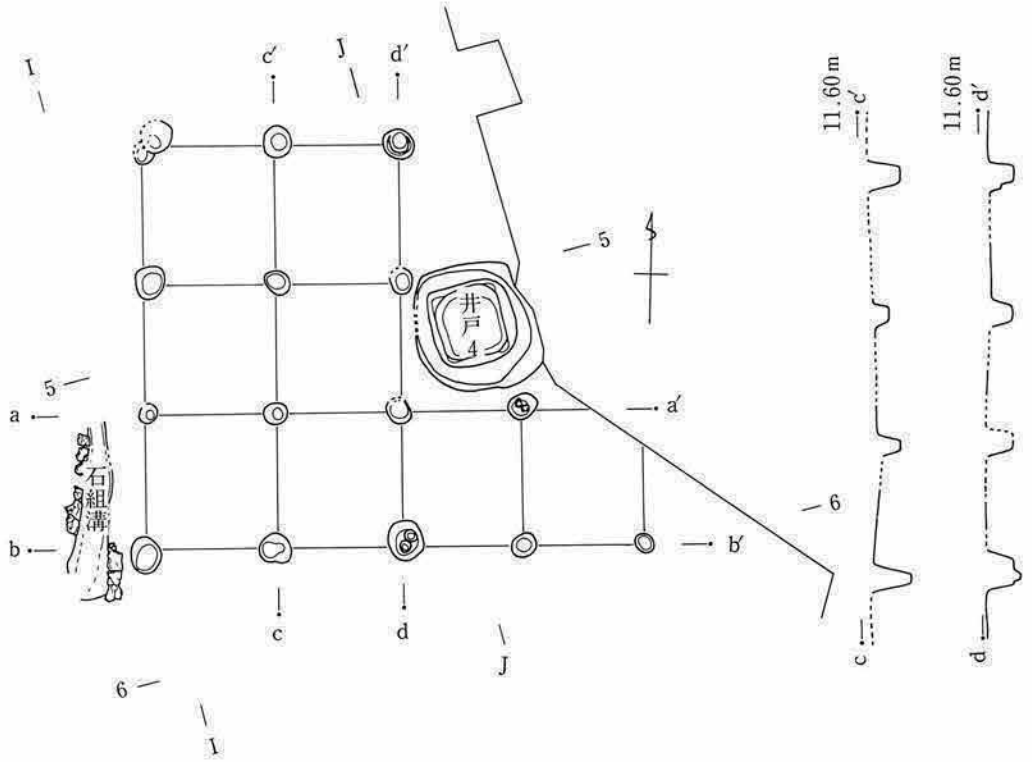
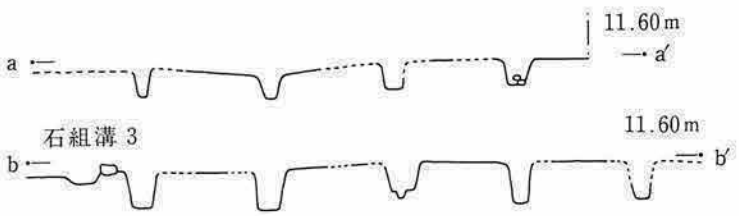
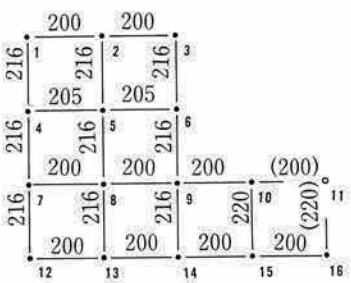


図27　建物10





0 5m

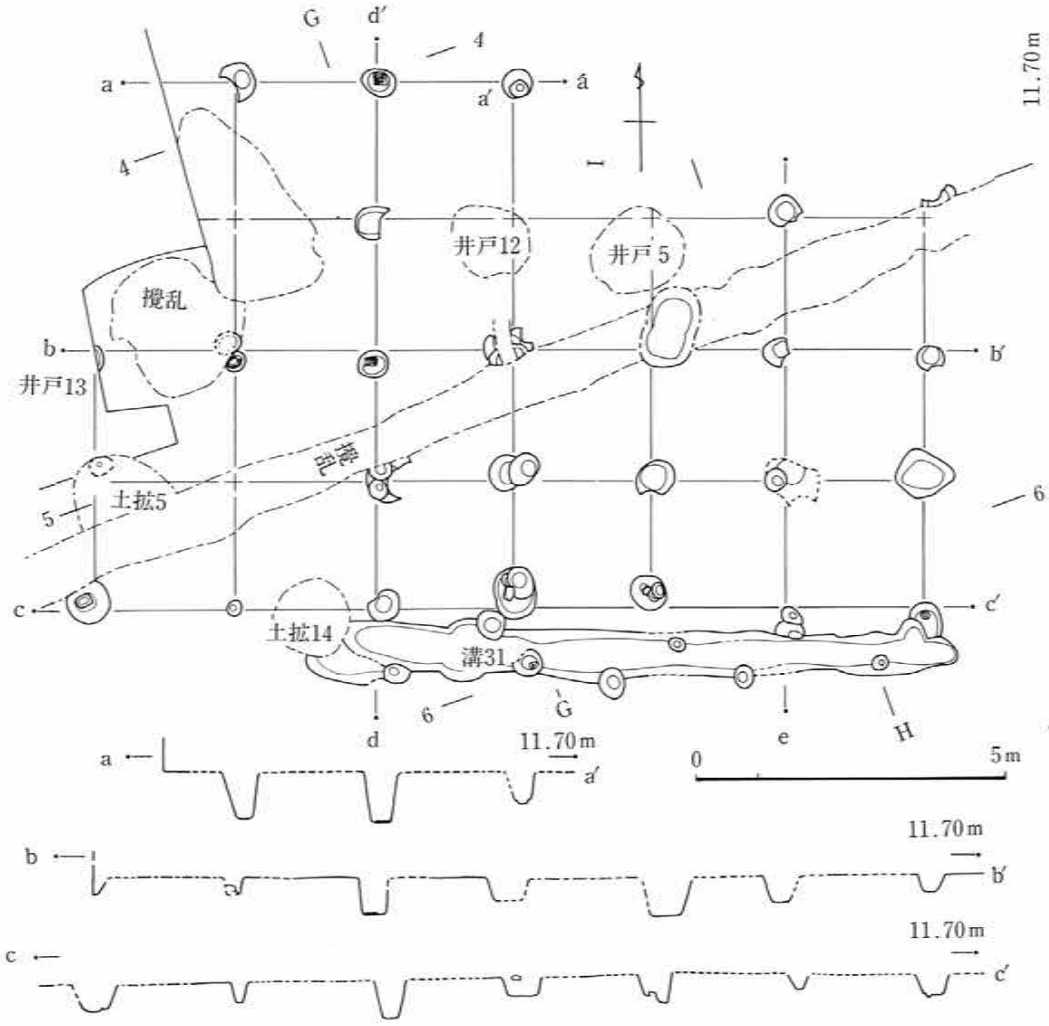


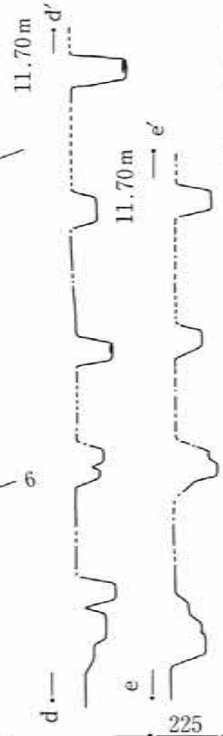
単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	52×50	30	P11	調査区外	
P2	52×46	52	P12	60×50	56
P3	50×46	40	P13	52×46	63
P4	58×50	27	P14	64×52	57
P5	45×36	27	P15	44×34	66
P6	44×34	36	P16	34×30	57
P7	34×28	42			
P8	40×36	51			
P9	44×36	42			
P10	48×40	41			

位　置　4.5-I.J
規　模　2間(4.0m)×3間(6.48m) 25.92m²
　東側張出し　2間(4.0m)×1間(2.2m) 8.8m²
平面形　長方形
長軸方位　N-1°-E
柱穴形態　円形、楕円形
備　考　西面雨落ち溝あり

図28　建物11





位　置　4・5−G・H
長軸方位　N-1°-E
平面形　長方形
　北側に張出し部分あり
柱穴形態　円形、楕円形
備　考　P2.P12に礎板、
　P18.P27.P28に
　礎石、P24.P30にクイ穴あり

単位：cm

	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
P1	62×(34)	72	P16	46×40	29
P2	58×44	84	P17	36×30	37
P3	48×44	45	P18	撹乱により消滅	
P4	撹乱により消滅		P19	34×30	35
P5	66×52	42	P20	60×(30)	37
P6	井戸12により消滅		P21	(60)×(100)	38
P7	井戸5により消滅		P22	(60)×(100)	38
P8	54×52	60	P23	96×80	33
P9	(10)×60	12	P24	74×68	34
P10	40×(12)	(9)	P25	28×24	29
P11	36×26	24	P26	54×(44)	61
P12	52×46	56	P27	84×68	63
P13	64×(32)	42	P28	60×54	39
P14	(70)×82	66	P29	38×24	24
P15	48×(42)	44	P30	(58)×50	36

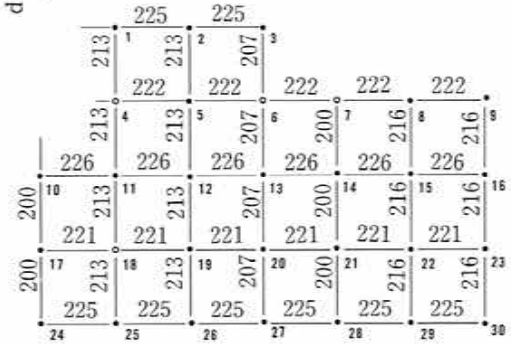
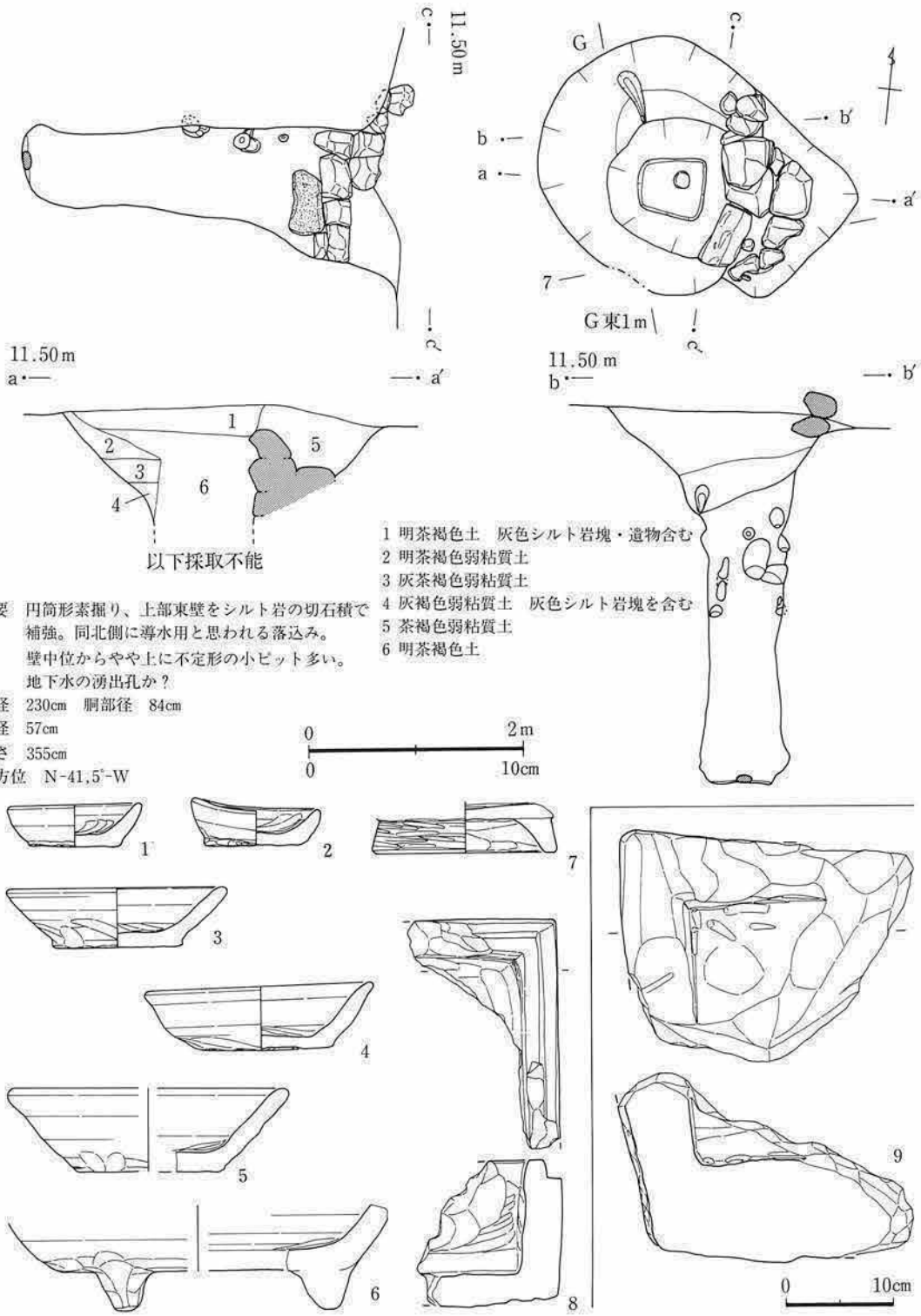


図29　建物12



概　要　円筒形素掘り、上部東壁をシルト岩の切石積で補強。同北側に導水用と思われる落込み。壁中位からやや上に不定形の小ピット多い。地下水の湧出孔か？

最大径　230cm　胴部径　84cm

底部径　57cm

深　さ　355cm

主軸方位　N-41,5°-W

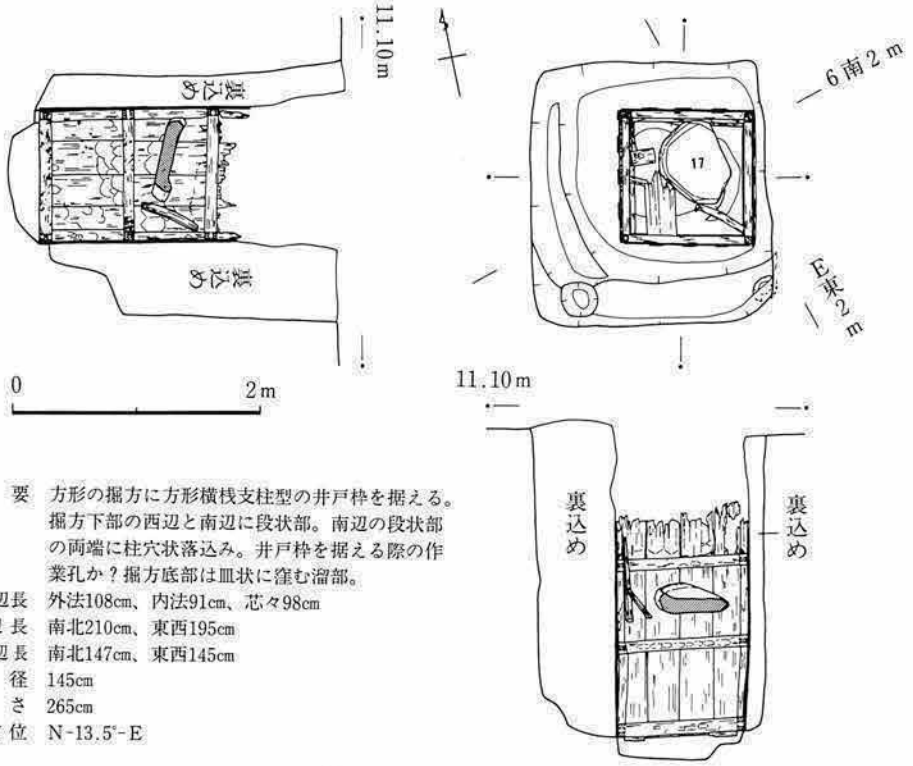
図30　井戸１・同出土遺物

1	土師器（ミニチュア）	法量　口径6.2cm　底径4.2cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石、粗砂粒含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
2	土師器（ミニチュア）	法量　口径6.0cm　底径4.6cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径10.2cm　底径6.0cm　器高2.75cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石、砂粒、金雲母含む、きめ細かい　色調　橙色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径10.6cm　底径6.4cm　器高3.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ、スノコ痕有り　胎土　針状物質、小石、砂粒含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径13.cm　底径6.8cm　器高3.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石含む、粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
6	土師質火鉢	法量　底径12.4cm　成形　ロクロ　内底部ナデ　脚部貼り付け　胎土　土器質　針状物質、小石含む、やや粗い　色調　橙色　焼成　良好
7	瓦器	法量　高台径8.6cm　成形　高台貼り付け、ヘラ磨き　内底部ナデ　胎土　灰白色瓦質　色調　内底部灰白色　外底部、高台黒色処理　焼成　普通
8	角型火鉢	法量　器高6.8cm　成形　型押し　ヘラ磨き　胎土　灰褐色瓦質　小石、砂粒含む　色調　表面黒色　焼成　普通
9	箱状石製品	石質　砂岩　成形　たがね痕有り

表17　井戸1出土遺物観察表

1	土師器（ミニチュア）	法量　口径6.1cm　底径3.4cm　器高2.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒、小石、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
2	土師器	法量　口径8.0cm　底径4.0cm　器高2.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　口縁部ヘラ削り　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰茶褐色　焼成　良好　完形
3	土師器	法量　口径10.8cm　底径6.3cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径14.4cm　底径9.0cm　器高4.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好
5	土師器（白色系）	法量　底径5.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　砂粒、小石含む　色調　白褐色　焼成　良好
6	火鉢	法量　口径41.0cm　成形　輪積後ロクロ　口縁下穿孔　胎土　暗赤褐色、瓦質　小石、砂粒含む　色調　黒褐色　焼成　良好

表18　井戸2出土遺物観察表（1）



概　　要　方形の掘方に方形横桟支柱型の井戸枠を据える。掘方下部の西辺と南辺に段状部。南辺の段状部の両端に柱穴状落込み。井戸枠を据える際の作業孔か？掘方底部は皿状に窪む溜部。
井戸枠辺長　外法108cm、内法91cm、芯々98cm
掘方辺長　南北210cm、東西195cm
掘方底辺長　南北147cm、東西145cm
溜部径　145cm
深さ　265cm
主軸方位　N-13.5°-E

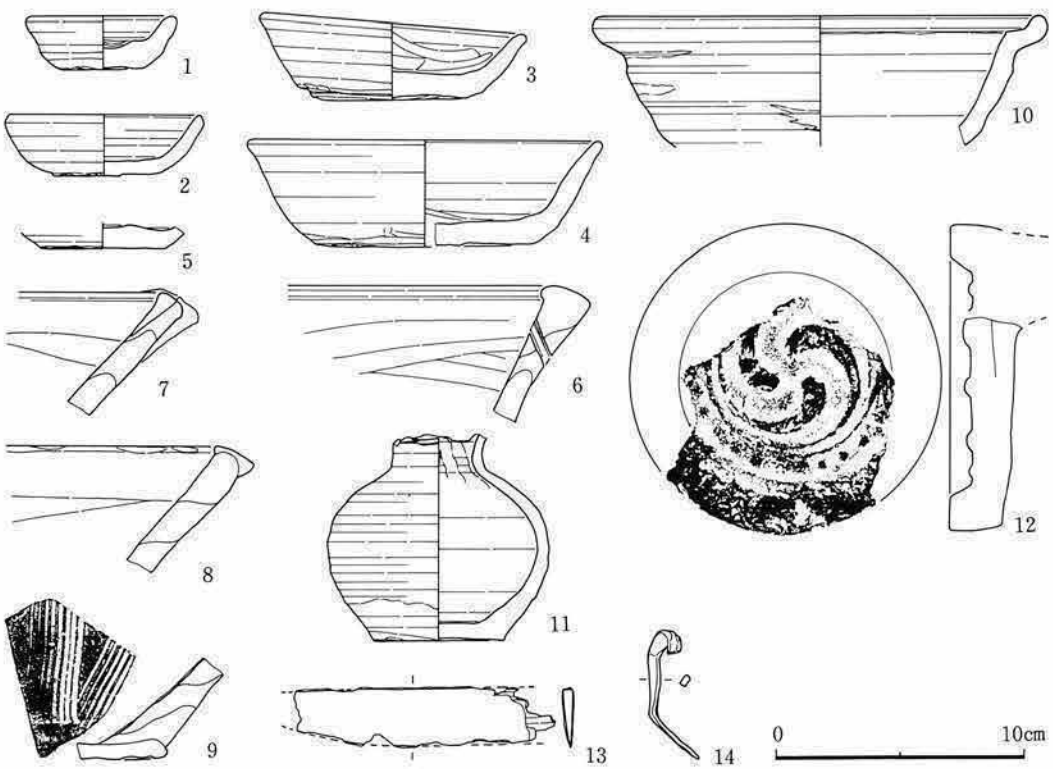


図31　井戸2・同出土遺物(1)

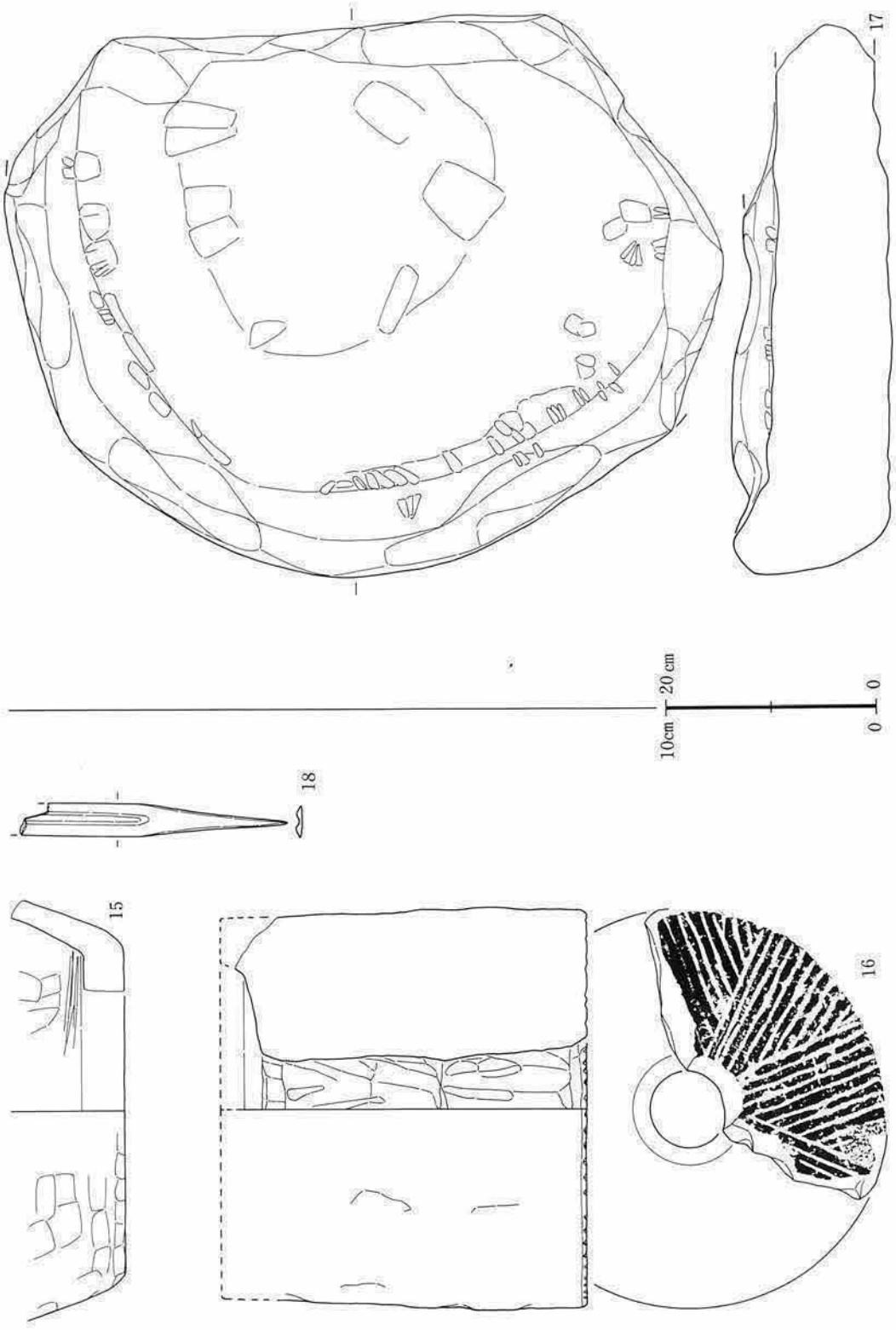


図32　井戸 2 出土遺物(2)

7	常　滑 こね鉢	成形　輪積　口縁部内外面横ナデ　口唇脇指頭圧痕　　胎土　灰黒色、小石、砂粒含む 色調　褐色　　焼成　普通
8	常　滑 こね鉢	成形　輪積　口縁部内外面横ナデ　　胎土　橙色、小石、砂粒含む、やや粗い　　色調 橙色　　焼成　普通
9	備　前 すり鉢	成形　輪積　内外面横ナデ　条線１束８本　スス付着　　胎土　暗赤褐色、砂粒含む　気孔有り　　色調　暗赤褐色　　焼成　良好
10	瀬　戸 折縁皿	法量　口径18.4cm　　成形　ロクロ　　素地　黄灰色、精良、気孔有り　　釉薬　灰釉　　焼成　良好　　備考　スス付着
11	瀬　戸 小　壷	法量　底径5.2cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　　胎土　灰黒色、緻密 釉薬　緑褐色鉄釉　　焼成　良好
12	軒丸瓦	法量　外径12.2cm　内径8.5cm　　成形　丸瓦に瓦当貼り付け　瓦当裏面指頭ナデ 文様　三つ巴文　内区外周に連珠文　　胎土　瓦質、小石、砂粒含む、気孔有り　　色調　赤褐色　　焼成　良好
13	刃　子	法量　幅2.0cm　最大厚　0.5cm　最小厚0.1cm
14	釘	法量　長さ6.1cm　幅0.45cm　厚さ0.25cm
15	滑石鍋	法量　底径15.5cm　　成形　内面、外面下位に削り痕有り　　色調　暗赤褐色　　備考　スス付着
16	茶臼 (上臼)	法量　外径19.0cm　口径5.2cm　高さ16.7cm　　臼の目は８分画11溝　　石材　安山岩 色調　黒灰色
17	皿状石製品	法量　直径70cm前後か？　高さ15.0cm　底部厚さ11.4cm　　石材　凝灰質砂岩
18	骨　製	法量　幅1.6cm　最大厚0.3cm　　成形　片面の中央にへこみ有り
19	無文漆椀	法量　口径14.0cm　底径6.5cm　器高6.2cm　　成形　内外全面黒漆塗り　下塗なし
20	無文漆椀	法量　底径7.5cm　　成形　内外面全面黒漆塗り　下塗なし　口縁部を削り取る
21	漆器椀転用硯	法量　長径11.1cm　幅8.3cm　　成形　内外面全面黒漆塗り　下塗なし　内底は平滑
22	曲物底板	法量　径12.0cm　厚0.6cm　　成形　平面円形、板目
23	曲物底板	法量　径13.2cm　厚0.55cm　　成形　平面円形、柾目
24	曲物底板	法量　長径14.8cm　短径14.0cm　最大厚0.8cm　最小厚0.4cm　成形　平面ほぼ円形　柾目
25	箸	法量　長さ(17.0cm)　幅0.7cm　厚さ0.5cm
26	箸	法量　(長さ18.0cm)　幅0.7cm　厚さ0.3cm
27	横　櫛	法量　棟厚0.9cm　幅3.9cm　　成形　歯の間隔は密、棟部は緩い弧を描き側面は半円形の楔形　　色調　黒色処理
28	筒状木製品	法量　径1.3cm　中心孔径0.2cm
29	竹製品	法量　径0.7cm　内径0.4cm　　成形　六角形に近く面取り　　色調　茶色

表19　井戸２出土遺物観察表（２）

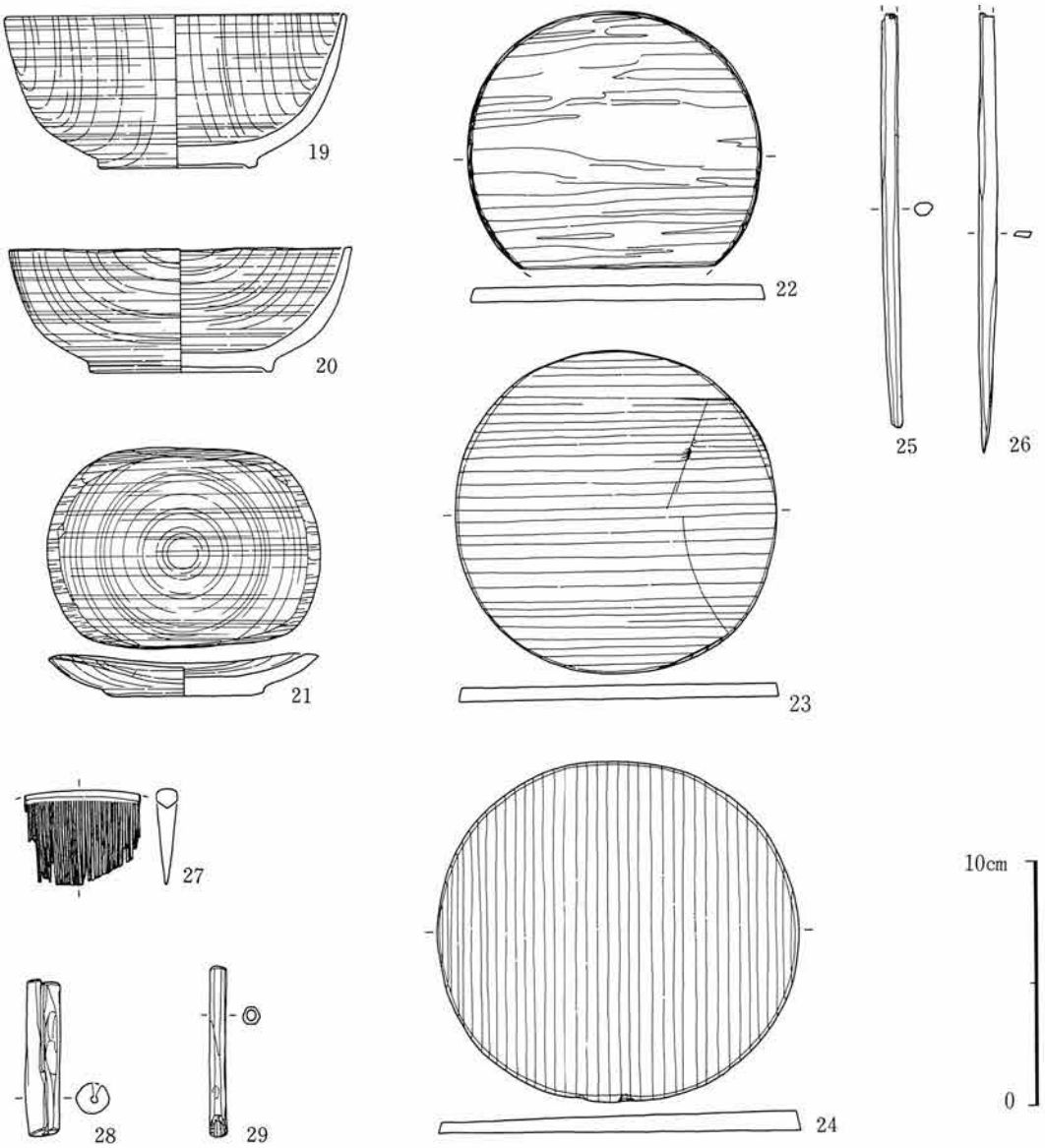
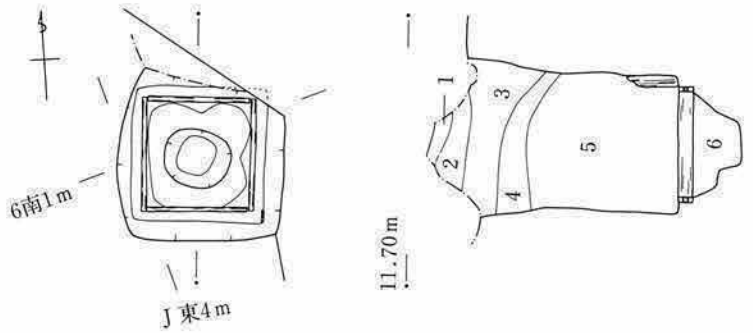


図33　井戸出土遺物(3)ー裏込め

図33　＃Ｐ２ー(３)



1 明黄褐色粘質土
2 黄灰褐色弱粘質土
3 灰褐色粘質土
灰色シルト岩塊・遺物・炭化物を含む
4 灰褐色粘質土
5 灰褐色砂質土
6 灰黄褐色砂質土

概　要　方形の掘方に方形の木枠を据える。　溜 部 径　54cm(長径)
　　木枠は最下段の横桟のみ遺存。　深　さ　225cm
井戸枠辺長　外法94cm、内法85cm、芯々89cm　主軸方位　N-4°-E
掘方辺長　東西134cm、南北139cm以上

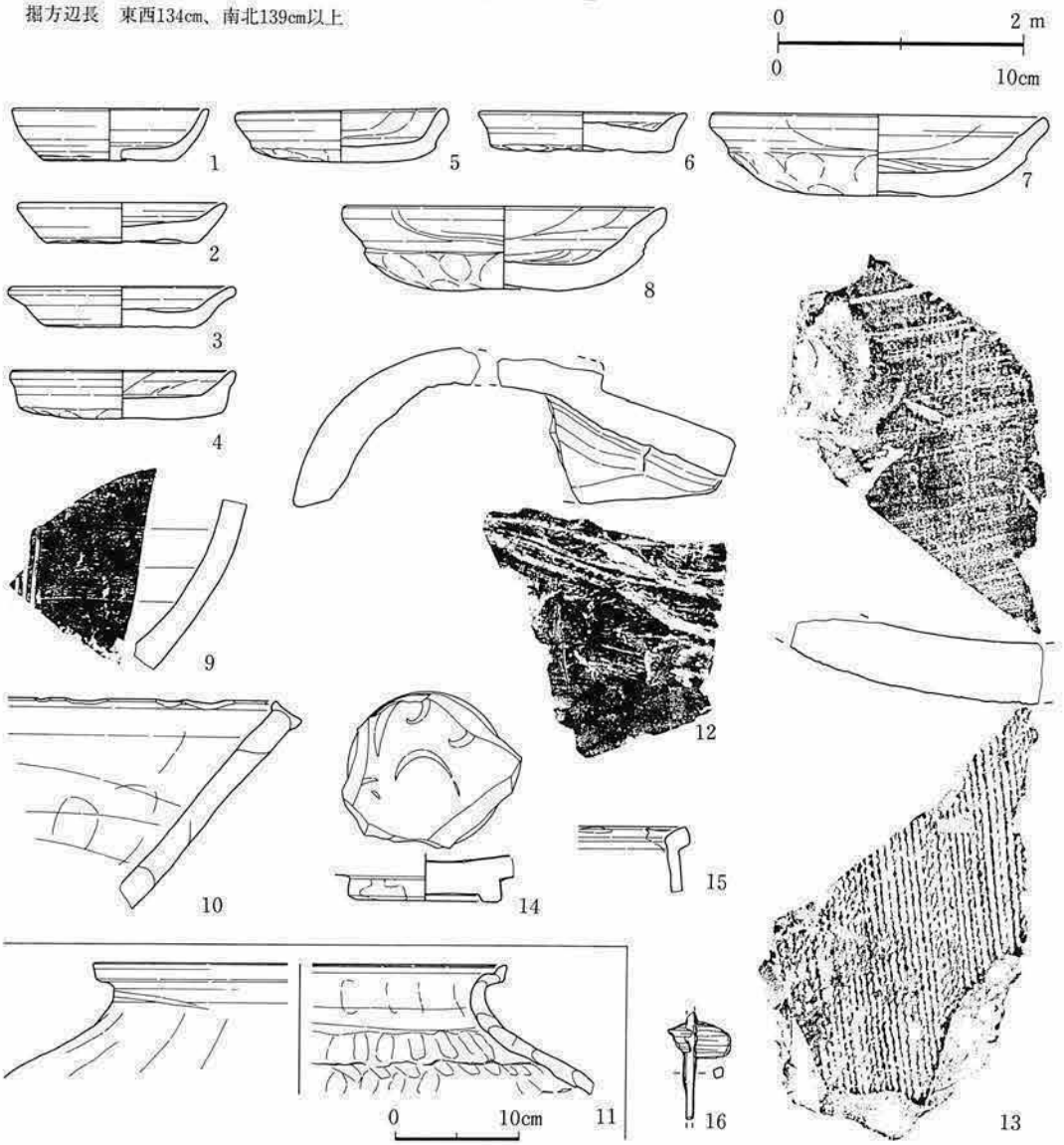


図34　井戸3・同出土遺物

1	土師器	法量　口径8.0cm　底径5.2cm　器高2.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、金雲母、白色細粒、黒色細粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径8.5cm　底径6.2cm　器高1.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　淡黄褐色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径9.3cm　底径6.2cm　器高1.65cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、黒雲母、黒色砂粒含む　色調　橙色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径9.2cm　底径4.6cm　器高1.95cm　成形　手づくね　外底部、内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径8.7cm　底径3.3cm　器高2.15cm　成形　手づくね　外底部、内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径8.5cm　底径6.0cm　器高1.6cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
7	土師器	法量　口径15.4cm　底径5.8cm　器高3.25cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好
8	土師器	法量　口径13.2cm　底径4.9cm　器高3.3cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質、小石含む　色調　灰褐色　焼成　良好
9	備前すり鉢	成形　内外面に横ナデ　内側に条線有り　胎土　灰褐色、粘性が強い　色調　褐色　焼成　普通
10	常滑こね鉢	成形　輪積　口縁部ナデ　胎土　黒褐色、小石粒含む、粗い　色調　赤褐色　焼成　普通
11	常滑甕	法量　口径33.6cm　成形　輪積　内外面横ナデ　肩部内側指頭痕有り　胎土　明褐色、砂粒含む、きめ細かい　色調　赤褐色　焼成　普通
12	丸瓦	成形　凹面布目叩き　凸面ヘラナデ　胎土　瓦質、白色粒含む、きめ細かい　色調　灰色　焼成　普通　備考　永福寺II期
13	平瓦	成形　凹面糸切り痕と布目　凸面縄目叩き　指頭痕有り　胎土　瓦質、白色粒含む　色調　灰色　焼成　普通　備考　永福寺Ⅰ期
14	青磁龍泉窯碗	法量　底径6.2cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　内底面画花文　素地　明灰色、きめ細かい　釉薬　灰緑褐色不透明、高台内部と畳付は一部露胎　焼成　良好
15	黄釉盤	成形　輪積後ロクロ　素地　淡灰褐色、黒色細粒、白色細粒含む　釉薬　黄灰色不透明　焼成　良好
16	鉄釘	法量　長さ4.4cm　幅0.35cm　厚さ0.35cm　備考　木炭付着

表20　井戸３出土遺物観察表

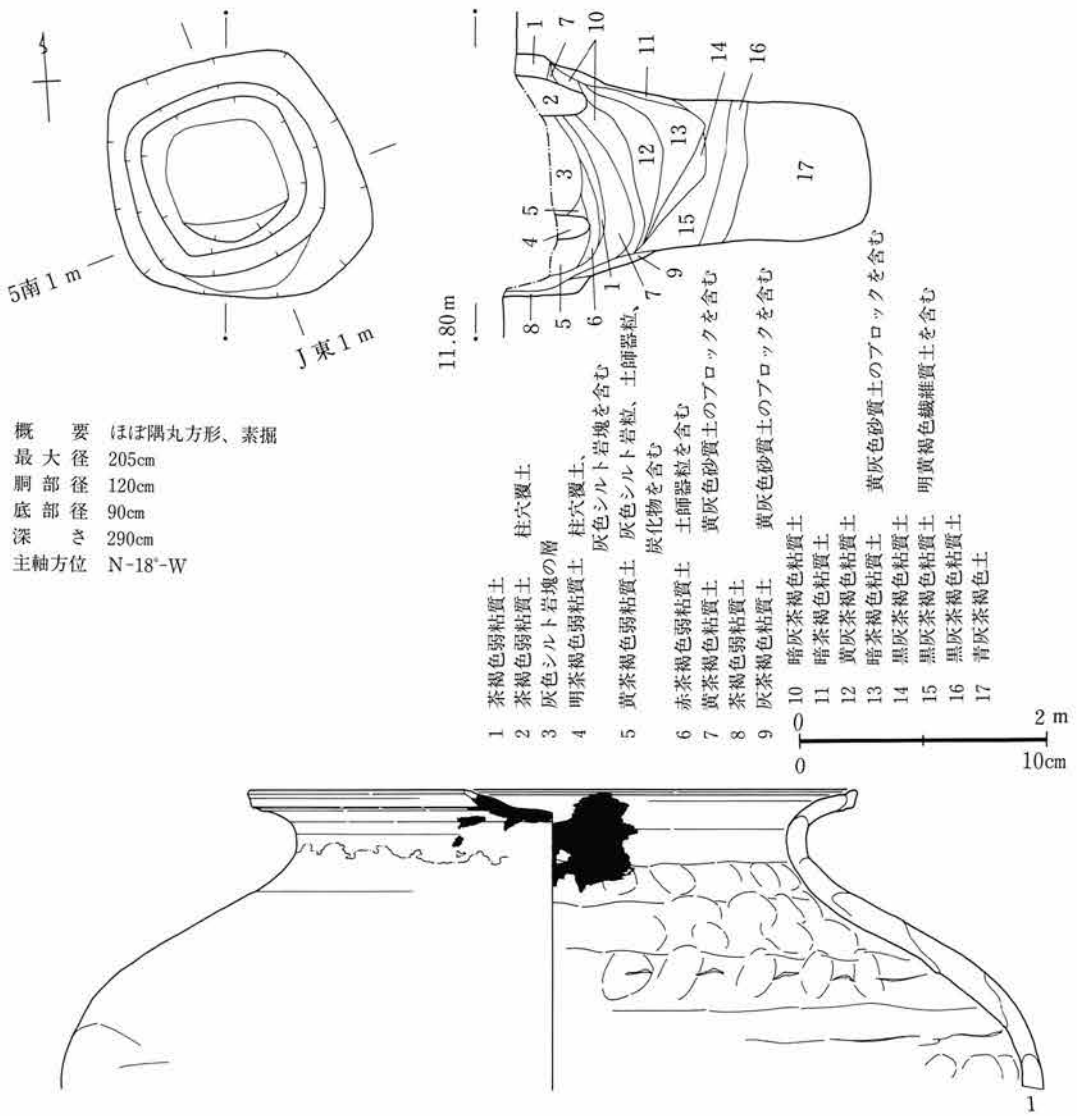


図35　井戸4・同出土遺物

1	常滑 甕	法量　口径24.65cm　　成形　輪積　口縁部横ナデ　肩部内側指頭痕有り　口縁部と肩部外側に降灰　　胎土　灰色～灰黒色、きめ細かい　　色調　褐色　　焼成　普通 備考　口縁部の一部内外にスス付着

表21　井戸4出土遺物観察表

図35　井戸4

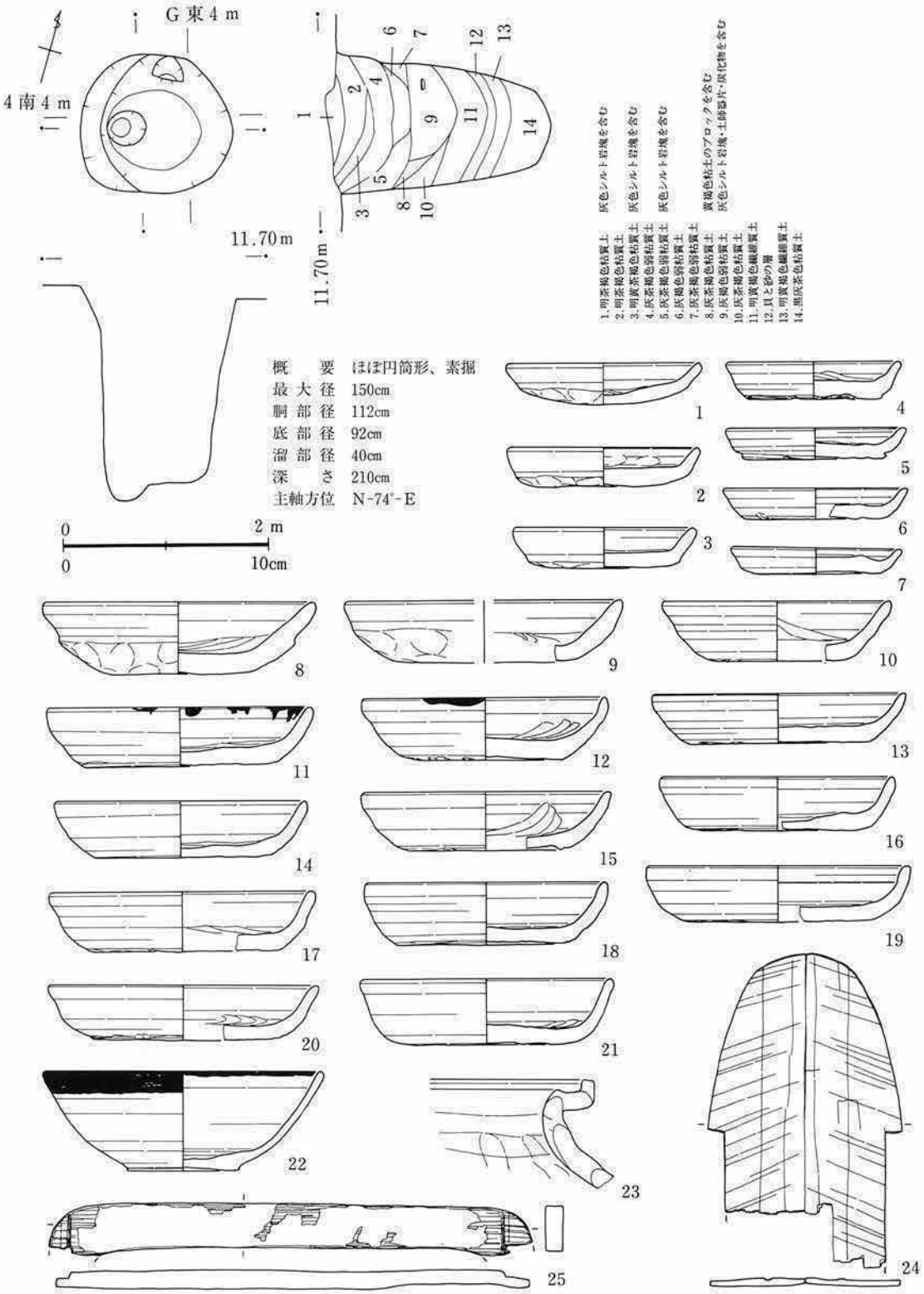


図36　井戸5・同出土遺物

1	土師器	法量　口径9.6cm　底径2.5cm　器高2.0cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　小石、砂粒含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径9.4cm　底径4.0cm　器高2.0cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　小石、砂粒含む、やや粗い　色調　淡褐色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径9.0cm　底径4.8cm　器高2.0cm　成形　外底部手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　小石、砂粒、針状物質含む、やや粗い　色調　褐色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径8.4cm　底径6.6cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径8.8cm　底径6.8cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.9cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
7	土師器	法量　口径8.4cm　底径6.3cm　器高1.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
8	土師器	法量　口径13.4cm　底径5.1cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　スス付着　胎土　小石、砂粒、針状物質含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
9	土師器	法量　口径13.6cm　底径7.5cm　器高3.0cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　淡橙色　焼成　良好
10	土師器	法量　口径11.2cm　底径6.4cm　器高2.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　砂粒、小石含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
11	土師器	法量　口径13.0cm　底径9.3cm　器高2.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　スス付着　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
12	土師器	法量　口径12.0cm　底径8.2cm　器高3.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　スス付着　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好
13	土師器	法量　口径12.4cm　底径8.6cm　器高2.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、橙粒子、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
14	土師器	法量　口径12.4cm　底径9.0cm　器高2.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
15	土師器	法量　口径12.2cm　底径7.8cm　器高2.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質、砂粒、小石、雲母含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
16	土師器	法量　口径11.6cm　底径8.0cm　器高2.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好

表22　井戸5出土遺物観察表（1）

17	土師器	法量　口径13.0cm　底径9.0cm　器高2.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　傷有り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、小石含む　色調　橙褐色　焼成　良好
18	土師器	法量　口径12.0cm　底径8.4cm　器高3.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む、やや粗い　色調　淡橙褐色　焼成　良好
19	土師器	法量　口径13.0cm　底径9.2cm　器高2.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　小石、針状物質、砂粒含む　色調　淡褐色　焼成　良好
20	土師器	法量　口径13.2cm　底径9.5cm　器高2.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
21	土師器	法量　口径12.4cm　底径8.5cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、小石含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
22	西播系土器	法量　口径13.6cm　底径5.5cm　器高4.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　瓦質、小石含む、きめ細かい　色調　灰白色　焼成　良好
23	常滑甕	法量　口径27.0cm　成形　輪積　口縁部ナデ　胎土　暗灰褐色小石、砂粒含む　気孔有り　色調　褐色　焼成　普通
24	板草履芯	法量　幅9.45cm　厚さ0.4cm　成形　平面は端を切った長円形、側面は中央付近に切り込み、板目
25	漆塗り木製品	法量　長さ23.4cm　幅2.0cm　厚さ0.9cm　成形　両端1.4cm　厚さ0.3cm 削り取り　両面漆塗り

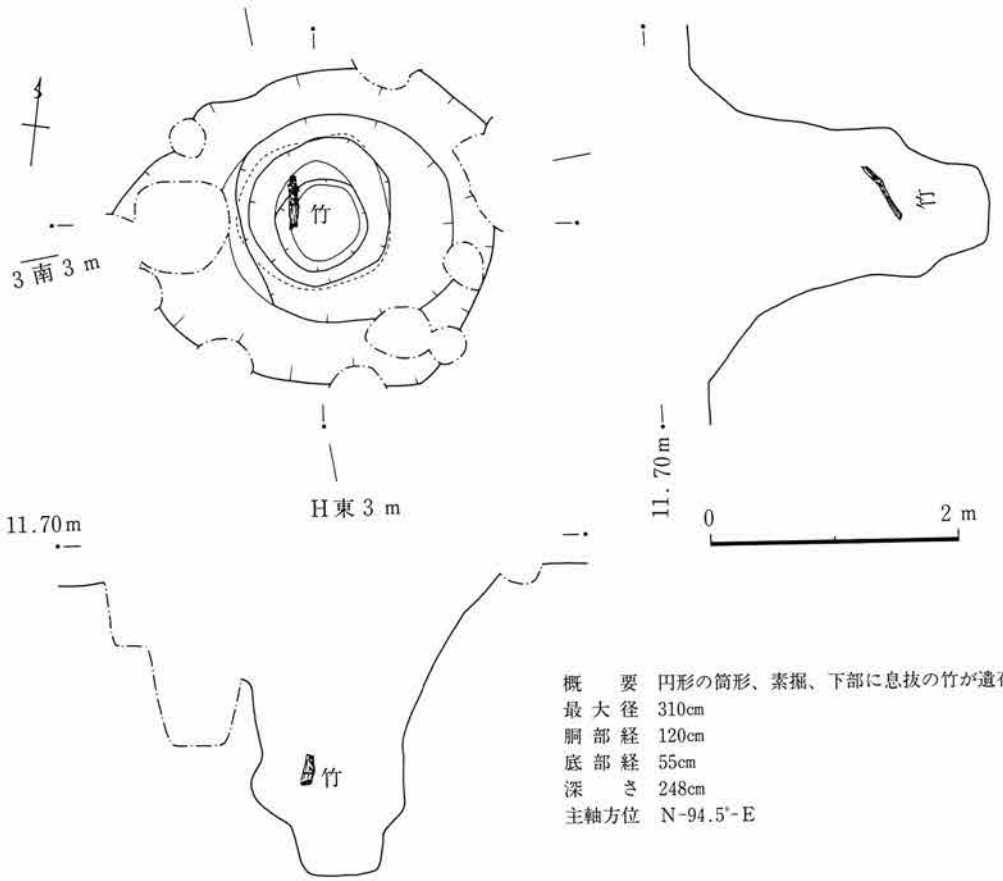
表23　井戸５出土遺物観察表（２）

1	土師器	法量　口径9.4cm　底径6.0cm　器高1.5cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
2	土師器	法量　口径9.5cm　底径2.3cm　器高2.0cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒、金雲母含む　色調　灰褐色　焼成　良好　完形
3	土師器	法量　口径9.2cm　底径3.4cm　器高2.4cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質含む　色調　黄橙色　焼成　良好　完形
4	土師器	法量　口径8.6cm　底径4.6cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　砂粒、金雲母含む、粗い　色調　淡橙色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径9.8cm　底径7.7cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、赤色粒子含む　色調　灰褐色　焼成　良好　半完形
6	土師器	法量　口径9.5cm　底径7.0cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部櫛歯状工具によるナデ　スノコ痕有り　ス ス付着　胎土　砂粒、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好

表24　井戸６出土遺物観察表（１）

7	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.6cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　赤色粒子含む　色調　淡橙色　焼成　良好
8	土師器	法量　口径8.2cm　底径6.8cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、金雲母、赤色粒子、砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好　完形
9	土師器	法量　口径14.8cm　底径5.4cm　器高3.4cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好　半完形
10	土師器	法量　口径14.4cm　底径4.6cm　器高3.4cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　針状物質、小石含む　色調　橙褐色　焼成　良好　完形
11	土師器	法量　口径13.5cm　底径7.1cm　器高3.1cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ　胎土　砂粒、小石含む　色調　橙色　焼成　良好　完形
12	土師器	法量　口径13.5cm　底径8.6cm　器高3.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、赤色粒子、小石含む　色調　淡橙色　焼成　良好　半完形
13	土師器	法量　口径14.6cm　底径9.6cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、赤色粒子、金雲母含む　色調　橙褐色　焼成　良好　半完形
14	土師器（白色系）	法量　口径8.5cm　底径3.4cm　器高2.4cm　成形　手づくね　内底部ナデ　胎土　きめ細かい　色調　乳白色　焼成　良好　完形
15	渥美　甕	法量　口径40.8cm　成形　口縁横ナデ　内面指頭痕　外面叩き目有り　胎土　砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　普通
16	丸　瓦	法量　（長さ16.9cm）　幅16.1cm　厚さ2.2cm　成形　凸面丁寧なナデ　凹面布目　胎土　瓦質、小石、微細な雲母含む　色調　灰黒色　焼成　良好
17	黄褐釉壷	法量　口径12.2cm　成形　ロクロ　素地　緻密黄灰色軟質　色調　緑褐色半透明　釉薬　飴釉　焼成　むら有り　備考　いわゆるルソン壷
18	青磁　龍泉窯　画花文碗	法量　底径6.6cm　成形　左回転ロクロ　文様　内面ヘラ描き文　素地　暗灰色緻密、気孔多　釉薬　灰緑色透明　焼成　普通
19	青磁　龍泉窯　画花文碗	成形　ロクロ　文様　内面ヘラ描き文　素地　灰色緻密、粘性強　釉薬　灰緑色透明　焼成　普通
20	青磁　龍泉窯　画花文碗	法量　口径16.0cm　成形　ロクロ　文様　内面ヘラ描き文　素地　暗灰色岩石質　釉薬　暗灰緑色半透明　焼成　普通
21	青磁　龍泉窯　画花文碗	法量　口径17.0cm　（器高5.7cm）　成形　ロクロ　文様　内面ヘラ描き文　素地　暗灰色緻密、粘性強　釉薬　灰緑色半透明　焼成　普通
22	箸	法量　長さ22.8cm　幅0.65cm　厚さ0.45cm　両口
23	箸	法量　長さ25.5cm　幅0.7cm　厚さ0.6cm　両口
24	板草履芯	法量　長さ23.0cm　幅10.6cm　厚さ0.3cm　成形　平面は前後端を切った長円形、側面は中央やや後に切り込み　板目
25	板草履芯	法量　長さ22.8cm　幅9.4cm　厚さ0.3cm　成形　平面は前後端を切った長円形、側面は中央やや後に切り込み　板目

表25　井戸６出土遺物観察表（２）



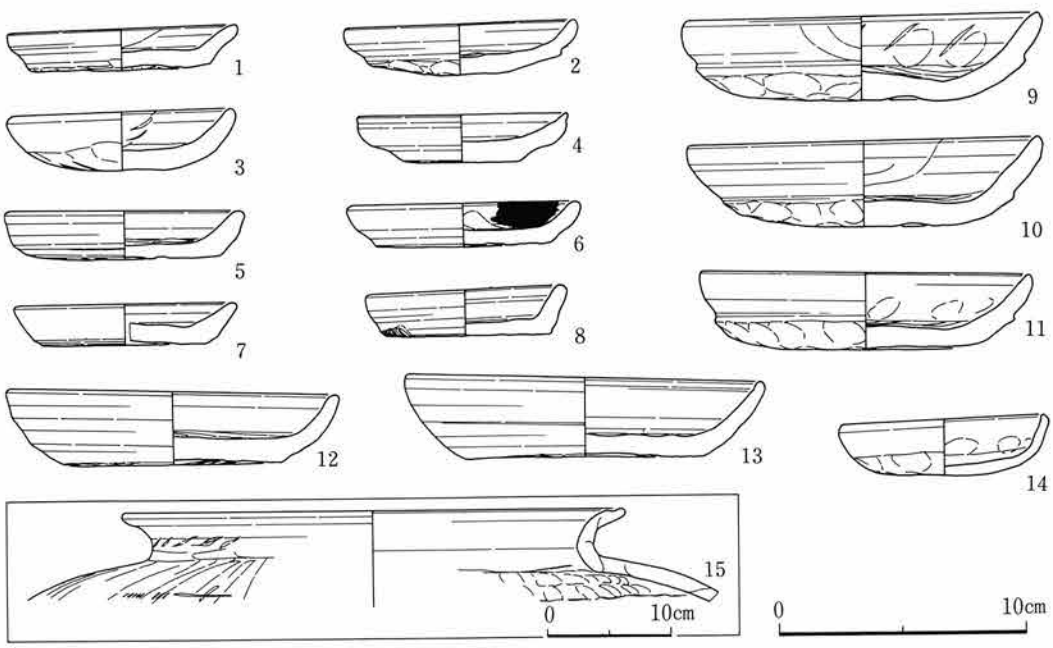


図37　井戸6・同出土遺物(1)

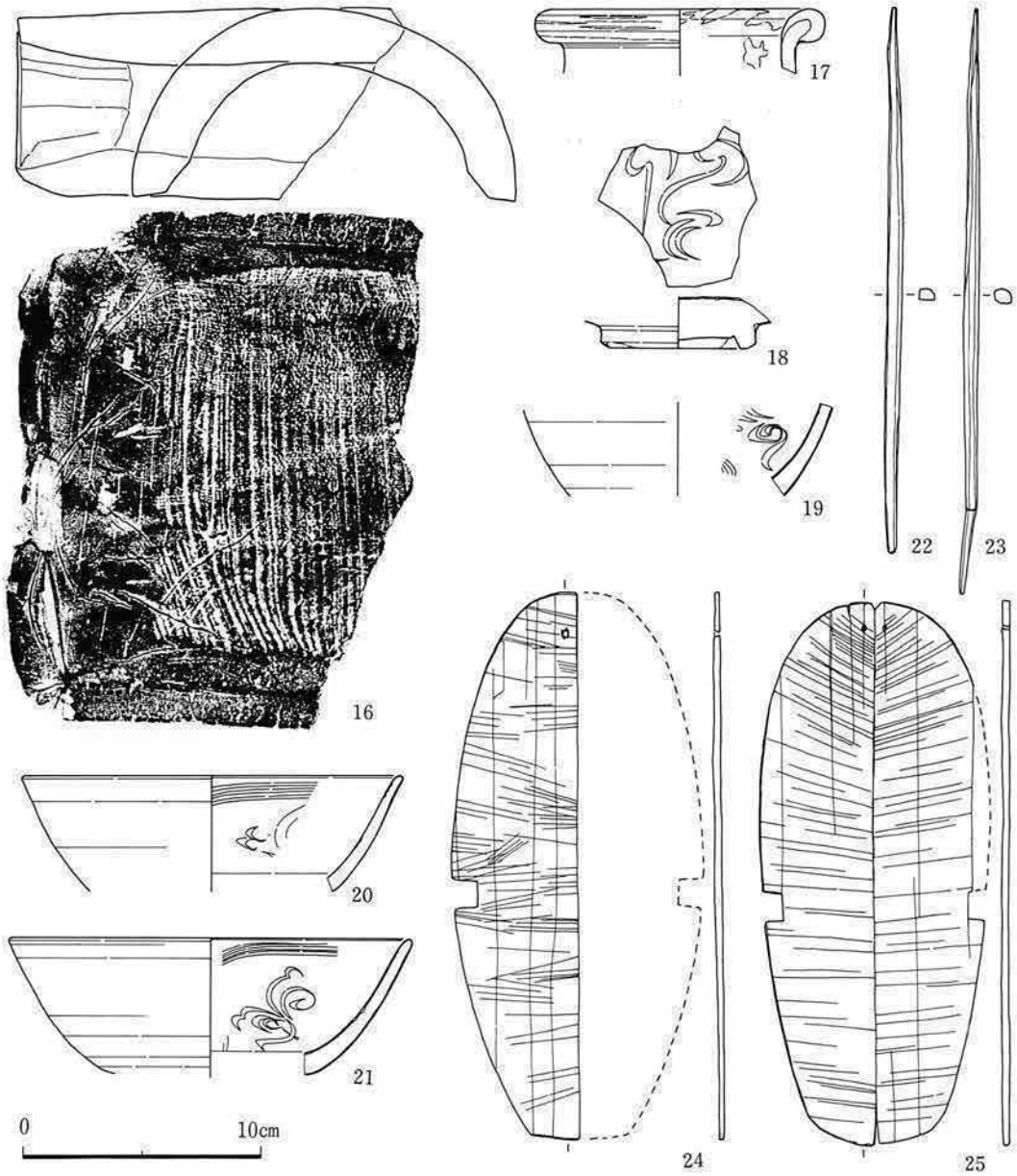


図38　井戸 6 出土遺物(2)

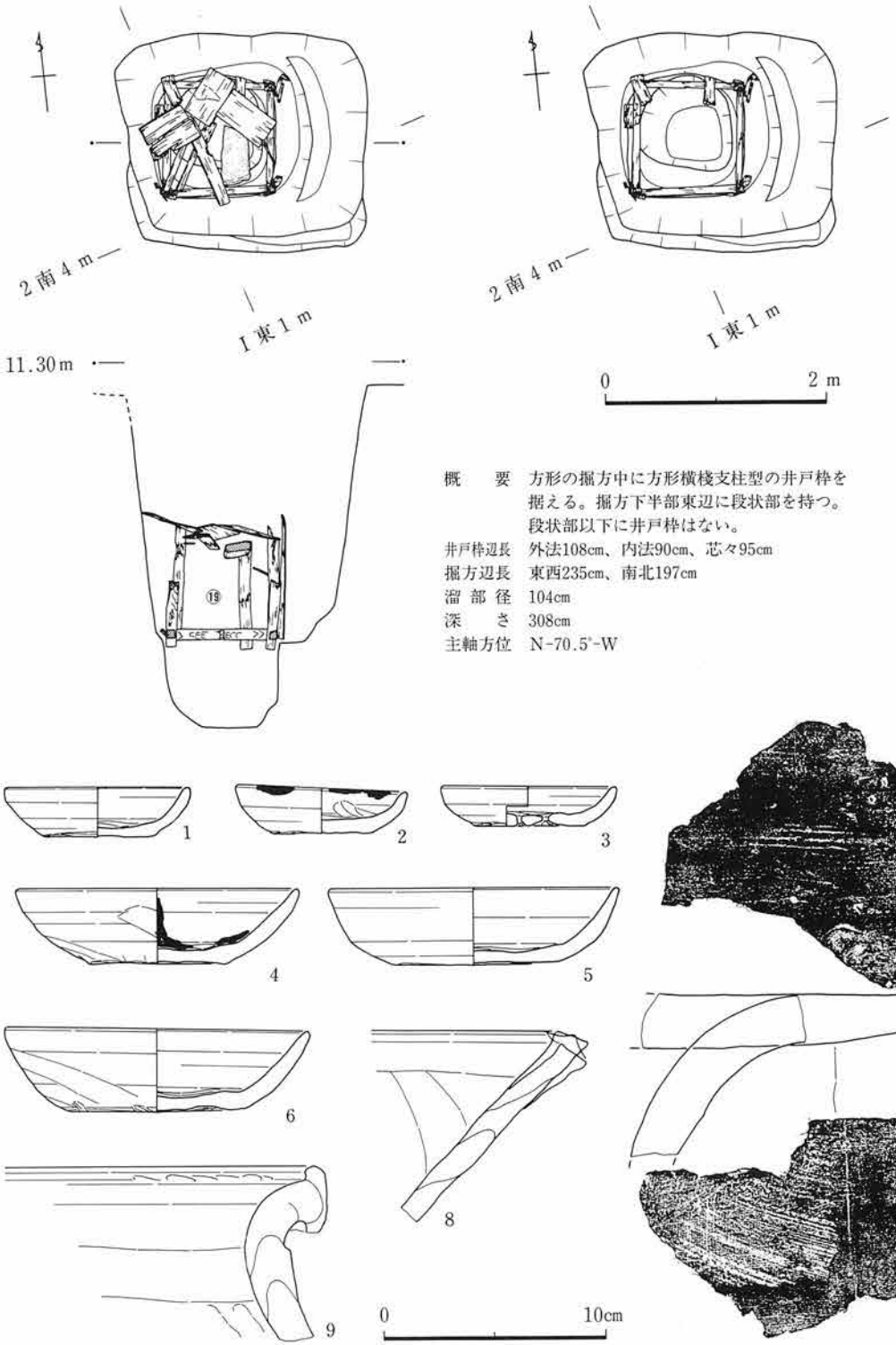


図39　井戸7・同出土遺物(1)

1	土師器	法量　口径8.4cm　底径5.0cm　器高2.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰茶褐色　焼成　良好　完形
2	土師器	法量　口径7.8cm　底径4.5cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　口縁にスス付着　胎土　針状物質、小石含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　完形
3	土師器（穿孔）	法量　口形8.0cm　底径5.0cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　底部に２ヶ所穿孔有り　胎土　針状物質含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径12.8cm　底径6.0cm　器高3.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り、スス付着　胎土　針状物質含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径13.2cm　底径7.5cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　半完形
6	土師器	法量　口径13.8cm　底径8.0cm　器高3.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　半完形
7	丸　瓦	法量　（長さ14.5cm　幅9.5cm）　成形　凸面縄目をナデ調整　凹面糸切り痕と布目痕、端部削り後ナデ　胎土　瓦質、きめ細かい　色調　暗灰青色　表面黒色処理　焼成　良好
8	常　滑こね鉢	成形　輪積　口縁部横ナデ　体部内面横ナデ　口唇部わき指頭圧痕　胎土　赤褐色、小石、砂粒含む　色調　赤褐色　焼成　普通
9	常　滑甕	口径52.4cm　成形　輪積　口縁部横ナデ　胎土　暗灰色、小石、砂粒含む　色調　茶褐色　焼成　普通
10	瀬　戸香　炉	法量　口径25.0cm　成形　ロクロ　口縁部折縁、なぶり仕上げ　頚部貼り付け凸帯　肩部連珠文　胎土　黄灰色きめ細かい　釉薬　黒褐色　外面と内面口縁から頚部に施釉　焼成　良好
11	瀬　戸香　炉	成形　ロクロ　内外面横ナデ　文様　頚部二連の型押し連珠　下部に貼り付けの装飾連珠　胎土　灰褐色、気孔少し有り　釉薬　飴釉　内面は白濁　焼成　良好
12	瀬　戸香　炉	法量　底径14.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　文様　体部外面に蓮華文の押印　胎土　明灰褐色、気孔多い　釉薬　淡緑色透明　焼成　良好
13	瀬　戸大平鉢	法量　口径27.2cm　成形　ロクロ　口縁から体部横ナデ　外面下部ヘラ削り　胎土　灰褐色、微気孔有り　釉薬　黄灰色の灰釉が白濁　内面、外面口縁から体部まで施釉　焼成　良好
14	褐　釉壷	法量　口径9.0cm　底径14.0cm　成形　ロクロ　素地　茶褐色、小石、長石含む　胎芯部　赤茶褐色　釉薬　黒茶褐色、失透　焼成　良好
15	青　磁華　瓶	法量　口径12.2cm　成形　ロクロ　口縁部横ナデ　外反　素地　灰白色　釉薬　緑青色半透明、内外面に厚く施釉　焼成　良好
16	不明鉄製品	法量　長さ15.1cm　最大幅1.0cm　最大厚0.45cm
17	鉄　釘	法量　長さ5.4cm　最大幅0.45cm
18	銭	大観通寶

表26　井戸７出土遺物観察表（１）

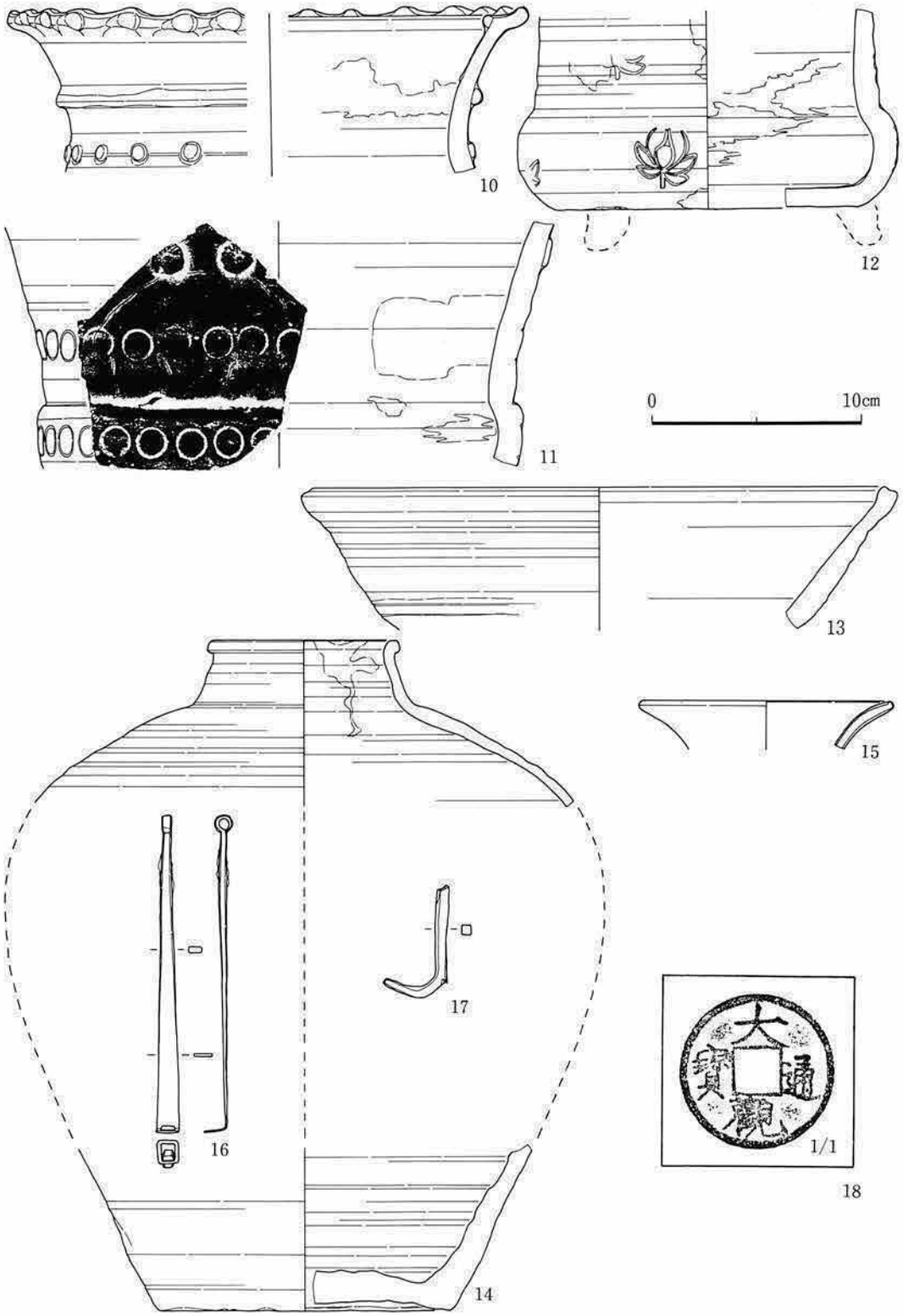


図40　井戸７出土遺物(2)

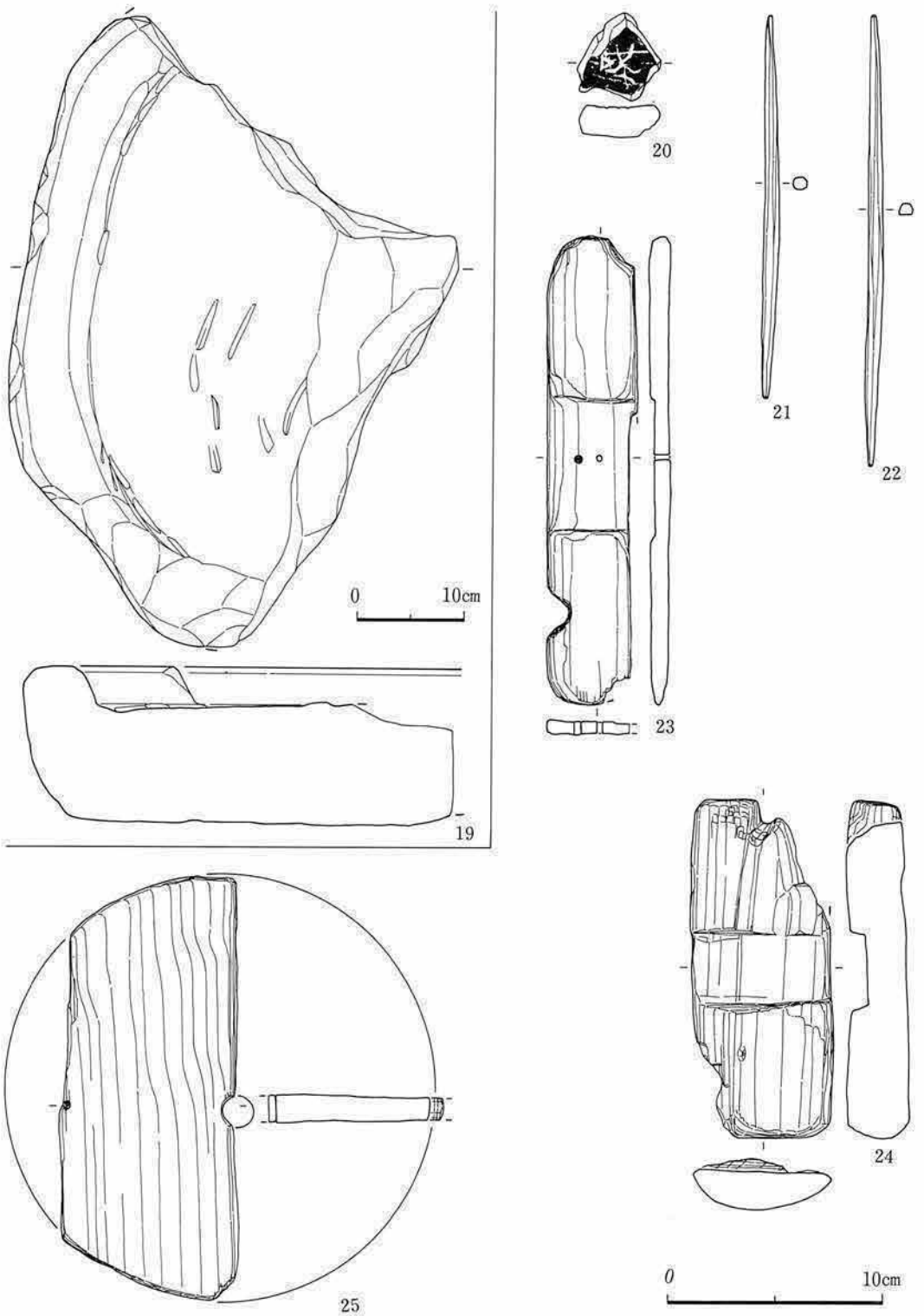


図41　井戸 7 出土遺物(3)

19	石皿　？	法量　高さ14.6cm　底部厚11.6cm　　石材　凝灰質砂岩　　備考　たがね痕有り
20	滑石印判	法量　長さ3.2cm　幅3.5cm　厚さ1.4cm　　成形　線刻有り
21	箸	法量　長さ17.8cm　幅0.7cm　　成形　両口
22	箸	法量　長さ20.8cm　幅0.7cm　　成形　両口
23	部　材	法量　長さ21.8cm　最大幅4.2cm　最大厚1.0cm　最大厚1.0cm　板目
24	部　材	法量　長さ15.8cm　最大幅6.5cm　最大厚2.9cm　最大厚2.9cm　板目
25	曲　物 底　板	法量　径20.0cm　厚さ1.1cm　　成形　平面不正円形　柾目　　備考　中心下部に孔 補修木釘孔有り

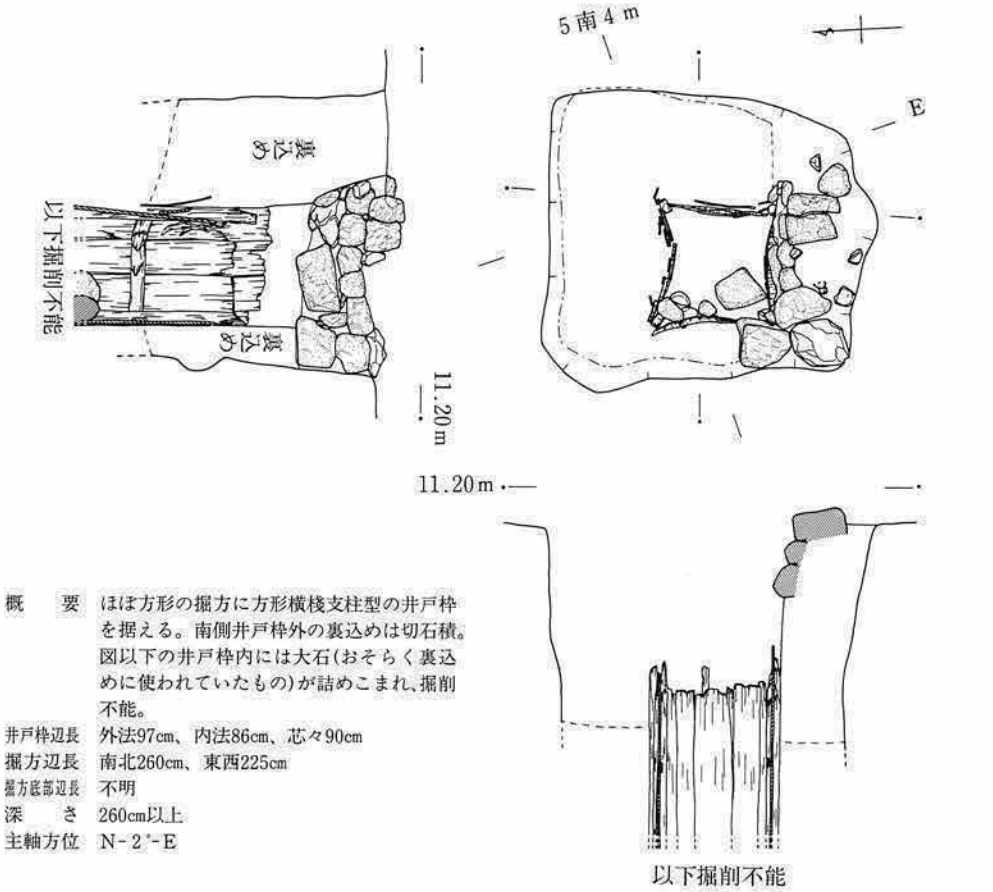
表27　井戸７出土遺物観察表（２）

1	土師器	法量　口径8.2cm　底径5.4cm　器高1.7cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　砂粒、針状物質、雲母含む、やや粗い　　色調　橙色 焼成　良好
2	土師器	法量　口径7.6cm　底径5.4cm　器高1.6cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り 胎土　雲母、砂粒、針状物質含む、やや粗い　　色調　淡橙色　　焼成　良好
3	土師器	法量　口径8.2cm　底径6.4cm　器高1.6cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　雲母、砂粒、針状物質、白粒含む　　色調　橙色 焼成　良好
4	土師器	法量　口径13.6cm　底径8.4cm　器高3.45cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　　色調　灰橙色　　焼成　良好
5	常　滑 甕	法量　底径11.6cm　　成形　輪積　　胎土　紫灰色、砂粒、小石含む、気孔有り 色調　暗灰色　　焼成　普通
6	白　磁 口兀皿	成形　ロクロ　　素地　灰白色、砂粒含む、微気孔有り　　釉薬　灰白色半透明 焼成　良好
7	平　瓦	成形　凸面糸切り痕、縄目　凹面離れ砂　　胎土　灰色瓦質、砂粒含む　　色調　灰黒色　　焼成　良好　　備考　永福寺Ⅰ期

表28　井戸８出土遺物観察表

1	土師器	法量　口径9.5cm　底径6.3cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土 針状物質、金雲母、砂粒含む、やや粗い　　色調　淡褐色　　焼成　良好　　完形
2	土師器	法量　口径10.0cm　底径2.7cm　器高2.2cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　スス付着 胎土　針状物質、砂粒含む　　色調　淡褐色　　焼成　良好　　半完形
3	土師器	法量　口径8.8cm　底径4.4cm　器高1.8cm　　成形　ロクロ、内底面ナデ無し　　胎土　金雲母、砂粒、小石含む、粗い　　色調　淡褐色

表29　井戸９出土遺物観察表（１）



概　　要　ほぼ方形の掘方に方形横桟支柱型の井戸枠を据える。南側井戸枠外の裏込めは切石積。図以下の井戸枠内には大石(おそらく裏込めに使われていたもの)が詰めこまれ、掘削不能。
井戸枠辺長　外法97cm、内法86cm、芯々90cm
掘方辺長　南北260cm、東西225cm
掘方底部辺長　不明
深　　さ　260cm以上
主軸方位　N-2°-E

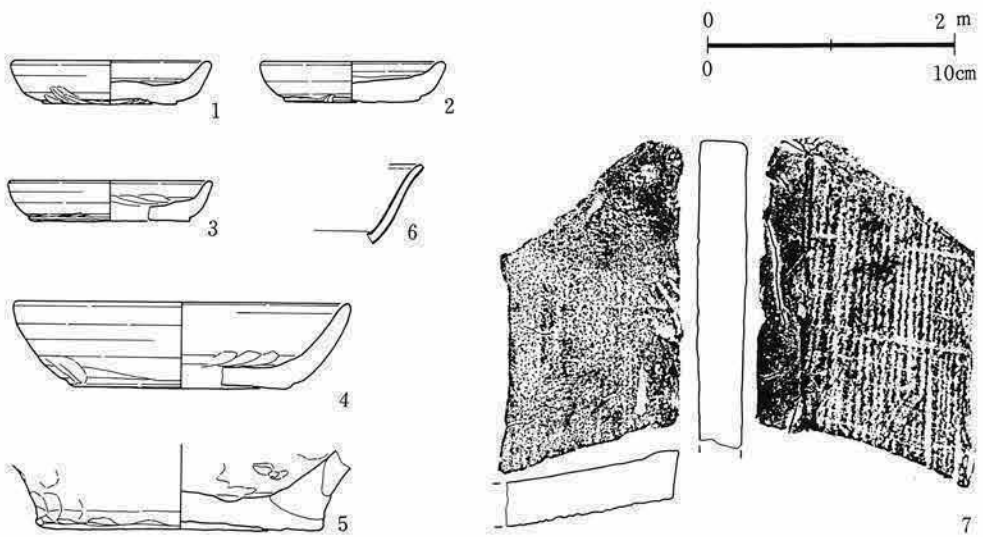


図42　井戸8・同出土遺物

図42　井戸8

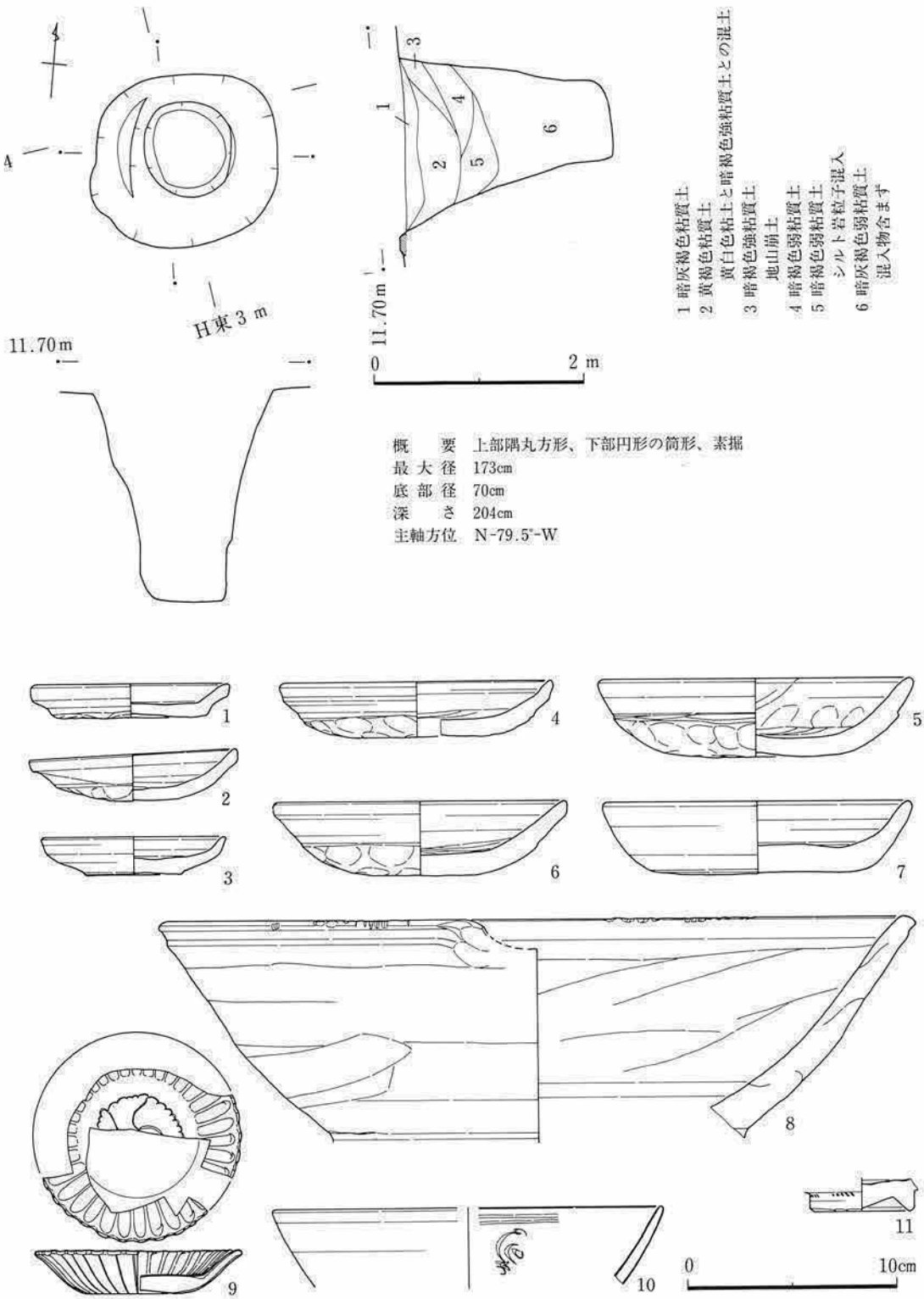


図43　井戸9・同出土遺物

4	土師器	法量　口径13.0cm　底径6.0cm　器高2.6cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ 胎土　針状物質、微砂粒含む、ややきめ細かい　色調　淡褐色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径15.0cm　底径5.5cm　器高3.7cm　成形　手づくね　口縁部、内底部ナデ 胎土　針状物質、小石、金雲母含む　色調　淡褐色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径14.0cm　底径4.8cm　器高3.5cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土 砂粒含む、粗い　色調　淡褐色　焼成　良好
7	土師器	法量　口径14.7cm　底径10.0cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底 部ナデ　胎土　針状物質、小石、砂粒含む、粗い　色調　橙褐色　焼成　良好 半完形
8	常滑 こね鉢	法量　口径36.0cm　(底径10.0cm　器高11.0cm)　成形　輪積　高台貼り付け　内外面 ナデ　胎土　茶褐色、白色砂粒、小石含む　色調　赤褐色　焼成　良好
9	青磁 龍泉窯　皿	法量　口径9.5cm　底径3.4cm　器高2.05cm　成形　ロクロ　文様　外面線刻内側 面菊花文　内底面画花文　素地　灰白色、気孔有　釉薬　青緑色半透明　焼成 良好
10	青磁 龍泉窯　碗	法量　口径18.6cm　(器高3.7cm)　成形　ロクロ　文様　内面画花文　素地 灰白色、気孔有　釉薬　淡緑色透明　焼成　良好
11	青磁 同安窯系碗	法量　底径5.0cm　成形　ロクロ、高台削り出し　文様　高台外面に櫛描き 素地　灰白色、気孔有　釉薬　内面淡黄緑色半透明　焼成　良好

表30　井戸９出土遺物観察表（２）

1	土師器	法量　口径7.6cm　底径5.7cm　器高1.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り 胎土　砂粒、雲母、針状物質、白粒含む　色調　灰橙色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径12.0cm　底径6.8cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底 部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰褐色　焼 成　良好
3	常滑 こね鉢	成形　輪積　口縁部、内外面横ナデ　胎土　暗茶褐色、白色砂粒、小石、雲母含む 色調　赤褐色～暗茶褐色　焼成　普通
4	瀬戸 折縁皿	法量　口径11.6cm　成形　ロクロ　素地　灰色、やや粗い　釉薬　灰釉 焼成　良好　備考　二次焼成有り　器表面に灰付着
5	青磁 龍泉窯　鉢	成形　ロクロ　高台削り出し　素地　灰白色、砂粒含む、きめ細かい　釉薬　淡緑 色半透明、高台内露胎　焼成　良好
6	白磁 口兀皿	法量　口径10.2cm　成形　ロクロ　素地　灰白色、きめ細かい、微気孔有り 釉薬　灰白色半透明　焼成　良好
7	砥石	法量　(長さ5.5cm)　幅3.85cm　厚さ1.4cm　産地　上野　色調　灰緑色 備考　中砥　２面が砥面
8	砥石	法量　(長さ9.2cm)　幅1.85cm　厚さ1.85cm　産地　不明　色調　暗黒色 備考　４面とも砥面
9	石	法量　幅18.8cm　厚さ9.0cm　成形　表面に小孔が多数有り（海岸生物の生息痕か？） 石材　灰色シルト岩

表31　井戸10出土遺物観察表

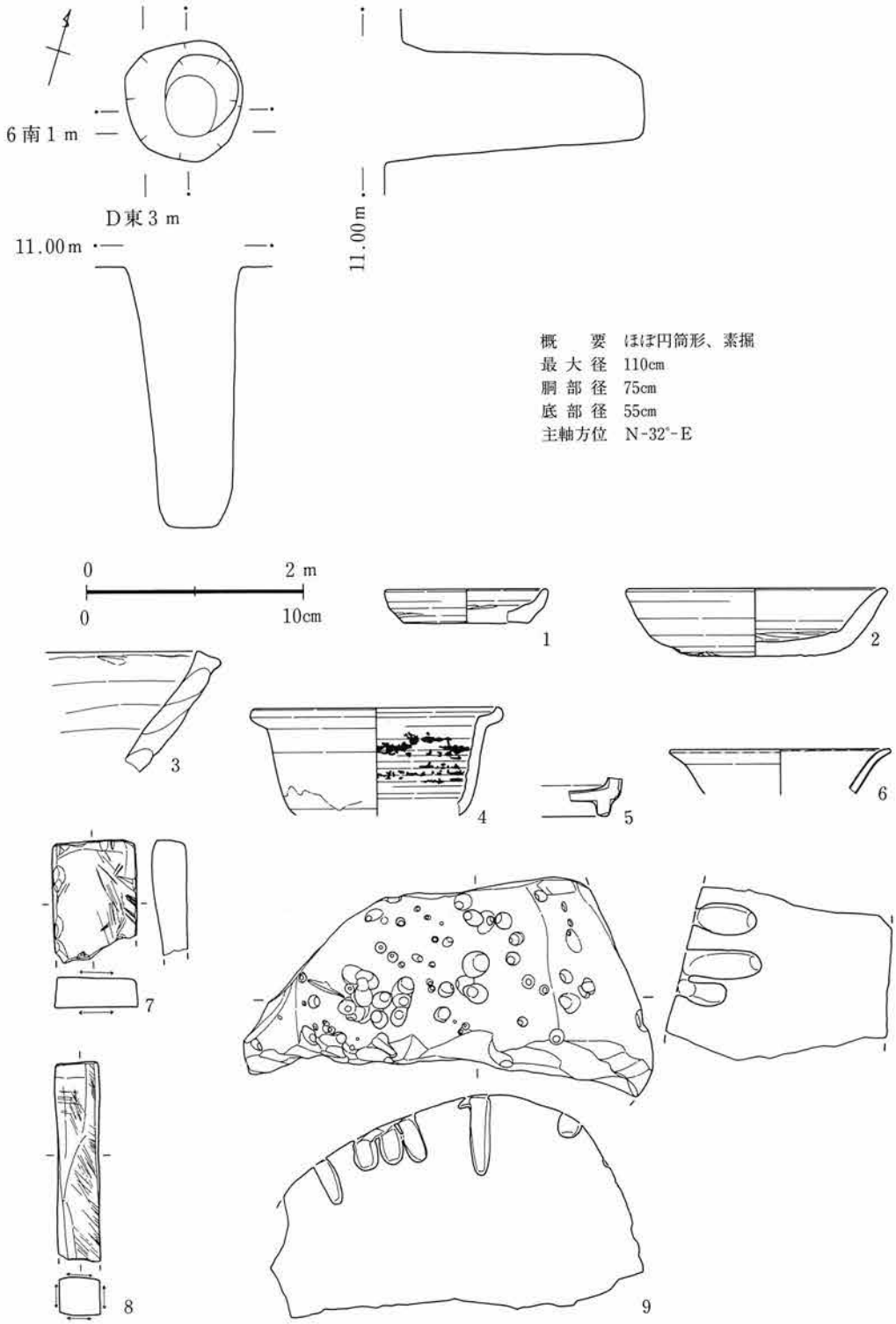
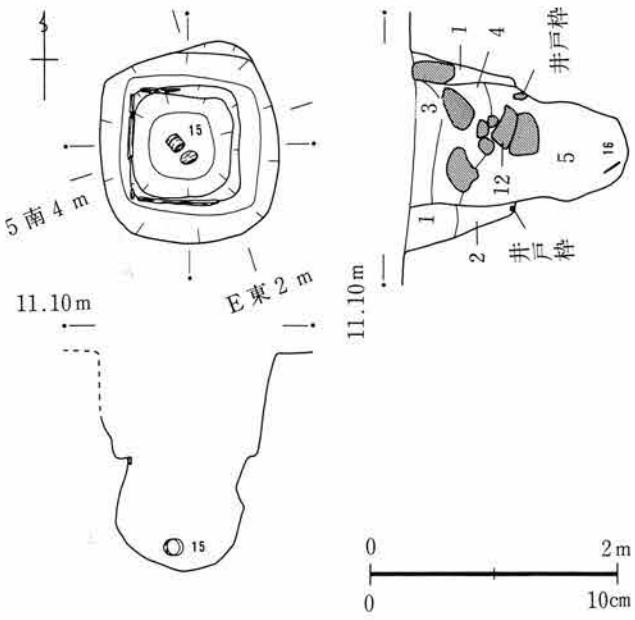


図44　井戸10・同出土遺物



1 茶褐色粘質土（裏込め）
　灰色シルト岩塊を含む
2 暗茶褐色粘質土（裏込め）
3 茶褐色粘質土
　灰色シルト岩塊・炭化物・遺物を含む
4 明茶褐色粘質土
　灰色シルト岩粒・土器細片・炭化物を含む
5 明茶褐色粘質土

概　　要　隅丸方形の掘方に方形横桟支柱型(推定)の井戸枠を据える。掘方中位に段状部を持つ。井戸枠木質は横桟の一部を除いてほとんど遺存していないが、段状部以下はおそらくもともと無かったと思われる。
井戸枠辺長　外法94cm、内法86cm、芯々90cm
掘方辺長　南北153cm、東西144cm
掘方下部辺長　南北82cm、東西83cm
深　　さ　175cm
主軸方位　N-2.5°-E

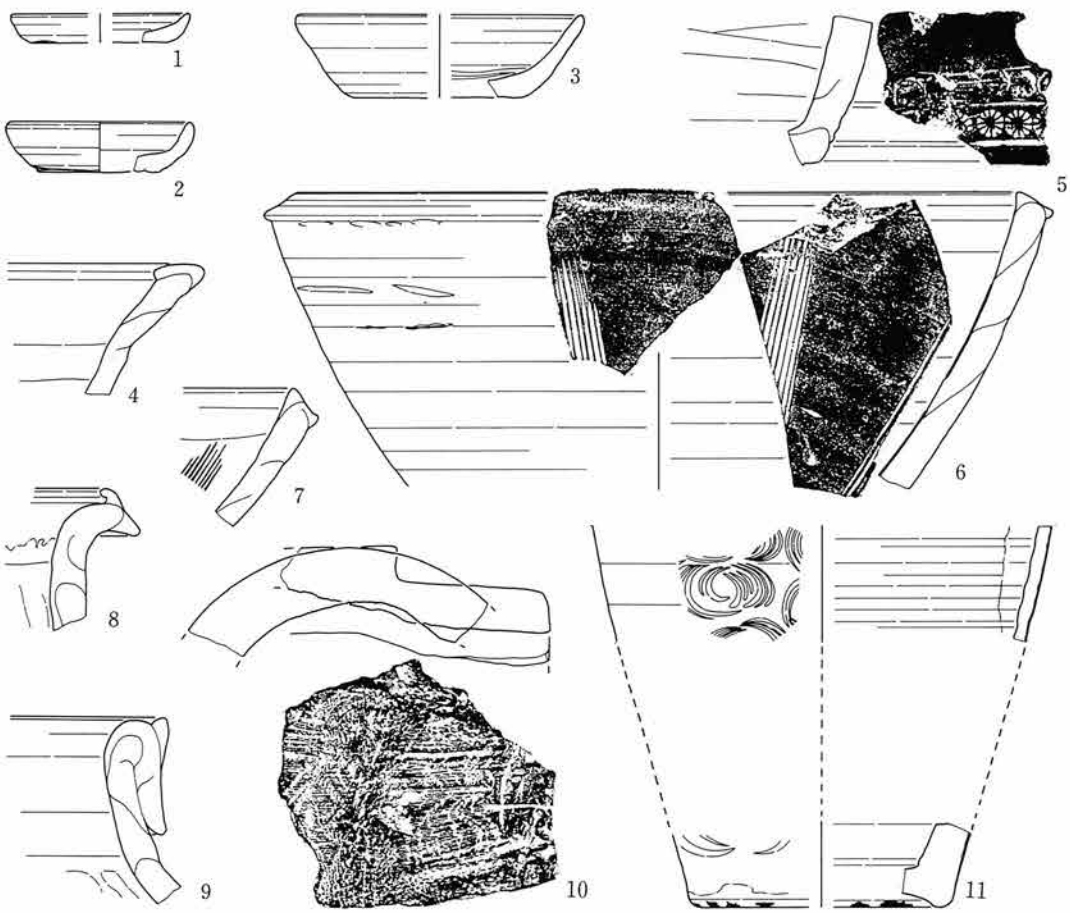


図45　井戸11・同出土遺物(1)

1	土師器	法量　口径7.2cm　底径5.6cm　器高1.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒、雲母含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径7.6cm　底径4.8cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径11.6cm　底径7.0cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質、雲母、砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
4	火　鉢	成形　輪積　内外面横ナデ　口縁部外側ヘラナデ　胎土　長石、小石、橙色砂粒子含む、やや粗い　色調　淡橙色　胎芯部灰褐色　焼成　良好
5	火　鉢	成形　輪積　内外面横ナデ　外面ヘラ磨き　文様　体部外面中位に上から、型押し連珠沈線、連続菊花文押印、沈線　胎土　瓦質、小石含む　色調　胎芯部灰色～白橙色　内面灰黒色　外面白灰色　焼成　良好
6	備　前 すり鉢	法量　口径29.2cm　成形　輪積後ロクロ　条線1束8本　胎土　小石、砂粒含む　色調　淡褐色　焼成　普通
7	備　前 すり鉢	成形　輪積後ロクロ　1束6本以上の条線有り　胎土　小石、砂粒含む　色調　灰黒色　焼成　普通
8	常　滑 甕	成形　輪積　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　色調　茶褐色　焼成　普通
9	常　滑 甕	成形　輪積　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　色調　暗茶褐色　焼成　普通
10	平　瓦	成形　凸面ヘラナデ　凹面布目　胎土　瓦質、砂粒含む　色調　灰黒色　表面黒色処理　焼成　良好
11	青白磁 梅　瓶	法量　口径10.7cm　成形　ロクロ　高台浅く削り出し　文様　渦文　素地　灰白色、気孔有り　釉薬　青白色透明、外面施釉、高台部露胎　焼成　良好　備考　高台に漆付着
12	石　臼 (上臼)	法量　直径58.6cm　内径42.5cm　高さ17.2cm　成形　窪み部分に供給口有り、工具痕有り　石材　凝灰質砂岩　色調　灰緑色
13	石　臼 (下臼)	法量　直径46.0cm　孔径6.0cm　高さ13.5cm　成形　8分角11溝　工具痕有り　石材　安山岩　色調　黒灰色
14	雨落石	法量　長さ15.7cm　幅12.0cm　高さ3.3cm　石材　凝灰質砂岩　色調　黄灰色
15	曲　物	法量　径10.2cm　底厚0.3cm　成形　柾目の薄板を桜の皮で綴じ合わせる　綴じ部は3重
16	曲物底板	法量　径12.8cm　底厚0.8cm　成形　平面円形　柾目　かくし鉄釘による補修痕有り
17	曲物底板	法量　径11.5cm　底厚0.7cm　成形　平面円形　柾目

表32　井戸11出土遺物観察表

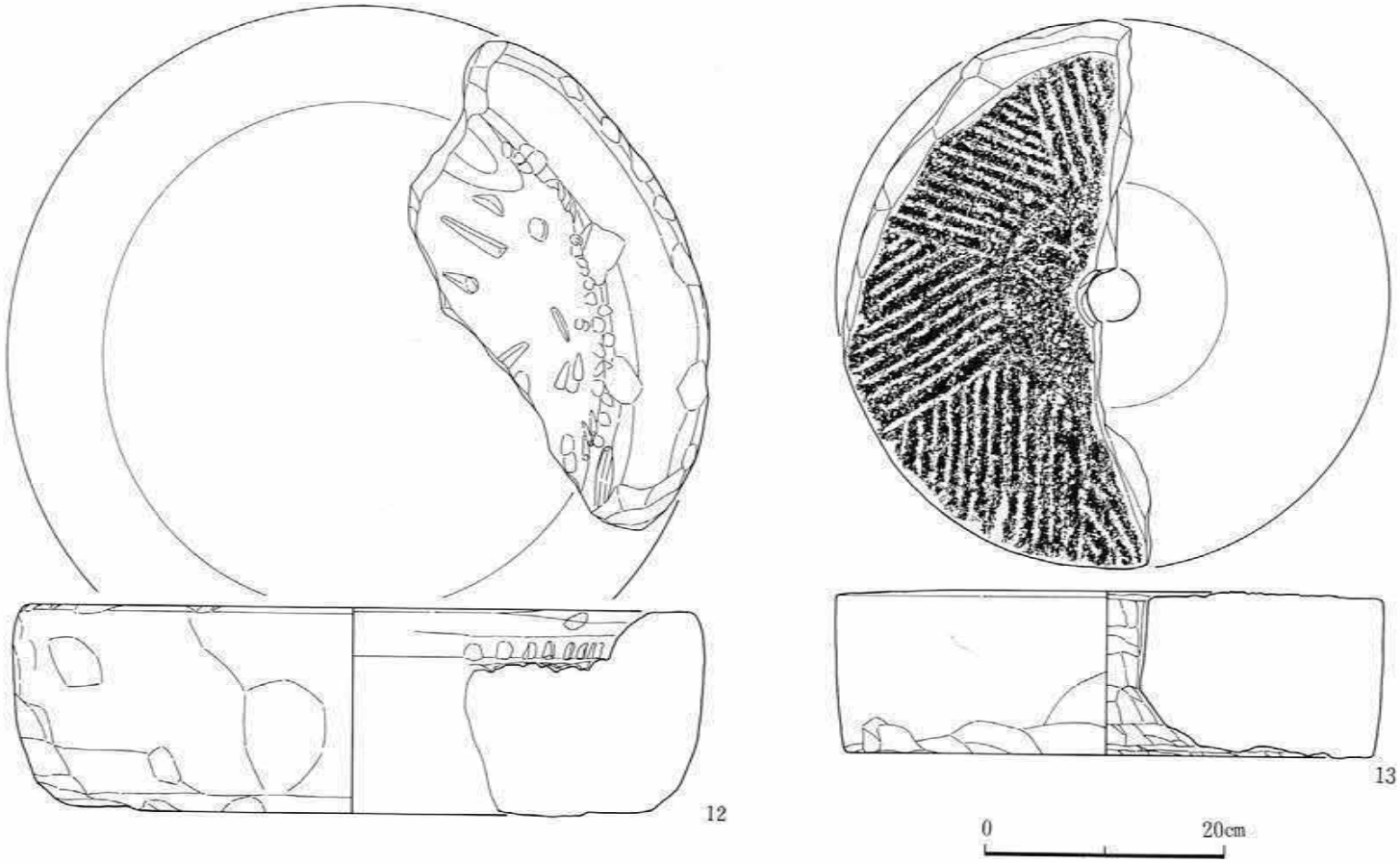


図46　井戸11出土遺物(2)

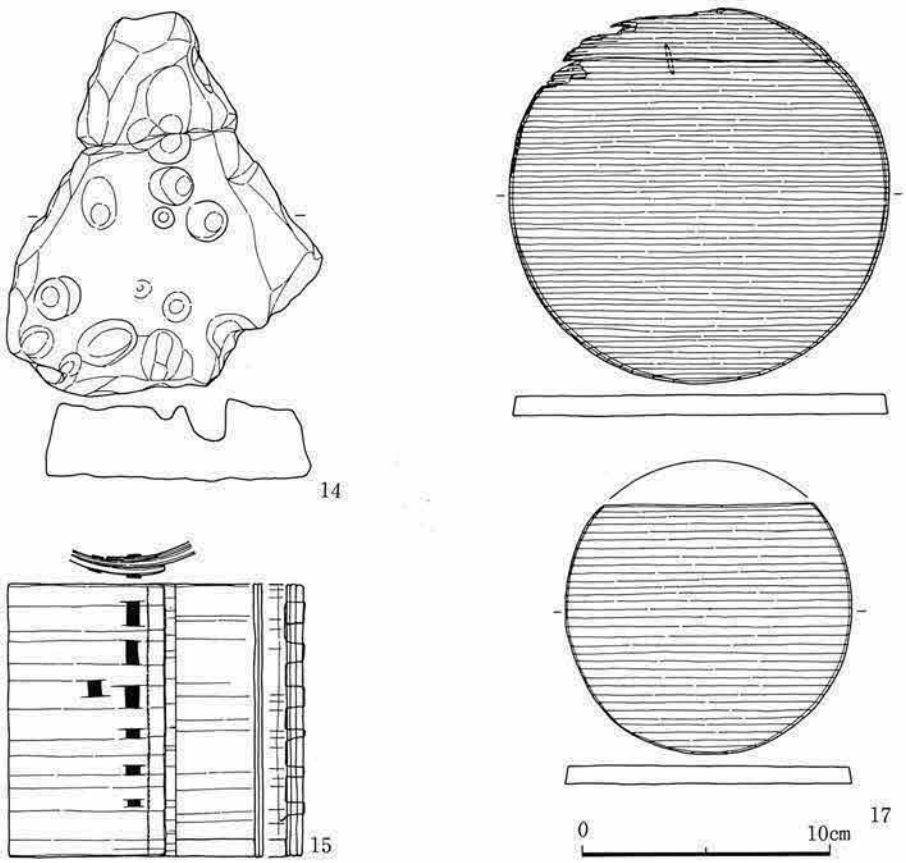
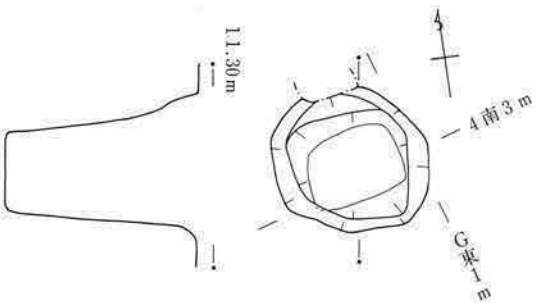


図47　井戸11出土遺物(3)

図47　井戸11（3）



概　　要　上部不整円形、下部不整方形、素掘
最大径　130cm
胴部径　90cm
底　　部　75cm
深　　さ　158cm
主軸方位　N-85°-E

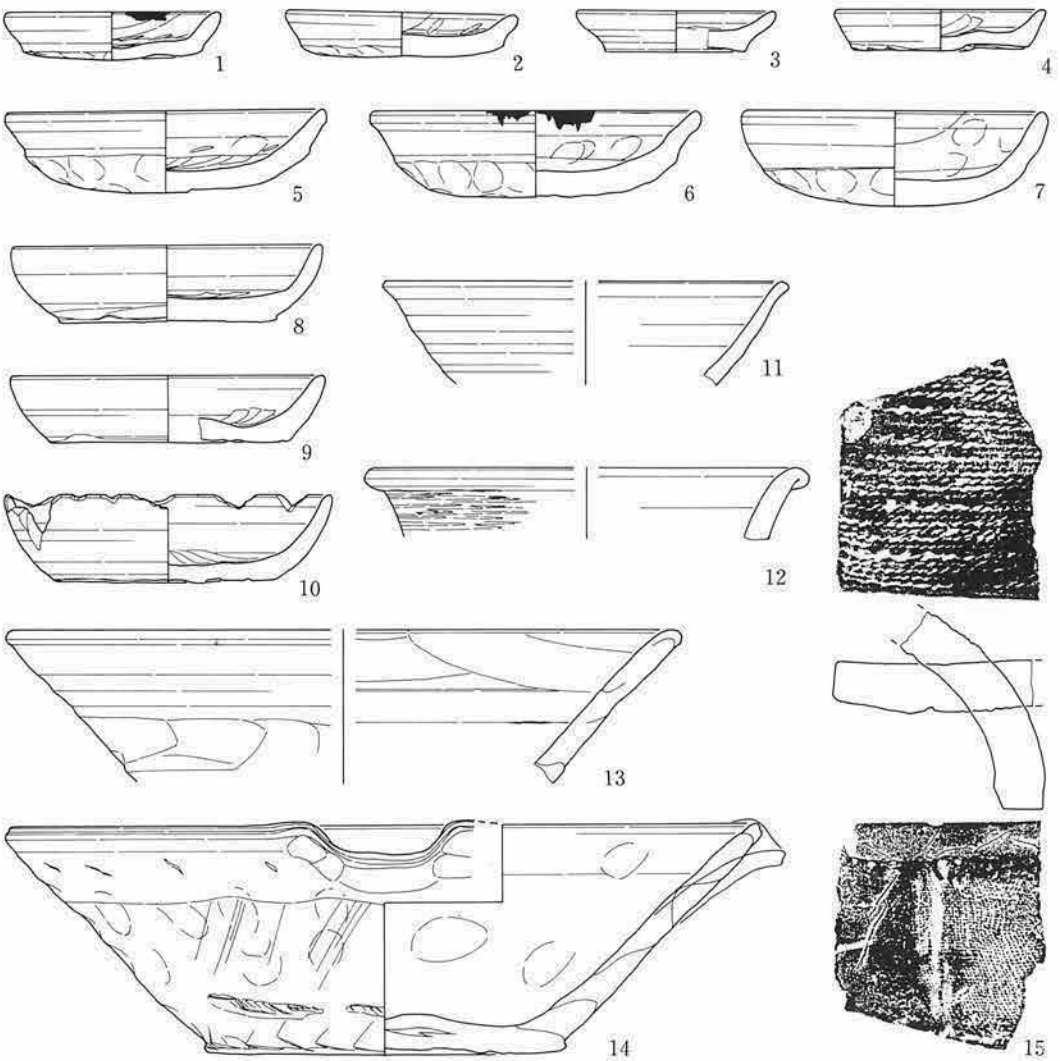
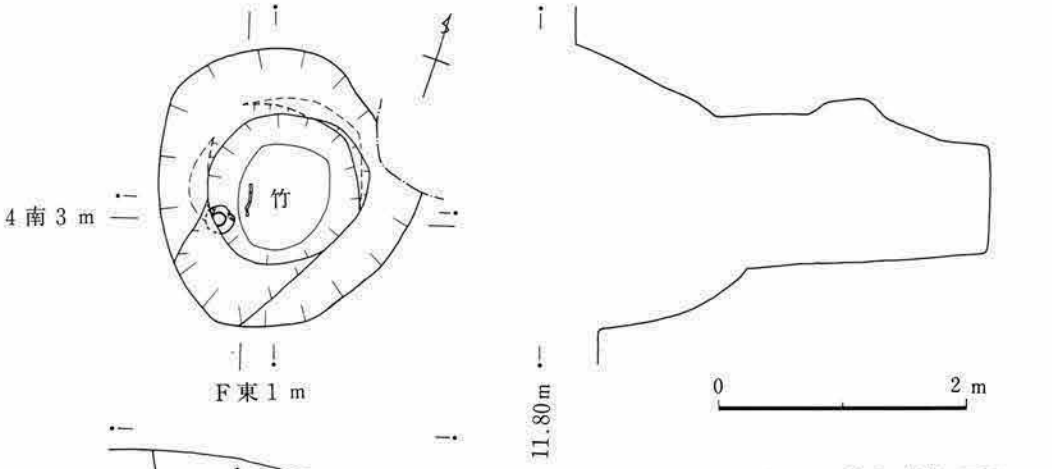
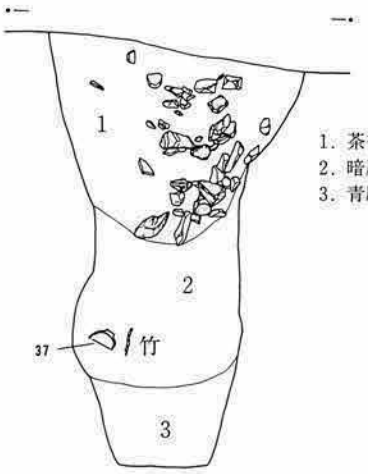


図48　井戸12・同出土遺物

1	土師器	法量　口径8.8cm　底径7.1cm　器高1.9cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　ススス付着　胎土　針状物質、砂粒含む、きめ細かい　色調　淡橙色　焼成　良好　備考　二次焼成の痕有り　完形
2	土師器	法量　口径9.4cm　底径8.1cm　器高1.8cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　口縁にスス付着　胎土　雲母、砂粒、針状物質含む　色調　灰橙色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径8.2cm　底径5.7cm　器高1.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、白粒、雲母、砂粒含む　色調　淡褐色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径8.6cm　底径7.2cm　器高1.6cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　胎土　砂粒、雲母、針状物質、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径13.0cm　底径11.4cm　器高3.3cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　雲母、針状物質、砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径13.6cm　底径11.3cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　ススス付着　胎土　雲母、砂粒、針状物質、白粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好　完形
7	土師器	法量　口径12.4cm　底径10.6cm　器高3.85cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　雲母、針状物質、砂粒含む、きめ細かい　色調　淡橙色　焼成　良好
8	土師器	法量　口径12.5cm　底径8.8cm　器高3.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒、針状物質含む、粗い　色調　橙色　焼成　良好
9	土師器	法量　口径12.8cm　底径9.6cm　器高2.65cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒、雲母、針状物質、白粒含む　色調　橙色　焼成　良好
10	土師器	法量　口径13.2cm　底径8.95cm　器高3.55cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　口縁部を意図的に欠く　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む、粗い　色調　灰褐色　焼成　良好
11	山茶碗	法量　口径16.0cm　成形　ロクロ　胎土　砂粒含む　色調　灰色　焼成　良好
12	渥美壷	法量　口径18.0cm　成形　ロクロ　外面横位の刷毛塗り　胎土　砂粒含む　色調　暗灰色　焼成　良好
13	常滑こね鉢	法量　口径27.0cm　成形　輪積後ロクロ　胎土　暗灰褐色、砂粒、小石、雲母含む　色調　内面灰褐色　外面赤褐色　焼成　普通
14	常滑こね鉢	法量　口径30.6cm　底径14.3cm　器高9.3cm　成形　輪積　口縁部ナデ　口唇脇指頭圧痕有り　胎土　灰褐色、砂粒含む、気孔有り　色調　赤褐色　内側に降灰　焼成　普通
15	丸瓦	法量　厚さ1.95cm　成形　凸面縄目　凹面布目、端部ヘラナデ　胎土　瓦質、砂粒、小石含む、気孔有り　色調　灰黒色　焼成　良好

表33　井戸12出土遺物観察表





1. 茶褐色粘質土
2. 暗灰色粘質土
3. 青灰色砂質土

概　要　円形の筒形、素掘、下部に息抜きの竹が遺存。
最大径　230cm
胴部径　115cm
底部径　80cm
深　さ　346cm
主軸方位　N-9.5°-E

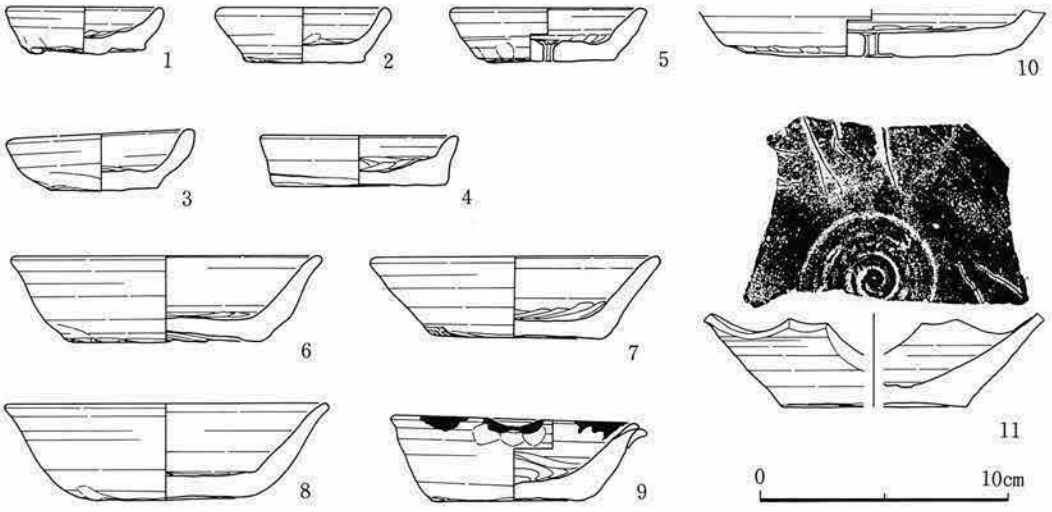


図49　井戸13・同出土遺物(1)

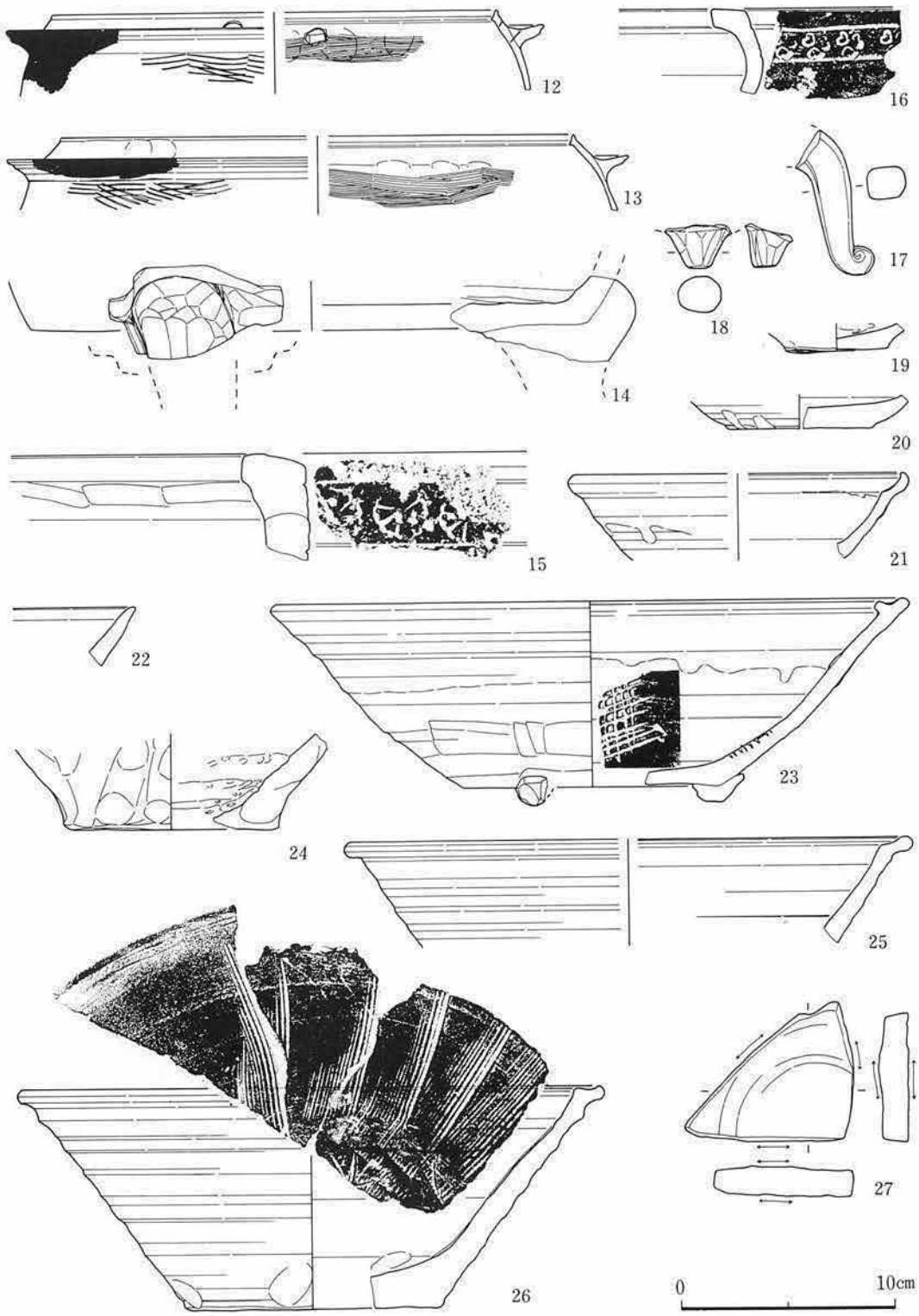


図50　井戸13出土遺物(2)

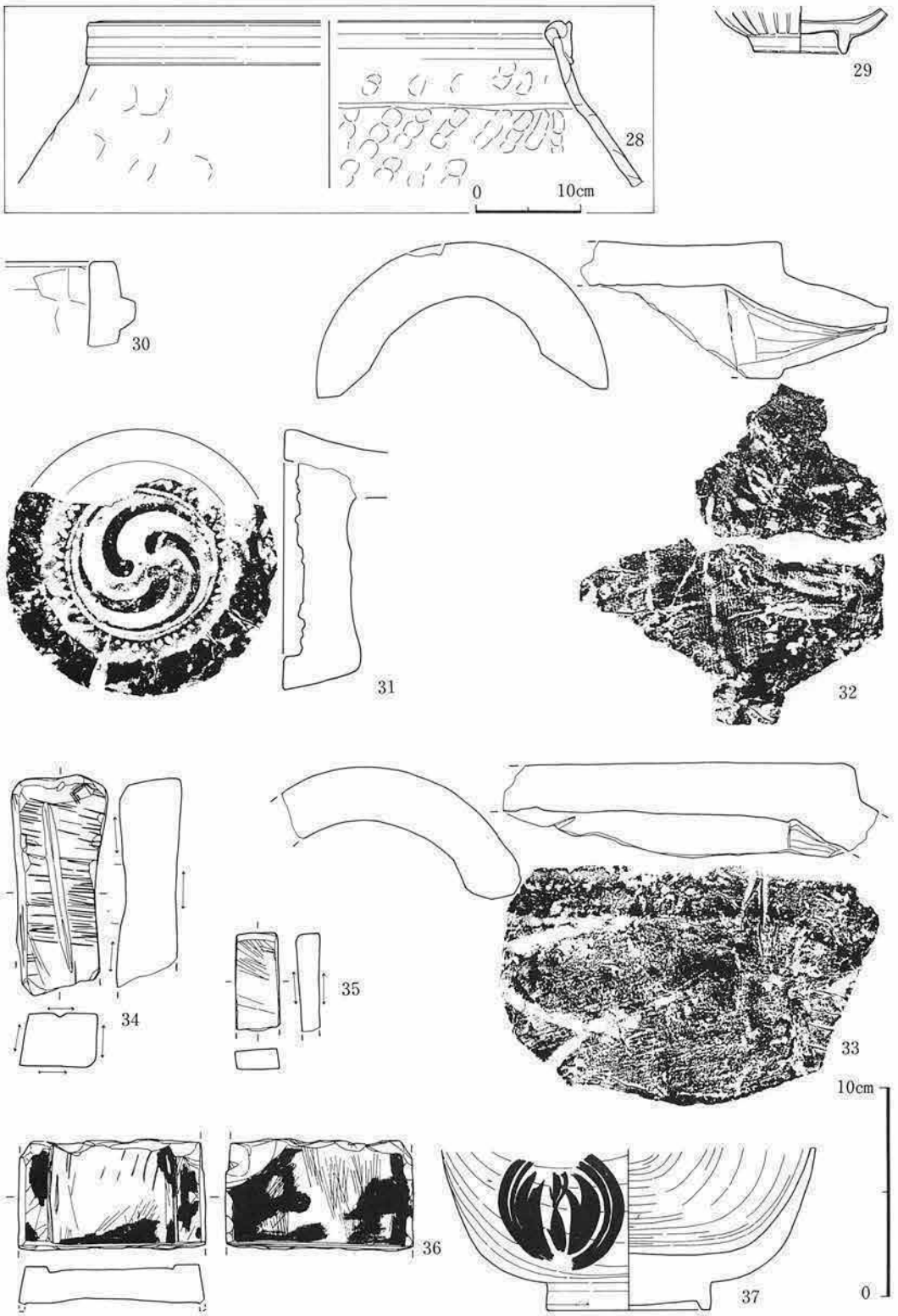


図51　井戸13出土遺物(3)

1	土師器	法量　口径6.4cm　底径4.9cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、金雲母、小石、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　完形
2	土師器	法量　口径7.2cm　底径4.9cm　器高2.25cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、小石粒子含む　色調　淡褐色　焼成　良好　完形
3	土師器	法量　口径7.65cm　底径4.3cm　器高2.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　半完形
4	土師器	法量　口径8.0cm　底径7.0cm　器高2.05cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒、赤色粒子含む　色調　淡橙色　焼成　良好
5	土師器	法量　口径7.9cm　底径5.5cm　器高2.15cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　完形　底部穿孔
6	土師器	法量　口径12.6cm　底径7.0cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
7	土師器	法量　口径11.9cm　底径6.9cm　器高3.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　半完形
8	土師器	法量　口径13.2cm　底径7.2cm　器高3.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質、金雲母、小石、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　半完形
9	土師器	法量　口径10.0cm　底径6.3cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　ス ス付着　胎土　小石含む、やや粗い　色調　淡橙色　焼成　良好　半完形　灯明皿か
10	土師器	法量　口径11.8cm　成形　ロクロ　外底部糸切り痕をなでて消す　縁辺部全周に剝落痕　内底部ナデ　胎土　針状物質、小石、赤色粒子含む　色調　橙褐色　焼成　良好　底部穿孔
11	土師器	法量　口径13.8cm　底径7.4cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　金雲母、赤色粒子含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好　半完形
12	つば付土鍋	法量　口径10.4cm　成形　輪積　内面部横方向ハケ目　外面部横方向楕目状工具痕　ス ス付着　穿孔有　胎土　肌色きめ細かい　色調　胎芯部灰色　器表近く灰褐色　焼成　良好
13	つば付土鍋	法量　口径12.0cm　成形　輪積　内面部横方向ハケ目　外面部横方向楕目状工具痕　ス ス付着　胎土　肌色きめ細かい　雲母、赤色粒子含む　色調　胎芯部灰色　焼成　良好
14	火　鉢	法量　内底径23.0cm　成形　脚部ヘラ削り　内底面ナデ　胎土　砂粒含む瓦質　色調　灰白色　焼成　普通　二次焼成で内表面剝落
15	火　鉢	成形　内面ナデ　外面口縁下に菊花文の押印　胎土　小石含む瓦質　色調　灰白色　焼成　普通　二次焼成で表面が剝落

表34　井戸13出土遺物観察表（1）

16	瓦質香炉	成形　器表面ヘラ磨き　外面口縁下に二本の沈線の間に竹筒の押印　内面横方向ハケ目　胎土　瓦質、砂粒含む、気孔が多い　色調　灰白色、内外上部灰黒色　焼成　普通
17	瓦質香炉	成形　手づくね　胎土　瓦質、砂粒含む　色調　淡褐色　胎芯部暗灰色　焼成　普通
18	土師器香炉	成形　手づくね　胎土　灰黒色、赤色粒子　色調　淡褐色　胎芯部灰黒色　焼成　普通
19	山茶碗	法量　底径4.8cm　成形　ロクロ　素地　灰褐色、きめ粗く気孔多　釉薬　淡灰緑色透明　焼成　やや悪い　高台なし
20	瀬戸皿	法量　底径7.0cm　成形　ロクロ、内外面磨耗　素地　淡黄灰色、きめやや粗い　焼成　普通　備考　灰緑色半透明釉の飛沫が付着
21	瀬戸折縁皿	法量　口径16.0cm　成形　ロクロ　内外面磨耗　素地　淡黄灰色、きめやや粗い　釉薬　口縁部に緑色半透明　焼成　普通　備考　20の遺物と同一の可能性有り
22	瀬戸平碗	法量　口径28.0cm　成形　ロクロ　素地　灰白色　釉薬　薄緑色半透明　焼成　普通
23	瀬戸大平鉢	法量　口径30.0cm　底径12.0cm　器高9.4cm　成形　ロクロ　外面下半部ヘラ削り　脚貼り付け　内壁におろし目有り　素地　淡褐色、ややきめ粗い　釉薬　暗緑色　灰釉、表面が白濁　焼成　普通
24	常滑こね鉢	法量　底径10.1cm　成形　輪積　外面部ヘラ削り　外面下部指頭痕　胎土　小石白色砂粒含む　色調　内外面赤褐色　胎芯部、内底面付近褐色　焼成　普通
25	常滑折縁鉢	法量　口径26.8cm　成形　ロクロ　胎土　褐色～黒褐色、小石、白色砂粒含む　やや　やきめ細かい　焼成　普通　備考　白濁した自然釉有り
26	常滑すり鉢	法量　口径27.6cm　底径12.0cm　器高10.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内部掻き目１束13本　胎土　赤褐色、白色砂粒、小石含む　色調　赤褐色　焼成　普通
27	常滑甕転用砥石	成形　外底部ナデ　胎土　暗灰褐色、白色砂粒含む　ややきめ細かい　色調　外面暗褐色　内面橙褐色　焼成　普通
28	常滑甕	法量　口径23.2cm　成形　輪積　内外面ナデ　円帯部が口縁に貼り付く　内面指頭痕　胎土　赤褐色、小石、白色砂粒含む　色調　濃褐色　焼成　普通
29	青磁龍泉窯　碗	法量　底径4.4cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　外面に複蓮弁　素地　灰白色、気孔含む　釉薬　青緑色不透明　焼成　良好
30	滑石鍋	成形　鍔ぶ上下に削り痕　使用痕有り　穿孔途中の孔有り　色調　灰白色　備考　再加工痕有り
31	軒丸瓦	法量　外径12.2cm　内径8.8cm　成形　凸面ヘラナデ　胎土　灰白色瓦質、小石砂粒含む　色調　灰黒色　焼成　普通　備考　瓦当部のみ
32	丸瓦	法量　幅14.0cm　厚さ2.8cm　成形　凸面ヘラナデ　凹面縄目　胎土　瓦質、小石、赤色粒子、砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　普通
33	丸瓦	法量　(幅12.0cm)　厚さ2.6cm　成形　凸面ヘラナデ　凹面縄目　胎土　瓦質　砂粒含む　色調　灰色　焼成　普通

表35　井戸13出土遺物観察表（２）

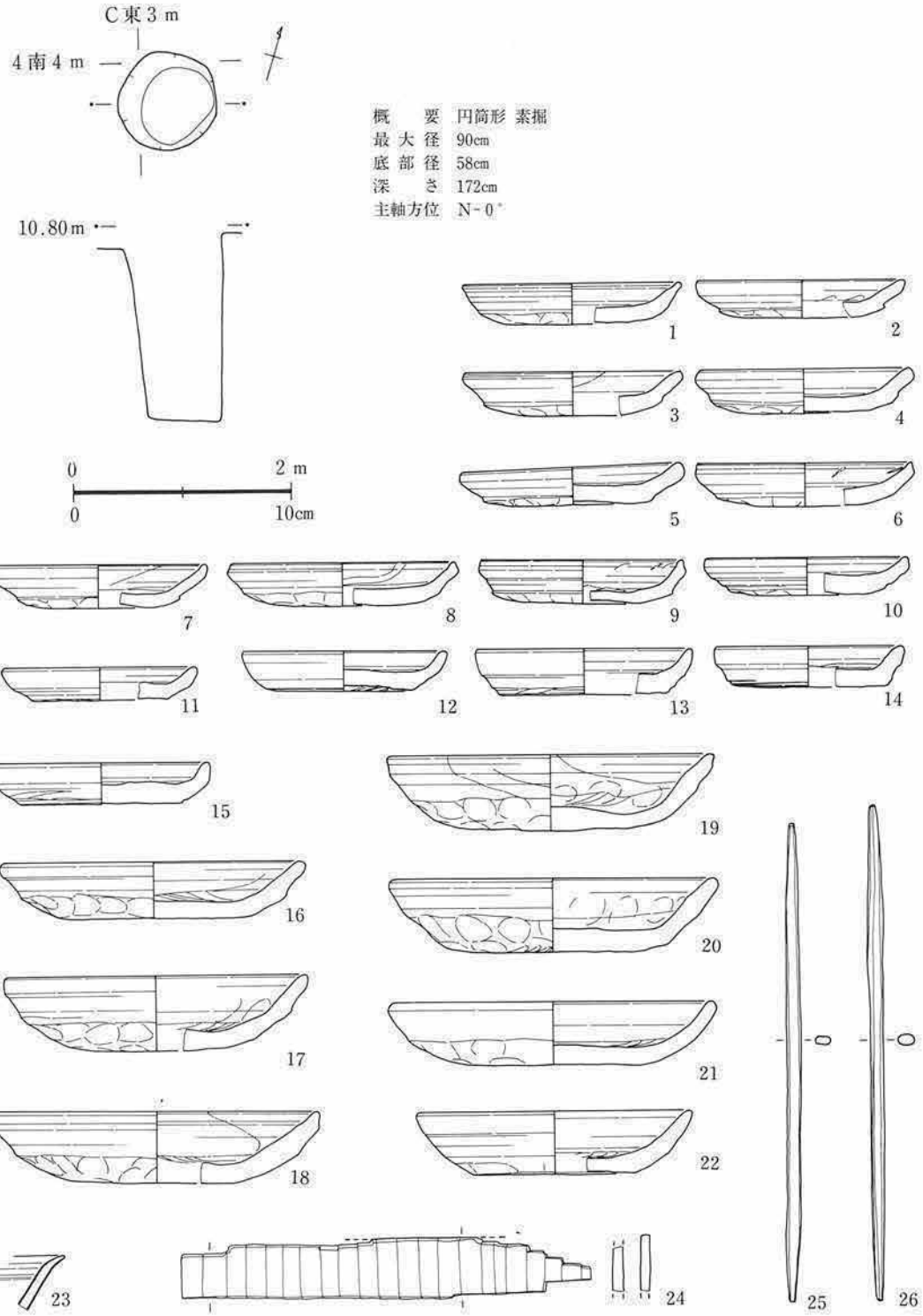


図52　井戸14・同出土遺物

34	砥　石	法量　長さ10.5cm　幅4.6cm　厚さ2.8cm　　産地　天草　　色調　灰色に赤灰色の縞 備考　中砥　4面とも砥面
35	砥　石	法量　(長さ4.7cm)　幅1.9cm　厚さ1.0cm　　産地　上野　　色調　灰緑色 備考　中砥　2面が砥面
36	硯	法量　(長さ5.3cm)　幅8.8cm　厚さ1.8cm　　成形　両面硯　擦痕有り　　石材　赤間石　　備考　墨付着　再加工途中
37	漆　器 椀	法量　口径17.8cm　底径7.8cm　　成形　内外面黒漆塗り　内面剝落　　文様　外面3ヶ所に朱塗りの手描き鶴丸文

表36　井戸13出土遺物観察表（3）

1	土師器	法量　口径10.0cm　底径8.4cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　小石粒含む、やや粗い　　色調　暗橙色　　焼成　良好
2	土師器	法量　口径9.6cm　底径5.8cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母含む　　色調　橙色　　焼成　良好
3	土師器	法量　口径9.8cm　底径4.6cm　器高2.0cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　ス ス付着 胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　　色調　暗橙褐色　　焼成　良好
4	土師器	法量　口径10.0cm　底径8.0cm　器高1.9cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母含む　　色調　灰橙色　　焼成　良好
5	土師器	法量　口径10.2cm　底径5.6cm　器高1.8cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
6	土師器	法量　口径9.8cm　底径5.4cm　器高2.0cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母含む、ややきめ細かい　　色調　橙色　　焼成　良好
7	土師器	法量　口径10.0cm　底径5.2cm　器高1.9cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　雲母、砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい　　色調　淡橙色　　焼成　良好
8	土師器	法量　口径10.6cm　底径5.5cm　器高1.9cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい　　色調　橙色　　焼成　良好
9	土師器	法量　口径9.4cm　底径5.5cm　器高2.1cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
10	土師器	法量　口径9.4cm　底径5.4cm　器高1.5cm　　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ 胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　　色調　灰橙色　　焼成　良好
11	土師器	法量　口径9.0cm　底径6.2cm　器高1.4cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　雲母、砂粒含む　　色調　灰橙色　　焼成　良好
12	土師器	法量　口径9.4cm　底径4.0cm　器高1.8cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い　　色調　橙褐色　　焼成　良好　　半完形

表37　井戸14出土遺物観察表（1）

13	土師器	法量　口径10.0cm　底径8.0cm　器高2.1cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　外縁下部ヘラ痕有り　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　色調　橙褐色　焼成　良好
14	土師器	法量　口径8.6cm　底径7.4cm　器高1.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒、小石、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好
15	土師器	法量　口径9.8cm　底径7.5cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
16	土師器	法量　口径14.0cm　底径8.5cm　器高2.6cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい　色調　灰色　焼成　良好
17	土師器	法量　口径14.0cm　底径6.0cm　器高3.4cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　砂粒、針状物質、雲母含む、ややきめ細かい　色調　灰褐色　焼成　良好
18	土師器	法量　口径14.7cm　底径7.2cm　器高3.3cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　砂粒、針状物質、雲母含む　色調　灰橙色　焼成　良好
19	土師器	法量　口径15.0cm　底径9.0cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　スス付着　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
20	土師器	法量　口径15.0cm　底径9.0cm　器高3.3cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　外底にスス付着　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　灰色　焼成　良好
21	土師器	法量　口径15.0cm　底径8.0cm　器高2.8cm　成形　手づくね　内底部、口縁部ナデ　胎土　砂粒、雲母含む、やや粗い　色調　灰橙色　焼成　良好
22	土師器	法量　口径12.6cm　底径7.4cm　器高2.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒、雲母、針状物質含む　色調　橙色　焼成　良好
23	白磁端反碗	法量　口径10.2cm　成形　ロクロ　素地　灰褐色、微気孔有り　釉薬　灰褐色透明　焼成　良好
24	曲物体部	法量　長さ18.7cm　幅2.8cm　厚さ0.5cm　成形　柾目　線刻有り（曲物裏面の曲げ易くするための刻みか？）
25	箸	法量　長さ21.9cm　幅0.7cm　厚さ0.4cm　両口
26	箸	法量　長さ22.7cm　幅0.7cm　厚さ0.5cm　両口

表38　井戸14出土遺物観察表（２）

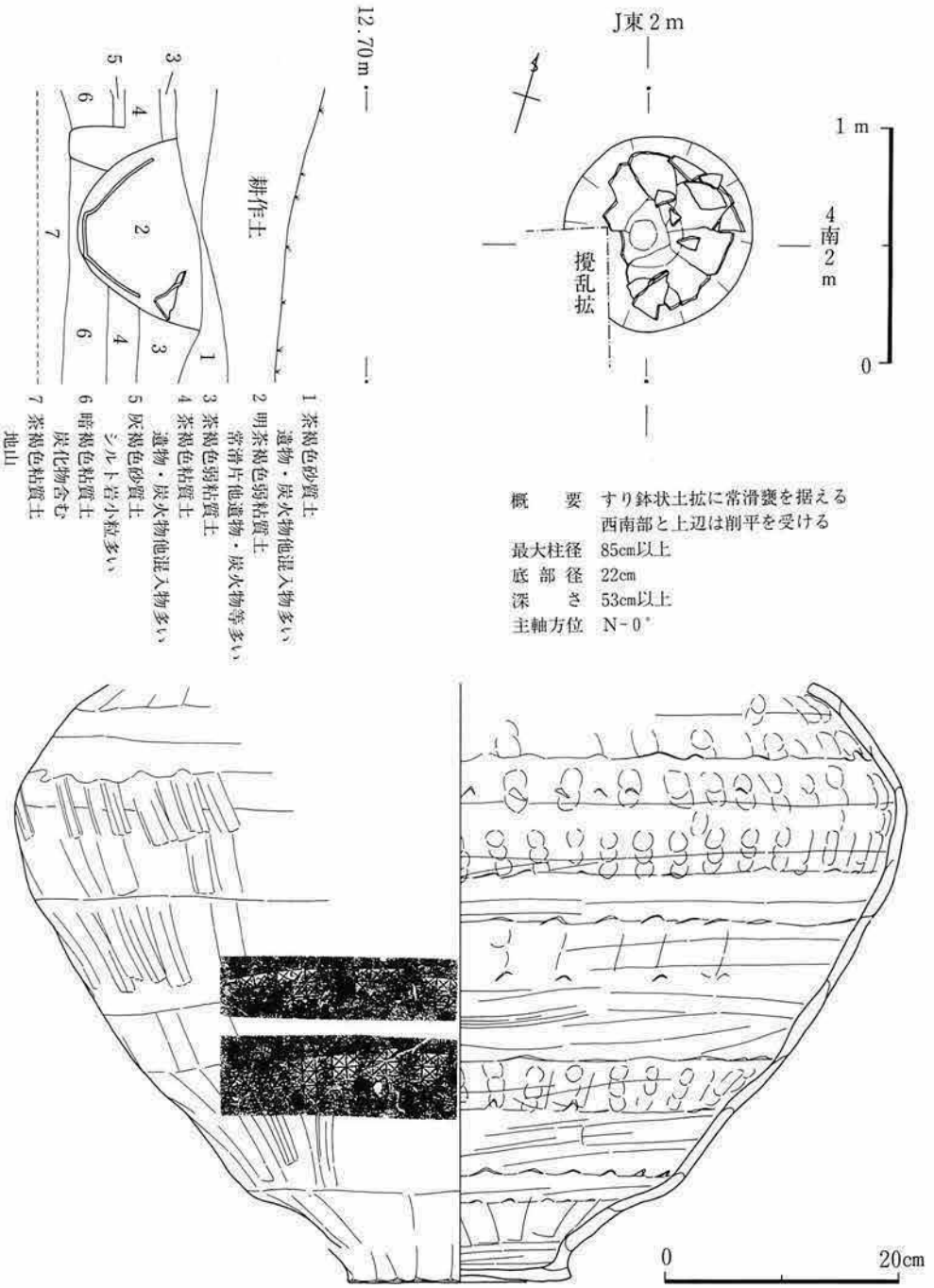
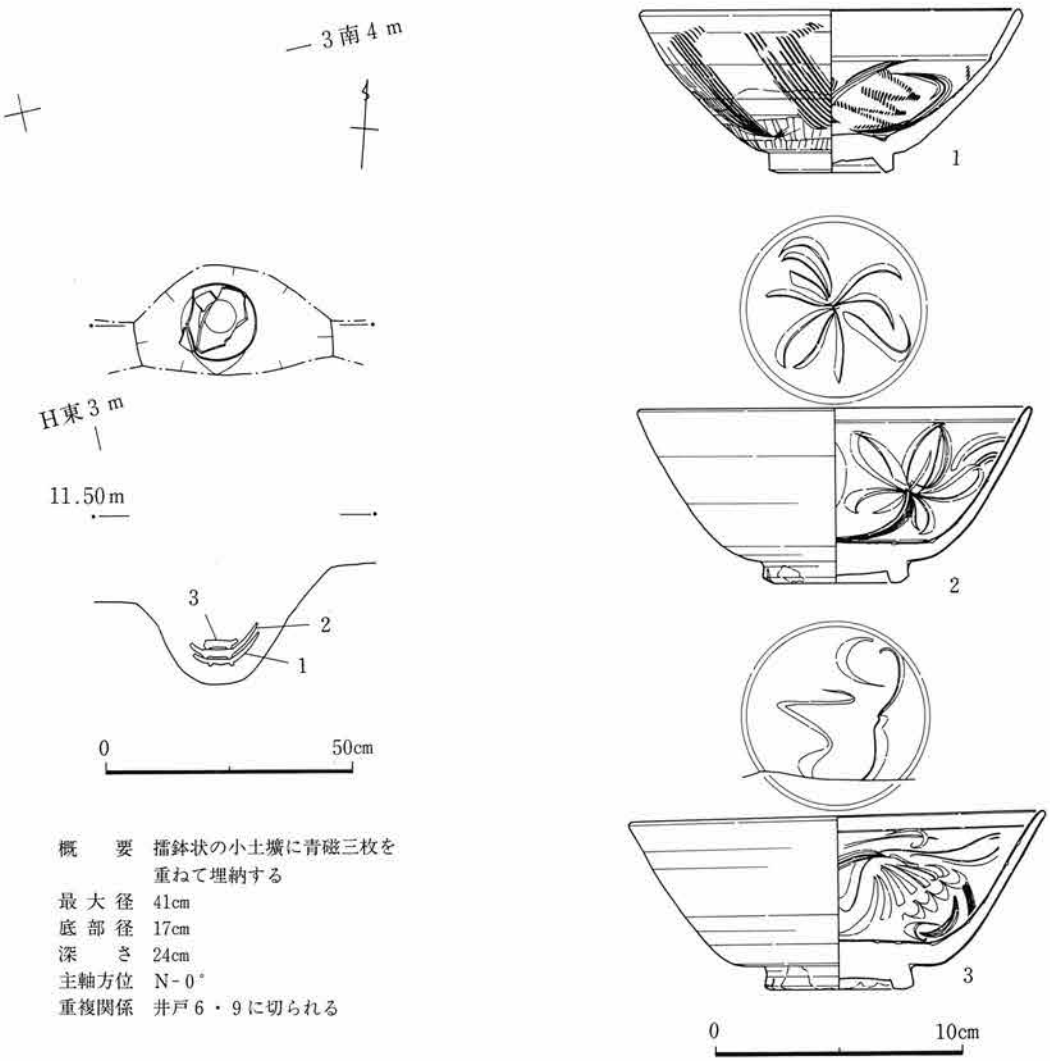


図53　据甕遺構・同出土遺物

1	常滑甕	法量　底径19.2cm　成形　輪積　外部縦方向ハケ目　内部指頭痕有り　文様　外面中位に2列の斜線文と格子文の組み合わせ連続叩き目文　胎土　小石、砂粒含む、気孔有り　色調　灰褐色　焼成　良好

表39　据甕遺構出土遺物観察表

図53　据甕遺構



概　　要　擂鉢状の小土壙に青磁三枚を重ねて埋納する
最 大 径　41cm
底 部 径　17cm
深　　さ　24cm
主軸方位　N-0°
重複関係　井戸6・9に切られる

図54　埋納遺構・同出土遺物

1	青　磁 同安窯系 碗	法量　口径15.6cm　底径5.0cm　器高6.5cm　　成形　左回転ロクロ　高台削り出し　内底部ナデ　　文様　内面上位に一重の沈線、その下にヘラ描きと櫛描き　外面櫛描き　　素地　灰色微気孔、砂粒含む、粘性有り　　釉薬　淡灰緑色透明　外面中位から高台、高台内露胎　　焼成　普通
2	青　磁 龍泉窯 碗	法量　口径16.0cm　底径6.0cm　器高7.0cm　　成形　左回転ロクロ　高台削り出し　　文様　内面ヘラ描き、蓮華文、三花三葉　　素地　灰色堅緻　　釉薬　灰緑色微気泡多く透明　内外面施釉　高台内露胎　　焼成　普通
3	青　磁 龍泉窯 碗	法量　口径16.4cm　底径6.0cm　器高7.0cm　　成形　左回転ロクロ　高台削り出し　　文様　内面ヘラ描き、蓮華文、三花三葉　　素地　灰白色堅緻　　釉薬　淡緑色透明　内外面施釉　高台内露胎　　焼成　普通

表40　埋納遺構出土遺物観察表

図54　埋納遺構

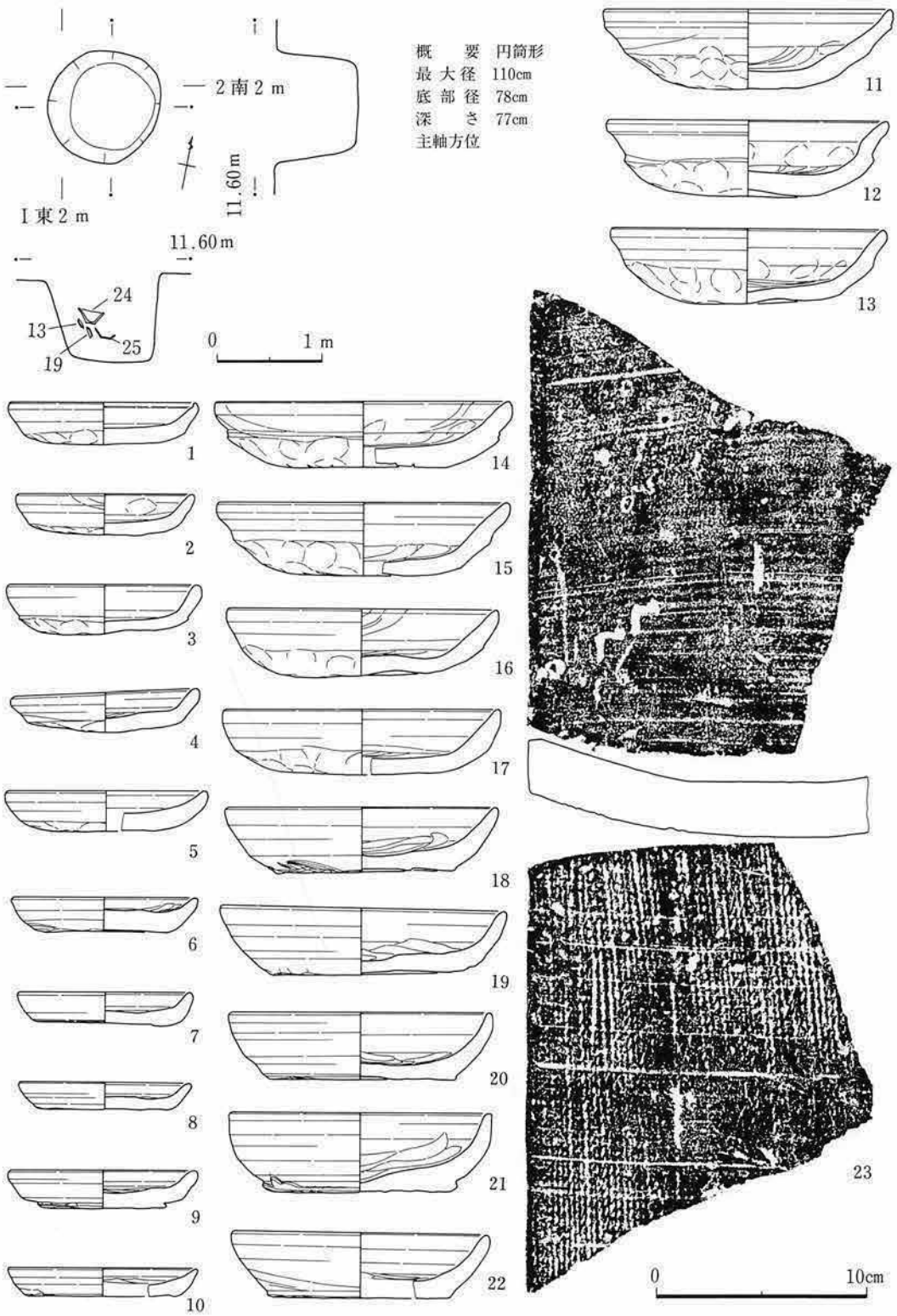


図55　土拡1・同出土遺物(1)

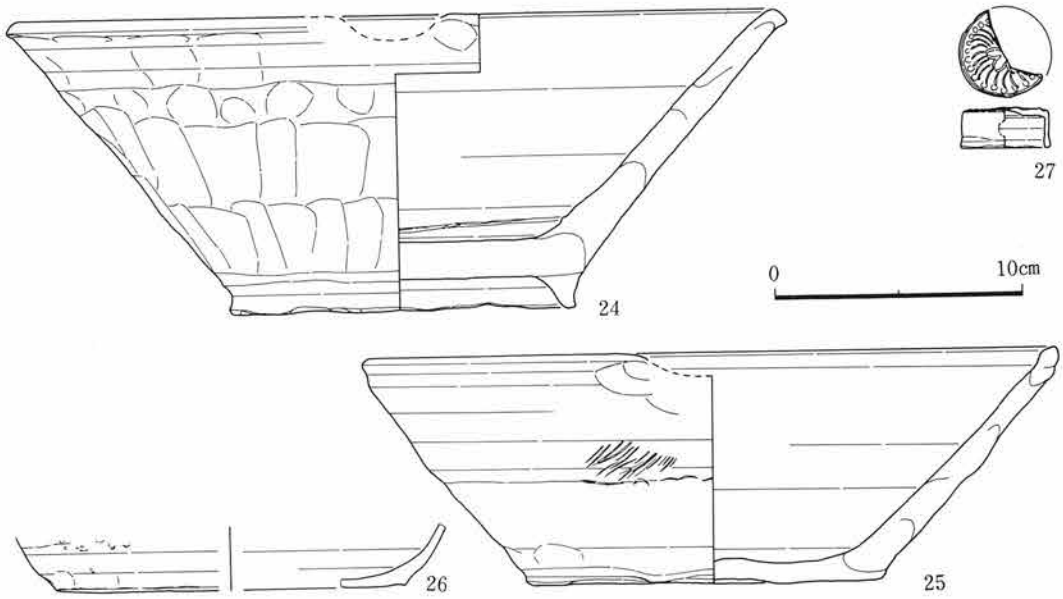


図56　土壙1出土遺物(2)

1	土師器	法量　口径9.0cm　底径4.9cm　器高2.0cm　成形　手づくね　内体部指頭痕有り　全体的に鉄分が付着　胎土　雲母、砂粒子、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
2	土師器	法量　口径8.5cm　底径3.1cm　器高1.9cm　成形　手づくね　内底部ナデ　胎土　灰色シルト岩粒、雲母、砂粒子含む　色調　灰褐色　焼成　良好
3	土師器	法量　口径9.3cm　底径4.5cm　器高2.3cm　成形　手づくね　胎土　砂粒子、雲母含む　色調　黄褐色　焼成　良好
4	土師器	法量　口径9.0cm　底径1.6cm　器高1.9cm　成形　手づくね　内底部中央に指頭痕　外体部に鉄分が付着　胎土　砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い　色調　灰褐色　焼成　良好　完形
5	土師器	法量　口径10.1cm　底径4.7cm　器高1.9cm　成形　手づくね　胎土　砂粒子、灰色シルト岩粒、雲母、針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好
6	土師器	法量　口径8.9cm　底径5.3cm　器高1.55cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　小石、砂粒子、針状物質含む、粗い　色調　赤褐色　焼成　良好　完形
7	土師器	法量　口径8.4cm　底径6.3cm　器高1.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　胎土　砂粒子、針状物質、雲母、小石含む、粗い　色調　橙色　焼成　良好　完形
8	土師器	法量　口径8.2cm　底径6.0cm　器高1.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い　色調　淡黄橙色　焼成　良好
9	土師器	法量　口径9.05cm　底径6.1cm　器高1.85cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　胎土　針状物質、赤色粒子、砂粒、雲母含む　色調　灰褐色　焼成　良好

表41　土壙1出土遺物観察表（1）

図56　土壙1（2）

10	土師器	法量　口径9.0cm　底径7.1cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り 胎土　針状物質、砂粒含む　色調　灰褐色　焼成　良好
11	土師器	法量　口径13.8cm　底径4.3cm　器高3.8cm　成形　手づくね　内底部ナデ　胎土 針状物質、砂粒子、雲母含む　色調　橙色　焼成　良好
12	土師器	法量　口径13.5cm　底径4.7cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内底部ナデ　内体部指 頭痕有り　口縁部スス付着　胎土　針状物質、砂粒子、雲母含む　色調　灰褐色 焼成　良好
13	土師器	法量　口径13.0cm　底径5.5cm　器高3.1cm　成形　手づくね　胎土　針状物質、 砂粒子、小石、雲母含む　色調　橙色　焼成　良好
14	土師器	法量　口径14.2cm　底径7.3cm　器高3.1cm　成形　手づくね　内底部指頭痕有り　内 外同位置に指をぬいた跡有り　胎土　針状物質、砂粒子、雲母含む　色調　淡黄褐 色　焼成　良好
15	土師器	法量　口径14.0cm　底径5.8cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部ナデ　指頭痕ア リ　内底部中央にスス付着　胎土　雲母、針状物質、砂粒子含む　色調　淡橙褐色 焼成　良好
16	土師器	法量　口径13.2cm　底径6.0cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内外面スス付着 胎土　砂粒子、針状物質、雲母含む　色調　淡橙色　焼成　良好
17	土師器	法量　口径13.3cm　底径6.7cm　器高3.2cm　成形　手づくね　内底部ナデ　内体部指 頭痕有り　胎土　雲母、針状物質、砂粒子含む　色調　淡橙褐色　焼成　良好
18	土師器	法量　口径13.0cm　底径8.4cm　器高3.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底 部強いナデ　胎土　灰色シルト岩粒、砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い　色 調　淡黄褐色　焼成　良好
19	土師器	法量　口径13.5cm　底径8.8cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り、スノ コ痕有り　内底部強いナデ　胎土　砂粒子、針状物質、雲母、小石含む　色調 淡茶褐色　焼成　良好　半完形
20	土師器	法量　口径12.2cm　底径8.8cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り、スノ コ痕有り　胎土　砂粒子、針状物質、雲母、小石含む、粗い　色調　橙色　焼 成　良好　半完形
21	土師器	法量　口径12.5cm　底径7.8cm　器高3.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底 部ナデ　指頭痕有り　胎土　砂粒子、雲母、針状物質、灰色シルト岩粒含む　色調 灰褐色　焼成　良好
22	土師器	法量　口径12.3cm　底径8.7cm　器高3.15cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り 胎土　針状物質、雲母、赤色粒子含む　色調　灰褐色　焼成　良好
23	平　瓦	法量　長さ21.5cm　厚さ2.5cm　成形　凸面糸切り、縄目　凹面糸切り一部鉄分付着 胎土　須恵質、砂粒含む　色調　淡灰色
24	山茶碗窯系 こね鉢	法量　口径30.6cm　底径13.8cm　器高12.0cm　成形　輪積　高台貼り付け　外面部口縁 ナデ以下ヘラ削り　内側面ナデ　内底部に重ね焼跡有り　口縁に降灰　胎土　砂、砂粒 子含む　色調　外側暗褐色　内側明灰色　焼成　普通
25	常　滑 こね鉢	法量　口径27.8cm　底径13.6cm　器高10.2cm　成形　輪積　内外面、口縁ナデ　内面に 降灰　外体部に重ね焼跡有り　胎土　砂、砂粒子含む　色調　赤褐色　焼成 普通

表42　土壙１出土遺物観察表（２）

26	黄　釉 盤	法量　底径14.1cm　　成形　輪積　内面黄釉の白濁有り　　素地　淡灰色、砂、砂粒子、針状物質含む、やや粗い　　釉薬　淡黄褐色　　焼成　普通
27	青白磁 梅瓶　蓋	法量　上部径3.4cm　下部径3.6cm　器高1.6cm　　成形　外面型押し、端部を残し釉がかかる　内面削りこみ　　文様　上部に菊花文　　素地　灰白色、砂粒子含む　　釉薬　淡青色　　焼成　良好

表43　土壙１出土遺物観察表（３）

1	土師器	法量　口径9.45cm　底径6.7cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土　針状物質、微砂粒含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好　　完形
2	土師器	法量　口径9.9cm　底径7.5cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　口縁部強いナデ　胎土　針状物質、砂粒含む、粗い　　色調　灰褐色　　焼成　良好　　完形
3	土師器	法量　口径10.4cm　底径6.0cm　器高1.85cm　　成形　手づくね　口縁部強いナデ　胎土　砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い　　色調　灰橙色　　焼成　良好
4	土師器	法量　口径10.7cm　底径6.0cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土　砂粒、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
5	土師器	法量　口径9.9cm　底径6.0cm　器高1.9cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土　砂粒、小石、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好　　完形
6	土師器	法量　口径9.8cm　底径7.2cm　器高1.3cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　　胎土　砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い　　色調　灰褐色　　焼成　良好
7	土師器	法量　口径9.6cm　底径7.2cm　器高1.6cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　　胎土　砂粒含む、やや粗い　　色調　橙色　　焼成　良好　　完形
8	土師器	法量　口径9.3cm　底径7.5cm　器高1.8cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　口縁部ナデ　粗雑　　胎土　砂粒、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好 備考　線状カキ傷有り　　完形
9	土師器	法量　口径14.7cm　底径8.0cm　器高2.6cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土　針状物質、微砂粒含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
10	土師器	法量　口径14.6cm　底径7.0cm　器高3.4cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　小石、砂粒、針状物質含む、やや粗い　　色調　灰橙色　　焼成　良好
11	土師器	法量　口径15.6cm　底径10.0cm　器高3.6cm　　成形　手づくね　口縁部強いナデ　胎土　砂粒、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
12	土師器	法量　口径14.6cm　底径6.5cm　器高3.6cm　　成形　手づくね　口縁部強いナデ　胎土　砂粒、針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
13	土師器	法量　口径14.8cm　底径9.0cm　器高3.2cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　内外面強い横ナデ　スノコ痕有り　　胎土　砂粒、小石含む、やや粗い　　色調　灰橙色　　焼成　良好
14	土師器	法量　口径14.5cm　底径8.8cm　器高3.4cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　口縁部強い横ナデ　　胎土　砂粒、小石、針状物質含む、気孔有り、やや粗い　　色調　灰橙色　　焼成　良好

表44　土師器溜り１出土遺物観察表（１）

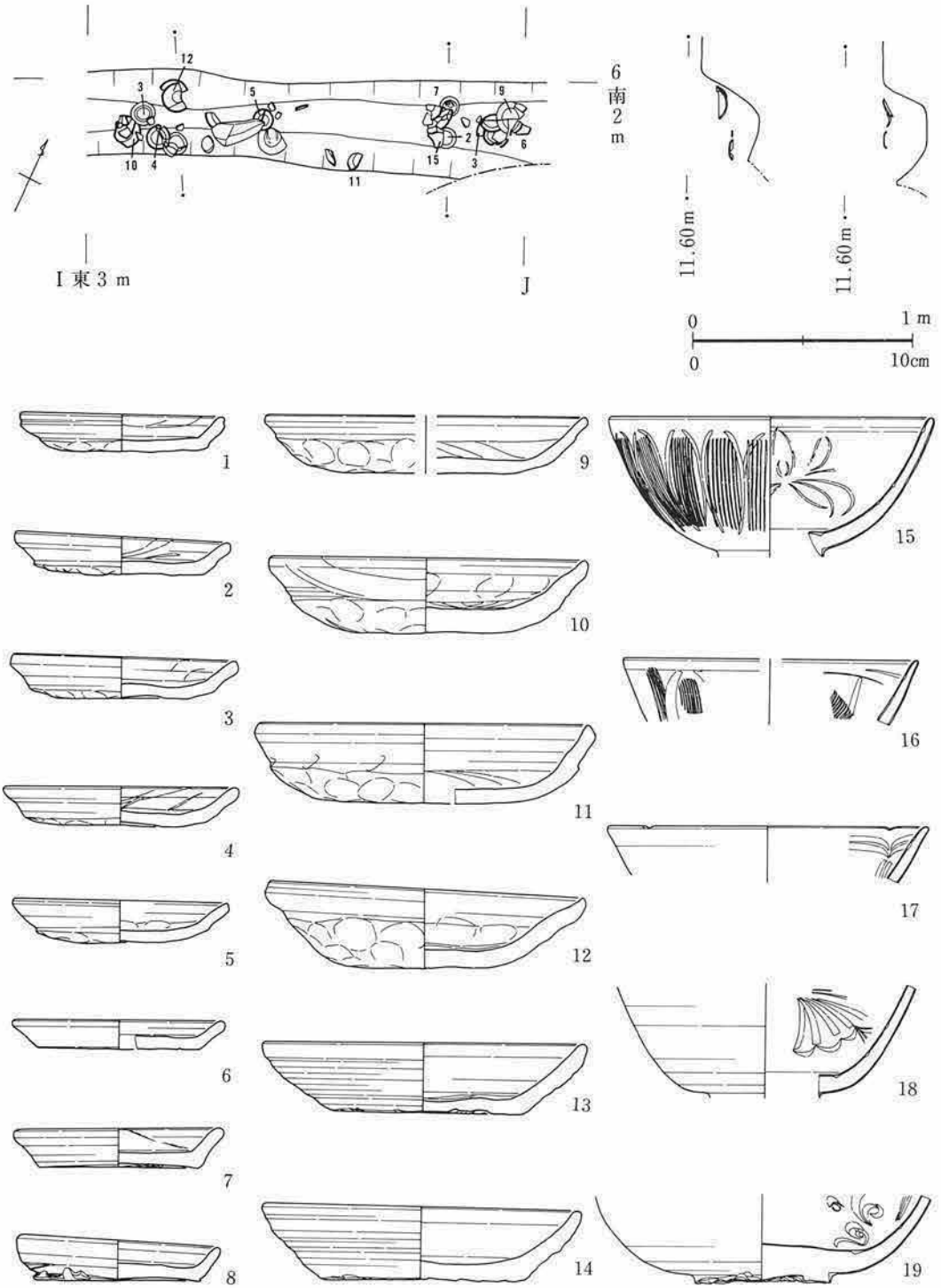


図57　土師器溜り 1（溝25上層）・同出土遺物

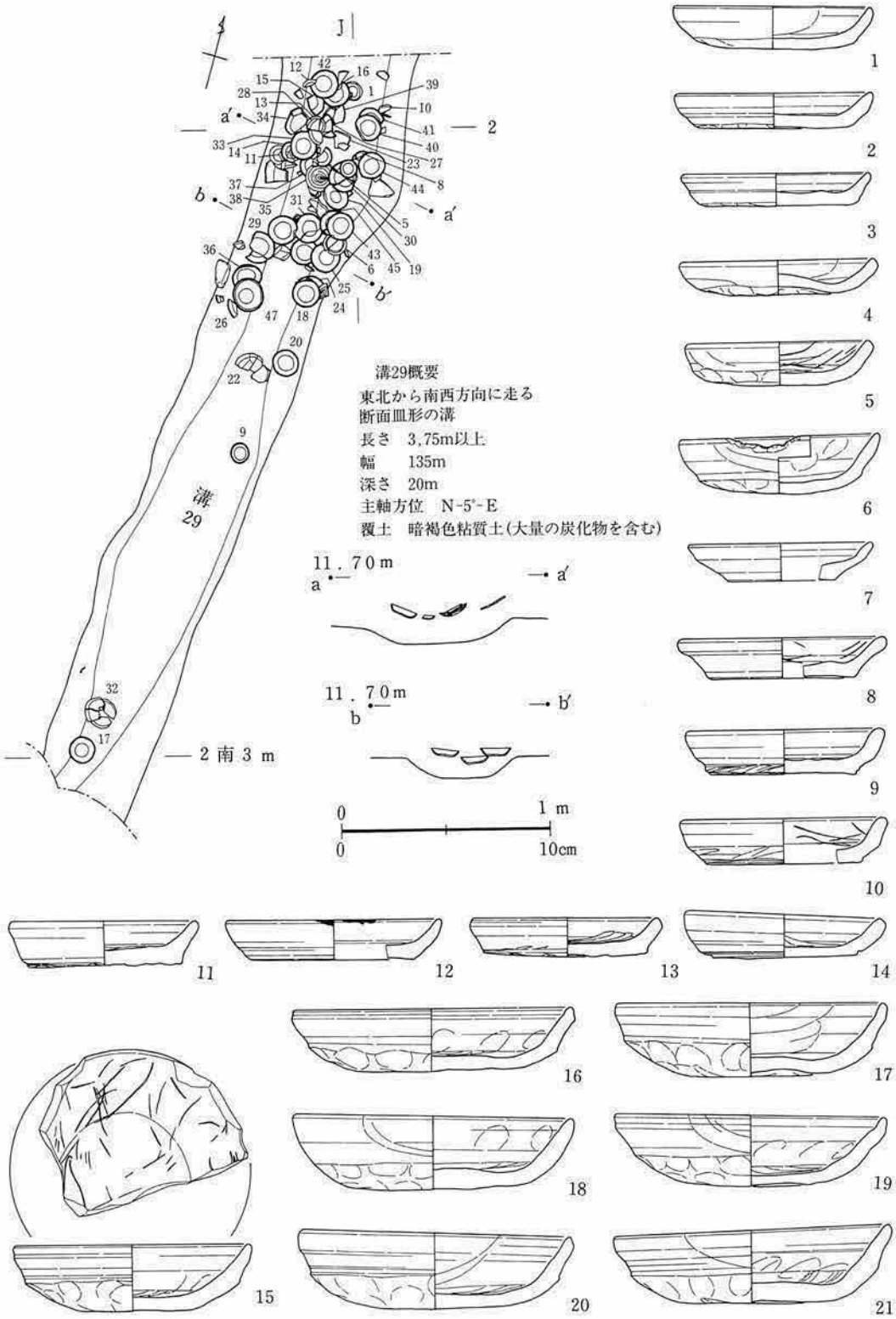


図58　土師器溜り2・同出土遺物(1)

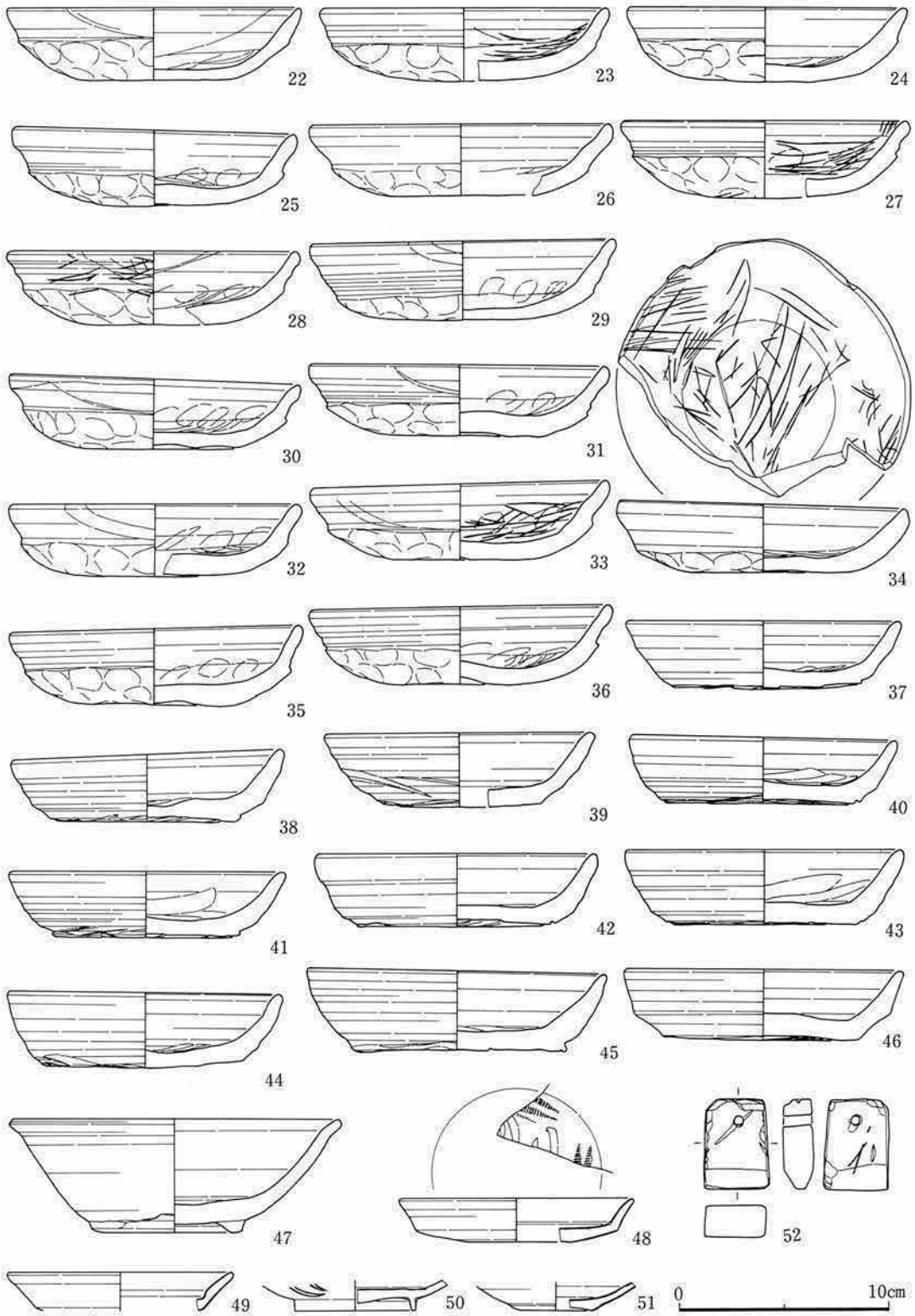


図59　土師器溜り 2 出土遺物(2)

15	青　磁 龍泉窯　碗	法量　口径13.8cm　　成形　ロクロ　　文様　体部外面縞蓮弁　　素地　灰褐色、微気孔有り　　釉薬　灰緑色透明　内外面施釉　　焼成　良好
16	青　磁 龍泉窯　碗	法量　口径13.4cm　　成形　ロクロ　　文様　体部外面縞蓮弁　内面櫛描き文　　素地　灰色　　釉薬　淡灰青色透明　内外面施釉　　焼成　良好
17	青　磁 龍泉窯　碗	法量　口径14.6cm　　成形　ロクロ　口縁輪花　　文様　体部内面ヘラ描き文　　素地　灰色、堅緻　　釉薬　淡褐色透明　内外面施釉　　焼成　良好
18	青　磁 龍泉窯　碗	成形　ロクロ　　文様　体部内面片切り彫りの蓮花　　素地　暗灰色　　釉薬　灰緑色透明　内外面施釉　　焼成　良好
19	青　磁 龍泉窯　碗	法量　底径6.4cm　　成形　ロクロ　高台内ヘラ削り　高台を打ち欠く　　文様　内体部ヘラ描きの飛雲文　　素地　灰白色、気孔若干、堅緻　　釉薬　青緑色透明　内外面施釉　高台内露胎　　焼成　良好

表45　土師器溜り1出土遺物観察表（2）

1	土師器	法量　口径9.7cm　底径7.0cm　器高1.8cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　　胎土　砂粒，雲母含む　　色調　灰橙褐色　　焼成　良好
2	土師器	法量　口径9.6cm　底径7.0cm　器高1.6cm　　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　小石，針状物質含む　　色調　橙褐色　　焼成　良好
3	土師器	法量　口径9.2cm　底径6.8cm　器高1.5cm　　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　ス ス付着　　胎土　小石，砂粒，針状物質含む　　色調　橙褐色　　焼成　良好　　備考　二次焼成の痕有り
4	土師器	法量　口径9.6cm　底径5.2cm　器高1.7cm　　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　　色調　淡橙色　　焼成　良好　　半完形
5	土師器	法量　口径9.4cm　底径4.1cm　器高2.0cm　　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　小石，砂粒，針状物質含む，ややきめ細かい　　色調　淡橙色　　焼成　良好　　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
6	土師器	法量　口径9.8cm　底径3.0cm　器高2.7cm　　成形　手づくね　口縁部ナデ　ス ス付着　　胎土　小石，針状物質含む　　色調　灰褐色　　焼成　良好
7	土師器	法量　口径8.8cm　底径5.2cm　器高1.8cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　　胎土　砂粒，針状物質含む　　色調　淡橙色　　焼成　良好
8	土師器	法量　口径10.0cm　底径7.2cm　器高2.0cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　　胎土　砂粒，針状物質含む，粗い　　色調　淡褐色　　焼成　良好
9	土師器	法量　口径9.6cm　底径7.0cm　器高2.2cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　スノコ痕有り　　胎土　針状物質，砂粒含む　　色調　灰橙褐色　　焼成　良好　　完形
10	土師器	法量　口径10.0cm　底径7.4cm　器高2.15cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　胎土　針状物質，小石，砂粒含む，やや粗い　　色調　淡褐色　　焼成　良好
11	土師器	法量　口径9.1cm　底径7.3cm　器高2.2cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　砂粒，小石含む，やや粗い　　色調　淡褐色　　焼成　良好
12	土師器	法量　口径10.6cm　底径7.6cm　器高1.9cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　ス ス付着　　胎土　針状物質，砂粒，雲母含む　　色調　灰橙褐色　　焼成　良好
13	土師器	法量　口径9.3cm　底径7.7cm　器高1.8cm　　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　　胎土　針状物質，砂粒，橙粒子含む　　色調　橙褐色　　焼成　良好

表46　土師器溜り2出土遺物観察表（1）

14	土師器	法量　口径9.8cm　底径7.2cm　器高2.0cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　小石，砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
15	土師器	法量　口径11.5cm　底径6.0cm　器高3.2cm　成形　手づくね　指頭痕有り　口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
16	土師器	法量　口径13.6cm　底径8.0cm　器高3.0cm　成形　手づくね　指頭痕有り　内底部，口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒，雲母含む，ややきめ細かい　色調　灰橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
17	土師器	法量　口径13.0cm　底径7.5cm　器高3.5cm　成形　手づくね　指頭痕有り　内底部，口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好
18	土師器	法量　口径13.6cm　底径7.0cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　砂粒，針状物質含む，ややきめ細かい　色調　橙色　焼成　良好　完形
19	土師器	法量　口径13.1cm　底径4.5cm　器高3.4cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　小石，砂粒，針状物質含む　色調　淡褐色　焼成　良好
20	土師器	法量　口径13.2cm　底径5.0cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　スス付着　胎土　針状物質，小石含む　色調　橙褐色　焼成　良好　完形
21	土師器	法量　口径13.4cm　底径6.0cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　砂粒，小石含む，ややきめ細かい　色調　淡褐色　焼成　良好　備考　内面ひ引っ掻き傷多数有り　完形
22	土師器	法量　口径14.0cm　底径7.0cm　器高3.4cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　スス付着　胎土　針状物質含む，きめ細かい　色調　褐色　焼成　良好
23	土師器	法量　口径14.0cm　底径4.6cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　砂粒，針状物質含む，ややきめ細かい　色調　灰褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
24	土師器	法量　口径13.6cm　底径5.0cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒，小石含む，やや粗い　色調　淡橙色　焼成　良好
25	土師器	法量　口径13.6cm　底径4.4cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　スス付着　胎土　砂粒，小石，針状物質含む，やや粗い　色調　淡褐色　焼成　良好　完形
26	土師器	法量　口径14.6cm　底径6.7cm　器高3.3cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒，小石含む　色調　橙色　焼成　良好
27	土師器	法量　口径13.8cm　底径7.5cm　器高3.7cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
28	土師器	法量　口径14.0cm　底径8.0cm　器高3.5cm　成形　手づくね　口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　備考　口縁外部に引っ掻き傷多数有り
29	土師器	法量　口径14.8cm　底径5.8cm　器高3.8cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　スス付着　外底部に条痕有り　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
30	土師器	法量　口径14.4cm　底径7.2cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　外底部に条痕有り　胎土　針状物質，小石，砂粒含む，やや粗い　色調　淡褐色　焼成　良好
31	土師器	法量　口径14.4cm　底径7.2cm　器高3.5cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　外底部に条痕有り　スス付着　胎土　小石，砂粒，針状物質含む　色調　灰褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り　半完形
32	土師器	法量　口径14.0cm　底径8.0cm　器高3.4cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　外底部に指頭痕と条痕有り　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好

表47　土師器溜り2出土遺物観察表（2）

33	土師器	法量　口径14.4cm　底径8.0cm　器高3.6cm　成形　手づくね　指頭痕有り　内底部，口縁部ナデ　ス ス付着　外底部に糸痕有り　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
34	土師器	法量　口径16.6cm　底径9.0cm　器高3.2cm　成形　手づくね　指頭痕有り　内底部，口縁部ナデ　胎土　針状物質，砂粒含む　色調　灰橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
35	土師器	法量　口径14.2cm　底径6.3cm　器高3.6cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　外底部に糸痕有り　胎土　小石，砂粒含む　色調　淡褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷有り
36	土師器	法量　口径14.6cm　底径5.5cm　器高3.7cm　成形　手づくね　内底部，口縁部ナデ　ス ス付着　外底部に糸痕有り　胎土　針状物質，砂粒，小石含む　色調　橙褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り
37	土師器	法量　口径13.2cm　底径9.8cm　器高3.3cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　小石，砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷多数有り　完形
38	土師器	法量　口径13.1cm　底径8.9cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　ス ス付着　胎土　小石，砂粒，針状物質含む　色調　淡褐色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷有り　完形
39	土師器	法量　口径13.0cm　底径8.2cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　針状物質，小石，砂粒含む　色調　淡橙色　焼成　良好　備考　内面に引っ掻き傷有り
40	土師器	法量　口径12.8cm　底径9.4cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　外面下部にナデ　外底周縁に深い条痕が巡る　スノコ痕有り　胎土　小石，砂粒，針状物質含む，やや粗い　色調　淡橙色　焼成　良好
41	土師器	法量　口径13.4cm　底径8.8cm　器高3.2cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　小石，砂粒，針状物質含む　色調　淡橙色　焼成　良好
42	土師器	法量　口径13.6cm　底径9.2cm　器高3.5cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　外底周縁に深い条痕が巡る　スノコ痕有り　胎土　針状物質，粗砂含む　色調　淡橙色　焼成　良好　完形
43	土師器	法量　口径13.4cm　底径9.0cm　器高3.55cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　外底周縁に深い条痕が巡る　スノコ痕有り　胎土　針状物質，粗砂含む，やや粗い　色調　灰橙色　焼成　良好　半完形
44	土師器	法量　口径13.1cm　底径9.5cm　器高3.7cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　小石，砂粒含む，粗い　色調　橙色　焼成　良好　完形
45	土師器	法量　口径14.3cm　底径10.0cm　器高3.8cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　外面下位にナデ　外底周縁に深い条痕が巡る　スノコ痕有り　胎土　針状物質，粗砂含む，やや粗い　色調　灰褐色　焼成　良好
46	土師器	法量　口径13.4cm　底径9.3cm　器高3.4cm　成形　ロクロ　外底部回転糸切り　内底部ナデ　スノコ痕有り　胎土　砂粒，小石含む，やや粗い　色調　明灰褐色　焼成　良好　半完形
47	山茶碗	法量　口径15.9cm　底径7.25cm　器高5.45cm　成形　ロクロ　高台貼り付け　胎土　砂粒，小石含む，やや粗い　色調　暗灰色　焼成　良好　完形
48	青　磁 同安窯系皿	法量　口径11.2cm　器高1.9cm　成形　ロクロ　文様　内底面櫛描き画花文　素地　灰白色，徴気孔有り　釉薬　灰緑色透明　外底面露胎　焼成　良好
49	青　磁 同安窯系皿	法量　口径10.6cm　（器高1.8cm）　成形　ロクロ　素地　灰白色，精緻，徴気孔有り　釉薬　緑褐色透明　焼成　良好
50	青白磁 碗	法量　底径5.8cm　成形　ロクロ　高台削り出し　文様　外面画花文　素地　白色，緻密，徴気孔有り　釉薬　青白色透明　焼成　良好
51	青白磁 皿	法量　底径3.6cm　成形　ロクロ　外底面に目痕　素地　白色，精緻，徴気孔有り　釉薬　青白色透明　外底面露胎　焼成　良好
52	砥　石	法量　長さ4.3cm　幅3.0cm　厚さ1.5cm　産地　上野　色調　黄褐色　備考　4面とも砥面　上部に穿孔有り　上部木口に穿孔を試みた孔有り　携帯用か

表48　土師器溜り2出土遺物観察表（3）

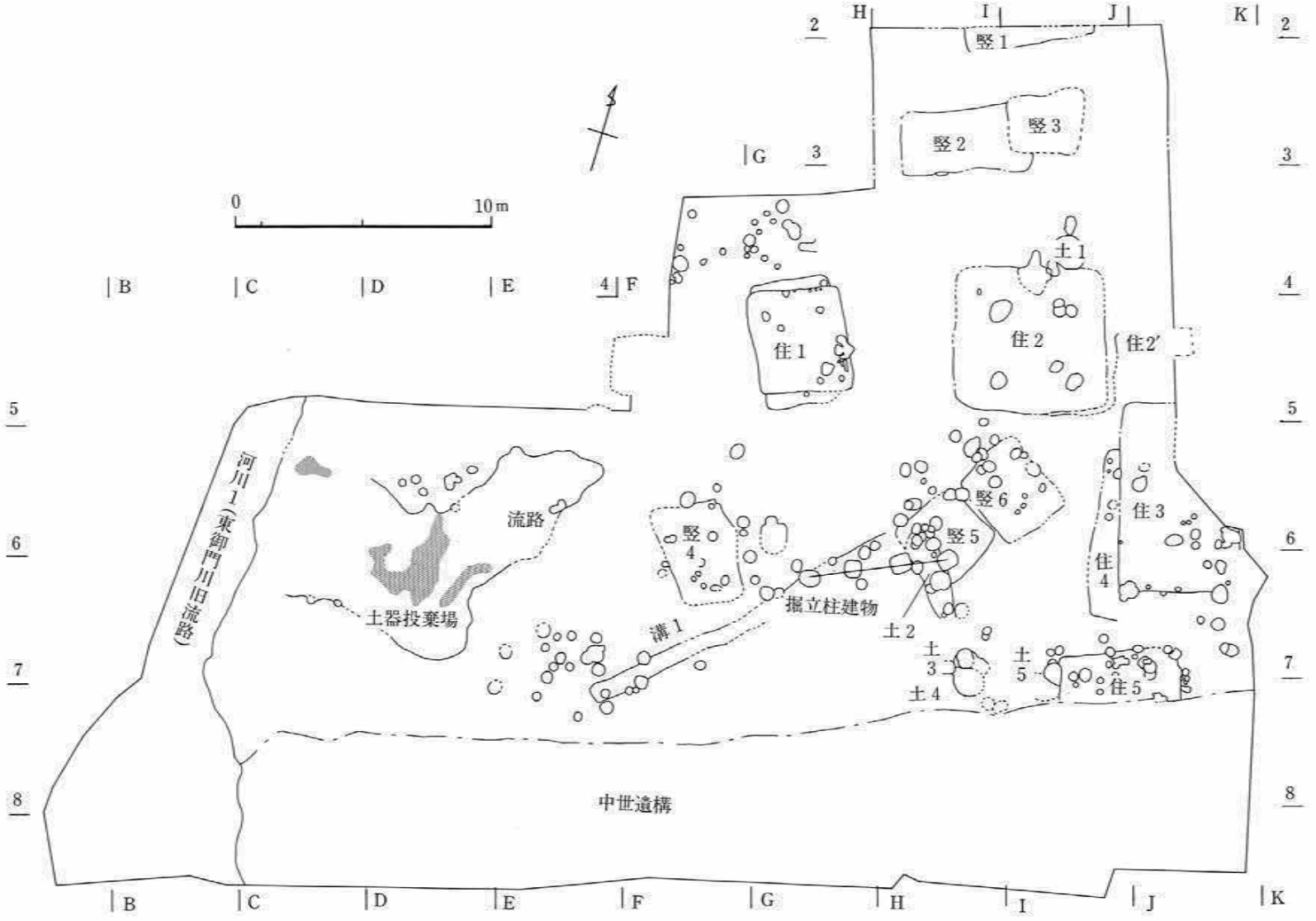


図60　原始・古代遺構配置図

第四章　まとめ

第三章に示されたように、本発掘調査では遺構・遺物とも非常に良好な資料が得られた。しかしながら、本報の対象範囲は国庫補助分の調査であり、総括的考察は原始・古代遺構を始め、原因者負担分の調査をも併せた全体の成果を俟たねばならない。そこでここでは、検出遺構のうち特に鎌倉時代前期の井戸を中心に、良好な一括遺物の得られたものについて、およそ四半世紀ごとの年代観を提示するにとどめておく。その詳細な根拠については、追って刊行する予定の総括報告書に委ねたい。ここで得られた良好な資料は、従来の当地における土師器の年代観に影響を及ぼさずにいないであろう。

なおこの年代観は、主として京都における手捏ね土師器（以下土師器T種と呼ぶ）の編年に拠っているが、言うまでもなくそれは筆者が、当該期のT種について――そしておそらくロクロ成形品（R種）についても――京都における展開と東日本におけるそれとが、よく照応すると考えるからである。年代を求める際には、富山大学宇野隆夫・(財) 大阪文化財センター鋤柄俊夫両氏から、平安京の年代観を基盤にした有益なご教示を得た。また（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター松本建速氏からは、平泉におけるT種の展開についてお教えいただいた。厚く御礼申し上げる。

12世紀第4四半期――柱穴列1・井戸6・井戸9・井戸14・土師器溜り1・2

13世紀第1四半期――井戸4

13世紀第2四半期――井戸12・土壙1・井戸5

13世紀後半――井戸8

14世紀前半――井戸10・井戸11

14世紀中葉～後半――井戸7

16世紀前半――井戸1・井戸13

とりあえず以上のように考える。13世紀後半以降の細分については総括報告の際に試みたい。

ところで基本的な疑問として、モノの歴史的変化をたどるに当たり、何故近代以降に導入された区分概念である四半世紀で分けるのか、ということがある。筆者とてその疑問を感じないわけではないが、社会変化を背景とした明白な画期を設定するまでの、あくまで暫定措置に過ぎない。いずれにしても、調査地点の変遷やその性格などと併せ、詳細な考察は総括報告書までいま少し待っていただきたい。

原始・古代について今回は詳しく紹介できなかったが、遺構全図（付図2）と同配置図（図60）を掲載したので参照されたい。

大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄38番１）の花粉化石

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

１．はじめに

先に報告した大倉幕府周辺遺跡群（雪ノ下字大倉耕地565番４地点）では主に鎌倉時代初期の遺跡周辺の植生が示された(鈴木　1991ｂ)。今回の二階堂字荏柄38番１地点においては古代の住居跡や12世紀末～14世紀頃にかけてと近世と考えられている溝状遺構などが検出されており、これらの堆積物から花粉化石を抽出することにより古代から近世にかけての遺跡周辺における植生変遷を明らかにすることが出来ると考える。以上の観点から下記に示した３地点において花粉分析を行った。

２．試料と方法

花粉分析用試料は古代の住居跡覆土を最上部にのせる井戸６（３Ｈグリッド）の南壁より７点、奈良・平安時代の覆土を上部にのせる井戸４（５Ｊグリッド）の南壁より６点、および調査区東壁セクション（溝状遺構）より５点の計18試料が採取された（図１・２）。遺跡内におけるこれら３地点の位置については遺跡の章を参照して頂き、以下にそれらの土層記載を若干示す。なお図１に示した層位番号は便宜的につけたものであり、また図２の層位番号については資料として頂いたセクション図に示されていたものを使用した。

１）井戸６（試料№１～７）：Ⅰ層（古代の住居跡覆土）は黒褐色の粘土～シルトで赤褐色の酸化鉄が糸状に多量にみられる。また黄色の砂塊（径３㎜前後）が点在している。Ⅱ層は暗黄灰色砂質粘土～シルトで、上部ほど黄色（砂）が強い。赤褐色の酸化鉄が管状に多く入り、黒褐色粘土が塊あるいは斑紋状にみられる。Ⅲ層は黒～黒灰色の泥炭質粘土で、やや多孔質である。上部34cmは全体に白色粒子（径１㎜以下）が散在しており、上位との境界部に赤褐色の酸化鉄が集積している。また下部には赤色スコリアが点在する白色テフラ（脱色したスコリア）層が３枚認められるが、現在のところ他地域との対応関係やそれらの降下年代については不明である。Ⅳ層は青灰色砂質粘土からシルトであるが、上部４cmの多くは暗灰青色で、赤褐色の酸化鉄が集積し固くしまっている。Ⅴ層は青灰色の細粒砂であるが、シルト分が多く含まれている。Ⅵ層は黒灰青色の砂質シルトで、柔らかく、北側に向かい薄くなり途絶える。Ⅶ層は青色の砂レキ層で、レキは砂岩や泥岩塊(土丹)が認められた。また本層には黒褐色の有機質シルトがレンズ状、ラミナ状、塊状にみられ（上部10cmは特に多い)、北側には材片とともに植物遺体密集層が観察される。

２）井戸４（試料№８～13）：Ⅷ層（奈良・平安時代の覆土）は黒褐色のシルトで、赤褐色の酸化鉄が斑紋状に集積している。最大径10㎜の黄色砂塊が散在し(下部に多い)、最大径11㎜の土丹片や土器片がみられる。Ⅸ層は黒灰色の泥炭質粘土で、赤褐色の酸化鉄が根状に発達している。中・下部において脱色したスコリアが層状に散在し、それらが３枚認められる（最下部には赤色スコリアが点在している)。これらは井戸６のⅢ層にみられるスコリア層に対応するものと思われる。Ⅹ層は

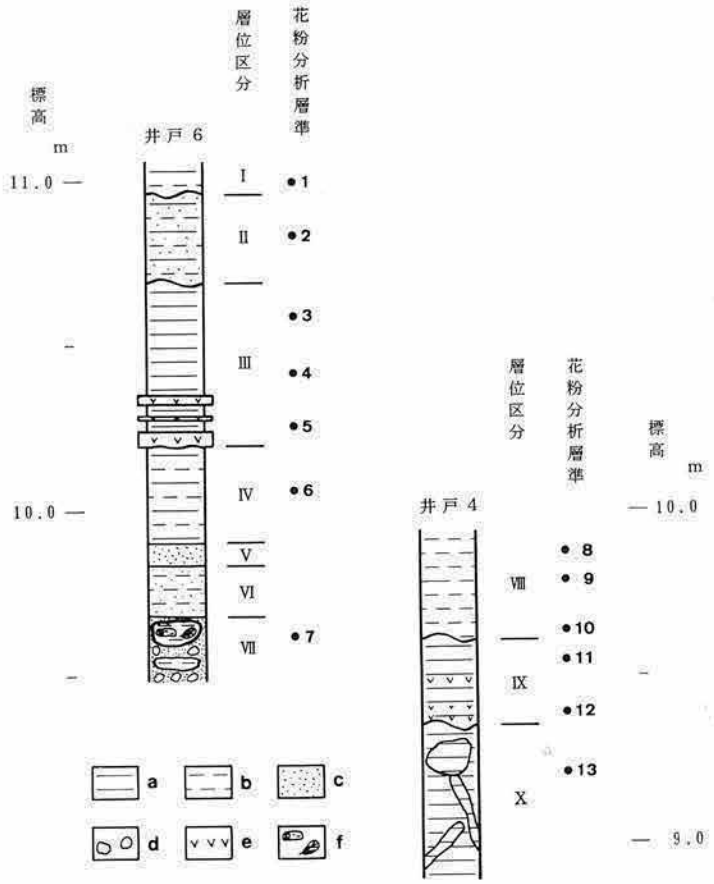


図1　井戸4・井戸6にみられる断面の地質柱状図と花粉分析層準
a：粘土b：シルトc：砂d：レキe：テフラf：植物遺体

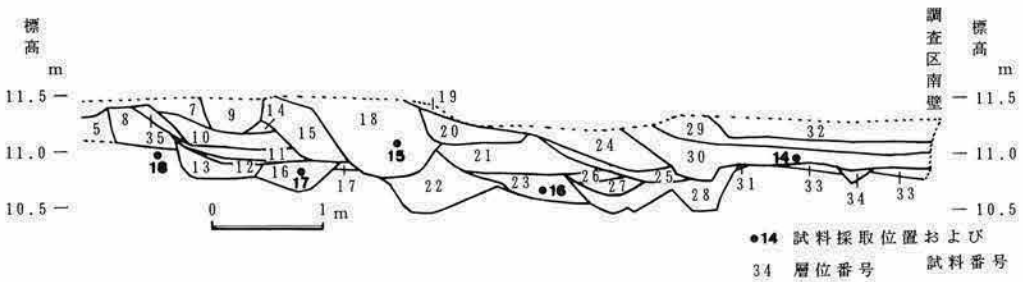


図2　調査区東壁のセクションと試料採取位置図

黄灰色の粘土で、赤褐色の酸化鉄が管状に集積しており、また軟らかい暗灰白色粘土が上部では層状に（10㎜前後）、その下では根あるいは茎？の跡を埋めるような形状で観察される。

3）東壁セクション（試料№14～18）：本地点においては試料を採取した土層について記載し、他の土層については遺跡の章を参照して頂きたい。

30層（試料№14：近世）は暗灰色砂質シルトで、土丹粒（径1～2㎜、最大径9㎜）が多く含まれており、カワラケ片や炭片も散在している。18層（試料№15：14世紀頃？）は暗灰色のシルト～粘土で、土丹片（最大径77㎜）を多く含み、カワラケ片や炭片が散在している。また径40㎜の砂岩もみられる。23層（試料№16：13世紀後半～14世紀前半頃？）は黒灰色の砂質シルト～粘土で、炭片、カワラケ片、土丹（径25㎜）がみられる。16層（試料№17：12世紀末～13世紀初め頃）は黒灰色の粘土で、黄褐色砂塊が散在している。また炭片やカワラケ片、土丹（径20㎜）がみられる。試料№18（古代住居の覆土）は黒灰色の粘土で、炭片が多くみられる。

以上の試料18点について次のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約1.0ｇ)を遠沈管にとり、10％水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後0.5㎜目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46％フッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

3．結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉35、草本花粉15、形態分類で示したシダ植物胞子2の計52である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、また井戸6の試料№5、7については主要な花粉・シダ植物胞子の分布を図3に示した。この分布図における樹木花粉は樹木花粉総数を基数に、草本花粉、シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基数として百分率で示してある。なおこの2試料以外においては花粉の検出数が非常に少なく分布図として示すことが出来なかった。表1および図3においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるがそれぞれに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。また花粉化石の単体標本（花粉化石を一個体抽出して作成したプレパラート）を作成し各々にPLC.SS番号を付し形態観察用および保存用とした。

1）井戸6：最下部の試料№7（有機質シルト）において比較的良好な花粉化石を得ることが出来たが、その他については検出数が少なく、また試料№5においても樹木花粉が100個体を越してはいるが、その分類群数や一緒に観察される大量の微少な有機物片（植物片？）などから、他の多くの花粉は分解されてしまったのではないかと思われる。したがって試料№5の分布図は参考程度にみて頂きたいと考える。

試料№7ではスギ属やコナラ属アカガシ亜属、クリ属－シイノキ属－マテバシイ属（本試料では

表1　大倉幕府周辺遺跡群の産出花粉化石一覧表

和名	学名	井戸6							井戸4							東櫓セクション				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
樹木																				
マキ属	*Podocarpus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	*Abies*	-	-	-	1	1	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
ツガ属	*Tsuga*	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	7	2	10	-	1	
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	4	1	3	1	-	
スギ属	*Cryptomeria*	-	-	1	1	27	2	49	-	-	-	1	-	-	1	-	4	-	1	
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤナギ属	*Salix*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤマモモ属	*Myrica*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クルミ属	*Juglans*	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	-	-	-	1	1	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
カバノキ属	*Betula*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハンノキ属	*Alnus*	-	-	2	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	
ブナ属	*Fagus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コナラ属コナラ亜属	*Quercus subgen. Lepidobalanus*	1	-	-	2	4	1	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	-	-	1	7	40	11	57	-	-	2	-	3	3	-	-	5	1	3	
クリ属－シイノキ属－マテバシイ属	*Castanea-Castanopsis-Pasania*	-	1	1	-	36	21	39	-	1	2	-	-	1	-	1	8	2	3	
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	-	-	-	-	4	1	19	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カツラ属	*Cercidiphyllum*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シキミ属	*Illicium*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サクラ属近似種	cf. *Prunus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サンショウ属	*Zanthoxylum*	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ユズリハ属	*Daphniphyllum*	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アカメガシワ属	*Mallotus*	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カエデ属	*Acer*	-	-	-	-	1	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
トチノキ属	*Aesculus*	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ムクロジ属	*Sapindus*	-	-	-	-	1	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブドウ属	*Vitis*	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツタ属	*Parthenocissus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツバキ属	*Camellia*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
グミ属	*Elaeagnus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウコギ科	Araliaceae	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミズキ属	*Cornus*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
エゴノキ属	*Styrax*	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
草本																				
イネ科	Gramineae	5	3	27	16	87	10	113	3	10	4	1	1	6	2	7	32	18	22	
カヤツリグサ科	Cyperaceae	-	-	-	5	6	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
クワ科	Moraceae	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	35	2	2	
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
キンポウゲ科	Ranunculaceae	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アブラナ科	Cruciferae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	1	
バラ科	Rosaceae	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マメ科	Leguminosae	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
セリ科	Umbelliferae	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シソ科	Labiatae	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヨモギ属	*Artemisia*	2	-	1	1	1	-	29	1	-	1	-	-	-	-	1	4	1	-	
他のキク亜科	other Tubuliflorae	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	2	1	1	
タンポポ亜科	Liguliflorae	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4	4	1	7	
シダ植物																				
単条型胞子	Monolete spore	2	-	4	12	142	429	29	3	4	5	6	10	23	4	2	10	1	3	
三条型胞子	Trilete spore	1	-	2	2	4	5	4	1	-	-	-	-	2	4	-	1	1	1	
樹木花粉	Arboreal pollen	1	1	5	14	118	44	286	0	1	4	1	4	6	13	7	33	5	9	
草本花粉	Nonarboreal pollen	7	3	28	24	103	11	170	4	11	7	2	1	6	7	13	87	24	33	
シダ植物胞子	Spores	3	0	6	14	146	434	33	4	4	5	6	10	25	8	2	11	2	4	
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	11	4	39	52	367	489	489	8	16	16	9	15	37	28	22	131	31	46	
不明花粉	Unknown pollen	4	2	12	14	51	37	54	2	10	8	7	2	5	3	4	22	5	7	

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceaeを示す

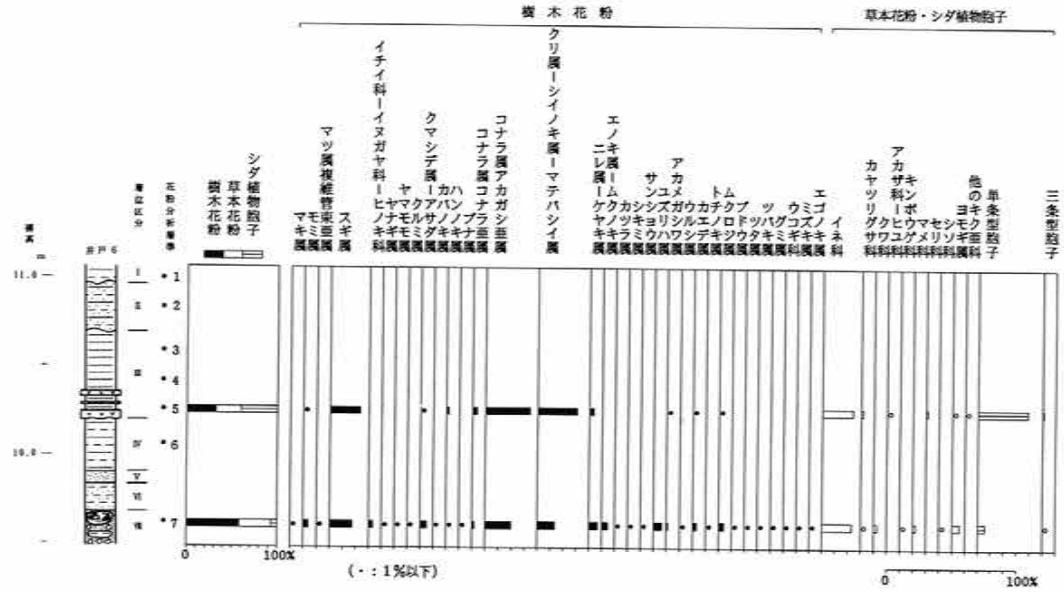


図3　井戸6地点の主要花粉化石分布図
（樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

クリ属花粉と思われるものは観察されなかった）が10～20％出現しており、スギ属以外の針葉樹類ではモミ属が４％ほど検出されている。常緑広葉樹類ではユズリハ属が７％弱と比較的多く産出しており、その他シキミ属やツバキ属などが検出されている。落葉広葉樹類ではクマシデ属－アサダ属やニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属などが５％ほど出現しており、その他コナラ属コナラ亜属、アカメガシワ属、カエデ属、ムクロジ属が１％を越えて検出されている。草本類ではイネ科が20％を越えて出現している他はいずれも低率（ヨモギ属は６％）であり、分類群数も少ない。

試料No.５においてもスギ属やアカガシ亜属、クリ属－シイノキ属－マテバシイ属およびイネ科の多い傾向がみられ、他の試料からもこれらが検出されている。また試料No.６ではシダ類胞子が非常に多く検出されており、特徴的である。

２）井戸４（試料No.８～13）においてはいずれの試料も検出数が非常に少なく、10個体を越えるものはイネ科の試料No.９だけである。その中では樹木類のアカガシ亜属やクリ属－シイノキ属－マテバシイ属、草本類ではイネ科が比較的検出されている。

３）東壁セクション（試料No.14～18）においても花粉の検出数が少なかったが、産出傾向に若干特徴がみられる。すなわち木本類ではマツ属複維管束亜属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）が試料No.14～16において比較的検出されており、アカガシ亜属やクリ属－シイノキ属－マテバシイ属は試料No.16～18に多くみられる。草本類ではイネ科とともにアカザ科－ヒユ科が全試料から検出されており、ヨモギ属や他のキク亜科、タンポポ亜科も比較的検出されている。

４．遺跡周辺の古植生

以上のようにほとんどの試料において花粉の検出量が少なく、植生変遷について述べることは出来ない状態である。したがってここでは検出された花粉化石を基に、以前に公表された資料を参考にして遺跡周辺の古植生あるいは植物について述べることとする。

検出数の少ない中で唯一良好な状態で検出できた試料No.７（井戸６：最下部）では照葉樹類のアカガシ亜属が最も多く検出されている。また結果のところで述べたようにクリ属－シイノキ属－マテバシイ属については本試料に限って全てがシイノキ属－マテバシイ属型の花粉であった（他の試料においては保存状態が悪く、明確にクリ属とシイノキ属－マテバシイ属の区別がつかなかった）。これらアカガシ亜属やシイノキ属－マテバシイ属を主体にシキミ属、ユズリハ属、ツバキ属などをともなった照葉樹林が成立していた。針葉樹類ではスギ属がアカガシ亜属の次に高い出現率を示しており、モミ属やイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科とともに温帯針葉樹林を形成していた。またクマシデ属－アサダ属やコナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属、カエデ属などの落葉広葉樹類もかなり生育していた。このように遺跡周辺では照葉樹林や温帯針葉樹林が分布域を広げており、それらに混じるように落葉広葉樹類が生育していた。

このような植生が成立していた時代について、同層準の堆積物から^{14}C年代、4410±110y.B.P.(GaK-16116)が得られ、時代としては縄文時代中期末頃と考えられる。その後の遺跡周辺の植生は

試料№5で示されているように大きな変化は無く、アカガシ亜属を主体とした照葉樹林とスギ属林が成立していたと思われる。横浜市南西部の花粉分析結果（清永　1990）をみると、一度増加傾向を示したアカガシ亜属は約2,800年前に再び増加し、約1,000年前まで多く生育しており、スギ属については約4,700年前から増加し始め、約2,600年前から約1,000年前にかけて優勢であった。また優勢であったコナラ亜属は約2,800年前には衰えている。こうした横浜市南西部にみられる植生変遷をそのまま当遺跡にあてはめることは出来ないが、おおまかな傾向としては同様の傾向を辿ったと予想され、縄文時代中期末以降の鎌倉周辺地域は、照葉樹林や温帯針葉樹林が分布域を広げており、それらに混じるように落葉広葉樹類が生育していたであろう。

こうした傾向は東壁セクションの試料からみると13世紀後半～14世紀前半頃？までみられたようである。また試料№14～16においてニヨウマツ類が特徴的に検出されている。史跡永福寺跡の花粉分析結果（鈴木　1991a）においては、12世紀末から13世紀後半にかけてスギ林や照葉樹林が優占し、その後ニヨウマツ類が優占しており、クロマツの植林とアカマツの二次林の形成が予想されている。当遺跡周辺においても14世紀前後にニヨウマツ類の増加傾向が現れはじめ、それが少ないながらも花粉分析結果に示されたのではないかと思われる。

草本類では試料№16（13世紀後半～14世紀前半頃？）においてアカザ科－ヒユ科やキク科、アブラナ科が比較的検出されている。先の報告（鈴木　1991b）では鎌倉時代初期において当遺跡周辺ではアカザ科－ヒユ科やオオバコ属といった道端雑草類が目立ちかなり開けた景観であったと予想されている。時代は多少異なるようであるが今回も先の報告と同様の景観が示されているのではないかと思われる。

5．おわりに

「はじめに」の所で述べたように今回は古代あるいはそれ以前から近世にかけての遺跡周辺の植生変遷が明らかに出来るものと思われた。しかしながら結果は花粉化石が殆ど得られず、上記したようなこともかなり予想の部分が大きいのが実際のところである。この原因の一つとしては多孔質な部分や酸化鉄の集積がみられるなど堆積物がかなり土壌化を受けていたのではないかと思われ、それによって多くの花粉は分解してしまった可能性が考えられる。作成したプレパラート中に観察された多量の微少な有機物片（植物片？）はこのことを示しているのではないかと思われる。

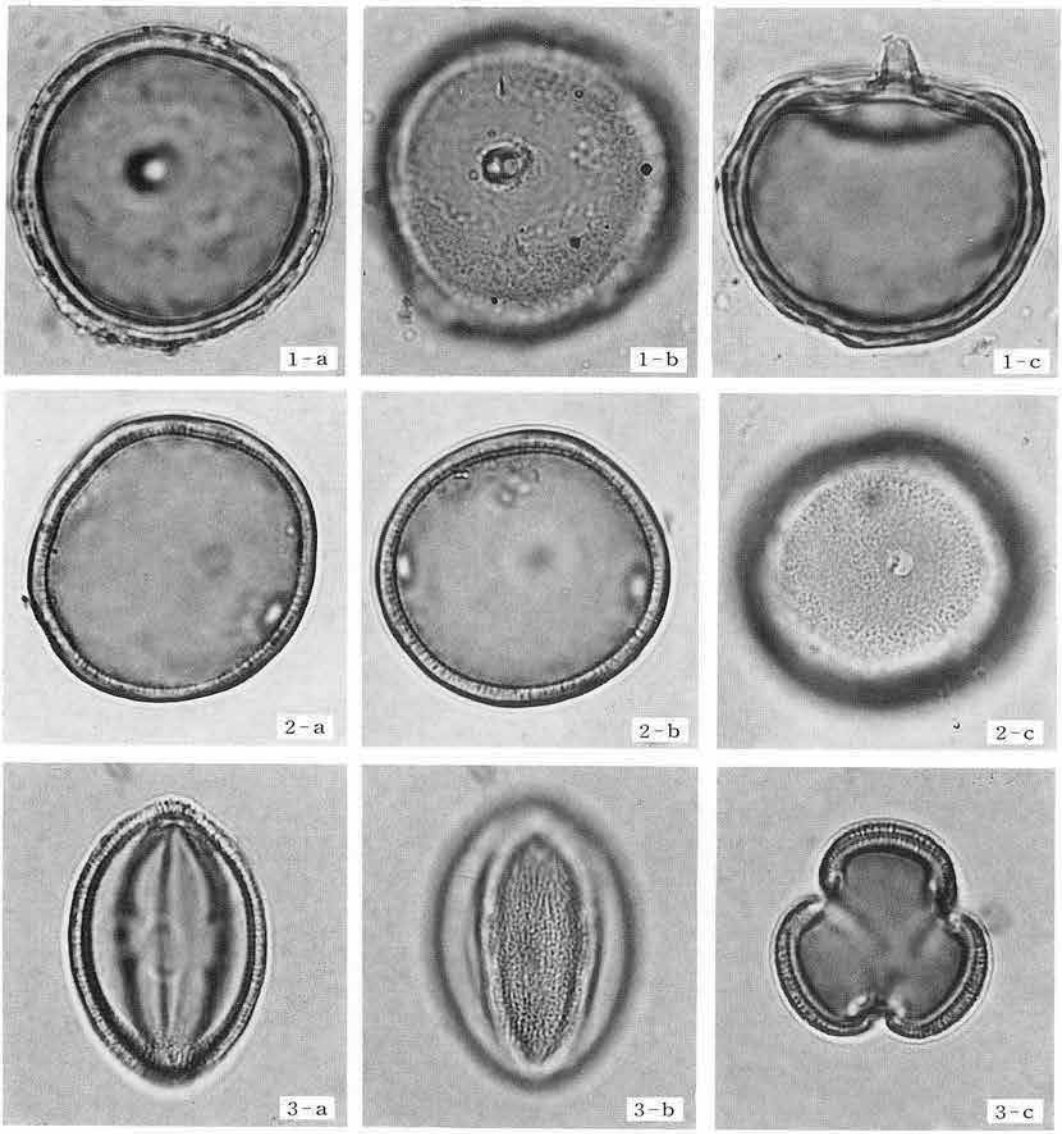
以上のように今回の分析ではきちんとしたデータを得ることが出来ず、古代あるいはそれ以前からの植生変遷を明らかに示すことが出来なかった。当遺跡群の他の地点における今後の分析結果に期待したい。

引用文献

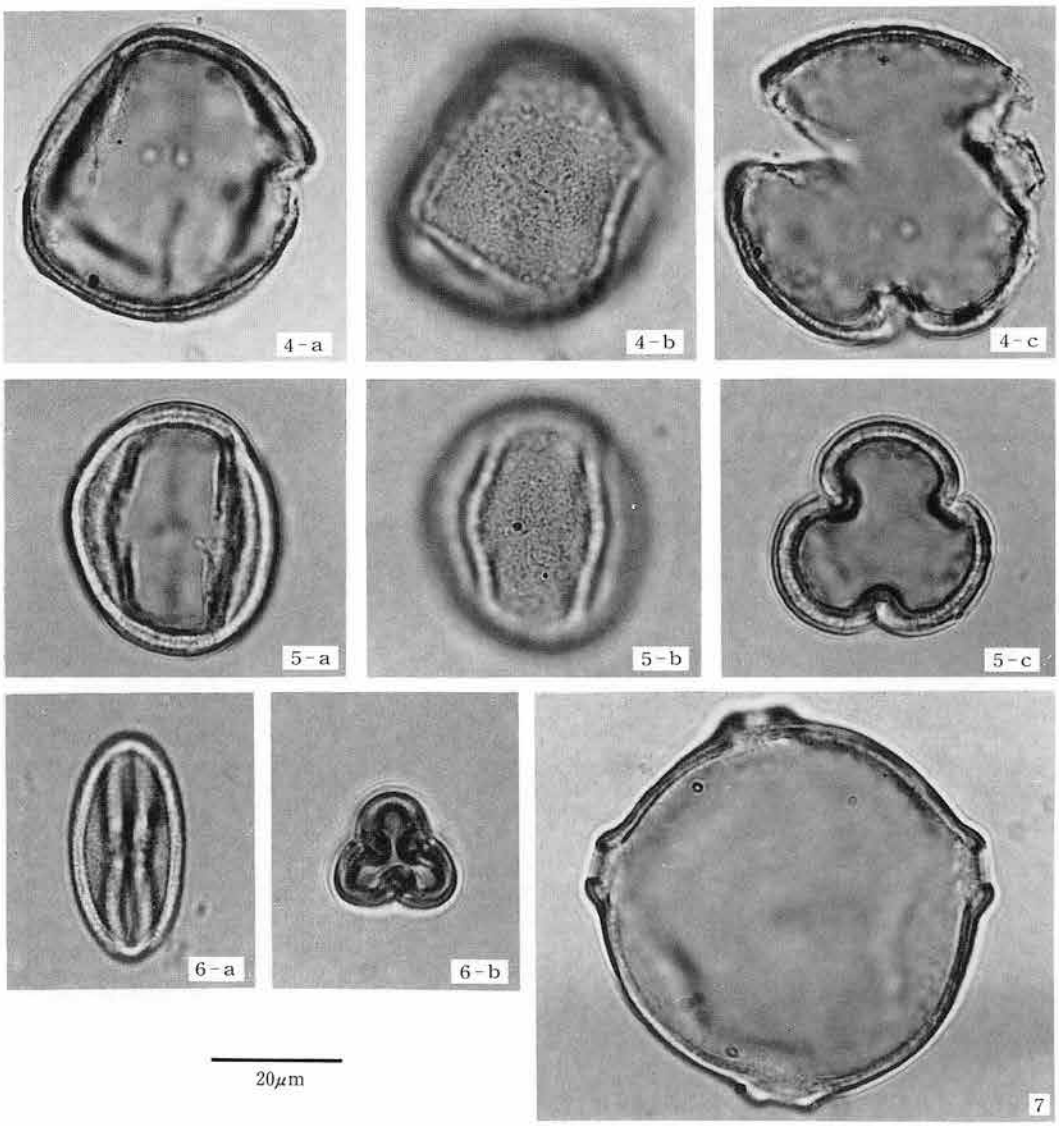
清永丈太（1990）横浜市南西部、柏尾川低地で得られた完新世堆積物の花粉分析。　第四紀研究、29、　P．351-360。

鈴木　茂 (1991a) 平成元年度史跡永福寺跡の溝内堆積物の花粉化石。　鎌倉市二階堂国指定史跡永福寺跡　国指定史跡永福寺跡環境整備事業に係わる発掘調査概要報告書－平成２年度－、　鎌倉市教育委員会、Ｐ．17-25。

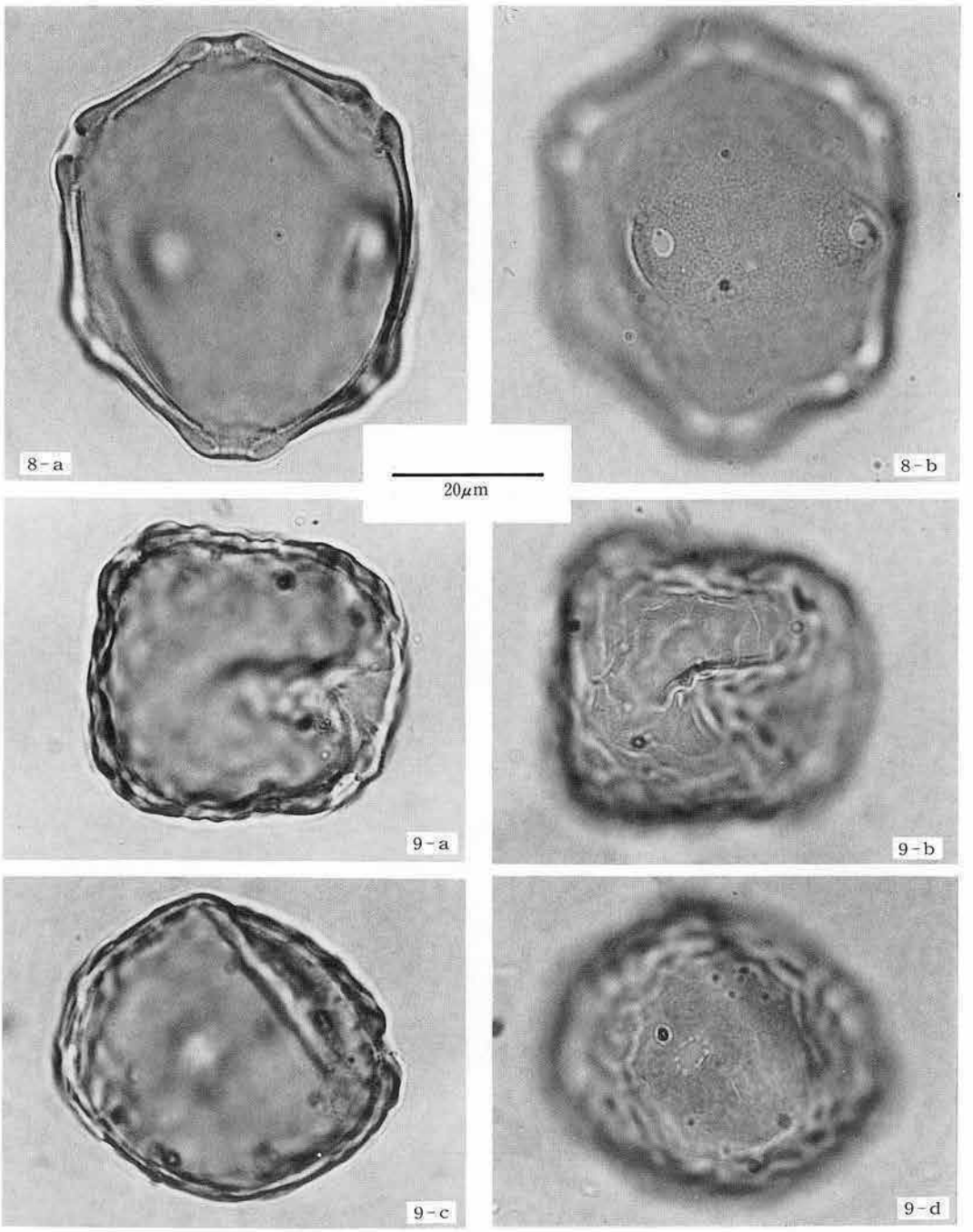
鈴木　茂 (1991b) 大倉幕府周辺遺跡の溝内堆積物の花粉分析。　鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書７　平成２年度発掘調査報告、　鎌倉市教育委員会、　Ｐ．85-91。



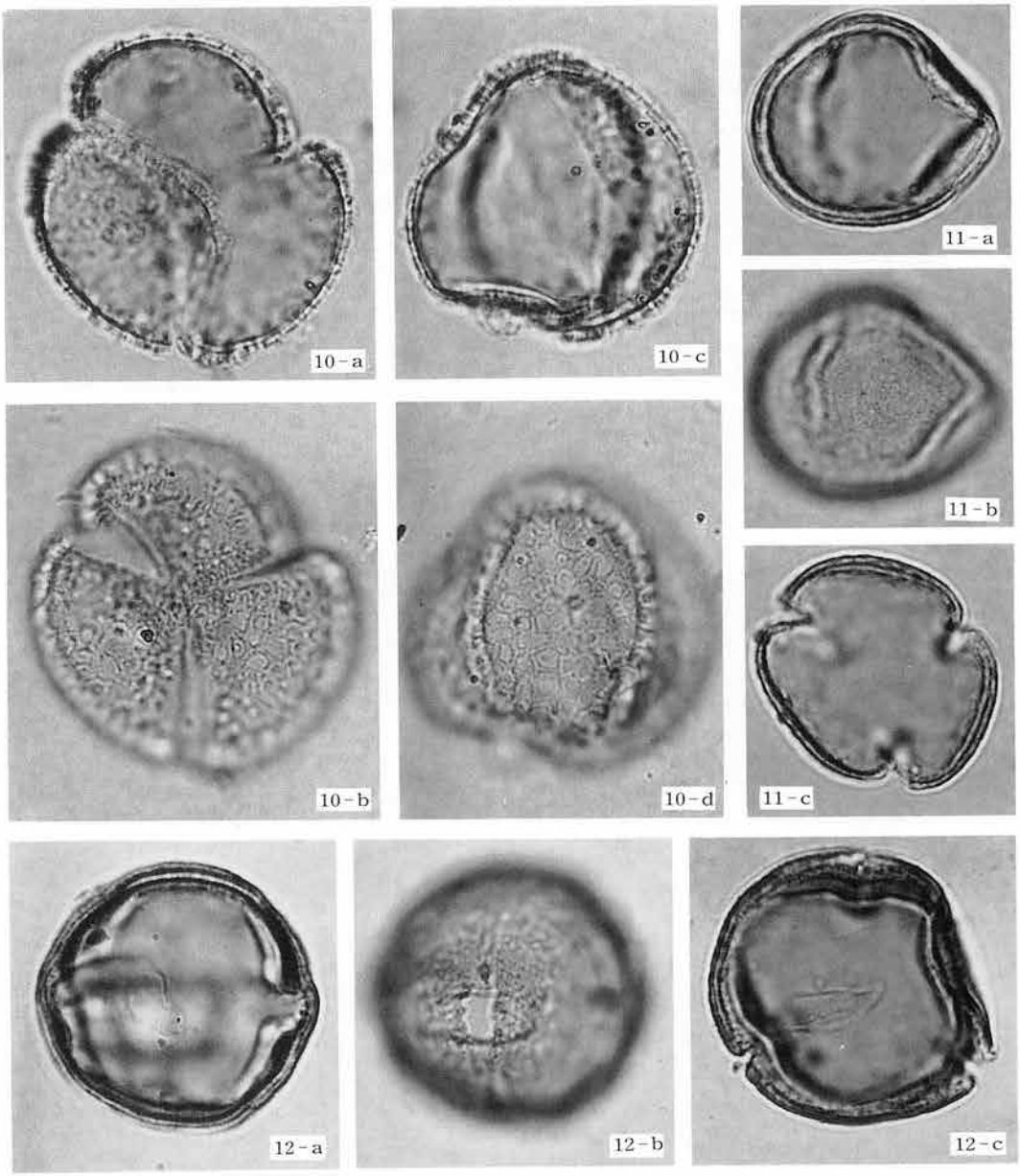
図版Ⅰ　大倉幕府周辺遺跡群（試料No.7）の花粉化石
1：スギ属　PLC.SS 798
2：エノキ属ームクノキ属　PLC.SS 790
3：カエデ属　PLC.SS 797



図版II　大倉幕府周辺遺跡群（試料No.7）の花粉化石
4：コナラ属コナラ亜属　PLC.SS 796
5：コナラ属アカガシ亜属　PLC.SS 788
6：シイノキ属－マテバシイ属　PLC.SS 792
7：クマシデ属－アサダ属　PLC.SS 791



図版III　大倉幕府周辺遺跡群（試料No.7）の花粉化石
8：クルミ属　PLC. SS 793
9：ニレ属ーケヤキ属　PLC.SS 789

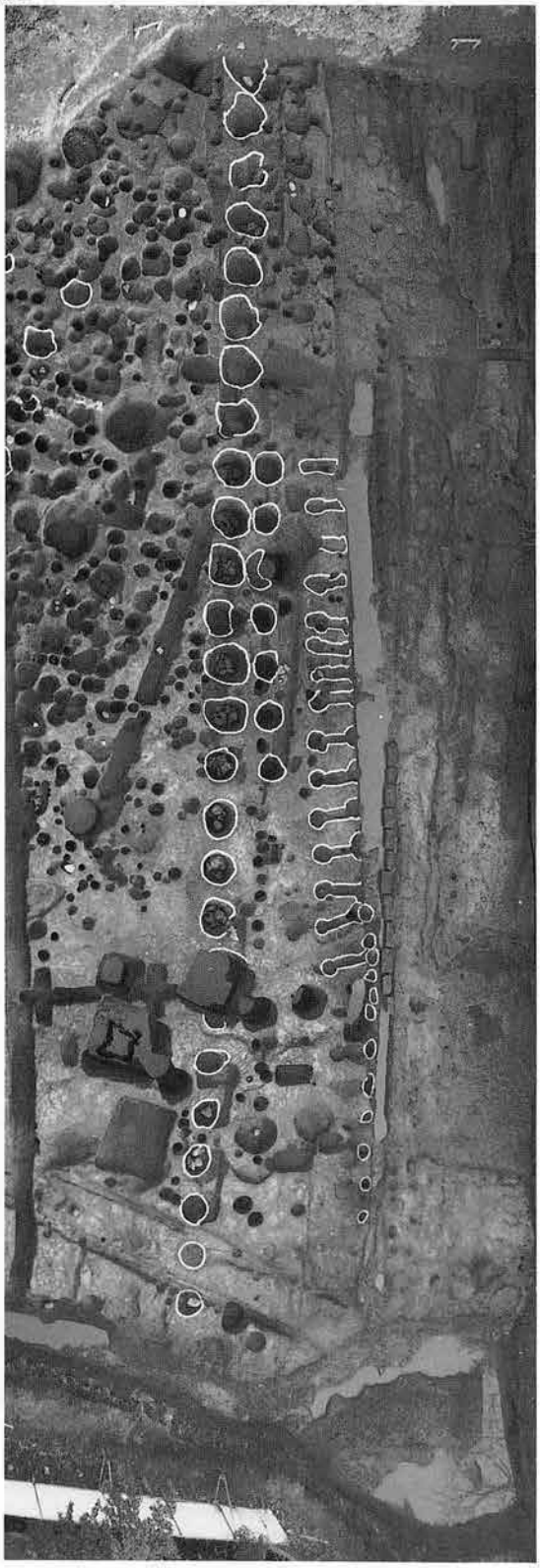


図版Ⅳ 大倉幕府周辺遺跡群（試料No.7）の花粉化石
10：シキミ属　PLC.SS 794
11：ユズリハ属　PLC.SS 795
12：アカメガシワ属　PLC.SS 799

図版 1

▲中世遺構面全景

図版 2



1 調査区南半部全景

2 溝 6 切石列(東から)

3 同上西から

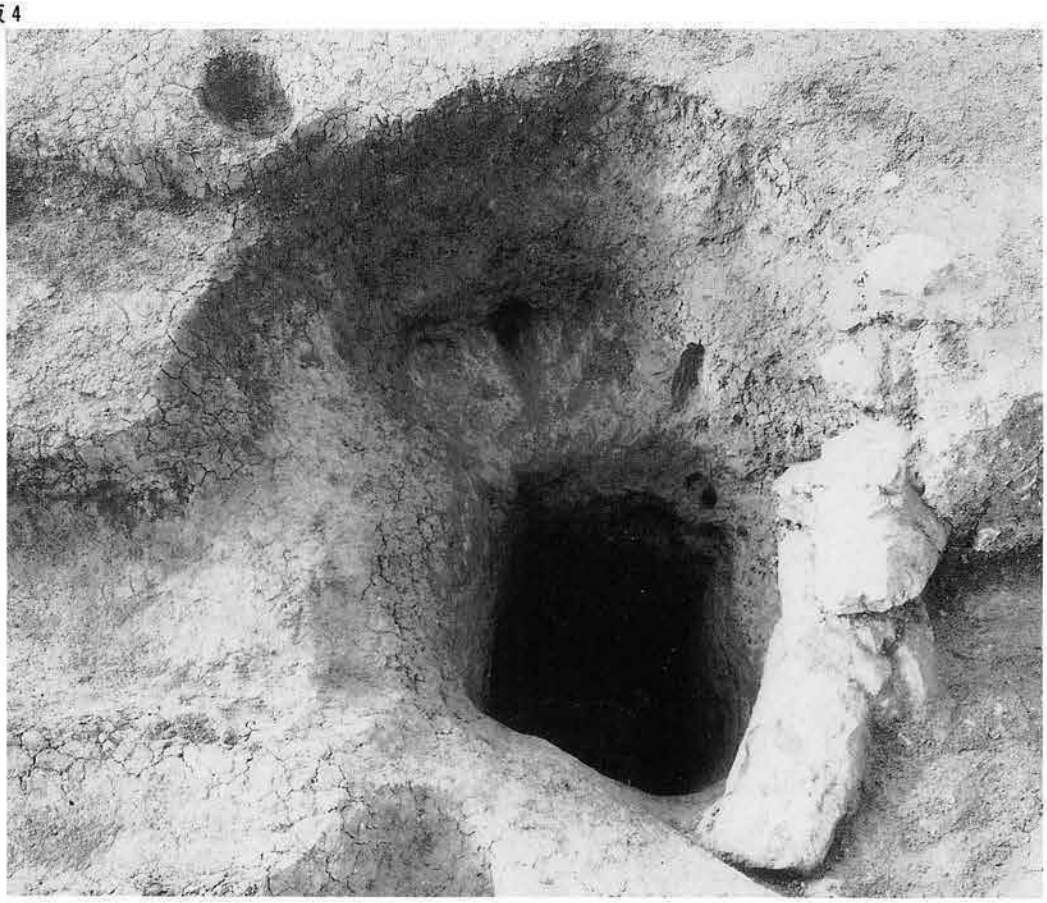
1　東御門川旧流路（南から）

2　同上（東から）

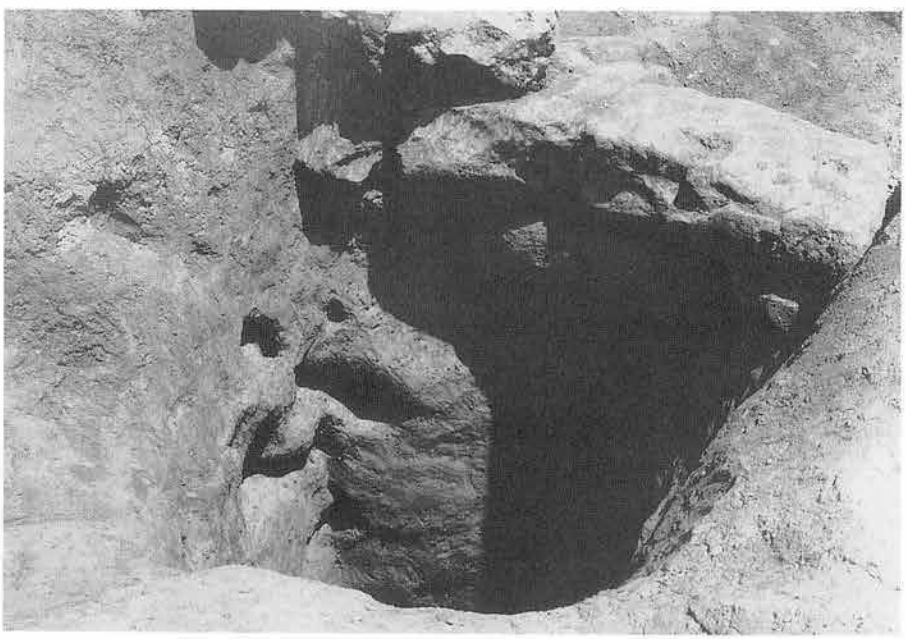
3　溝8（西から）

4　柱穴列1-K（北から）

図版 4



1　井戸 1（南から）



2　同上壁面と石積の様相（西から）

1 井戸2（北から）

2 同上遺物出土状況（北から）

3 同上完掘状況（北から）

図版 6

1 井戸3（西から）

2 井戸4（西から）

3 井戸5（南から）

1　井戸 6（左）・9（西から）

2　井戸 6（西から）

3　同左竹出土状況

図版 8

1　井戸 7（西から）

2　井戸 8（西から）

3　同上石積の様相（北から）

1　5・6－D・E付近井戸検出状況

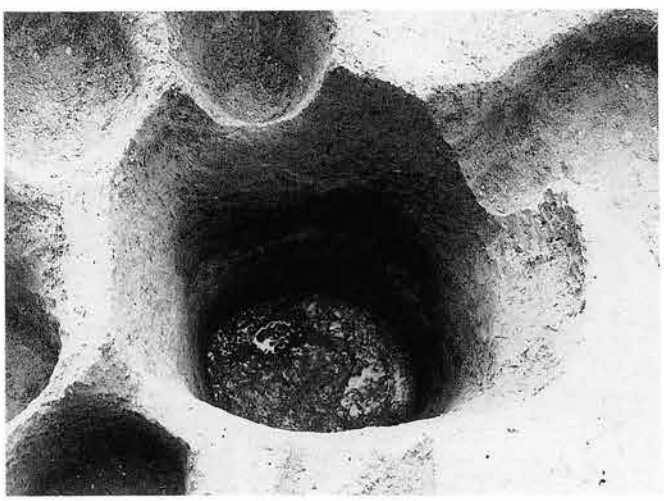
2　井戸9（西から）

3　井戸10（西から）

図版10

1　井戸11（北から）

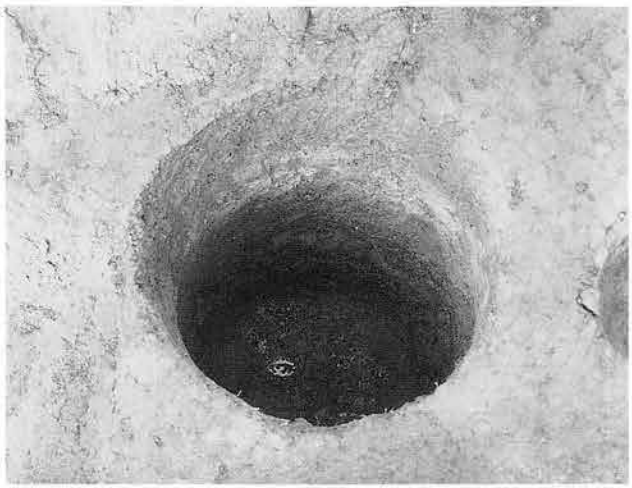
2　同上木製品出土状況（東から）



3　井戸12（北から）

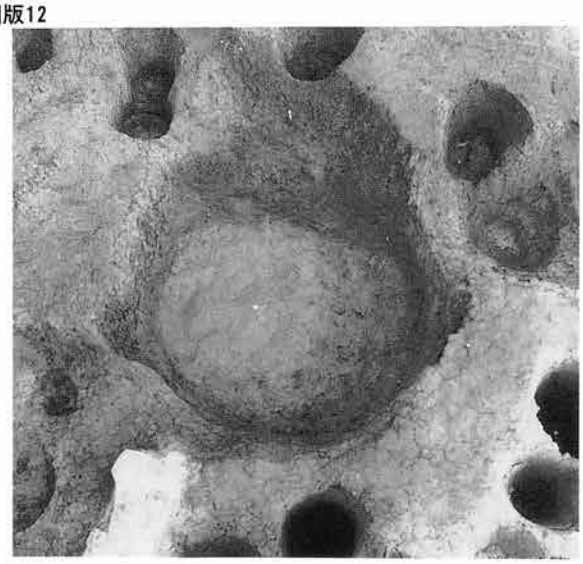
1　井戸13（東から・上方は土師器溜り5）

2　同上漆椀出土状況（東から）

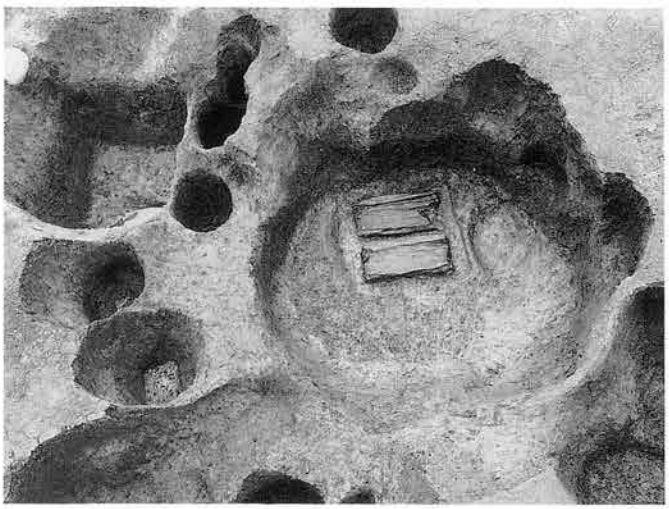


3　井戸14（南から）

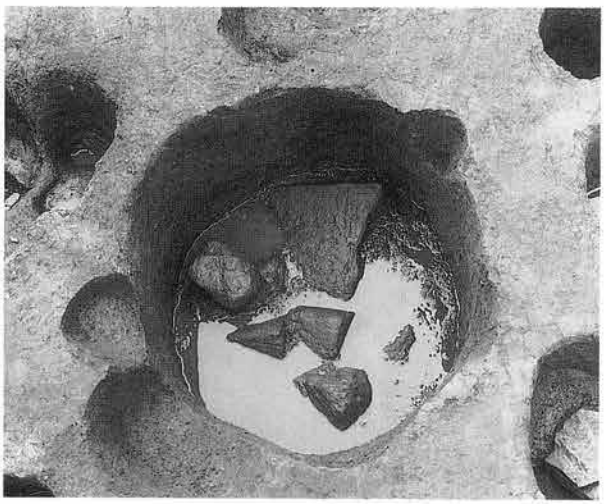
図版12



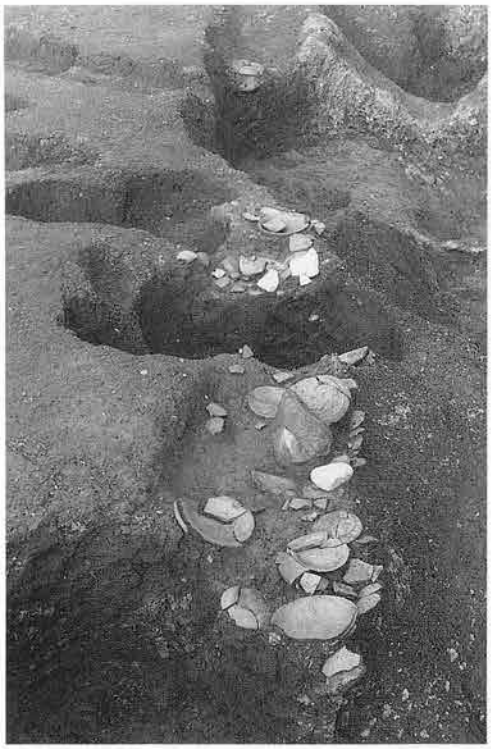
1　土壙3（北から）



2　土壙7（東から）

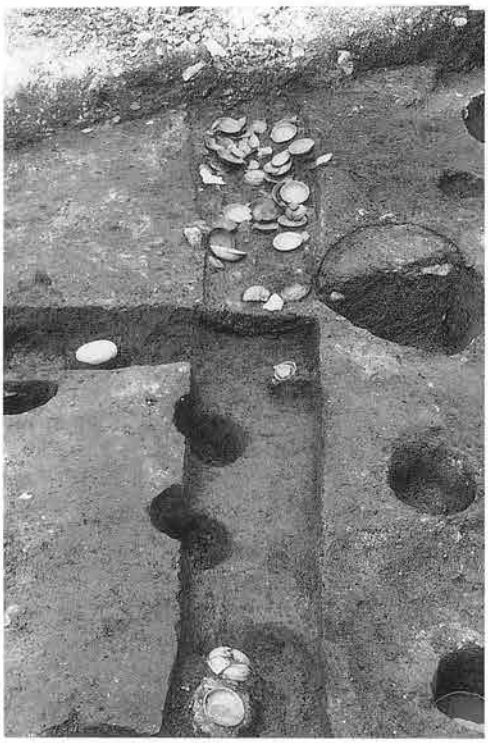


3　柱穴603（東から）



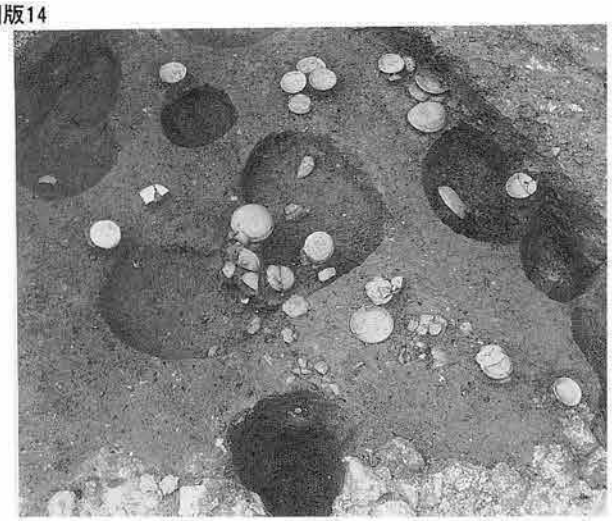
1　土師器溜り1（西から）

2　土師器溜り2（南から）



3　同左集中部分の様相

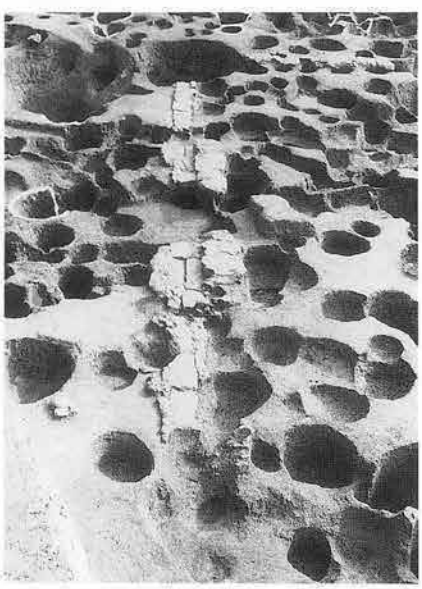
図版14



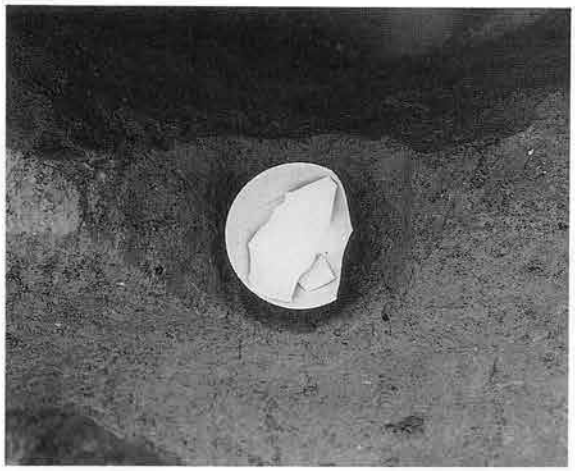
1　土師器溜り3（南東から）

2　土師器溜り4（北西から）

3　石組雨落溝（西から）



1　埋納遺構（北から）

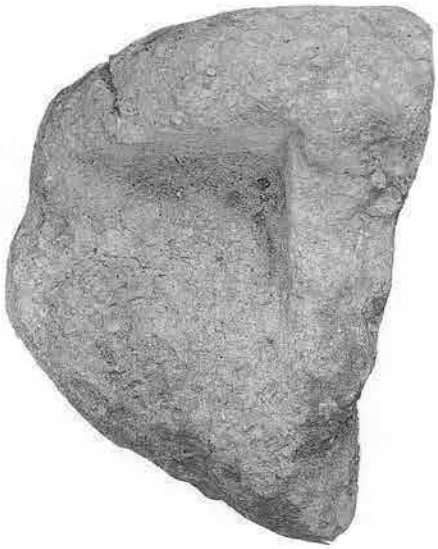


2　同上（上から）

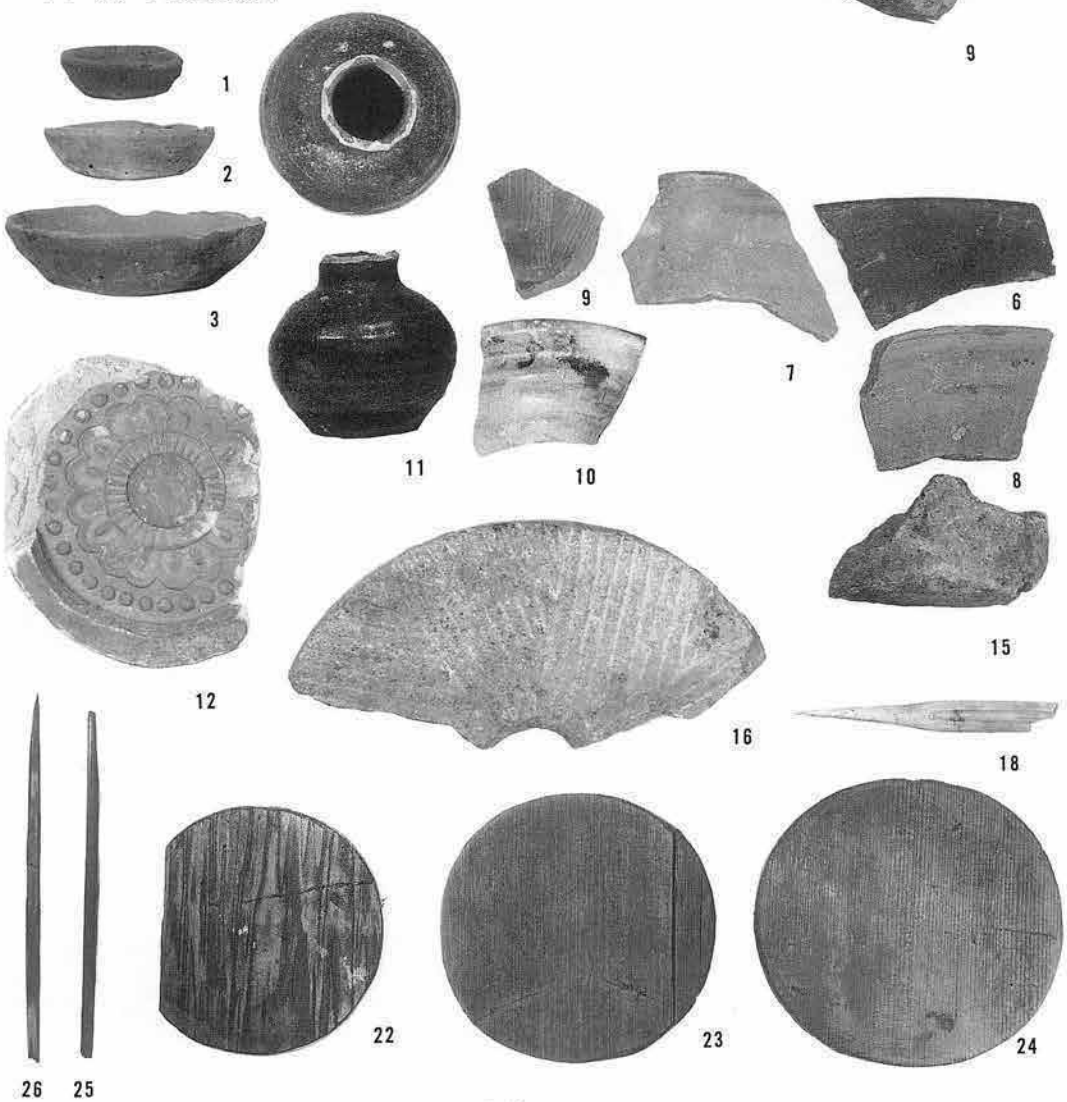
3　据甕遺構（西から）

図版16

▲1　井戸1出土遺物



▼2　井戸2出土遺物(1)



19

20

▲1　井戸1出土遺物

21

29

27

1

▲3　井戸4出土遺物

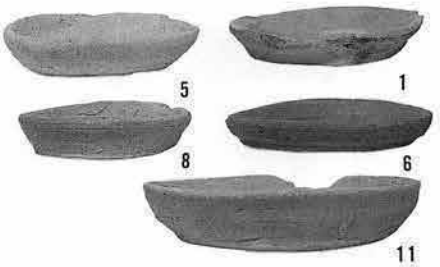
11

14

10

15

▲2　井戸3出土遺物


5
1
8
6
11
10
9

▶5　井戸6出土遺物(1)

7
6

22

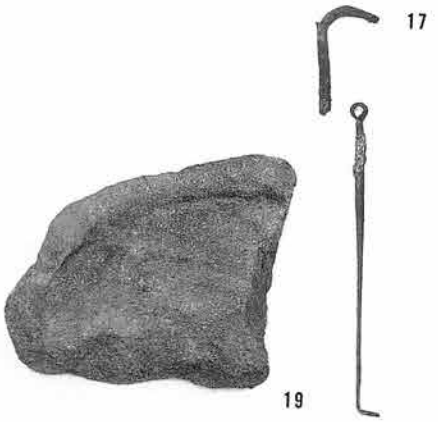
25

▲4　井戸5出土遺物

図版18

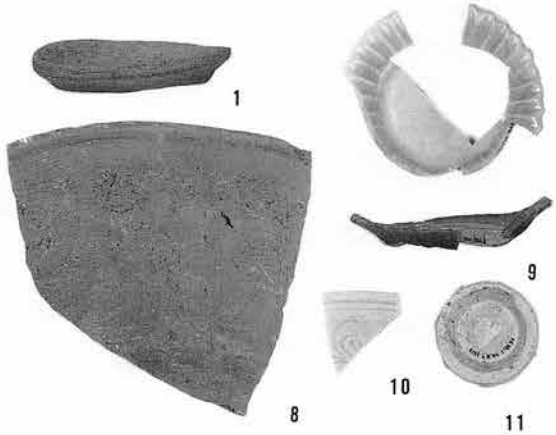
▲1　井戸 6 出土遺物(2)

▼2　井戸 7 出土遺物(1)



▲1　井戸 7 出土遺物(2)

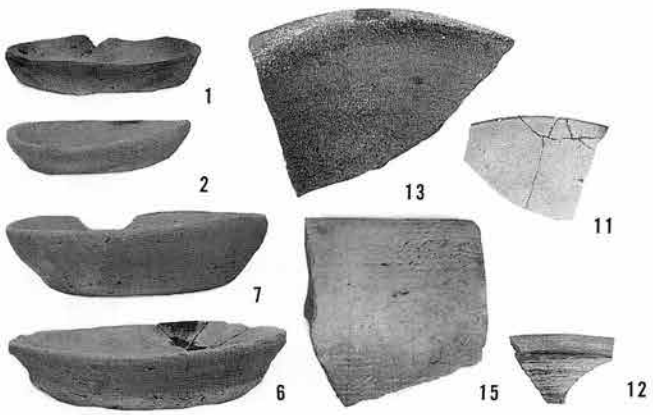
▲2　井戸 8 出戸遺物



▲3　井戸 9 出土遺物

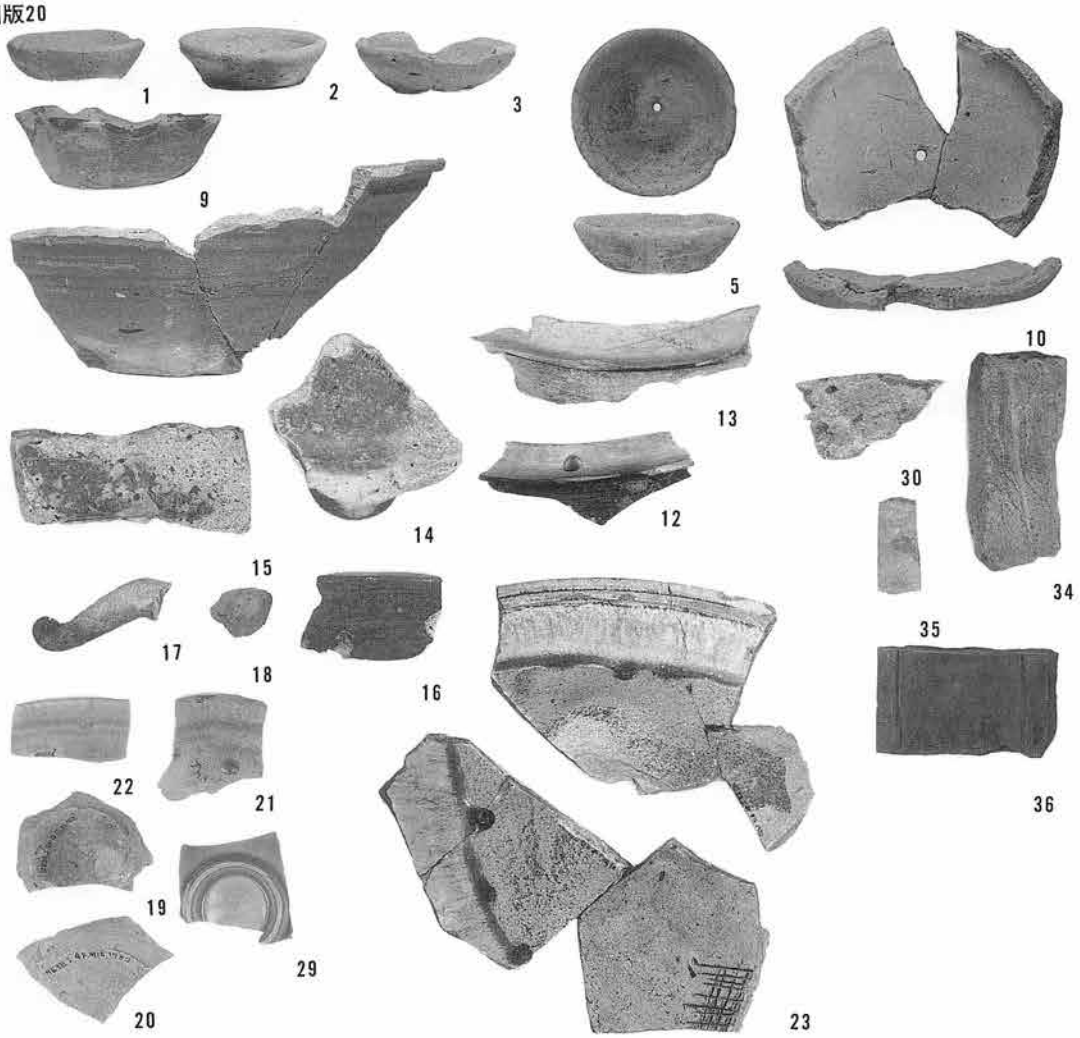
▲4　井戸10出土遺物

▲5　井戸11出土遺物



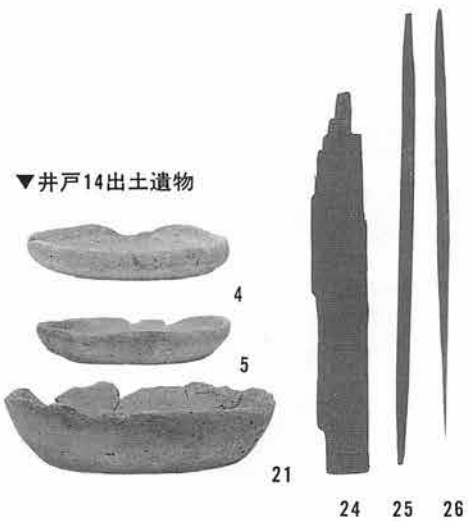
▲6　井戸12出土遺物

図版20



▲
◀ 井戸13出土遺物

▼井戸14出土遺物



3．長谷小路周辺遺跡

由比ガ浜三丁目229番外（No.236）

例　言

1．本編は、鎌倉市由比ガ浜三丁目229番外地点における個人住宅併用共同住宅建設に伴う、埋蔵文化財の事前発掘調査のうち、個人住宅相当分の国庫補助事業発掘調査の報告である。ただし、調査地内に発見された遺構と遺物を国家補助事業相当分と原因者負担事業分を分割して扱うことは、調査地内に発見された遺跡の理解をそこなうおそれがあると思われ、できるだけ原因者負担事業分も加味して報告している。

2．調査は、鎌倉市教育委員会が実施した。調査体制は本文中に記している。

3．報告書作成にあたっては、調査員等による遺物の実測・トレースの後、遺構関係を宗臺秀明が、遺物関係を宗臺富貴子が執筆し、まとめを調査関係者の討議のうえ宗臺秀明が責任執筆した。また、出土獣骨の同定にあたっては、早稲田大学の金子浩昌先生の多大な御教示を賜った。

4．発掘調査によって得た資料はすべて鎌倉市教育委員会が保管している。

5．なお遺跡全景写真は木村美代治がリモコン式高所撮影装置を使用し撮影した。

凡　例

・　本文中に使用した挿図の縮尺は、次の通りである。遺構全側図は1/120、遺構の個別図は1/30と1/60とした。遺物の実測図は1/3を基本とし、小さなものは1/2とした。ただし、なかには1/6としたものもあり、それらに限っては挿図中にその縮尺を記した。

・　挿図中、°—°は使用痕の、°—·—°は加工痕の、°－－°は原材料加工痕の、それぞれの範囲を示している。

・　その他、遺物の成形・調整手法、胎土、種別、原産地等の詳細については、本編後段の遺物観察表および分類表を参照されたい。

本文目次

第一章　調査の概要 …… (153)
　第１節　調査に至る経緯 …… (153)
　第２節　調査体制 …… (153)
　第３節　調査の成果 …… (154)
第二章　遺跡地の概要 …… (155)
　第１節　歴史地理的環境 …… (155)
　第２節　調査地点 …… (158)
第三章　発見された遺構と遺物 …… (160)
　第１節　中世以前 …… (160)
　第２節　中世 …… (167)
　第３節　上層遺物包含層 …… (246)
第四章　まとめ …… (249)

挿図目次

図１　鎌倉市全図と調査地点 …… (156)
図２　調査地点周辺諸遺跡 …… (157)
図３　調査区および方眼設定図 …… (158)
図４　調査区南壁東西方向土層図 …… (159)
図５　古代層発見遺構 …… (160)
図６　古代層出土遺物（１） …… (161)
図７　古代層出土遺物（２） …… (162)
図８　２面全体図　　とじ込み …… (163)
図９　２面Ｉ区　　とじ込み …… (165)
図10　２面Ｉ区土壙と溝の土層図 …… (168)
図11　２面Ｉ区井戸３・４ …… (169)
図12　井戸４出土遺物 …… (169)
図13　井戸３出土遺物 …… (170)
図14　２面Ｉ区土壙28出土遺物 …… (171)
図15　２面Ｉ区土壙28 …… (171)

図16　2面Ⅰ区土壙218 …… (172)
図17　土壙218出土遺物 …… (172)
図18　2面Ⅰ区土壙18 …… (173)
図19　土壙18出土遺物 …… (173)
図20　2面Ⅰ区遺構（溝213・23）出土遺物（1） …… (174)
図21　2面Ⅰ区遺構（溝211・215、土壙27・15）出土遺物（2） …… (176)
図22　2面Ⅰ区遺構（土壙210・211・212・216・222、ピット85・87・89）出土遺物（3） (177)
図23　Ⅰ区2面上出土遺物 …… (178)
図24　2面Ⅲ区 …… (180)
図25　2面Ⅲ区溝214 …… (181)
図26　溝214出土遺物（1） …… (181)
図27　溝214出土遺物（2） …… (182)
図28　溝214出土遺物（3） …… (183)
図29　2面Ⅲ区土壙墓 …… (184)
図30　2面Ⅲ区出土遺物 …… (185)
図31　2面Ⅳ区　　とじ込み …… (187)
図32　2面Ⅳ区遺構（井戸2、土壙22・23・24、ピット66・84・178）出土遺物 …… (186)
図33　2面Ⅳ区出土遺物（1） …… (189)
図34　2面Ⅳ区出土遺物（2） …… (190)
図35　1b面全体図　とじ込み …… (191)
図36　1b面Ⅰ区 …… (193)
図37　1b面Ⅰ区溝28・29出土遺物 …… (195)
図38　1b面Ⅰ区溝29・30、ピット114出土遺物 …… (196)
図39　1b面Ⅰ区面上出土遺物 …… (197)
図40　1b面溝16・17 …… (197)
図41　溝16、17出土遺物 …… (198)
図42　1b面道路面上出土遺物 …… (201)
図43　1b面Ⅱ区　　とじ込み …… (199)
図44　1b面Ⅱ区方形竪穴建築址201、溝204土層断面図 …… (201)
図45　1b面Ⅱ区遺構（溝216）出土遺物（1） …… (203)
図46　1b面Ⅱ区遺構（方形竪穴建築址201、溝204）出土遺物 …… (204)
図47　1b面Ⅱ区遺構（溝208、土壙203・205・206）出土遺物（3） …… (205)
図48　1b面Ⅱ区遺構（土壙207・217、ピット34・86・102・207・209）出土遺物（4） (206)
図49　1b面Ⅲ区 …… (207)

図50　１ｂ面III区遺構（溝201・203、ピット204・208）出土遺物 …… (208)
図51　１ｂ面II、II・III区面上出土遺物 …… (209)
図52　１ｂ面IV区溝25・37、土壙11 …… (210)
図53　１ｂ面IV区井戸１ …… (211)
図54　井戸１内犬骨 …… (211)
図55　１ｂ面IV区溝１・37、土壙11、井戸１出土遺物 …… (211)
図56　１ｂ面IV区溝１ …… (212)
図57　１ｂ面IV区溝22・24 …… (212)
図58　溝22出土遺物 …… (213)
図59　溝24出土遺物 …… (214)
図60　１ｂ面溝14・18・19 …… (215)
図61　溝14・18・19、ピット13出土遺物 …… (216)
図62　１ｂ面Ｖ区方形竪穴建築址１ …… (218)
図63　方形竪穴建築址１出土遺物（１） …… (219)
図64　方形竪穴建築址１出土遺物（２） …… (220)
図65　方形竪穴建築址１出土遺物（３） …… (221)
図66　方形竪穴建築址１出土遺物（４） …… (222)
図67　１ｂ面、１ｂ面下Ｄ－５グリッド、１ｂ面出土遺物（１） …… (223)
図68　１ｂ面下出土遺物（２） …… (224)
図69　１ｂ面下出土遺物（３） …… (225)
図70　１ｂ面下出土遺物（４） …… (226)
図71　１ｂ面下出土遺物（５） …… (227)
図72　１ｂ面下出土遺物（６） …… (228)
図73　１ａ面全体図　　とじ込み …… (229)
図74　１ａ面道路 …… (231)
図75　道路面上イルカ骨 …… (232)
図76　１ａ面II区溝12 …… (232)
図77　溝12、Ｉ・II区１ｂ面上出土遺物 …… (233)
図78　１ａ面IV区　　とじ込み …… (235)
図79　１ａ面IV区溝３・６出土遺物 …… (234)
図80　１ａ面IV区溝９内獣骨 …… (237)
図81　１ａ面IV区溝７・９出土遺物 …… (238)
図82　１ａ面IV区溝９・４・５出土遺物 …… (239)
図83　１ａ面IV区土壙１・２・３ …… (240)

図84　土壙１・２・３出土遺物 …… (240)
図85　１ａ面Ⅳ区泥岩敷 …… (241)
図86　１ａ面Ⅳ区溝４・５ …… (242)
図87　１ａ面Ⅳ区面上出土遺物 …… (242)
図88　Ⅳ区１ａ面上層遺物だまり土壙 …… (242)
図89　上層土壙出土遺物 …… (243)
図90　１ａ面下出土遺物（１） …… (244)
図91　１ａ面下出土遺物（２） …… (245)
図92　１ａ面下出土遺物（３） …… (246)
図93　包含層中埋葬犬骨 …… (246)
図94　上層包含層出土遺物（１） …… (247)
図95　上層包含層出土遺物（２） …… (248)
図96　遺跡地割変遷図　とじ込み …… (251)

表　目　次

表１　遺物観察表 …… (253)
表２　獣骨分類表 …… (280)
表３　加工骨分類表 …… (297)
表４　貝類分類表 …… (301)

写真図版目次

図版１　調査地から海岸を望む。古代排水溝。２面全景。…… (314)
図版２　土壙墓。溝214内ヒト下顎骨とアカニシ出土状況。井戸４全景。井戸４井戸枠。 … (315)
図版３　土壙28。土壙18。…… (316)
図版４　土壙18内かわらけ出土状況。１ｂ面全景。方形竪穴建築址１全景。…… (317)
図版５　方形竪穴建築址１。１ａ面全景。１ａ面道路。１ｂ面下かわらけ出土状況。…… (318)
図版６　１ａ面泥岩敷遺構。１ａ面道路面上イルカ椎体出土状況。
１ａ面溝９内ハナゴンドウイルカ出土状況。１ａ面ウマ顎骨。…… (319)
図版７　出土遺物――土師器、須恵器坏・坏蓋、須恵器甕片。…… (320)
図版８　出土遺物――かわらけ。…… (321)

図版９　出土遺物――かわらけ …… (322)
図版10　出土遺物――異形かわらけ、火鉢、土錘、すりかわらけ …… (323)
図版11　出土遺物――瓦質・土器各種、伊勢系土鍋、土釜、瀬戸内系土器碗、
瓦器、黒縁皿 …… (324)
図版12　出土遺物――瓦 …… (325)
図版13　出土遺物――こね鉢、すり鉢、常滑甕 …… (326)
図版14　出土遺物――常滑小壺・皿、渥美、山茶碗 …… (327)
図版15　出土遺物――瀬戸 …… (328)
図版16　出土遺物――舶載磁器 …… (329)
図版17　出土遺物――舶載陶磁器 …… (330)
図版18　出土遺物――鉄製品、石製品 …… (331)
図版19　出土遺物――磨り常滑、硯・硯石、各種石材片 …… (332)
図版20　出土獣骨――ネズミ、ウサギ、ネコ、イヌ …… (333)
図版21　出土獣骨――ウマ …… (334)
図版22　出土獣骨――ウシ …… (335)
図版23　出土獣骨――イノシシ、シカ、解体痕の残るウマ …… (336)
図版24　出土獣骨――溝９内出土ハナゴンドウイルカ …… (337)
図版25　出土獣骨――イルカ、アシカ …… (338)
図版26　出土獣骨――サメ科、マグロ類、マダイ、コショウダイ、アンコウ、
カツオ、カジキ類、ウミガメ …… (339)
図版27　出土獣骨――鳥類、ヒト、解体痕のあるヒト …… (340)
図版28　出土遺物――骨製品、加工骨残片 …… (341)
図版29　出土遺物――加工骨残片 …… (342)
図版30　出土獣骨――溝214出土各種獣骨 …… (343)
図版31　出土貝類――溝214出土アカニシ …… (344)

第一章　調査の概要

第一節　調査に至る経緯

鎌倉市由比ガ浜三丁目229番外地点における個人住宅併用共同住宅の建築申請にともない、鎌倉市教育委員会は長谷小路周辺遺跡地内に位置する申請地において、平成２年６月25日より同29日までに埋蔵文化財確認調査を行い、濃密な中世に属する遺物と遺構を発見し、建築工事にさきだって発掘調査による埋蔵文化財の記録保存が必要であると認めた。これを受けて、教育委員会文化財保護課と建築施主である二階堂昌喜氏との協議の結果、個人住宅相当分を国庫補助事業として、共同住宅分を原因者負担事業として発掘調査を行うこととなった。

発掘調査の対象は建築工事範囲320㎡であるが、このうち150㎡が国庫補助事業対象地、残りの170㎡が原因者負担対象地である。今回報告の発掘調査対象は発掘された遺跡地のほぼ半分に相当する調査成果であるが、それを過不足なく説明するため、残りの170㎡分についても加味している。

現地調査は、重機をもって表土を取り除いた平成３年７月15日よりはじめ、同年12月28日に終えた。この間、施主である二階堂家をはじめ周辺住民と工事関係者の方々のご理解とご助力を賜り、無事調査を終えることができた。ここにお礼を申し上げさせていただく。

第２節　調査体制

調査にあたっては以下のごとく体制を編成して行った。

主任調査員　宗臺秀明（立教大学非常勤講師・鎌倉考古学研究所）

調査員　　宗臺富貴子（鎌倉考古学研究所）

調査補助員　佐藤仁彦、菊地正明、小野和代、渡辺弘子、田中千江、瀬川美樹子、兼行侃枝、橋爪猛。馬瀬直子(整理作業のみ)。調査協力者　歌川　明、川上竜二、関根のり子、石橋慎司、本多克仁（以上、専修大学学生)。瀬川嘉洋。

作業員　川村四志男、寺平義夫、高橋作造、箕田孝善、渡辺鉄雄、長島三男、斉藤政蔵、松崎靖弘（以上、社団法人・鎌倉市シルバーセンター)。

このほか、現地調査中および整理作業途上において、多くの諸先生方よりご助言、ご指導をいただくことができた。特に金子浩昌先生においては、２度にわたり遠路鎌倉まで足を運んでいただき、出土獣骨の分類を確認していただくなど、御指導を賜った。記して諸先生方に御礼申しあげます。

第３節　調査の成果

表土を重機で取り除いた後、生活地業面をたよりに上層より手掘りにて調査を進め、最終的に４枚の生活地業面と生活面を確認した。このうち、より上層に位置する３枚の生活地業面は中世、最下位の生活面は古代に属する。

古代の面およびその文化層からは、８世紀代を中心とする土器が数多く出土する一方、縄文土器片や10世紀代の土器も出土した。生活面は、調査区の南東部に、茶褐色粘質砂層上面に発見できた。この土層は本遺跡地周辺の多数の遺跡にて中世の遺構が遺されていた土層下に湿地堆積腐植土層として確認され、８～10世紀代の土器片や墓がみつけられている。本遺跡の茶褐色粘質砂層もそれらと同様のものと考えられる。またそうした湿地堆積土の堆積状況とその海抜高の勘案から旧地形の復元を可能ならしめるものと考えられるが、本遺跡地において発見された茶褐色粘質砂層とその上面に確認できた古代の生活面は、旧地形復元とともに人文地理的にも古代の人々の生活を知る一端を示している。調査区の南東に発見された生活面に遺されていた遺構は、湿地堆積土という土地に人々が暮らすため、生活面の限界部に排水溝を設置していた。

中世期に属する生活地業面は３枚発見されているが、上位の２枚は近接した時期に造作されたものあったので、上位２枚を１ａ・１ｂ面とし、３枚目を第２面とした。第２面から第１ａ面までの中世は、およそ13世紀中葉から14世紀後半までの約120－130年ほどの期間の人々の生活跡が遺されていた。

中世期の調査では、調査区全域に遺構が数多く発見されたが、その多くは同一地点に何度も重複して作られた溝であった。それらの溝は、それぞれが決して長大なものでなかったものの、幾度も同一地点に作り変えられたことから推して、地境の役割をはたしていたと考えられた。また最新の第１ａ面では破砕泥岩を用いて舗装された道路が発見された。

多くの地境溝と道路を重ね合わせると、調査区内がいくつかの区画に分割されていたことがわかり、その区域分割が道路遺構の有無にかかわらず、中世最古期の第２面から最新の１ａ面まで、ほぼ変りなく維持踏襲されていた。ただし、第１ａ面での道路の出現は区画分割の中でのオリエンテーションの変化があった可能性を残してはいる。

このような地割の様子のほかに、中世期の調査から得られた大きな収穫に遺跡地内での動物の解体から獣骨利用の骨細工に至る中世の工芸活動の一端を詳細に窺い知る資料群があげられる。

出土したゴンドウクジラ、ウシ、ウマ、イノシシ、シカ、ウサギなどの大型から小型の哺乳類、魚類、鳥類の骨に遺された解体痕が獣肉の解体と切り分けを示し、骨細工を示す加工された獣骨の種別と部位別の取捨選択に加えて骨材の厳密な利用法は、熟練した工人の存在を明示している。また他の部位に比べて頭骨の出土点数の少なさと、多数の軽石やすり石の出土は、解体後の獣皮のなめし作業を示すものであろう。

第二章　遺跡地の概要

第１節　歴史地理的環境

神奈川県鎌倉市の南東に位置する鎌倉の旧市街地は、八幡宮を頂点とする三角形状の沖積地および南の相模湾に面した砂浜地と、それらを取り巻く多くの谷戸地と滑川低地から形成されている。その三角形状の沖積地を、八幡宮から南の海浜に向けて、南北に貫く主要道路が若宮大路である。若宮大路には、八幡宮社頭より海浜に向けて三つの鳥居が建てられている。もっとも海浜に近い一ノ鳥居より北方200メートルほどの地点にて、国道134号線が若宮大路を横切っている。この交差点は、現在下馬四ツ角と呼称されているが、かつての下の下馬であり、国道134号線は大町大路であったろうと考えられている。

大町大路は、中世鎌倉の要害である東の名越の切り通し、西の極楽寺坂へ至る東西交通の要路である。大町大路に、寿福寺前から南北に通る今小路が接する。ここを今は六地蔵と呼び、この六地蔵より西の大町大路を長谷小路と呼称している（『鎌倉市史』、ただし『吾妻鏡』にはない地名）。

遺跡地は、六地蔵から南へ100メートルほど行った市道に面している。この市道は『鎌倉市史』において、采女塚を切崩したとある道路であって、近年の造作による。中世期に限れば、現在の国道134号線を大町大路・長谷小路とすると、六地蔵から西へ150メートルほど行った地点で南東に20メートルほど入った位置に遺跡地があることになる。

長谷小路付近における他地点での調査によれば、海浜より連なる砂丘帯の最深部である長谷小路以南には、砂丘とその後背湿地とが交互に存立し、後背湿地が乾陸化する過程において古代の生活址が遺された。また六地蔵の北方200メートルほどに大きく東に開いた谷戸には奈良時代の鎌倉郡衙に比定される御成小学校地点が位置している。

他方、砂丘部には先に記した采女塚をはじめとする向原古墳群が存置していた。現在では、和田塚と称される采女塚がその一部を残すのみである。

この采女塚はまた近世においては無常堂塚とも呼ばれ、それ以前にはこの付近にお堂が存在していた可能性を示唆している。近世以前の中世における長谷小路の南一帯においては、乾陸化した砂丘後背湿地上に黄白色砂が堆積し、それを基盤層とする多くの遺構・遺物が発見されている。必ずといってよいほど発見される半地下式の方形竪穴建築址遺構にともなって出土する遺物には骨製品未成品、鞴口、スラグ、獣骨切断片が多量にある。これらの出土遺物は、長谷小路周辺に職能民たちが活動していた様子を窺わせている。

註　1)最近の調査成果は『鎌倉市史』が記すように、現在の国道134号線はかつての砂丘頂部の自然道を踏襲したものと考えられ、かつての大町大路・長谷小路も同様であったろうことを示している。宗臺『今小路西遺跡－由比ガ浜一丁目213番３地点－』　近刊。

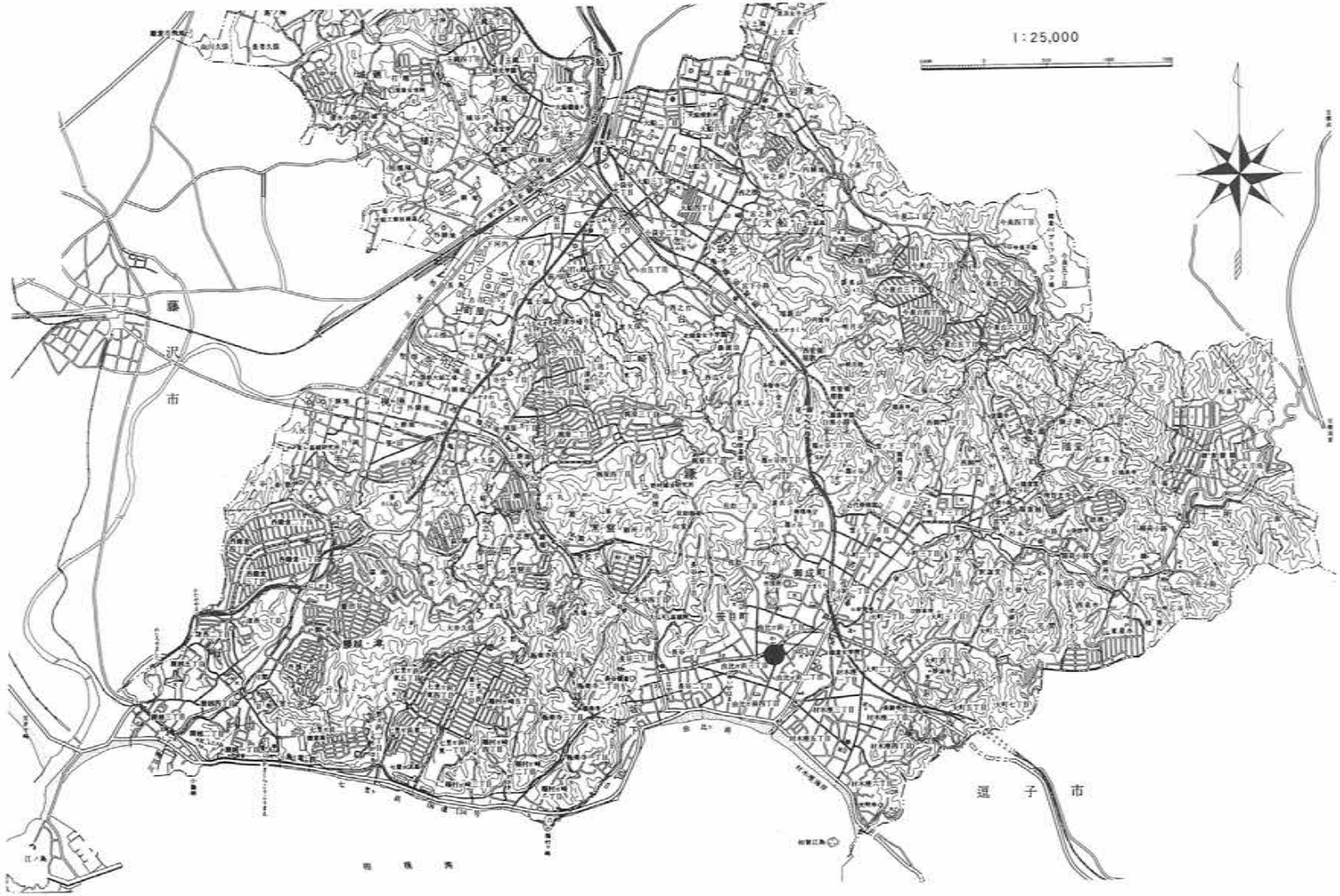
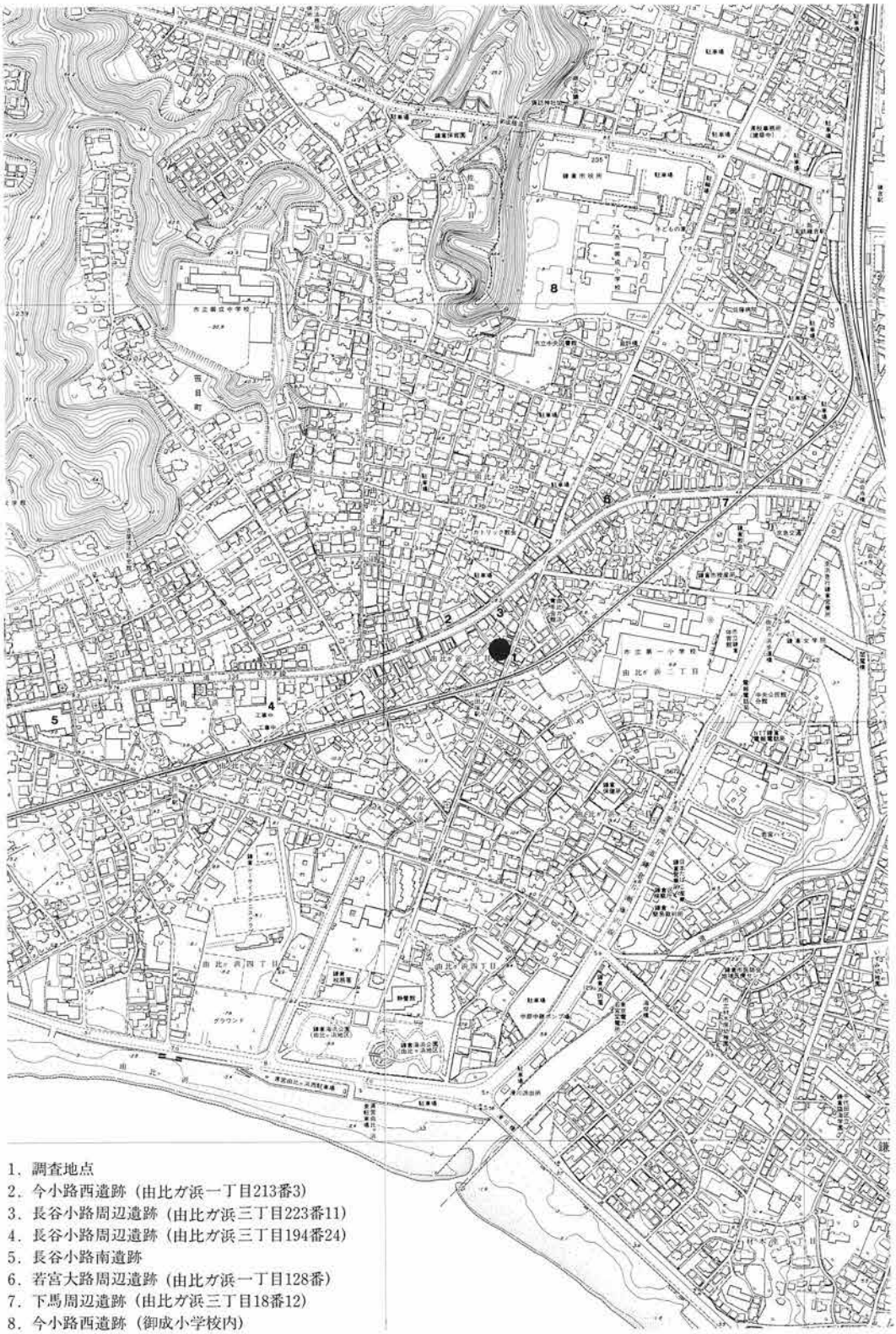


図1　鎌倉市全図と調査地点



1．調査地点
2．今小路西遺跡（由比ガ浜一丁目213番3）
3．長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目223番11）
4．長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目194番24）
5．長谷小路南遺跡
6．若宮大路周辺遺跡（由比ガ浜一丁目128番）
7．下馬周辺遺跡（由比ガ浜三丁目18番12）
8．今小路西遺跡（御成小学校内）

図２　調査地点周辺諸遺跡

第2節　調査地点

中世においては長谷小路の南20メートルほどに位置する調査地点であるため、発掘調査にあたっては、長谷小路の軸線を調査の基本に据えるべきであったが、当の長谷小路が調査地点付近において屈曲しているため、認意の測量基点を設けざるをえなかった。調査区内に実測用に設定した方眼も測量基点同様認意のものとし、調査地の南東に面する比較的新しい市道の側道線から設定した。

設定した方眼は2メートル単位とし、南北軸に算用数字を、東西軸にアルファベットを北西隅を基点として付した。方眼各区の名称は北西隅の交差点をもって呼称した。

調査地点の土層堆積は、現地表下60～90センチ下方よりはじまる中世後期の遺物包含層下、海抜高7.5～8メートルに中世前半から後期初頭の生活地業面と、古代における砂丘後背湿地に堆積した粘質砂層が主要な文化層をなしている。粘質砂層下には湿地形成以前の海成白黄色砂層が厚く堆積している。

図4には調査区の南壁の東西方向における土層堆積状況を示した。本土層図の北西方向に長谷小路が位置している。堆積土層は、中世文化層において北西から南西へ向って下がる傾斜をしめし、逆により下層の白黄色砂層は南東から北西へ向けて下がる。これらの間に堆積している挿図中の第6層は南東に薄く、北西に厚く認められる。この第6層は先に記した砂丘後背湿地の腐植堆積土である。

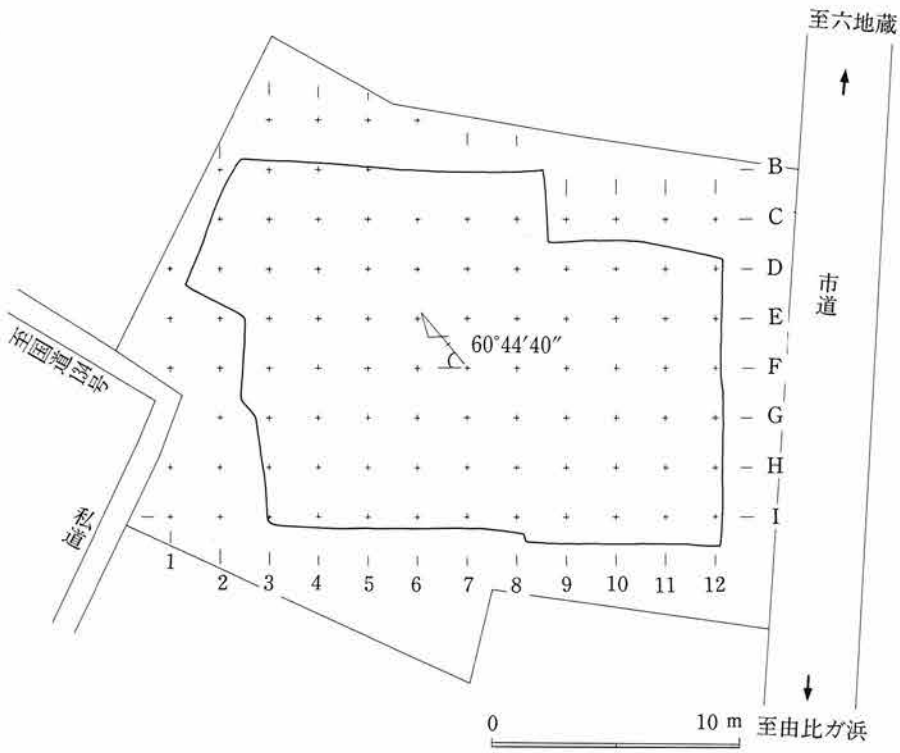


図3　調査区および方眼設定図

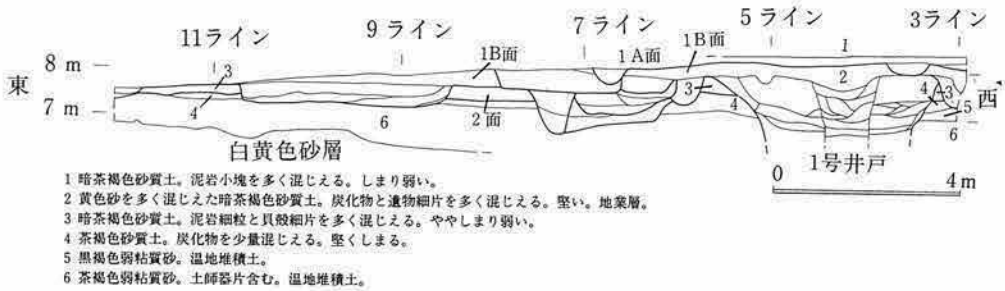


図4　調査区南壁東西方向土層図

遺跡地にみられたこのような堆積状況は、海成の白黄色砂層の堆積、つまり当地における砂丘形成に対応したものと理解できる。すなわち、北西に下がる砂丘後背湿地と調査区より北西ないし西方に位置する砂丘堤の長谷小路との間に調査地が位置し、調査区西外において白黄色砂は高位へと傾斜しているものと考えられる。そうした低地に第6層の湿地堆積土が北西ほど厚く堆積し、中世期になると、より西方の高位にある長谷小路に合せるように、西ほど高くされたと考えられよう。

第三章　発見された遺構と遺物

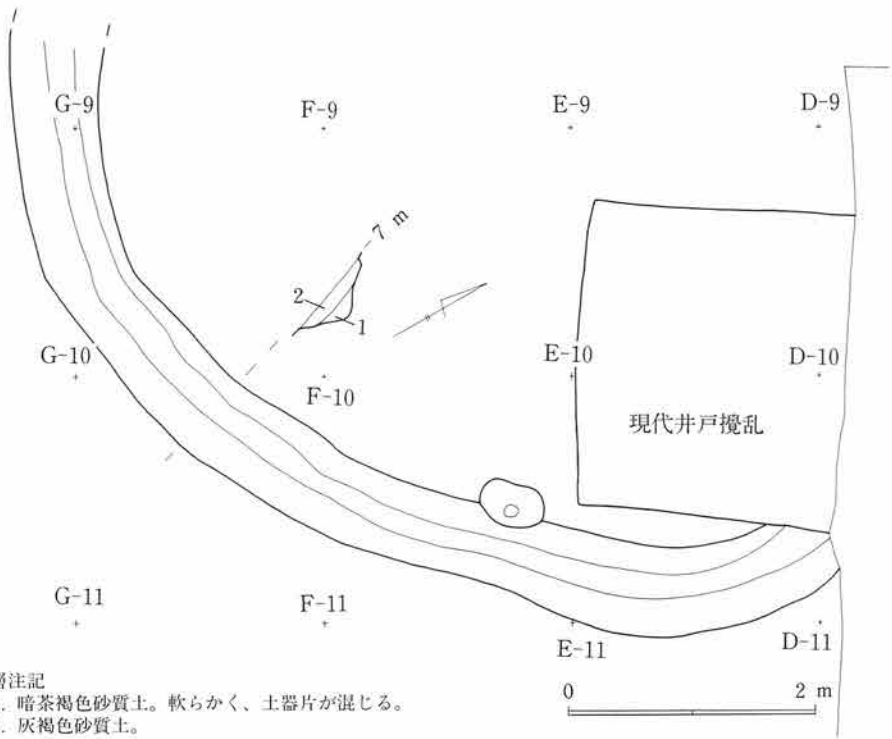
前章までに述べ記してきたように、調査区内に発見された生活面は、実際の発掘調査によって上層より順次発見された順に番号を付している。すなわち、最上層の生活面を１ａ面としている。しかし報告にあたってはより古い時代より時代を下るように記してゆきたい。それによって調査地点の歴史的推移をより良く理解できるものと思うからである。

第１節　中世以前

中世以前の生活面が認められた地域は、調査区の東側部分のみで、それもやがて北西に向けて下がってゆく軟弱なものとなり、調査区西部には確認できなかった。そうしたしっかりとした生活面を残す部分と軟弱な部分との境に浅い溝が発見された。

溝は上幅75センチ、深さ25センチのゆるいＶ字状をなす。溝の規模と位置する場所の状況からみて、溝より南東にある生活面を良好に維持するための排水溝と思われる。出土遺物は少なく、細片であるが、土師器の甕がおおよその年代指標となり、奈良朝期としえよう。図６－３は土師器としてあるが、あやしい。

溝の東側にあたる高位の生活面上および包含層から、多くの遺物が出土している。ただほとんど



土層注記
1．暗茶褐色砂質土。軟らかく、土器片が混じる。
2．灰褐色砂質土。

図５　古代層発見遺構

が細片であり、図に示した実測図は全て復元口径である。図６の下段に須恵器を、図７に土師器をおおかたの年代観と器種別に掲載した。

須恵器では蓋受けの付く坏を指標とする７世紀前半以降８世紀代を中心とし、底部糸切りで断面箱形をなす坏を指標とする10世紀代平安朝期までの器型がみられる。

他方、土師器では古墳時代初期の五領期の壷・甕が最も古い時期に属するものである。周辺の遺跡においてもやはり五領期の台付甕を最古の出土遺物としており、本遺跡もそれらと同様の様相を示すものと考えられる。ほかには、やはり須恵器と同じく８世紀代を中心として10世紀代までの年代を与えうる。

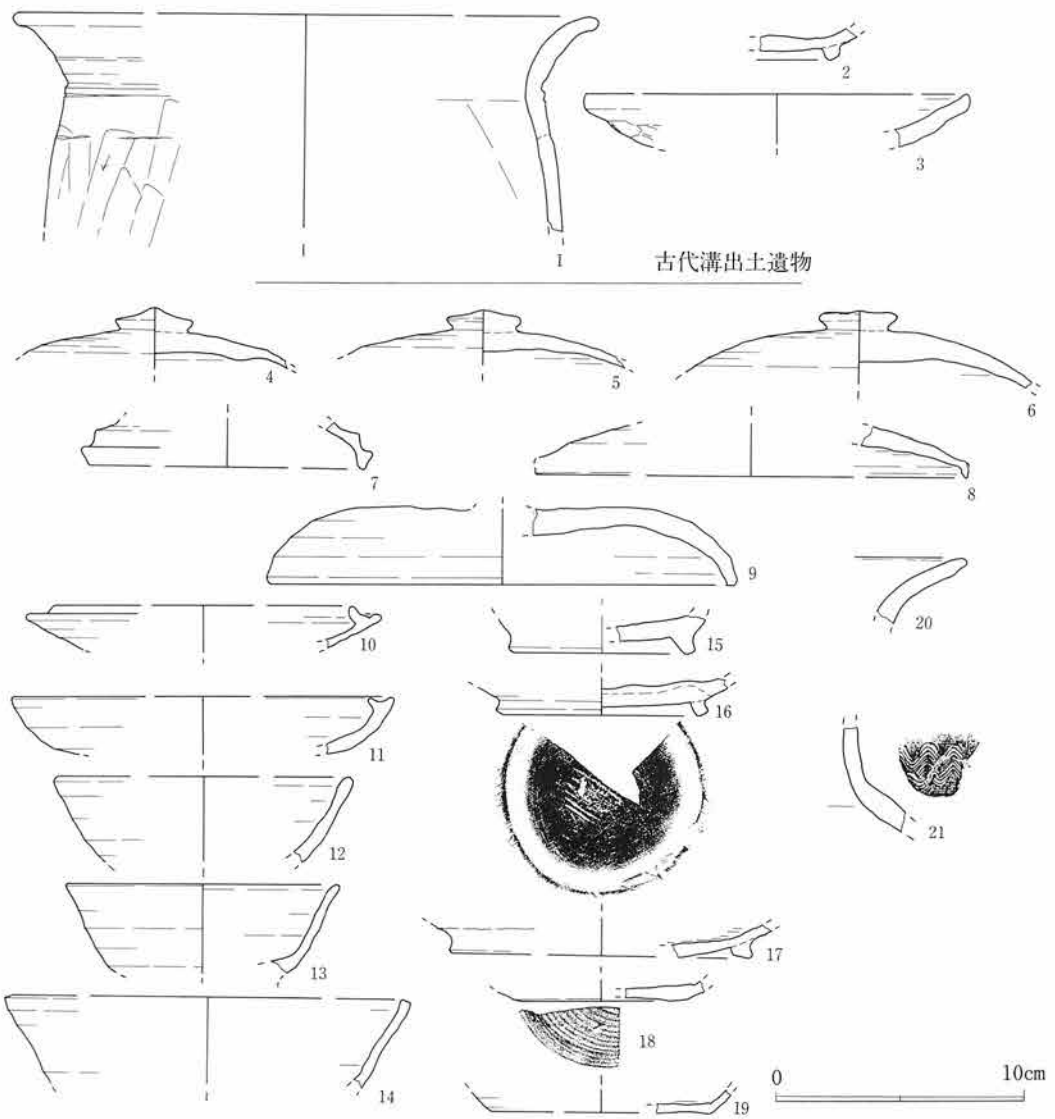


図６　古代溝、古代層出土遺物(1)

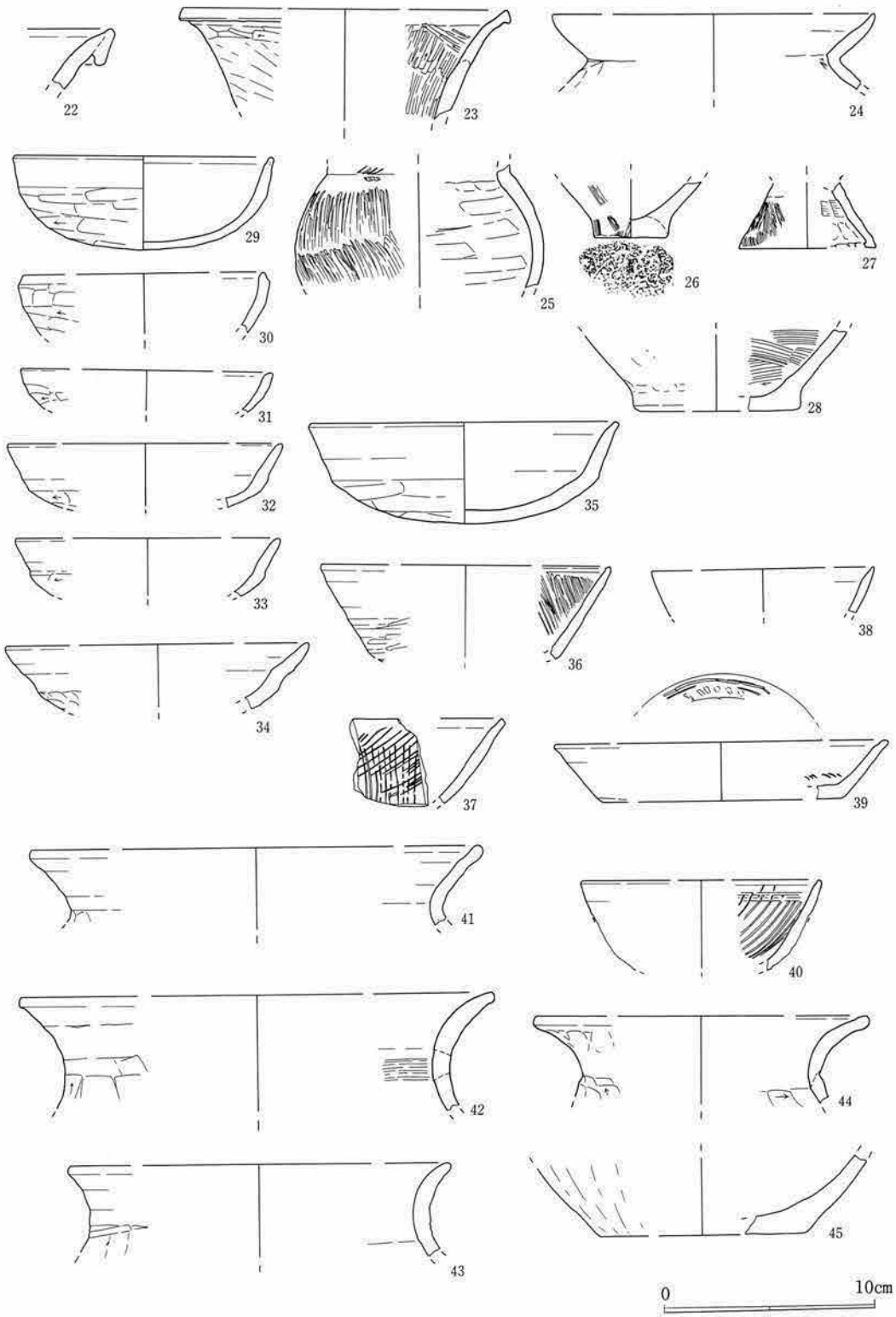

22
23
24
29
25
26
27
30
28
31
35
32
33
36
38
34
37
39
41
40
42
44
43
45
0
10cm

図 7　古代層出土遺物(2)

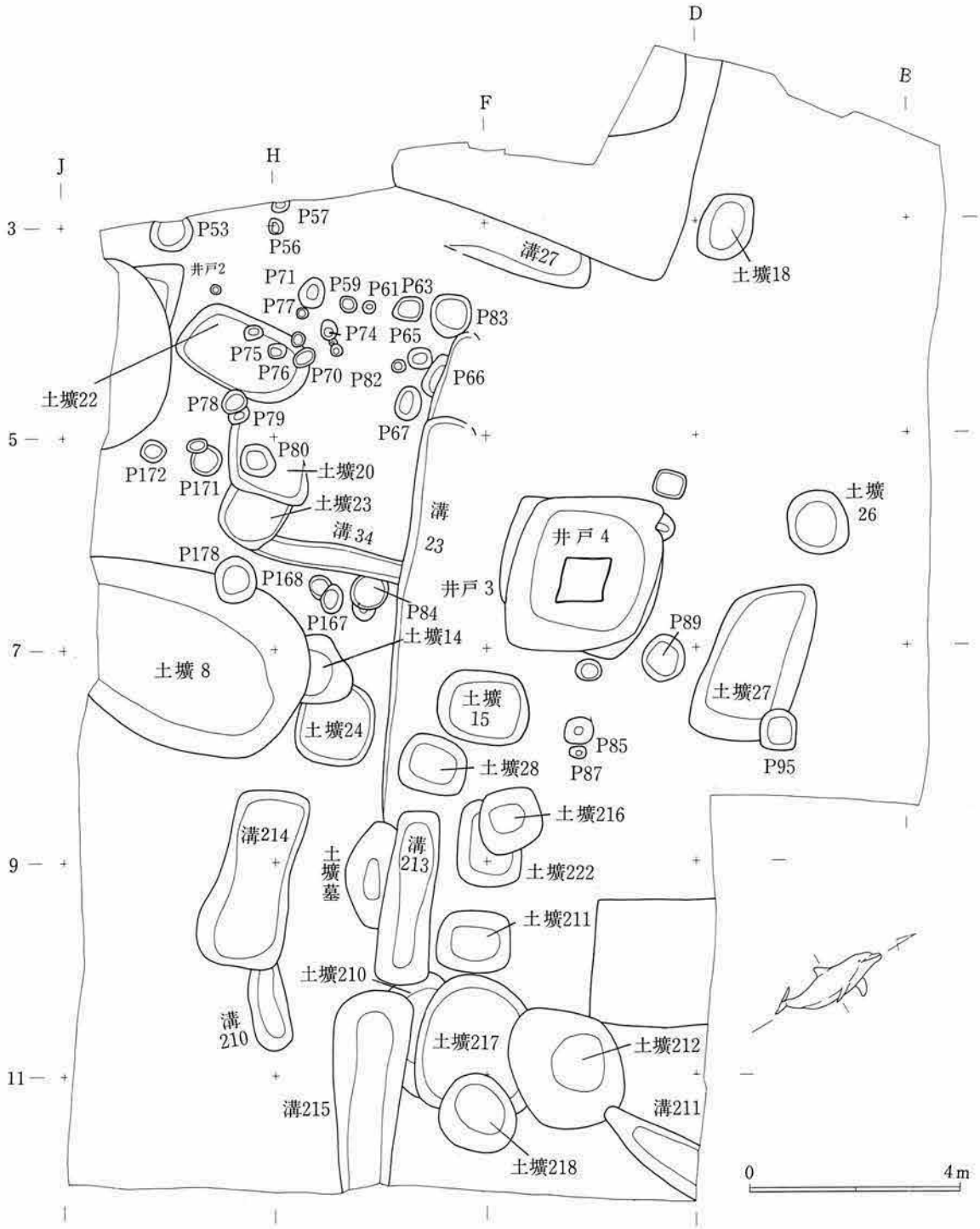

D
B
F
H
J
3
5
7
9
11
井戸2
P53
P57
P56
溝27
土壙18
P71
P59
P61
P63
P77
P74
P65
P83
P75
P76
P70
P82
P66
土壙22
P78
P79
P67
P80
P172
P171
土壙20
土壙23
溝34
溝23
土壙26
井戸4
井戸3
P178
P168
P167
P84
土壙14
P89
土壙8
土壙15
土壙27
土壙24
P85
P87
P95
土壙28
土壙216
溝214
土壙墓
溝213
土壙222
土壙211
土壙210
溝210
土壙217
土壙212
溝215
溝211
土壙218
0
4m

図8　2面全体図

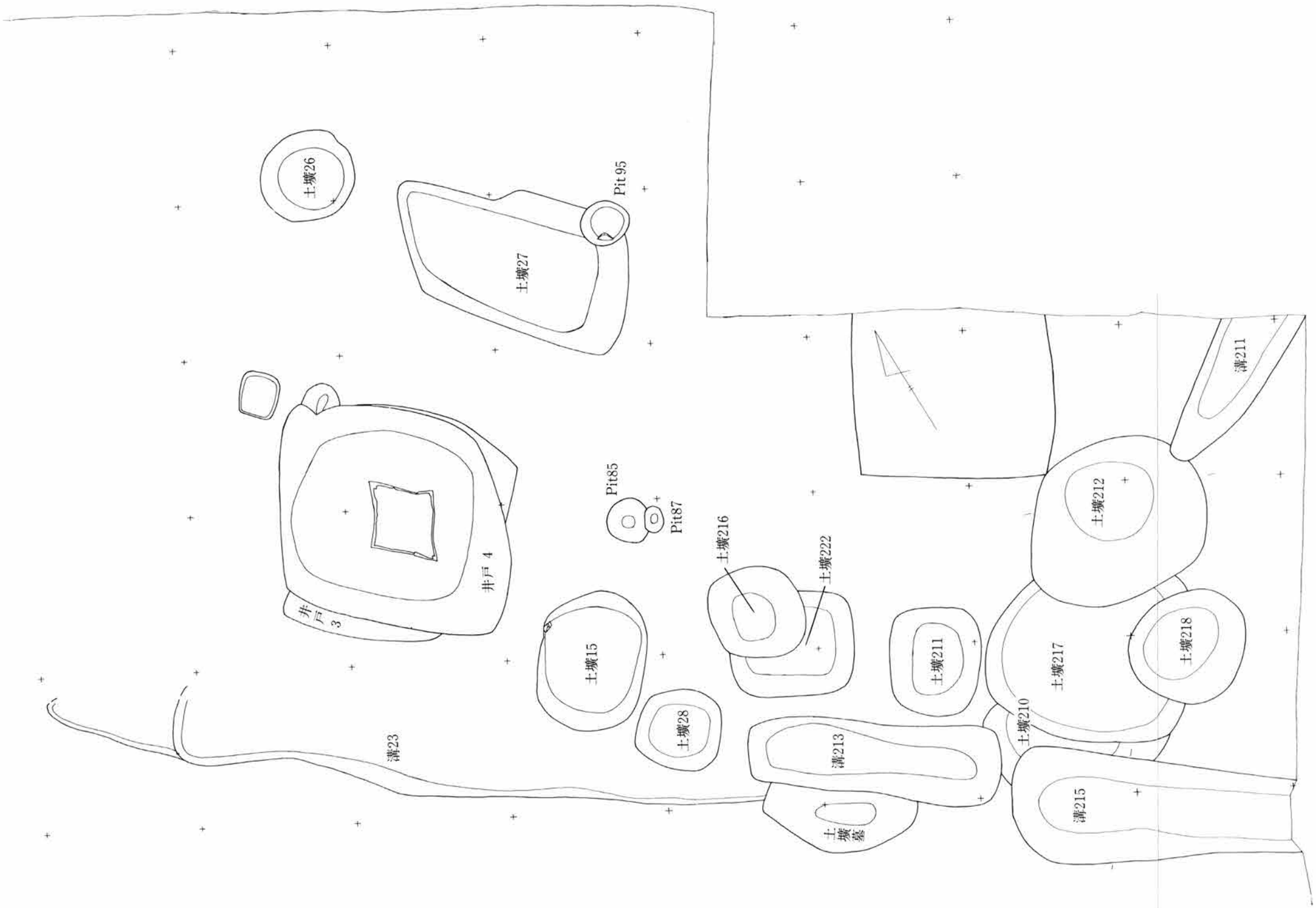

土壙26
Pit 95
土壙27
井戸 4
井戸 3
Pit85
Pit87
土壙216
土壙222
土壙15
土壙28
溝23
溝213
土壙墓
土壙211
土壙210
土壙217
土壙218
土壙212
溝211
溝215

図9 2面1区 1/60

第2節　中世

中世に帰属する生活面は3枚発見され、下層より第2面、第1b面、第1a面が、ほぼ調査区の全域にわたって確認できた。ただし、第1a面のみは、調査区の東側において不明瞭となり、第1b面の上にわずかに遺物包含層が載るのみになってしまう。これはすでに前章の土層説明にて記したように、調査区内の中世生活面が西方の長谷小路に合わせて地業されていたことに起因するもので本遺跡の最新の生活相は長谷小路により近い地域のみにして営まれたことを示している。第1a面の時代に鎌倉の長谷小路以南の街並の縮小を意味しているのであろう。

さて、このような調査地に発見された中世の遺構の中で溝の多さが目立つ。溝は10メートルを超えるような長大なものはなく、大方は2、3メートルの短いもので、形状からは細長い土壙ともしえる。しかしながら、多くの溝はそれぞれに直交方向にその軸線をもち、その掘られる地点もある程度に限定され、何度も同じ所に掘り返されている。このような溝は、互いに連結はしていないものの、ある区画の地境をなしていることを、遺構の全体的配置をみることで理解できる。

短い溝で区画された地域は、第2面から第1a面を通じて基本的には5ブロックを認めることができる。各ブロックは時間を経ることによって変遷をみせ、第1b、第1a面では破砕泥岩の版築の道路遺構により、区画割りが明瞭なものとなる。

第2面

中世最下面である。区画はⅠ～Ⅳに分けられるが、Ⅰ区はⅡ区をも包摂する敷地内の小区であると思われる。またⅢ区とⅣ区も同様に同一敷地内の小区の可能性を残すが、大型の土壙8が両地を分断するように位置し、これほどの大きな土壙を敷地の中央付近に掘るものか疑わしく、その脇にある溝34をもって地境とした。

Ⅳ区西方とⅠ区の南西に位置する溝27は、Ⅳ区とⅠ区を区切るものと思われたが、現地調査において、より南西へ向けた延長を明瞭につかむことはできなかった。

以下、区画ごとに詳述する。

Ⅰ区

Ⅰ区は、溝23・213・215で区画された調査区の北半分を占める。溝211は他の溝と方位が異なるものの、一時的にⅠ区の東を限っていた可能性がある。このⅠ区は全時期を通して最大の敷地を有するが、遺された遺構は調査区の中央あたりから東部に多くが位置する。

地境溝脇、区画の南東部には矩形をなす土壙が一定の距離をおいて東西に並ぶ（土壙15・222・211・218）。これらの土壙群のラインはピット85と95のラインと直角に交わるが、後述するように土壙群の性格は敷地隅に掘られたゴミ穴と理解できる。他方、土壙群の西には同位置に2度にわたる井戸（3、4）が掘られ、このあたりから遺構は減少する。さきのピット85・95と土壙15は、土壙群のある地域と井戸址のある地域とを小区分する目かくしかもしれない。

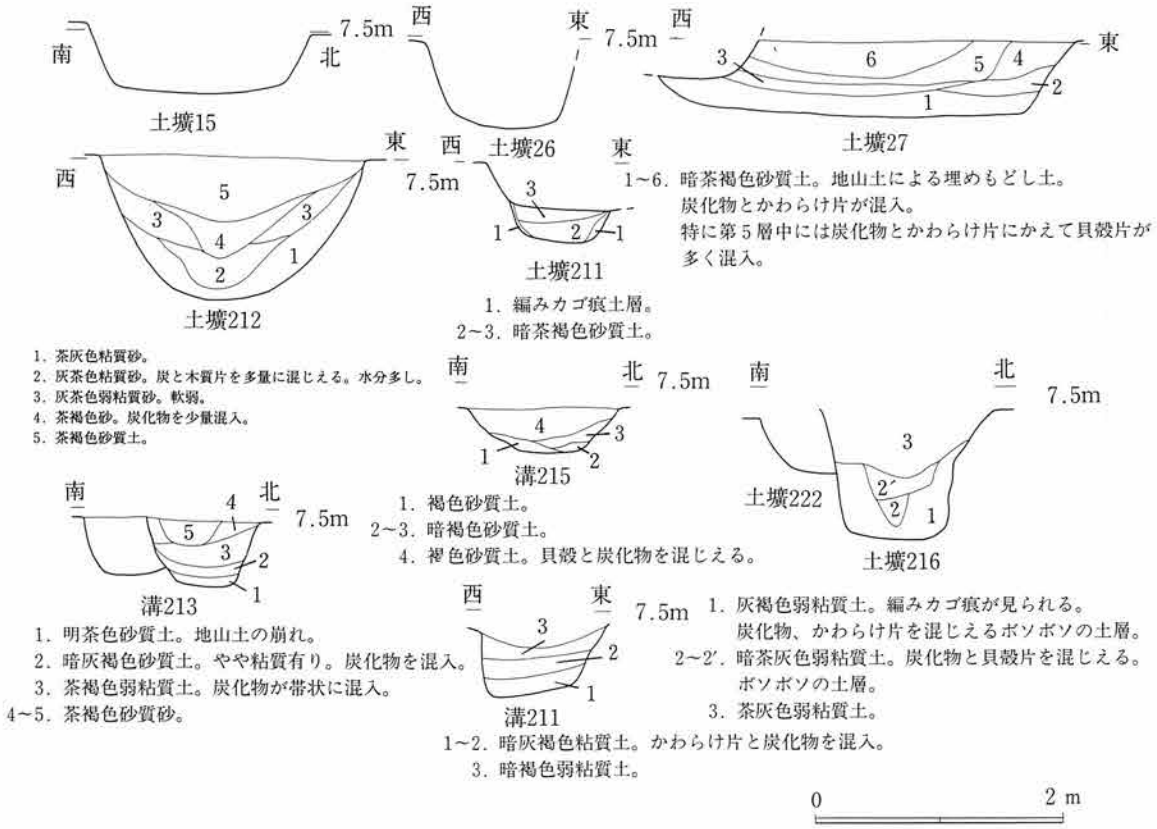


図10　2面Ⅰ区　土壙と溝の土層図

井戸

Ⅰ区中央付近に発見された井戸址は、同一地点における掘り直しによる2基がある。井戸3号と4号である。両井戸址の新旧関係は、3号が古く、その掘り直しが4号で新しい。井戸址の発見は、後述される第1b面の溝18の調査時に、溝の底面と東の立ち上がり部分にて3号井戸が最初に確認された。その後の調査の進展にともない、4号井戸を確認した。

図11に掲げた土層に3号と4号井戸の切り合い関係と覆土堆積を示した。調査では地下水の上昇によって、最下層まで掘りあげることはできなかったが、3号井戸覆土中にみられる炭層は、3号井戸址使用中になんらかの火災による埋没を示している。4号井戸は3号井戸の更新をはかって、同一地点にやや掘り方の位置をずらして掘り直している。

4号井戸は、一辺2メートル80センチの矩形の掘り方をもつ。確認しえた深さは1メートル80センチである。井戸枠は掘り方のやや東より中央付近に位置する横桟支柱型の木枠である。側板は幅30センチ強の板を一辺に3枚並べて、内側にしっくいの痕跡が薄く認められた。

3号井戸はその掘り方が部分的に調査されただけであるが、その規模は4号よりやや小ぶりであったと思われる。発見された掘り方上幅からの推定で、一辺2メートル20センチの不整矩形をなしていたと思われる。この掘り方北東部の覆土上層からは、手づくねのかわらけがまとまって多数出土している。井戸開削にともなう儀礼に用いられたものであろう（図13－65～102）。

両井戸址出土のかわらけと青磁碗の型式差は13世紀中頃以降の変遷を示す好資料である。

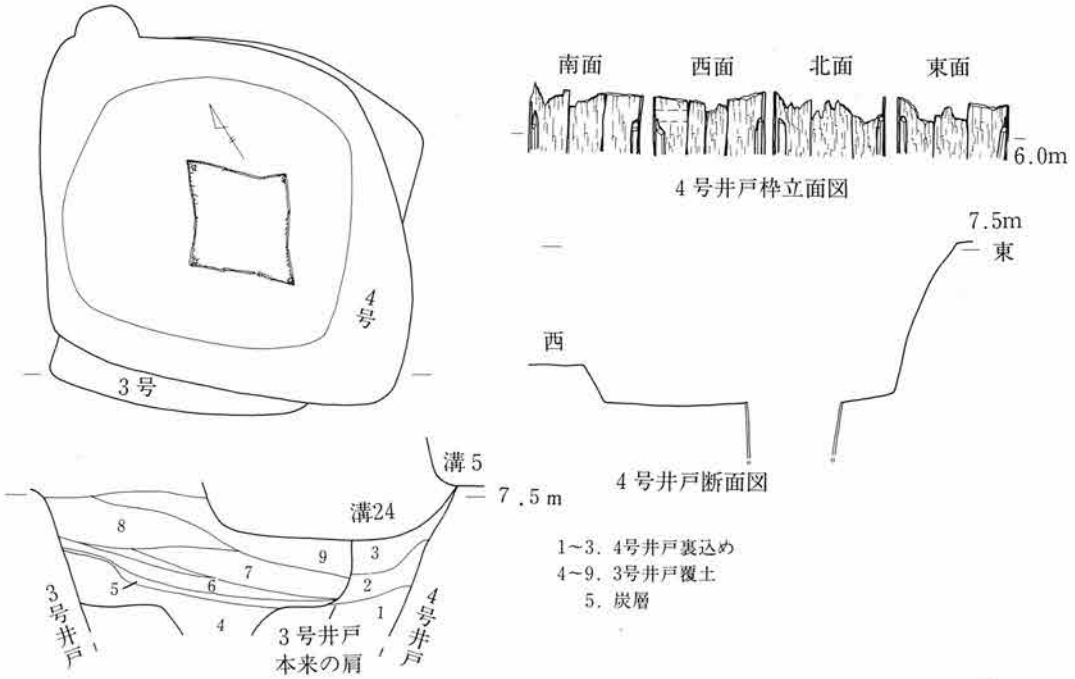


図11　2面Ⅰ区井戸3・4

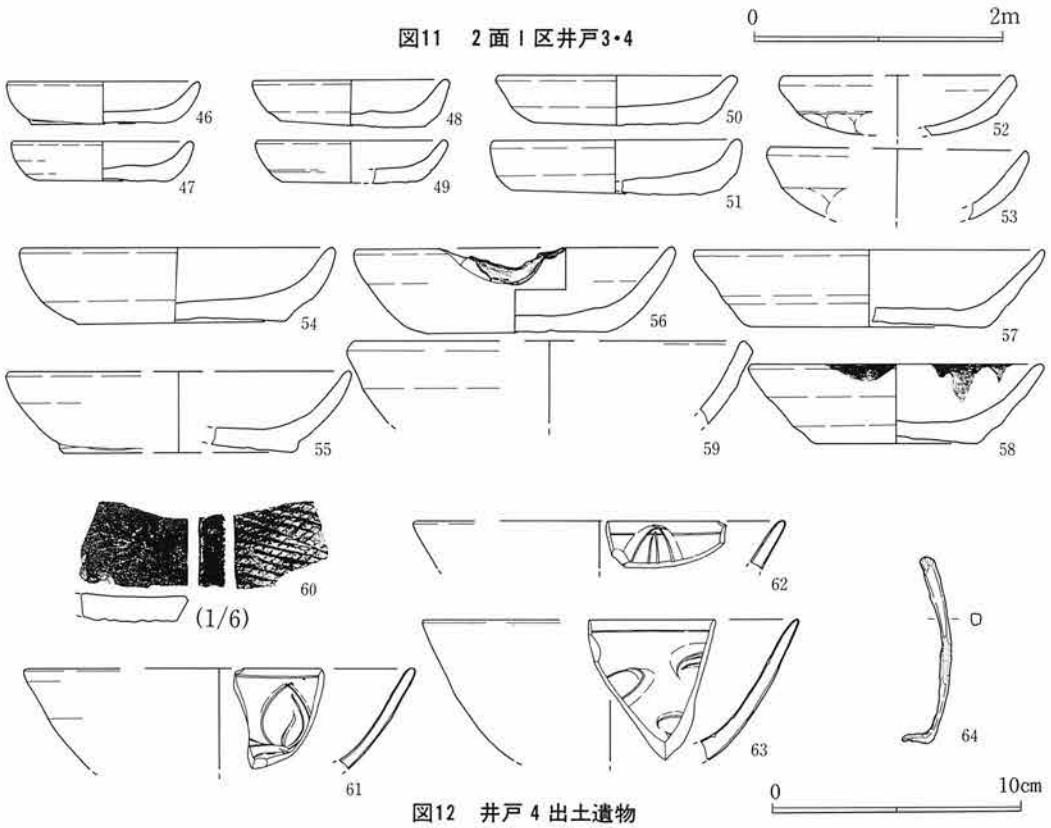


図12　井戸4出土遺物

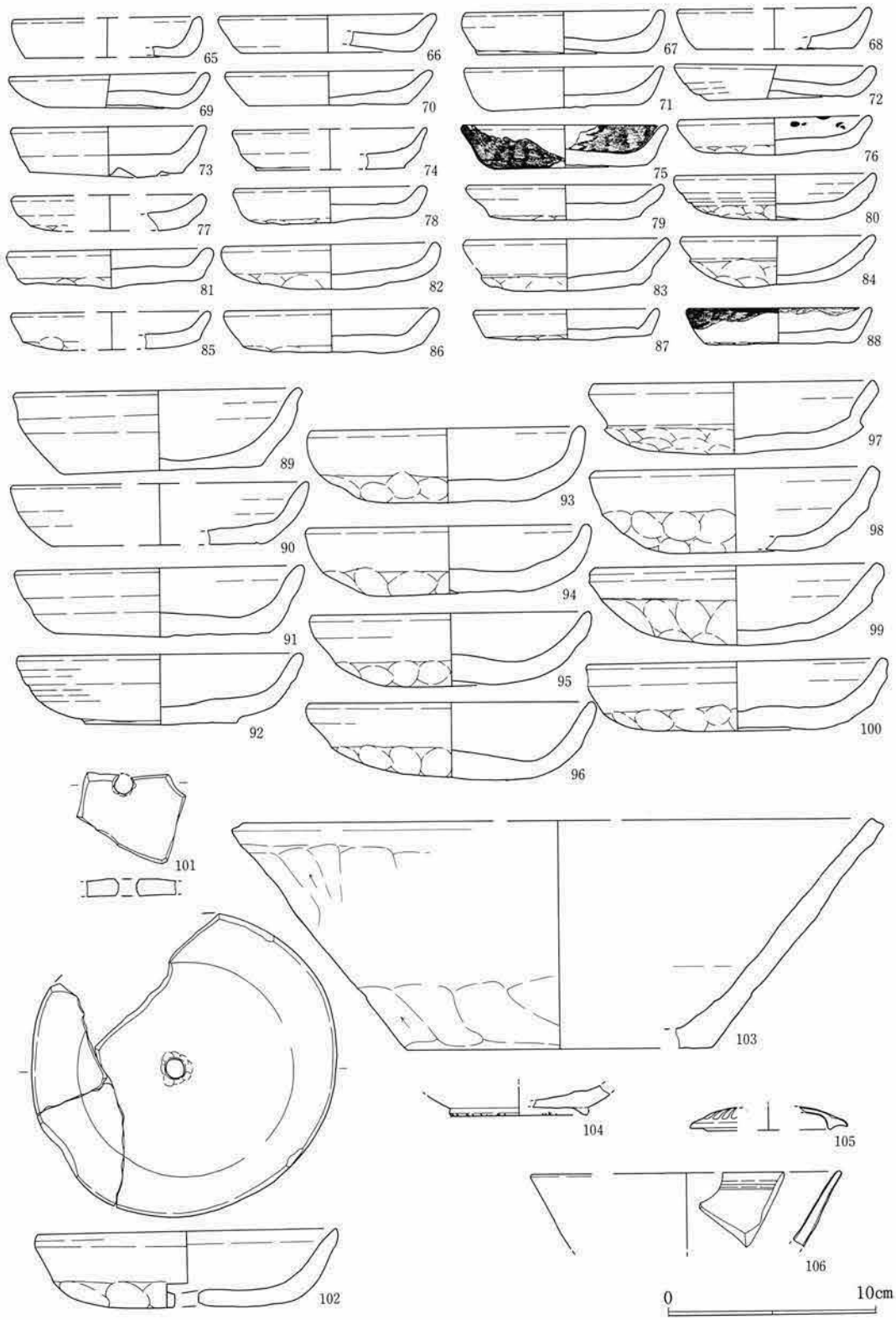

65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
0
10cm

図13　井戸 3 出土遺物

土壙28

隅丸方形を呈する深さ80センチ、一辺110センチ内外の土壙。本土壙の覆土堆積状態はやや特殊で、覆土中に遺された遺物の出土状況は注目される。

土壙覆土掘り上げにおいて、まずアンペラ様の編みものが丸く発見されはじめ、慎重に調査を進めるに従い、編みものの上に獣骨片とかわらけが乗るように出土した。さらに調査を進めると同様に丸い編みものが下層より再び発見された（図14土層図中第７・６層）。編みものの径はほぼ100センチを測る。これらの編みものの土壙内に置かれた状況を土壙断面図にみると、土壙中央に順次積み重ねられるように堆積し、編みものの腐食過程において、土壙の壁が崩れゆく中で、編みものが土壙覆土中に浮ぶように位置することとなった。

本土壙に見られた編みものと獣骨、かわらけの出土状況は、編みもの籠に入れたゴミを土壙に捨てたことを示している。

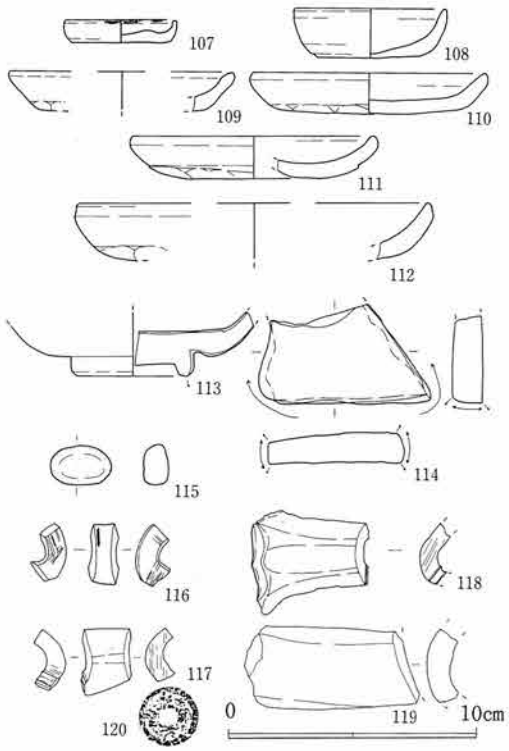
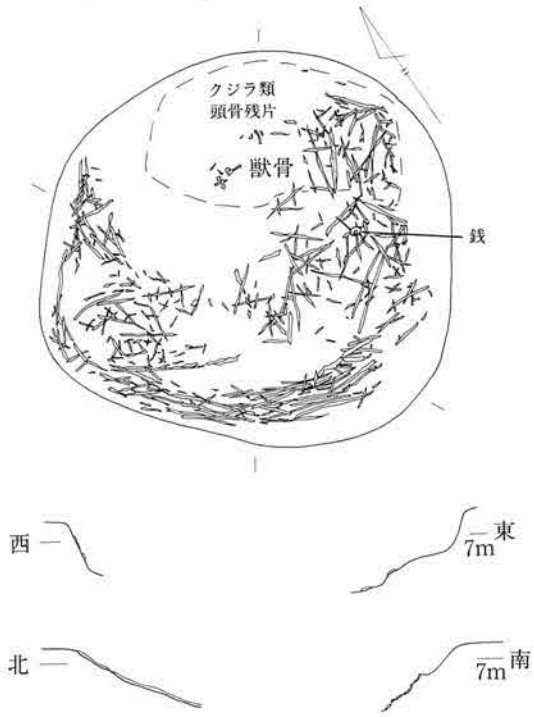
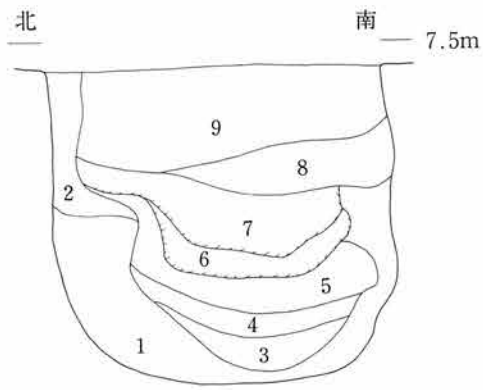


図14　土壙28出土遺物





1．茶褐色粘質土。腐食物を若干含む。
2．暗茶褐色粘質土。炭化物を少量混じえる。
3．暗茶灰色弱粘質土。混入物なし。
4．茶灰色砂質土。混入物なし。
5．暗茶灰色弱粘質土。炭化物を混じえる。
6～7．茶灰色弱粘質土。炭化物を混じえる。7層には泥炭塊。
8～9．茶褐色粘質土。

0　1m

図15　２面Ｉ区土壙28

土壙218

本土壙もアンペラ様の編みものが遺るものである。円形に近い一辺90センチの隅丸方形、深さ68センチを測る。

編みものは、土壙覆土最上層に、やはり丸く発見された。しかし、土壙の発見された位置が、調査区内で最も生活面海抜高の低い調査区東端であったがため、地下水の湧水が多く、精査を行うそばから土が流れてしまい、良好な状態で編みものと出土遺物の関係を把握できなかった。

また、編みものの確認は覆土最上層だけであるが、土層断面においてはより下層覆土が粘質土系であり炭化物も多く混じえることから、下層にも編みものが投げ込まれていたかもしれない。

出土遺物は、編みもの籠との関係は不明ながらやはりかわらけを多く出土している。

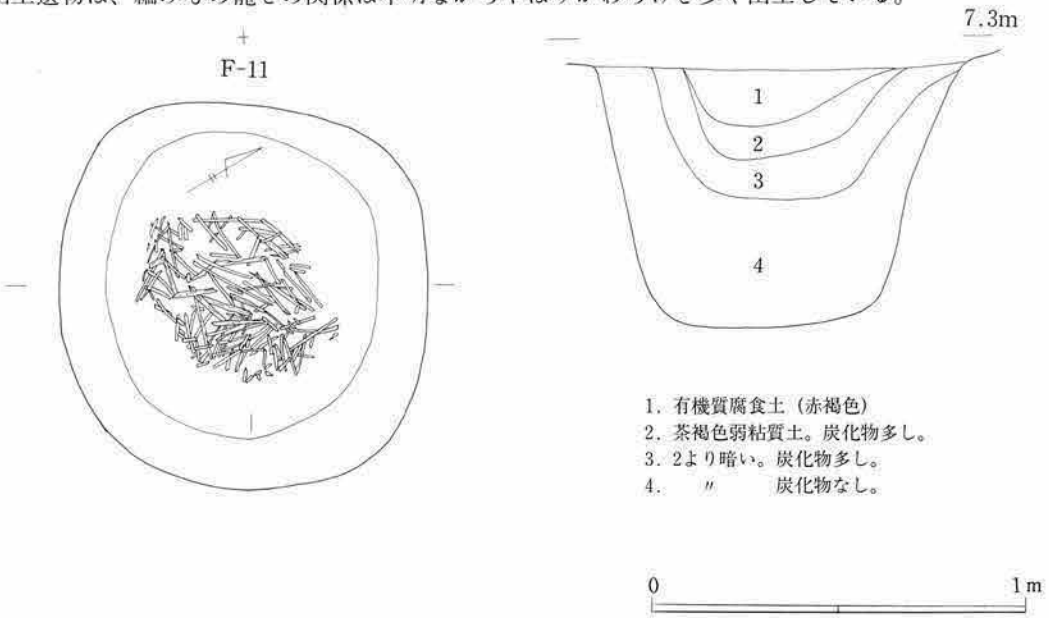


図16　2面Ⅰ区土壙218

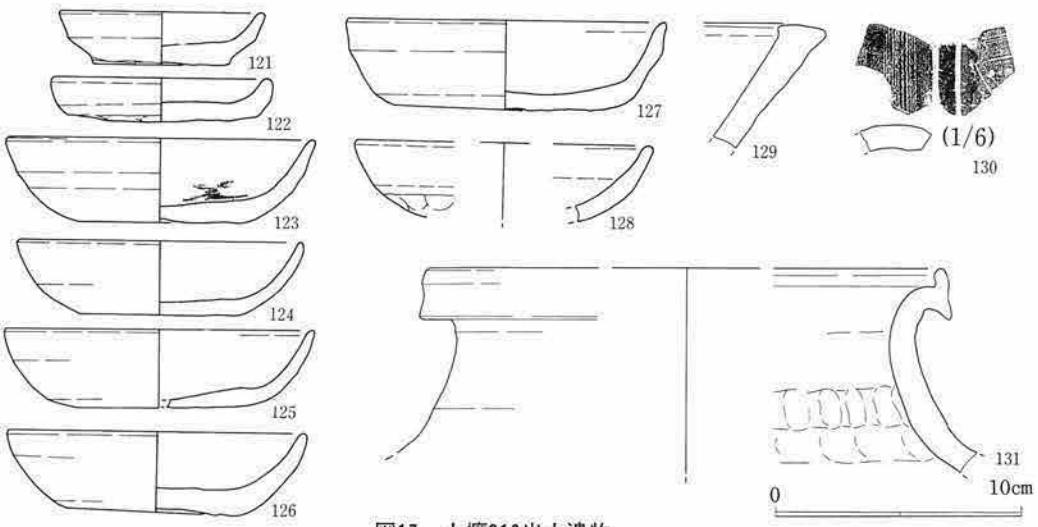


図17　土壙218出土遺物

土壙18

Ⅰ区西端近くに発見された本土壙にもアンペラ様編み籠が確認され、多数のかわらけが出土した。

1×1.2メートルの矩形に、深さ75センチを測る。編み篭は最下層に発見されたが、近辺にある現代井戸撹乱からの湧水が激しく、明瞭な確認はできなかった。編み籠の上面とその付近からかわらけが折り重るように出土した。また覆土を水選

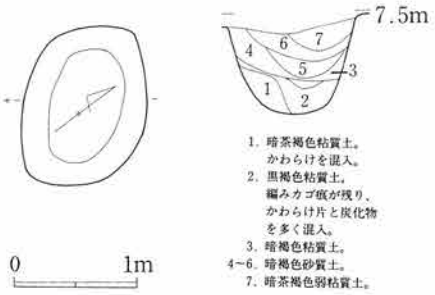


図18　2面Ⅰ区土壙18

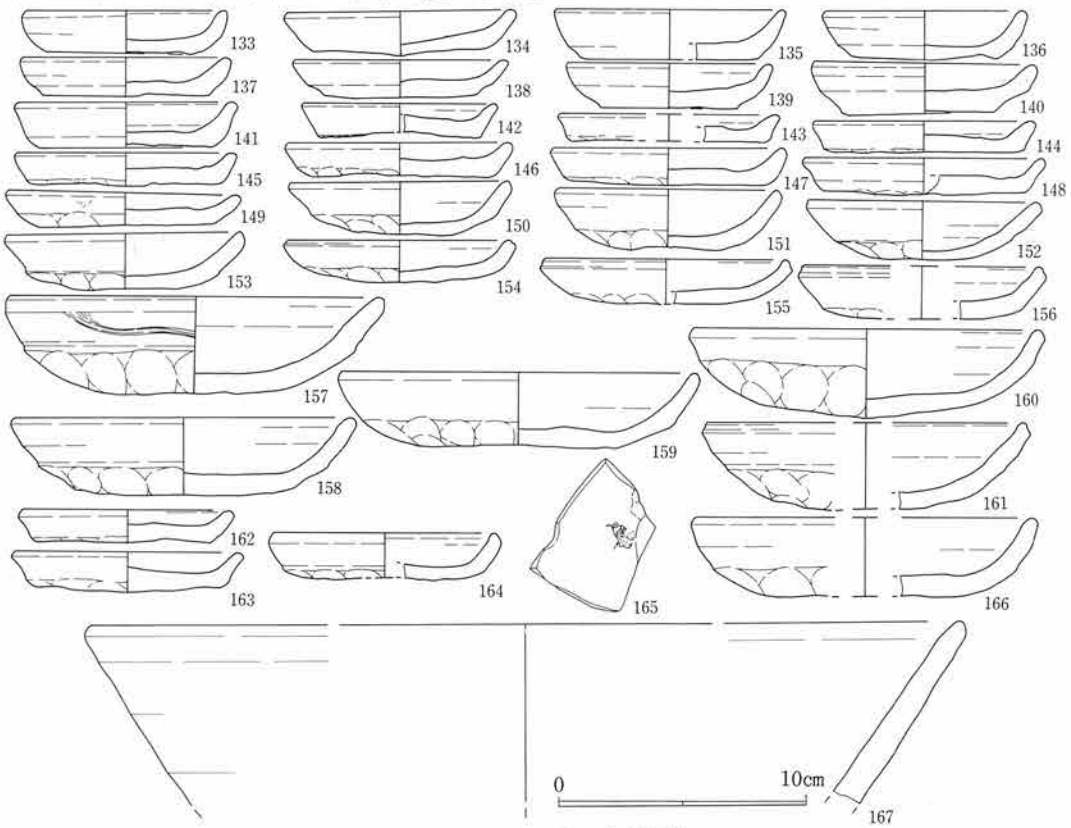


図19　土壙18出土遺物

別したところ、鰯の頭耳骨・主鰓蓋骨、タイとマグロの歯骨、炭化米、種子等が検出された。

出土したかわらけは小型に糸切り底が9点ある他は手づくねにより、大型と小型の構成である。糸切りは底径口径比が小さく浅い。手づくねでは口縁から口唇のぼってりとした厚手がなく、底部とヨコナデ部との境に強い屈曲を持たずに口縁が開く。手づくねのなかでも小型は丸底のものと平底ふうのものとがあり、前者の口縁は外反し、後者は内湾ぎみに立ち上がって口唇がつままれたように立つ。162～166は編み籠痕の発見された第2層から出土。両タイプの小皿が出ている。

溝213

Ⅰ区とⅢ区の地境をなす溝。長さ3メートル25センチ、幅93センチ、深さ53センチを測る。断面

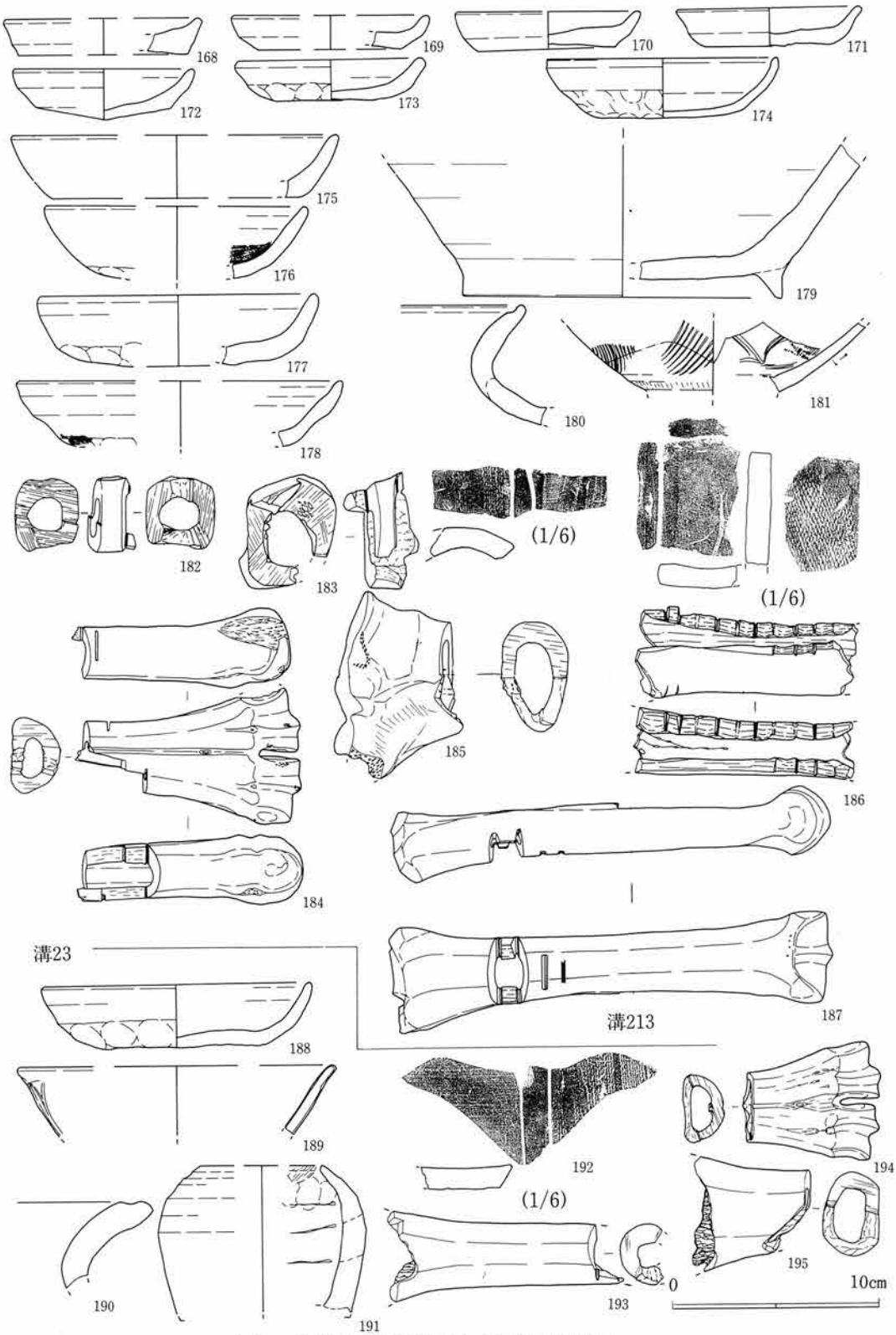


図20　2面Ⅰ区遺物(溝213・23)出土遺物(1)

箱形を呈し、底面は平坦。壁面崩落土上に粘性の砂質土が堆積している。覆土内からの出土遺物が多い。かわらけは糸切り底と手づくねの両者が出土し、手づくねがやや多い。174は白かわらけ。180の渥美の甕と181の青磁櫛掻文碗がかわらけとともに13世紀中頃の年代指標となる。182～187はウシとウマの四肢骨から骨細工の原材を切り出した残片である。後に掲げる分類表を参照されたい。

溝23

Ⅰ区とⅢ区の地境をなす溝。長さ８メートル以上、幅１メートル弱を測るが、北側の立ち上がりは上層遺構の掘り込みで壊されている。底面は平坦。本遺構からの出土遺物は遺構の規模からして少なめである。190の渥美の甕と191の常滑の無頸広口壷が注意される。加工獣骨がやはり出土している。

溝211

第２面に発見された溝のなかで、他の溝と直交、平行関係をもたない唯一の溝である。調査区の北東隅に一部だけが発見された。最大幅95センチ、深さ50センチを測る。糸切りかわらけが一点のみ出土している。

溝215

Ⅰ区とⅢ区の地境溝である。調査区東外へと延びている。最大上幅１メートル45センチ、深さ35センチを測る。底面は平坦。溝213・23と同じ軸方位を持つ。溝213との間は15センチほどを空けている。出土した遺物は、かわらけ、加工獣骨と瓦。かわらけは糸切り底と手づくねがあり、手づくねはいずれも口唇が細く立ち上がる。

土壙27

井戸址の北に位置している。1.8×３メートルの不整矩形を呈し、深さ58センチを測る。覆土は上層に貝殻片を多数含むほかには目立った混入物はなく、中世期地山土を主体とする。井戸址と何らかの関係があるのだろうか。用途不明。出土遺物には、かわらけ、瓦、常滑片口鉢、同安窯系青磁皿、軽石と加工獣骨がある。

土壙15

1.8×1.35メートルの長方形、深さ45センチを測る。底面は平坦で、ゴミ穴とは思われないが用途不明である。後述のピット95・86や土壙216・211との関連もみあたらない。出土した遺物には工芸細工関係のものがある。224と225は硯製作のために切り落とされた硯石断片、226は加工獣骨、223は軽石。

土壙210

他の遺構に切られ、ほとんどその形状を残していない。出土した遺物には、かわらけ、土錘と加工獣骨がある。かわらけは、手づくねに稜線がなく丸く内湾ぎみに立ち上がり、糸切りは平たく開く。第２面遺構のなかでも新しい相様を示す。

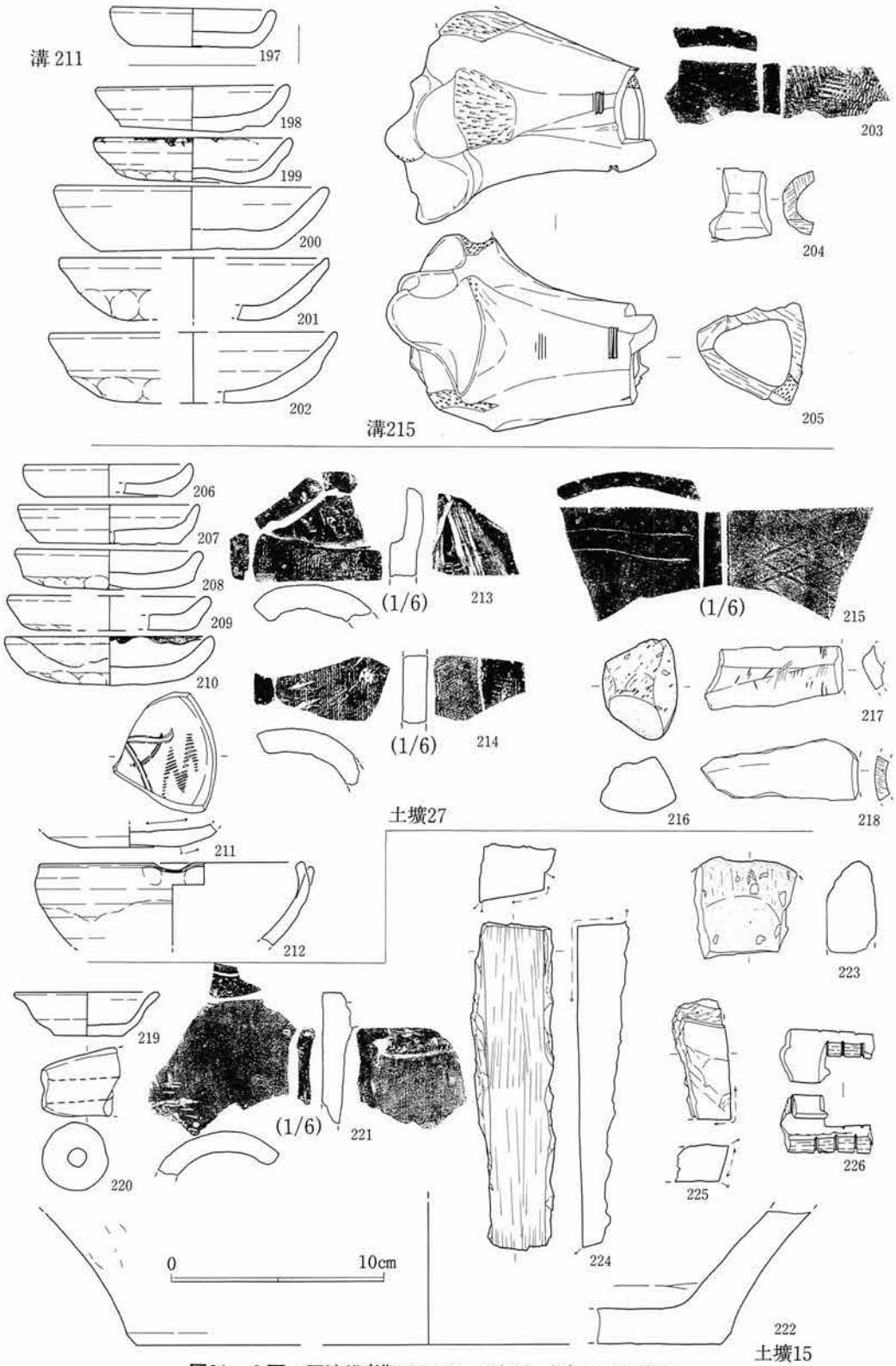


図21　2面Ⅰ区遺構(溝211・215、土壙27・15)出土遺物(2)

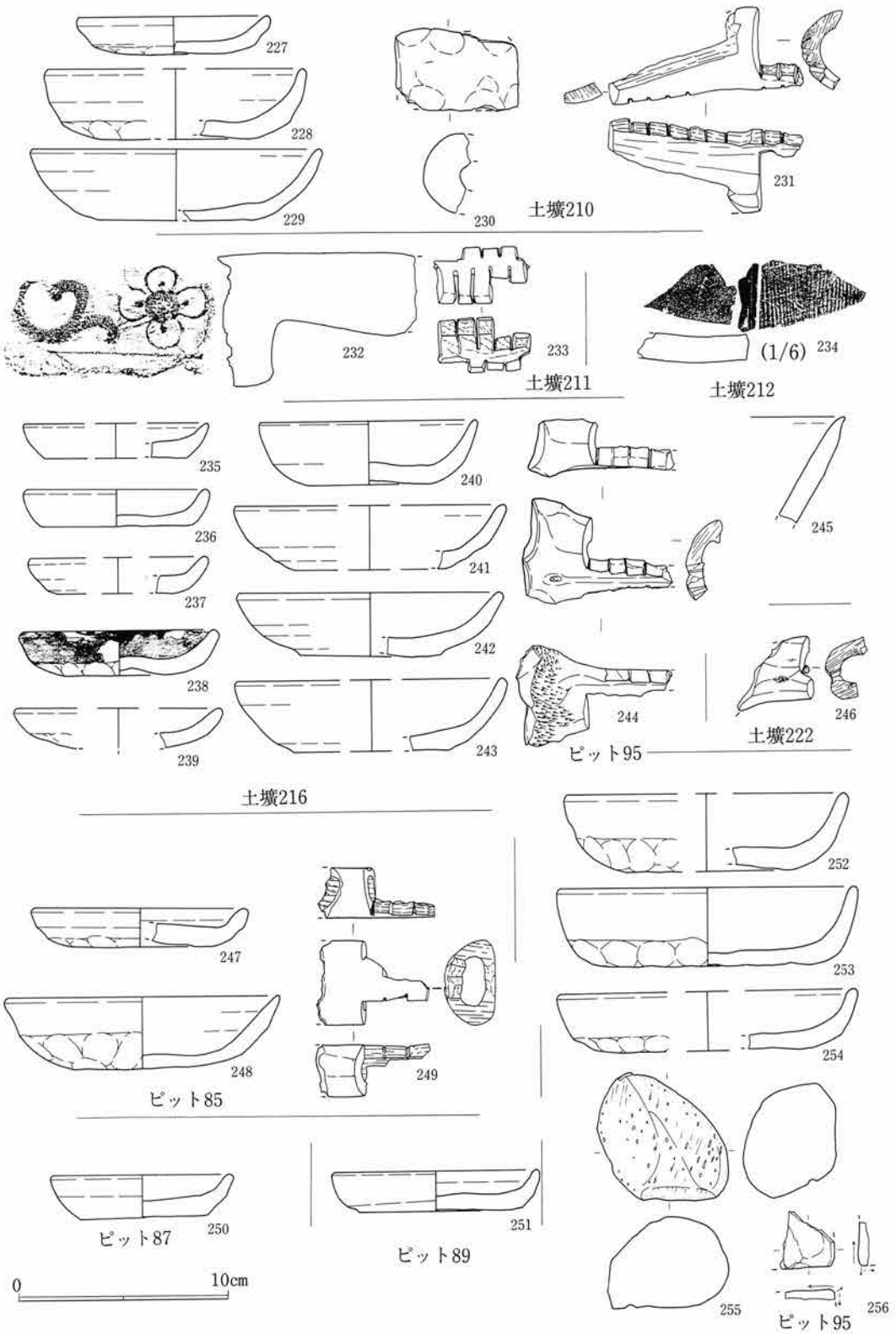


図22　2面Ⅰ区遺構(土壙210・211・212・216・222、ピット85・87・89・95)出土遺物(3)

土壙211

1.4×1.25メートルの長方形を呈し、深さ65センチを測る、編み籠の痕跡を残す土壙である。編み籠の痕跡は土壙底面の立ち上がりの壁面に遺っていた。土壙底面径いっぱいの大きさの籠であったのだろう。遺構の大半が上層遺構に壊されていたため、覆土中よりの出土遺物は少ないものの、蓮花文瓦頭軒平瓦が出土している。文様の彫は深く、永福寺址創建瓦に同様のものがみられる。後述されるように本遺跡地から出土する瓦の量と質が注目される。

土壙212

直径2.2メートルの不整円形、深さ1メートル25センチの断面すり鉢状を呈する。覆土は中世地山土および基盤層の砂で充填され、遺物も少ない。素掘りの水溜めか何かだろうか。

土壙216

一辺1メートルの隅丸方形を呈し、深さ1メートル5センチを測る。底面から壁面下部に編み籠の痕跡を遺している。編み籠の痕跡が遺る覆土の下半は炭化物とかわらけを混入したボソボソの土質であり、編み籠ごとかわらけなどが土壙に投げ捨てられたと考えられる。出土遺物は、かわらけの他に東海系の暗灰色胎土のこね鉢と加工獣骨がある。かわらけは、大型品に底径口径比が大きく、体部の浅く開く糸切り底があり、加えてやや小振りのものも現れている。13世紀の後葉の感触がみられる。

土壙222

1.6×1.3メートルの長方形を呈し、深さ45センチを測る。土壙16に切られるため、覆土の多くが失われている。加工獣骨が一点のみ出土した。

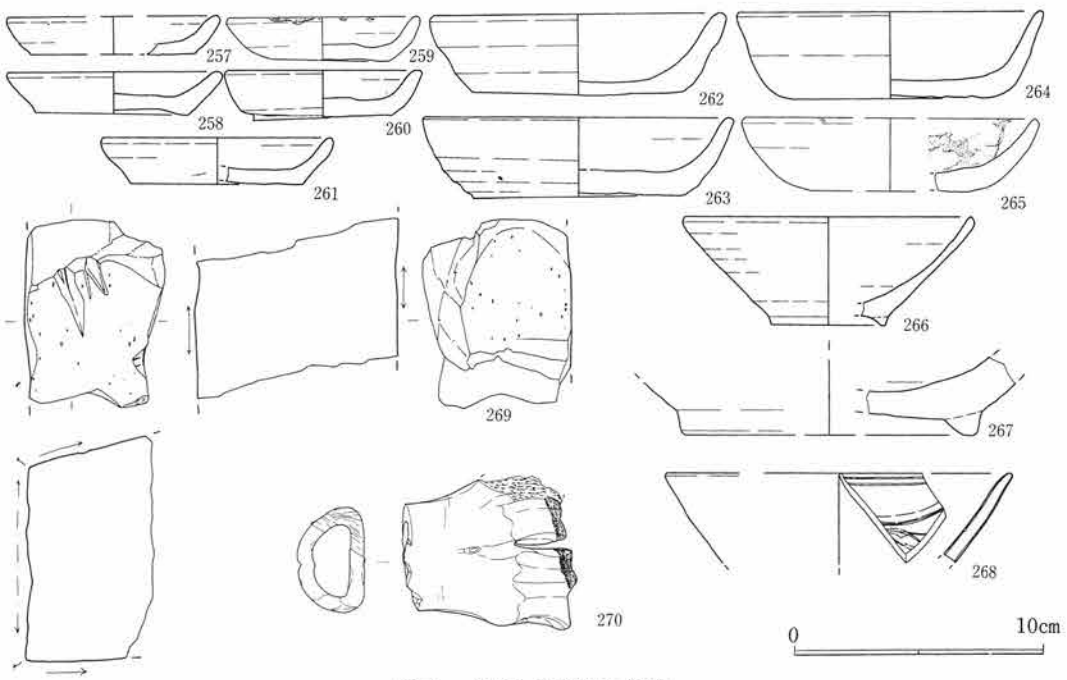


図23　2面上Ⅰ区出土遺物

ピット

Ⅰ区の中央から西側にピットが数口遺存している。それぞれに明瞭な並びは認められないが、土壙の多数残る東部と遺構の少ない西部との間にあるところが気にかかる一方、井戸との関連も想定しえるが、疑問の残るところである。

Ⅰ区面上出土遺物

生活面直上より出土した遺物である。257～265はかわらけ、266は北部系山茶碗、267は南部系暗灰色こね鉢、267は常滑甕、268は劃花文青磁、269は天草地方産凝灰岩砥石、270はウシ中手骨擦り切残片。

かわらけは糸切り底づくりのみ。器高が低く、底径口径比の小さなぼってりとしたつくり。

常滑甕の口縁は、つまみ上げて縁帯作りの傾向を少し示す。

Ⅲ区

Ⅲ区は、Ⅰ区東部の南に位置するが、その西の限界についてやや問題が残る。すでに本節の冒頭に記したように大型土壙である土壙８を地境とするには不自然であり、また土壙８に連なるように土壙14と24が存在する。Ⅰ区でみたように地境溝、すなわち敷地境界脇にゴミ捨て土壙が連続して掘られていたことを思い起せば、Ⅲ区においても南北に連なる土壙群の脇に地境を想定しえるだろう。すなわち、溝34を地境溝としえる。

しかし、次にみるⅢ区北方のⅣ区とした地域に多く遺るピット群の配置を追うならば土壙８のすぐ脇にまでⅣ区が広がると考えられる。そうであるならば、Ⅲ区とⅣ区の地境は、東西に連なる土壙群のあたりと考えなくてはならなくなる。

こうした矛盾を内包した区画割であるが、上層遺構面との対比をふまえて、とりあえず溝34と土壙群との間でゆれ動いていたものとして以下を記すこととする。

溝214

長さ3.4メートル、最大幅１メートル65センチ、深さ60センチを測る。底面は平坦である。長軸方位は、Ⅰ区との地境溝である溝213と同一であり、溝214も地境としての機能を有していたと考えられる。遺構覆土も他の土壙にみられるようなゴミ捨て穴とは異なり、溝の壁体をなす中世地山土の崩れが主体となっている。後述の溝210とともに溝214はⅢ区の北部地境として、溝213との間は通路としての空地と考えられる。

溝壁体の茶褐色砂質土が崩れ落ちて溝底面に堆積した覆土最下層の上に載る土層は、第２面の中世地山土でもって溝をほぼ埋めつくしているが、この層中からは多量の遺物が出土している。そのなかでも、擦り切りで骨細工用材を切り取られた加工獣骨の数の多さが注目される。

269～279はかわらけ。糸切り底と手づくねが混在し、その型式はⅠ区遺構出土、特に４号井戸の組み合せに近い。279は焼成後に内面に釘掻状で青磁の蓮弁文に似た文様が刻まれている。この時期には内面に蓮弁文を刻んだ青磁の鉢が搬入されていたことを示す資料であろう。

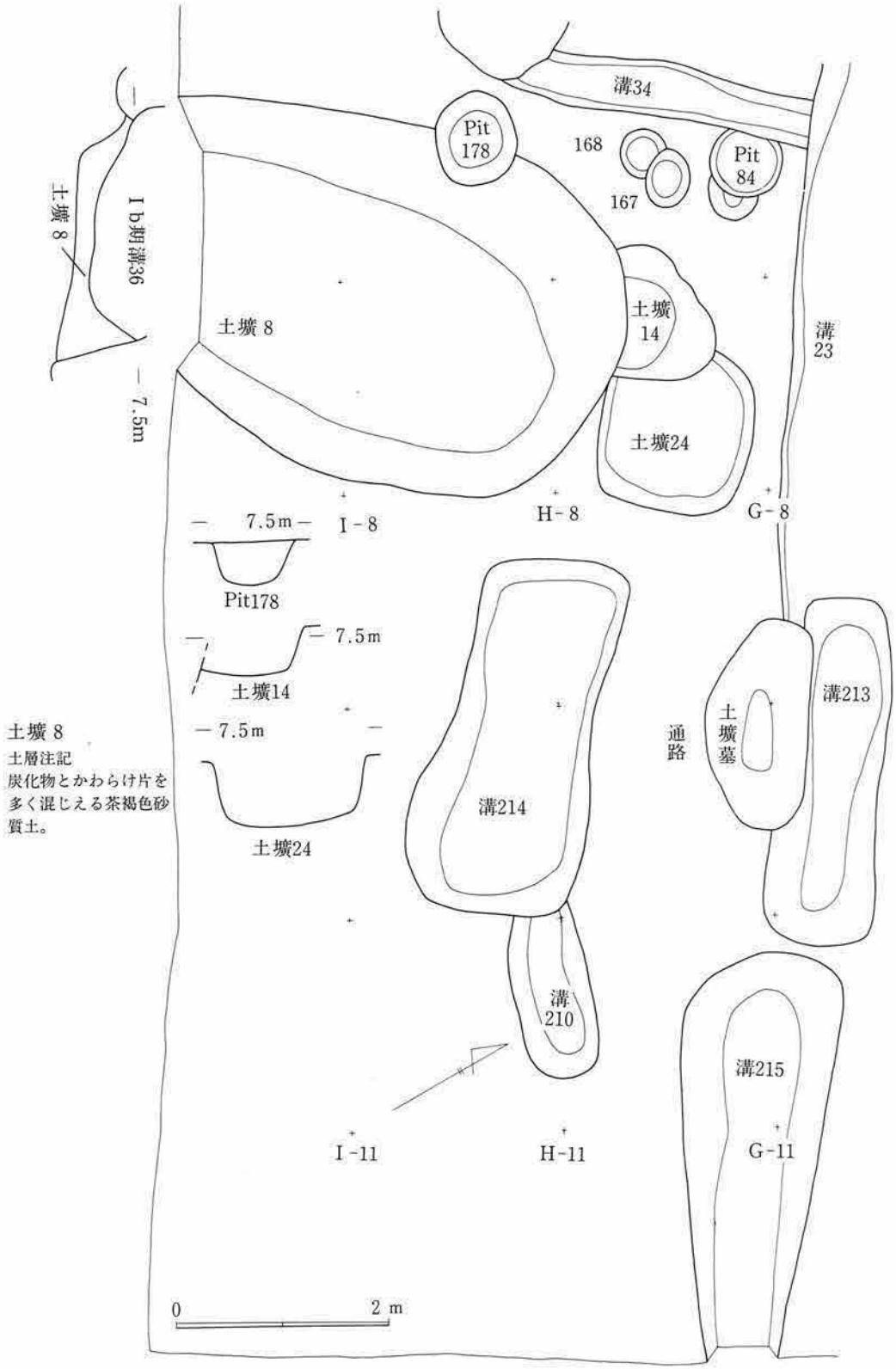

溝34
Pit
178
168
167
Pit
84
土壙 8
I b期溝36
土壙 8
土壙
14
溝
23
土壙24
— 7.5m
H-8
G-8
— 7.5m — I-8
Pit178
— 7.5m
土壙14
土壙 8
土層注記
炭化物とかわらけ片を
多く混じえる茶褐色砂
質土。
— 7.5m —
土壙24
溝214
通路
土
壙
墓
溝213
溝
210
溝215
I-11
H-11
G-11
0
2 m

図24　2面III区

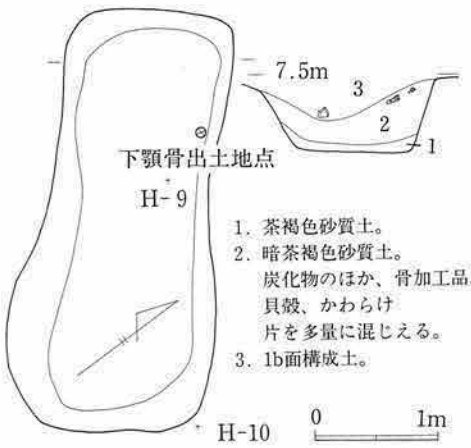


図25　2面III区溝214

280は青磁劃花文碗。281～283はこね鉢。283は284の渥美の甕と同じ胎土である。

285～290は瓦。289と290は東海系の平瓦。

291～329は加工獣骨残片。

以上のほかに、加工獣骨とともに多量の獣骨も出土している。部位とその用いられ方を、また加工痕の遺る骨片の観察からは加工法と目的を探ることができる。出土骨分類の詳細は後掲の表に譲り、以下数値的比較を省き説明を加える。

出土した獣骨はウシとウマがほとんどで、特に

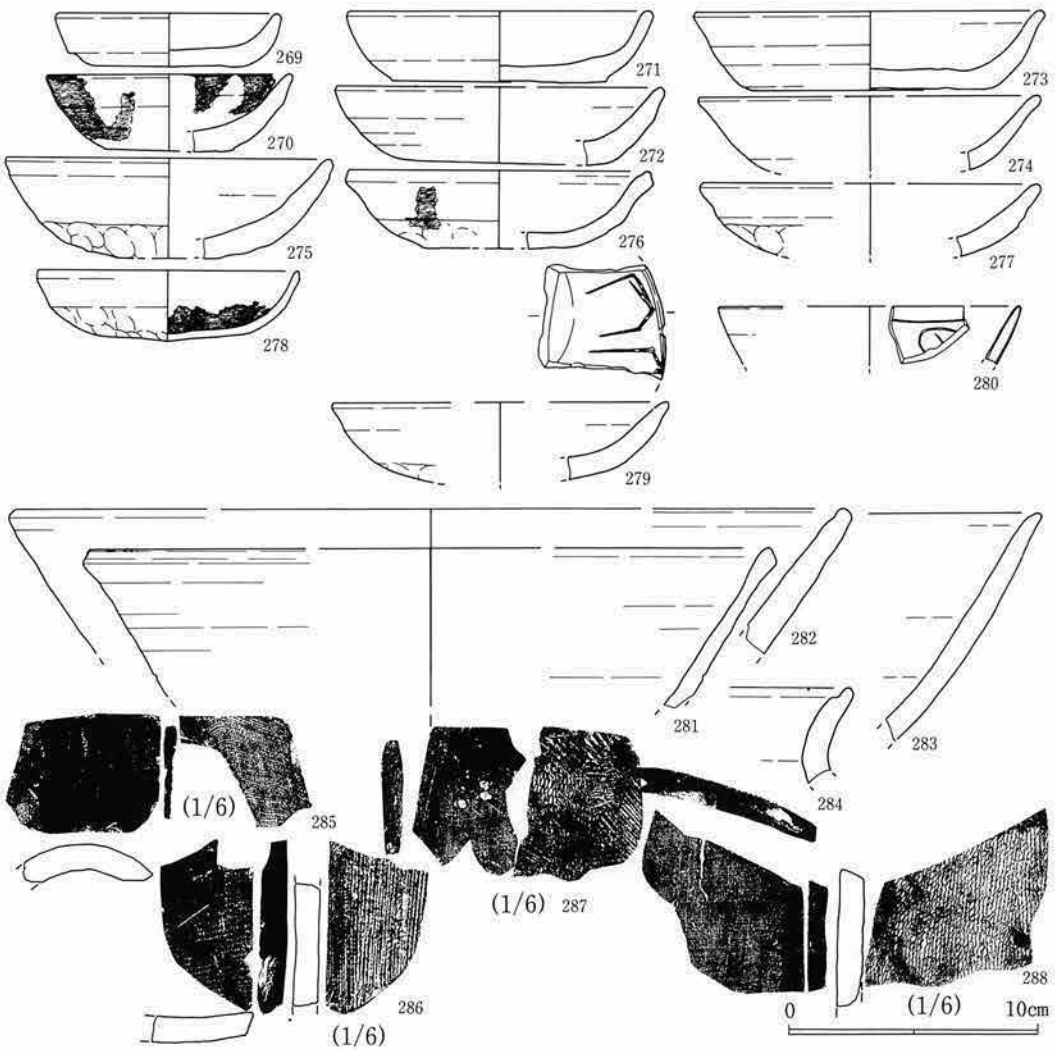


図26　溝214出土遺物(1)

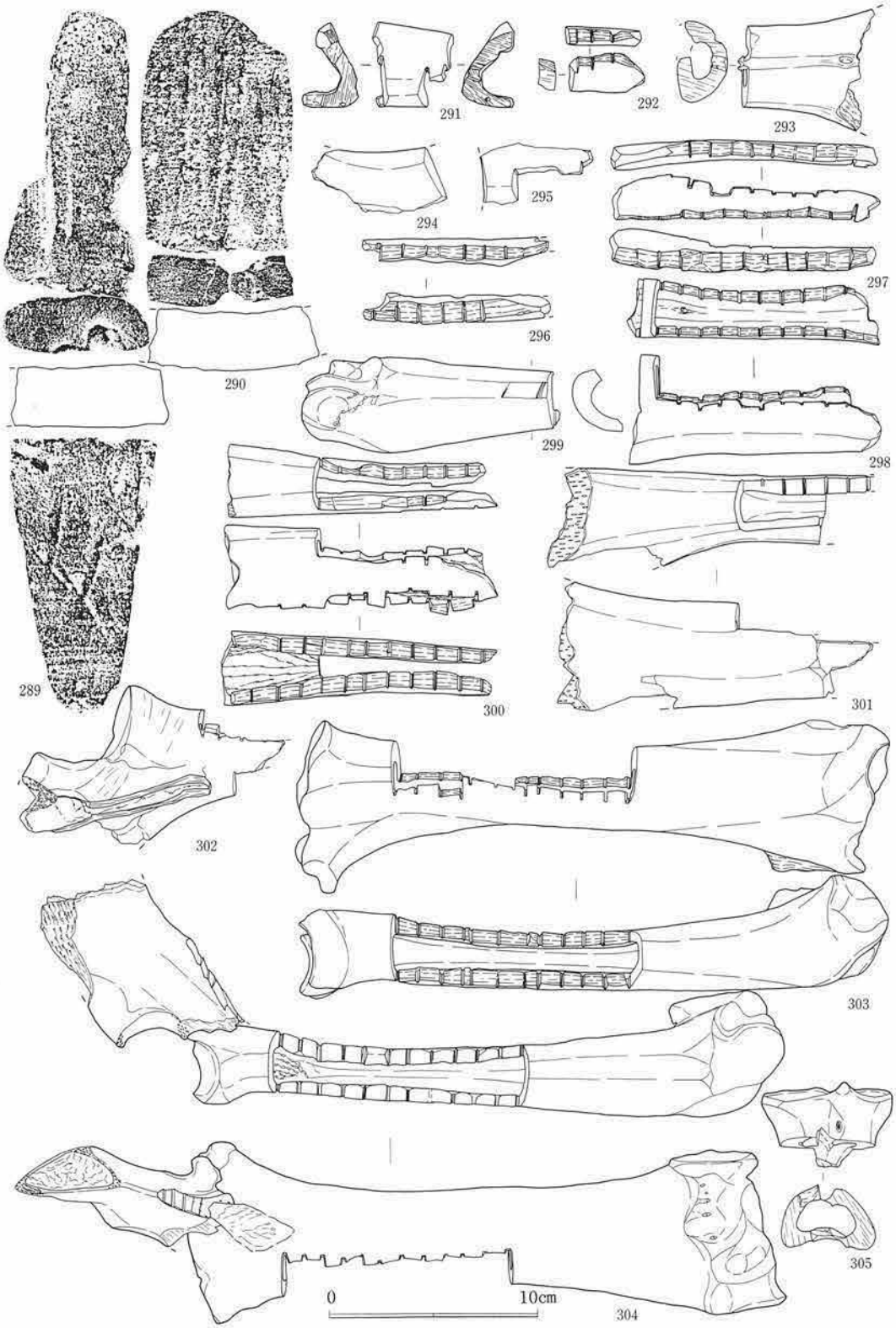


図27　溝214出土遺物(2)

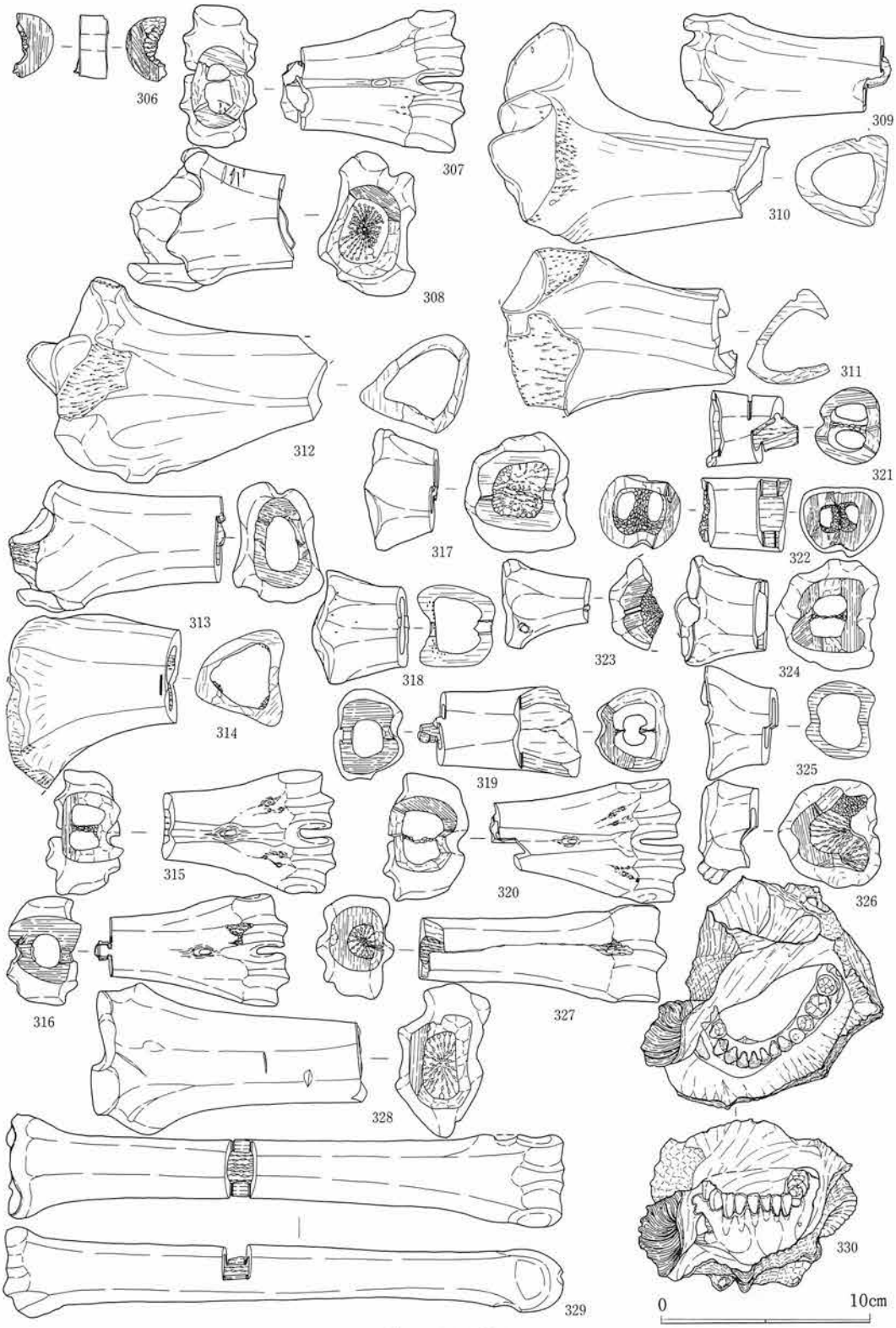


図28　溝214出土遺物(3)

ウシが多い。部位には中手・足骨が多用されている。中手・足骨は先史以来骨製品の用材に使用されてきたが本例では骨材を縦でなく横に使い、306のような半円形の製品を得るために比較的直径の均一な骨を要した。半円形製品はおそらく刀装具である栗形に供したと考えられる。骨製栗形はこれまで長谷小路南遺跡で鯨類顎骨から作られることが知られているが、その栗形と今回出土の栗形は形状が異なる註1)。半円形の製品を得るには、骨材に一定の間隔で切り込みを入れた後に、ノミ状工具で割りとる方法を用いている。ただし、ウシとウマの骨では製品の取得法が異なる。偶蹄のウシの中手・足骨はやや偏平で8の字状の断面形をなすために両側から少し偏平な半円形製品を切り取る。他方単蹄類のウマの中手・足骨は断面が円に近似するために、良品を片方のみから切り取る。また、鯨類顎骨を使用した栗形は本遺構から出土しなかったが、後述の上層生活面から側縁が削り取られたイルカの上顎骨が出土している。

溝底からは人骨も出土した。人骨はアカニシの殻口に下顎骨だけをはめこんだもので、殻口のサイズに合わせるように両端を削った後に、さし込まれてしっかりと固定される註2)。

註1．金子浩昌氏はイルカ顎骨の骨材利用をすでに指摘している。1988「中世遺跡における動物遺体－鎌倉市内遺跡の調査例を中心として－」『鎌木義昌先生古稀記念論文集』頁407－430。

註2．宗臺富貴子　1992「長谷小路周辺(和田塚二階堂邸)遺跡出土の人骨について」『鎌倉考古』№23頁4－6。

土壙墓

Ⅰ区とⅢ区の間の空間地に、溝213を切って造られる。東西長軸1メートル63センチ、南北短軸80センチ、深さ25センチの上面形に、東西2メートル48センチ、東西60センチの平坦な長方形底面をもつ。土壙内中央やや西よりにヒト頭骨が発見された。頭骨は下顎骨を除く前頭から頭頂、後頭骨の頭骨全体を遺しているが、地下水の湧水によるいたみがひどい。出土状況は底面にやや上向きに据え置かれたように位置しており、他に頭骨以下の人骨はみられなかった。また人頭骨を覆う覆土は、下層が第2面地山土、土層が同様の土に炭化物を混じえたものである。これらの状況からして、本土壙は人頭骨を意図的に埋置した土壙墓であると判断した。

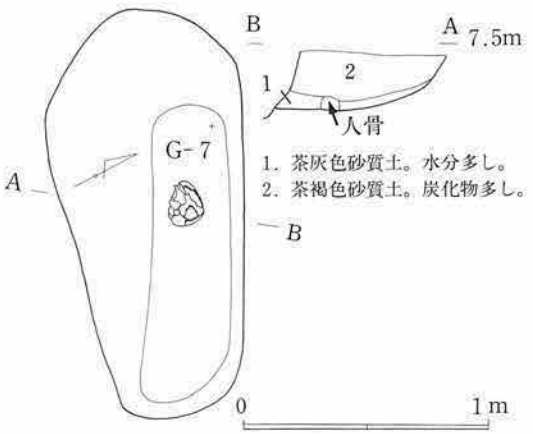


図29　2面Ⅲ区土壙墓

土壙墓内からの他の遺物はなく、溝213との切り合いで、数点のかわらけ片が出土したが、明瞭な副葬品は確認されなかった。

溝210

溝214の東に位置し、切られる不整形な溝である。本溝も溝214とともに地境の機能をもっていたであろう。底面は平坦。やはり加工獣骨が出土している。

土壙8

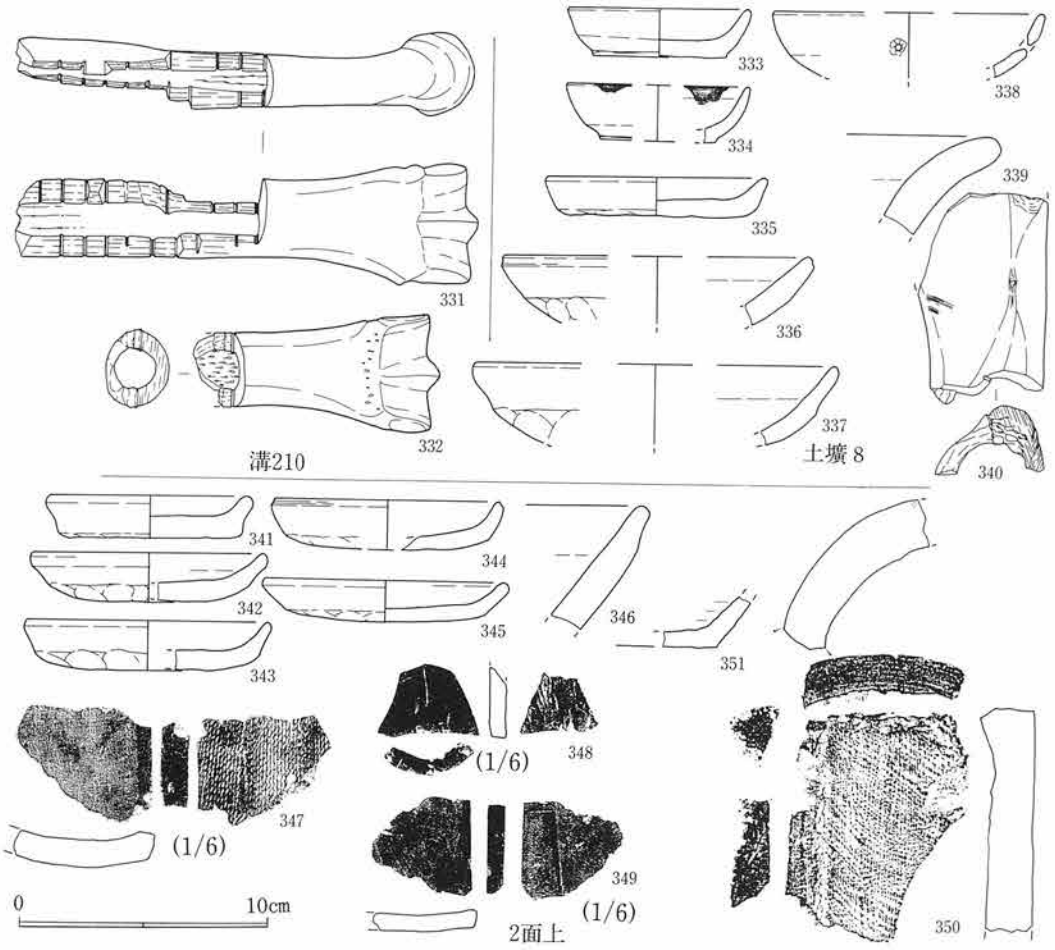


図30　2面III区遺構(溝210、土壙8)面上　出土遺物

調査区南外へと拡がっており、全体の2/3ほどと思われる範囲を調査した。南北長４メートル以上、南北最大幅3.4メートル、深さ50センチ以上を測る。上面を１ｂ面遺構に切られ、深さは不詳。底面は南東へ下る。

出土遺物のかわらけには、丸深型の小型に内湾する手づくねがあり、これにともなって渥美の甕口縁が出土している。

Ⅳ区

調査区の南西部。溝23・27・34に三方を囲まれた区画である。南へはさらに拡がる。また東の境は前述のように溝34より東に広がる小時期もあったと考えられる。

Ⅳ区内には他の区画のように地境付近に土壙が深く掘られた様子はなく、区画内にある土壙は平面形が大きくても浅いものでゴミ捨て穴ではないようである。一方、Ⅳ区の特徴は多くのピットが遺され、それらが東西に並んでいることであろう。一部では「L」字状に曲がる並びもある。各ピットの規模とその並びや配置からして、これらのピット群は区画内敷地の目隠し塀であろう。ピット71～63～67の北西隅の「L」字の並びは、溝27と23に限られたⅣ区の西と北の敷地を画すものである。また172～80、178～165は東側の敷地を画すもので、Ⅳ区とIII区の地境の移動を示している。

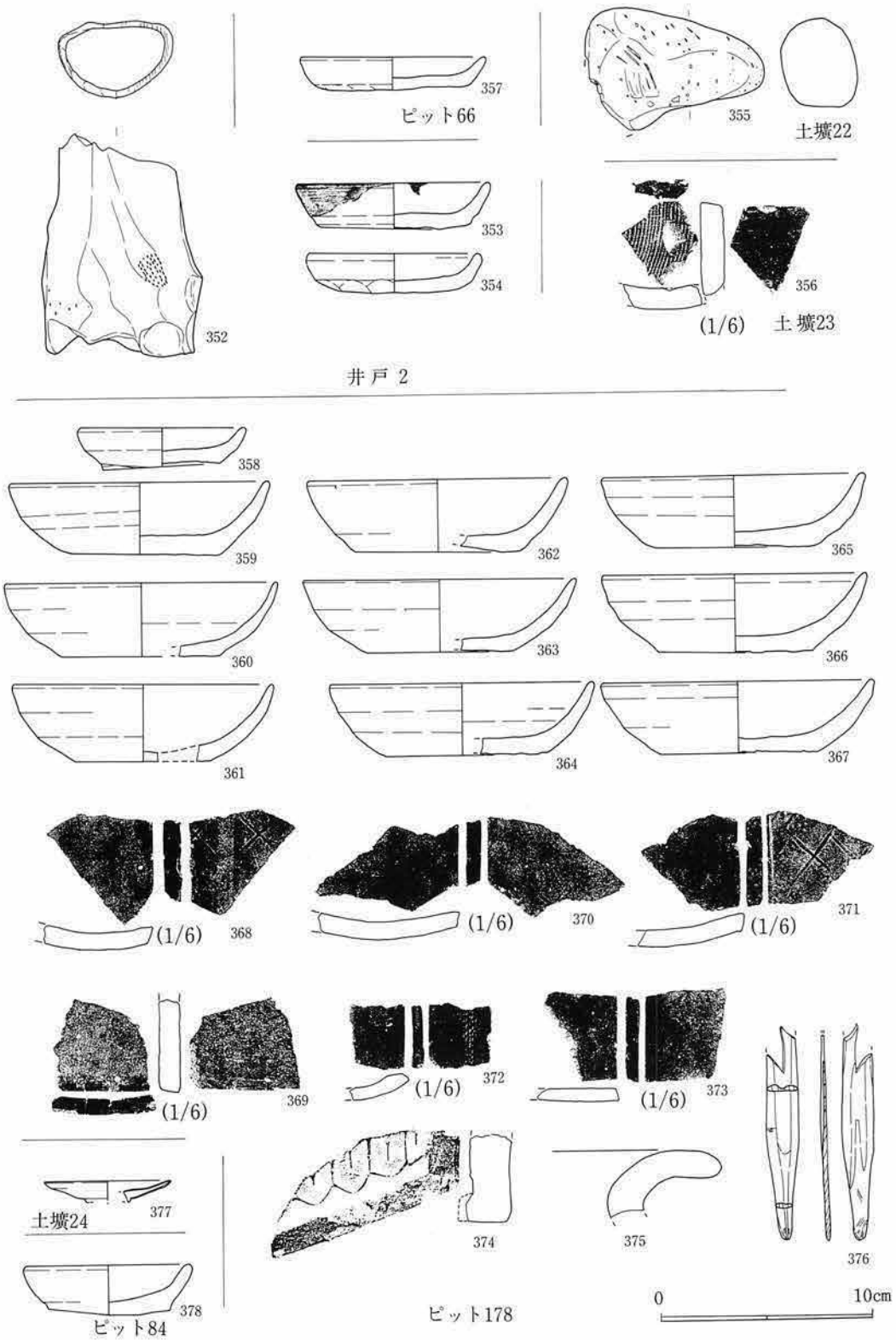
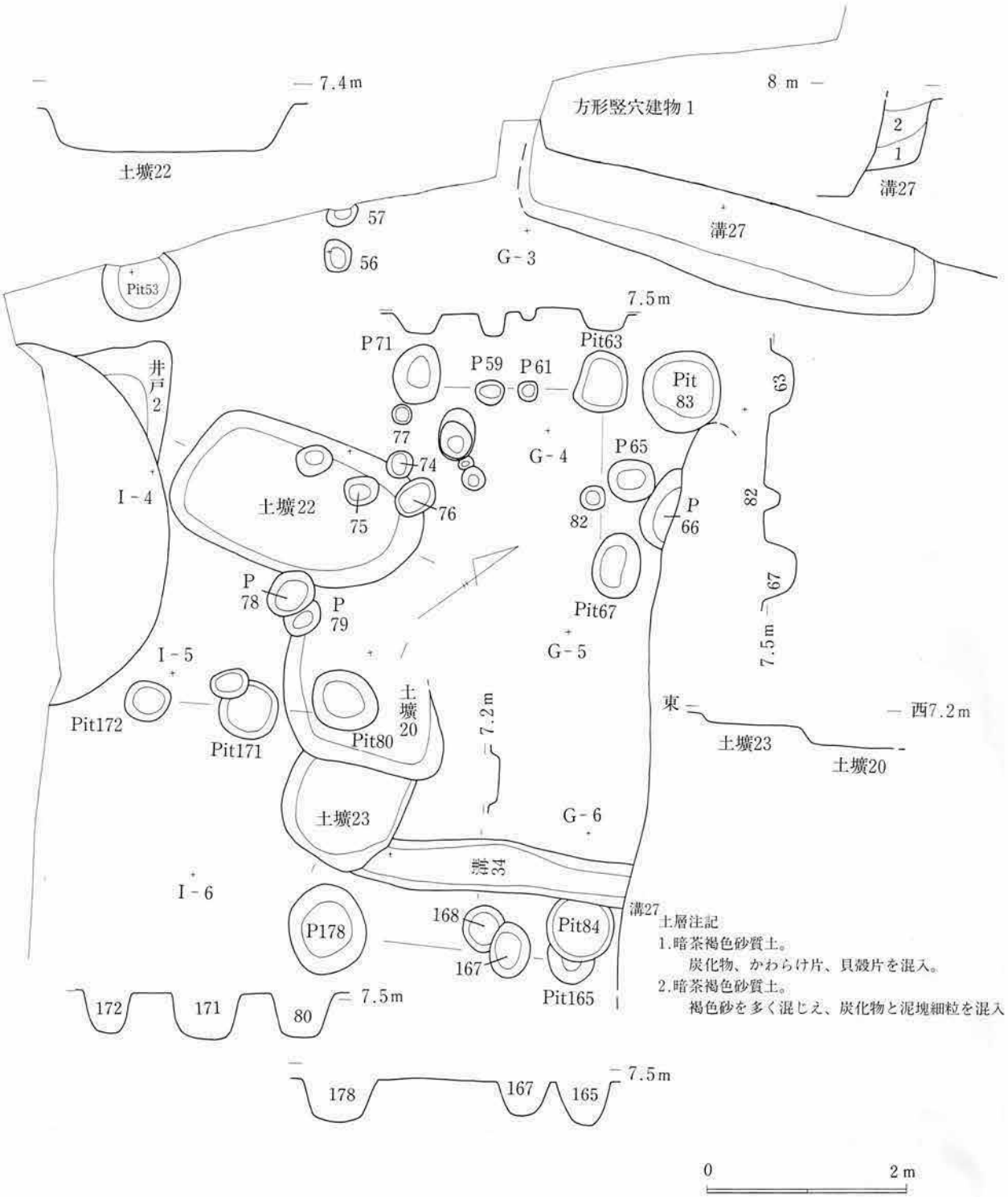


図32　2面Ⅳ区遺構(井戸2、土壙22・23・24、ピット66・84・178)出土遺物(1)



土層注記
1.暗茶褐色砂質土。
炭化物、かわらけ片、貝殻片を混入。
2.暗茶褐色砂質土。
褐色砂を多く混じえ、炭化物と泥塊細粒を混入

図31　2面Ⅳ区

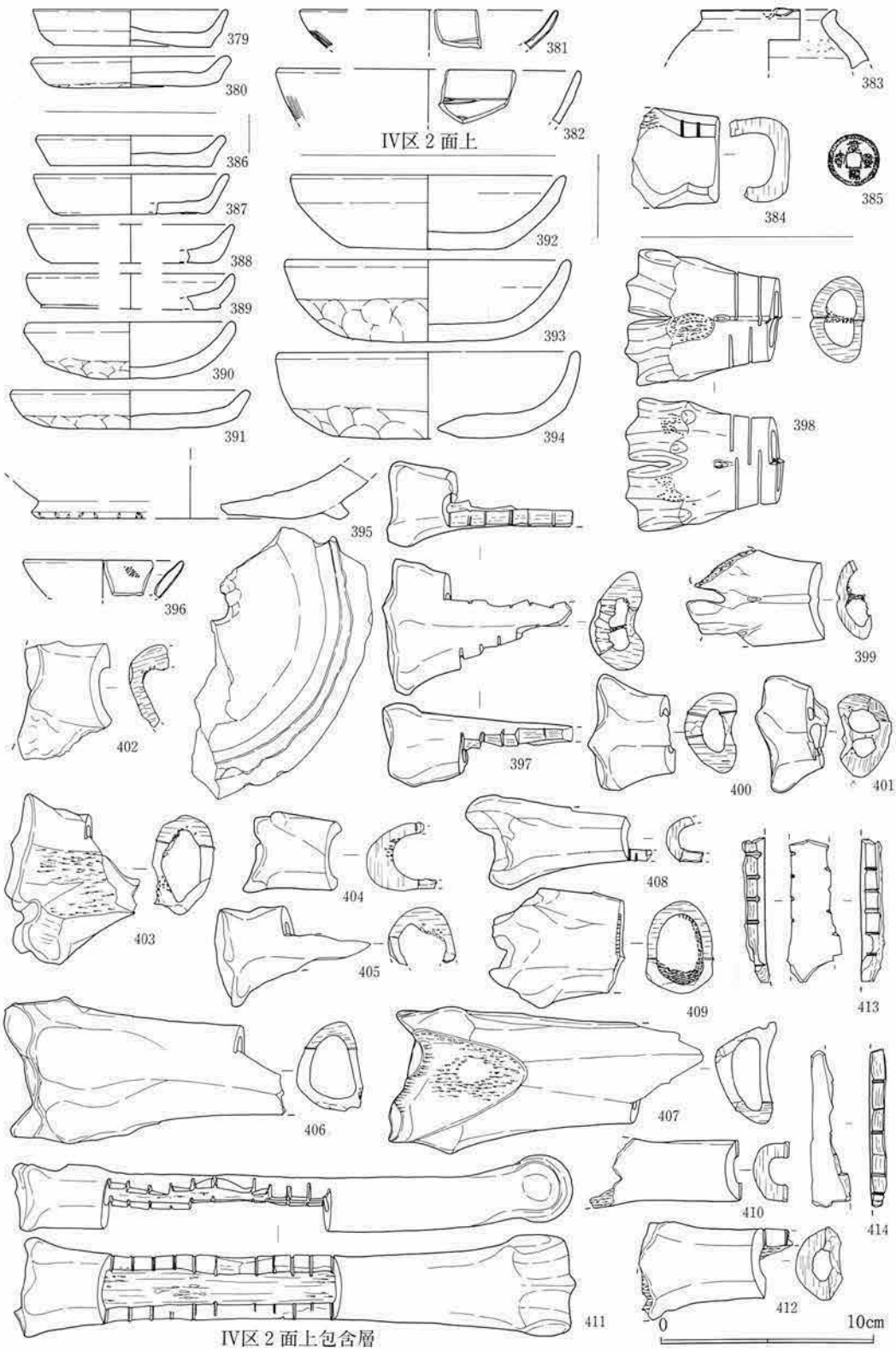


図33　２面Ⅳ区出土遺物(2)

こうしたIV区の敷地内に井戸が１基発見された。この２号井戸は１ｂ面の１号井戸に切られ、その掘り方を一部残しているのみである。１ｂ面の１号井戸は２面IV区の２号井戸の掘り直しであることは後節にて記述されるが、この同一地点での井戸の掘り直しはＩ区同様に区画割の連続性を物語っている。

井戸２

掘り方の北西隅のみを発見。規模等不明であるが、方形の掘り方であったかもしれない。平底に近い手づくねかわらけと加工獣骨が掘り方覆土より出土する。

溝34

溝23と土壙23に切られる。幅48センチ、深さ50センチを測る。覆土は壁体をなす中世地山の茶褐色砂質土。炭化物が混入するが、生活遺物等はみられなかった。

土壙22

南北長軸２メートル45センチ、東西幅１メートル40センチ、深さ40センチを測り、底面は平坦。

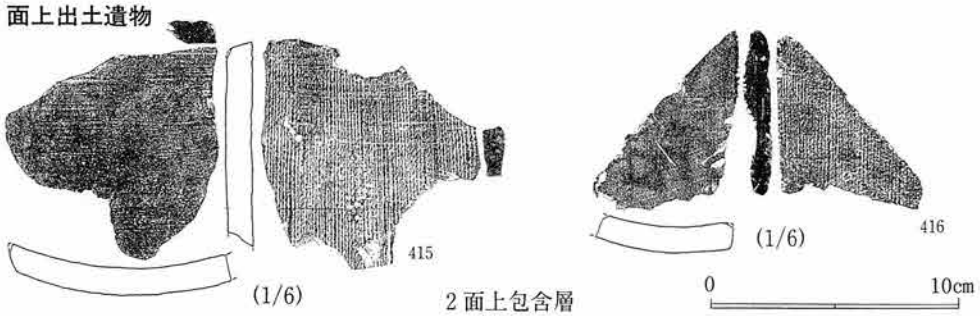
土壙23

土壙20に切られ、全形は不明。深さ10センチほど。土壙20も浅く、西方にて底面はより浅くなり限界が明確でない。

ピット178

III区土壙８を切る。覆土は粘性の強い黒褐色砂質土。木質腐植土混じりの感じはなかった。覆土内からは多数の瓦とともに、かわらけと渥美の甕口縁片が出土している。374の瓦は永福寺III期の再建瓦と同范。かわらけは他の２面遺構出土のものより新しい様相が窺える。すべて糸切り底。

IV区２面上出土遺物



２面上包含層

図34　２面IV区出土遺物(3)

図33－379～385までが２面直上より出土した遺物。381と382は同安窯系青磁碗。

図33－386～図34－416までは２面上包含層よりの出土遺物。擦り切り痕の残る骨細工用材取得残片の多さが目につく。

かわらけは、糸切り底と手づくねのものが相半ばする量が出ている。手づくねでは、大型は稜が弱く丸底で口縁の内湾ぎみ、小型は口縁の内湾と外反の両者がある。糸切り底では、口縁の外反傾向がみられはじめている。

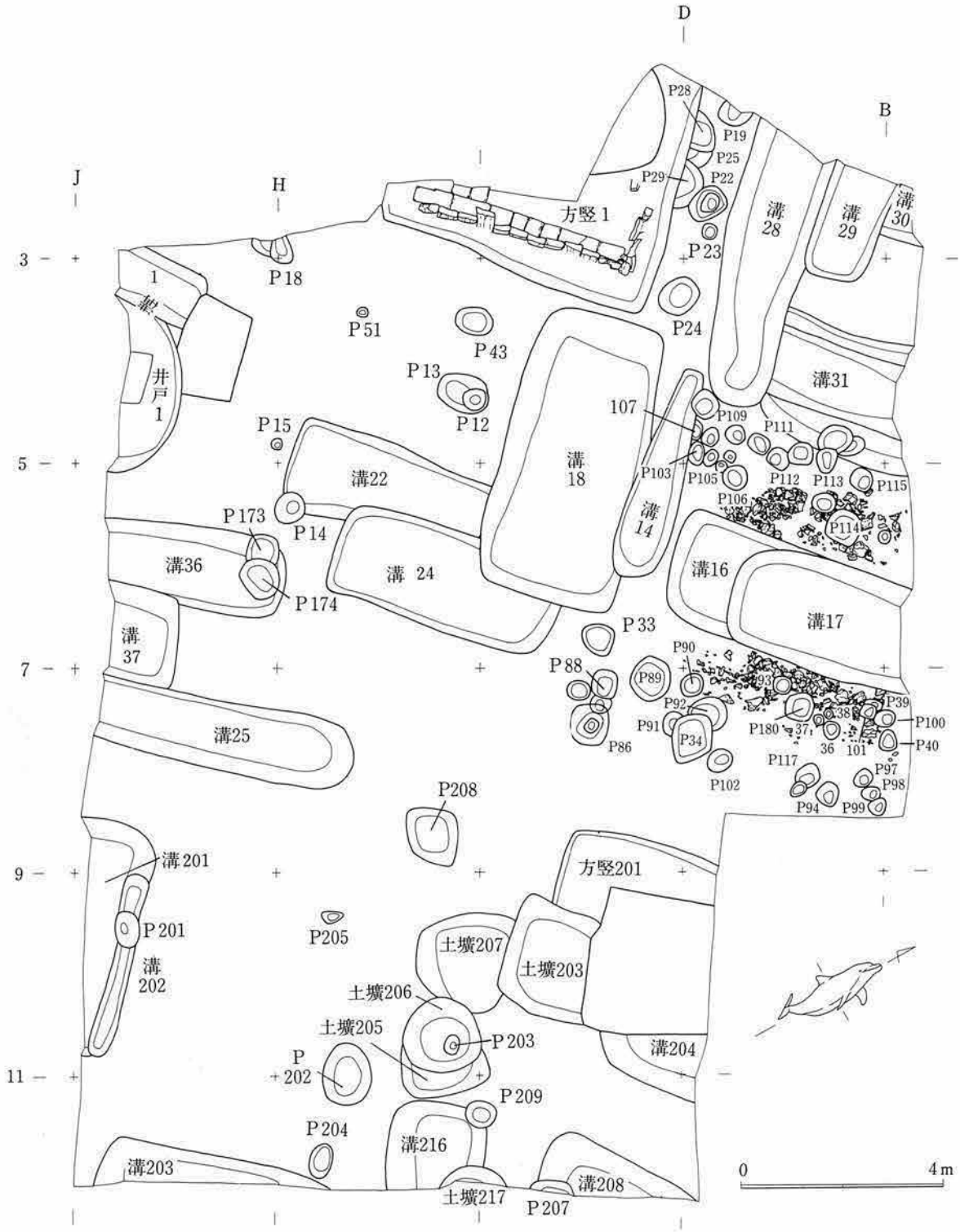
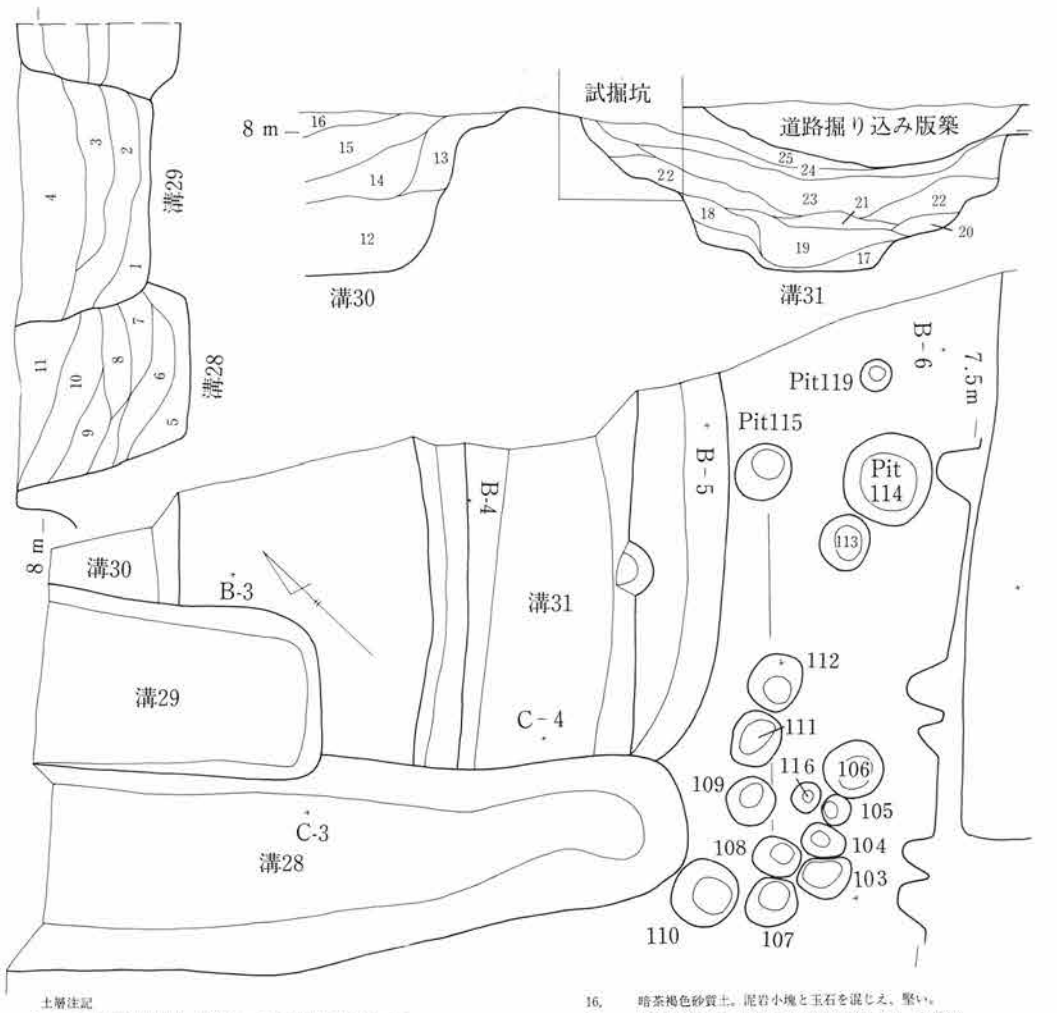

D
B
J
H
3
5
7
9
11
P28
P19
P25
P29
P22
方竪1
溝28
溝29
溝30
P23
P18
1
P51
P43
P24
井戸1
P13
P12
溝31
107
P109
P111
P15
溝22
溝18
P103
P105
P112
P113
P115
P106
P173
P14
溝14
P114
溝36
溝 24
溝16
P174
溝17
P33
溝37
P90
P88
P89
P92
P39
P91
P180
P100
P34
P86
P40
P117
P97
P102
P98
P94
P99
溝25
P208
溝201
方竪201
P201
P205
土壙207
土壙203
溝202
土壙206
土壙205
P203
溝204
P202
P209
P204
溝216
溝203
溝208
土壙217
P207
0
4m

図35　1b面全体図

第１ｂ面

１ｂ面も２面同様に溝による区画割りを主体とする遺構群が発見された。そうした区画割りをされた敷地内に方形竪穴建築址が築かれたのが１ｂ面の特徴であり、また破砕泥岩による版築面道路が溝だけの区画割りと異なる姿を見せている。

１ｂ面の区画は、２面でのＩ区がＩ区とII区に道路と溝とで分割され、IV区西方にＶ区が作られている。Ｖ区は第２面での溝27の西方部がより東へ張り出してきたものであろう。以下Ｉ区より順次記してゆく。



土層注記

1～4．暗茶褐色弱粘質土。泥岩塊、かわらけ片を多く混じえる。
　　下層ほど粘質に富み、水分が多い。
5～6．暗灰褐色砂質土。泥岩小塊と炭化物を少量混入する。
7～11．暗茶褐色弱粘質土。泥岩小塊と炭化物、かわらけ片を混入する。
12．　茶褐色砂質土。泥岩塊と玉石。かわらけ片を多量に混じえる。
13～15．黄褐色砂質土。泥岩塊を多く混じえる。14はやや粘性に富み、堅くしまる。
16．　暗茶褐色砂質土。泥岩小塊と玉石を混じえ、堅い。
17．　暗茶褐色粘質土。炭化物と貝殻片を混じえる。水分多し。
18．　炭層。
19～20．暗茶褐色粘質土。炭化物、泥岩細粒、かわらけ片混入。水分多し。
21．　暗褐色粘質土。炭化物、泥岩小塊、かわらけ片、貝殻片混入。水分多し。
22～23．暗褐色砂質土。
24．　暗褐色粘質土。
25．　暗褐色土。

図36　１ｂ面Ｉ区

Ⅰ区

Ⅰ区は溝28および14の東西溝とそれらに直交する南北に長軸をもつ溝31と版築道路ないし溝16・17によって区画されている。

版築道路は、その幅をグリッドの５ラインから７ラインにかけての東西にもち、溝16・17に沿うように位置している。溝16・17と道路はⅠ区とその東にあるⅡ区との地境として同様の機能をもつものである。新旧関係としては、道路の方が新しい。また、南北溝としてⅠ区の東を限る溝16・17・31のうち、溝31が最も古く、16、17と新しくなる。

溝28

最大幅１メートル75センチ、深さ１メートル40センチを測る。調査区西外へと延びている。断面箱形を呈し、底面は平坦である。覆土上層の泥岩塊と玉石の層は、１ａ面における泥岩版築道路の下地固め土である。出土遺物では、419の永福寺Ⅱ期瓦、420の永福寺Ⅲ期瓦、422の舶載褐釉壺が注目される。永福寺瓦の焼成はⅡ期が13世紀中頃、Ⅲ期が13世紀末頃に比定されている。

溝29

幅１メートル45センチ、深さ１メートル５センチを測る。断面箱形の溝。調査区の西外へと延びている。この溝は溝28を切りながら、長軸方位を合わせていることから、溝28の掘りなおしと考えられる。426～437は溝28と29の切り合い上面から出土し、帰属がいまひとつ明瞭ではないが、さきの永福寺瓦の廃棄時期と426～431の薄手かわらけの関係が注意される。

溝31

２段落ちの最大幅２メートル40センチを測る溝。１ｂ面Ⅰ区では最古の溝である。底面は平坦。出土遺物では、452の永福寺Ⅰ期最古期瓦と453の永福寺Ⅰ期瓦の存在が、13世紀中葉以降の年代を示し、441～451のかわらけが溝28～29のかわらけとの対比を良く示している。

ピット群

溝31と道路および溝16・17の間に南北に並ぶピット群が発見された。ピット群は切り合い関係から溝31より新しく、Ⅰ区の東の限界が溝31より東へ拡大した時期において、地境溝16・17の内側に建てられたⅠ区敷地の塀であろう。この時、塀を作るピット列が道路版築の際に並んでおり、道路と溝16・17の新旧関係を考慮に入れても、Ⅰ区の敷地東側に通路の存在を想定できる。

溝16・17

Ⅰ区とⅡ区を分ける南北溝。溝14を南限とし、調査区北外へと延びている。溝17が溝16を切り、同一地点での掘りなおしである。溝17は、幅２メートル10センチ、深さ95センチを測る、断面箱形。底面は平坦で、やや北に下る。溝16もほぼ同じ規模であるが、深さは65センチと少し浅い。溝17覆土上層の泥岩塊と玉石は、南北道路の下地固め。

その道路は、次の項にて記すが、溝16・17とはぼ同位置、同方向に走る。道路と溝16・17は、地境として同じ機能を同一地点において果しているのである。

溝の西方1.5メートルほどには、Ⅰ区敷地東限のピット列がみられたが、東方１メートルほどにも

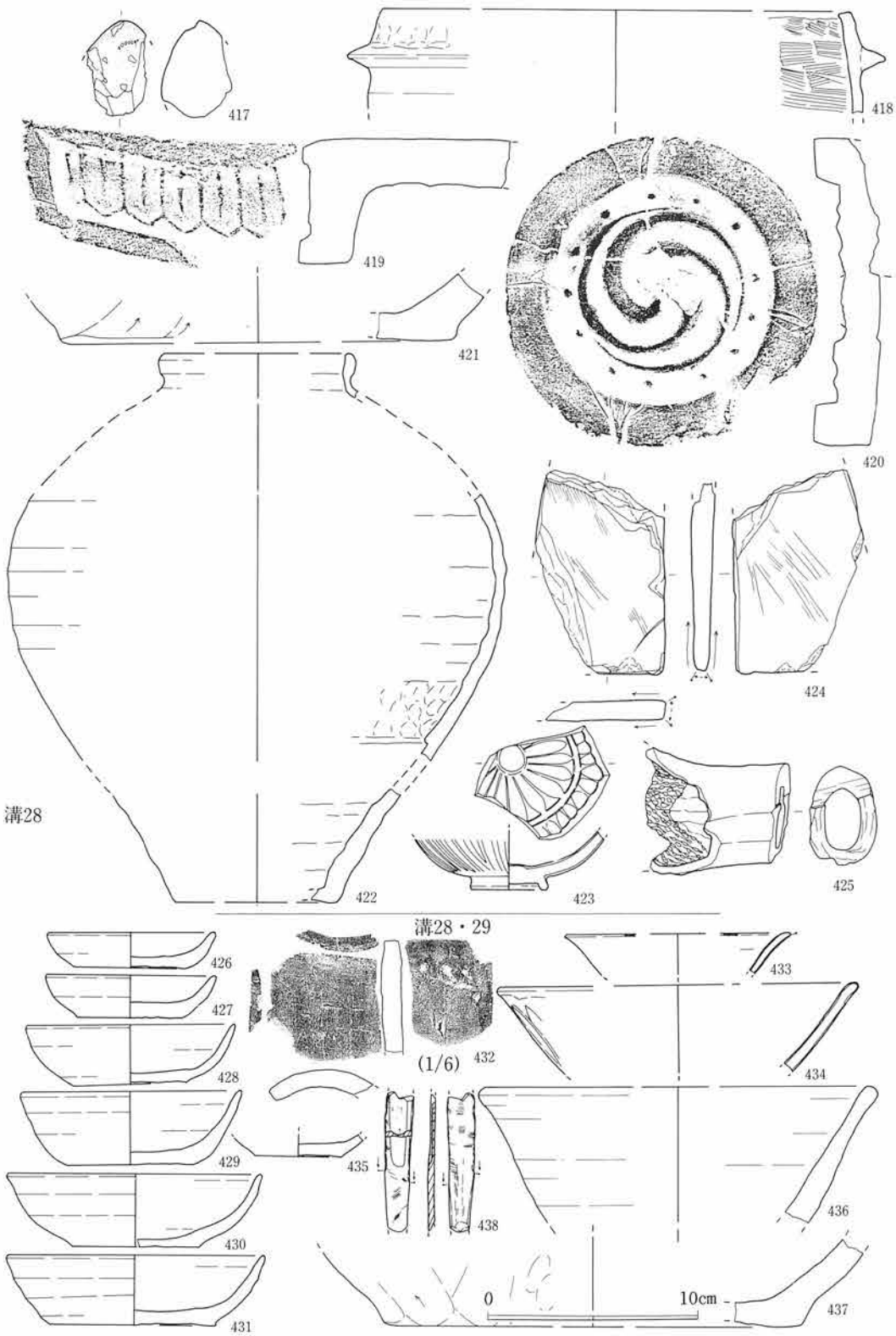


図37　1区1ｂ面遺構(溝28、28・29)出土遺物(1)

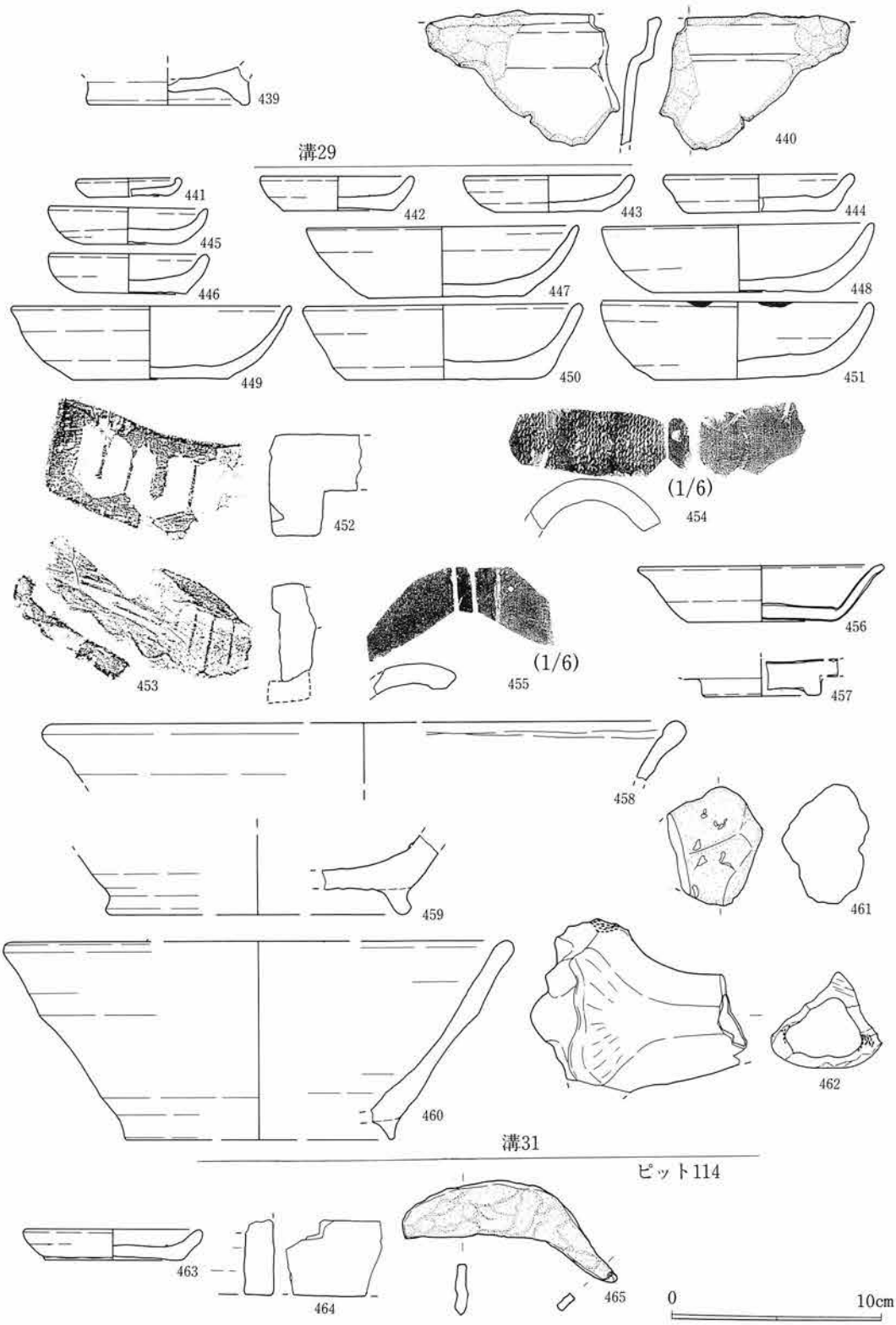


図38　1b面遺構(溝29・31、ピット114)出土遺物(2)

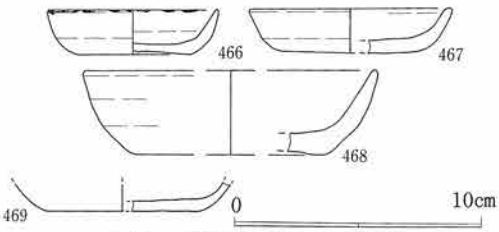


図39　1b面Ⅰ区面上出土遺物

やはりピット列がある。ピット列は幾列か認められるが、これらのピット列も後述のII区の西の限界をなすものである。そうであるならば、Ⅰ区とII区は溝16・17より１メートルほど内側を敷地限界としていることになる。そしてさらには、区画

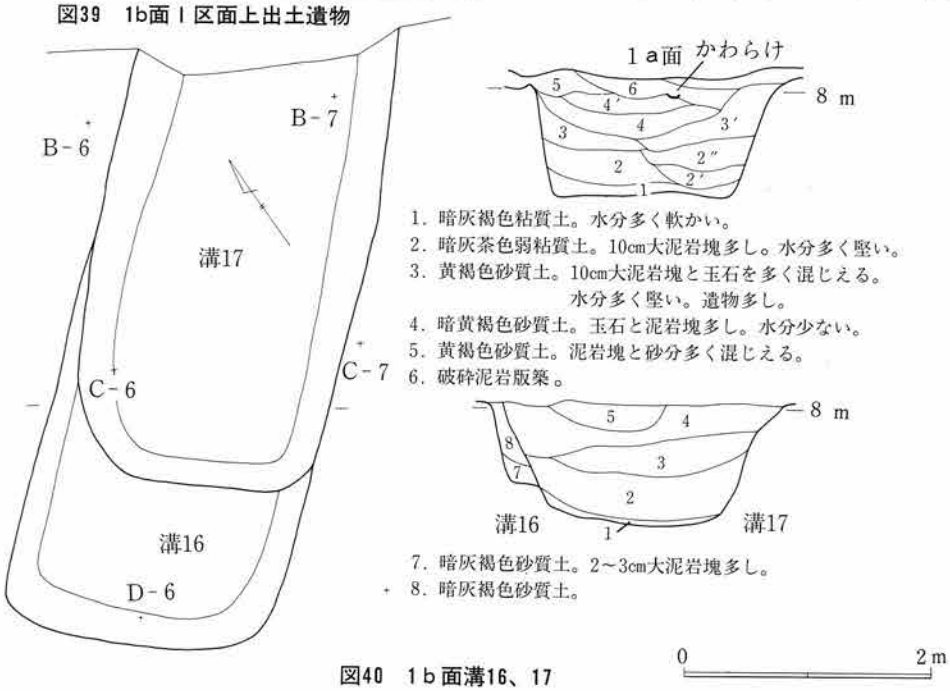


図40　1b面溝16、17

を分ける溝16・17と東西両脇に１メートルほどの通路を想定できる。

出土遺物では、溝16覆土内の手づくねかわらけと青磁劃花文碗と鉢の出土と溝17覆土内の底径口径比が大きく背の高い薄手ぎみの糸切りかわらけの対比が注意をひく。また硯製作用に端材が擦り切りによって切り落とされた硯石断片は、本遺跡を特徴づける遺物の一つである。

道路

溝16・17を埋めて、玉石と砕いた泥岩を叩きしめて造られる。溝17の最下層を除いた覆土が道路造成用の玉石と泥岩塊からなるため、道路の造成は、１b面にあって、溝17の掘削からそれほど時間的にかけ離れた時期のものではないと考えられる。ちなみに、１b面のⅠ区とII区の区画割をなした遺構は、溝31→溝16→溝17→泥岩版築道路へと時間的に旧から新に変遷している。

さて、道路は調査区北外へと延びる南北に走る道で、４メートル20センチの幅員を有する。荷車がすれ違える路面幅であるが、路面の東端はII区敷地の西限のピット列をやや侵食しており、II区西限界のピット列は東（内側）へと移動している。

路面上の出土遺物では、器高の高い大型手づくねと内湾小型糸切底かわらけに劃花文青磁碗の出土が注意される。

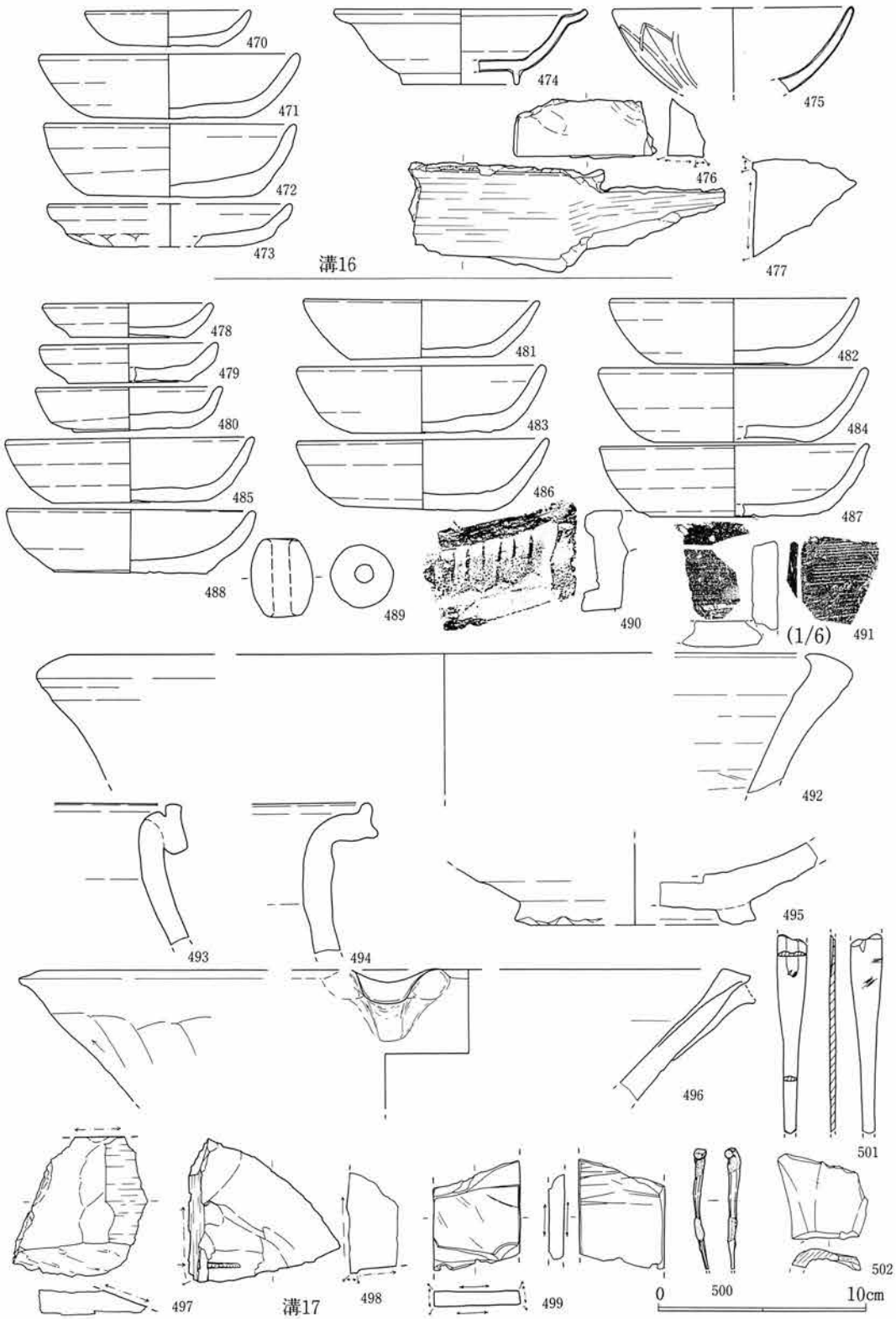
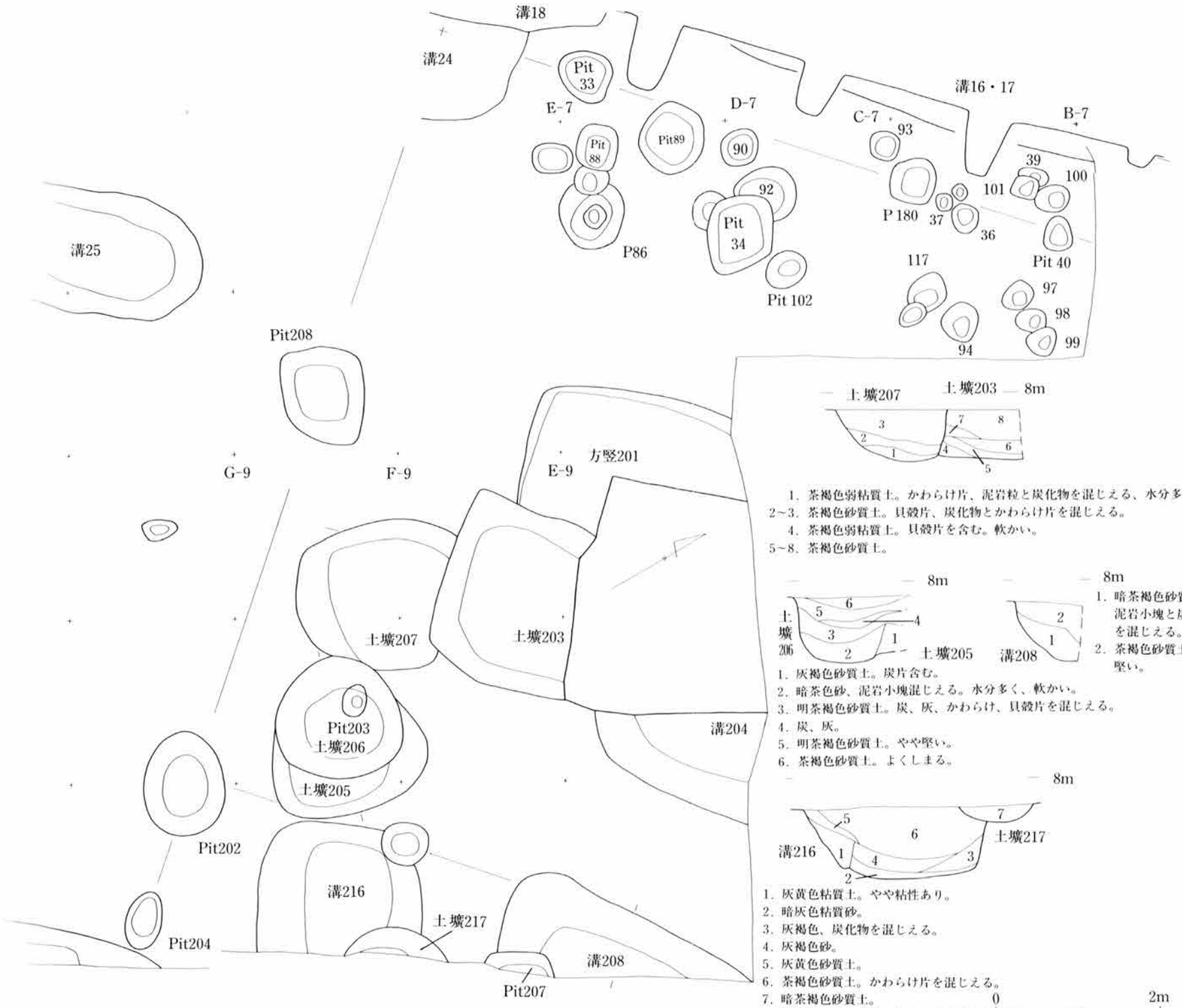


図41　溝16・17出土遺物



1．茶褐色弱粘質土。かわらけ片、泥岩粒と炭化物を混じえる、水分多く軟かい。
2～3．茶褐色砂質土。貝殻片、炭化物とかわらけ片を混じえる。
4．茶褐色弱粘質土。貝殻片を含む。軟かい。
5～8．茶褐色砂質土。

1．灰褐色砂質土。炭片含む。
2．暗茶色砂、泥岩小塊混じえる。水分多く、軟かい。
3．明茶褐色砂質土。炭、灰、かわらけ、貝殻片を混じえる。
4．炭、灰。
5．明茶褐色砂質土。やや堅い。
6．茶褐色砂質土。よくしまる。

1．暗茶褐色砂質土。泥岩小塊と炭化物を混じえる。
2．茶褐色砂質土。堅い。

1．灰黄色粘質土。やや粘性あり。
2．暗灰色粘質砂。
3．灰褐色、炭化物を混じえる。
4．灰褐色砂。
5．灰黄色砂質土。
6．茶褐色砂質土。かわらけ片を混じえる。
7．暗茶褐色砂質土。炭化物、泥岩小塊、かわらけ片を多く混じえる。

0　2m

図43　1b面II区

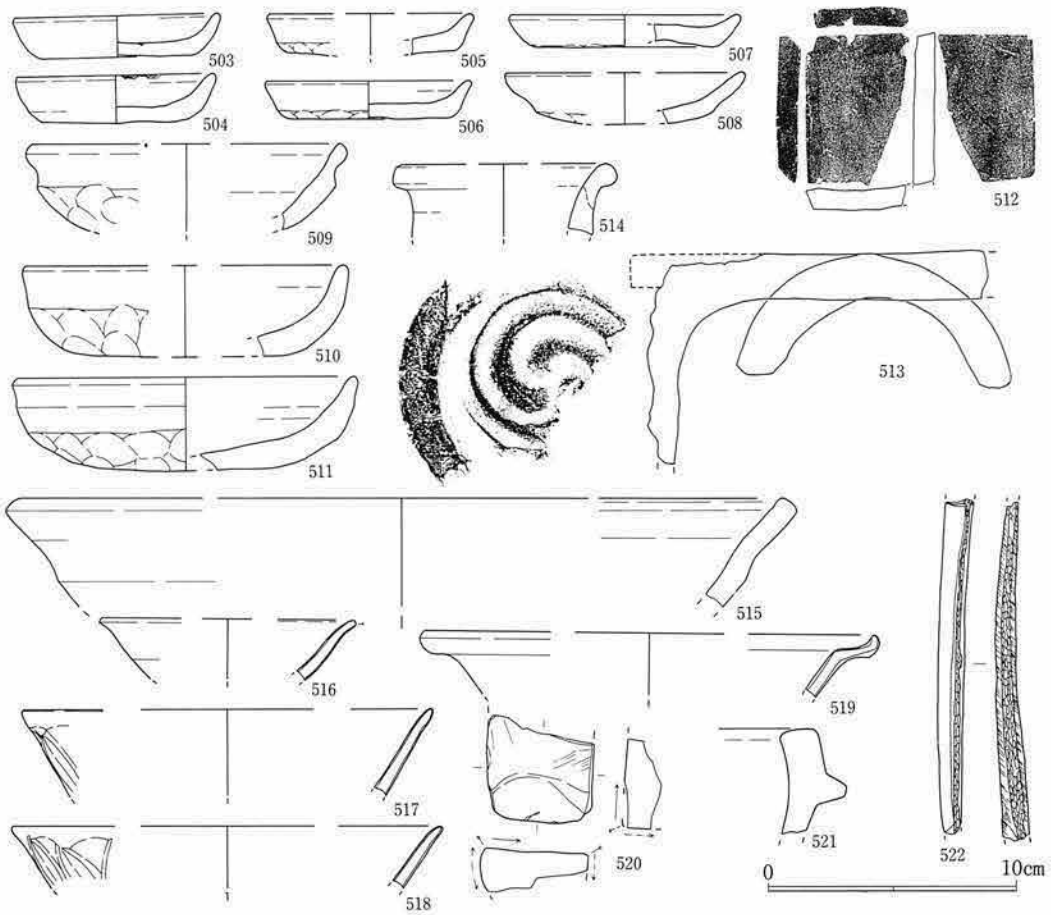


図42 1b面道路面上出土遺物

II区

II区は東西を溝16・17ないし道路と溝208に限られるが、南の限界、III区との境界が明瞭ではない。北の限界は調査区外にあると思われる。南の境界をなすものとして、II区南東の溝216とピット208～204の2者を想定できるが、溝216西方の土壙群の存在は、2面におけるI（II）区地境内側の状況と似ている。よってピット群をII区南限とし、溝216はより東区画の地境と考える。

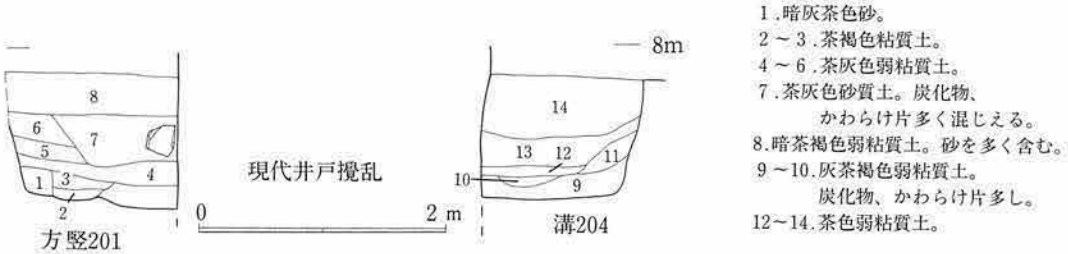


図44 1b面II区方形竪穴建築址201、溝204土層断面図

溝216

II区南東に位置し、調査区東外へと延びる。東西線は、I区南を限る溝14・18に合わせている。幅2.0メートル、深さ85センチを測る断面箱形を呈する。南側底面脇に溝壁保護の土留め木枠を設置したような土層堆積が見られる。

出土遺物には、底径口径比が大きくて薄手のかわらけに縁帯の小さな常滑の甕が伴う。

溝208

II区の東を限る溝、調査区内に全体の一部のみが発見される。深さ73センチを測る断面形はU字形を呈するものと思われる。南北軸線は溝216と直交する。

方形竪穴建築址201

II区中央付近に発見されるが、そのほとんどを現代井戸の掘り方に壊され、一部のみを確認した半地下式建物である。竪穴の掘り方西壁下に凝灰岩切り石を2個発見したが、その出土状況からして原位置とは考えらず、他に切り石の存置を認めることはなかった。出土遺物では、器高の高い糸切り底づくりと平底風の外反口縁の手づくね小型かわらけが13世紀末頃の年代指標となる。他方ロクロ挽きの粘土柱調整痕を残す糸切り痕かわらけ（542）が注目される。552は上層崩落土中出土。

溝204

現代井戸攪乱の東に位置する。深さ1メートルを測る断面箱形を呈する。上場ラインの形状から溝と考えたが、方形竪穴建築址の可能性も残している。

土壙203

方形竪穴建築址201を切る。一部を現代井戸攪乱に壊されているが、方形を呈すると思われる。一辺1.8～2.2メートル、深さ60センチを測る。出土遺物では、砥石、端部の磨滅した常滑の甕細片、擦り切り痕のある獣骨片など工芸細工関連の遺物がみられる。

土壙205、206

溝216の西に位置し、ほぼ同地点にて切りあっている。土壙206が新しい。205は不整円形をなすと思われ、直径1.9メートル、深さ70センチを測る。206も不整円形を呈し、直径1.5メートル、深さ80センチを測る。覆土には炭、灰、かわらけ、貝殻片を混じえる。ゴミ捨て穴か。

土壙207

土壙203を切り、土壙206に切られる。不整方形を呈し、一辺2メートル内外、深さ65センチを測る。覆土に炭化物とかわらけ4片を混じえ、ゴミ穴か。出土かわらけに薄手丸深の初現形態(719)。

土壙217

溝217を切る。調査区東端にその一部を発見する、覆土に炭化物とかわらけ片を多量に混じえ、ゴミ穴だろうか。

そのかわらけは、小型と中型の手づくねを混じえる糸切り底づくりを主体とする一群で、糸切り底に中型品と薄手丸深がみられる。

ピット群

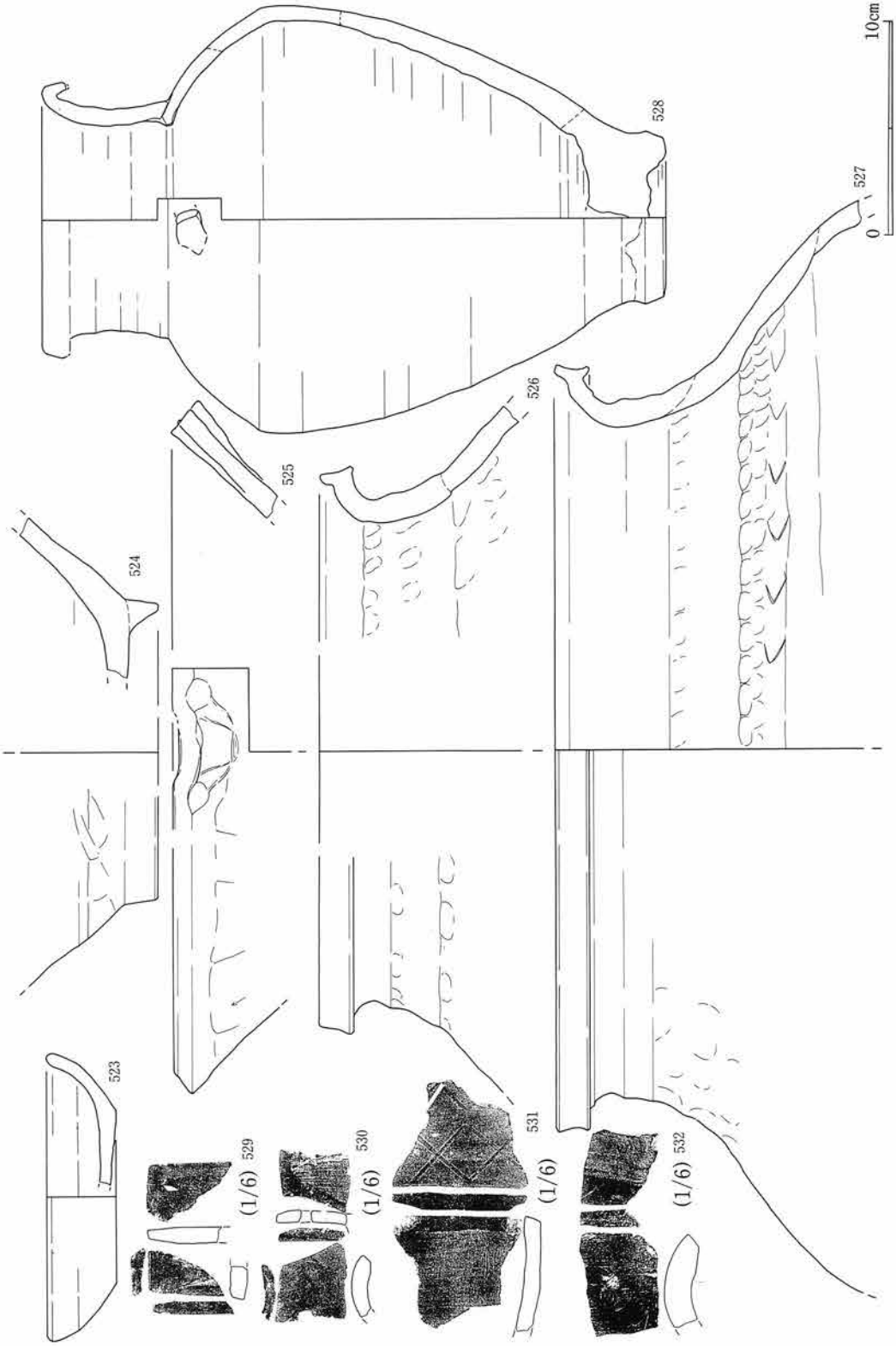


図45　1b面II区遺構(溝216)出土遺物(1)

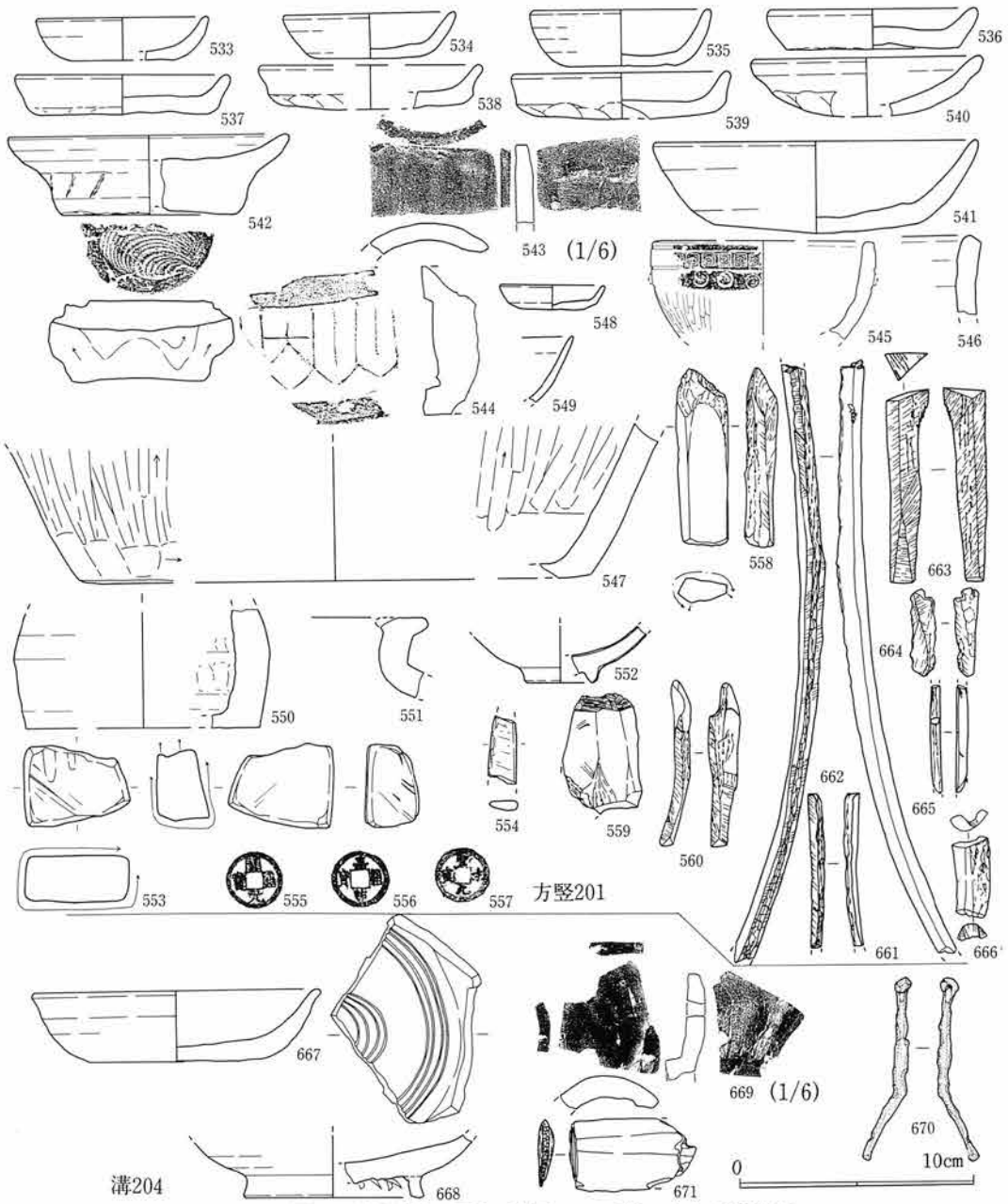


図46　1b面II区遺構(方形竪穴建築址201、溝204)出土遺物(2)

I区II区を限る溝16・17もしくは南北道路の東にピット群が位置する。これらはII区敷地の西限界をなす塀もしくは柵と考えられ、先述のように、時期差をもって塀は西から東の列へ移動している。ピット40～33は溝16・17がI・II区を分割していた時期のもので、ピット99～86がなす塀は道路が区画分割機能を果していた時期のものである。ピット86からは、廃棄された永福寺II期瓦に伴って小型の薄手丸深かわらけの典型例が出土している。

II区東部に位置するピット203・207・209は他のピットとの明瞭な配列を確認できなかった。これらはII区1b面の中でも最も新しい時期に属する遺構である。

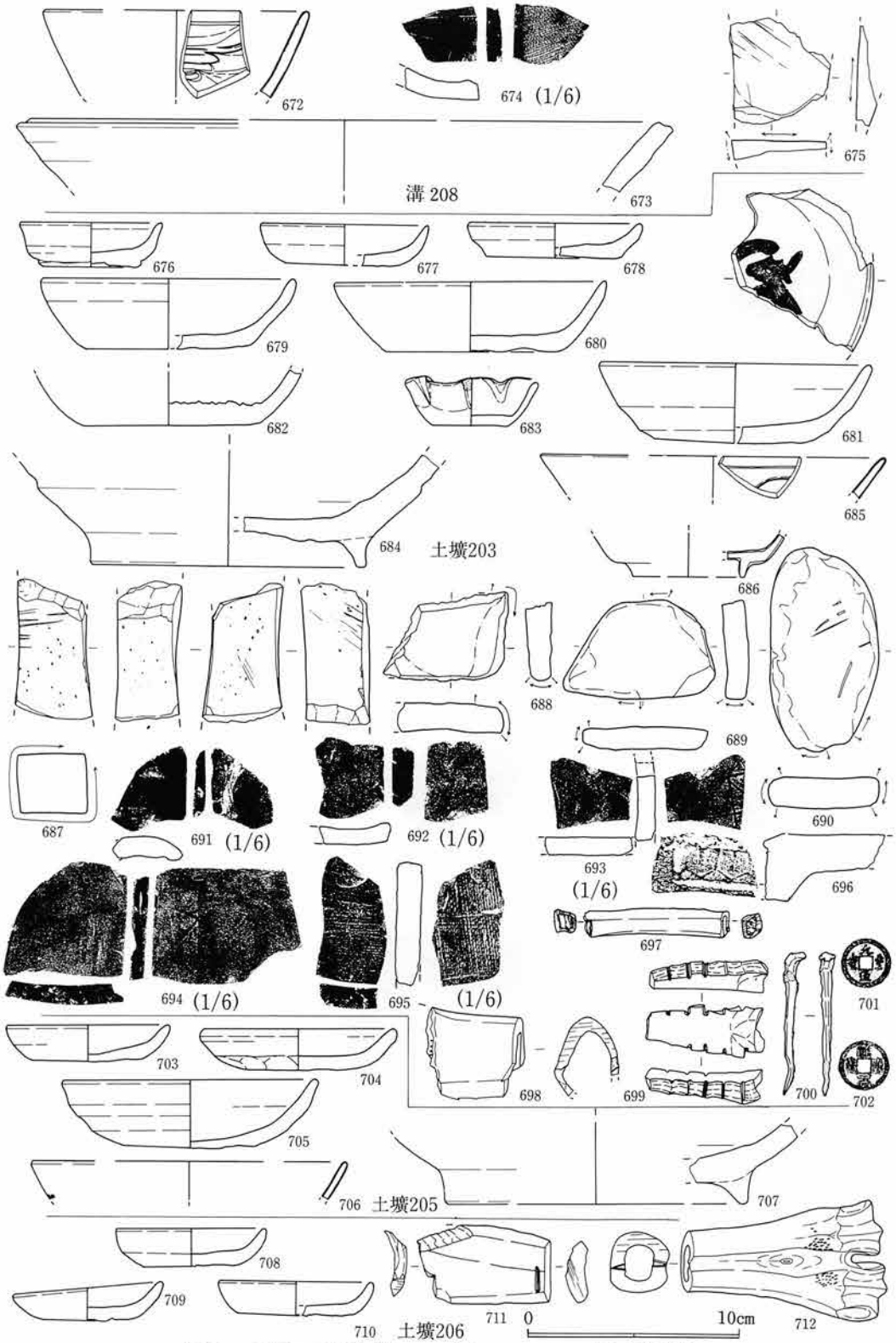


図47　1b面II区遺構(溝208、土壙203・205・206)出土遺物(3)

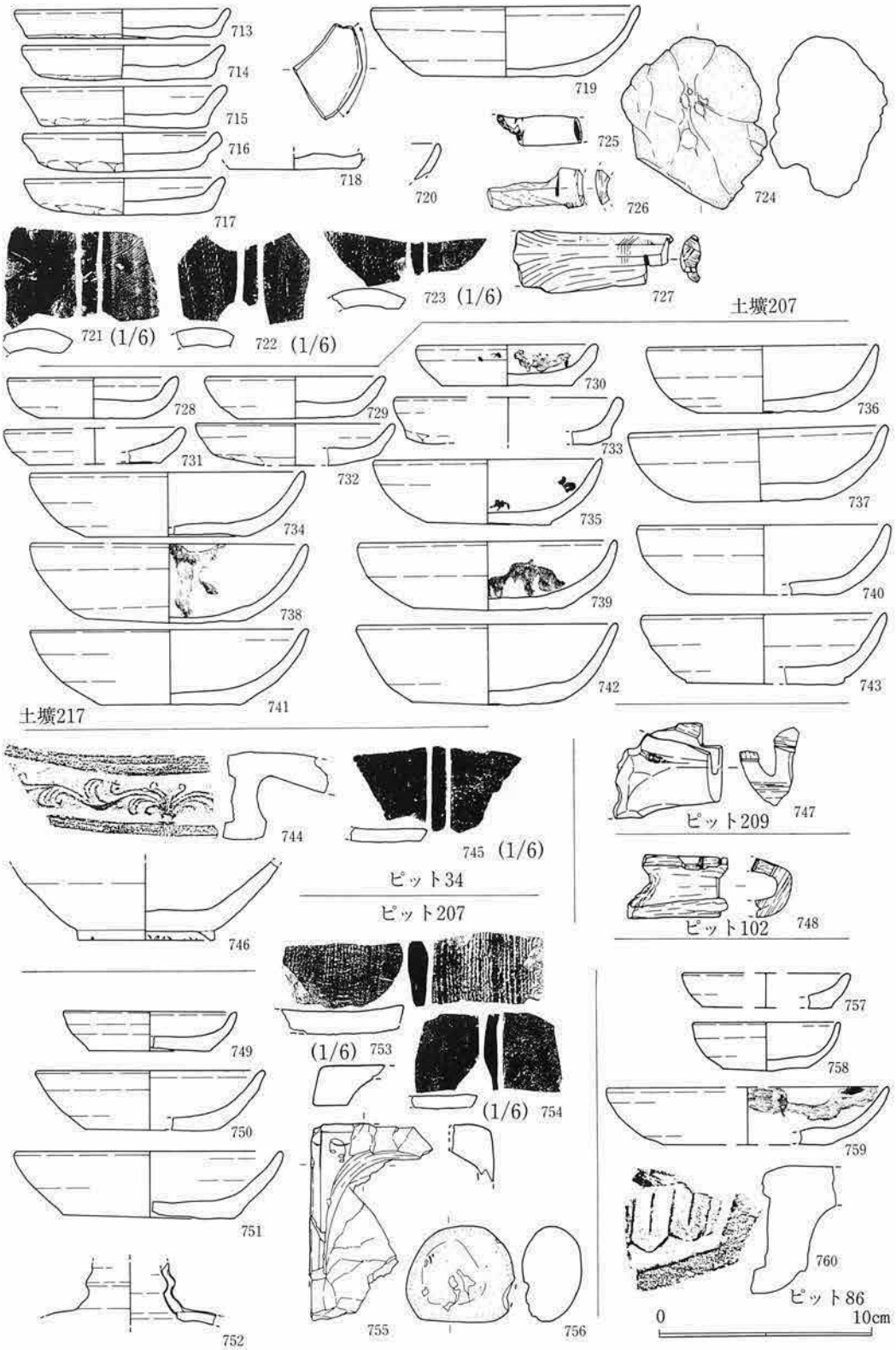


図48　1b面II区出土遺構(土壙207・217、ピット34・86・102・207・29)出土遺物(4)

III区

溝25・201・203に東、西、南を、ピット列208、202、204に北を限られた区画。区画内に建物や土壙などの遺構はなく、空間地のような様相をみせている。しかし、溝201と202が作り替えによって同位置に掘られるなど、溝による区画分割は厳然と守られていたと思われる。すなわち、III区における東、西、南の限界は、ほぼ溝をもって考えてよいことになり、かえって北の限界、II区との境が問題である。II区とIII区は一連の区画であり、ピット208～204は敷地内分割であろうか。

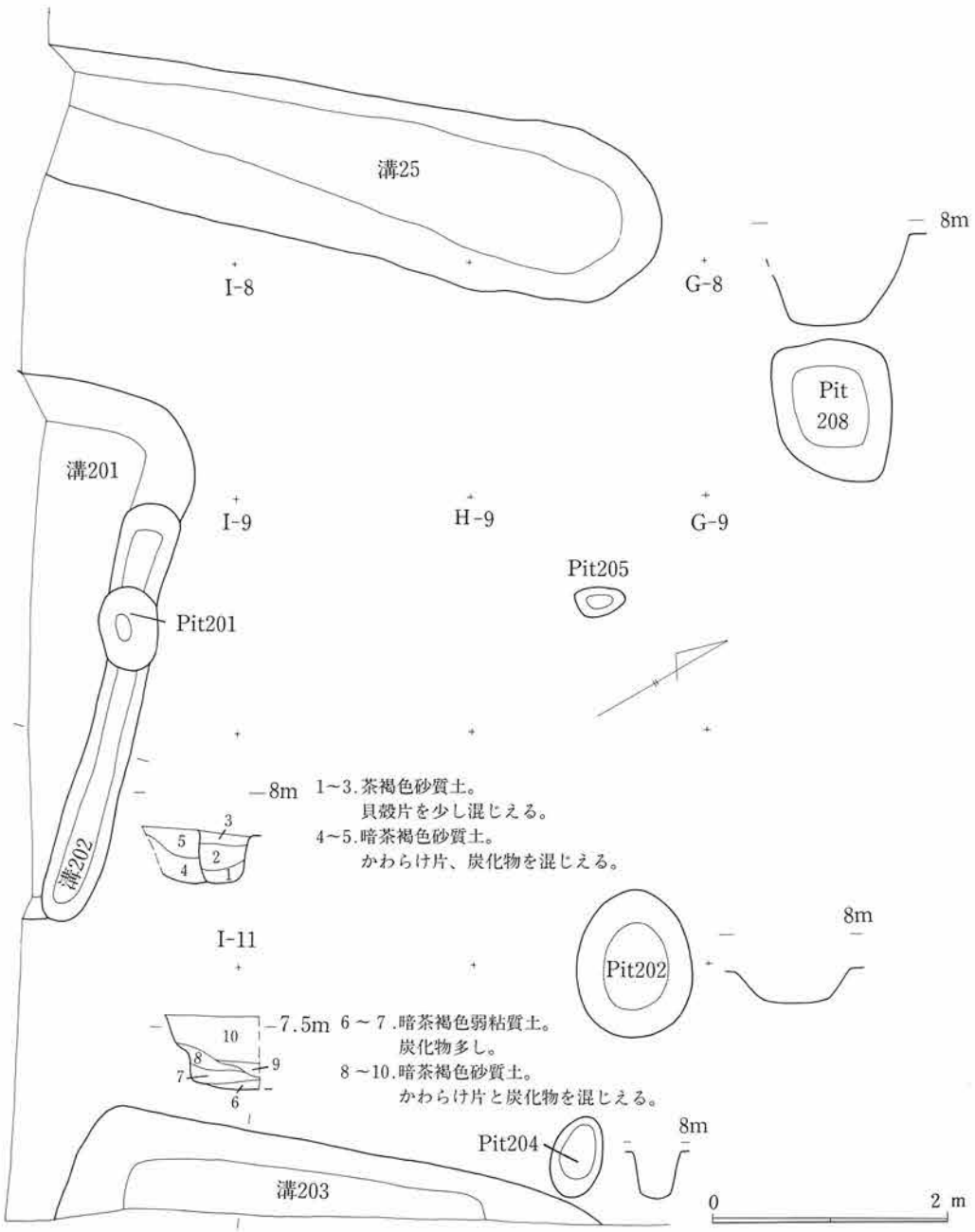


図49　1b面III区

溝201

II区の南を限る、東西長4.5メートル、深さ50センの溝。断面形はU字形を呈し、底面は平坦である。

溝202

溝201を切る。長さ3.6メートル、幅48センチ、深さ43センチを測る。東西軸方位は溝201と同じで溝201の更新と思われる。

溝203

II区の東を限る、長さ4.6メートルほど、深さ60センチを測る溝。断面形は2段落ちの箱型を呈し、底面は平坦である。

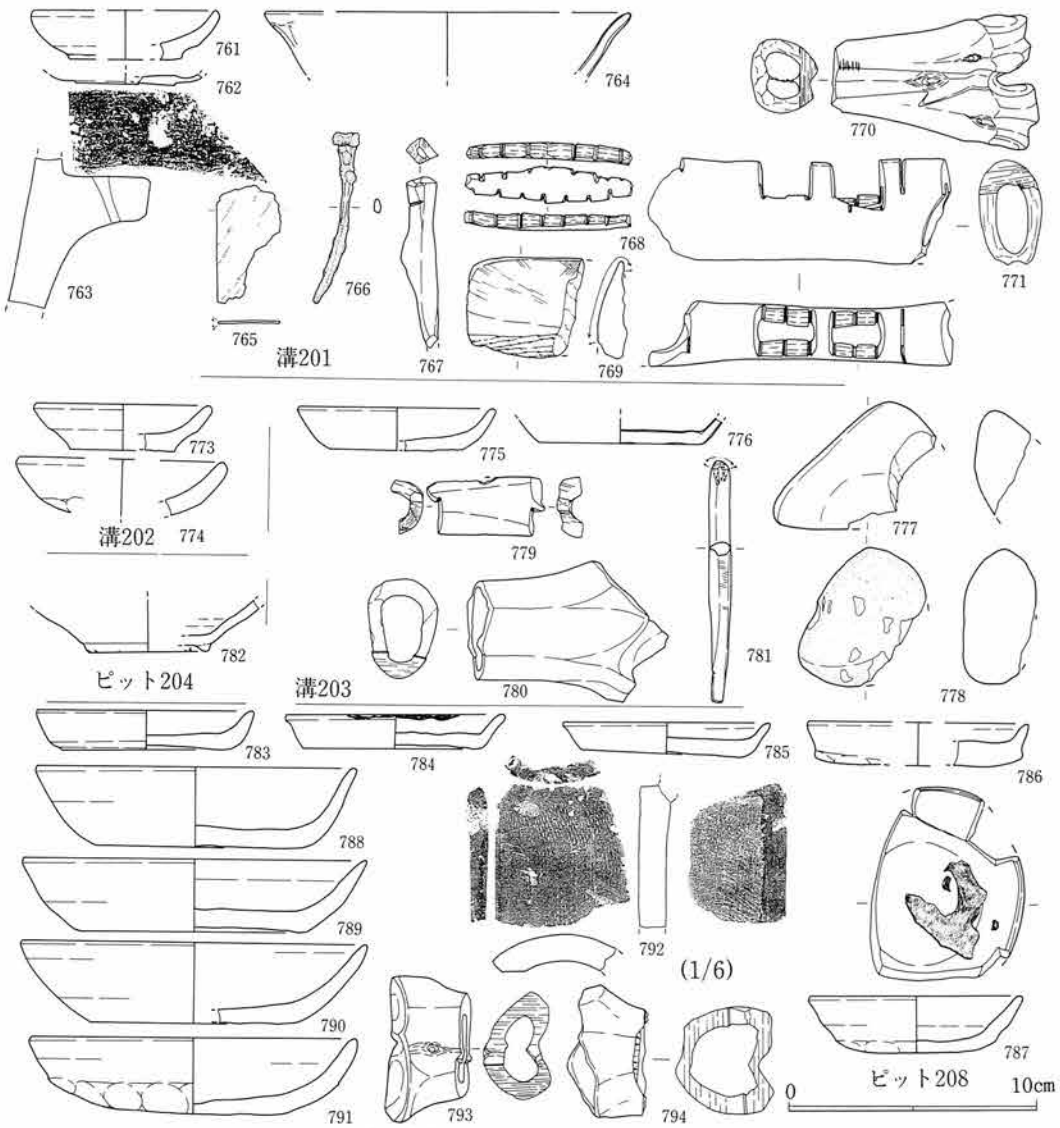


図50　1b面III区遺構(溝201・202・203、ピット204・208)出土遺物

ピット202・204・288

III区の北に溝201・202の東西軸方位に合わせて東西に並ぶピットである。これらは並びの方位が区画割溝と一致するものの、上述のように明瞭な地境の役を果たしていた可能性は弱く、それぞれの規模も異なっている。

II区の項にてII区の南限を確定できないとしていたように、ピット208～204の並びは区画分割というよりは、やはり敷地内小区分割とも考えられる。ただし、II・III区を同一敷地と考えた場合II区南側にゴミ捨て穴と思われる土壙が幾度も掘られている状況をどのように解釈するか問題である。

1b面II区、II・III区面上出土遺物

1b面の面上より出土した遺物のうち、方形竪穴建築址201周辺に発見されたものをII区、それより南地域に発見されたものをII・III区面上として、以下に図示した。

II区面上出土の796は薄手丸深かわらけの中型品。ぼってりとした手づくねかわらけも出土してい

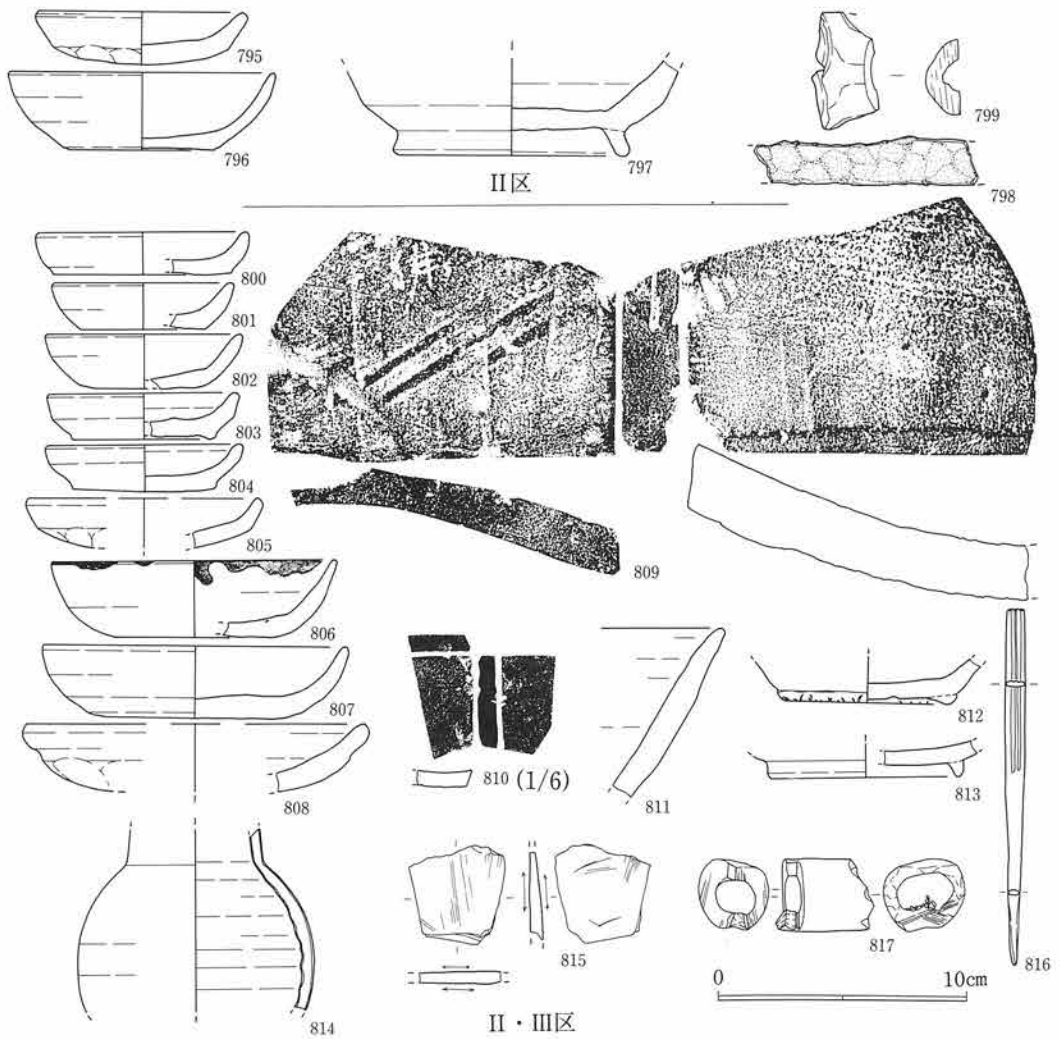


図51　1b面上II、II・III区面上出土遺物

る。II・III区面上出土では、東海系の暗灰色胎土（渥美）のこね鉢に、やはり東海系（八事裏山）の平瓦がある。本遺跡からは、永福寺系をはじめ多数の瓦が出土しているが、東海系の瓦もかなりの点数が出土している。地業土の中に紛れこんだとしても、寺院との関係が気に懸かる。

IV区

IV区の地境はかなり不明瞭で、他の区から囲まれた地域として認められる区画である。基本的には、東西溝14と18によってI区と南北道路方向からの出入口を塞ぎ、溝25によってII区との境をなしているが、溝25と同様の軸方位をもつ南北溝が幾条も区画内にあって、複雑な区画もしくは敷地を構成している。井戸の存在が敷地としての存立を示唆している。

溝37、土壙11

溝25の西に隣りあい、南北に長軸をもって位置する。溝25は上面を1a面溝6に切られているために、本来の深さを確認できないが、95センチ以上もV字形に掘り込まれ、II区の西の限界を示している。これに切られる溝37も深さ80センチを有する地境の溝である。溝37が調査区内にて収束する。IV区南西隅にある南北溝1と平行関係にあり、同一小期の溝と考える。

土壙11は溝37に切られる。南北長3.1メートル深さ65センチを測る。溝であるかもしれない。

井戸1

IV区南西隅に全体の半分ほどが発見された。直径3.6メートルの円形上場の掘り方のほぼ中央に設置された井戸枠は一辺95センチの方形木枠横桟支柱型と思われる。井戸内調査は検出面より下方1.2メートルほどまで行ったが、以下は崩落の危険を避けるため調査を進めなかった。井戸枠は調査掘

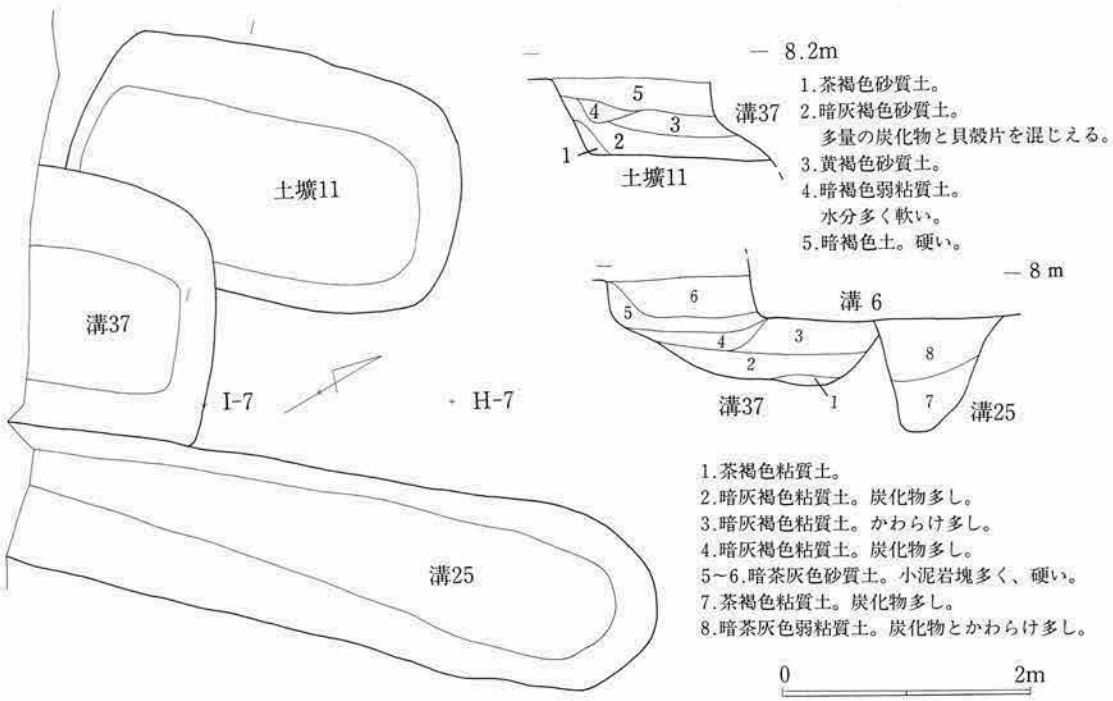


図52　1b面IV区溝25・37、土壙11

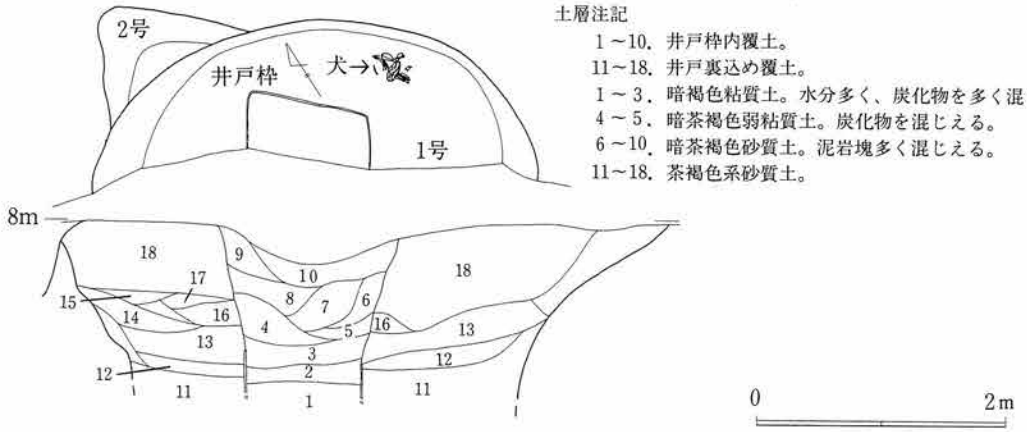


図53　1b面Ⅳ区井戸1

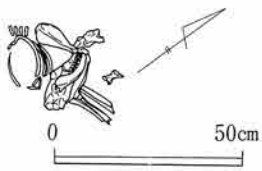


図54　1b面井戸1内犬骨

り上げ底面と調査区壁面にてのみ確認できた。

井戸掘り方覆土内からは犬の全体骨が発見された。調査中に半分ほどが動いてしまったため、実測図では原位置に残った状況を示した。遺存骨の状態からして、死体が投げ込まれたと考えられる。出土遺物は、井戸枠内覆土からである。掘り方内覆土からは犬骨を除く遺物は、かわらけの細片のほかにはなかった。

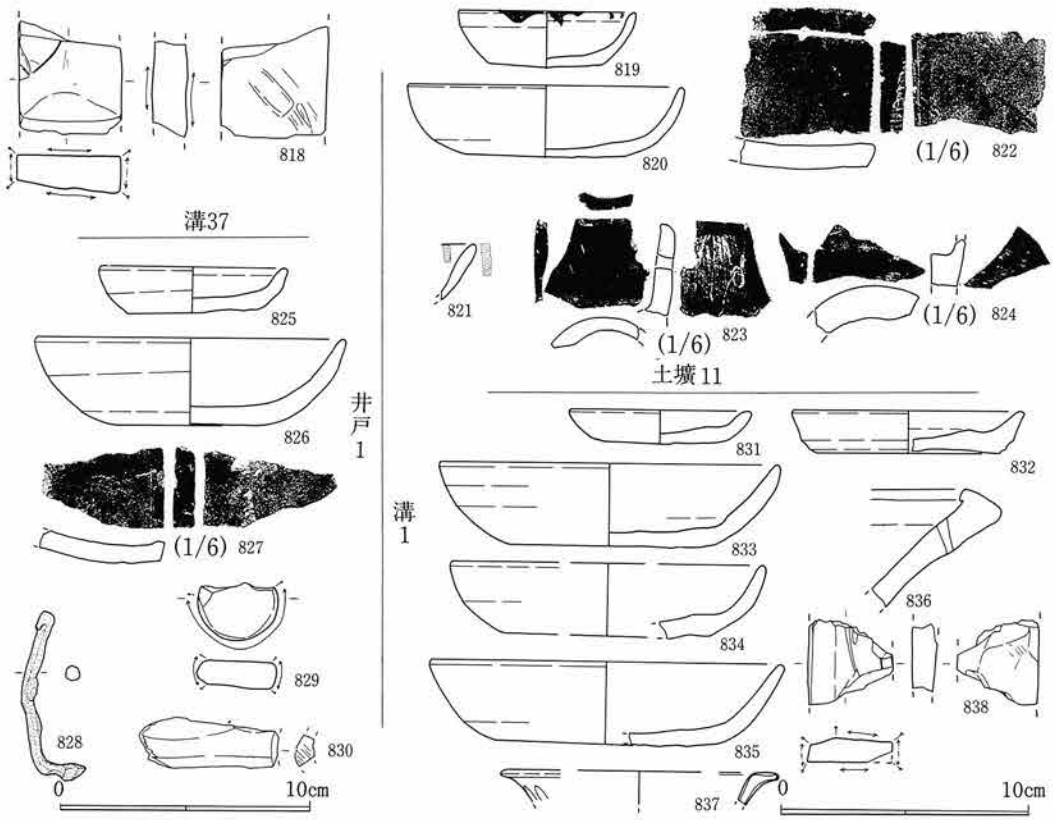


図55　1b面Ⅳ区溝1・37、土壙11、井戸1出土遺物

溝1

井戸を切る。幅1.1メートル、深さ75センチを測る。底面は平坦。断面は箱型を呈し、覆土上層には1a期道路面版築材となる玉石を多く混じえている。

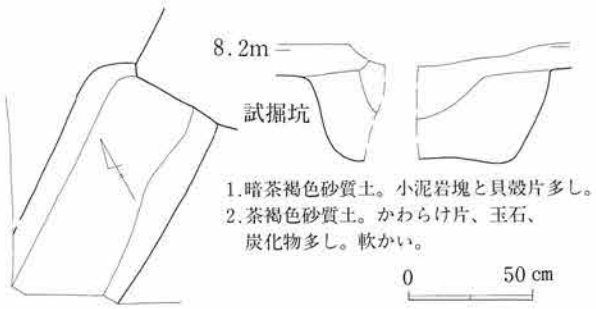


図56　1b面Ⅳ区溝1

溝22・24

Ⅳ区中央付近に隣接して切り合いながら南北に長軸をもつ溝である。両溝ともに後述の溝18に切られ、また溝24が溝22を切っている。

溝22は、南北長3.9メートル以上、幅1.7メートル、深さ80センチを測る。底面は平坦である。南北軸方位とその軸線が溝18を挟んで北に位置する溝16・17と同一である。溝22と溝16・17の同時期併存を想定させる。覆土は粘質土を主とし、特に第4層には炭と炭化物を多量に混じえていた。

この4層中からは多くの遺物が出土している。遺物の半数以上をかわらけが占め、ゴミ捨てか、何らかの儀礼の際の関連品だろうか。886の硯石端材とともに破損硯断片を再加工途上にて捨てられた887の出土が注意される。886のような硯製作もしくはその第一次加工が行われていたことを示す硯石断片を多数出土する遺跡地に、修理・再利用細工品も同時に街中より持ち込まれていたことを明示している。

溝24は、南北長3.9メートル、幅1メートル83センチ、深さ42センチを測る。底面はやはり平坦である。長軸方位とその位置より溝22の作り替えと考えられる。覆土は下層から上層までほぼ同一で

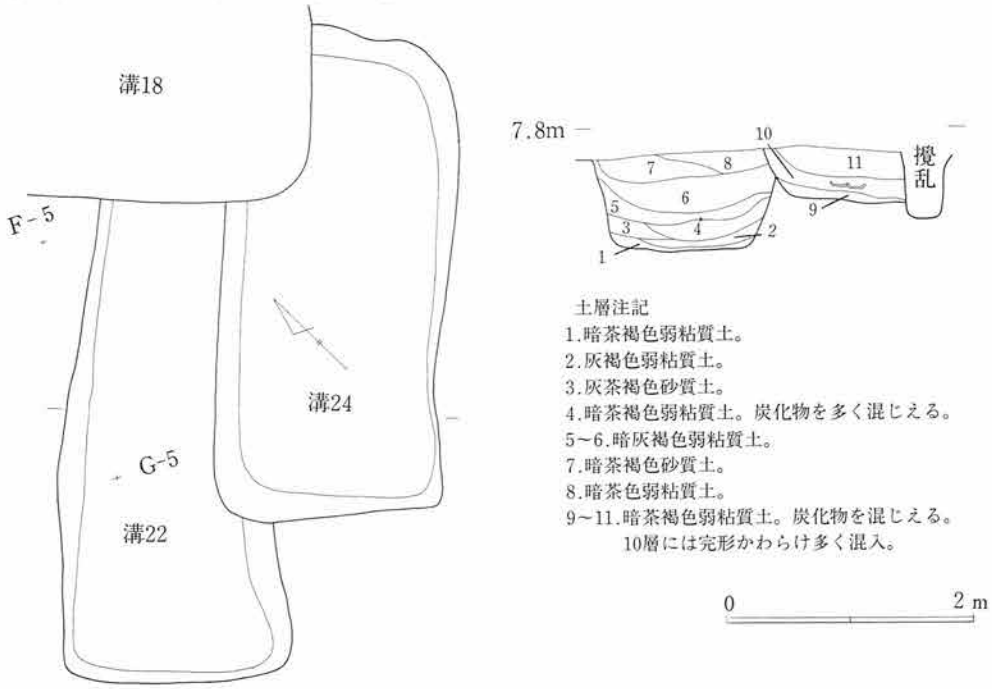


図57　1b面Ⅳ区溝22・24

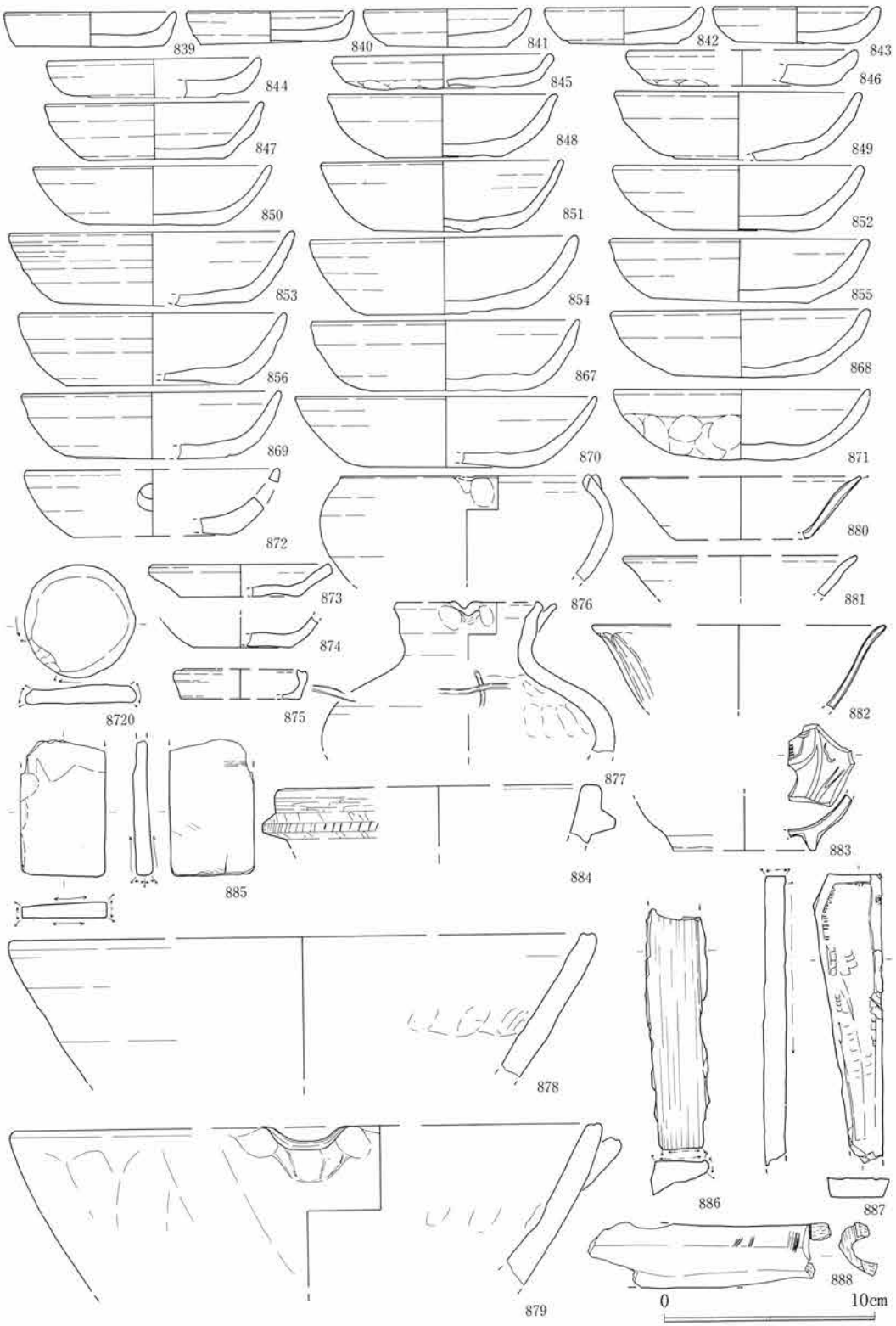


図58　1b面Ⅳ区溝22出土遺物

いちどきに埋められたようで、中層からは完形のかわらけが多数出土した。

出土したかわらけに薄手丸深はないが、同時期のものと思われる器高が高く、体部が丸く開いて底径口径比の大きなものがほとんどとなっている。

さて、Ⅰ・Ⅱ区地境の基本をなしていた溝16・17と南北軸方位を合わせ、その延長線上に位置する溝22と24は、ある時期にⅣ区の東限をなしていたと考えられ、溝25と37の間は通路であったと考えられる。溝37と1が東西の地境であった時期もあり、1b面Ⅳ区には小期ごとの変遷が想定される。

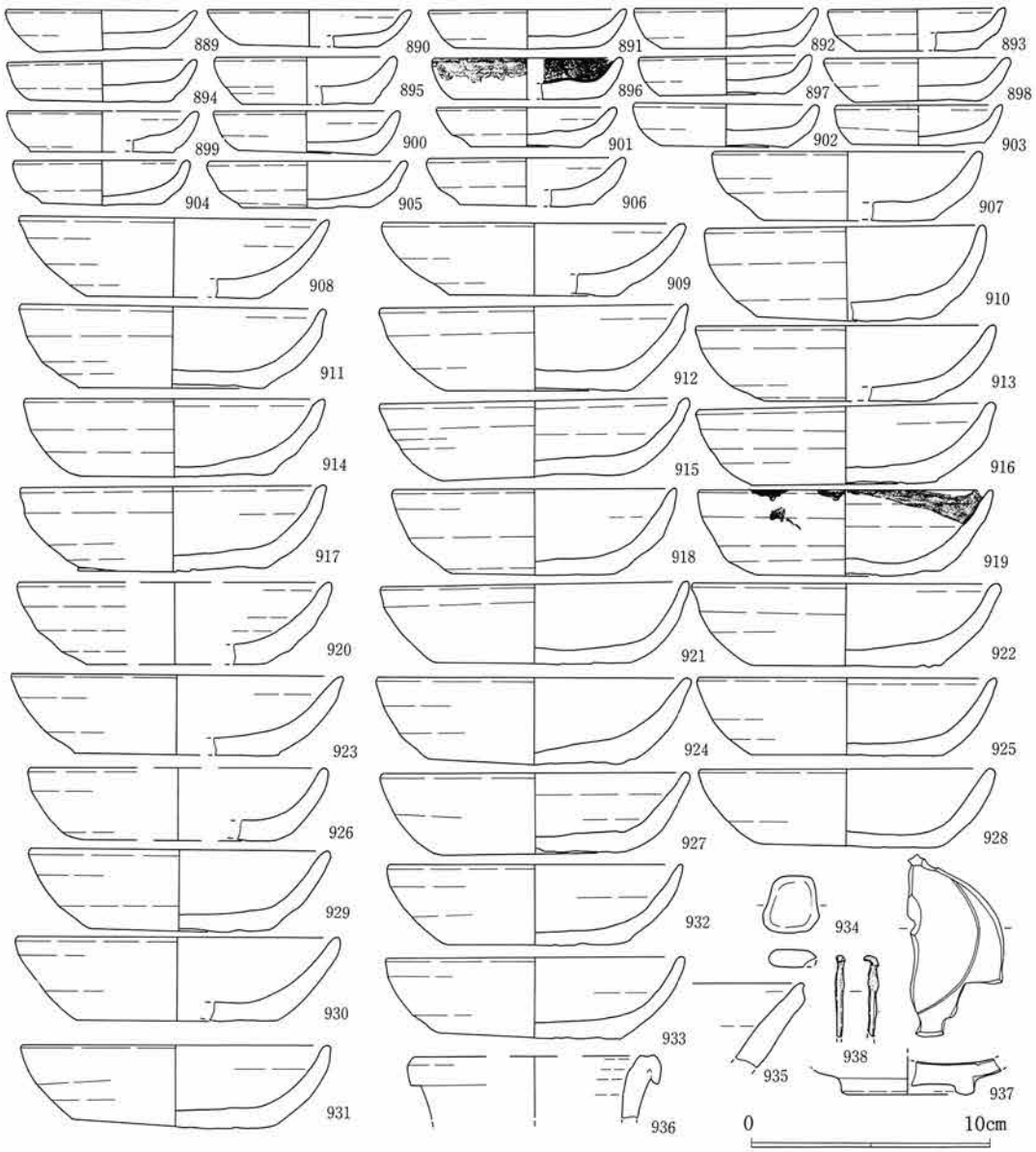


図59　1b面Ⅳ区溝24出土遺物

溝14・18・19

IV区の北限をなす、東西に長軸をもつ溝である。溝19が最も古く、それ以降18、14と更新されてゆく。

溝19は溝18の底面下に発見され、その一部のみを確認できた。東西長3.5メートル、幅1.5メートルほどを測る。深さは1.4メートル前後であろう。

溝18は溝19の掘り直し。東西長5.4メートル幅2.9メートル、深さ1.3メートルを測る。覆土は泥岩塊と玉石を多く混じえる砂質土からなり、１ａ面に現れる泥岩版築道路の下地固めであろう。出土遺物にはかわらけの口縁が外反ぎみに立つ小型の手づくねと糸切り底の双方がみられる。

溝14は東西長4.3メートル、深さ35センチを測る。溝幅と底面は一定しない、覆土は灰色砂質土で埋めつくされ、他の１ｂ面遺構覆土と異なる。１ａ面版築道路が溝14直上に位置することから、１ａ面道路の掘り込み基礎かもしれない。

遺構の切り合い関係から、溝16・17、溝22・24の存在時期には溝18付近は道路であったろう。

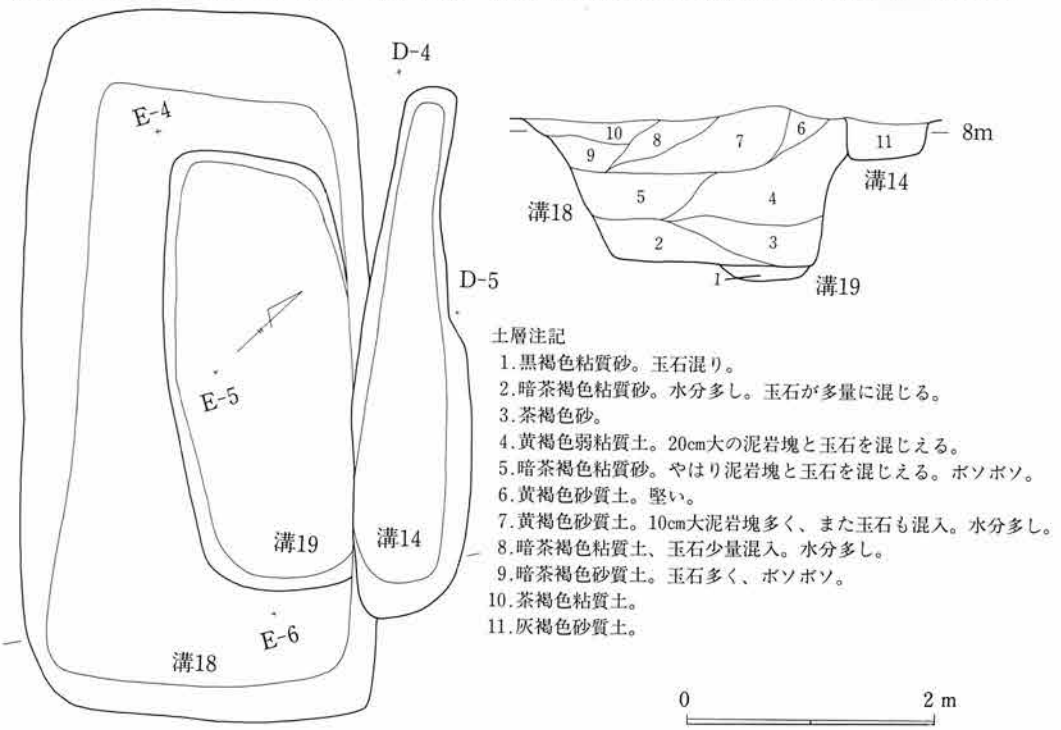


図60　1b面溝14・18・19

その他の遺構

IV区には数口のピットが発見されているが、それらに並び等を認めることができなかった。

ピット13からは、高麗青磁の天目台の破片（967）が出土している。

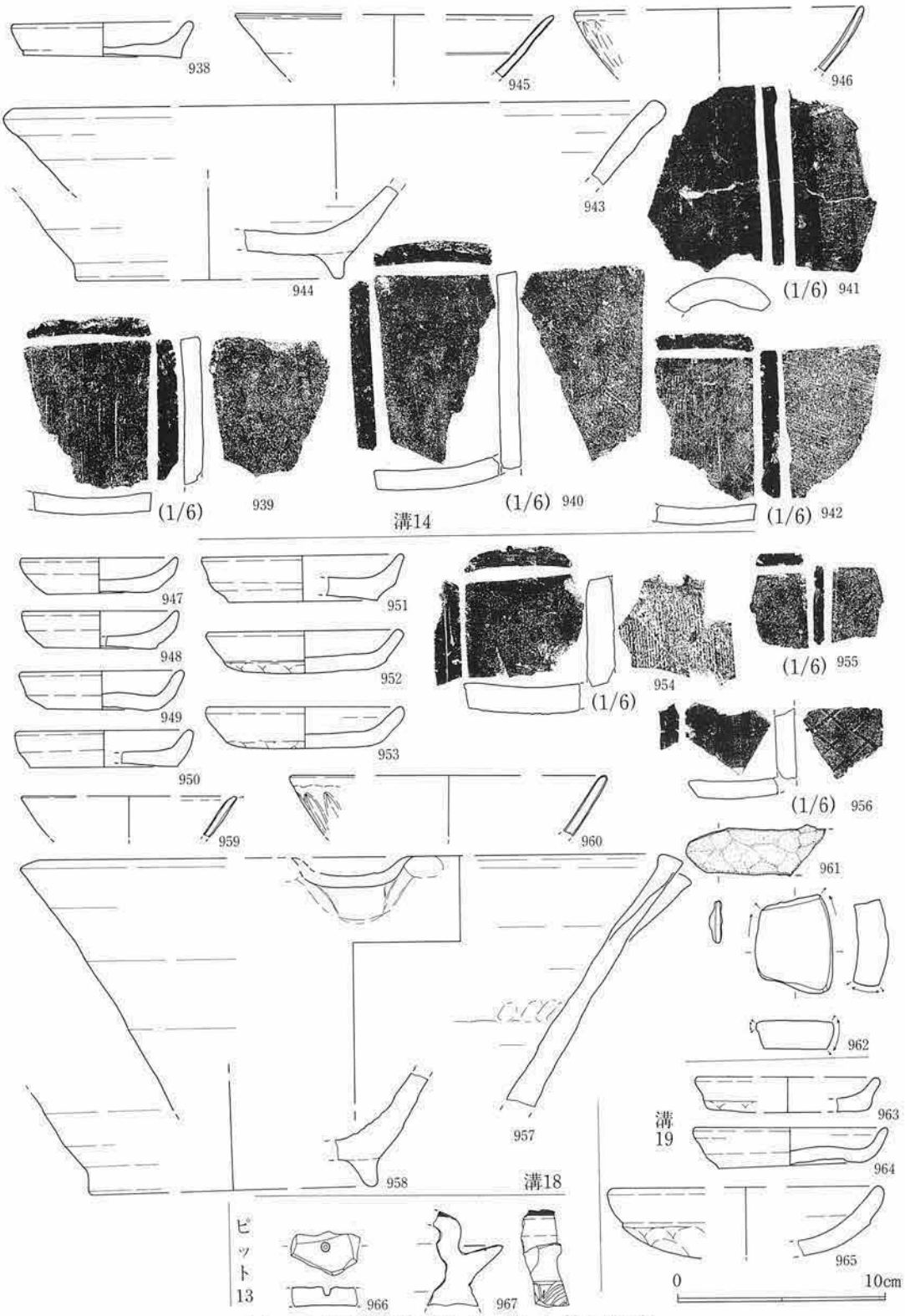


図61　1b面Ⅳ区溝14・18・19、ピット13出土遺物

V区

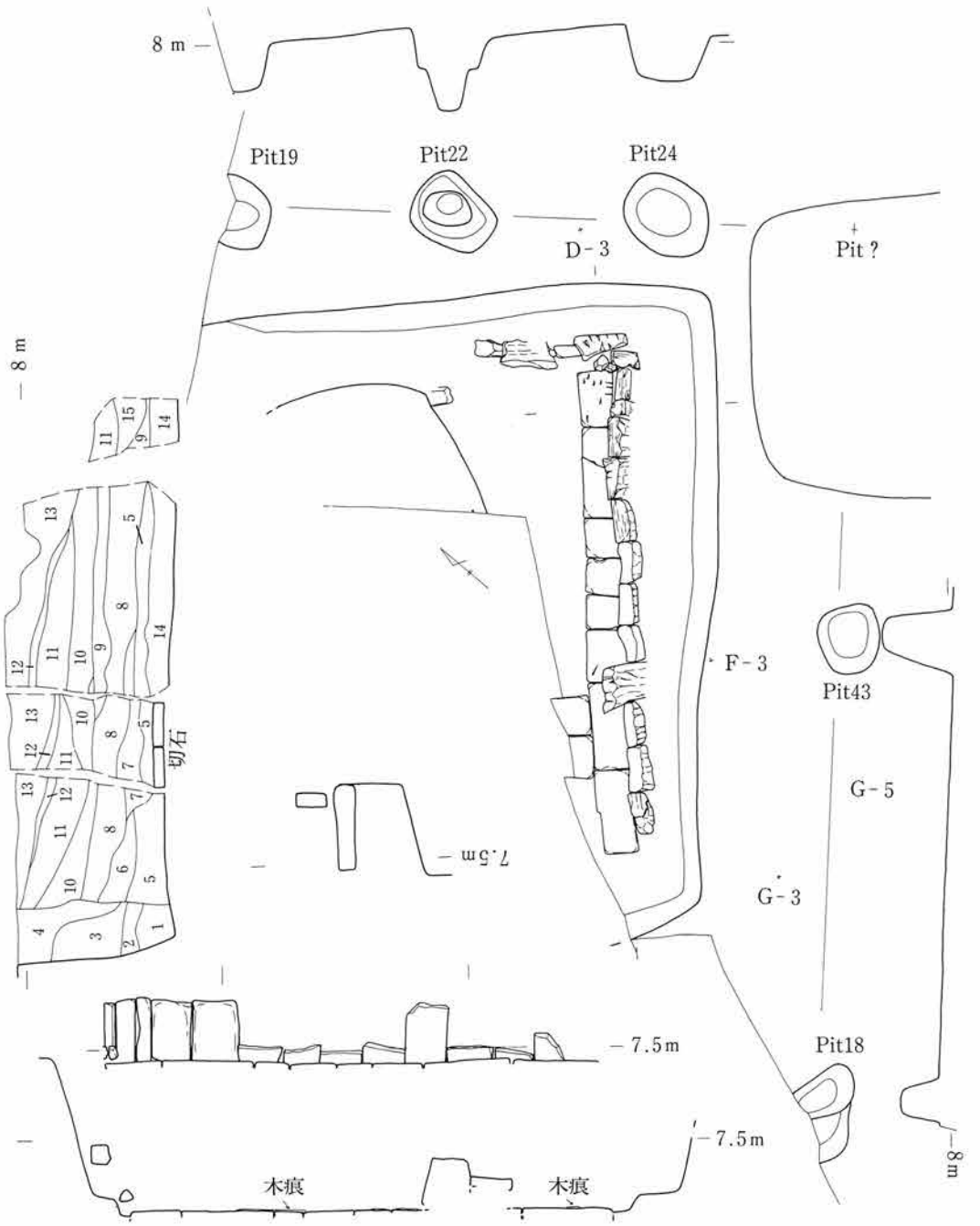
V区とした地域は、調査区の西南、方形竪穴建築址を囲むようにL字形に並ぶピット列によって他地域と区別された敷地を指すが、本来は溝28によって北を、溝22によって東を限られた区画と思われる。その区画内にピット列で囲んだ敷地に方形竪穴建築址が建てられた。遺構の切り合いと配置から、溝18は方形竪穴建築址を囲むピット列を切るためにそれ以前の溝が方形竪穴建築址の北東および東を限る。それらとして溝19と溝22ないし24を想定できる。すでに指摘したように溝22・24は溝16・17とともに調査区内の区画割りにおいて南北溝の基本でありながら、溝22・24に東を限られた区画の西の限界は不明であった。そうした溝22・24の西方にI区の南北ピット列の延長線上に近い位置に方形竪穴建築址の東側ピット列がある。このようにみる時、溝16・17を東の限界とするI区と溝22・24を東の限界とする方形竪穴建築址の建つ地域が相似形の区画割りとして現れてくる。すなわち、溝22・24とIII区との間にある空地が通路であった時期の存在をすでに記しておいたが、その時期には溝22・24の西方はここで言うV区に属していたことになる。

以上のようにIV区とV区は本来異なる区画ではなく、IV区とV区を包摂した本来のIV区から分離して東へ拡大した部分をこれまでIV区として記してきたことなる。そして、このIV'区とすべき区画が次の1a面においてIV区とし確立する姿を見せるため、以下方形竪穴建築址をピット列で囲んだ地域をV区として記してゆく。

方形竪穴建築址1

調査区西端にて発見されたが、大方の部分は調査区外へと拡っている。掘り方全形は長方形もしくは方形をなすと思われるが、調査では矩形掘り方の2辺を認め、東壁の南北長のみを確認できた。東壁の掘り方の長さは5メートル40センチの上場にほぼ垂直に落ちる壁下に5メートル25センチの下場をもつ。掘り方内部からは、掘り方壁面に平行した凝灰岩切り石列が発見され、本方形竪穴建築址は「土台建て」(宗葦1991)に分類される。発見された切り石は、底面に据え置かれた基礎石と、その外側に立てられた壁面下部をなす裾石がある。

基礎石は、長辺73センチ、短辺44センチ、厚さ13センチを測り、長辺を壁面に平行させて連ね、掘り方底面直上に据えられる。東壁下の基礎石全長は4メートル25センチを測るが、南方においては基礎石一ヶ分を残して東西方向の基礎石が据えられている。北壁下では、現代井戸の掘り方攪乱により東西方向の基礎石を確認できなかったが、北辺の裾石が東壁下基礎石の北端外側に配されていることから判断して北壁下基礎石は東壁下基礎石北端に直角に据えられていたと考えられる。他方、南壁下に発見された基礎石は、東壁下の基礎石と同一規格のものであるが、ここでは基礎石が一列でなく二列に並び置かれている。この二列に配された基礎石は、実は建物の基礎ではなく、おそらくは出入口施設に伴うものと考えられる。なぜならば、基礎石上に乗る建物の土台角材の痕跡が東壁下基礎石列の南端にまで認められ、また土層観察からも土台角材痕南端までが室内であったと判断できるからである。室内床面は基礎石上面レベルに合わせ炭化物混りの粘質土を敷く。壁下部の裾石は基礎石と同規格を用いながら隅部で幅を調整している。焼失建物。



土層注記

1～4.裏込め土。

6.茶褐色弱粘質土。被火熱泥岩塊と炭化物を多量に混じえる。

7.暗褐色弱粘質土。被火然泥岩塊と炭化物を混じえる。

14.暗茶褐色弱粘質土。床下土。炭化物と泥岩粒多く混じえる。

0 2 m

図62　1b面Ⅴ区方形竪穴建物1

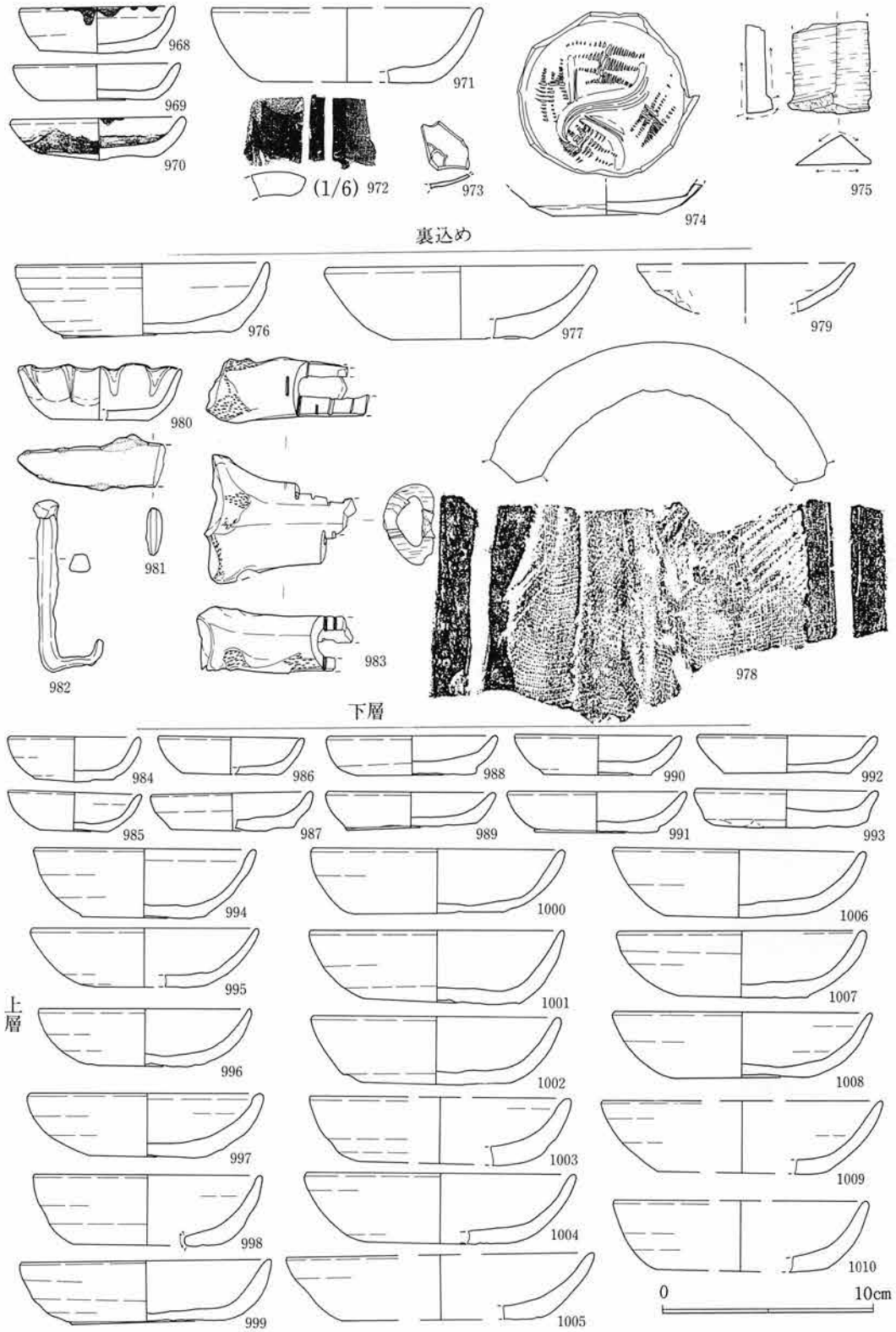


図63　方形竪穴建築址1出土遺物(1)

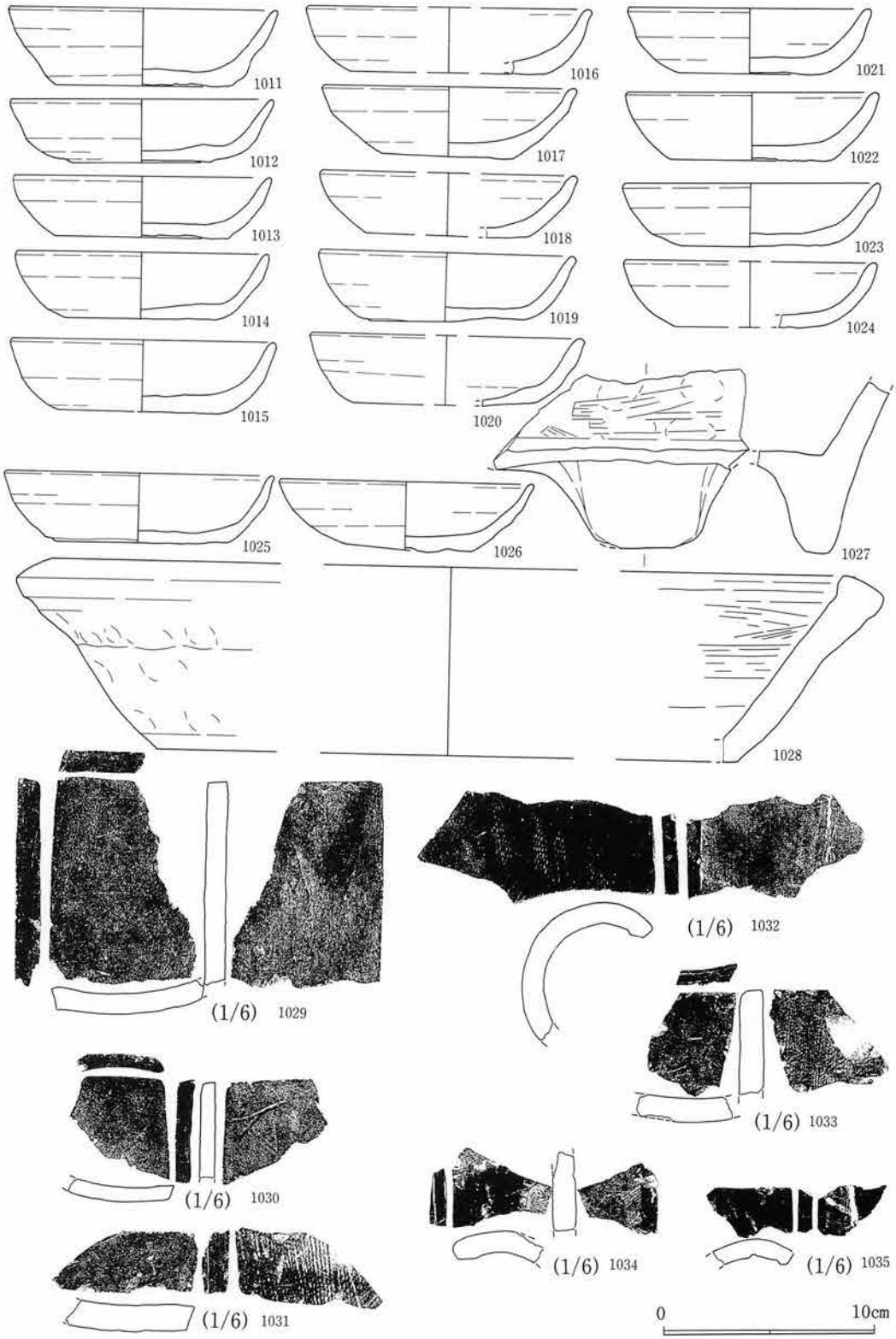


図64　方形竪穴建築址1出土遺物(2)

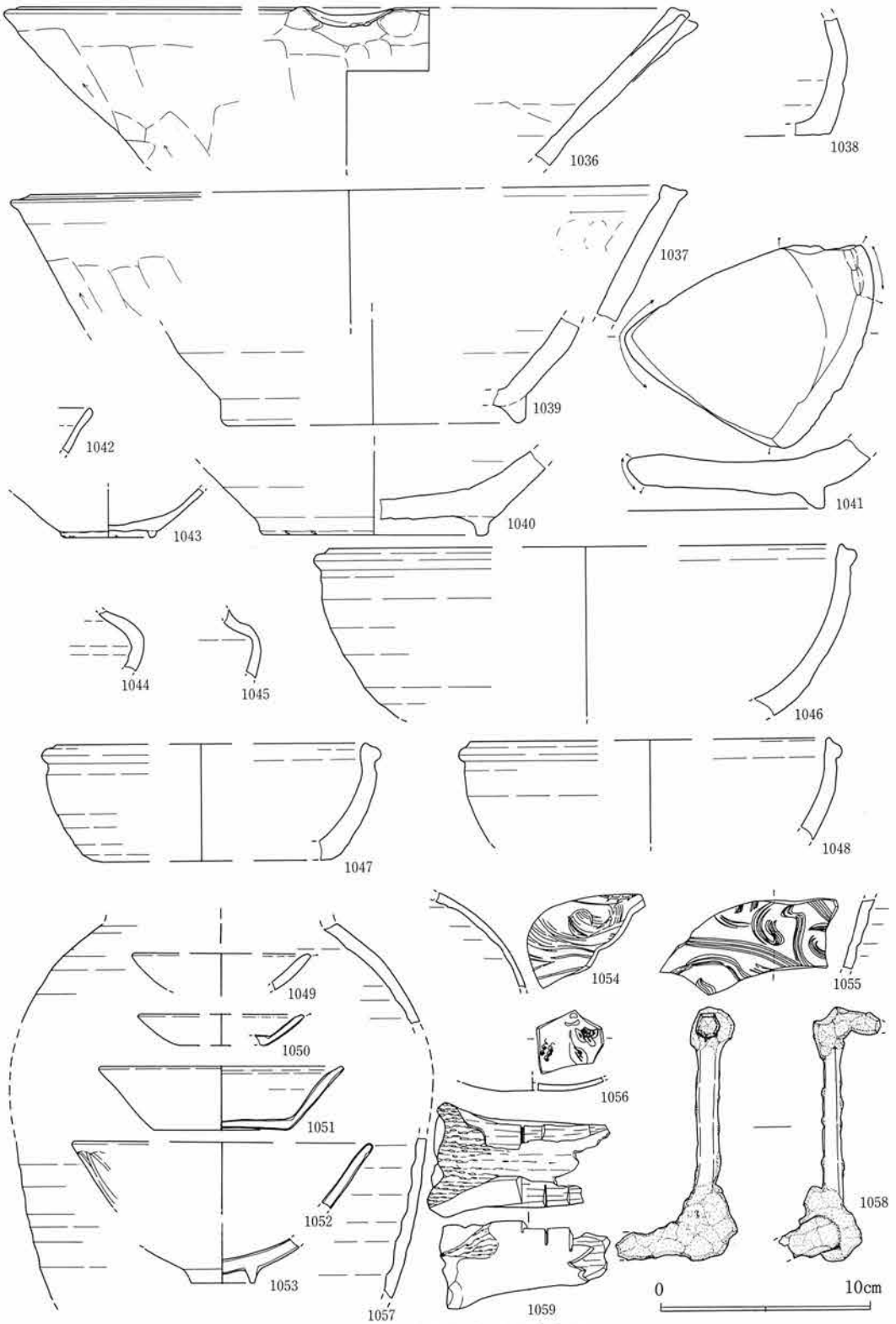


図65　方形竪穴建築址1出土遺物(3)

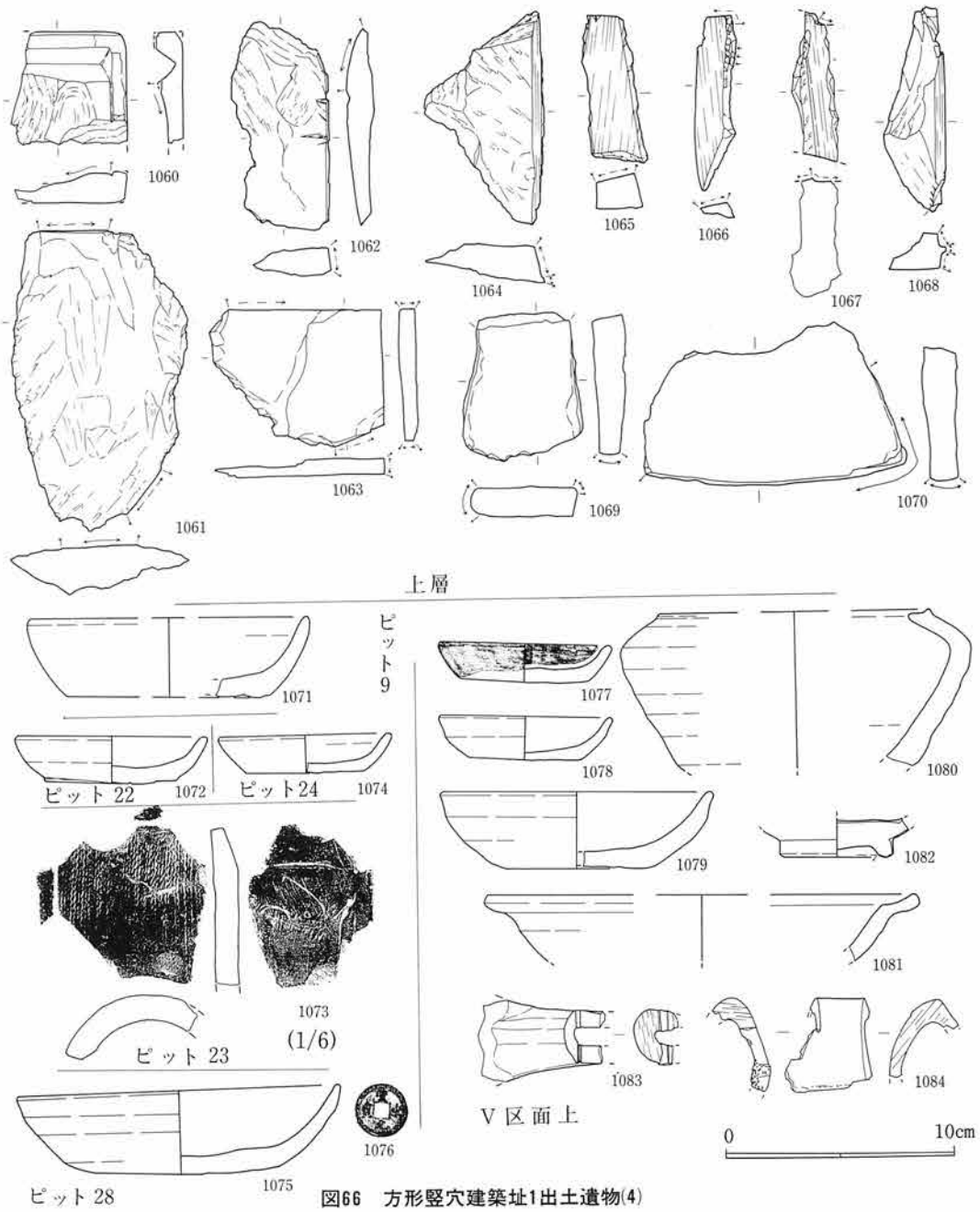


図66　方形竪穴建築址1出土遺物(4)

1b面および面下出土遺物

方形竪穴建築址1覆土内からは、かわらけや陶器、舶載陶磁器などの多くの器類のほかに、擦り切り痕のある加工獣骨と硯製作用硯石が出土し、工芸活動を示す遺物が出土している。こうした工芸活動を示す遺物群が多数の瓦とともに1b面構成土中からも出土している。また1b面下D－5グリットからは青磁碗とかわらけの完形が一括で発見されている。

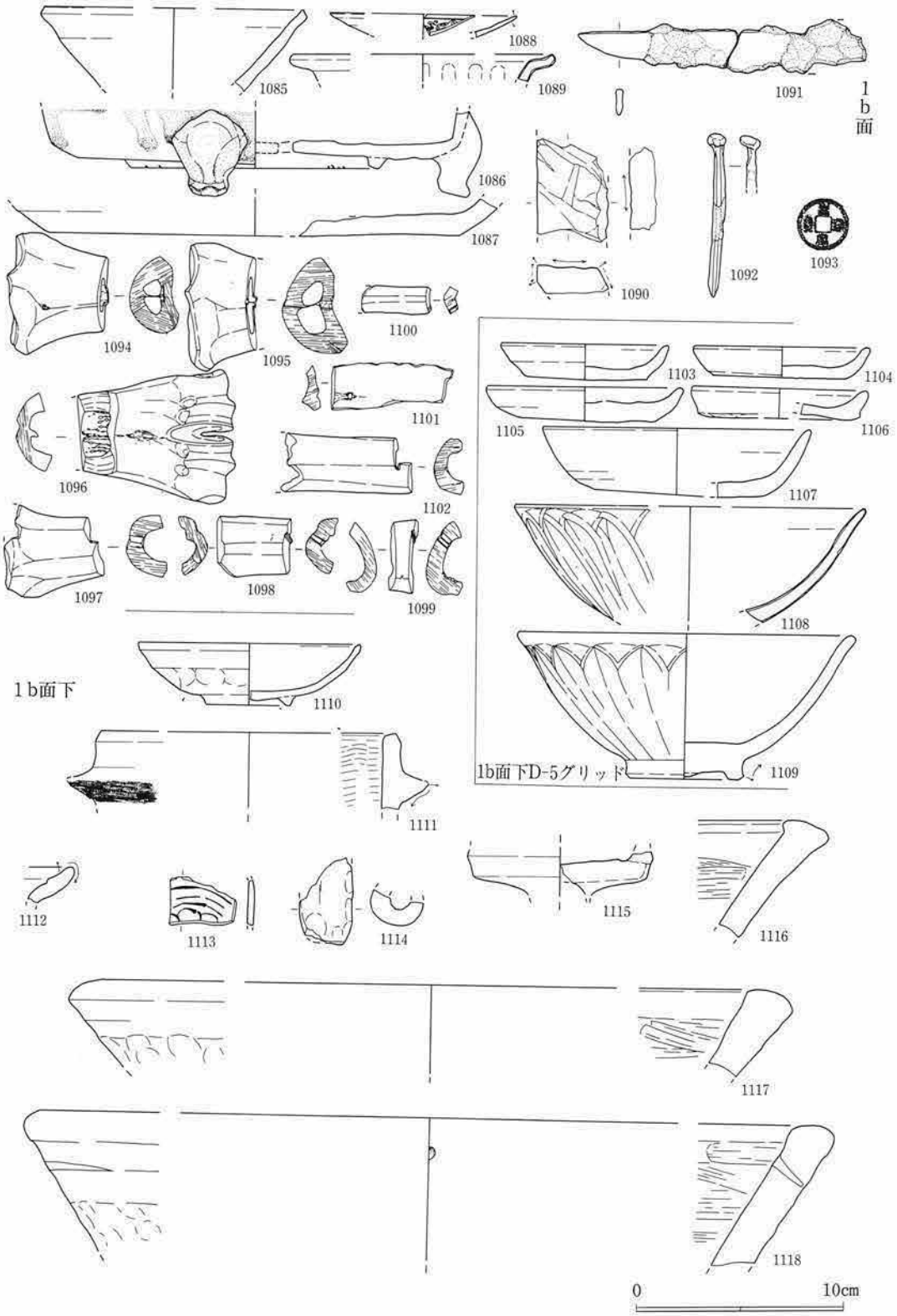


図67　1b面、1b面下D-5グリッド、1b面下出土遺物(1)

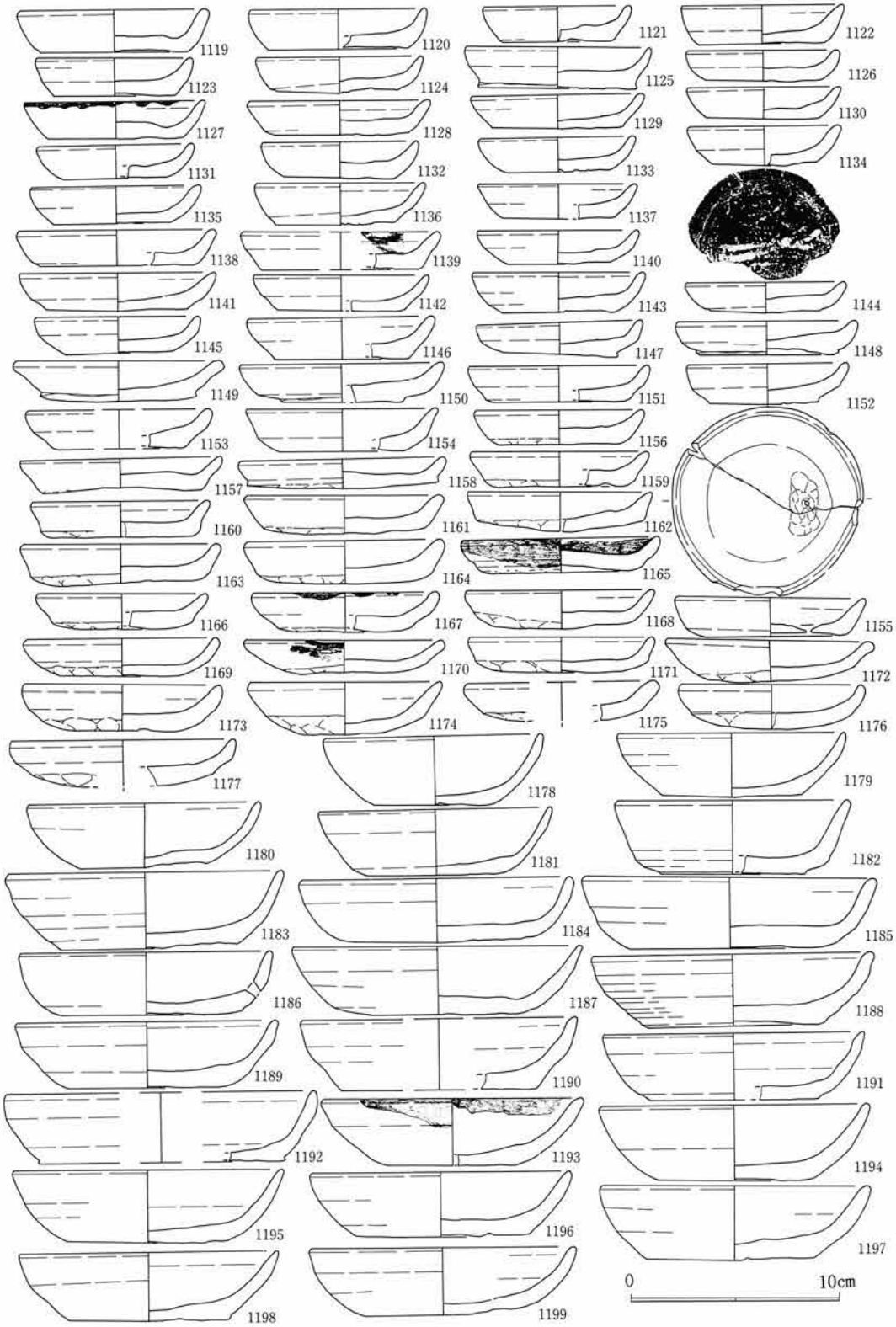


図68　1b面下出土遺物(2)

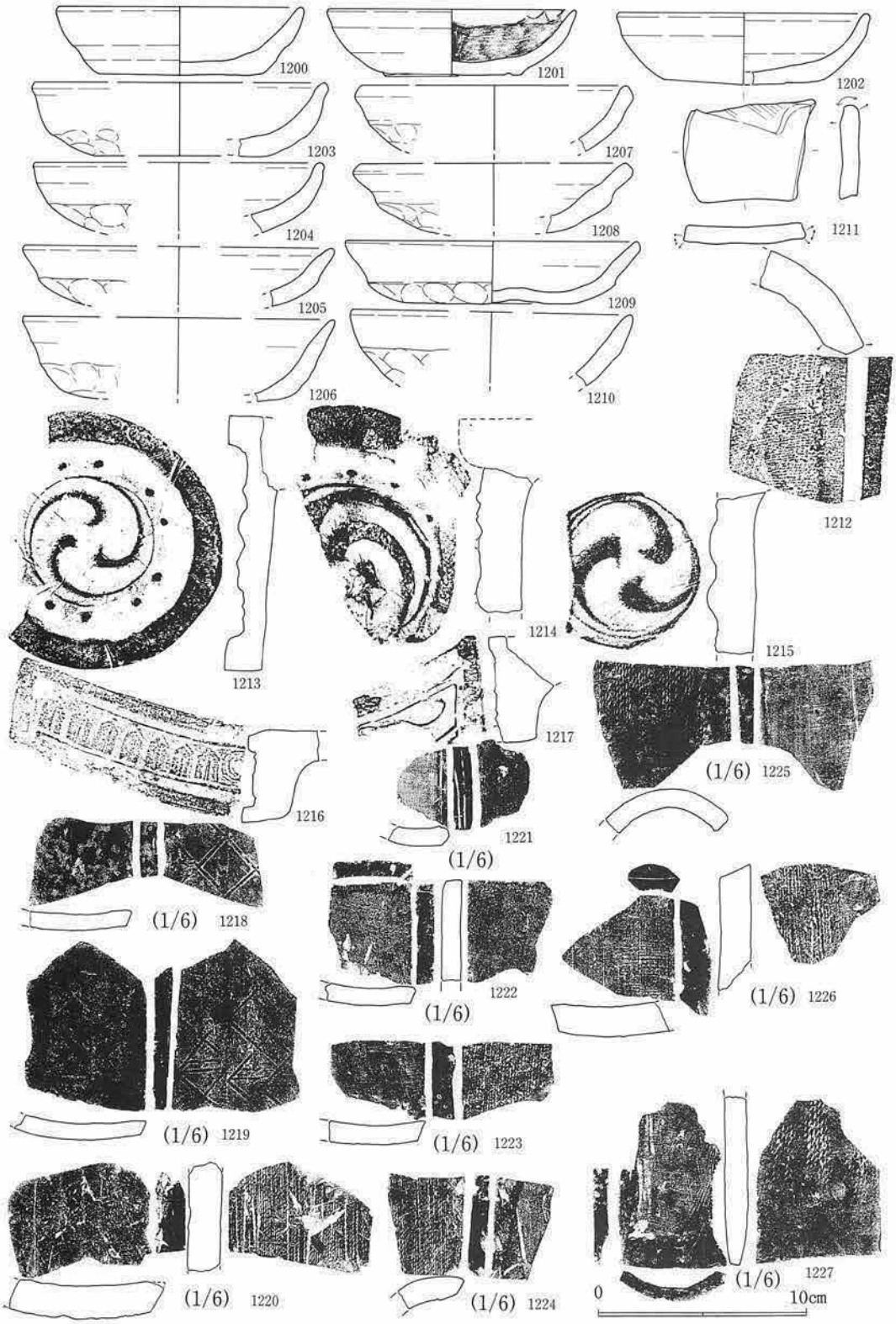


図69　1b面下出土遺物(3)

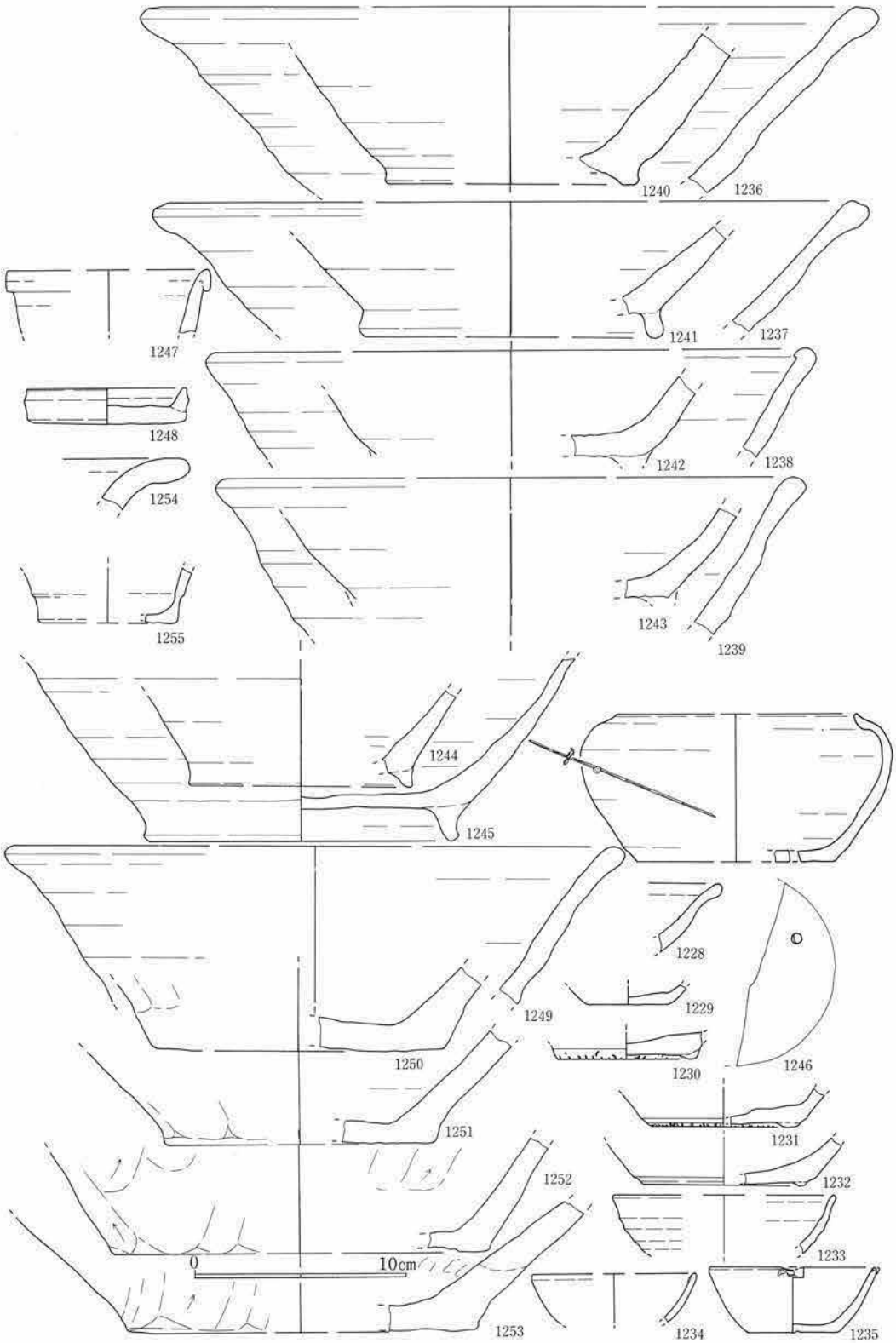


図70　1b面下出土遺物(4)

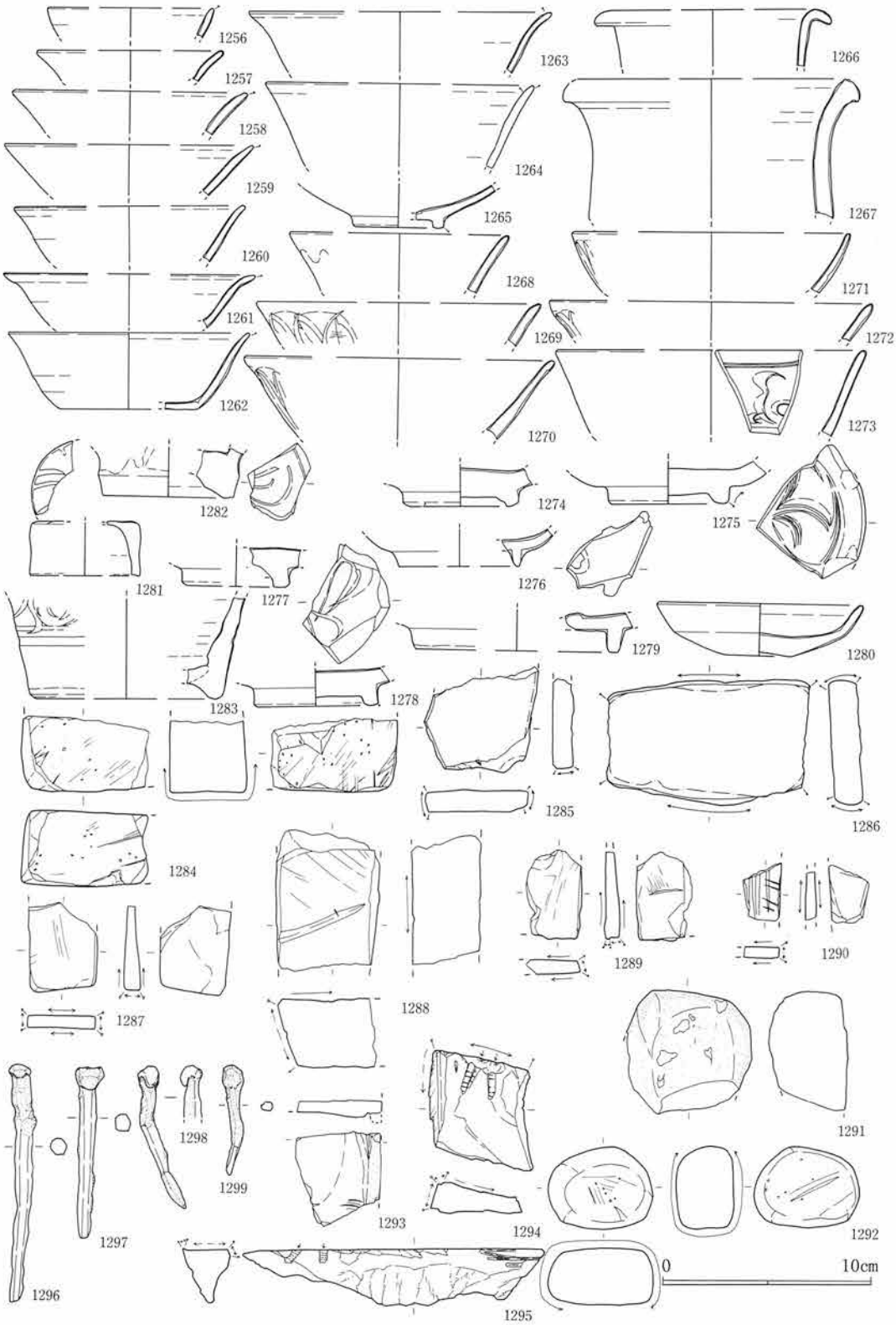


図71　1b面下出土遺物(5)

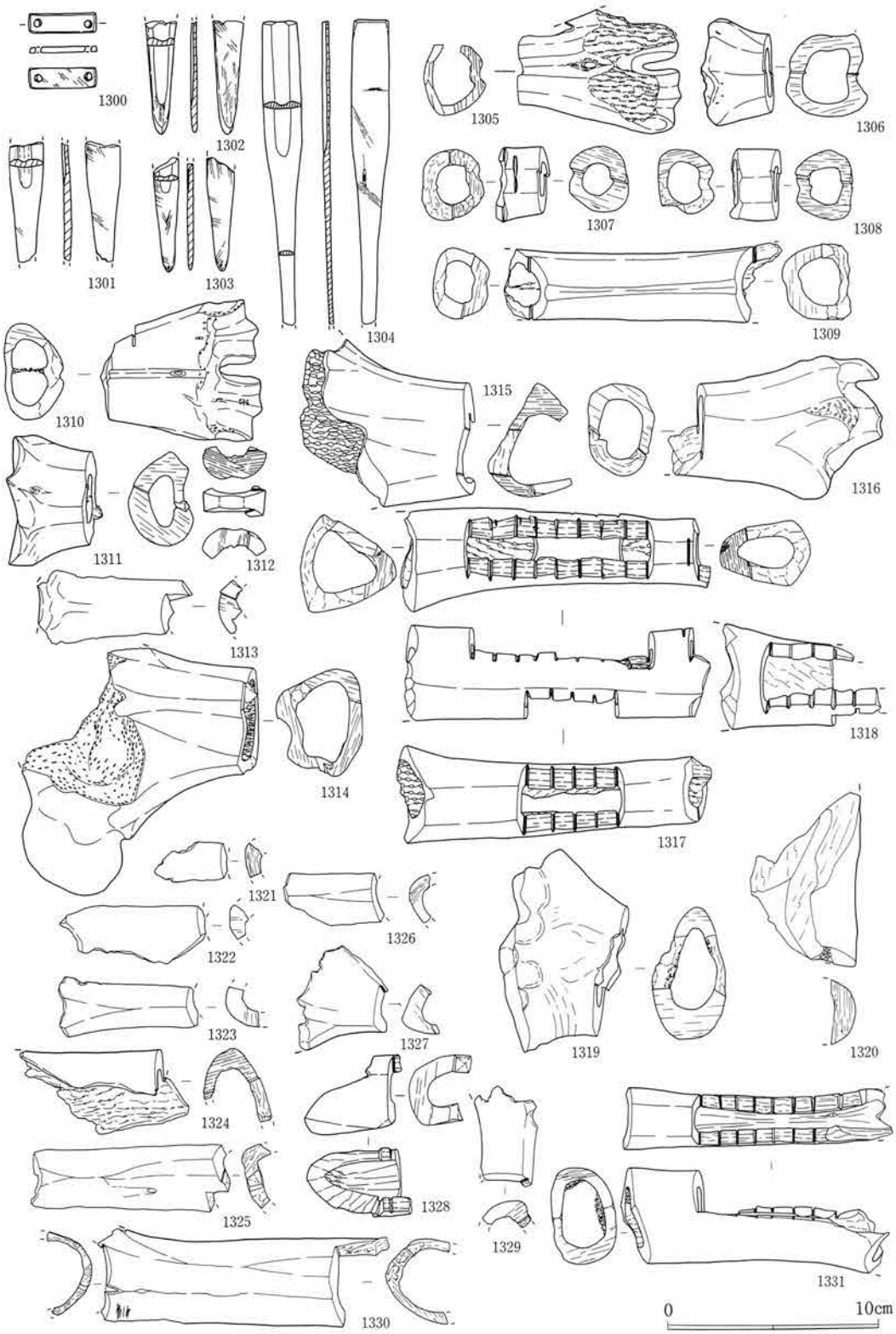


図72　1b面下出土遺物(6)

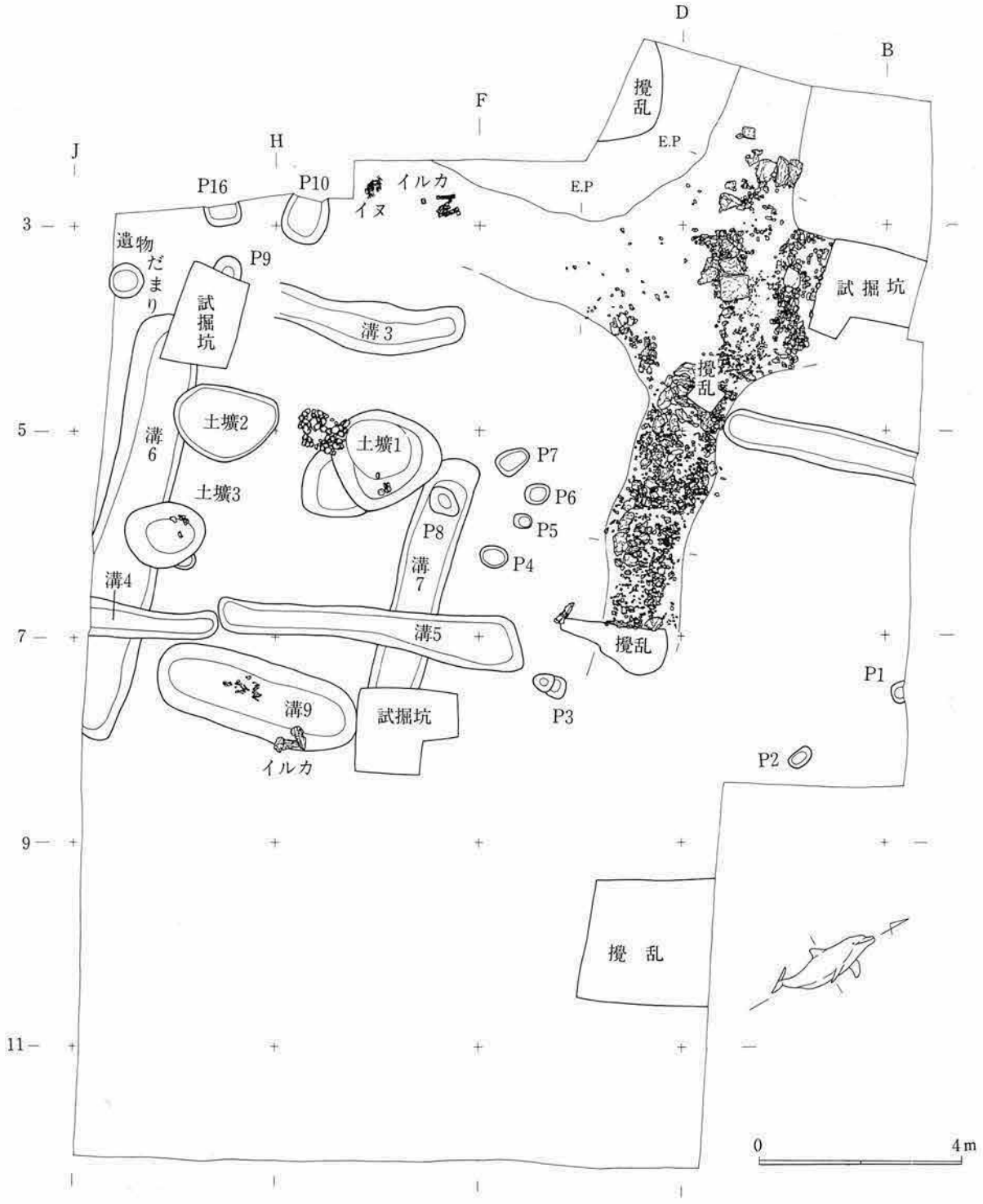

D
B
F
H
J
3
5
7
9
11
撹乱
E.P
E.P
イルカ
イヌ
P16
P10
遺物だまり
P9
試掘坑
溝3
試掘坑
撹乱
土壙2
溝6
土壙1
P7
P6
P5
P4
土壙3
P8
溝7
溝4
溝5
撹乱
P1
溝9
試掘坑
P3
イルカ
P2
撹乱
0
4m

図73　1a面全体図

第１ａ面

１ａ面は発見された３枚の中世生活面のうち最上面にあたる。この時期に属する遺構は調査区の西側半分にのみ発見されている。第二章にてすでに記したように、１ａ面を構成する地業土は調査地の西方に位置する長谷小路に向けて厚く堆積し、東ほど薄くなって、調査区内東側においては１ａ面地業層を認めることはなかった。１ａ面の時期には、調査地周辺において活発な生活を地中に止める活動が長谷小路に近い地域に集まるような、街形成の縮小が想定できる。

１ａ面に発見された遺構は、２条の交差する泥岩版築道路と、道路によって分割された４区画に遺された溝と土壙である。区画の名称は、生活面の確認されなかった調査区東側にも２面以来のIII区を踏襲して与えたため、時計回りにⅠ～Ⅴ区とした。

道路

道路は１ｂ面の溝28・14・31と方形竪穴建築址１の東側ピット列の地割ラインに沿うように築かれている。道幅は85～90センチと狭く、路地のようであるが、これだけの版築面を構築するからには単なる家屋間の路地というより、調査区外西方にあると思われる長谷小路と密接なつながりをもった街並形成の一部をなしていたと考えた方が良いであろう。

路面の版築にあたっては、路面下を掘り込んだ下地固めの後に行われ、路肩に大型の泥岩塊を据

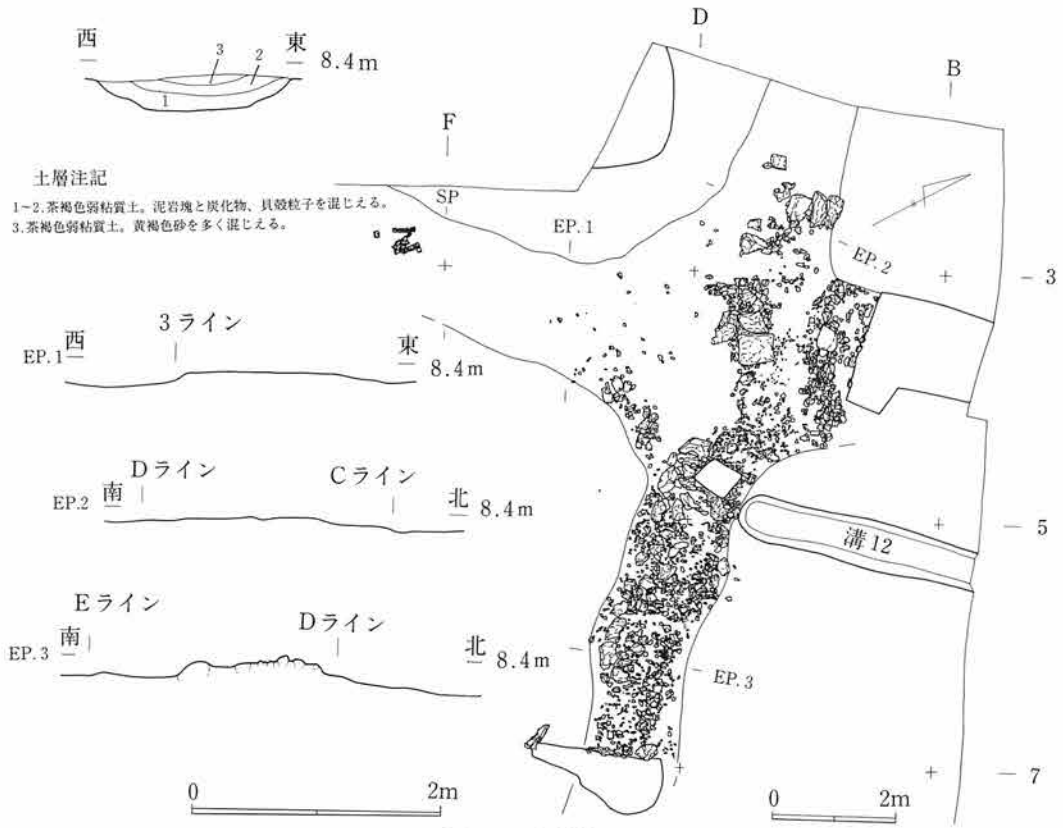


図74　1a面道路

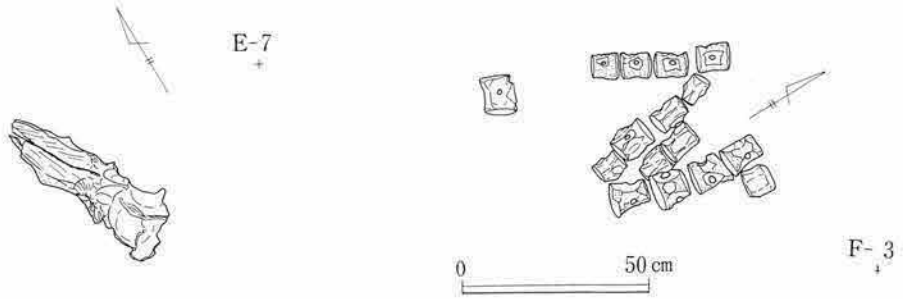


図75　1a面上イルカ骨

えている。この路面上と道路脇にイルカ類の背椎骨と上顎骨が発見された。背椎骨は4つの椎体を一つながりとした状態で4列と2つ、計18体がまとまって出土し、それぞれの椎体は全て突起を切断されていた。胴体を輪切りにした後に、背椎の突起ごと肉を切り落としたのだろう。

II区

道路によって区画分けされた調査区内Ⅰ～Ⅴ区のなかで、III区には生活面の遺されていないことをすでに記したが、生活面の遺る調査区西部でもⅠ区とⅤ区には遺構を認めることはなかった。II区とIV区にのみ遺構を確認したが、そこでの成果をⅠ区・Ⅴ区に適応するならば、Ⅰ区とⅤ区にあると思われる遺構は道路からいま少し離れた調査区外に遺存すると考えられる。

II区に発見された遺構は、溝12の南北溝、一つだけである。北は調査区外へと延び、南は東西道路に接する。発見された地点は南北道路から1.2メートル離れている。幅85センチ、深さ30センチを測る。溝底に1335のかわらけが存置する。

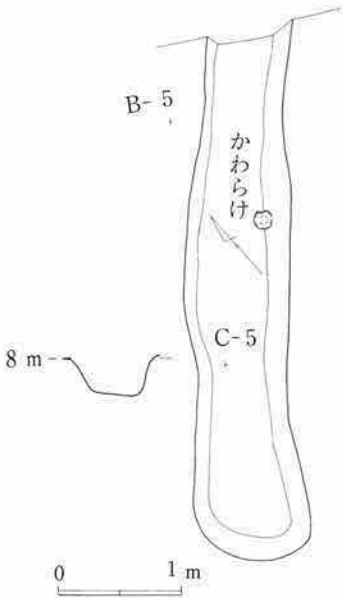


図76　1a面II区溝12

1ａ面Ⅰ・II区面上出土遺物

溝12出土遺物に硯製作用端材（1339）があるように、面上からも硯石端材や砥石、獣骨擦り切り残片が出土している。1ａ面においても下層面同様に、獣骨と石材を用いた工芸がなされていたことを確認できる。また道路面上のイルカ類背椎骨の状況と合わせて考えるならば、動物の解体から獣骨利用工芸活動までを一連の作業としていたことを窺わせる。

Ⅳ区

版築道路の南東に位置し、北と西を道路で限られた区画である。区画内はさらに溝で四方を囲まれた敷地を形成している。道路のある北と西にある溝は道路の肩からそれぞれ、北では2.9メートル、西では1.2メートル離れて位置する。溝で四方を囲まれた敷地は、道路との直接的結びつきを持たない。中世前期鎌倉の市街地と思われる地域にて、屋敷地とその前面に展開した街並が発見された今小路西遺跡・御成小学校地点にみられた道路と密接な関連性を持つ家屋・敷地（町屋？）形成とこの1ａ面、特にIV区の敷地形成は異なる様相を示している。中世鎌倉における地域的な生活空間

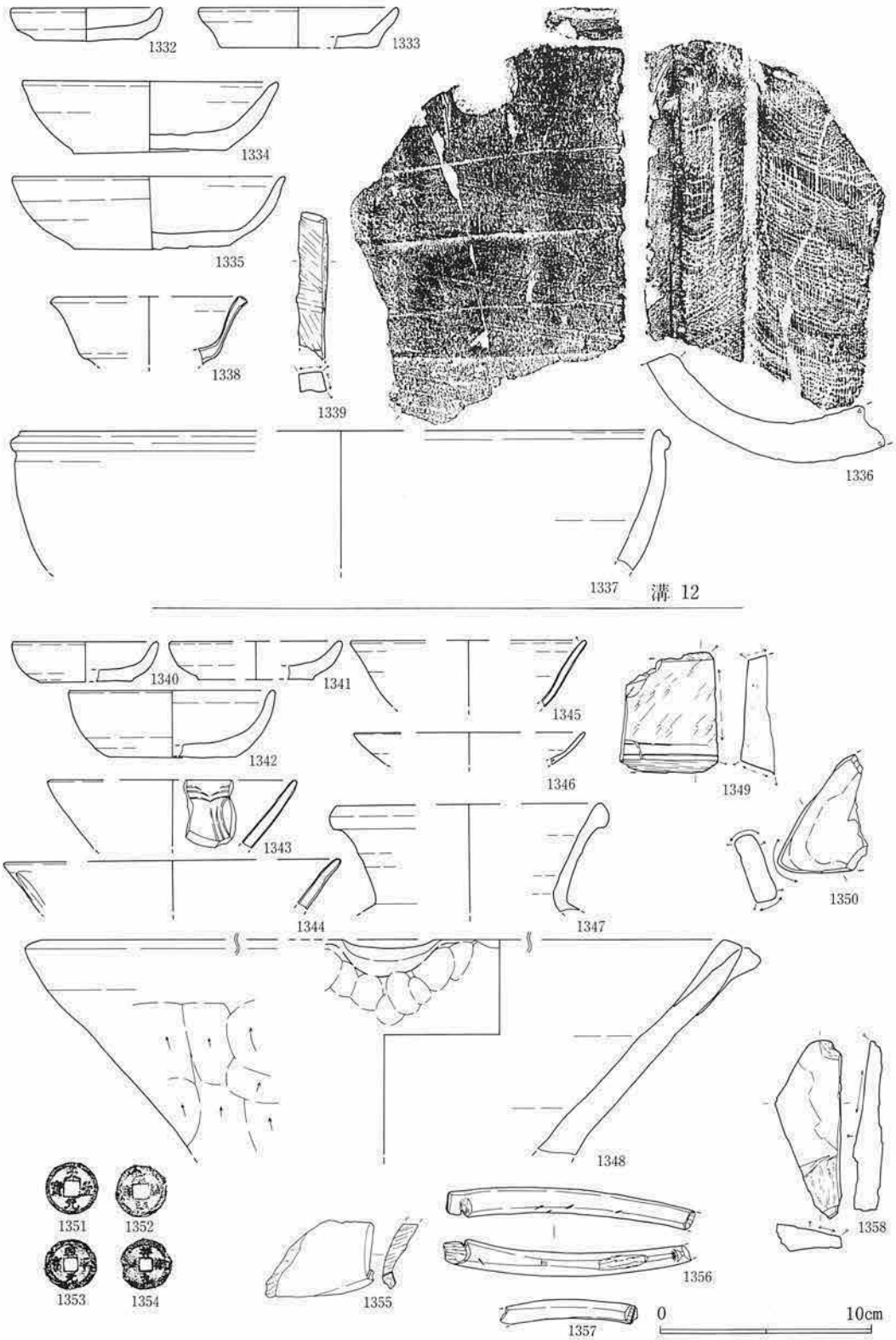


図77　1a面II区溝12、I・II区 面上出土遺物

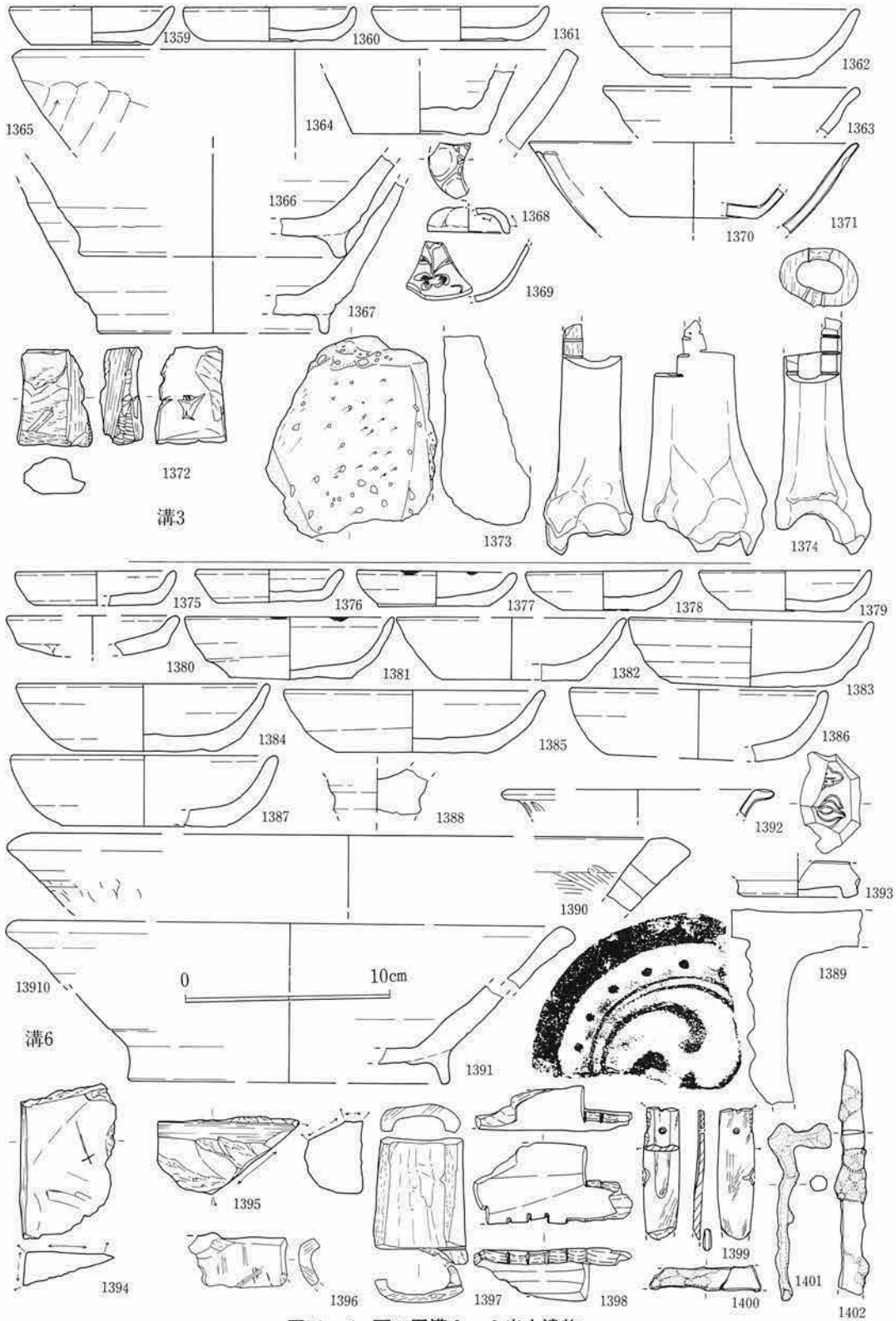


図79　1a面Ⅳ区溝3・6出土遺物

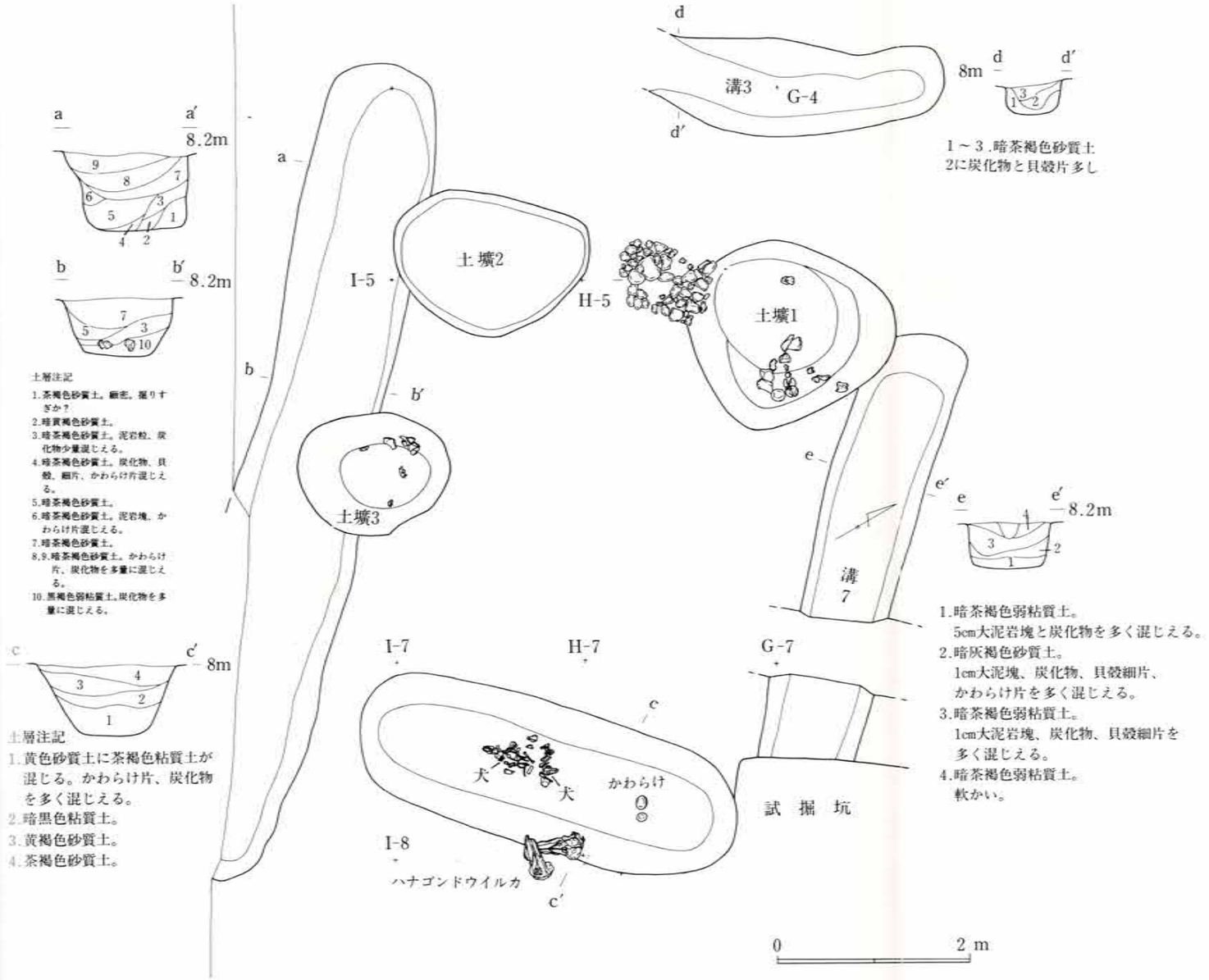

a
a′
8.2m
9
8
7
6
5
3
1
4
2
b
b′
8.2m
7
5
3
10
土層注記
1.茶褐色砂質土。細密。掘りすぎか？
2.暗黄褐色砂質土。
3.暗茶褐色砂質土。泥岩粒、炭化物少量混じえる。
4.暗茶褐色砂質土。炭化物、貝殻、細片、かわらけ片混じえる。
5.暗茶褐色砂質土。
6.暗茶褐色砂質土。泥岩塊、かわらけ片混じえる。
7.暗茶褐色砂質土。
8,9.暗茶褐色砂質土。かわらけ片、炭化物を多量に混じえる。
10.黒褐色弱粘質土。炭化物を多量に混じえる。
c
c′
8m
4
3
2
1
土層注記
1.黄色砂質土に茶褐色粘質土が混じる。かわらけ片、炭化物を多く混じえる。
2.暗黒色粘質土。
3.黄褐色砂質土。
4.茶褐色砂質土。
d
d′
溝3
G-4
8m
d
d′
3
1
2
1～3.暗茶褐色砂質土
2に炭化物と貝殻片多し
a
a′
I-5
土壙2
H-5
土壙1
b
b′
土壙3
e
e′
溝7
e
e′
8.2m
4
3
2
1
1.暗茶褐色弱粘質土。
5cm大泥岩塊と炭化物を多く混じえる。
2.暗灰褐色砂質土。
1cm大泥塊、炭化物、貝殻細片、かわらけ片を多く混じえる。
3.暗茶褐色弱粘質土。
1cm大泥岩塊、炭化物、貝殻細片を多く混じえる。
4.暗茶褐色弱粘質土。
軟かい。
I-7
H-7
G-7
c
c′
犬
犬
かわらけ
I-8
ハナゴンドウイルカ
試掘坑
0
2 m

図78　1a面Ⅳ区

の差であろうか。

ちなみにII区での溝12が道路から離れて位置する状況は、IV区の敷地形成における溝の配置と同様の意図によったものであり、またI区とV区において道路に接近した空間に何ら遺構を発見できなかったことをもIV区での状況が説明している。

溝3

IV区敷地の西を限る南北溝である。南端部は上層からの撹乱によって、浅い落ち込みをわずかに確認できるだけで、不明瞭であった。最大幅1メートル、深さ52センチを測る。全体に湾曲し、南北軸線をとりにくいが、他の溝6・7・9の長軸とほぼ平行・直交関係を有する。

出土遺物では、やはり工芸関係がみられ、1373の軽石は皮革工芸の獣毛除去用であろうか。

溝6

IV区敷地の南を限る東西溝である。IV区では最大の溝。長さ8メートル65センチ、幅1メートル18センチ、深さ53～82センチを測る。断面は箱形を呈し、底面は東から西へ下る。溝の東西両端はそれぞれ南北方向の溝である溝3・9と若干の隙間を残して接している。

出土遺物には、薄手丸深の中型を1点含むかわらけ群、鉢型の火鉢、永福寺III・IV期軒丸瓦の他に硯と骨材工芸の端材が出土。永福寺III期以降の瓦型式は、永福寺などの大寺院以外にも使われており、瓦の製作年代がある程度出土遺跡地の年代指標となりえるものである。

溝7

IV区敷地の北を限る東西溝である。溝の東端は試掘坑によりこわされているが、それより東には延びない。推定長6メートル、幅96センチ、深さ50センチを測る。断面は箱形を呈し、底面は平坦である。溝西端とその西方にある溝3とは2メートル20センチ隔れ、そこは出入口であろう。

出土したかわらけは、薄手丸深の大・小型の他に器高が高く底径口径比の大きなものが目立つ。

溝9

IV区敷地の東を限る南北溝である。南北長4.1メートル、幅1.5メートル、深さ73センチを測る。断面はU字形をなすが、幅広の底面は平坦である。

溝底からは1421と1422のかわらけが底面に貼りつくような状態で出土した。溝の開削直後の遺物であろう。1422は薄手丸深の大型品の早い時期の典型である。また覆土下層では犬骨が2体分寄り添うように発見された。

覆土最上層から溝淵にかけてには、ハナゴンドウイルカの上顎骨から頭骨にかけての骨体が3頭

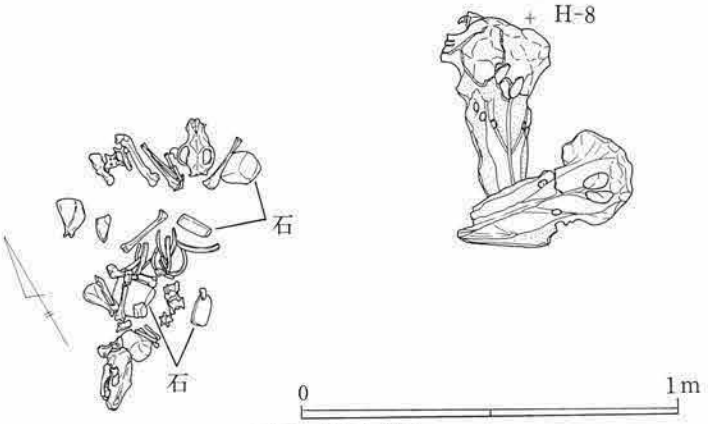


図80　溝9内獣骨

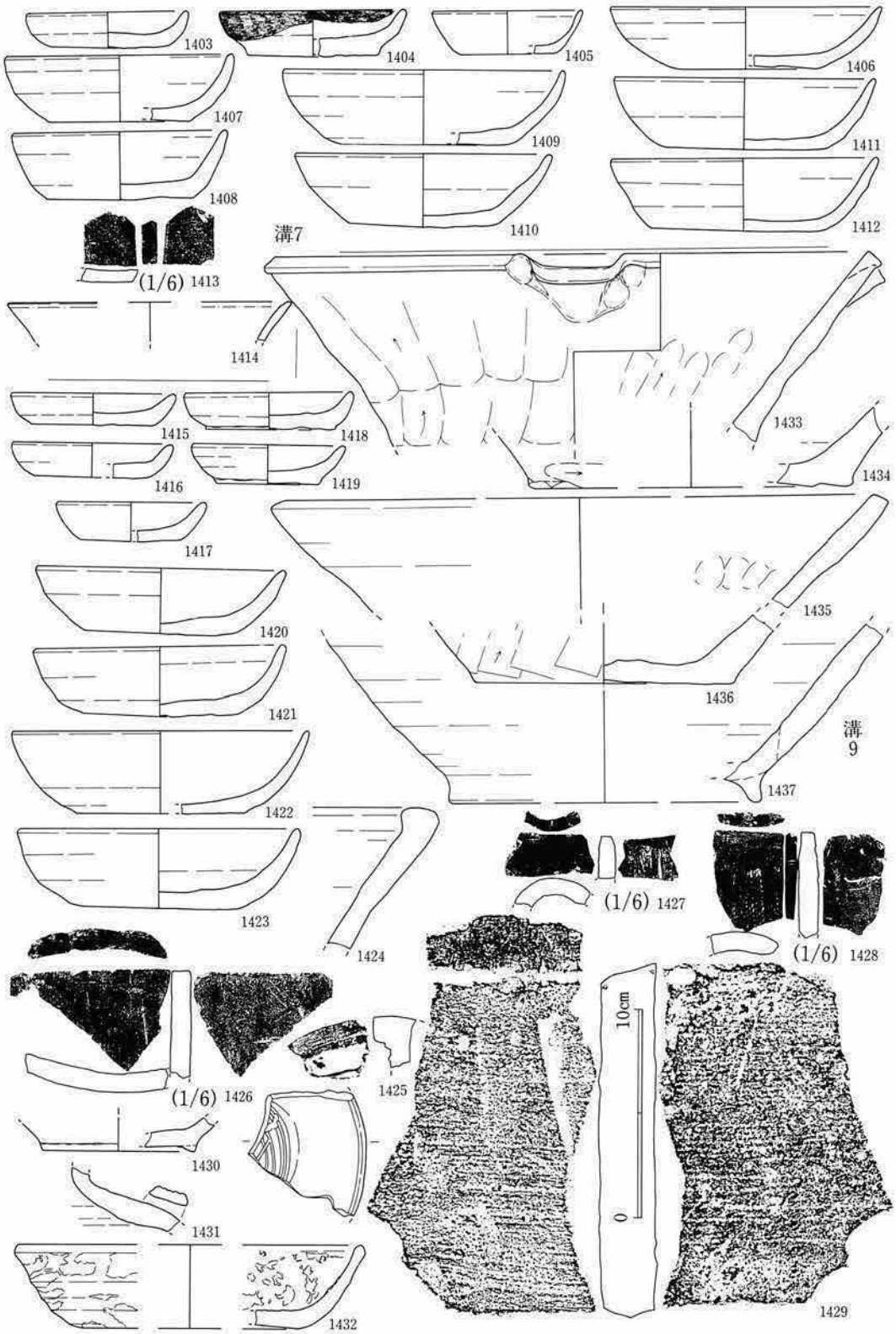


図81　1a面Ⅳ区溝7・9出土遺物

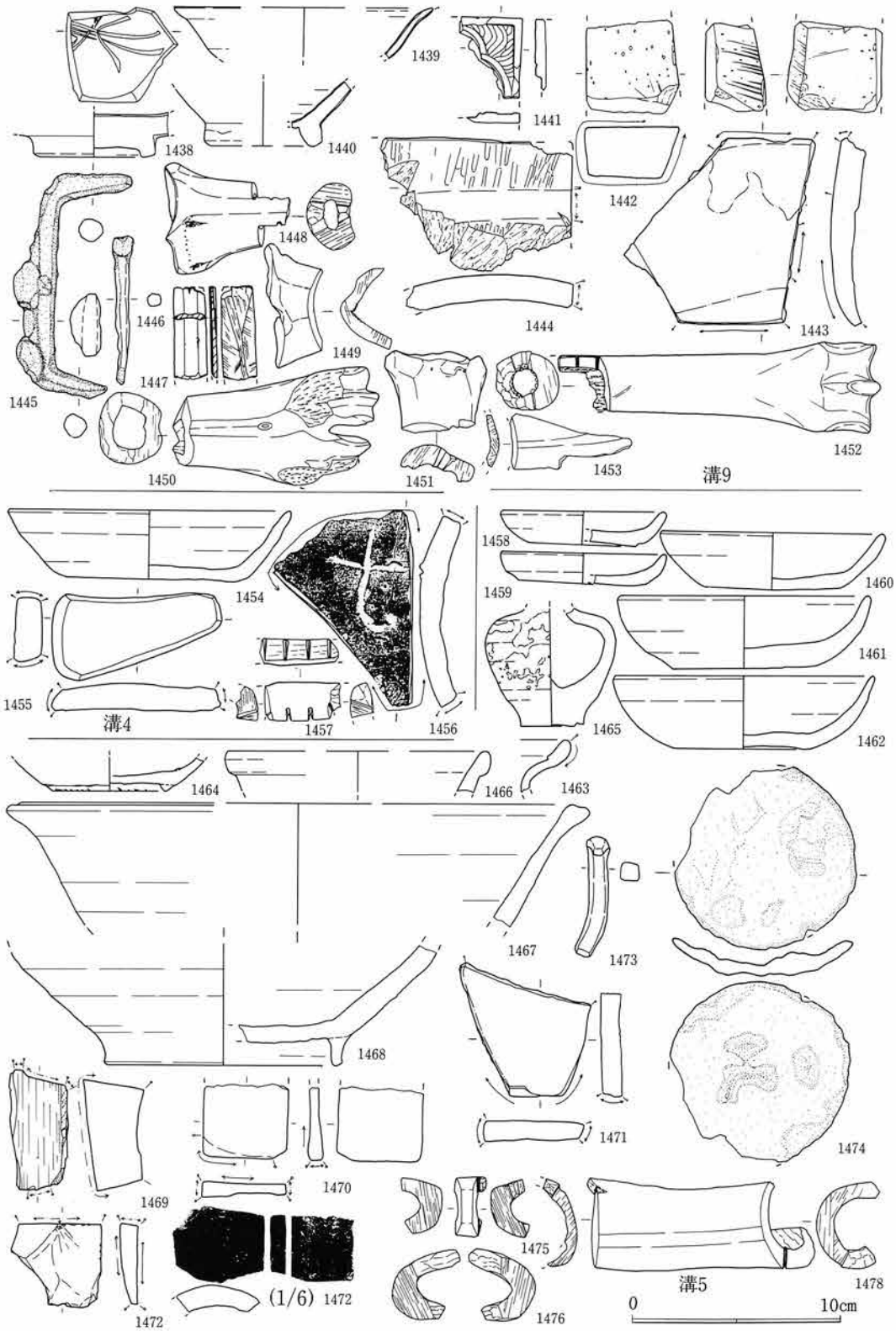


図82　1a面Ⅳ区溝9・4・5

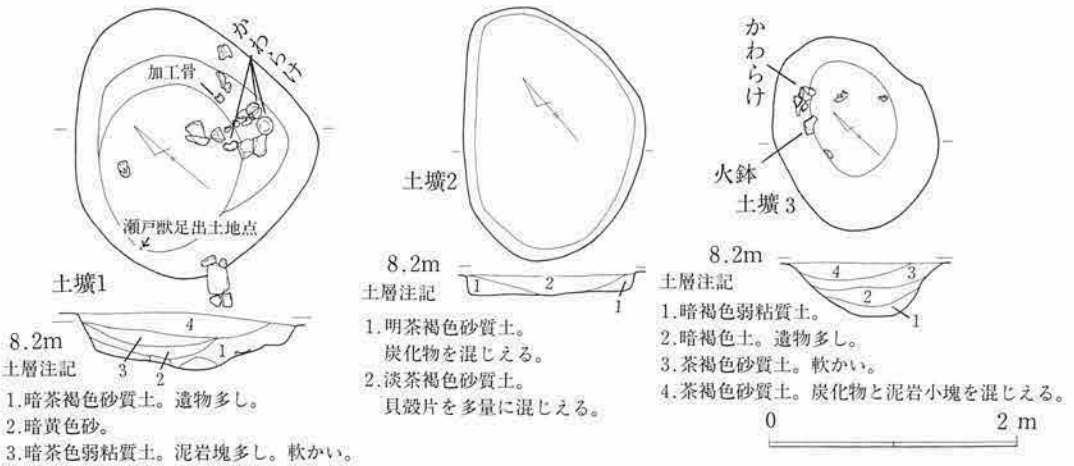


図83　1a面土壙1・2・3

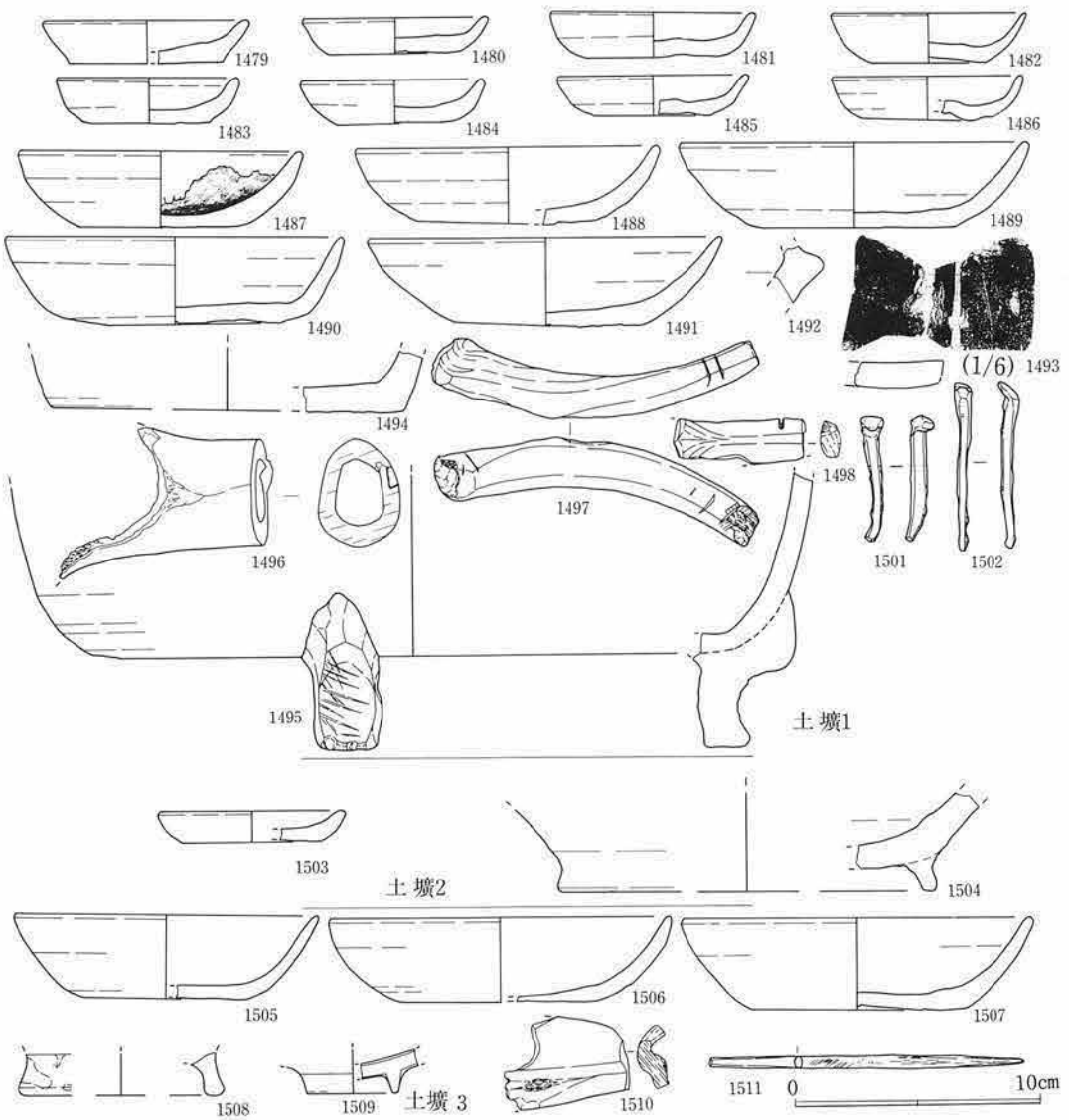


図84　1a面Ⅳ区土壙1・2・3出土遺物

分発見された。発見された骨のうち２頭は上顎骨の両側が削りとられている。その折り重なる２頭の下から発見された骨は、顎骨を失い真黒に焼けた頭骨のみであった。先の道路脇に発見されたイルカの骨もやはり上顎から頭骨の骨であり、解体の後に、体部と頭顎骨部が別々に処理されていたことをこれらは示している。イルカ類顎骨は図版25のように骨材工芸に用いられている。

土壙１

溝７の西端部南側に位置する。溝７を切るこの土壙はより新しいと考えられるが、土壙の配置される方位関係は、溝３・６・７・９の作る敷地の軸方位と一致する。土壙は、不整円形を呈する２段落ちの形状をもつ。南北2.1メートル、東西1.9メートル、深さ45センチを測る。底面から多くの遺物が出土し、大きくて薄い大型のかわらけが年代指標になる一方、古手の瀬戸獣足盤も出土。

土壙２

溝６を切って、その北に位置する。不整楕円形の浅いものである。南北２メートル５センチ、東西１メートル48センチ、深さ18センチを測る。

土壙３

溝６を切って、土壙２の東に位置する。南北１メートル45センチ、東西１メートル25センチの楕円形を呈し、深さ43センチの断面すり鉢状をなす。やはり口縁の大きく開くかわらけが出土する。

泥岩敷

土壙１の南に発見された遺構である。上面を平坦に調整された矩形や三角形の泥岩が、95×70センチの長方形に敷きつめられている。全体に中央部へ向けやや窪む浅い皿状をなす。

すぐ北にある土壙１との関係がまず考えられるが、この泥岩敷は何らかの作業台と思われ、溝９出土イルカなど動物の解体場ではないだろうか。

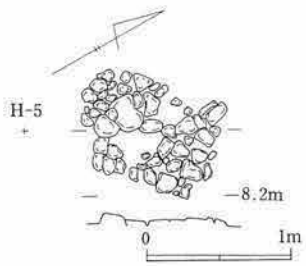


図85　1a面泥岩敷

溝４・５

溝４・５は、それぞれ溝６と溝７を切って、南北に連なる、より新しい溝である。また溝４・５の南北軸の方位は、調査区内に設定したグリッドラインにほぼ沿う方向を指し、より古い南北溝である溝９と異なる。よって、Ⅳ区のなかでも、溝３・６・７・９が作る敷地構成と比べて、溝４・５の作る敷地はより新しい時期に属する。さらに溝４・５の南北軸は泥岩版築道路の南北軸と平行せず、また東西軸にも直行しない。新たな区画割りの出現も想定できるが、他に溝４・５と関係する遺構は確認されていない。また溝の断面形が底面幅のないＵ字からＶ字をなし、他の溝と異なる。

溝４は幅73センチ、深さ48センチ、溝５は長さ６メートル、深さ35～63センチを測る。

１ａ面Ⅳ区面上出土遺物

遺構内からの出土遺物と同じく、骨材工芸作業を示す遺物がみられるとともに、端部に磨り面のある常滑片は革なめしにも使用されたのだろうか。

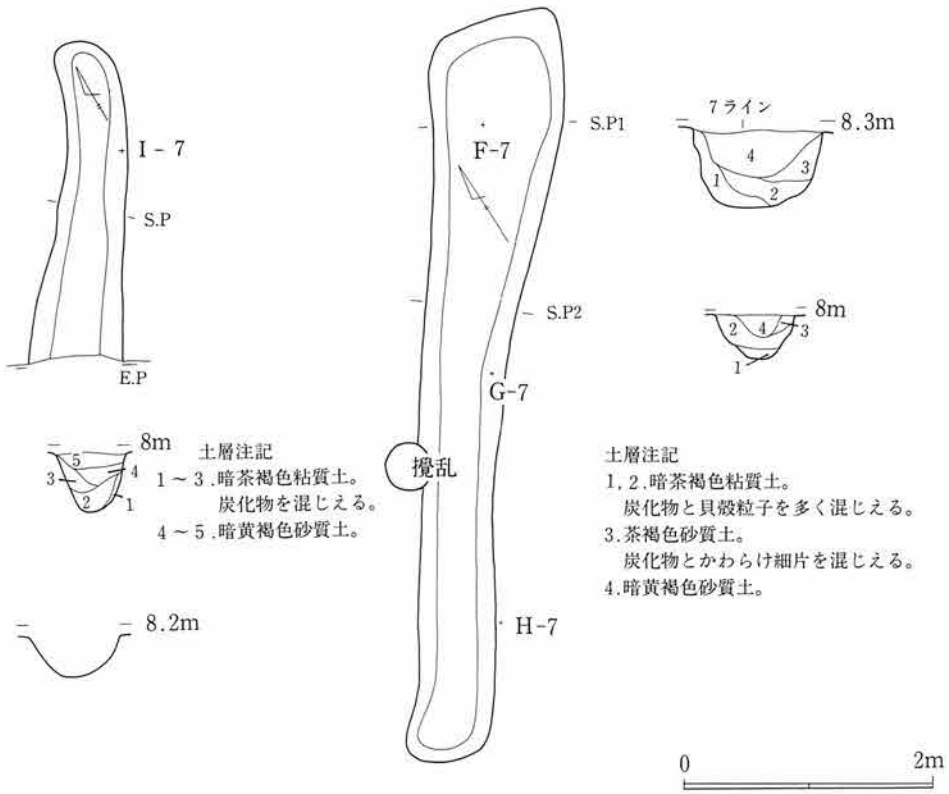


図86　1a面Ⅳ区溝4，5

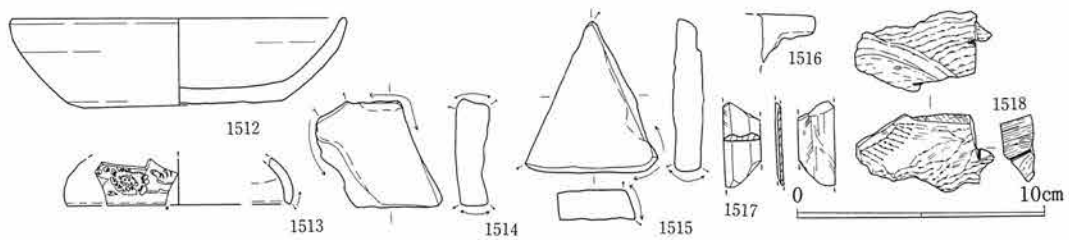


図87　1a面Ⅳ区面上出土遺物

Ⅳ区１ａ面上層土壙

溝６の南西、調査区南壁際に発見された。土層観察では、掘り込み開始面を確定できず、やや不安であるが、１ａ面の少し上層からと思われた。溝４・５の時期に伴う土壙であるかもしれないが、出土遺物では、本土壙の方がやや新しい様相を見せている。

土壙は不整円形を呈し、南北64センチ、東西60センチを測る。確認できた深さは26センチ、底面の平坦なＵ字形をなす。土壙内からは、内外面上部にミガキをもつ瓦器質輪花型火鉢と数多くのか

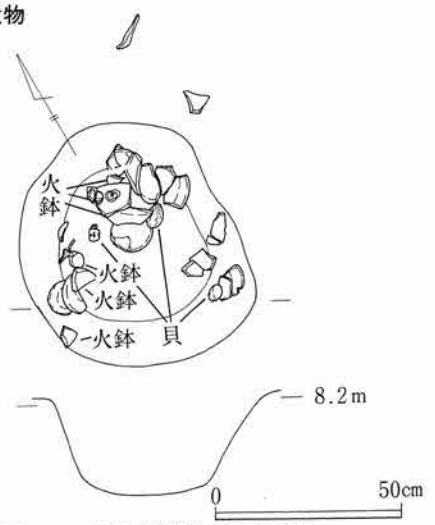


図88　1a面上層遺物だまり土壙

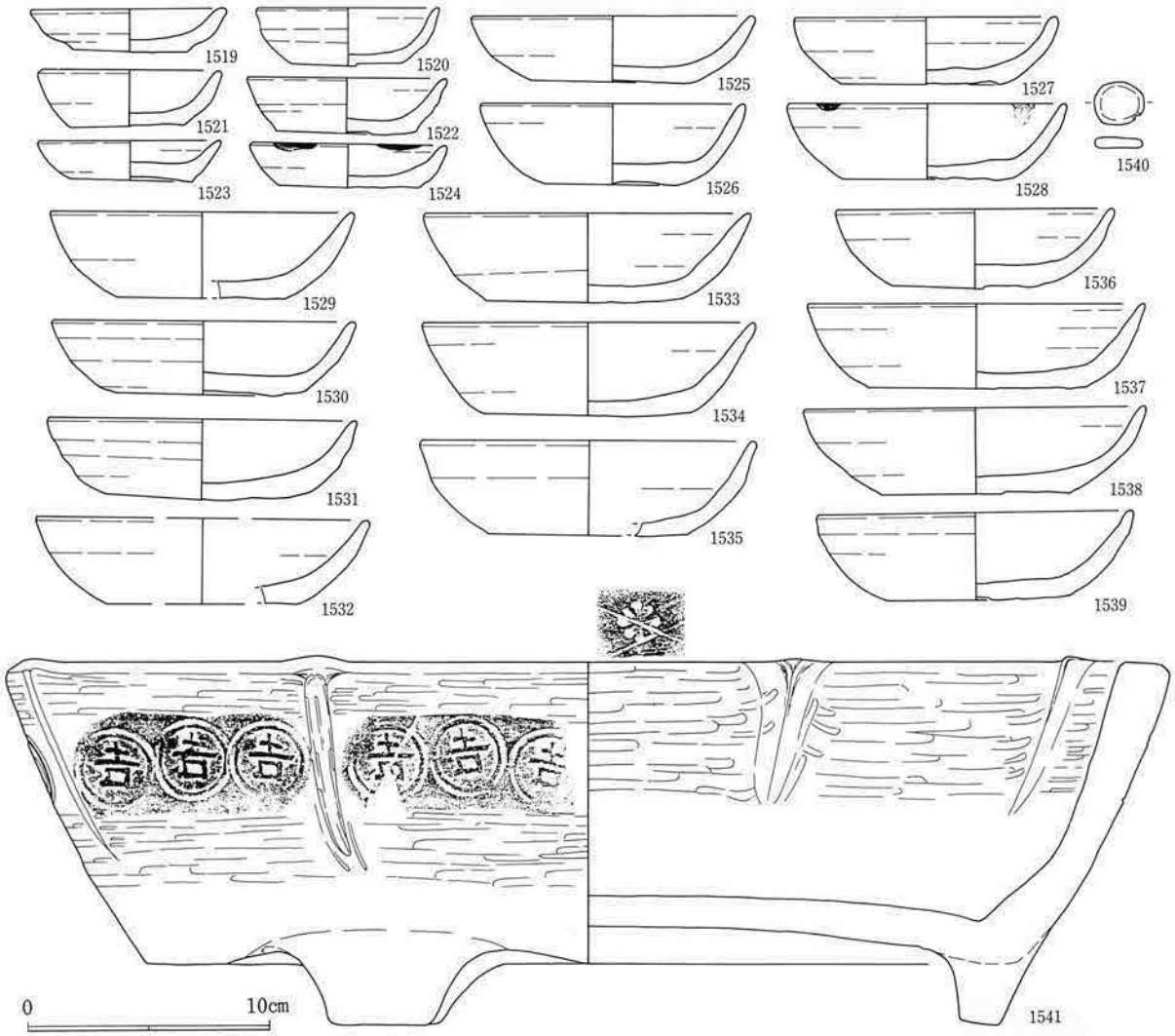


図89　Ⅳ区1a面上土壙出土遺物

わらけに混じってアカニシとハマグリの断片が出土した。火鉢はほぼ全景を復元できる破片が散乱していた。かわらけは全体に薄手作りで、口縁が大きく開き、器高の低いものである。

1ａ面下出土遺物

1ａ面構成地業土中より出土した遺物である。1ａ面の構築時のおおよその時期を指標するものと思われる。

かわらけは、大・中・小型がそれぞれそろい、薄手丸深の存在と同時に他のタイプも薄手化して薄手丸深の模倣がはじまっている。また大型品に特大品がみられ、薄手化の確立期の様相を示している。火鉢では依然瓦質鉢型が残存している。

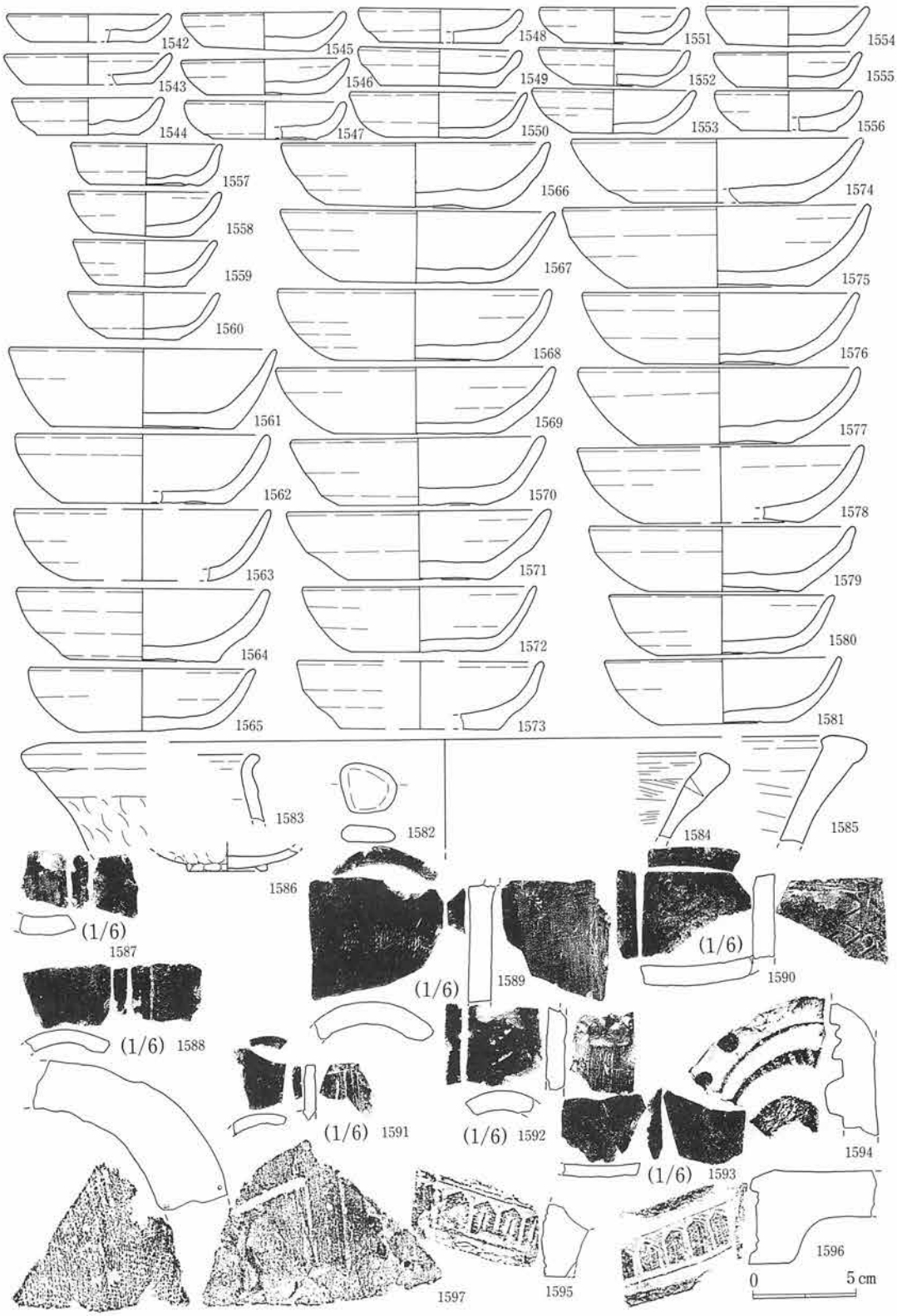


図90　1a面下出土遺物(1)

瓦の出土点数の多さが本遺跡の特徴の一つでもあるが、瓦では東海系の丸瓦をはじめ永福寺編年ではIII期IV期に属する瓦頭がみられる。1596の軒平瓦は上向き剣頭文の笵がズレている。1995と同笵であろう。

南部系こね鉢の口唇部は肥厚し、いまにも2段作りになろうかとしている。

舶載陶磁器では、口兀の白磁皿を中心にして、青白磁の梅瓶と蓋、青磁の高台径の小さな碗と六角合子などがある。

石鍋は断面三角形の鍔が下向きにつくようになっている。同様に石材を用いたものでは、石材を搬入して遺跡地において使用・工作した砥石と硯の用材多数、それに硯の修理・再利用品もある。

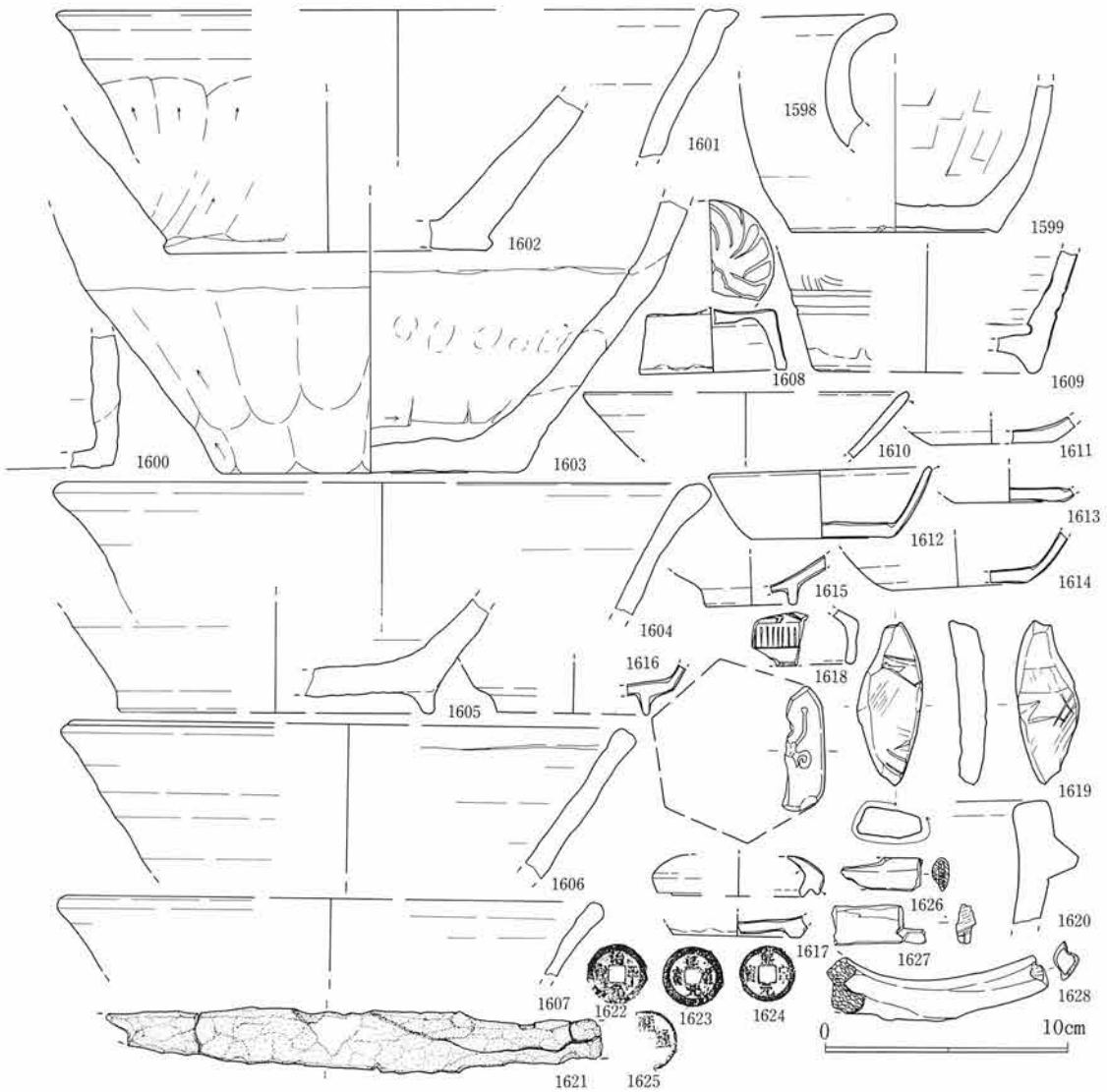


図91　1a面下出土遺物(2)

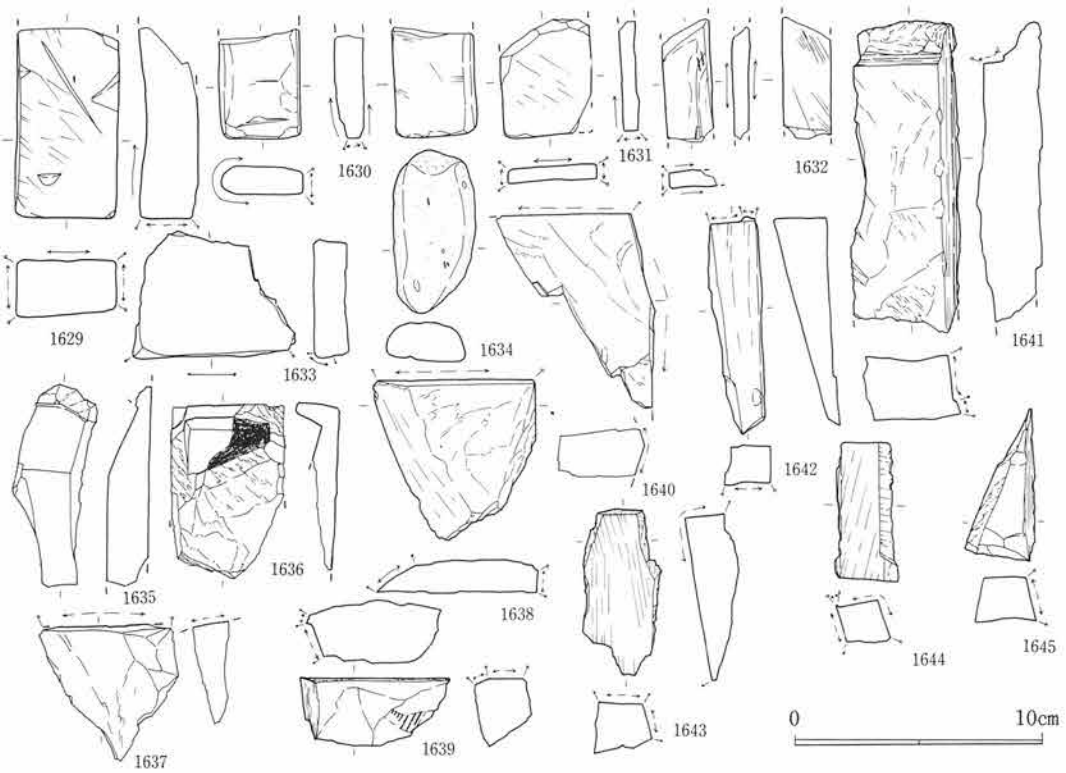


図92　1a面下出土遺物(3)

第3節　上層遺物包含層

重機をもって掘り上げた表土下に認められた、中世以降の遺物を包含する土層である。ここにおいてもかつての生活面が存在したと思われるが、明瞭な遺構を伴う面としては確認されなかった。

埋葬犬骨

上述の遺物包含層を掘り下げる途次に発見された。発見された時点においては、埋葬を明示する掘り込まれた土壙等を確認していないが、遺存骨の姿勢から考えて、遺物包含層中のいづれかのレヴェルでの生活面から掘られた土壙の中に埋葬されたものであろう。頭骨は調査中に失ってしまったが、手足を曲げてくるまるように横たえられている。

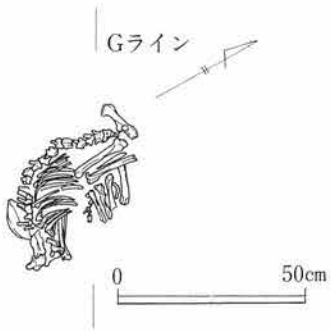


図93　包含層中埋葬犬骨

包含層出土遺物

かわらけは、小型も器高が高くなるが、いまだ15世紀代のものとは一線を画している。在地もしくは鎌倉周辺で作られたと思われるかわらけ以外のものでは、火鉢が瓦質鉢型とともに七輪に近いものも現われている。まな瓦では、径の小さな軒丸瓦があり、これは秦野市龍法寺出土巴文瓦と類似する。

搬入品には、14世紀末から15世紀代を示す遺物が多くみられる。国内産では備前と瀬戸の擂鉢が

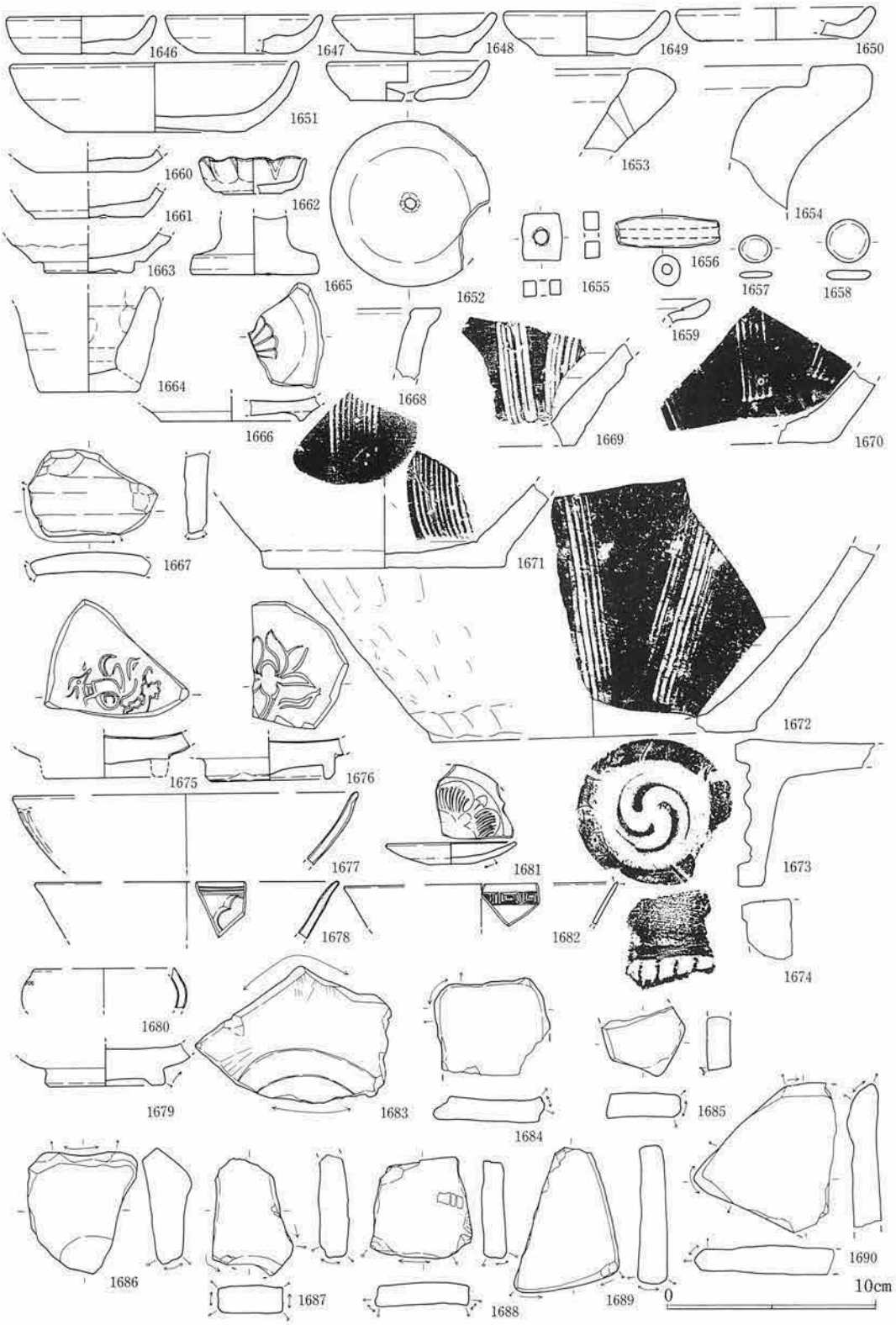


図94　上層遺物包含層(1)

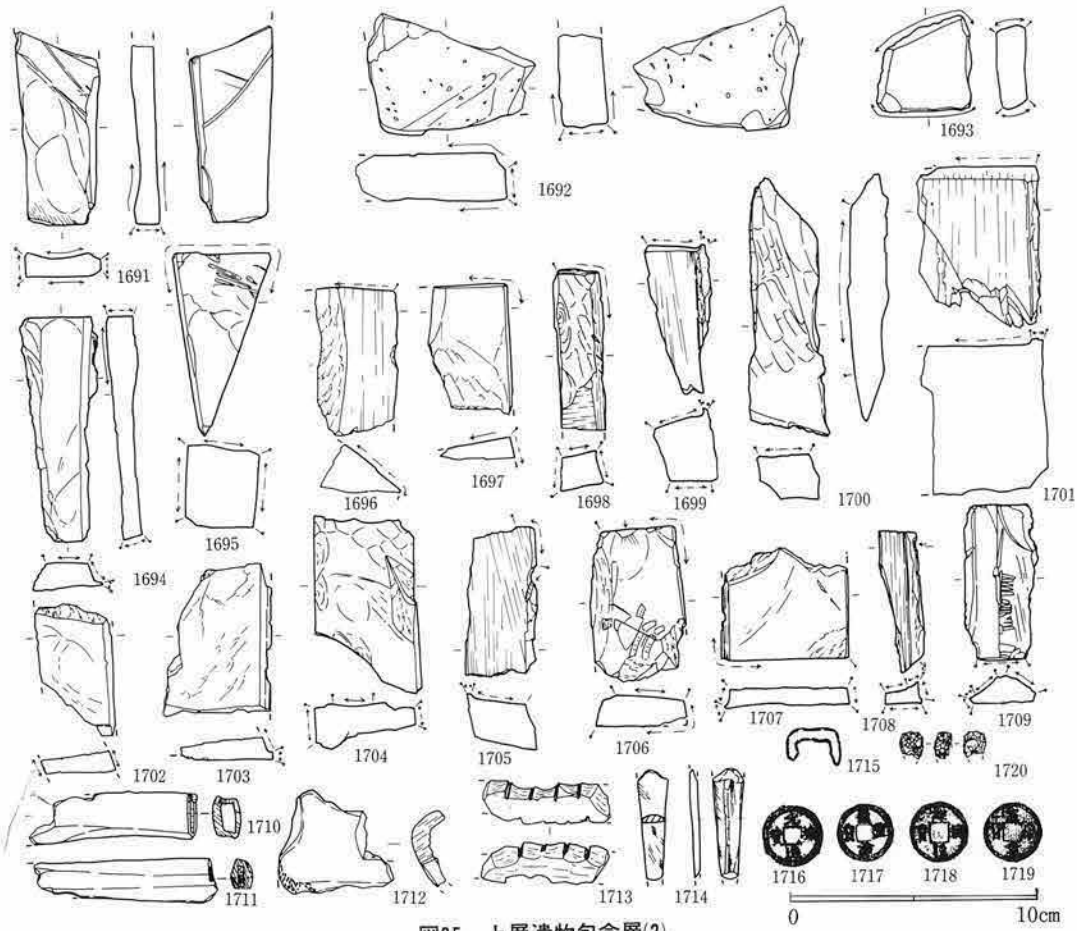


図95　上層遺物包含層(2)

あり、舶載中国産には明代の青磁碗などがある。また、同様の時期を示す青磁の皿と白磁雷文碗もある。

以上のように、１ａ面より上層にある遺物包含層からは14世紀中葉以降15世紀から16世紀までの年代を指し示す遺物が出土しており、遺跡地周辺もしくは遺跡地内の遺物包含層中にすら軟弱な生活面における人々の生活のあったことが予想できる。そして、そうした時期にあっても、遺物番号1683以降の端部に磨り面のある常滑片、砥石、硯製作用材の端材、それに獣骨加工片などが示す石材と骨材を用いた工芸活動が、２面以後連綿と続けられていた。

第四章　まとめ

狭い範囲であったが今回の調査地においては、長谷小路の南側地域に地割の存在を確認し、その変遷をいくらかでも把握できた。また、石材や骨材の工芸が、素材となった石の擦り切りや動物解体からはじまる一連の作業として位置づけられた。

しかしながら、残された問題は多く、いわゆる長谷小路との関連は依然不明のまま推定の域を出ず、また調査地より数多く出土した瓦は単に地業土の中に混入して持ち込まれたとは考え難く、調査地の近隣において軒先や塀に瓦を葺いたお堂の存在していた可能性を示唆している。

以下にこうした今後に残された問題点と調査の成果を踏まえて、調査報告のまとめを記す。

古代

中世以前の生活は、生活面の乾燥化をはかるための排水溝を遺構として遺したものの、遺物散布を中心とする閑散として居住形態であったと思われる。排水溝を築いた面からは８世紀代の土師器と須恵器が多く出土しており、人々が長谷小路の南側に生活の場を置いた時期は奈良時代頃であったと考えられる。この他に遺構を伴わない遺物は古墳時代の前期から平安時代中葉に属するものであったが、古墳時代の中・後期の遺物は今回の調査地を含めて長谷小路の南側からはあまり出土せず、古墳前期の後しばらく人々の活動が遺されない状況が続いたあと奈良・平安時代に入りふたたび長谷小路の南側に人々の生活痕が遺されるようになる。古墳時代中・後期は鎌倉の沖積地南端である小坪から由比ガ浜にかけて古墳が築かれた時期にあたるために、調査地周辺はその当時葬地として人々の日常生活は遺されなかったのだろうか。古墳前期に発見される遺物にみられる祭祀的性格の色濃い出土状況の展開が、古墳中・後期の古墳造営葬地に当該地を変え、遺物の出土の仕方に変化を与えたのだろうと考えられる。古代においてふたたび人々の生活址が遺される８世紀の奈良時代には、調査区の北方に御成小学校に発見された鎌倉群衙が設置されて、調査地は政治的中心地に近接した地域となる。

中世の地割と年代

中世期の生活面に発見された遺構は、溝と道路によって区画された地割のなかで、溝をそのまま敷地境とするものとピット列による柵もしくは塀でもって区画内の目隠しとするものとがあった。敷地内には、井戸、方形竪穴建築址、土壙が掘られていた。土壙からはアンペラ様の編み籠に入れて捨てられたかわらけや魚骨・鯨類頭骨が一括出土し、当時の儀礼的飲食のあり方を垣間みせている。ただし各敷地内において、建物と井戸、土壙といった生活全般に及ぶ遺構がセットとしては発見されなかった。それは全域を確認できた区画が少かったことによるのかもしれない。

中世最下面である２面は、Ⅰ（II）区、III区、IV区に分割される。Ⅰ区は調査地の北側半分を南北に長く区画されるが、その中の遺構分布状況は、おそらくⅠ区は東西に２分されてⅠ区とII区であったと考えられた。発見された遺構は井戸と土壙からなり、ゴミ捨て穴である土壙が区画境の南

に集中する。土壙が区画内の裏側であったかどうか不詳だが、II区との間に通路が想定できるので、Ⅰ区への出入口に近いところではないだろうか。III区とIV区の境は２面時小期によって移動していたようで、各区画分割は決定的なものではなかったと思われる。特にIV区は１b面時にも大幅な区画移動がみられる。Ⅰ区とIII区の間に想定できる通路には、頭骨のみが埋葬された土壙墓が地境溝を切って掘られた。図版27に解体痕の遺る人骨を掲げたが、葬法に二次葬の有無が問題となる。

井戸裏込め出土かわらけや永福寺Ⅰ期瓦の廃棄年から、２面は13世紀中葉と考えられる。

１b面は溝と道路によってⅠ～IV区に分割される。２面Ⅰ（II）区がⅠ区とII区に、またIV区がIV区とV区に分かれる。方形竪穴建築址201の発見されたII区は、２面時のようにIII区との間に溝と通路を配置せず、間隔の一定しないピットのみを持っている。他方II区と接する北側を除く３方を溝で囲まれたIII区は遺構がほとんど発見されない空地となっていた。II区とIII区は方形竪穴建築址201を主体とする一つの空間を構成し、建物址出土遺物が示す工芸活動の作業場所がIII区であろう。IV区は、本来V区を含めた西側地域が主要地域であったものが東にも敷地拡大して、西側地域に方形竪穴建築址が柵もしくは塀に囲まれることによって、IV区とV区に分離した。この分離は１a面へと引き継がれてゆく。

出土したかわらけ、国内外陶磁器の構成に加え、永福寺II期瓦の廃棄年代と同じくIII期瓦の製作年代より、１b面は13世紀末頃より初まると考えられる。

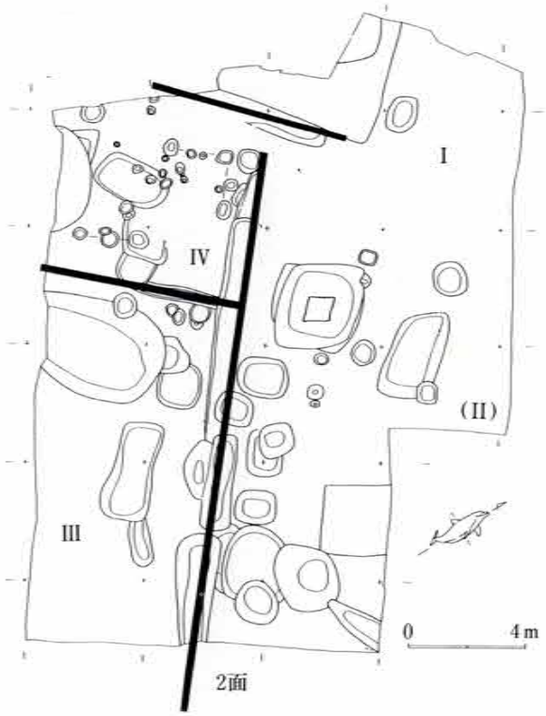
中世最終面の１a面は泥岩版築道路によって区画される。調査地の東に生活面が認められなくなり、生活空間の縮小が窺える。明瞭に敷地を把握できたのは、四方を溝で囲まれたIV区のみであった。敷地は、道路によって分割された区画の中にありながら、道路とは一定の距離を置いて形成された。そうした街並に何らかの社会的意味があるものと思われる。出土遺物から14世紀前半代。

以上に地割の変遷を簡単に記したが、地割された各区画と敷地設定はほぼ方形をなしていたと考えられるだろう。ここには中世後半期以後にみられる道路に沿って設けられた長方形敷地の地割構成は未だ成立していない。

遺跡の性格

２面から１a面までを通じて出土した、硯の製作・修理、動物の解体から革なめし・獣肉切り落とし・骨製品用材切り出しまで、石材と動物処理・骨材利用工芸を示す遺物群が遺跡地の性格を良く示している。ただし工芸完成品はほとんどない。長谷小路以南の地域は、極楽寺が権益を有する殺生禁断の前浜であったとされることがままあるが、今回の調査からは却って殺生が頻繁に行われた様子を示している。もし当該地が極楽寺との関係で殺生禁断の地であったのならば、それは極楽寺との関係をもつ者だけが殺生を行える地であり、工芸職人らが極楽寺に統括された者たちであったとの推論に至る。また推論を重ねるならば、獣骨工芸に多用された骨がウシとウマであったことは、極楽寺の馬病舎との関係も注目される。馬病舎からの馬骨の供給と、それが由に供養のために馬病舎が建てられたのだろうか。

想像ばかりに終始してしまったが、大方の御叱正をお願いいたします。



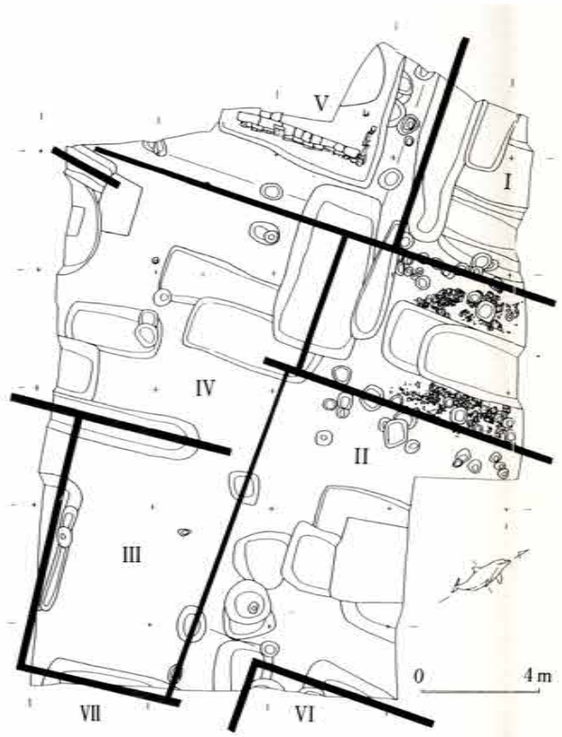


図96　遺跡地割変遷図

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1	古代溝	土師器　甕	23.5	／	／	黒色砂、石英粒を多く混じえる橙色土　焼成やや良
2		須恵器　坏	／	／	／	白色微砂を多く混じえる明灰色土
3		土師器　坏	15.5	／	／	黒・白色微砂を混じえる淡褐色土　焼成良
4	古代層	須恵器　坏蓋	3.1（宝珠径）			白色細石を多く混じえる青灰色土　軽い焼き上がり
5		須恵器　坏蓋	3（宝珠径）			白色小石を多く混じえる明白灰色土
6		須恵器　坏蓋	3.1（宝珠径）			白色細石を混じえる明灰色土　焼成良　宝珠は偏平
7		須恵器　坏蓋	11.7（蓋径）			黒色砂を混じえる淡黄色土　焼成やや不良
8		須恵器　坏蓋	17.4（蓋径）			白色小～微石を多く混じえる淡黒灰色土　焼成良
9		須恵器　坏蓋	18.9（蓋径）			黒色砂、白色石粒、雲母を混じえる灰黒色土
10		須恵器　坏身	14.3	／	／	白色微砂～細石を多く混じえる暗灰色土　焼成良
11		須恵器　坏身	15.4	／	／	白色細石を多く混じえる明灰色土　焼成良
12		須恵器　坏	12	／	／	白針多量と黒色細石を混じる暗灰色弱粉質土　焼成やや良
13		須恵器　坏	11	／	／	白色微砂～粗砂を混じえる　器表は黒、胎心は鮭脂色を呈す
14		須恵器　坏	16.4	／	／	白色微砂を多く混じえる橙黄色土　器表は黒褐色～黄褐色を呈す
15		須恵器　坏	／	7.6	／	白色微砂～粗砂を混じえる
16		須恵器　坏	／	6.6	／	黒色砂を多く混じえる淡黄色微弱粉質土　糸切り後スノコ痕を消す
17		須恵器　坏	／	12.2	／	黒色砂を少量混じえる白色弱粉質土
18		須恵器　坏	／	6.4	／	白色微石を少量混じえる暗青灰色土　焼成良
19		須恵器　坏	／	8.8	／	白色小石少量と白針を多く混じえる暗灰色弱粉質土　焼成良
20		須恵器	／	／	／	白色微石～細石を多く混じえる明灰色土
21		須恵器	／	／	／	黒色砂を多く混じえる橙色土粉質
22		土師器　壷	／	／	／	白・黒色小石を多く混じえる黒灰色土　外面赤彩
23		土師器　壷	15.8	／	／	黒色砂・白色細石を多く混じえる粉質土　内面下半は黒色を呈す
24		土師器　鉢	15.2	／	／	黒色砂・白色微粒・石英粒を多く混じえる橙色土　焼成良
25		土師器　甕	／	／	／	雲母・黒色砂を多く混じえる肌色粉質土　外面赤彩
26		土師器　台付甕	／	3.2	／	黒色・白色粗砂、雲母を多く混じえる淡黄色土
27		土師器　台付甕	／	6.4	／	黒色粗砂・白色微粒を混じえる紅～暗橙色粘質土　焼成良
28		土師器　甕	／	7.9	／	黒色・赤褐色小石を混じえる砂質土　外器表黒色、内器表橙色を呈す
29		土師器　坏	12.4	12.7	4.8	黒色・白色粗砂を多く混じえる淡黄色粉質土　焼成良
30		土師器　坏	11.9	／	／	黒色・白色砂・金雲母を混じえる粉質土
31		土師器　坏	11.9	／	／	黒色粗砂・赤褐色細石を多く混じえる粉質土
32		土師器　坏	13.1	／	／	黒色細石～砂を多く混じえる淡橙色粉質緻密土　焼成良
33		土師器　坏	12.6	／	／	黒色・白色粗砂および雲母を混じえる橙色粉質緻密土
34		土師器　坏	14.4		／	赤褐色微砂および白針を混じえる粉質土　焼成良
35		土師器　坏	14.8	12.7	4.7	黒色・白色粗砂を多く混じえる淡黄色粉質土　赤彩　焼成良
36		土師器暗文盤状坏	13.7	／	／	黄色泥粒を混じえる赤褐色緻密土
37		土師器暗文盤状坏	／	／	／	白色微粒を少量混じえる淡紅色粉質土　焼成良
38		土師器　坏	10.5	／	／	黒色砂を多く混じえる肌色弱粉質土
39		土師器暗文盤状坏	15.8	11.2	3	黒色粗砂・白色微砂および白針を混じえる暗紅色砂質土
40		土師器暗文盤状坏	11.4	／	／	白色微砂を混じえる粉質緻密土
41		土師器　甕	21.4	／	／	黒色細砂・白色砂を多く混じえる明橙色土　焼成良
42		土師器　甕	22.6	／	／	黒色粗砂白色微砂を多く混じえる明橙色緻密土　焼成良
43		土師器　甕	18.1	／	／	赤褐色泥粒・雲母を多く混じえる肌色粉質土　焼成良
44		土師器　甕	16	／	／	黒色砂・白色泥粒・雲母を多く混じえる砂質土　焼成良
45		土師器　甕	／	／	9.8	黒色砂・白色泥粒を少量混じえる淡橙色粉質土　焼成良
	井戸4	かわらけ				46～58は別表参照
59		南部系山茶碗	16.4	／	／	灰白色弱粘質土　磨滅痕なし
60		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面はヘラナデで調整
61		青磁　劃花文碗	15.7	／	／	灰白色粘質土　釉は淡灰緑色　細貫入
62		青磁　劃花文碗	15	／	／	灰色堅緻土　釉は淡灰緑色を呈し薄めに施釉される
63		青磁　劃花文碗	15.2	／	／	灰色堅緻土　釉は灰緑色を呈し内外面にキズがつく
64		釘	7.6（全長）			
	井戸3	かわらけ				65～102は別表参照
103		常滑系こね鉢	31.4	14.6	11	白色小石～微粒を多く混じえる明茶橙色土　内面中位から下方は磨滅痕
104		南部系山茶碗	／	6.7	／	粘性に欠く灰白色土　指頭ナデにより糸切り痕を消す　磨滅痕なし
105		白磁　合子身	7.6（蓋径）			灰白色緻密土　釉は淡黄味緑灰色を呈す
106		青磁　劃花文碗	15	／	／	灰色粘質土　釉は淡黄味灰緑色を呈す
	土壙28	かわらけ				107～112は別表参照
113		青磁　皿	／	4.9	／	灰色粘質緻密土　釉は明淡緑青色を呈す　内面に軽いキズ
114		すり常滑	／	／	／	
115		軽石	／	／	／	擦り痕残る
116		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
117		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
118		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
119	土壙28	加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
120		銭	／	／	／	判読不能
	土壙218	かわらけ	／	／	／	121～128は別表参照
129		瓦質火鉢	／	／	／	黒色粗砂を多く混じえる　胎心は淡橙色～明灰色を呈す
130		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
131		常滑　甕	10.8	／	／	白色細石を多く混じえる灰黒色粘質土　焼成良
	土壙18	かわらけ				133～166は別表参照
167		山茶碗窯こね鉢	35.6	／	／	黒色微粒および白色細石～小石を多く混じえる灰色土　磨滅痕あり
	溝213	かわらけ				168～173、175～～178は別表参照
174		白かわらけ	11.2	9.9	2.9	淡紅味白色緻密土　焼成良
179		山茶碗窯こね鉢	／	15.4	／	黒色微粒および白色細石を混じえる暗茶色土　内底は著しい磨滅痕
180		常滑　壺？	／	／	／	白色細石を多く混じえる暗茶色土
181		青磁　櫛描文碗	／	／	／	淡黄色弱粘質土　釉は淡オリーブ色　高台直上は飛びカンナで調整される
182		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
183		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
184		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
185		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
186		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
187		加工骨残片	／	／	／	ウマ中手骨
	溝23	かわらけ				188は別表参照
189		青磁　連弁文碗	15.4	／	／	明灰白色弱粘質土　釉は灰緑色を呈す　内面にキズがわずかに残る
190		渥美　甕	／	／	／	白色微砂および黒色砂を混じえる灰褐色土　焼成良
191		常滑　小壺	5.8	／	／	白色細石を混じえる淡茶橙色土　粘土紐巻き上げ技法による成形
192		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面はヘラナデで調整
193		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
194		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
195		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
	溝211	かわらけ				197は別表参照
	溝215	かわらけ				198～202は別表参照
203		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
204		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
205		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
	土壙27	かわらけ				206～210は別表参照
211		青磁　櫛描き文皿	／	4.8	／	明灰色弱粘質土　釉は淡オリーブ色を呈しごく薄く施釉される
212		瀬戸　片口鉢	12.5	／	／	粘性に欠く灰白色土　外面中位～口唇は淡青色の釉が施釉される
213		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き＋ナデ、凹面は布目痕が残る
214		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き＋平行叩き、凹面は布目痕が残る
215		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は布目痕が残る
216		軽石	／	／	／	擦り痕残る
217		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
218		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
219	土壙15	北部系入子	6.8	3.1	2.1	灰白色粘質緻密土　内底部付近は著しい磨滅痕　外底部は糸切り後、ナデ調整
220		土錘	／	／	／	
221		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
222		瓦質火鉢	／	27.4	／	白色細石（貝？）多く混じえる
223		軽石	／	／	／	擦り痕残る
224		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り
225		硯石	／	／	／	黒色粘板岩　擦り切り
226		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
	土壙210	かわらけ				227～229は別表参照
230		土錘	／	／	／	
231		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
232	土壙211	軒平瓦	／	／	／	I期　唐草文　細砂・白色粒を混じえる灰色土
233		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
234	土壙212	平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は離れ砂痕が残る
	土壙216	かわらけ				235～243は別表参照
244		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
245		渥美　鉢	／	／	／	白色細粒を混じえる灰色土　焼成良
246	土壙222	加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
	ピット85	かわらけ				247～248は別表参照
249		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
	ピット87	かわらけ				250は別表参照
	ピット89	かわらけ				251は別表参照

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	ピット95	かわらけ				252～254は別表参照
255		軽石	／	／	／	擦り痕残る
256		砥石	／	／	／	泥岩
	2面上　I区	かわらけ				257～265は別表参照
266		北部系山茶碗	11.8	4.6	4.4	明灰白色弱粘質土　磨滅痕なし
267		山茶碗窯こね鉢	／	11.9	／	黒色微粒・白色細石を混じえる暗灰色緻密土　内底部は著しい磨滅痕
268		青磁　劃花文碗	14	／	／	灰白色堅緻土　釉は淡灰緑色を呈し釉下に細気泡が浮く　内外面にキズ
269		砥石	／	／	／	凝灰岩
270		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨　焼き痕つく
	溝214	かわらけ				269～277、279は別表参照
278		白かわらけ	10.6	9.5	2.8	白・黒色微石を混じえる明灰白色緻密土　内面に煤付着
280		青磁　劃花文碗	12.2	／	／	灰色粘質緻密土　釉は淡灰緑色を呈し釉下に細気泡が多く浮く
281		山茶碗窯こね鉢	28	／	／	黒色微粒・白色細石を混じえる灰色土　磨滅痕なし
282		山茶碗窯こね鉢	34	／	／	黒色微粒・白色細石を多く混じえる灰色土　軽い磨滅痕が残る
283		渥美　鉢	／	／	／	白色細粒～細石を混じえる灰褐色土
284		常滑　甕or壷	／	／	／	白色細粒を多く混じえる暗茶色土
285		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
286		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は離れ砂＋スノコ痕が残る
287		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き＋平行叩き、凹面は布目痕が残る
288		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
289		せつ器質　平瓦	／	／	／	粗砂・白色粒を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は布目痕＋ナデが残る
290		せつ器質　平瓦	／	／	／	粗砂・白色粒を混じえる橙褐色土　凸面は板ナデ痕、凹面は木口ナデ痕が残る
291		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
292		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
293		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
294		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
295		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
296		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
297		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
298		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
299		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
300		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
301		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
302		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
303		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
304		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
305		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
306		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
307		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
308		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
309		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
310		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
311		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
312		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
313		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
314		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
315		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
316		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
317		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
318		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
319		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
320		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
321		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
322		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
323		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
324		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
325		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
326		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
327		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
328		加工骨残片	／	／	／	ウマ橈骨
329		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
330		アカニシ＋人骨	／	／	／	アカニシ殻口にヒトの下顎骨がはめ込まれる　習俗遺物か？
331	溝210	加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
332		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	土壙8	かわらけ				333～338は別表参照
339		渥美　甕	／	／	／	黒色微砂・白色細粒を混じえる灰褐色緻密土
340		加工骨残片	／	／	／	ウシ上腕骨
	2面上　III区	かわらけ				341～345は別表参照
346		渥美　鉢	／	／	／	白色細粒・黒色微砂を混じえる灰色緻密土　焼成良
347		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
348		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
349		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸凹面ともにヘラナデ調整が残る
350		せつ器質丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は灰緑色の自然釉がかかる
351		舶載陶器	／	／	／	白色微粒を少量混じえる明茶色弱粘質緻密土　華南地方産か？
352	井戸2	加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
		かわらけ				353～354は別表参照
355	土壙22	軽石	／	／	／	擦り痕残る
356	土壙23	平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
	ピット66	かわらけ				357は別表参照
	ピット178	かわらけ				358～367は別表参照
368		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂痕が残る
369		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目痕、凹面は離れ砂痕が残る
370		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂＋ナデ痕が残る
371		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂痕が残る
372		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
373		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面はヘラナデ調整痕が残る
374		軒平瓦	／	／	／	II期　剣頭文　細砂・白色粒を混じえる灰色土
375		渥美　甕	／	／	／	黒色微砂を混じえる灰褐色緻密土　焼成良
376		羽	／	／	／	裏面に浅い溝状の筋が残る　作り直し途中と思われる
377	土壙24	青白磁　型作り皿	6	／	／	灰白色緻密土　釉は淡青緑色を呈す
	ピット84	かわらけ				378は別表参照
	2面上　IV区	かわらけ				379～380は別表参照
381		青磁　櫛描き文碗	12.2	／	／	灰色緻密土　釉は淡オリーブ色を呈す
382		青磁　櫛描き文碗	14.4	／	／	灰色緻密土　釉は灰味オリーブ色を呈し貫入が入る　内面にキズが残る
383		渥美　小壺	6.4	／	／	赤褐色泥粒・白色微石を混じえる灰青色緻密土　器表は黒茶色
384		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
385		銭	／	／	／	「元豊通寶」北宋時代
	IV区2面上包含層	かわらけ				386～394は別表参照
395		渥美　鉢	／	14.9	／	暗灰色土　外底部より穿孔　高台端部に籾殻痕
396		青磁　劃花文碗	7.6	／	／	灰色緻密土　釉は灰味淡緑青色を呈し釉下に細気泡が浮く
397		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
398		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
399		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
400		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
401		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
402		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
403		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
404		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
405		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
406		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
407		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
408		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
409		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
410		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
411		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
412		加工骨残片	／	／	／	ウマ中手骨
413		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
414		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
415		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面は木口ナデ痕が残る
416		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
417	溝28	軽石	／	／	／	擦り痕あり
418		鋼釜	22.2	／	／	黒色粗砂・白色砂を混じえる灰色せつ器質土　外面は黒色を呈す
419		軒平瓦	／	／	／	II期　剣頭文　細砂および白色粒を混じえる灰色土　凹面は布目痕が残る
420		軒丸瓦	／	／	／	III～IV期　小型　細砂を混じえる灰黒色土　凸面はヘラナデ、凹面は布目痕
421		常滑　こね鉢	／	18.9	／	白色細石を混じえる暗灰色土　磨滅痕なし
422		舶載陶器　壺	8.9	7.6	／	白色石粒～細石を多く混じえた緑・黄釉陶胎土に似る明灰色粘質土
423		青磁　溝彫り碗	／	3.7	／	暗灰色弱粘質緻密土　釉は暗灰緑色を呈す　内面に軽いキズ
424		砥石	／	／	／	泥岩
425		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	溝28・29	かわらけ				426～431は別表参照
432		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
433		白磁　口兀皿	10.8	／	／	明灰白色緻密土　釉は灰緑味乳白色を呈す　内面に軽いキズが残る
434		青磁　鏑連弁文碗	17.2	／	／	灰白色緻密土　釉は淡灰緑色を呈し貫入が入る　キズなし
435		南部系入子	／	4.1	／	灰白色弱粘質緻密土　内面は磨滅痕が残る
436		山茶碗窯こね鉢	19	／	／	やや小型　暗灰色土　内面は体部上位まで磨滅痕が残る
437		常滑　こね鉢	／	20	／	白色小石を混じえる黒灰色土　内底部～内体部下位にかけて磨滅痕が残る
438		羽	／	／	／	両端を削り直ししている　修理途中品と思われる
439	溝29	舶載瓦質土器	／	7.8	／	白色微粒を多く混じえる緻密土　内底部は磨滅痕が残る
440		鉄鍋	／	／	／	
	溝31	かわらけ				441～451は別表参照
452		軒平瓦	／	／	／	I早期　剣頭文　灰白色粉質土
453		軒平瓦	／	／	／	II期　剣頭文　細砂を混じえる灰黒色土
454		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
455		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
456		白磁　口兀皿	11.8	6.4	2.7	明灰白色緻密土　釉は灰緑味乳白色を呈す　キズなし
457		青磁　碗	／	5.6	／	明灰色緻密土　釉は淡灰緑色を呈す
458		山茶碗窯こね鉢	30.8	／	／	粘性に欠く明灰色土
459		山茶碗窯こね鉢	／	14.6	／	粘性に欠く暗灰色土　内面は著しい磨滅痕　重ね焼き痕あり
460		山茶碗窯こね鉢	24.4	12.9	9.5	灰色緻密土　体部内面上位～内底部にかけて著しい磨滅痕　一部紅付着
461		軽石	／	／	／	擦り痕あり
462		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
	ピット114	かわらけ				463は別表参照
464		不明土製品	／	／	／	黒色粗砂を多く混じえる鈍黄色粉質土
465		鉄鎌	／	／	／	
	1b面上　I区	かわらけ				466～468は別表参照
469		南部系入子	／	6.1	／	粘性に欠く灰白色緻密土　糸切り後ヘラで調整される　内底部磨滅痕が残る
	溝16	かわらけ				470～473は別表参照
474		青磁　折縁皿	12.2	5.6	3.6	粗い灰色土　釉は灰緑色を呈す　底部割れ口に擦痕残る
475		青磁　鏑連弁文碗	11.6	／	／	やや粗い淡黄味灰色土　釉は淡黄味緑色を呈す　キズなし
476		硯石	／	／	／	赤間石　原材切り出し痕　折取り
477		硯石	／	／	／	赤間石　原材切り出し痕　折取り　擦り切り
	溝17	かわらけ				478～488は別表参照
489		土錘	／	／	／	
490		軒平瓦	／	／	／	II期　剣頭文　細砂を混じえる灰色土
491		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸凹面ともに木口ナデにより調整される
492		瓦質火鉢	34.8	／	／	黒色小石・白色細石を混じえる粉質灰色土
493		常滑　甕	／	／	／	白色微粒を多く混じえる橙茶色土
494		常滑　甕	／	／	／	黒色微粒・白色微粒を混じえる灰色土
495		渥美　鉢	／	11.6	／	黒色微粒・白色細石～小石を多く混じえる黒灰色土　内面著しい磨滅痕が残る
496		常滑　こね鉢	35.2	／	／	白色小石を多く混じえる暗灰色土　体部内面上位から下は著しい磨滅痕が残る
497		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　原材切り出し痕
498		硯石	／	／	／	赤間石　タガネ痕　擦り切り　折取り
499		砥石	／	／	／	泥岩
500		釘	5.8（遺存長）			
501		羽	／	／	／	表面凹状溝に削り痕残る
502		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	1b面遺路面上	かわらけ				503～511は別表参照
512		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面はナデで調整される
513		軒丸瓦	／	／	／	IV期以降？　白色粒を混じえる灰黒土
514		常滑　小壺	8.2	／	／	白色細石を多く混じえる暗灰茶色土
515		山茶碗窯こね鉢	32	／	／	黒色微粒・白色細石を混じえる暗灰色土
516		白磁　口兀皿	10.4	／	／	明灰白色緻密土　釉は灰緑味乳白色を呈す　内面にわずかにキズ
517		青磁　鏑連弁文碗	16.6	／	／	灰白色緻密土　釉は淡灰緑色を呈す　キズなし
518		青磁　鏑連弁文碗	17.4	／	／	灰色粘質緻密土　釉は灰味青緑色を呈す　内面にわずかにキズ
519		青磁　折縁皿	18.3	／	／	灰色弱粘質土　釉は灰味淡青緑色を呈し貫入が入る
520		砥石	／	／	／	泥岩
521		滑石鍋	／	／	／	外面は煤付着
522		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
	溝216	かわらけ				523は別表参照
524		山茶碗窯こね鉢	／	14	／	粘性に欠く灰色土　内面は著しい磨滅痕　外面中位は薄く煤ける
525		常滑　こね鉢	32.2	／	／	白色小石を多く混じえる赤褐色土　内面は一部薄く煤けるが磨滅痕はない
526		常滑　甕	25.8	／	／	黒色・白色小石～細粒を多く混じえる赤褐色土
527		常滑　甕	35.6	／	／	白色微石粒を混じえる明灰色粘質精良土

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
528	溝216	白磁　有耳壺	11.9	7.4	29.3	淡灰白色粘質緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す
529		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
530		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
531		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は布目痕が残る
532		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
方形竪穴建築址201		かわらけ				533～542は別表参照
543		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
544		軒平瓦	／	／	／	II期か？　剣頭文　中央に「大」がつく　粗砂・白色粒を混じえる灰黒色土
545		瓦器質　小型香炉	9.4	／	／	型作り　黒色・白色砂粒を多く混じえる白色土
546		不明土製品	／	／	／	黒・白色微砂を混じえる緻密なかわらけ質土
547		瓦質火鉢	／	21.9	／	白色細石を多く混じえる灰色瓦質土
548		南部系入子	4.5	2.7	1.1	灰白色緻密土
549		北部系？山茶碗	／	／	／	白色微粉粒を多く混じえる灰色緻密土
550		常滑　小壺	／	10	／	白色細粒を混じえる暗灰色土
551		渥美　甕	／	／	／	白色細粒を混じえる黒灰色緻密土
552		青磁　碗	／	3.2	／	明朝　上層よりの混入品　暗灰色緻密土　釉は灰味暗緑色を呈し貫入が入る
553		砥石	／	／	／	泥岩
554		石刀	／	／	／	黒色頁岩　研磨加工される
555		銭	／	／	／	「開元通寶」唐時代
556		銭	／	／	／	「嘉祐通寶」北宋時代
557		銭	／	／	／	「聖宋元寶」北宋時代
558		加工骨残片	／	／	／	イルカ
559		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
560		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
561～660は欠番						
661		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
662		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
663		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
664		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
665		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
666		鹿角	／	／	／	
	溝204	かわらけ				667は別表参照
668		瀬戸　灰釉皿	／	7.8	／	灰色弱粘質緻密土　釉は灰緑色を呈す　外底部はおろし状
669		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
670		釘	8.2（全長）			
671		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
672	溝208	青磁　劃花文碗	12.6	／	／	淡黄味灰色弱粘質土　釉は黄味灰緑色を呈し貫入が入る
673		常滑　こね鉢	31.2	／	／	白色微粒～細石を混じえる黄味淡茶色緻密土
674		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
675		砥石	／	／	／	泥岩
	土壙203	かわらけ				676～681は別表参照
682		瀬戸灰釉おろし皿	／	8.6	／	灰色弱粘質緻密土　釉は薄く施釉される
683		北部系輪花入子	6.3	3.4	2.3	淡橙味灰色粘質土　内底部・花弁の一部に紅付着
684		山茶碗窯こね鉢	／	13.1	／	粘性に欠く暗灰色土　内面は著しく磨滅
685		青磁　劃花文碗	16.4	／	／	灰色弱粘質土　釉は淡青味灰緑色を呈す
686		青磁　碗	／	5.4	／	灰白色粘質緻密土　釉は淡青味灰緑色を呈す　高台畳付は鉄発色
687		砥石	／	／	／	凝灰岩
688		すり常滑	／	／	／	
689		すり常滑	／	／	／	
690		すり常滑	／	／	／	
691		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
692		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸凹面ともにナデ調整
693		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面はナデ調整
694		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は離れ砂痕が残る
695		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は木口ナデ調整
696		軒平瓦	／	／	／	※図版中の拓本は上下逆　上向き剣頭文　粗砂・白色粒を混じえる灰白色土
697		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
698		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
699		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
700		釘	6.8（全長）			
701		銭	／	／	／	「元豊通寶」北宋時代
702		銭	／	／	／	「熙寧元寶」北宋時代
	土壙205	かわらけ				703～705は別表参照
706		青磁　櫛描き文碗	15	／	／	淡黄味灰色緻密土　釉は淡オリーブ色を呈しごく薄く施釉される

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
707	土壙205	渥美　鉢	／	14.4	／	緻密な暗灰色土　内面は著しく磨滅する
	土壙206	かわらけ				708～710は別表参照
711		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
712		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
	土壙207	かわらけ				713～719は別表参照
720		瓦器	／	／	／	白・黒色砂を混じえる明淡灰色緻密土
721		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
722		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
723		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
724		軽石	／	／	／	擦り痕あり
725		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
726		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
727		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	土壙217	かわらけ				728～743は別表参照
744	ピット34	軒平瓦	／	／	／	唐草文　細砂を混じえる灰色土
745		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面はナデ調整
746		南部系山茶碗	／	6.5	／	粘性に欠く暗灰色土　磨滅痕なし
747	ピット209	加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
748	ピット102	加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
	ピット207	かわらけ				749～751は別表参照
752		青白磁　梅瓶	／	／	／	灰白色弱粘質土　釉は白濁した緑青色を呈す
753		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は離れ砂痕が残る
754		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目＋ナデ調整、凹面はナデ調整
755		硯	／	／	／	黒色粘板岩　陰刻模様あり
756		軽石	／	／	／	擦り痕あり
	ピット86	かわらけ				757～759は別表参照
760		軒平瓦	／	／	／	剣頭文　細砂を混じえる灰橙色土
	溝201	かわらけ				761は別表参照
762		白かわらけ？	／	4	／	黒色・白色微砂を少量混じえる淡紅味肌色粉質土　外底部は糸切り
763		瓦質火鉢	／	／	／	白・黒色石粒を多く混じえる明灰色粉質土　鍔部には花文が押印される
764		青磁　鎬連弁文碗	14.8	／	／	明灰色粘質緻密土　釉は灰緑色を呈し厚く施釉される
765		硯石	／	／	／	赤茶色粘板岩　擦り切り
766		釘	6.9（全長）			
767		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
768		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
769		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
770		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
771		加工骨残片	／	／	／	ウマ橈骨
772は欠番						
	溝202	かわらけ				773～774は別表参照
	溝203	かわらけ				775は別表参照
776		白磁　皿	／	6.6	／	明灰白色土　釉は淡灰緑味乳白色を呈し細貫入が入る
777		軽石	／	／	／	擦り痕あり
778		軽石	／	／	／	擦り痕あり
779		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
780		加工骨残片	／	／	／	ウシ腰骨
781		網針？	／	／	／	未製品　全体に粗い削り痕、頂部は切り出し痕が残る
782	ピット204	北部系山茶碗	／	5	／	明灰白色粘質土　磨滅痕なし　高台貼り付け後丁寧に調整
	ピット208	かわらけ				783～791は別表参照
792		丸瓦	／	／	／	粗砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
793		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
794		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
	1b面　II区	かわらけ				795～796は別表参照
797		山茶碗窯こね鉢	／	9.6	／	黒色微粒～細石を多く混じえる暗灰色土　磨滅痕なし
798		刀子	8.6（遺存長）			
799		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
	1b面II・III区	かわらけ				800～808は別表参照
809		せつ器質平瓦	／	／	／	白色小石を混じえる橙色土　凸面は板ナデ調整後「佛」を櫛描き凹面は離れ砂
810		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目＋ナデ、凹面は離れ砂＋ナデ
811		渥美　鉢	／	／	／	白色細粒を混じえる灰色土　焼成良
812		南部系山茶碗	／	6.8	／	粘性に欠く灰白色土　貼り付け高台は雑　内面軽い磨滅痕残る
813		南部系山茶碗	／	7.9	／	灰色緻密土　糸切り痕を指頭ナデで消す　磨滅痕なし
814		舶載　灰釉小壺	／	／	／	灰色弱粘質土　釉は二次焼成を受け灰緑色を呈す
815		砥石	／	／	／	泥岩

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
816	1b面II・III区	弁	15.4（全長）			
817		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
818	溝37	砥石	／	／	／	泥岩
	土壙11	かわらけ				819～820は別表参照
821		黒線皿	／	／	／	白色粉質土　器表は明灰色を呈す
822		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂＋ヘラナデ痕が残る
823		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる橙褐色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
824		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
	井戸1	かわらけ				825～826は別表参照
827		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目、凹面はナデ調整
828		釘	8.1（全長）			
830		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	溝1	かわらけ				831～835は別表参照
836		瓦質火鉢	／	／	／	白色石粒を多く混じえる紅色土　器表は黒色を呈す
837		青磁　折縁皿or碗	11.2	／	／	灰白色粘質緻密土　釉は失透気味の灰緑色を呈し貫入が入る
838		砥石	／	／	／	泥岩
	溝22	かわらけ				839～856、867～8720は別表参照　857～866は欠番
873		南部系山皿	8.7	5.6	1.5	白色粉粒を多く混じえる灰色弱粘質土　糸切り後無調整
874		南部系入子	／	4.5	／	黄白色粉質緻密土　内面磨滅痕あり
875		瀬戸　灰釉合子身	6.4	5.6	1.4	明灰白色粘質緻密土　釉は淡灰緑色を呈し　内面のみ施釉される
876		常滑　広口小壺	11.6	／	／	白色細石を混じえる暗灰色土　掴い片口がつく
877		常滑　鳶口壺	7.1	／	／	暗灰色土　外面肩部付近に櫛描き文が入る　窯印か？
878		常滑　こね鉢	28	／	／	白色小石を混じえる黒灰色土　磨滅痕なし
879		常滑　こね鉢	28.2	／	／	白・黒色微粒を混じえる暗灰色緻密土　磨滅痕なし
880		白磁　口兀皿	11.4	6.6	3	灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
881		白磁　口兀皿	11.2	／	／	灰白色粘質緻密土　釉は淡青味乳白色を呈しごく薄く施釉される　キズなし
882		青磁　鏑連弁文碗	13.9	／	／	明灰白色緻密土　釉は明淡緑青色を呈し厚く施釉される貫入が入る　キズなし
883		青磁　劃花文碗	／	6.8	／	灰色粘質緻密土　釉は黄味灰緑色を呈す
884		滑石鍋	15.3	／	／	
885		砥石	／	／	／	泥岩
886		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り痕あり
887		硯	／	／	／	黒色粘板岩　再加工途中品
888		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	溝24	かわらけ				889～934は別表参照
935		瀬美　鉢	／	／	／	白色細石～微粒を多く混じえる灰褐色土　焼成良
936		常滑　広口小壺	10.5	／	／	白色細石を多く混じえる暗灰色土
937		青磁　劃花文碗	／	5.6	／	灰色粘質緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す　キズなし
938		釘	3.4（遺存長）			
	溝14	かわらけ				9380は別表参照
939		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
940		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目痕、凹面は離れ砂痕が残る
941		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
942		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目痕、凹面は離れ砂痕が残る
943		山茶碗窯こね鉢	32	／	／	白色細石～微粒を混じえる灰色土　磨滅痕なし
944		山茶碗窯こね鉢	／	14	／	粘性に欠く暗黄灰色土　内面は著しい磨滅痕
945		白磁　口兀皿	15.4	／	／	明灰白色緻密土　釉は灰緑味乳白色を呈す　内面は著しいキズあり
946		青磁　鏑連弁文碗	14	／	／	明灰白色緻密土　釉は　明淡青緑色を呈し厚く施釉される　内面キズなし
	溝18	かわらけ				947～953は別表参照
954		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面はヘラナデ痕が残る
955		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は砂目痕、凹面は離れ砂痕が残る
956		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は布目痕が残る
957		常滑　こね鉢	32	／	／	白色小石を多く混じえる黒灰色土　磨滅痕なし
958		山茶碗窯こね鉢	14	／	／	粘性に欠く暗黄灰色土　内面は著しい磨滅痕残る
959		白磁　口兀皿	10.4	／	／	灰白色緻密土　釉は淡灰緑味乳白色を呈す　内面はごく軽いキズあり
960		青磁　鏑連弁文碗	15.3	／	／	灰色粘質緻密土　釉は灰緑色を呈す
961		刀子？	／	／	／	
962		擦り常滑	／	／	／	
	溝19	かわらけ				963～965は別表参照
966	ピット13	穿孔かわらけ				966は別表参照
967		高麗青磁　天目台	／	／	／	暗灰色弱粘質土　釉は淡草緑色　銅下に刻線圏が施される　一部黒炭残る

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
方整建築址1裏込		かわらけ				968～971は別表参照
972		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
973		白磁　印花文皿	／	／	／	粘性に欠く白色土　釉は灰味透明で貫入が入る
974		青磁　櫛描文皿	／	5.2	／	黄灰色粘質土　釉は灰味オリーブ色を呈す
975		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
方整建築址1下層		かわらけ				976～977は別表参照
978		せつ器質　丸瓦	／	／	／	粗砂を混じえる灰橙色土　凸面は自然釉がかかり、凹面は布目痕が残る
979		早島　碗	10.4	／	／	
980		北部系　輪花入子	7.8	4.6	2.6	灰白色粘質土　外底部は糸切り後無調整
981		刀子	／	／	／	
982		釘	9.5（全長）			
983		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
方整建築址1上層		かわらけ				984～1026は別表参照
1027		瓦質火鉢	／	／	／	黒・白色砂粒を多く混じえる淡橙色土　内面は黒色を呈す
1028		土器質火鉢	40.7	27.6	8.8	白色細粒・黒色砂を多く混じえる灰黒色土
1029		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は砂目痕、凹面は離れ砂痕が残る
1030		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂痕が残る
1031		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面はヘラナデ調整痕が残る
1032		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1033		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹へラナデ調整痕が残る
1034		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる白色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
1035		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
1036		常滑　こね鉢	32.8	／	／	白色小石を混じえる橙灰色土　体部内面中位から下方は磨滅痕残る
1037		常滑　こね鉢	32.4	／	／	白色小石をやや混じえる黒灰色土　磨滅痕なし
1038		常滑　小壺	／	／	／	白色細石を多く混じえる暗灰色土
1039		山茶碗窯こね鉢	／	14.6	／	黒色微粒・白色細石を多く混じえる淡灰茶色土　内面は著しく磨滅する
1040		山茶碗窯こね鉢	／	11	／	暗灰色粘質緻密土　内面は著しく磨滅する
1041		擂り常滑	／	／	／	こね鉢転用　内面は転用前の磨滅痕が残る
1042		北部系山茶碗	／	／	／	灰白色粘質土　磨滅痕なし
1043		北部系山茶碗	／	4.5	／	明灰白色弱粘質土　糸切り後調整　磨滅痕なし
1044		瀬戸　灰釉小壺	／	／	／	灰白色粘質緻密土　釉は二次焼成を受け詳細不明　体部内面下方は漆痕残る
1045		瀬戸　灰釉小壺	／	／	／	明灰白色粘質緻密土　釉は透明に近い淡灰緑色を呈す
1046		瀬戸　灰釉盤	26	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は二次焼成を受け暗黄味灰緑色を呈す
1047		瀬戸　灰釉盤	17.2	12.4	5.6	灰白色弱粘質緻密土　釉は二次焼成を受け淡灰緑色を呈す
1048		瀬戸　灰釉盤	18.3	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は二次焼成を受け黄味灰緑色を呈す
1049		白磁　口兀皿	8.6	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1050		白磁　口兀皿	8	／	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1051		白磁　口兀皿	11.8	6.4	3.1	明灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1052		青磁　鎬連弁文碗	14.4	／	／	灰色弱粘質土　釉は黄味灰緑色を呈し貫入が入る　内面に僅かにキズあり
1053		青磁　碗	／	3	／	明灰白色粘質緻密土　釉は淡緑味灰青色を呈す
1054		青白磁　水注	／	／	／	白色弱粘質土　釉は淡緑青色を呈す
1055		青白磁　水注	／	／	／	白色弱粘質土　釉は淡青緑色を呈す
1056		白磁　型作り碗	／	／	／	白色緻密土　釉は白灰～黒灰色透明
1057		褐釉壺	／	／	／	白色細石・黄色泥粒を混じえる暗灰色土　釉は茶褐色で一部天目様の斑点浮く
1058		掛け金具	／	／	／	
1059		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1060		硯	／	／	／	黒色粘板岩　「陸」に「海」を作った再加工品
1061		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として転用
1062		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として転用
1063		硯石	／	／	／	黒色粘板岩
1064		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り
1065		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
1066		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　タガネ痕
1067		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り
1068		硯石	／	／	／	黒色粘板岩　擦り切り　折取り　切り取り後擦り石として転用
1069		すり常滑	／	／	／	
1070		すり常滑	／	／	／	
	ピット9	かわらけ				1071は別表参照
	ピット22	かわらけ				1072は別表参照
1073	ピット23	丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
	ピット24	かわらけ				1074は別表参照
	ピット28	かわらけ				1075は別表参照
1076		銭	／	／	／	「聖宋元寶」北宋時代

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	1b面上　V区	かわらけ				1077～1079は別表参照
1080		常滑　広口小壺	11.8	／	／	白色細石を多く混じえる暗灰色土
1081		瀬戸　灰釉折縁皿	19.1	／	／	白色細粒を多く混じえる淡黄味灰白色土　釉は軽い二次焼成を受け黄味灰緑色
1082		青磁　碗	／	5	／	灰色弱粘質緻密土　釉は淡灰緑色を呈す　内面キズあり
1083		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1084		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1085	1b面	南部系山茶碗	12.8	／	／	明白色弱粘質緻密土　磨滅痕なし
1086		美濃？獣足盤	／	17	／	灰色粘質土　釉は灰緑味褐色を呈す　焼成前に穿孔される　盆栽用植木鉢か？
1087		瀬戸　灰釉皿	／	19.8	／	黄味灰白色緻密土　釉は黄味淡灰緑色を呈す　外底部はヘラで糸切り痕消す
1088		白磁　印花口冗皿	9.1	／	／	白色弱粘質土　釉は白濁する
1089		青磁　折縁皿？	12.8	／	／	灰白色粘質土　釉は淡青緑色を呈す
1090		砥石	／	／	／	泥岩
1091		刀子	／	／	／	
1092		釘	7.8（全長）		／	
1093		銭	／	／	／	「皇宋通寶」北宋時代
1094		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1095		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1096		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1097		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1098		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1099		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
1100		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1101		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1102		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	1b下　D―5	かわらけ				1103～1107は別表参照
1108		青磁　鎬連弁文碗	27	／	／	灰色弱粘質土　釉は淡灰緑色を呈す
1109		青磁　鎬連弁文碗	16.4	5.8	7	灰色弱粘質土　釉は黄味淡乳緑色を呈す　1108、1109は重なって出土
1110	1b面下	早島　碗	10.8	4.1	3	黄白色土
1111		鍔釜	14.2	／	／	黒色微砂を多く混じえる淡橙色砂質土　鍔部付近は煤付着
1112		伊勢系土鍋	／	／	／	白色細石を多く混じえる白肌色土　胎心黒色　口縁付近は煤付着
1113		瓦器	／	／	／	白色砂を少量混じえる白灰色粉質土　内面に暗文
1114		土錘	／	／	／	
1115		瓦質燭台	／	／	／	白・黒色粗砂を多く混じえる灰色土　器表は黒色を呈す　外面はミガキ
1116		瓦質火鉢	／	／	／	雲母片・黒色砂・白色砂を多く混じえる明灰色砂質土
1117		瓦質火鉢	34.9	／	／	白色砂・白針・黒色砂を多く混じえる灰色土
1118		瓦質火鉢	39.1	／	／	黒色砂を多く混じえる黒灰色土
		かわらけ				1119～1211は別表参照
1212		せつ器質丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はヘラナデ調整＋自然釉、凹面は布目痕が残る
1213		軒丸瓦	／	／	／	細砂を混じる灰色土
1214		軒丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土
1215		軒丸瓦	／	／	／	細砂・白色粒を混じえる灰色土
1216		軒平瓦	／	／	／	III期以降　笵ズレ剣頭文　細砂を混じえる灰色土
1217		軒平瓦	／	／	／	III or IV期以降　唐草文　細砂・白色粒を混じえる灰～灰黒色土
1218		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面はヘラナデ調整痕残る
1219		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂痕が残る
1220		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面はヘラナデ調整痕残る
1221		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目痕、凹面は布目痕が残る
1222		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は木口ナデ調整痕が残る
1223		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰黒色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1224		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1225		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1226		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は木口ナデ調整痕残る
1227		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕残る
1228		南部系山茶碗	／	／	／	粘性に欠く灰白色土　磨滅痕なし
1229		南部系入子	／	3.8	／	暗黄色粉質緻密土　糸切り後ヘラ調整　内面軽い磨滅痕
1230		南部系山茶碗	／	6.7	／	粘性に欠く灰白色土　糸切り後ナデ調整　内面軽い磨滅痕
1231		南部系山茶碗	／	7.8	／	粘性に欠く灰白色土　糸切り後ナデ調整　内面著しい磨滅痕
1232		南部系入子	10.6	／	／	粘性に欠く灰白色緻密土　内面磨滅なし
1234		南部系入子	7.8	／	／	黄白色粉質緻密土　内面磨滅痕なし
1235		南部系入子	7.9	4.1	3.2	雑拙な片口付く　暗黄色粉質緻密土　糸切り後ヘラナデ調整　内面磨滅痕なし
1236		山茶碗窯こね鉢	35	／	／	暗灰色緻密土　体部内面上位から下方にかけて著しい磨滅痕
1237		山茶碗窯こね鉢	34	／	／	暗灰色緻密土　口縁から著しく磨滅する
1238		山茶碗窯こね鉢	29.1	／	／	暗灰色緻密土　体部内面中位から下方は磨滅痕あり
1239		山茶碗窯こね鉢	28	／	／	粘性に欠く灰色土　体部内面中位から下方は軽い磨滅痕あり

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1240	1b面下	山茶碗窯こね鉢	／	11.9	／	粘性に欠く灰色土　内面は著しい磨滅痕あり
1241		山茶碗窯こね鉢	／	14.5	／	白灰色緻密土　内面は著しい磨滅痕あり
1242		山茶碗窯こね鉢	／	／	／	粘性に欠く灰色土　内面は著しい磨滅痕あり
1243		山茶碗窯こね鉢	／	／	／	灰色緻密土　内面は著しい磨滅痕残る
1244		山茶碗窯こね鉢	／	10.6	／	粘性にやや欠く灰色土　内面著しい磨滅痕あり
1245		山茶碗窯こね鉢	／	15.2	／	粘性に欠く暗灰色土　内面は使用による黒ずみが残るが磨滅痕はない
1246		常滑　広口小壺	11.3	9.4	6.9	白色小石を混じえる暗灰茶色土　外面は窯印？穿孔は焼成前　盆栽用植木鉢？
1247		常滑　広口小壺	9.7	／	／	暗灰茶色緻密土
1248		常滑　小皿or合子	7.5	7.4	1.7	明灰色土　底部と器壁は貼り付けで成型
1249		常滑　こね鉢	29.4	／	／	暗灰色緻密土　内面口縁下から下方は著しい磨滅痕残る
1250		常滑　こね鉢	／	12.8	／	白色小石を多く混じえる茶褐色土　内面やや磨滅痕残る
1251		常滑　こね鉢	／	13	／	粘性に欠く白色小石を多く混じえる茶褐色土　内面磨滅痕残る
1252		常滑　こね鉢	／	18.1	／	弱粘質淡橙色土　内面は軽い磨滅痕
1253		常滑　こね鉢	／	16.7	／	灰色弱砂質土　内面磨滅痕なし
1254		渥美　甕	／	／	／	灰褐色緻密土　焼成良
1255		船載陶器	／	6.6	／	粘性に欠く淡橙味灰白色土　釉は暗緑味黄土色を呈し内面にも施釉される
1256		白磁　口兀皿	8	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡青味乳白色を呈す　口兀部に擦痕残る
1257		青磁　皿	9	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は灰味淡青色を呈す　口唇部にわずかに擦痕残る
1258		白磁　口兀皿	11.4	／	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は灰緑味乳白色を呈す　口兀部にわずかに擦痕残る
1259		白磁　口兀皿	12	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑青味乳白色を呈す　キズなし
1260		白磁　口兀皿	11.2	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1261		白磁　口兀皿or碗	12.2	／	／	灰白色弱粘質土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1262		白磁　口兀皿	／	／	／	明白色緻密土　釉は淡灰味乳白色を呈す　キズなし
1263		白磁　口兀碗	14.6	／	／	灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1264		白磁　口兀碗	13.1	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡青味乳白色を呈しごく薄く施釉される　キズなし
1265		白磁　口兀碗	／	4.4	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は淡灰緑味乳白色を呈す　内面に軽いキズ
1266		白磁　広口壺	11.4	／	／	暗灰白色粘質土　釉は暗灰緑味乳白色を呈し　細貫入が入る
1267		白磁　広口壺	14.3	／	／	灰白色弱粘質土　釉は淡緑味乳白色を呈す　細貫入が入る
1268		青磁　鏑連弁文碗	10.6	／	／	灰白色粘質緻密土　釉は青味淡灰緑色を呈し厚めに施釉される
1269		青磁　鏑連弁文碗	13.8	／	／	明灰白色粘質緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す　内面に軽いキズあり
1270		青磁　鏑連弁文碗	15	／	／	灰～暗灰色弱粘質土　釉は淡灰緑色を呈す　口唇部一部擦り痕残る
1271		青磁　鏑連弁文碗	13.4	／	／	明灰白色緻密土　釉は明淡青緑色を呈し厚く施釉される　内面軽いキズあり
1272		青磁　鏑連弁文碗	15.5	／	／	暗灰色緻密土　釉は灰緑色を呈す　キズなし
1273		青磁　劃花文碗	14.9	／	／	淡黄味灰色緻密土　釉は黄味灰緑色を呈し薄く施釉される　キズなし
1274		青磁　碗	／	5.6	／	明灰白色緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈する
1275		青磁　碗	／	5.8	／	淡黄味暗灰色弱粘質土　釉は淡灰黄味緑色を呈し細貫入が入る
1276		青磁　碗	／	5.8	／	明灰白色粘質土　釉は明淡青緑色を呈し　釉下に細気泡浮く
1277		青磁　劃花文碗	／	5.2	／	灰色緻密土　釉は灰緑色を呈し薄めに施釉される
1278		青磁　劃花文碗	／	6	／	灰色弱粘質土　釉は灰味淡青緑色を呈す　内面著しいキズあり
1279		青磁　貼付魚文皿	／	9.8	／	灰～暗灰色弱粘質土　釉は暗灰緑色を呈し厚めに施釉され細貫入が入る
1280		青磁　劃花文碗	9.9	3.2	2.4	灰色緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す　内面は著しいキズあり
1281		青白磁　梅瓶蓋	5.3	5.2	／	白色緻密土　釉は淡白青色を呈しやや白濁する　露胎部は鉄発色
1282		青白磁　有耳壺	／	6.3	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑味青白色を呈す
1283		青白磁　瓶子	／	9.4	／	白色弱粘質土　釉は水青色を呈す
1284		砥石	／	／	／	凝灰岩
1285		擦り常滑	／	／	／	
1286		擦り常滑	／	／	／	
1287		砥石	／	／	／	泥岩
1288		砥石	／	／	／	凝灰岩？
1289		砥石	／	／	／	泥岩
1290		砥石	／	／	／	泥岩
1291		軽石	／	／	／	擦り痕あり
1292		軽石	／	／	／	擦り痕あり
1293		砥石	／	／	／	粘板岩　硯転用
1294		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　タガネ痕　切り取り後擦り石として使用
1295		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り　ノミ痕　タガネ痕
1296		釘	11.5（全長）			
1297		釘	8.2（全長）			
1298		釘	7.3（全長）			
1299		釘	5.4（全長）			
1300		骨製品	／	／	／	
1301		笄	／	／	／	磨きが十分に行なわれずややザラつく　未製品か？
1302		笄	／	／	／	両側面は削り直し痕、表面凹状溝の長さから再加工途中品であろう
1303		笄	／	／	／	丁寧に磨かれる

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1304	1b面下	笄	／	／	／	丁寧に磨かれる
1305		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1306		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1307		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1308		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1309		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1310		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1311		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1312		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
1313		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1314		加工骨残片	／	／	／	ウシ大腿骨
1315		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
1316		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
1317		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
1318		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨
1319		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
1320		加工骨残片	／	／	／	ウシ橈骨
1321		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1322		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1323		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1324		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1325		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1326		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1327		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1328		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1329		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1330		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1331		加工骨残片	／	／	／	ウマ橈骨
	溝12	かわらけ				1332～1335は別表参照
1336		せつ器質丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はヘラ調整＋自然釉、凹面は布目痕が残る
1337		瀬戸　灰釉盤	31.3	／	／	淡黄味灰白色緻密土　釉は黄味灰緑色を呈すが不安定
1338		青磁　折腰小鉢	9.3	／	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は暗草緑色を呈し厚く施釉される　貫入
1339		硯石	／	／	／	黒色粘板岩　擦り切り　折取り
	1a面　I区	かわらけ				1340～1342は別表参照
1343		青磁　劃花文碗	11.8	／	／	淡黄味灰色弱粘質土　釉は黄味灰緑色を呈し細貫入が入る
1344		青磁　鎬連弁文碗	15.9	／	／	灰色緻密土　釉は灰緑～淡青色を呈し厚く施釉される
1345		白磁　口兀碗	／	／	／	灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す
1346		青白磁　皿	11	／	／	白色緻密土　釉は淡緑青色を呈し透度高い
1347		瀬戸　灰釉広口壺	13.2	／	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡灰緑色を呈し薄く施釉される
1348		常滑　こね鉢	34	／	／	白色小石を多く混じえる暗灰色土　体部内面中位から下方は著しい磨滅痕残る
1349		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り
1350		擦り常滑	／	／	／	
1351		銭	／	／	／	「天聖元寶」北宋時代
1352		銭	／	／	／	「元祐通寶」北宋時代
1353		銭	／	／	／	「咸平元寶」北宋時代
1354		銭	／	／	／	「祥符元寶」北宋時代
1355		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1356		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1357	1a面上 I・II区	加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1358		硯石	／	／	／	赤間石　切り取り後擦り石として使用
	溝3	かわらけ				1359～1362は別表参照
1363		南部系山茶碗	12.4	／	／	粘性に欠く灰白色土　磨滅痕なし
1364		常滑　小壺	／	6.6	／	白色細石を多く混じえる灰色土　二次焼成受ける
1365		常滑　こね鉢	27.4	／	／	粘性に欠く淡橙色土　磨滅痕なし
1366		山茶碗窯こね鉢	／	13	／	白灰色土　内面は著しい磨滅痕＋黒ずみ　割れ口には紅が微量付着
1367		山茶碗窯こね鉢	／	11.2	／	黒色微粒・白色細石を多く混じえる白灰色土　内底部磨滅痕あり
1368		青白磁　合子蓋	4.1	／	／	白色粘質緻密土　釉は乳青色を呈し失透する
1369		白磁　型作り碗	／	／	／	白色緻密土　釉は淡青味透明
1370		白磁　皿	／	6.2	／	明白色粘質緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す
1371		青磁　連弁文碗	16	／	／	暗灰色弱粘質緻密土　釉は黄味灰緑色を呈す　ヘラによる連弁文　キズあり
1372		滑石スタンプ	／	／	／	滑石鍋転用　未製品
1373		軽石	／	／	／	擦り痕あり
1374		加工骨残片	／	／	／	ウシ脛骨

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	溝6	かわらけ				1375～1387は別表参照
1388		土器質　燭台	／	／	／	黒色砂粒を多く混じえる肌色かわらけ質土
1389		軒丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土
1390		瓦質火鉢	33	／	／	白色・黒色砂を多く混じえる淡橙灰色砂質土
13910		山茶碗窯こね鉢	27.6	／	／	暗灰色緻密土　磨滅痕なし
1391		山茶碗窯こね鉢	／	15.6	／	灰色弱粘質緻密土　内面は著しい磨滅痕あり
1392		青磁　折縁皿or碗	13.2	／	／	淡黄味灰白色弱粘質土　釉は黄味淡灰緑色を呈し細貫入が入る
1393		青磁　劃花文碗	／	5.8	／	明灰白色弱粘質土　釉は灰味青緑色を呈す　内底部は軽いキズ痕が残る
1394		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1395		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折取り　切り取り後擦り石として使用
1396		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1397		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1398		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1399		斧	／	／	／	左側面に削り痕残る　再加工途中品
1400		刀子	／	／	／	
1401		釘	8.7（全長）		／	
1402		刀子	／	／	／	
	溝7	かわらけ				1403～1412は別表参照
1413		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はヘラナデ調整、凹面はナデ調整痕残る
1414		白磁　口兀碗or皿	13.6	／	／	白色弱粘質土　釉は淡緑味乳白色を呈す
	溝9	かわらけ				1415～1423は別表参照
1424		瓦質火鉢	／	／	／	黒色小石～細粒を多く混じえる黄灰色粉質土
1425		軒丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土
1426		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は格子叩き、凹面はヘラナデ調整痕残る
1427		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕残る
1428		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1429		せつ器質平瓦	／	／	／	白色粒を混じえる灰白色土　凸面は板ナデ調整、凹面は布目痕残る
1430		南部系山茶碗	／	7.3	／	明灰白色緻密土　糸切り後無調整　磨滅痕なし
1431		瀬戸　灰釉有耳壺	／	／	／	灰色粘質緻密土　釉は二次焼成を受け灰緑色を呈し泡立つ
1432		瀬戸　灰釉盤	16.8	10.5	4	灰白色緻密土　釉は二次焼成を受け乳緑色を呈す　糸切り後ヘラ調整される
1433		常滑　こね鉢	29.6	／	／	白・黒色微粒を混じえる暗橙灰色土　磨滅痕なし
1434		常滑　こね鉢	／	15.5	／	白色微石を少量混じえる黒灰色土　内面は著しい磨滅痕
1435		常滑　こね鉢	29.6	／	／	混入物の少ない灰色土　体部内面中位から下方にかけて軽い磨滅痕残る
1436		常滑　こね鉢	／	11.6	／	白色小石を多く混じえる暗灰色粘質緻密土　内面は著しい磨滅痕が残る
1437		山茶碗窯こね鉢	／	15	／	黒色微粒・白色細石を多く混じえる灰色土　内面は著しい磨滅痕残る
1438	溝9	青磁　劃花文碗	／	5.8	／	灰色弱粘質緻密土　釉は灰緑色を呈し高台脇～外底部にかけて黄土色発色する
1439		白磁　口兀皿	12.4	／	／	明灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　内面軽いキズあり
1440		白磁　碗	／	5.6	／	灰色緻密土　釉は青味乳灰色を呈す
1441		硯	／	／	／	黒色粘板岩
1442		砥石	／	／	／	凝灰岩　数条の筋状深い切り込みが入る
1443		擦り常滑	／	／	／	
1444		滑石	／	／	／	滑石鍋転用　穿孔途中に破損したものと思われる
1445		鎹	15.1（全長）			
1446		釘	7.1（全長）		／	
1447		斧	／	／	／	裏面に溝を彫り込みかける削り痕が多く残る　再加工途中品
1448		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1449		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1450		加工骨残片	／	／	／	ウシ中足骨
1451		加工骨残片	／	／	／	ウマ中手骨
1452		加工骨残片	／	／	／	ウマ中足骨
1453		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	溝4	かわらけ				1454は別表参照
1455		擦り常滑	／	／	／	
1456		擦り常滑	／	／	／	「し」窯印か？
1457		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	溝5	かわらけ				1458～1462は別表参照
1463		伊勢系土鍋	／	／	／	石粒を多く混じえる胎土　器表は肌色、胎心は黒灰色を呈す
1464		北部系山茶碗	／	5.5	／	明灰白色粘質緻密土　磨滅痕なし
1465		瀬戸　灰釉小壺	／	3.1	／	明灰色弱粘質緻密土　釉は灰緑色を呈す　肩部内面にしぼり痕が残る
1466		瀬戸　灰釉広口壺	12.8	／	／	明灰白色粘質緻密土　釉は灰緑色を呈し薄く施釉される
1467		山茶碗窯こね鉢	28	／	／	青灰色弱粘質緻密土　体部内面中位から下方は軽い磨滅痕あり
1468		山茶碗窯こね鉢	／	11.2	／	粘性に欠く暗灰色土　内面は著しい磨滅痕＋黒ずみが残る
1469		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り
1470		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1471	溝5	砥石	／	／	／	泥岩
1472		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目痕、凹面は布目痕が残る
1473		釘	5.7（全長）		／	
1474		鉄皿	8.7（直径）		／	
1475		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
1476		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨or中足骨
1478		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	土壙1	かわらけ				1479～1491は別表参照
1492		不明土製品	／	／	／	黒色砂・赤色泥粒を多く混じえるかわらけ質土
1493		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面は縄目叩き、凹面は離れ砂痕が残る
1494		常滑　壷or甕	／	14.4	／	粘性に欠く灰色土
1495		瀬戸　灰釉獣足盤	／	26.1	／	淡黄味灰白色土　釉は不安定　※12c末頃？　瀬戸井林5号窯で類似品出土
						※藤澤良祐氏の御教示による
1496		加工骨残片	／	／	／	ウシ大腿骨
1497		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1498		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1499～1500は欠番						
1501		釘	4.9（全長）		／	
1502		釘	6.8（全長）		／	
	土壙2	かわらけ				1503は別表参照
1504		山茶碗窯こね鉢	／	15.4	／	粘性に欠く暗灰色土　内面は著しい磨滅痕が残る
	土壙3	かわらけ				1505～1507は別表参照
1508		瀬戸灰釉有耳壷	／	8.4	／	灰白色弱粘質緻密土　釉は淡灰緑色を呈す
1509		青磁　碗	／	3.6	／	明灰白色粘質緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す
1510		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1511		骨製品	12.7（全長）			丁寧な削りが行なわれる
	1a面上IV区	かわらけ				1512は別表参照
1513		青白磁　合子蓋	9.2	／	／	粘性に欠く白色土　釉は緑味淡水青色を呈す
1514		擂り常滑	／	／	／	
1515		擂り常滑	／	／	／	
1516		鉄鍋	／	／	／	
1517		笄	／	／	／	丁寧な削りが行なわれる
1518		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
	1a面上土壙	かわらけ				1519～1540は別表参照
1541		瓦器質輪花型火鉢	48	34.8	15	外面には「吉」のスタンプ、内底面は格子目＋8弁の花文が押印される
	1a面下	かわらけ				1542～1582は別表参照
1583		土製品　小壷？	／	／	／	白粒・雲母片を混じえる淡明茶色かわらけ質土
1584		瓦質火鉢	／	／	／	白色細石を混じえる明灰～灰黒色土　器壁はやや薄い
1585		瓦質火鉢	41.1	／	／	黒色砂・雲母片を混じえる粉質土　器表は黒色、胎心は黄灰色を呈す
1586		早島　碗	／	3.9	／	肌色緻密土　稚拙な高台つく　内面は著しい磨滅痕残る
1587		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕残る
1588		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
1589		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き、凹面は布目痕が残る
1590		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面は格子叩き、凹面は離れ砂痕が残る
1591		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰白色土　凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る
1592		丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は縄目叩き＋ナデ調整、凹面は布目痕が残る
1593		平瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土　凸面は砂目痕、凹面はナデ調整痕が残る
1594		軒丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰色土
1595		軒平瓦	／	／	／	III～IV期　上向き剣頭文　細砂を混じえる灰橙色土
1596		軒平瓦	／	／	／	III～IV期　上向き剣頭文　笵ずれ　細砂を混じえる灰色土
1597		せつ器質　丸瓦	／	／	／	細砂を混じえる灰橙色土　凸面はヘラナデ調整、凹面は布目痕が残る
1598		渥美　甕	／	／	／	白色微粒を混じえる緻密灰褐色土
1599		常滑　小壷	／	8.5	／	白色細石・黒色微粒を混じえる暗灰色土
1600		常滑　小壷	／	／	／	白色細石を多く混じえる暗灰色土
1601		常滑　こね鉢	28	／	／	白色小～細石を混じえる茶橙色土　磨滅痕なし
1602		常滑　こね鉢	／	13.5	／	混入物をほとんど混じえない肌色土　磨滅痕なし
1603		常滑　甕or壷	／	12.6	／	混入物をほとんど混じえない黒灰色土
1604		山茶碗窯こね鉢	27.1	／	／	暗灰色緻密土　体部内面中位から下方にかけて軽い磨滅痕が残る
1605		山茶碗窯こね鉢	／	13.1	／	暗灰色弱粘質土　内面は著しい磨滅痕残る
1607		山茶碗窯こね鉢	23.6	／	／	粘性に欠く灰色土　体部内面中位から下方は軽い磨滅痕＋黒ずみが残る
1608		青白磁　梅瓶蓋	6	5.2	／	灰白色緻密土　釉は淡青緑色を呈す　露胎部は鉄発色
1609		青白磁　瓶子	／	9.4	／	黒色砂を多く混じえる灰白色弱粘質土　釉は水青色を呈しやや白濁する
1610		白磁　口兀皿	13.4	／	／	灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す
1611		白磁　皿	／	5	／	灰白色弱粘質土　釉は淡緑味乳白色を呈す

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1612	1a面下	白磁　口兀皿	9.2	5.8	2.8	灰白色弱粘質土　釉は淡緑味乳白色を呈す
1613		白磁　皿	／	4.4	／	明灰白色弱粘質緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　キズなし
1614		白磁　皿	／	5.4	／	明灰白色緻密土　釉は淡緑味乳白色を呈す　内底部に軽いキズ残る
1615		青磁　碗	／	3.8	／	灰白色粘質緻密土　釉は淡灰味緑青色を呈す
1616		青磁　折腰小鉢	／	6.2	／	明灰白色弱粘質土　釉は灰味淡青緑色を呈し貫入が入る
1617		青磁六角合子（蓋）	6.8	／	／	灰白色粘質緻密土　釉は深草緑色を呈し厚めに施釉される
		同　（身）		6.4	／	同上
1618		舶載陶器合子蓋	／	／	／	淡橙白色粉質緻密土　釉は黄味茶褐色を呈す
1619		砥石	／	／	／	滑石転用　数条の深い切り痕残る
1620		滑石鍋	／	／	／	鍔部下から下方は煤付着
1621		刀子	／	／	／	
1622		銭	／	／	／	「治平元寶」　北宋時代
1623		銭	／	／	／	「至道元寶」　北宋時代
1624		銭	／	／	／	「熙寧元寶」北宋時代
1625		銭	／	／	／	「開□通□」　「開元通寶」と思われる　唐時代
1626		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1627		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1628		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1629		砥石	／	／	／	泥岩
1630		砥石	／	／	／	泥岩
1631		砥石	／	／	／	泥岩
1632		砥石	／	／	／	泥岩
1633		擦り常滑	／	／	／	
1634		軽石	／	／	／	磨滅痕あり
1635		硯	／	／	／	黒色粘板岩
1636		硯	／	／	／	黒色粘板岩　「海」に墨痕残る
1637		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
1638		硯石	／	／	／	粘板岩　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1639		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1640		硯石	／	／	／	粘板岩　擦り切り　ノミ痕
1641		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り　原材切り出し痕
1642		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り　原材切り出し痕
1643		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
1644		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り
1645		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
	上層包含層	かわらけ				1646～1652、1655は別表参照
1653		瓦質火鉢	／	／	／	雲母片多く混じえる暗灰色土
1654		土器質七輪	／	／	／	白色泥粒を多く混じえる粉質土　器表は淡橙色、胎心は鈍黄色を呈す
1656		土錘	／	／	／	
1657		かわらけ質碁石	／	／	／	黒玉
1658		かわらけ質碁石	／	／	／	白玉
1659		伊勢系土鍋	／	／	／	石粒を多く混じえる土　器表は肌色　胎心は黒灰色を呈す
1660		南部系入子	／	4.9	／	灰白色弱粘質緻密土　糸切り後無調整　内底部磨滅痕残る
1661		南部系入子	／	5.2	／	灰白色弱粘質緻密土　糸切り後無調整　磨滅痕なし
1662		北部系輪花入子	5.1	2.8	1.7	灰色粘質緻密土　糸切り後無調整　内外底は一部漆痕が微量残る
1663		瀬戸　天目茶碗	／	4.2	／	粘性に欠く暗黄灰色土　釉は暗茶褐色を呈す
1664		瀬戸　灰釉瓶子	／	4.6	／	粘性に欠く淡橙～黄味灰色土　釉は黄味淡灰緑色を呈す
1665		瀬戸　灰釉花瓶	／	6.1	／	淡橙味灰色粉質緻密土　釉は灰緑色を呈す
1666		瀬戸　灰釉碗	／	6.8	／	暗黄味灰白色土　釉は淡灰緑色を呈す　内底部にはヘラ描きによる菊花文あり
1667		擂り瀬戸	／	／	／	瓶子破損後に転用されたものと思われる
1668		常滑　擂り鉢	／	／	／	赤褐色砂質土
1669		備前　擂り鉢	／	／	／	淡灰色弱粘質緻密土　焼成良　内壁5条の条線が入る　軽い磨滅痕あり
1670		備前　擂り鉢	／	／	／	淡赤褐色弱粘質緻密土　内壁は5条の条線が入り著しい磨滅痕残る
1671		瀬戸　鉄釉擂り鉢	／	11.6	／	灰味淡黄色粉質緻密土　内壁・内底部は9条の条線が入る　著しい磨滅痕あり
1672		備前　擂り鉢	／	15.7	／	淡紫味茶色弱粘質緻密土　内壁は8条の条線が入る　磨滅痕なし
1673		軒丸瓦	／	／	／	細砂・白色粒を混じえる灰色土　やや小ぶり
1674		軒平瓦	／	／	／	下向き剣頭文　細砂・白色粒を混じえる灰色土
1675		青磁　劃花文碗	／	／	／	明朝　暗灰色緻密土　釉は灰味淡青緑色を呈す　内底部には風風？が描かれる
1676		青磁　劃花文碗	／	6.2	／	明灰色粘質緻密土　釉は草緑色を呈す　内底部には蓮華文？が描かれる
1677		青磁　蓮弁文碗	16.6	／	／	白色緻密土　釉は淡緑青色を呈し厚く施釉される　内面にわずかにキズあり
1678		青磁　劃花文碗	14.6	／	／	暗灰色緻密土　釉は灰緑色を呈し貫入が入る
1679		青磁　碗	／	5.8	／	暗灰色弱粘質土　釉は黄味淡緑灰色を呈し細貫入が入る
1680		青白磁　小壺	／	／	／	白色弱粘質緻密土　釉は淡青白色を呈す　割れ口に一部漆痕残る
1681		白磁　型作り小皿	6.3	2.2	1.1	白色緻密土　釉は淡水色透明釉　内面は梅花文がつく

遺物観察表

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1682		白磁口元印花文碗	13.2	／	／	白色弱粘質土　釉は透明　内面には印花雷文がつく
1683		擦りこね鉢	／	／	／	
1684		擦り常滑	／	／	／	
1685		擦り常滑	／	／	／	
1686		擦り常滑	／	／	／	
1687		擦り常滑	／	／	／	
1688		擦り常滑	／	／	／	
1689		擦り常滑	／	／	／	
1690		擦り常滑	／	／	／	
1691		砥石	／	／	／	泥岩
1692		砥石	／	／	／	凝灰岩
1693		擦り常滑	／	／	／	
1694		硯石	／	／	／	粘板岩　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1695		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　タガネ痕　原材切り出し痕
1696		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
1697		硯石	／	／	／	粘板岩　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1698		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1699		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り
1700		硯石	／	／	／	赤間石　ノミ痕　切り取り後擦り石として使用
1701		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り
1702		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り
1703		硯石	／	／	／	粘板岩　擦り切り　折り取り
1704		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1705		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り　タガネ痕　切り取り後擦り石として使用
1706		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　切り取り後擦り石として使用
1707		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り
1708		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り　タガネ痕
1709		硯石	／	／	／	赤間石　擦り切り　折り取り　切り取り後擦り石として使用
1710		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1711		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ肋骨
1712		加工骨残片	／	／	／	ウシ中手骨
1713		加工骨残片	／	／	／	ウシorウマ四肢骨
1714		笄	／	／	／	裏面削り直し途中　再加工途中品
1715		鎹	／	／	／	
1716		銭	／	／	／	「元祐通寶」北宋時代
1717		銭	／	／	／	「紹聖元寶」北宋時代
1718		銭	／	／	／	「聖宋元寶」北宋時代
1719		銭	／	／	／	「□平元□」
1720		水晶数珠玉	／	／	／	未製品　穿孔途中に破損したものと思われる

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
46	井戸4	7.80	7.55	5.60	1.70	1.20	／	1.39	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
47		7.40	7.10	5.35	1.60	1.10	／	1.38	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
48		8.00	7.60	5.85	1.85	1.35	／	1.37	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
49		7.80	7.40	5.60	1.70	1.20	／	1.39	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
50		9.80	9.30	6.70	2.00	1.25	／	1.46	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
51		10.20	9.80	8.40	2.15	1.60	／	1.21	糸切り	橙色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
52		9.60	9.10	8.55	／	1.40	1.20	／	丸	淡赤褐色	砂　雲母　やや粉っぽい	
53		10.60	10.25	9.40	／	2.15	1.60	／	丸	淡茶色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
54		12.75	12.40	8.40	3.00	2.20	／	1.52	糸切り	赤褐色	白粒　砂　白針　雲母　砂っぽい	
55		14.00	13.70	9.20	3.25	2.30	／	1.52	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
56		13.00	12.60	7.20	3.40	2.70	／	1.81	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	煤付着
57		14.20	13.95	9.50	3.10	2.30	／	1.49	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	
58		12.00	11.60	6.55	3.15	2.30	／	1.83	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	煤付着　搬入品か？
65	井戸3	9.20	8.80	7.80	1.85	1.40	／	1.18	糸切り	橙色	雲母　白針　砂　白粒　砂っぽい	
66		10.60	10.10	8.20	1.75	0.75	／	1.29	糸切り	淡茶褐色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
67		9.80	9.30	8.25	2.00	1.25	／	1.19	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　やや粉っぽい	
68		9.40	8.95	7.60	1.90	1.30	／	1.24	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
69		9.70	9.35	6.40	1.50	1.30	／	1.52	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	ゆがみ著しい
70		10.00	9.65	7.70	1.60	1.25	／	1.30	糸切り	淡橙色	白針　雲母　砂　やや粉っぽい	
71		9.60	9.35	6.90	1.95	1.35	／	1.39	糸切り	淡茶色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
72		9.70	9.30	6.90	1.70	0.65	／	1.41	糸切り	橙色	白粒　白針　砂　雲母　砂っぽい	ゆがみ著しい
73		9.40	8.95	7.35	2.35	1.40	／	1.28	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
74		9.40	9.25	7.20	1.90	1.20	／	1.31	糸切り	淡茶色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
75		10.00	9.60	7.25	2.10	1.20	／	1.38	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	煤付着
76		9.40	8.95	8.00	1.80	1.05	1.30	／	平	淡茶色	白粒　雲母　砂　白針　砂っぽい	煤付着　指頭痕不明瞭
77		9.4	8.95	7.55	1.7	0.9	1.4	／	平	淡茶色	砂　雲母　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
78		9.40	8.90	8.10	1.75	0.90	1.55	／	平	淡赤褐色	白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
79		9.40	9.20	7.20	1.80	1.00	1.60	／	平	淡茶色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
80		9.80	9.50	8.15	2.15	1.40	1.45	／	丸	淡橙色	白粒　白針　砂　雲母　粉っぽい	
81		10.00	9.45	8.90	1.85	0.90	1.30	／	平	橙色	雲母　砂　白粒　白針　砂っぽい	指頭痕不明瞭
82		10.60	10.10	9.50	2.15	1.40	4.35	／	丸み	淡茶色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
83		10.00	9.55	8.20	2.40	1.90	1.80	／	丸み	淡茶色	雲母　白粒　白針　粉っぽい	
84		9.40	9.10	8.40	2.30	1.85	1.15	／	丸	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや粉っぽい	
85		9.60	9.25	8.50	1.80	1.10	1.40	／	平	橙色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
86		10.40	9.95	8.55	2.00	1.25	1.70	／	平	橙色	雲母　白針　白粒　粉っぽい	指頭痕不明瞭
87		9.00	8.60	8.00	1.40	0.95	1.25	／	平	淡橙色	白粒　雲母　白針　砂　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
88		9.00	8.65	7.20	1.70	1.20	1.65	／	平	淡茶色	白粒　白針　砂　砂っぽい	指頭痕不明瞭　煤付着
89		14.00	13.45	9.40	3.80	3.25	／	1.49	糸切り	赤褐色	雲母　白針　砂　白粒　やや砂っぽい	
90		14.40	14.10	9.20	3.00	2.30	／	1.57	糸切り	淡茶褐色	雲母　白粒　やや粉っぽい	
91		14.00	13.50	10.30	3.30	2.15	／	1.36	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
92		13.80	13.35	7.30	3.35	2.50	／	1.89	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
93		13.40	12.90	12.00	3.55	2.50	2.30	／	丸み	淡橙色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	回しナデなし
94		13.80	13.20	12.20	3.25	2.05	2.15	／	丸み	淡茶色	砂　白粒　雲母　白針　粉っぽい	回しナデなし
95		13.60	13.20	11.15	3.50	2.00	2.30	／	丸	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	指頭痕＋スノコ痕
96		14.00	13.50	11.95	3.60	2.30	2.10	／	丸	淡赤褐色	白針　砂　雲母　白粒　粉っぽい	
97		14.00	13.40	12.40	3.45	2.70	2.20	／	丸	橙色	白針　雲母　白粒　粉っぽい	
98		12.00	13.25	12.80	4.00	3.30	2.05	／	丸	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
99		14.20	13.45	13.00	3.80	3.10	1.65	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
100		14.60	14.15	12.90	3.30	2.40	2.25	／	丸み	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	回しナデなし
101		／	／	／	／	／	／	／	／	淡橙色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	穿孔
102		14.60	14.25	12.65	3.65	2.80	2.40	／	丸	赤褐色	砂　白粒　雲母	穿孔
107	土壙28	4.40	4.35	3.80	0.90	0.60	／	1.16	糸切り	淡茶色	雲母　砂　やや粉っぽい	特殊（極小内折れ）
108		6.20	4.90	4.15	1.95	1.80	／	1.49	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針	特殊かわらけ（極小）
109		9.20	8.85	7.50	／	／	1.20	／	平	淡橙色	白針　砂　雲母　やや粉っぽい	
110		9.60	9.25	8.00	1.65	1.10	1.35	／	平	淡橙色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
111		10.05	9.60	8.45	1.70	0.90	1.20	／	丸	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	ヘソ皿
112		14.50	13.95	12.80	／	／	1.70	／	平	淡橙色	白針　砂　白粒　やや砂っぽい	
121	土壙218	8.40	8.05	5.45	2.15	1.40	／	1.54	糸切り	淡茶色	雲母　白針　白粒	
122		9.00	8.60	7.60	1.75	1.00	／	／	平	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
123		12.60	12.25	6.65	3.40	2.75	／	1.89	糸切り	淡茶色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	煤付着
124		11.60	11.30	6.40	3.05	2.50	／	1.81	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	
125		12.60	12.40	6.60	3.20	2.85	／	1.91	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　やや砂っぽい	外底部小粘土塊付着
126		12.20	11.85	6.65	3.30	2.30	／	1.83	糸切り	淡橙色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
127		13.00	12.70	9.00	3.60	2.85	／	1.44	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
128	土壙218	12.15	11.65	10.50	／	／	1.80	／	丸	淡赤褐色	砂　白針　白粒　やや砂っぽい	
133	土壙18	8.30	7.80	6.30	1.70	1.15	／	1.32	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
134		9.40	8.90	7.00	1.80	1.30	／	1.34	糸切り	レンガ色	白粒　白針　砂　やや砂っぽい	口唇部一部平ら
135		9.40	9.00	7.20	2.00	1.35	／	1.31	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
136		8.25	7.80	5.90	2.00	1.35	／	1.40	糸切り	レンガ色	白粒　砂　白針　雲母　砂っぽい	
137		8.60	8.10	6.60	1.60	1.00	／	1.30	糸切り	淡橙色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
138		8.70	8.30	6.20	1.55	0.90	／	1.40	糸切り	淡橙色	砂　白粒　やや粉っぽい	たてナデあり
139		8.40	8.10	5.50	1.80	1.10	／	1.53	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
140		9.10	8.70	5.80	2.20	1.30	／	1.57	糸切り	赤褐色	白粒　砂　白針　雲母　砂っぽい	筋状スノコ痕
141		9.00	8.50	7.00	1.80	1.20	／	1.29	糸切り	レンガ色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	
142		8.00	7.60	6.60	1.10	0.40	1.10	／	平	橙色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
143		9.00	8.60	8.30	1.05	0.50	0.90	／	平	淡橙色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
144		9.00	8.55	8.05	1.15	0.55	1.15	／	平	淡赤褐色	砂　白粒　白針　砂っぽい	指頭痕不明瞭
145		9.00	8.60	8.00	1.35	0.65	1.10	／	平	淡茶色	砂　白粒　白針　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
146		9.20	8.75	8.05	1.30	0.60	1.10	／	平	淡赤褐色	白粒　砂　白針　焼成良好	指頭痕不明瞭
147		9.50	9.20	8.50	1.50	1.00	1.40	／	平	淡赤茶色	砂　白粒　白針　砂っぽい　焼良	指頭痕不明瞭
148		9.80	9.40	8.20	1.50	0.70	1.30	／	平	淡茶色	白粒　砂　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
149		9.50	9.10	8.50	1.30	0.70	0.85	／	平	淡赤茶色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	指頭痕不明瞭
150		9.00	8.70	7.50	2.20	1.80	1.40	／	丸	レンガ色	砂　白針　白粒　焼成良好	
151		9.10	8.70	7.40	2.30	1.90	1.70	／	丸	淡茶色	砂　白粒　雲母　粉っぽい	
152		9.50	9.10	7.05	2.35	2.00	1.60	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白粒　粉っぽい	
153		9.60	9.60	7.80	2.35	1.85	1.80	／	丸	赤褐色	砂　雲母　白粒　焼成良好	
154		9.40	8.80	7.90	1.70	1.25	1.15	／	丸	淡茶色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
155		10.20	9.55	7.80	1.80	1.30	1.45	／	丸	淡橙色	砂　白粒　やや砂っぽい	
156		10.00	9.40	8.00	2.15	1.40	1.70	／	丸	褐色	砂　白粒　雲母　粉っぽい	
157		15.25	14.80	13.30	3.90	3.10	2.20	／	丸	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	ヘラ回し痕
158		14.00	13.40	11.60	3.10	2.20	2.00	／	丸	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
159		14.60	14.20	12.60	2.90	2.30	2.00	／	丸	淡赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
160		14.40	13.80	13.50	3.60	2.80	1.30	／	丸	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　とても粉っぽい	
161		13.20	12.60	11.15	3.50	2.80	1.90	／	丸	淡赤褐色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
162	土壙18　炭層	8.70	8.20	7.60	1.30	0.65	1.15	／	平	赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
163		9.40	8.90	8.10	1.60	0.60	1.10	／	平	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
164		9.40	8.80	8.00	1.75	1.25	1.50	／	平	赤褐色	砂　白粒　雲母　とても粉っぽい	
165		／	／	／	／	／	／	／	／			墨書
166		14.00	13.40	12.20	3.15	2.35	2.00	／	丸	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
168	溝213	9.60	9.20	8.20	1.70	0.75	／	1.17	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
169		9.60	9.15	6.80	1.60	0.80	／	1.41	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　砂っぽい	
170		9.00	8.60	6.60	1.80	1.10	／	1.36	糸切り	淡赤褐色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
171		9.00	8.60	6.10	1.80	1.15	／	1.48	糸切り	橙色	雲母　砂　白粒　白針　砂っぽい	
172		8.80	8.45	6.40	2.45	2.00	／	1.38	糸切り	淡橙色	雲母　白粒　白針　砂　やや粉っぽい	
173		9.20	8.65	8.10	2.00	1.55	1.15	／	丸	淡橙色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
175		15.75	15.40	12.00	3.05	2.20	／	1.31	糸切り	淡茶色	砂　白針　雲母　白粒　砂っぽい	
176		12.75	12.30	8.65	／	／	2.90	／	丸	淡赤茶色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	煤付着　指頭痕不明瞭
177		13.60	13.10	11.80	3.50	2.50	2.40	／	丸	淡茶褐色	雲母　砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
178		15.70	15.40	11.80	／	／	2.70	／	平？	淡茶色	雲母　砂　白針　とても粉っぽい	煤付着　指頭痕不明瞭
188	溝23	13.10	12.70	11.70	3.05	2.55	1.70	／	丸	淡茶色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
197	溝211	7.80	7.35	5.45	1.75	1.00	／	1.43	糸切り	橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
198	溝215	9.20	8.70	6.80	2.05	1.45	／	1.35	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　白粒　砂っぽい	
199		9.40	9.05	7.40	2.05	1.40	／	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	煤付着　ヘソ皿っぽい
200		13.00	12.50	8.00	3.00	2.00	／	1.63	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
201		12.70	12.50	11.00	／	／	1.50	／	丸	淡茶色	白粒　やや粉っぽい	口唇部一部削る
202		13.6	13.3	11.75	3.35	2.8	1.75	／	丸	淡赤褐色	雲母　白針　砂　白粒	
206	土壙27	8.00	7.65	6.00	1.40	0.90	／	1.33	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
207		8.55	8.25	6.60	1.85	1.20	／	1.30	糸切り	淡茶褐色	雲母　砂　白粒　白針　やや砂っぽい	
208		8.80	8.40	8.00	1.85	1.00	1.30	／	平？	橙色	白針　雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
209		9.60	9.05	8.15	1.60	0.90	1.35	／	平	淡橙色	白針　雲母　白粒　砂　粉っぽい	指頭痕不明瞭
210		9.80	9.50	7.85	2.30	1.40	1.70	／	丸	淡赤褐色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	煤付着
227	土壙210	9.30	8.95	7.80	1.80	1.20	1.45	／	平	淡茶色	砂　雲母　白粒　白針　やや砂っぽい	
228		12.60	12.10	10.95	3.35	2.50	2.50	／	丸？	淡茶色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
229		14.00	13.60	7.50	3.40	2.90	／	1.87	糸切り	淡橙色	砂　雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	
235	土壙216	8.90	8.65	6.80	1.65	0.90	／	1.31	糸切り	暗橙色	砂　白粒　白針　やや砂っぽい	
236		8.90	8.45	7.20	1.75	1.20	／	1.24	糸切り	淡茶色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
237		8.60	8.15	5.65	1.75	0.90	／	1.52	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　砂っぽい	
238		13.60	9.00	8.25	1.65	1.25	1.55	／	丸	淡茶色	雲母　砂　やや粉っぽい	煤付着　ヘソ皿

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
239	土壙216	10.00	9.50	8.50	／	／	1.20	／	丸？	淡茶色	白針　砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
240		10.50	10.10	5.70	3.00	2.00	／	1.84	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　砂っぽい	
241		13.10	12.75	7.15	3.10	2.20	／	1.83	糸切り	淡赤茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
242		12.80	12.30	6.75	3.05	2.15	／	1.90	糸切り	淡橙色	白針　砂　白粒　雲母　砂っぽい	
243		13.00	12.50	7.40	3.40	2.70	／	1.76	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
247	ピット85	10.40	9.90	8.70	1.80	0.70	1.45	／	平み	橙色	白針　雲母　白粒　砂　やや粉っぽい	
248		13.20	12.80	11.90	3.50	2.80	1.75	／	丸	淡橙色	白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
250	ピット87	8.80	8.30	6.10	2.05	1.25	／	1.44	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
251	ピット89	10.00	9.60	6.95	2.00	1.20	／	1.44	糸切り	橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
252	ピット95	13.60	13.10	12.35	3.70	2.60	2.10	／	平み	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
253		14.40	13.95	13.30	3.75	3.10	2.40	／	平み	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
254		14.40	13.90	12.80	2.90	2.10	2.10	／	平み	橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
257	2面上　I区	8.60	8.30	6.70	1.55	1.10	／	1.28	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
258		8.65	8.40	6.20	1.70	0.90	／	1.40	糸切り	淡茶色	砂　白針　砂っぽい　焼成良好	糸切り後調整
259		7.80	7.40	4.60	1.70	1.10	／	1.70	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	煤付着
260		8.00	7.50	5.65	1.95	1.10	／	1.42	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
261		9.40	9.15	7.00	1.90	1.20	／	1.34	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
262		12.00	11.50	8.60	3.25	2.70	／	1.40	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	
263		12.55	12.20	8.45	3.25	2.15	／	1.49	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	
264		12.40	12.10	7.65	3.50	2.75	／	1.62	糸切り	赤褐色	白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
265		12.00	11.60	6.50	2.95	2.20	／	1.85	糸切り	淡茶色	雲母　白針　砂　白粒　やや砂っぽい	
269	溝214	9.15	8.75	6.00	2.15	1.50	／	1.53	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　白粒　やや砂っぽい	
270		9.90	9.65	5.20	3.10	2.30	／	1.90	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針　砂っぽい	煤付着
271		12.40	12.00	8.65	2.90	2.20	／	1.43	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　白針　やや砂っぽい	
272		13.40	12.90	8.30	3.10	2.10	／	1.61	糸切り	淡茶色	白粒　白針　やや粉っぽい	
273		14.20	13.80	9.25	3.20	2.30	／	1.54	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　砂っぽい	
274		13.80	13.45	／	／	／	／	／	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
275		13.20	12.85	10.40	／	／	2.70	／	丸	淡茶色	白針　白粒　雲母　粉っぽい	指頭痕不明瞭
276		12.40	11.85	10.00	／	／	2.00	／	丸	淡茶色	白針　雲母　砂　やや砂っぽい	煤付着
277		13.70	13.25	11.80	／	／	2.70	／	丸	淡茶色	白針　白粒　粉っぽい	
279		13.60	13.30	10.05	／	／	2.40	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白針　砂っぽい	ヘラ描き連弁文
333	土壙8	7.40	7.10	5.40	1.95	1.20	／	1.37	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	
334		7.40	7.20	4.70	2.25	1.70	／	1.57	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	煤付着
335		9.00	8.70	7.90	1.55	0.90	1.30	／	平	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
336		12.60	12.10	10.70	／	／	1.70	／	丸？	淡茶色	雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
337		14.80	14.30	13.05	／	／	1.90	／	丸？	淡橙色	雲母　白針　砂	
338		11.00	10.70	／	／	／	／	／	／	橙色	雲母　砂	器壁に穿孔
341	2面上　III区	8.35	7.75	7.30	1.70	0.80	1.55	／	平	橙色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
342		9.60	9.20	8.15	2.00	1.20	1.30	／	丸み	橙色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
343		10.00	9.70	9.10	2.00	1.15	1.30	／	平	淡茶色	砂　雲母　白針　粉っぽい	指頭痕不明瞭
344		9.40	8.95	8.20	2.00	1.40	1.50	／	平	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒	
345		10.00	9.50	8.10	1.65	1.10	1.25	／	平	橙色	雲母　砂　白粒	指頭痕不明瞭
353	井戸2	9.20	8.90	6.80	2.15	1.45	／	1.35	糸切り	橙色	白針　砂　雲母　白粒　やや砂っぽい	煤付着
354		8.40	7.95	7.45	1.90	1.30	1.25	／	丸み	淡茶褐色	雲母　白針　砂　やや粉っぽい	
357	ピット66	8.80	8.60	7.40	1.55	1.00	1.30	／	平	淡赤褐色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
358	ピット178	8.00	7.60	5.50	1.85	1.10	／	1.45	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針　粉っぽい	
359		12.40	12.10	6.90	3.40	2.55	／	1.80	糸切り	橙色	白粒　砂　白針　雲母　砂っぽい	
360		12.95	12.70	7.40	3.45	3.00	／	1.75	糸切り	橙色	白粒　砂　雲母　白針　やや砂っぽい	
361		12.40	12.20	6.35	3.60	3.15	／	1.95	糸切り	淡橙色	砂　雲母　白針　白粒	
362		12.40	12.05	7.90	3.40	2.70	／	1.57	糸切り	橙色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	
363		13.00	12.75	6.90	3.45	2.85	／	1.88	糸切り	橙色	砂　白粒　雲母　白針　やや砂っぽい	
364		12.60	12.25	7.20	3.40	2.60	／	1.75	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　粉っぽい	
365		12.60	12.15	7.40	3.35	2.60	／	1.70	糸切り	橙色	白粒　砂　白針　雲母　砂っぽい	
366		12.60	12.40	7.35	3.75	2.95	／	1.71	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
367		13.00	12.65	7.40	3.40	2.65	／	1.76	糸切り	淡赤褐色	砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
378	ピット84	8.00	7.60	5.70	2.35	1.75	／	1.40	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
379	2面上　IV区	9.20	9.00	7.45	1.70	0.80	／	1.23	糸切り	淡茶色	白針　砂　白粒　焼成良好	
380		9.40	8.90	7.90	1.45	0.80	1.25	／	平	橙色	雲母　白粒　白針　砂　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
386	2面　IV区	9.00	8.55	7.50	1.40	0.90	／	1.20	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　砂っぽい	
387		9.20	8.85	6.70	1.85	1.35	／	1.37	糸切り	橙色	雲母　白針　砂　砂っぽい	
388		9.80	9.50	7.80	1.80	1.20	／	1.26	糸切り	橙色	雲母　砂　白粒	
389		9.80	9.50	8.50	1.65	1.10	／	1.15	糸切り	レンガ色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
390		10.00	9.55	8.00	2.65	2.15	1.85	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
391		11.40	11.00	10.10	1.85	1.25	1.20	／	平み	赤褐色	雲母　白針　砂	指頭痕不明瞭

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
392	2面　IV区	13.00	12.70	7.45	3.50	2.65	／	1.74	糸切り	淡茶色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	煤付着　墨書？
393		13.60	13.20	12.40	3.90	3.00	1.85	／	丸	淡橙色	雲母　白粒　白針　砂　粉っぽい	
394		12.40	14.00	13.00	4.05	3.00	2.65	／	丸	淡茶褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	穿孔
426	溝28.29	8.05	7.70	5.55	1.60	1.10	／	1.45	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
427		8.15	7.80	5.00	2.00	1.30	／	1.63	糸切り	淡茶色	白針　白粒　粉っぽい	
428		10.00	9.80	5.40	2.85	2.30	／	1.85	糸切り	淡赤茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
429		10.55	10.30	6.00	3.50	2.90	／	1.76	糸切り	淡茶色	砂　白針　砂っぽい	
430		12.15	11.90	6.00	3.50	3.10	／	2.03	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　砂っぽい	
431		12.45	12.00	7.90	3.30	2.60	／	1.58	糸切り	淡赤茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
441	溝31	5.10	4.65	0.85	0.85	0.50	／	6.00	糸切り	橙色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	特殊（極小内折れ）
442		7.35	7.00	5.20	1.60	0.95	／	1.41	糸切り	橙色	白針　砂　白粒　雲母　やや砂っぽい	
443		8.20	7.75	5.00	1.75	1.25	／	1.64	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	
444		9.20	8.70	7.30	1.80	1.10	／	1.26	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　やや砂っぽい	
445		7.60	7.40	4.40	1.75	1.00	／	1.73	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　やや粉っぽい	
446		7.65	7.30	5.20	1.90	1.25	／	1.47	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母　白針　やや砂っぽい	
447		13.10	12.80	7.30	3.30	2.70	／	1.79	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
448		13.00	12.65	8.20	3.20	2.65	／	1.59	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや粉っぽい	
449		11.80	11.50	6.00	3.20	2.90	／	1.97	糸切り	淡赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　やや粉っぽい	
449		13.30	12.90	7.40	3.45	2.90	／	1.80	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　粉っぽい	
450		13.40	12.75	9.60	3.50	2.60	／	1.40	糸切り	暗淡橙色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
451		13.00	12.65	7.40	3.65	2.80	／	1.76	糸切り	赤褐色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	煤付着
463	ピット114	8.60	8.10	6.50	1.50	0.80	／	1.32	糸切り	赤褐色	白粒　雲母　砂　砂っぽい	
466	1b面上　I区	7.00	6.80	4.50	1.80	1.35	／	1.56	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	煤付着
467		8.30	8.00	5.60	1.75	1.30	／	1.48	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	
468		12.00	11.75	7.70	3.35	2.50	／	1.56	糸切り	赤褐色	白針　砂　白粒	
470	溝16	8.00	7.80	4.75	1.70	1.25	／	1.68	糸切り	淡橙色	雲母　白針　白粒　砂	
471		12.60	12.20	7.30	3.10	2.60	／	1.73	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
472		12.20	11.80	7.90	3.50	2.95	／	1.54	糸切り	淡赤褐色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
473		11.80	11.50	10.00	2.05	1.55	1.45	／	丸み	淡茶色	雲母　砂　白針	
478	溝17	8.20	7.90	5.65	1.60	1.10	／	1.45	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	外底部に粘土小塊付着
479		8.60	8.25	5.80	1.85	1.10	／	1.48	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　雲母　やや粉っぽい	
480		9.00	8.65	5.50	2.05	1.30	／	1.64	糸切り	淡茶褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	外底部に粘土小塊付着
481		11.40	11.00	6.80	2.75	2.30	／	1.68	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白粒	
482		12.00	11.70	7.25	3.10	2.50	／	1.66	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	
483		12.00	11.55	6.70	3.15	2.70	／	1.79	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	外底部に粘土小塊付着
484		13.00	12.60	7.60	3.40	2.75	／	1.71	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	外底部に粘土小塊付着
485		12.00	11.70	7.40	3.00	2.45	／	1.62	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	
486		12.15	11.80	7.30	3.30	2.55	／	1.66	糸切り	淡茶褐色	砂　雲母　白粒　白針　粉っぽい	
487		13.00	12.70	8.20	3.35	2.80	／	1.59	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂	
488		12.00	11.60	7.50	3.00	2.40	／	1.60	糸切り	橙色	白針　砂　雲母　白粒　やや砂っぽい	
503	1b面　道路	8.40	8.10	6.10	1.70	1.10	／	1.38	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	
504		8.10	7.75	5.85	1.90	1.20	／	1.38	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　砂　白針　やや砂っぽい	煤付着　内面剥離
505		8.40	8.00	7.55	／	／	1.20	／	平	淡茶色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
506		8.40	8.10	7.40	1.55	0.90	1.20	／	平	淡橙色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
507		9.40	9.10	7.65	1.30	0.40	1.20	／	平	淡赤褐色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
508		9.70	9.40	7.20	／	／	1.70	／	丸	淡茶色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
509		13.00	12.40	12.10	／	／	1.70	／	丸	橙色	砂　雲母　白粒	
510		13.20	12.80	12.70	3.65	2.90	1.70	／	丸	淡橙色	雲母　砂　白粒　粉っぽい	
511		14.00	13.50	12.80	3.75	3.10	2.20	／	丸	淡茶色	雲母　白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
523	溝216	13.60	13.00	8.40	3.30	2.50	／	1.62	糸切り	橙色	白粒　白針　砂　雲母　やや粉っぽい	
533	方竪201	7.40	7.10	4.40	1.80	1.45	／	1.68	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
534		7.40	7.10	4.20	1.90	1.45	／	1.76	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
535		7.80	7.40	4.50	2.35	1.90	／	1.73	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
536		9.00	8.65	7.40	1.70	0.75	1.50	／	平	淡茶褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
537		9.20	8.85	8.10	1.70	0.95	1.40	／	平	淡茶褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
538		9.60	9.20	7.85	1.80	1.10	1.20	／	平	淡赤褐色	砂　白粒　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
539		9.40	9.00	9.00	1.90	1.15	1.25	／	平	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　粉っぽい	
540		10.00	9.55	8.10	2.50	2.00	1.45	／	丸	淡茶色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
541		14.00	13.70	7.95	3.95	3.30	／	1.76	糸切り	淡茶色	針　雲母　砂　粒　やや粉っぽい	煤付着
542		12.00	11.70	7.50	3.40	1.05	／	1.60	糸切り	赤褐色	白針　砂　雲母	粘土柱再生品
667	溝204	12.25	12.15	7.40	3.05	2.40	／	1.66	糸切り	赤褐色	白針　雲母　白粒　砂	
676	土壙203	6.80	6.60	4.40	2.10	1.40	／	1.55	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	外底部小粘土塊付着
677		8.00	7.80	5.50	1.95	1.45	／	1.45	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
678		8.35	8.05	6.50	1.60	1.15	／	1.28	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒	

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
679	土壙203	12.15	11.70	7.65	3.30	2.65	／	1.59	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
680		13.00	12.70	7.80	3.30	2.50	／	1.67	糸切り	赤褐色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
681		13.00	12.60	7.70	3.80	3.00	／	1.69	糸切り	赤褐色	白針　雲母　白粒　砂	内底部見込に墨書
703	土壙205	7.80	7.50	5.20	1.75	1.40	／	1.50	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
704		9.40	8.90	8.00	2.00	1.30	1.30	／	丸	橙色	雲母　白針　白粒　砂　砂っぽい	
705		12.20	11.85	6.35	3.25	2.95	／	1.92	糸切り	赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
708	土壙206	7.20	6.90	4.55	1.80	1.20	／	1.58	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
709		7.20	6.90	3.85	1.55	0.95	／	1.87	糸切り	橙色	白針　砂　白粒　雲母	
710		7.40	7.05	5.50	1.60	1.15	／	1.35	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
713	土壙207	10.20	9.90	9.20	1.35	0.85	1.20	／	平	淡茶色	雲母　砂　白粒　白針　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
714		9.55	9.20	8.30	1.60	0.90	1.45	／	平	淡茶灰色	砂　雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
715		9.70	9.40	8.00	1.80	1.30	1.50	／	平	淡茶色	白粒　白針　雲母　粉っぽい	指頭痕不明瞭
716		9.40	9.00	7.85	1.80	1.00	1.50	／	平	淡茶色	雲母　白粒　白針　砂っぽい	
717		9.45	9.20	8.10	1.75	1.10	1.50	／	平	淡茶色	雲母　白粒　白針　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
718		／	／	5.95	／	／	／	／	糸切り	赤褐色	白針　砂　砂っぽい	撫りかわらけ
719		12.70	12.40	7.60	3.30	2.90	／	1.67	糸切り	淡赤茶色	砂　白粒　白針　砂っぽい	
728	土壙217	8.15	7.70	5.05	1.95	1.05	／	1.61	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	
729		8.60	8.15	5.40	1.95	1.20	／	1.59	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　白粒　砂	
730		8.60	8.20	6.20	1.95	1.35	／	1.39	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針	煤付着
731		8.60	8.20	6.20	1.70	1.10	／	1.39	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	
732		9.40	9.20	7.80	／	／	1.50	／	平	淡茶色	雲母　白粒　白針　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
733		10.80	10.30	9.80	／	／	1.80	／	平	淡茶色	雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
734		13.00	12.75	7.80	3.00	2.55	／	1.67	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　砂っぽい	
735		10.80	10.60	5.80	3.00	2.60	／	1.86	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針	煤付着
736		11.00	10.70	6.20	3.10	2.60	／	1.77	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
737		12.30	11.95	6.05	3.40	2.60	／	2.03	糸切り	赤褐色	砂　白針　白粒　砂っぽい	
738		13.10	12.80	7.55	3.75	3.50	／	1.74	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	煤付着
739		12.30	11.90	6.90	3.25	2.70	／	1.78	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　やや粉っぽい	煤付着
740		12.00	11.60	7.20	3.30	2.80	／	1.67	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	外底部粘土塊付着
741		13.20	12.90	6.60	3.50	3.00	／	2.00	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
742		12.40	12.05	7.15	3.75	3.15	／	1.73	糸切り	橙色	雲母　砂　白粒	
743		11.60	11.35	7.45	3.25	2.50	／	1.56	糸切り	淡茶色	白針　雲母　やや粉っぽい	
749	ピット207	8.20	7.90	5.70	1.90	1.20	／	1.44	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　砂　白粒	
750		10.85	10.50	6.15	2.80	2.20	／	1.76	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　白粒　砂っぽい	
751		12.70	12.30	8.25	3.10	2.40	／	1.54	糸切り	淡赤茶色	雲母　白針　砂　白粒　砂っぽい	
757	ピット86	8.00	7.65	6.00	1.65	1.05	／	1.33	糸切り	淡赤褐色	白針　白粒　雲母　砂　砂っぽい	
758		7.00	6.80	4.00	2.25	1.75	／	1.75	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　砂	
759		13.40	13.20	8.00	2.70	2.10	／	1.68	糸切り	橙色	白針　雲母　砂	煤付着
761	溝201	7.60	7.30	4.50	2.00	1.30	／	1.69	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　白針　やや粉っぽい	
773	溝202	7.20	6.80	4.25	1.85	1.15	／	1.69	糸切り	淡茶褐色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	
774		8.50	8.00	6.50	／	／	1.70	／	丸	淡茶褐色	砂　白針　雲母　やや粉っぽい	
775	溝203	8.00	7.65	5.40	1.75	1.30	／	1.48	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　やや砂っぽい	
783	ピット208	8.80	8.50	6.80	1.60	1.00	／	1.29	糸切り	淡赤茶色	雲母　砂　白針　砂っぽい	
784		8.85	8.60	7.20	1.35	0.70	／	1.23	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	煤付着　内部剥離
785		8.35	8.20	6.65	1.25	0.60	／	1.26	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　砂っぽい	
786		8.95	8.70	8.30	0.70	0.70	1.50	／	平	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母	指頭痕不明瞭
787		8.65	8.30	6.50	2.30	1.80	1.85	／	丸	淡赤茶色	白針　雲母　砂っぽい　胎土精良	墨書　指頭痕不明瞭
788		12.90	12.70	8.80	3.30	2.35	／	1.47	糸切り	淡橙色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
789		13.90	13.70	9.00	2.90	2.00	／	1.54	糸切り	淡茶色	砂　雲母　砂っぽい	
790		14.00	13.70	8.30	3.30	2.70	／	1.69	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
791		13.20	12.90	11.70	3.10	2.70	1.80	／	丸	淡茶色	白粒　白針　砂　粉っぽい	指頭痕不明瞭
795	1b面上　II区	8.60	8.15	7.00	2.10	1.30	1.45	／	丸	淡茶色	雲母　砂　やや粉っぽい	
796		10.80	10.55	5.90	3.10	2.65	／	1.83	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	
800	1b上II・III区	8.60	8.30	7.20	1.70	1.10	／	1.19	糸切り	淡茶褐色	砂　白針　白粒　雲母	
801		7.40	7.00	5.00	1.85	1.30	／	1.48	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	
802		8.00	7.70	4.00	2.20	1.80	／	2.00	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　やや砂っぽい	
803		7.80	7.40	5.20	1.85	1.15	／	1.50	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
804		8.00	7.70	5.75	1.90	1.25	／	1.39	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
805		9.60	9.20	8.60	／	／	1.20	／	丸	橙色	砂　白粒　白針	
806		13.60	11.30	6.40	3.10	2.50	／	2.13	糸切り	淡赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　やや粉っぽい	煤付着
807		12.40	11.10	7.25	2.90	2.15	／	1.71	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
808		14.00	13.50	12.40	／	／	1.50	／	丸	橙色	砂　白針　白粒	指頭痕不明瞭
819	土壙11	7.20	7.00	4.65	2.30	1.90	／	1.55	糸切り	淡茶褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	煤付着
820		11.20	10.95	6.40	3.85	2.55	／	1.75	糸切り	橙色	砂　雲母　白粒	木口状工具でナデ

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
825	井戸1	7.60	7.35	5.15	1.85	1.25	／	1.48	糸切り	橙色	白針　砂　白粒　やや砂っぽい	
826		12.60	12.25	6.05	3.50	2.75	／	2.08	糸切り	淡赤褐色	白粒　白針　雲母　やや粉っぽい	
829		／	／	／	／	／	／	／	／	橙色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	撮りかわらけ
831	溝1	7.40	7.00	4.40	1.35	0.90	／	1.68	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
832		9.40	9.05	7.50	1.70	1.20	／	1.25	糸切り	淡橙色	砂　白粒　雲母　焼成良好	
833		13.80	13.60	8.00	3.40	2.80	／	1.73	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
834		12.80	12.50	8.40	3.00	2.30	／	1.52	糸切り	淡赤褐色	白粒　雲母　白針　やや粉っぽい	
835		14.40	14.05	8.85	3.35	2.85	／	1.63	糸切り	淡赤褐色	白粒　砂　雲母　白針　やや粉っぽい	
839	溝22	8.20	7.95	7.05	1.60	1.05	／	1.16	糸切り	淡茶色	白粒　砂　白針　雲母　やや粉っぽい	
840		8.00	7.80	6.75	0.50	0.90	／	1.19	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　粉っぽい	
841		8.00	7.70	5.80	1.80	1.25	／	1.38	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　砂っぽい	
842		7.60	7.30	5.20	1.75	1.20	／	1.46	糸切り	淡茶褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
843		8.00	7.70	5.80	1.75	1.20	／	1.38	糸切り	橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
844		10.20	9.90	5.90	1.85	1.00	／	1.73	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	
845		10.60	10.15	9.25	1.60	1.20	1.20	／	平	淡茶色	砂　雲母	
846		11.00	10.60	9.30	1.65	0.70	1.40	／	平	淡茶色	雲母　砂　白粒　砂っぽい	
847		10.40	10.15	6.40	2.65	2.15	／	1.63	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　粉っぽい	
848		11.00	10.65	5.50	3.00	2.35	／	2.00	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　白粒　砂　粉っぽい	
849		11.80	11.40	6.05	3.20	2.90	／	1.95	糸切り	淡赤褐色	白針　白粒　雲母　砂　やや粉っぽい	
850		11.40	11.10	6.20	2.80	2.30	／	1.84	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	外底部小粘土塊付着
851		11.60	11.30	6.60	3.35	2.75	／	1.76	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
852		12.00	11.55	6.60	3.05	2.40	／	1.82	糸切り	淡赤褐色	白粒　砂　白針　雲母　やや粉っぽい	外底部小粘土塊付着
853		13.80	13.30	8.90	3.45	3.00	／	1.55	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　砂　やや粉っぽい	
854		12.80	12.45	7.55	3.65	3.00	／	1.70	糸切り	赤褐色	白針　砂　白粒　雲母　砂っぽい	
855		12.40	11.95	6.70	3.00	2.45	／	1.85	糸切り	橙色	白粒　白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
856		12.80	12.50	8.10	3.40	2.85	／	1.58	糸切り	橙色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
867		12.80	12.50	6.80	3.30	2.75	／	1.88	糸切り	淡橙色	雲母　白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
868		12.40	12.00	6.60	3.20	2.70	／	1.88	糸切り	淡赤褐色	白粒　白針　雲母　砂　やや粉っぽい	
869		12.40	12.10	7.20	3.15	2.50	／	1.72	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
870		14.40	14.10	7.60	3.35	2.65	／	1.89	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　砂　白針　やや粉っぽい	
871		12.20	12.00	11.45	3.30	2.60	1.20	／	丸	淡茶色	砂　雲母　白粒　粉っぽい	
872		12.20	11.90	7.50	3.15	2.40	／	1.63	糸切り	橙色	白針　白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	器壁に穿孔
8720		／	／	／	／	／	／	／	糸切り	橙色	雲母　白針　砂　白粒	撮りかわらけ
889	溝24	8.00	7.70	5.30	1.65	1.00	／	1.51	糸切り	淡茶色	白粒　白針　白針　やや砂っぽい	
890		8.55	8.30	5.75	1.55	1.10	／	1.49	糸切り	淡茶色	白粒　白針　砂　やや砂っぽい	
891		8.30	8.05	6.05	1.60	1.10	／	1.37	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
892		7.70	7.40	5.50	1.70	1.15	／	1.40	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
893		7.40	7.15	5.10	1.80	1.00	／	1.45	糸切り	淡橙茶色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
894		7.90	7.65	5.85	1.70	1.00	／	1.35	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　とても粉っぽい	
895		7.60	7.20	5.55	1.95	1.20	／	1.37	糸切り	淡茶色	白針　雲母　やや粉っぽい	
896		8.00	7.65	6.00	1.75	1.05	／	1.33	糸切り	淡茶色	白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	煤付着
897		7.25	6.90	5.25	1.60	0.95	／	1.38	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
898		7.90	7.55	5.25	1.80	1.15	／	1.50	糸切り	淡赤褐色	緻ぬ　白針　砂　やや粉っぽい	
899		8.00	7.70	5.95	1.70	1.20	／	1.34	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
900		7.80	7.60	5.70	1.75	1.30	／	1.37	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
901		7.60	7.25	4.65	1.65	1.10	／	1.63	糸切り	淡橙色	白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
902		7.80	7.40	5.20	1.75	1.05	／	1.50	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　白針　砂　やや砂っぽい	
903		7.05	6.70	5.50	1.65	1.30	／	1.28	糸切り	淡橙茶色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
904		7.40	7.10	5.00	1.85	1.50	／	1.48	糸切り	淡茶色	白針　砂　やや砂っぽい	
905		8.40	8.05	5.30	1.95	1.60	／	1.58	糸切り	淡茶色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
906		8.30	8.00	5.60	2.00	1.30	／	1.48	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
907		11.40	11.00	7.00	2.80	2.05	／	1.63	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　雲母　白粒　焼成良好	
908		12.95	12.70	7.25	3.30	2.50	／	1.79	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
909		12.75	12.30	7.00	3.00	2.10	／	1.82	糸切り	淡橙茶色	雲母　白針　砂　やや粉っぽい	
910		11.95	11.40	7.60	3.90	3.20	／	1.57	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
911		12.80	12.50	7.50	3.40	2.65	／	1.71	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
912		13.00	12.70	7.55	3.55	2.65	／	1.72	糸切り	橙色	白針　雲母　白粒　砂っぽい	
913		12.60	12.35	6.80	3.15	2.55	／	1.85	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
914		12.60	12.30	7.75	3.30	2.85	／	1.63	糸切り	橙色	白粒　白針　雲母　砂　やや粉っぽい	
915		13.00	12.70	7.65	3.20	2.50	／	1.70	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
916		12.60	12.20	7.75	3.25	2.55	／	1.63	糸切り	橙色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
917		12.80	12.55	7.85	3.55	2.90	／	1.63	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
918		12.00	11.70	6.85	3.60	3.00	／	1.75	糸切り	淡橙色	白針　砂　雲母　やや粉っぽい	
919		12.40	12.10	7.65	3.55	2.85	／	1.62	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　砂　粉っぽい	煤付着

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
920	溝24	13.15	12.80	7.40	3.50	2.60	／	1.78	糸切り	淡橙茶色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	
921		13.00	12.70	8.20	3.35	2.70	／	1.59	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　砂っぽい	
922		13.00	12.50	7.85	3.45	2.80	／	1.66	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　白粒　粉っぽい	
923		13.90	13.60	8.60	3.35	2.60	／	1.62	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
924		13.20	12.90	8.00	3.65	3.20	／	1.65	糸切り	淡茶褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
925		12.60	12.30	8.05	3.20	2.75	／	1.57	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
926		12.60	12.20	7.90	3.00	2.20	／	1.59	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
927		13.00	12.55	7.60	3.40	2.65	／	1.71	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　砂っぽい	
928		12.50	12.10	7.30	3.20	2.60	／	1.71	糸切り	赤褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
929		12.60	12.30	6.50	3.40	2.70	／	1.94	糸切り	橙色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
930		13.60	13.25	8.45	3.50	2.75	／	1.61	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
931		13.00	12.60	8.40	3.40	2.75	／	1.55	糸切り	淡赤褐色	白粒　雲母　砂　白針　やや砂っぽい	
932		12.40	12.10	7.30	3.40	2.85	／	1.70	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
933		12.60	12.25	7.60	3.35	2.75	／	1.66	糸切り	橙色	白針　砂　雲母　白粒　粉っぽい	
934		／	／	／	／	／	／	／	／			擦りかわらけ
9380	溝14	8.80	8.40	7.60	1.65	1.20	／	1.16	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
947	溝18	7.60	7.35	4.90	1.70	1.05	／	1.55	糸切り	淡橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
948		7.60	7.30	5.40	1.75	1.20	／	1.41	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
949		7.95	7.55	5.40	1.85	1.10	／	1.47	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
950		8.60	8.20	7.10	1.85	1.05	／	1.21	糸切り	赤褐色	雲母　白針　白粒　砂　砂っぽい	
951		9.80	9.50	7.20	2.20	1.05	／	1.36	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
952		9.60	9.05	7.85	2.00	1.25	1.45	／	丸み	淡茶色	雲母　砂　白針　白粒　粉っぽい	
953		9.60	9.20	7.55	2.00	1.30	1.65	／	平	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
963	溝19	9.00	8.60	8.15	1.70	1.05	1.20	／	平	淡茶色	白粒　雲母　砂　やや粉ぽい	指頭痕不明瞭
964		9.45	9.10	6.90	1.75	1.15	／	1.37	糸切り	橙色	白粒　白針　砂　やや粉っぽい	
965		13.40	12.70	12.00	／	／	1.90	／	丸	淡赤褐色	雲母　白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
966	ピット13	／	／	／	／	／	／	／	糸切り			穿孔未製品
968	方竪1　裏込	7.40	7.20	5.60	2.20	1.75	／	1.32	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	煤付着
969		8.00	7.70	5.40	1.70	1.20	／	1.48	糸切り	赤褐色	白粒　白針　砂　砂っぽい	
970		8.40	8.05	6.10	2.00	1.40	／	1.38	糸切り	淡茶色	白針　砂　白粒　雲母　やや砂っぽい	煤付着
971		13.00	12.70	8.15	3.50	3.00	／	1.60	糸切り	橙色	白針　粒　雲母　やや砂っぽい	
976	方竪1　下層	12.20	11.85	8.00	3.40	2.85	／	1.53	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
977		13.00	12.55	6.65	3.50	2.50	／	1.95	糸切り	橙色	白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
984	方竪1　上層	6.35	6.05	3.80	2.10	1.60	／	1.67	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
985		6.40	6.20	3.25	1.80	1.40	／	1.97	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	
986		7.00	6.75	4.60	1.80	1.45	／	1.52	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針	
987		7.80	7.50	5.80	1.75	1.30	／	1.34	糸切り	赤褐色	雲母　白粒　砂	
988		8.20	7.80	5.70	1.90	1.25	／	1.44	糸切り	レンガ色	白針　白粒　雲母　砂　砂っぽい	
989		8.15	7.80	6.20	1.65	1.25	／	1.31	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
990		8.00	7.75	5.15	1.90	1.25	／	1.55	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
991		8.60	8.35	5.80	1.95	1.45	／	1.48	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　砂っぽい	
992		8.60	8.25	6.00	1.80	1.40	／	1.43	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
993		8.80	8.40	7.70	1.80	0.85	1.45	／	平	淡赤褐色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
994		10.60	10.30	6.00	3.20	2.65	／	1.77	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　砂っぽい　焼成良好	
995		10.90	10.70	4.65	2.75	2.20	／	2.34	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	
996		10.20	10.00	4.60	2.75	2.15	／	2.22	糸切り	橙色	雲母　砂　白針	
997		11.25	10.80	5.60	3.10	2.40	／	2.01	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
998		11.00	10.60	7.10	3.40	3.00	／	1.55	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　粒　白針　やや砂っぽい	割れ口擦り痕
999		12.00	11.75	7.30	3.00	2.50	／	1.64	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
1000		12.20	11.80	7.00	3.05	2.60	／	1.74	糸切り	橙色	白粒　白針	外底部小粘土塊付着
1001		12.20	11.90	7.40	3.40	2.75	／	1.65	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　やや砂っぽい	
1002		12.00	11.60	7.25	3.30	2.65	／	1.66	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒　粉っぽい	
1003		12.50	12.20	7.75	3.20	2.30	／	1.61	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　やや砂っぽい	
1004		13.00	12.65	7.20	3.40	2.80	／	1.81	糸切り	淡橙色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1005		14.70	14.40	8.80	3.10	2.45	／	1.67	糸切り	淡橙色	雲母　白粒　白針　砂　やや砂っぽい	
1006		11.50	11.75	6.60	3.25	2.65	／	1.74	糸切り	淡橙色	雲母　白針　砂　粉っぽい	
1007		12.00	11.50	6.20	3.15	2.55	／	1.94	糸切り	淡褐色	白針　白粒　砂　雲母	
1008		12.40	12.10	6.40	3.15	2.50	／	1.94	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1009		13.50	13.20	8.00	3.45	2.80	／	1.69	糸切り	淡橙色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1010		12.25	11.90	8.30	3.35	2.70	／	1.48	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針	
1011		12.70	12.35	8.25	3.65	2.85	／	1.54	糸切り	淡褐色	雲母　白針　白粒　砂	
1012		12.45	12.00	6.45	2.95	2.45	／	1.93	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
1013		12.20	11.90	8.20	2.85	2.20	／	1.49	糸切り	淡赤褐色	白粒　雲母　砂　やや粉っぽい	
1014		12.00	11.65	7.00	3.10	2.65	／	1.71	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　白粒	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
1015		12.60	12.20	8.00	3.35	2.60	／	1.58	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　砂　やや粉っぽい	
1016		13.45	13.10	9.35	3.05	2.45	／	1.44	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　雲母	
1017		12.00	11.50	6.15	3.30	2.60	／	1.95	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
1018	方竪1　上層	12.20	11.80	7.65	2.95	2.50	／	1.59	糸切り	淡茶色	白針　砂　雲母	
1019		12.20	11.80	7.40	3.20	2.55	／	1.65	糸切り	淡茶色	雲母　白針　砂　粉っぽい	
1020		13.00	12.45	8.70	3.25	3.00	／	1.49	糸切り	淡茶色	白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
1021		11.45	11.10	6.60	3.05	2.30	／	1.73	糸切り	淡茶色	雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
1022		12.00	11.60	7.55	3.20	2.55	／	1.59	糸切り	橙色	雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	外底部小粘土塊付着
1023		12.20	11.90	13.00	3.00	2.40	／	0.94	糸切り	赤褐色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	
1024		12.00	11.65	7.10	3.15	2.50	／	1.69	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針	
1025		12.80	12.55	8.10	3.25	2.70	／	1.58	糸切り	淡茶色	白粒　白針　砂	
1026		12.05	11.70	6.20	3.25	2.55	／	1.94	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1071	ピット9	12.40	12.05	8.90	3.45	2.70	／	1.39	糸切り	赤褐色	雲母　砂　白粒　白針	
1072	ピット22	8.40	8.00	5.80	2.10	1.30	／	1.45	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	
1074	ピット24	7.60	7.30	5.15	1.65	1.25	／	1.48	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　やや砂っぽい	
1075	ピット28	14.20	13.80	7.90	3.70	2.90	／	1.80	糸切り	淡赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　やや粉っぽい	
1077	1b面上　V区	7.60	7.30	5.55	1.70	1.15	／	1.37	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　砂っぽい	
1078		7.60	7.30	4.80	1.90	1.60	／	1.58	糸切り	橙色	白粒　雲母　砂	
1079		12.00	11.60	6.10	3.35	2.60	／	1.97	糸切り	淡茶褐色	白粒　砂　白針　雲母	
1103	1b面下　D-5	8.15	7.90	5.90	1.70	1.05	／	1.38	糸切り	赤褐色	雲母　白粒　白針　砂っぽい	
1104		8.55	8.20	6.40	1.50	0.90	／	1.34	糸切り	淡茶色	砂　白針　雲母　白粒　砂っぽい	
1105		9.60	9.20	6.70	1.60	0.75	／	1.43	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　とても砂っぽい	
1106		8.60	8.30	7.85	1.45	0.70	1.25	／	平	淡茶色	砂　白粒　白針　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1107		13.00	12.80	8.15	3.20	2.60	／	1.60	糸切り	赤褐色	白針　白粒　雲母	
1119	1b面下	9.20	8.70	7.10	2.00	1.20	／	1.30	糸切り	赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1120		8.60	8.25	6.60	1.90	1.25	／	1.30	糸切り	赤褐色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
1121		7.20	6.80	5.20	1.70	1.10	／	1.38	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
1122		7.80	7.60	6.10	1.80	1.35	／	1.28	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1123		7.60	7.20	5.85	1.80	1.10	／	1.30	糸切り	淡橙色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	
1124		8.00	7.80	5.80	1.75	1.20	／	1.38	糸切り	淡橙色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
1125		9.00	8.80	7.60	2.00	1.20	／	1.18	糸切り	赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　砂っぽい	
1126		7.40	7.05	5.50	1.50	0.85	／	1.35	糸切り	淡茶色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	
1127		8.60	8.40	6.50	1.75	0.95	／	1.32	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母	煤付着　内面剥離
1128		8.80	8.40	6.35	1.65	0.95	／	1.39	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	
1129		8.40	8.10	6.30	1.60	1.20	／	1.33	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
1130		7.50	7.20	5.40	1.50	1.10	／	1.39	糸切り	赤褐色	白針　雲母　砂　白粒　砂っぽい	
1131		7.60	7.30	4.95	1.60	1.00	／	1.54	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　砂　白粒　やや粉っぽい	
1132		7.60	7.30	5.30	1.70	0.95	／	1.43	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1133		7.60	7.20	4.95	1.65	1.10	／	1.54	糸切り	淡茶色	白針　雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1134		7.40	7.10	5.00	1.90	1.40	／	1.48	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1135		8.20	7.80	5.60	1.80	1.30	／	1.46	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　やや粉っぽい	ゆがみが著しい
1136		8.20	7.90	5.70	2.00	1.60	／	1.44	糸切り	淡赤褐色	白針　砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1137		7.65	7.30	5.40	1.70	1.00	／	1.42	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　とても粉っぽい	
1138		9.60	9.10	7.40	1.70	1.10	／	1.30	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
1139		9.60	9.25	7.50	1.80	1.05	／	1.28	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針	煤付着
1140		7.80	7.60	5.50	1.60	1.10	／	1.42	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
1141		9.40	9.15	6.65	1.85	1.40	／	1.41	糸切り	淡茶色	白粒　砂　やや砂っぽい	
1142		8.40	8.20	6.10	1.70	1.20	／	1.38	糸切り	淡橙茶色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1143		8.40	8.10	5.40	1.90	1.25	／	1.56	糸切り	橙色	白粒　砂　雲母　白針　やや砂っぽい	
1144		7.45	7.50	5.20	1.50	0.80	／	1.43	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　白針　やや砂っぽい	内底面に糸切り痕残る
1145		8.00	7.70	4.95	1.75	1.10	／	1.62	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　白粒　やや粉っぽい	
1146		9.05	8.60	6.40	1.95	1.20	／	1.41	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　とても砂っぽい	
1147		8.00	7.70	5.50	1.50	1.00	／	1.45	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　白粒　砂っぽい	
1148		8.80	8.40	6.50	1.60	0.90	／	1.35	糸切り	赤褐色	砂　白粒　白針　砂っぽい	
1149		10.10	9.45	7.55	1.95	1.35	／	1.34	糸切り	淡橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
1150		9.80	9.40	5.80	1.80	1.00	／	1.69	糸切り	淡橙茶色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	穿孔
1151		8.80	8.40	6.20	1.70	1.20	／	1.42	糸切り	橙色	砂　白針　雲母　白粒　やや砂っぽい	
1152		7.80	7.40	5.25	1.95	1.25	／	1.49	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針	
1153		9.00	8.55	6.00	1.85	1.20	／	1.50	糸切り	淡橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや粉っぽい	
1154		9.20	8.90	6.00	2.00	1.40	／	1.53	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	
1155		9.20	8.90	6.45	1.90	1.30	／	1.43	糸切り	赤褐色	雲母　白粒　砂　砂っぽい	穿孔
1156		8.20	7.90	6.80	1.65	0.90	1.35	／	平	橙色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1157		9.60	9.40	7.60	1.40	0.75	1.30	／	平	淡赤茶色	白粒　雲母　焼成良好	指頭痕不明瞭
1158		10.00	9.60	9.20	1.40	0.60	1.15	／	平	淡茶色	砂　白粒　雲母　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
1159	1b面下	8.60	8.30	7.20	1.65	0.85	1.35	／	平	淡茶色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
1160		8.60	8.25	7.60	1.70	1.00	1.40	／	平	赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1161		9.60	9.00	7.75	1.85	1.10	1.60	／	平	淡茶色	白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	指頭痕不明瞭
1162		8.90	8.65	8.00	1.90	1.30	1.30	／	平	淡橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1163		9.60	9.10	8.60	1.85	1.05	1.40	／	平	淡茶色	砂　雲母　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1164		9.60	9.00	8.30	2.05	1.30	1.65	／	平	淡茶色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
1165		9.60	9.30	7.50	1.60	0.55	1.50	／	平	橙色	雲母　白針　白粒　やや粉っぽい	煤付着　指頭痕不明瞭
1166		8.20	8.00	6.70	1.70	0.90	1.40	／	平	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1167		9.00	8.50	6.40	1.90	1.10	1.65	／	平	淡茶色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	煤付着
1168		9.15	8.70	8.00	1.90	1.10	1.85	／	平	淡茶色	白粒　白針	指頭痕不明瞭
1169		9.40	8.90	7.50	1.80	1.30	1.35	／	平	橙色	白針　砂　雲母	
1170		9.60	9.10	6.80	1.50	0.90	1.20	／	平	淡茶色	雲母　白粒　粉っぽい	煤付着　指頭痕不明瞭
1171		9.00	8.65	8.30	1.70	1.15	1.10	／	平？	赤褐色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
1172		10.00	9.50	7.50	1.95	1.25	1.45	／	平	淡茶色	白粒　白針　粉っぽい	
1173		9.60	9.20	8.90	2.20	1.40	1.75	／	平？	淡赤褐色	砂　白粒　白針　粉っぽい	
1174		9.40	9.10	7.65	2.50	1.95	1.60	／	丸	橙色	雲母　白針　白粒　砂	
1175		9.40	8.80	7.60	／	／	1.40	／	平	淡橙色	砂　白粒　白針　やや粉っぽい	指頭痕不明瞭
1176		9.00	8.50	7.75	2.10	1.35	1.35	／	丸	淡茶色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1177		10.80	10.50	10.20	／	1.25	1.60	／	丸	橙色	砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
1178		10.60	10.20	5.70	3.30	2.90	／	1.86	糸切り	橙色	白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	全体に剥離
1179		11.00	10.80	6.70	3.05	2.60	／	1.64	糸切り	淡赤褐色	白針白粒　雲母　砂　やや粉っぽい	外底部に小粘土塊付着
1180		11.20	10.90	6.00	3.10	2.60	／	1.87	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
1181		11.20	11.00	6.60	3.15	2.70	／	1.70	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針	
1182		11.40	11.00	7.00	3.40	2.65	／	1.63	糸切り	淡茶色	白針　雲母　白粒	
1183		13.40	12.90	8.40	3.65	2.90	／	1.60	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　粉ぽい	
1184		13.20	12.65	9.40	3.10	2.75	／	1.40	糸切り	淡茶褐色	雲母　白針　砂　砂っぽい	
1185		14.20	13.60	8.90	3.40	2.30	／	1.60	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　粉っぽい	
1186		12.20	11.80	8.15	3.00	2.35	／	1.50	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	穿孔
1187		14.00	13.70	6.50	3.30	2.40	／	2.15	糸切り	淡赤褐色	白粒　白針　やや粉っぽい	
1188		13.60	13.10	8.05	3.40	2.45	／	1.69	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	
1189		12.60	12.30	7.60	3.20	2.35	／	1.66	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　砂っぽい	
1190		13.40	13.10	9.40	3.40	2.70	／	1.43	糸切り	橙色	雲母　白針　白粒	
1191		12.60	12.35	8.00	3.20	2.60	／	1.58	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1192		15.00	14.60	11.65	3.40	2.90	／	1.29	糸切り	淡茶褐色	砂　白粒　雲母　やや砂っぽい	
1193		12.60	12.20	6.20	3.25	2.75	／	2.03	糸切り	淡橙色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	煤付着
1194		13.00	11.65	7.40	3.60	2.90	／	1.76	糸切り	淡赤褐色	白粒　砂　雲母　やや砂っぽい	
1195		13.00	12.75	7.80	3.50	2.90	／	1.67	糸切り	淡橙色	白針　砂　雲母　やや粉っぽい	
1196		12.60	12.15	8.20	3.10	2.30	／	1.54	糸切り	橙色	白針　砂　白粒　砂っぽい	
1197		13.05	12.60	8.00	3.60	2.80	／	1.63	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　砂っぽい	
1198		12.40	12.25	7.70	3.30	2.80	／	1.61	糸切り	淡茶褐色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	外底部に小粘土塊付着
1199		12.80	12.40	7.35	3.20	2.70	／	1.74	糸切り	淡茶色	白針　砂　雲母　白粒　砂っぽい	
1200		12.00	11.60	7.90	3.30	2.65	／	1.52	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
1201		12.00	11.75	6.60	3.20	2.50	／	1.82	糸切り	淡橙色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	煤付着
1202		12.20	11.70	7.35	3.40	2.80	／	1.66	糸切り	橙色	白針　砂　雲母　砂っぽい	
1203		14.20	13.70	12.20	3.50	2.70	2.50	／	丸	淡茶色	砂　白粒　雲母　粉っぽい	
1204		14.00	13.50	12.50	／	2.40	1.95	／	丸？	淡赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1205		15.00	14.60	／	／	／	1.60	／	丸？	淡橙色	雲母　白針　粉っぽい	
1206		15.00	14.70	13.10	／	／	2.20	／	丸	淡茶色	砂　白粒　粉っぽい	
1207		13.30	12.55	12.00	／	／	1.80	／	丸	橙色	砂　白針　粉っぽい	
1208		13.40	12.70	11.20	／	／	1.90	／	丸	暗橙褐色	白粒　砂　粉っぽい	
1209		14.20	13.85	11.80	3.00	2.35	2.00	／	丸	淡茶色	白針　雲母　砂　粉っぽい	
1210		13.60	13.20	12.50	／	／	1.80	／	丸？	淡橙色	雲母　砂　白針　やや粉っぽい	
1211		／	／	／	／	／	／	／	／	／	撮りかわらけ	
1332	溝12	7.20	6.95	4.95	1.55	1.00	／	1.45	糸切り	淡橙色	砂　白粒　白針　やや砂っぽい	
1333		9.50	9.20	7.40	1.90	1.40	／	1.28	糸切り	淡橙色	砂　白粒　白針　やや砂っぽい	
1334		12.20	12.00	7.30	3.45	2.50	／	1.67	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
1335		12.90	12.70	7.40	3.45	2.60	／	1.74	糸切り	赤褐色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
1340	1a上　I・II区	7.00	6.80	4.35	1.90	1.30	／	1.61	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針	
1341		8.20	7.90	5.50	1.80	1.15	／	1.49	糸切り	橙色	雲母　白針　砂	
1342		9.80	9.60	6.00	3.10	2.55	／	1.63	糸切り	橙色	白針　白粒　砂	
1359	溝3	8.00	7.70	5.80	1.80	1.25	／	1.38	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　とても砂っぽい	外底部に粘土塊付着
1360		8.40	8.10	6.10	1.60	1.00	／	1.38	糸切り	灰茶色	雲母　砂　白粒　とても砂っぽい	
1361		8.60	8.30	5.60	1.65	1.00	／	1.54	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　とても砂っぽい	
1362		12.50	12.15	6.40	3.30	2.60	／	1.95	糸切り	橙色	雲母　砂　白針　とても砂っぽい	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
1375	溝6	7.80	7.50	5.80	1.65	1.20	／	1.34	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂	
1376		7.20	6.80	4.95	1.55	1.05	／	1.45	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
1377		7.80	7.45	5.40	1.70	1.25	／	1.44	糸切り	淡茶褐色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	煤付着
1378		7.60	7.30	4.00	1.85	1.20	／	1.90	糸切り	淡赤茶色	砂　白粒　砂っぽい	
1379		8.40	8.10	5.60	1.95	1.40	／	1.50	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母　粉っぽい	
1380		8.20	8.00	／	／	／	1.40	／	丸？	淡茶色	砂　白針　白粒　砂っぽい	指頭痕不明瞭
1381		10.20	9.95	5.90	3.00	2.60	／	1.73	糸切り	橙色	砂　白粒　雲母　白針	煤付着
1382		11.10	10.80	6.80	3.00	2.20	／	1.63	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　砂っぽい	
1383		12.00	11.55	7.70	3.20	2.70	／	1.56	糸切り	淡茶褐色	白針　砂　白粒　雲母　やや粉っぽい	
1384		12.30	11.90	7.00	3.25	2.45	／	1.76	糸切り	淡茶色	白針　白粒　粉っぽい	
1385		12.70	12.30	7.40	3.00	2.30	／	1.72	糸切り	淡赤茶色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
1386		12.60	12.25	8.40	3.30	2.65	／	1.50	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1387		13.00	12.55	8.00	3.40	2.65	／	1.63	糸切り	赤褐色	白針　砂　白粒　やや砂っぽい	
1403	溝7	7.80	7.50	5.45	1.70	1.00	／	1.43	糸切り	赤褐色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1404		9.00	8.60	6.30	2.20	1.30	／	1.43	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	煤付着
1405		7.20	7.05	4.50	2.05	1.65	／	1.60	糸切り	橙色	雲母　白粒　砂　白針	
1406		13.05	12.80	6.40	3.00	2.30	／	2.04	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　白針　砂っぽい	
1407		11.00	10.70	6.70	3.15	2.55	／	1.64	糸切り	橙色	雲母　白粒　やや粉っぽい	
1408		10.40	10.00	7.00	3.20	2.45	／	1.49	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1409		13.60	13.30	7.90	3.55	3.00	／	1.72	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
1410		12.35	12.00	7.00	3.45	2.90	／	1.76	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
1411		12.60	12.30	7.60	3.40	2.90	／	1.66	糸切り	淡茶色	白粒　白針　やや粉っぽい	
1412		12.80	12.55	8.40	3.45	2.90	／	1.52	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　やや粉っぽい	
1415	溝9	7.90	7.60	5.80	1.50	0.90	／	1.36	糸切り	淡橙色	白針　雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1416		7.75	7.30	5.55	1.60	1.00	／	1.40	糸切り	淡橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1417		7.20	6.95	4.80	1.85	1.35	／	1.50	糸切り	淡赤褐色	砂　白粒　白針　砂っぽい	
1418		8.20	7.85	6.15	1.80	1.10	／	1.33	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1419		7.40	7.15	4.85	1.90	1.25	／	1.53	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　白粒　砂っぽい	
1420		12.00	11.70	7.20	3.10	2.60	／	1.67	糸切り	赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1421		12.20	11.80	11.40	3.25	2.70	／	1.07	糸切り	橙色	白針　雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1422		14.20	13.90	8.00	3.90	3.45	／	1.78	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
1423		13.60	13.10	8.60	3.80	3.00	／	1.58	糸切り	淡茶色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
1454	溝4	13.60	13.30	8.30	3.30	2.60	／	1.64	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母　砂っぽい	
1458	溝5	8.00	7.60	5.10	1.60	0.85	／	1.57	糸切り	赤褐色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
1459		8.00	7.70	6.10	1.45	1.05	／	1.31	糸切り	淡茶色	白針　白粒	
1460		10.80	10.40	6.45	2.75	2.20	／	1.67	糸切り	淡茶色	白粒　白針　砂　やや砂っぽい	
1461		12.20	11.80	6.80	3.45	2.50	／	1.79	糸切り	淡茶色	白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
1462		12.60	12.30	6.60	3.45	2.75	／	1.91	糸切り	淡赤茶色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
1479	土壙1	8.40	8.10	6.30	1.75	1.25	／	1.33	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　雲母　やや粉っぽい	
1480		7.60	7.45	5.40	1.40	0.80	／	1.41	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　粉っぽい	
1481		8.40	8.20	5.70	1.80	1.15	／	1.47	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　白針　砂　粉っぽい	
1482		8.00	7.85	4.60	2.00	1.20	／	1.74	糸切り	橙色	白粒　砂　雲母　焼成良好	
1483		7.40	7.10	5.20	1.85	1.30	／	1.42	糸切り	淡橙色	砂　白針　雲母　やや砂っぽい	
1484		7.50	7.20	4.60	1.75	1.05	／	1.63	糸切り	暗赤褐色	砂　白針　雲母　砂っぽい	
1485		7.80	7.60	4.70	1.60	1.00	／	1.66	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
1486		7.80	7.75	4.80	1.75	1.00	／	1.63	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　やや砂っぽい	
1487		11.55	11.20	6.50	3.05	2.50	／	1.78	糸切り	赤褐色	砂　白粒　雲母	煤付着
1488		12.40	12.20	7.30	3.10	2.50	／	1.70	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白粒　やや砂っぽい	
1489		14.20	13.90	7.70	3.40	2.80	／	1.84	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　やや粉っぽい	
1490		13.80	13.50	8.10	3.55	2.85	／	1.70	糸切り	赤褐色	砂　白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
1491		14.40	14.15	7.50	3.60	3.00	／	1.92	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母　やや粉っぽい	
1503	土壙2	7.60	7.15	5.65	1.25	0.70	／	1.35	糸切り	淡赤褐色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1505	土壙3	12.40	12.20	6.65	3.40	2.85	／	1.86	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　白針　やや粉っぽい	
1506		14.00	13.75	8.00	3.45	3.25	／	1.75	糸切り	淡赤褐色	白粒　雲母　白針　やや砂っぽい	
1507		14.40	14.10	8.60	3.75	3.05	／	1.67	糸切り	淡橙色	砂　白針　雲母　白粒　やや粉っぽい	
1512	1a面上　IV区	13.60	13.25	7.90	3.50	2.75	／	1.72	糸切り	淡赤褐色	砂　白針　雲母　やや粉っぽい	
1519	1a上IV区土壙	8.15	7.80	4.65	1.80	1.25	／	1.75	糸切り	淡茶色	白針　雲母　砂っぽい	
1520		7.60	7.35	4.50	2.40	1.90	／	1.69	糸切り	橙色	白粒　雲母　砂　白針　やや砂っぽい	
1521		7.60	7.15	4.70	2.35	1.80	／	1.62	糸切り	淡橙色	白粒　砂　白針　砂っぽい	
1522		8.30	8.10	5.80	2.30	1.70	／	1.43	糸切り	淡茶色	白針　砂　雲母　とても砂っぽい	
1523		7.55	7.30	5.05	1.65	0.90	／	1.50	糸切り	淡橙茶色	白針　砂　雲母　白粒　砂っぽい	
1524		8.20	7.90	5.90	1.80	1.30	／	1.39	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	煤付着
1525		11.80	11.45	6.85	2.75	2.05	／	1.72	糸切り	淡茶色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1526		11.00	10.60	6.50	2.80	2.20	／	1.69	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底部	胎土色	胎土混入物	備考
1527	1a上IV区土壙	11.00	10.70	5.40	3.35	2.45	／	2.04	糸切り	淡茶褐色	白針　雲母　白粒　砂　砂っぽい	
1528		11.60	11.30	6.90	3.20	2.60	／	1.68	糸切り	淡茶褐色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	煤付着
1529		12.60	12.40	7.00	3.55	2.80	／	1.80	糸切り	淡茶色	雲母　白針　雲母　やや砂っぽい	
1530		12.60	12.20	6.60	3.00	2.10	／	1.91	糸切り	淡茶色	白針　雲母　やや砂っぽい	
1531		12.80	12.50	8.35	3.25	2.60	／	1.53	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
1532		13.80	13.60	7.90	3.55	2.80	／	1.75	糸切り	淡橙色	雲母　白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
1533		13.60	13.60	8.20	3.70	2.95	／	1.66	糸切り	橙色	砂　白粒　白針　雲母　砂っぽい	
1534		13.80	13.55	8.65	3.85	3.25	／	1.60	糸切り	淡茶色	白針　白粒　雲母　やや砂っぽい	
1535		14.00	13.60	8.30	3.95	3.40	／	1.69	糸切り	橙色	白針　白粒　砂　雲母	
1536		11.50	11.25	6.40	3.30	2.30	／	1.80	糸切り	淡橙色	白針　白粒　砂　雲母　砂っぽい	
1537		14.00	13.70	9.05	3.50	2.80	／	1.55	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
1538		14.20	13.85	7.85	3.55	2.85	／	1.81	糸切り	淡茶色	白粒　白針　やや粉っぽい	
1539		13.20	12.80	7.40	3.60	2.95	／	1.78	糸切り	橙色	白針　白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
1540		／	／	／	／	／	／	／	／	／		擦りかわらけ
1542	1a面下	8.00	7.70	5.55	1.30	0.70	／	1.44	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　やや砂っぽい	
1543		8.20	7.90	6.15	1.60	1.00	／	1.33	糸切り	淡茶色	砂　白針　砂っぽい	
1544		7.40	7.05	5.00	1.80	1.25	／	1.48	糸切り	橙色	白粒　白針　砂　雲母　やや砂っぽい	
1545		8.00	7.70	5.35	1.80	1.15	／	1.50	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　やや砂っぽい	
1546		8.20	7.90	5.60	1.70	1.10	／	1.46	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　砂	
1547		7.95	7.55	5.10	1.80	1.20	／	1.56	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針	
1548		8.00	7.60	5.80	1.60	1.05	／	1.38	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
1549		8.00	7.60	5.60	1.80	1.15	／	1.43	糸切り	淡茶色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
1550		8.60	8.40	5.10	2.20	1.70	／	1.69	糸切り	淡橙色	雲母　白粒　砂　やや砂っぽい	
1551		7.30	7.00	4.85	1.70	1.15	／	1.51	糸切り	淡赤褐色	白針　雲母　砂　やや砂っぽい	
1552		7.40	7.20	4.00	1.75	1.20	／	1.85	糸切り	赤褐色	白粒　砂　白針　雲母	
1553		8.00	7.70	4.05	2.10	1.70	／	1.98	糸切り	橙色	白粒　雲母　白針	
1554		8.00	7.60	5.80	1.90	1.35	／	1.38	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針	
1555		7.20	6.90	5.00	1.70	1.15	／	1.44	糸切り	淡橙色	雲母　白針　白粒　砂　やや砂っぽい	口唇部一部ヘラ痕残る
1556		7.20	6.85	4.70	1.90	1.25	／	1.53	糸切り	淡茶色	雲母　砂　白針　白粒　やや粉っぽい	
1557		7.20	7.05	5.45	2.00	1.65	／	1.32	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針　白粒	
1558		7.40	7.10	4.60	2.15	1.60	／	1.61	糸切り	淡茶色	雲母　白粒　白針　砂っぽい	煤付着　内面剥離
1559		7.00	6.70	4.25	2.20	1.60	／	1.65	糸切り	淡赤褐色	白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
1560		7.40	7.10	3.60	2.25	1.75	／	2.06	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白粒　やや粉っぽい	煤付着
1561		13.00	12.75	8.90	3.80	3.10	／	1.46	糸切り	淡茶色	白針　白粒　砂　やや砂っぽい	
1562		12.40	12.05	7.80	3.35	2.75	／	1.59	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
1563		12.50	12.20	7.40	3.40	2.80	／	1.69	糸切り	淡茶色	砂　雲母　砂っぽい	
1564		12.40	12.00	7.00	3.50	2.75	／	1.77	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　白針　やや粉っぽい	
1565		11.00	10.80	5.80	3.05	2.40	／	1.90	糸切り	橙色	砂　粒　針　雲母	
1566		13.10	12.70	8.75	3.10	2.40	／	1.50	糸切り	淡茶橙色	砂　雲母　白針　白粒　砂っぽい	
1567		13.35	13.10	7.60	3.50	2.80	／	1.76	糸切り	淡茶色	砂　白粒　雲母　白針　砂っぽい	
1568		13.35	13.05	7.50	3.40	2.70	／	1.78	糸切り	赤褐色	雲母　砂　白針　白粒　やや砂っぽい	
1569		13.60	13.25	7.20	3.20	2.70	／	1.89	糸切り	橙色	白粒　雲母　白針　砂	
1570		12.40	11.90	7.25	3.25	2.40	／	1.71	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　やや砂っぽい	
1571		12.85	12.50	7.00	3.35	2.45	／	1.84	糸切り	淡茶色	雲母　白針　砂　とても砂っぽい	
1572		11.40	11.20	6.65	3.10	2.60	／	1.71	糸切り	橙色	雲母　砂　白粒　やや砂っぽい	
1573		12.00	11.70	7.65	3.25	2.50	／	1.57	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　雲母	
1574		14.20	13.90	7.90	3.10	2.40	／	1.80	糸切り	淡橙色	砂　白粒　白針　やや砂っぽい	
1575		15.05	14.70	8.80	3.90	3.10	／	1.71	糸切り	淡茶色	白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
1576		13.55	13.15	7.30	3.40	2.95	／	1.86	糸切り	淡赤褐色	雲母　白針	
1577		13.80	13.40	7.45	3.65	2.85	／	1.85	糸切り	淡赤褐色	雲母　砂　白針　やや砂っぽい	
1578		14.00	13.65	7.65	3.65	2.90	／	1.83	糸切り	淡赤褐色	砂　雲母　やや砂っぽい	
1579		13.00	12.60	7.30	3.10	2.25	／	1.78	糸切り	赤褐色	白針　白粒　砂　砂っぽい	
1580		11.00	10.70	6.00	2.85	2.20	／	1.83	糸切り	赤褐色	砂　雲母　白粒　白針　やや粉っぽい	
1581		11.60	11.30	6.30	3.10	2.60	／	1.84	糸切り	橙色	砂　雲母　白針　白粒　やや砂っぽい	
1582		／	／	／	／	／	／	／	／	／		擦りかわらけ
1646	上層包含層	7.20	6.80	5.20	1.80	1.25	／	1.38	糸切り	橙色	雲母　白針　白粒　砂　やや粉っぽい	
1647		7.60	7.20	4.40	1.80	1.15	／	1.73	糸切り	淡茶色	白粒　砂　雲母　白針	
1648		7.90	7.40	5.45	1.95	1.15	／	1.45	糸切り	淡茶色	雲母　白針　砂　やや砂っぽい	外底部に粘土塊付着
1649		8.00	7.55	4.90	2.10	1.20	／	1.63	糸切り	淡茶色	砂　白粒　白針　雲母　やや砂っぽい	
1650		9.60	9.00	7.90	1.40	0.70	／	1.22	糸切り	橙色	砂　白針　白粒　雲母　砂っぽい	
1651		13.90	13.55	8.70	3.20	2.50	／	1.60	糸切り	淡橙色	白粒　雲母　砂　やや砂っぽい	
1652		7.80	7.40	5.50	1.90	1.35	／	1.42	糸切り	淡茶色	白粒　雲母　白針	穿孔
1655		／	／	／	／	／	／	／	／	／		穿孔かわらけ

獣骨分類表

出土地	頭骨	環椎	軸椎	頸椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r	上顎骨 l	上顎骨 u	下顎骨 r	下顎骨 l	下顎骨 u	切歯骨 r	切歯骨 l	切歯骨 u	肩甲骨 r	肩甲骨 l	肩甲骨 u	上腕骨 r	上腕骨 l	上腕骨 u	橈骨 r	橈骨 l	橈骨 u	尺骨 r	尺骨 l	尺骨 u	中手骨 r	中手骨 l	中手骨 u
ウマ Equus caballus																																		
1a面下														1	1											s	1*						
1a面下北																																		
1b面下																																		
1b面下南																																		
1b面下北																																		
1b面通路																			s1															
1b面南																																		
1面下北																							s1*											
1面上																																		s2*
1面上南東																				s1														
2面下																							d1*											
2面下																																		
1b面																																		
1b面下																																		
溝213+基																																		
溝214																							d1		d1			d1	p1					
溝214																																		
溝22																																		
溝32																								s1*										
溝5																																		
溝6																																		
側溝中																																		
土壙219																																		
土壙25																																		
包含層									1																								s	1*$
包含層																																		
合計									1					1	1			1		1			3	2			1		1				3	

獣骨分類表

大腿骨			膝蓋骨			脛骨			腓骨			距骨			踵骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
ウマ Equus cabellus																																			
d1																																			
		p1*																																	
															s1																				
																											s1*								
								s1*																											
																				s1															
d1																																			
																				s1															
																										s1									
																										s1									
						d1											s1	per1								s1									s1
						d1*																													
d1																																			
						d1																													
d1*																																			
																										s1									
													s1																						
d1		p2																								s2									
s1		d1																								s1									
6		4				3		1						1	1		1	1			2					7	1								1

獣骨分類表

出土地	頭骨	頸椎	胸椎	腰椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r l u	下顎骨 r l u	切歯骨 r l u	肩胛骨 r l u	上腕骨 r l u	橈骨 r l u	尺骨 r l u	中手骨 r l u
ウシ Bos taurus																		
1b面																		
1b面下																		
1b面下北																	pl*	
1b面上北西																		sl*
2面下																sl* dl*	sl sl*	
TT																		
TT2																		
TT4										sl								
溝202																		
溝203																		
溝213																		
溝213+墓																		
溝214										sl								
溝216															s2#			
溝9																		
土壙207																dl*		
土壙210																		
土壙214																		
土壙219																		
土壙27																		
包含層																	pl	
合計										2					2	1 2	1 3	1

獣骨分類表

大腿骨			膝蓋骨			脛　骨			腓　骨			距　骨			踵　骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
ウシ Bos taurus																																			
												s1*												s1#						s1					
									s1*																		s1			s1					
												s1*												s9						s4					
												s1																							
												s1*																							
																											s1								
																												s1*							
																											s1								
																		s1*																	
dl	d2											s4				per3								s6	s5		s 39*			s 43*			s4		
																															s1				
												s1																							
																																	s1		
												s1*							s1*																
																															s2			s1	
																			d1																
1	2					1						10			1	3			2					6	17		41			51			7		

獣骨分類表

出土地	頭骨	頸椎	軸椎	環椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r l u	下顎骨 r l u	切歯骨 r l u	肩甲骨 r l u	上腕骨 r l u	橈骨 r l u	尺骨 r l u	中手骨 r l u
ニホンシカ Cervus nippon																		
1a面下															pl dl*	pl*		pl
1a面下南																sl		
1b面下												sl						
1b面下c2														sl*				
1b面下南												sl				dl*		
1b面下南																pl		
1b面下北															pl* dl*			
1b面上															dl			
1b面上北西																dl*		
1面上												sl						
T,T4																pl*		
TT																		
溝12														sl* sl*				
溝13																		
溝18																	pl*	
溝2																sl*		
溝208																		
溝22																		
溝24														sl*				
溝28																pl*		
溝31																		
溝6																		
溝9																	pl*	
溝9															dl*			
土壙1	sl																	
土壙15			sl														pl*	
土壙16															dl*			
土壙18,19																		
土壙206																pl*	pl#	
土壙222															pl			
土壙3																		
包含層							sl*									pl* pl*		
包含層																	pl/l*	
方墾1																		
方墾1																		
方墾1上																		
方墾201																		
合計	1		1				1					2 1		3 1	6 2	3 8	2 4	

獣骨分類表

大腿骨			脛腓骨			踵骨			距骨			踵骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
ニホンシカ Cervus nippon																																
						pl																										
	pl					pl*																										
	pl					dl*																										
pl	d2					sl*																										
																										sl					
																										sl*					
p2																															
	d2																														
			sl																												
	dl*																														
						dl*																										
	sl																														
						pl*																										
						dl*					sl*	per1*																				
pl*																										sl					
dl*																															
						pl																				sl*					
	pl																														
pl																															
7	9	1	7	1				1	1														4								

獣骨分類表

出土地	頭骨	環椎	軸椎	頸椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r l u	下顎骨 r l u	切歯骨 r l u	肩胛骨 r l u	上腕骨 r l u	橈骨 r l u	尺骨 r l u	中手骨 r l u
イノシシSus scrofa																		
1a面下北																		
1b面																		
1b面下南																		
1b面上北西																		per1*
溝1												sl*						
溝208													sl					
溝3																	pl*	
溝9																		
土壙210																		
土壙211																		
土壙25									1									
合計									1			1	1				1	1
ウシ Bos taurus or ウマ Equus caballus																		
1a面下			sl*	s2														
1b面下南				s2														
1b面上北西			sl*															
1面上				sl														
TT				sl														
溝16				sl														
溝214			sl															
溝215																		
溝28,29				s2														
土壙15				sl														
土壙2				s2														
不明				sl														
包含層		sl*		s3														
方整1上				sl														
合計		1	3	17														
ニホンシカ Cervus nippon or イノシシ Sus scrofa																		
TT				s2														
合計				2														
イヌCanis familiaris																		
ピット203																		
1a面下					sl		sl*					sl			per1	dl*	p2	
1a面下															sl	pl		
1a面下南															dl			
1a面下北															dl dl	pl per1	pl pl	
1b面																	pl*	

獣骨分類表

大腿骨			膝蓋骨			脛　骨			距　骨			踵　骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
イノシシSus scrofa																																
						dl*																										
						pl*																										
									perl																							
										perl																						
		sl																														
dl																																
1		1	2						1	1																						
ウシ Bos taurus or ウマ Equus caballus																																
																								sl								
																								1								
ニホンシカ Cervus nippon or イノシシ Sus scrofa																																
イヌ Canis familiaris																																
pl																																
pl																																
												sl																				
			perl*																													

獣骨分類表

出土地	頭骨	環椎	軸椎	頸椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r	上顎骨 l	上顎骨 u	下顎骨 r	下顎骨 l	下顎骨 u	切歯骨 r	切歯骨 l	切歯骨 u	肩胛骨 r	肩胛骨 l	肩胛骨 u	上腕骨 r	上腕骨 l	上腕骨 u	橈骨 r	橈骨 l	橈骨 u	尺骨 r	尺骨 l	尺骨 u	中手骨 r	中手骨 l	中手骨 u
イヌ Canis familiaris																																		
1b面下			per1				s1*							s1																				
1b面下南					s3		s1																											
1b面下南																																		
1b面下北							per1																											
1b面上北西					s1																													
1面上			s1											s1																				
1面上南東																										pl								
TT							s1																											
井戸4																							dl											
井戸1	一頭分																																	
溝17																								per1										
溝18																																		
溝205																				s1		s1	per1							pl				
溝213	per1	s1	s1								per1			s1	s1												s1							
溝214														s1	s1					s1			s1	s1		s1*			s1					
溝22							s2																											
溝23					s2																													
溝31																																		
溝36															s1																			
溝4																							dl*			per1								
溝6			per1																								dl							
溝7																																		
溝8															s1																			
溝9	s1				s4	s1	s3							s1	s1						s1													
溝9犬1	一頭分																																	
溝9犬2	s1	s1	s1				s1				s1	s1		s1	s1																s1			
溝9幼犬	per1																										s1							
調査区北																																		
土壙1					s1																													
土壙201																				s1														
土壙203					s1																s1						per1							
土壙218																											per1*							
土壙27																								p1*		dl								
土壙8																														pl				
不明																							s1											
包含層	一頭分																																	
包含層			s1		s1		s1					s1			s1						s1				s1					pl				
方墜1上															s1																			
方墜201			per1																															
合計	4	2	7		14	1	12				2	2		7	8					3	2	2	8	6		3	10		3	7				
	三頭分																																	

獣骨分類表

大腿骨 r l u	膝蓋骨 r l u	脛骨 r l u	腓骨 r l u	距骨 r l u	踵骨 r l u	中足骨 r l u	中手・足骨 r l u	手・足根骨 r l u	基節骨 r l u	中節骨 r l u	末節骨 r l u
イヌ Canis familiaris											
sl											
pl/dl											
		dl									
		dl pl									
		sl									
		dl									
pl											
dl			dl								
		sl						s6 s6			
	s2 sl	sl sl				sl		sl sl			
sl											
pl											
dl											
1 7 2	2 1	2 7	1		2		7 7				

獣骨分類表

出土地	頭骨	頸椎	軸椎	頸椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r l u	下顎骨 r l u	切歯骨 r l u	肩胛骨 r l u	上腕骨 r l u	橈骨 r l u	尺骨 r l u	中手骨 r l u
ネコ Plis catus																		
1a面上	perl										perl							
1b面下															dl			
1面上																		
溝17																		
溝204																	pl*	
溝205																		
土壙201																		
土壙24															dl			
方墾201																		
合計	1										1				1 1		1	
ノウサギ Lepus brachyurus																		
1a面下																		
1a面下南																		
1b面下北																		
1b面上							sl											
1b面上北西															pl			
井戸1															pl			
井戸4							perl											
古代溝																dl		
溝1																		
溝201															dl			
溝202																		
溝208																pl		
溝22																		
溝4																		
溝6																	pl	
溝8土壙9																		
土壙16																		
土壙24								sl										
土壙8																		
方墾1																		
方墾1上							perl											
合計							3	1							2 1	2	1	

獣骨分類表

大腿骨			膝蓋骨			脛骨			腓骨			距骨			踵骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
ネコ Flis catus																																			
p1*																																			
	p1																																		
						s1																													
per1*																																			
						per1																													
2	1					2																													
ノウサギ Lepus brackyurus																																			
s1	p1					s1																													
p1																																			
s1																																			
						s1																													
per1																																			
							p1																												
						p1																													
						p1																													
	per1																																		
d1																																			
p1																																			
6	2					4	1																												

獣骨分類表

出土地	頭骨	頸椎	胸椎	腰椎	腰椎	肋骨	寛骨	仙骨	歯	角	上顎骨 r	上顎骨 l	上顎骨 u	下顎骨 r	下顎骨 l	下顎骨 u	切歯骨 r	切歯骨 l	切歯骨 u	肩甲骨 r	肩甲骨 l	肩甲骨 u	上腕骨 r	上腕骨 l	上腕骨 u	橈骨 r	橈骨 l	橈骨 u	尺骨 r	尺骨 l	尺骨 u	中手骨 r	中手骨 l	中手骨 u
ネズミ Muridae																																		
1a面下北東																																		
1b面上南西							per2																per1											
ピット66																																		
溝6							per1																											
溝8																																		
土壙28														per2									per2											
土壙28																																		
不明																														per1				
方整1上							per1																											
合計							4							2									3						1				
ヒト Homo sapience sapience																																		
1b面上																																		
1b面上																										s1*				p1				
2面下																											s1							
井戸1																																		
溝14																										s2								
溝210																											s1*							
溝213																																		
溝214																							s1*		s1									
溝23																									s1*									
土壙219																							s1		s1									
土壙219																																		
土壙8																																		
墓	s1																																	
合計	1																						2		3	3		2		1				

獣骨分類表

大腿骨			膝蓋骨			脛骨			距骨			踵骨			中足骨			中手・足骨			手・足根骨			基節骨			中節骨			末節骨		
r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u
ネズミ Muridae																																
	perl																														
			pl	perl																											
perl																															
perl																															
per2	pl			pl																											
	perl																														
perl																															
5	3		1	2																											
ヒト Homo sapience sapience																															
sl*																															
sl*	dl/l*			sl*#																											
			sl*																												
			sl*																												
sl*	sl/dl		sl*	sl*																											
3	4		3	2																											

出土地	頭骨	環椎	軸椎	頚椎	歯骨 r l u	上顎骨 r l u	下顎骨 r l u	肩甲骨 r l u	手根骨 r l u	岩骨	尾椎骨
イルカ科 Delphinidae *(Grampus griseus)*											
1a面	s1					s1* s1*					
1a面下		1*	3*				s1				s1
1a面下南						s1* s3					
1a面下北	s1#										
1a面下北東						s1*					
1a面道路面上			18								
1b道路			1*#								
1b面		1*					s1				
1b面下			1*			s1					
1b面上北西			2								
2面下	s1										
T,T 4			1*			s1*					
TT 2								s1			
ピット127／128										s1	
ピット40										s1	
井戸4					s1 s1						
溝208			3*								
溝22							s1				
溝31			1#								
溝5			1*								
溝9	per3	1	2*			per3* per3*					
調査区東壁	s1*										
土壙15							s1			s1	
土壙16											s1
土壙203			1*#								
土壙212			4*								
土壙8	s1		1*								
包含層			4*1#		s2					s1	
方竪1			2*								
方竪1上									per1		
方竪201		1*						s1			
合計	8	4	45		2 3	6 8 1	1 3	2	1	4	2

出土地	胸骨	烏口骨 r l u	上腕骨 r l u	大腿骨 r l u	頚骨 r	中手骨 r l u	不明
ニワトリ Gullus g. var. domestica							
TT4			pl/sl	pl			
ガン							
トレンチ						perl	
1面上層土壙			dl				
溝7		perl					
方墾1下				pl			
ヒシクイ属 Anser spp.							
1a面下						perl	
トビ Milvus migrans							
1a面下						sl	
キジ Phasianus colchicus							
TT4				sl			
不明		sl					
キジ or ニワトリ							
方墾1上	sl						
ハト Columbidae							
			sl				
カモ類 Gen. et sp. indet							
2面					sl		
ミズナギドリ類 Order Trocellariiformes							
東Scc.19			sl				
トリ類							
土壙28							sl

出土地	前頭骨	上後頭骨	上額骨	鰓蓋骨	腹椎骨	軸椎	椎体	関節骨	尾骨	尾部状骨	棘刺	歯	前上顎 r l u	歯骨 r l u	甲	腹甲板 r	不明
マダイ Pagrus major																	
1b面下南								s2									
ピット52													perl				
ピット86														perl			
ピット86		s1*			s1												
溝16	s1																
溝2		s1*															
方竪201	s1																
不明													s1				
カツオ Katsuwonus pelamis																	
1b面上南西									s1								
コショウダイ																	
1a面下													perl				
カジキ Xiphias gladius																	
1a面下				s1						s1			s1				
1b面						s1											
1b面下南											s1*						
1b面上						s1											
1面上			s1	s1			s1				s1						
1面上層土壙											s1						
TT4						s1											
溝11											s1						
溝201											s2						
溝203											s1						
溝205						s1											
溝208											s33						
溝8,土壙8											s1						
溝9上								perl									
土壙1						s1											
土壙15											s1*						
土壙206											s2						
土壙210						s2											
土壙25											s1*						
包含層				s3		s1					s35						
方竪1											s2						
方竪1上						s1											
アンコウ																	
TT4													s1				
TT													s1	s5			
サカナ類																	
1b面上南西											s1						
1b面上北西											s1						
溝11											s3						
溝203											s1						
土壙28											s1						s1
方竪1下																	s1
不明																	s1

加工獣骨表

出土地	上腕骨			橈骨			中手骨			大腿骨			脛骨			中足骨			中手・足骨			肋骨			四肢骨			その他
	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	u
ウシ Bos taurus																												
1b下								dl						sl			s2											
1b下					pl									dl														
1b下南																	sl											
1b面								dl								pl	sl											
1b面								p2												sl								
1b面																				sl								
1b面下					sl				sl																			
1b面下南																	sl			sl								
1b面下北								pl						pl	sl													
2面下					pl	ptl								dl														
2面下					dl			dl																				
2面下						p2		p2									sl											
2面下								pl									sl											
2面下														dl														
3面下																				sl								
ピット102																				sl								
ピット120																	sl											
ピット127,128								pl																				
ピット208					dl																							
ピット208																	pl											
ピット209														dl														
井戸2								pl																				
溝201																	sl											
溝203					sl			dl									s2											
溝205						p1																						
溝213					per1	ptl								p2	sl		p3											
溝213					dl									dl			pl											
溝214					sl			pl								pl												
溝214						p1		dl							p2	pl		sl		sl								
溝214					ptl	sl											pl											
溝214																	p4											
溝214															dl													
溝214														pl														
溝214								dl						dl														
溝215														dl														
溝23														dl														
溝28														pl														
溝3												dl					pl											

加工獣骨表

出土地	上腕骨			橈骨			中手骨			大腿骨			脛骨			中足骨			中手・足骨			肋骨			四肢骨			その他
ウシ	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	u
溝31																				s2								
溝32																dl												
溝5																	pl											
溝8							pl																					
溝9										sl																		
溝9																				sl								
土坡1																	pl											
土坡15								pl																				
土坡203							pl																					
土坡206													dl															
土坡216																	pl											
土坡219								pl																				
土坡219							dl																					
土坡222							pl																					
土坡28																	pl											
土坡28																				sl								
土坡3																		sl										
土坡7								pl																				
土坡8溝8		sl																										
包含層							pl																					
方型1上																pl												
方型201																		sl										
ウマEquus caballus																												
1b面下					sl																							
2面下							pl									perl												
溝201					sl																							
溝210																dl												
溝210																		dl										
溝213								perl																				
溝214				dl				pl									perl											
溝214																		dl									sl	
溝23																		dl										
溝9上																		dl										
土坡9							pl																					

加工獣骨表

出土地	上腕骨			橈骨			中手骨			大腿骨			脛骨			中足骨			中手・足骨			肋骨			四肢骨			その他
	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	u
ウシorウマ																												
1a面下																						s2						
1b下北東																						s1						
1b面																									s3			
1b面下																									s8			
1b面下南																									s1			
1b面下北																									s1			
1b面上																									s1			
1面下																									s1			
1面上																						s2						
1面上南東																									s2			
2面下																									s4			
ピット209																									s1			
溝17																									s3			
溝201																									s1			
溝203																						s1						
溝204																									s7			
溝214																									s1			
溝215																									s1			
溝22																									s1			
溝4																									s1			
溝5																									s2			
溝6																									s1			
溝6井戸1																									s1			
溝9																						s1			s1			
土壙1																									s1			
土壙203																						s2						
土壙206																									s1			
土壙207																									s3			
土壙210																									s1			
土壙211																									s1			
土壙27																									s2			
土壙28																									s2			
土壙5																									s1			
包含層																						s2						
包含層																									s1			
方墨201																						s4						
方墨201																									s2			

加工獣骨表

出土地	上腕骨			橈骨			中手骨			大腿骨			脛骨			中足骨			中手・足骨			肋骨			四肢骨			その他
	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	r	l	u	u
イルカFamily Delphinidae																												
TT 3																												sl
シカFamily Cervidae																												
TT																												sl

出土地点	種別	長	径	高	
1a面下	アカニシ			109+α	螺塔・反対体層を欠く
1a面下	アカニシ			54	軸のみ
1a面下	アカニシ			84+α	軸の一部
1a面下	アカニシ			69+α	螺塔・軸を欠く
1a面下	アカニシ			105	軸のみ
1a面下	アカニシ		80+α	119	反対体層を欠く
1a面下	アカニシ		93.5	117	螺塔下体層を欠く
1a面下	アカニシ			94	反対体層を欠く
1a面下	アカニシ			112+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く
1a面下	アカニシ			106	外唇・反対体層を欠く
1a面下	アカニシ			107+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く
1a面下	アカニシ			103+α	螺塔を欠く　軸のみ
1a面下	サザエ				フタのみ
1a面下	ツメタガイ			33	軸のみ
1a面下	ツノキガイ？			110+α	螺塔と体層を欠く
1b面	アカニシ				
1b面下	アカニシ			115+α	螺塔・反対体層を欠く
1b面下	アカニシ		81.5	99	螺塔下反対体層を欠く
1b面下	バイ			51	外唇を欠く
1b面下	バイ			47.5	外唇を欠く
1b面下	ツメタガイ		21	20	外唇を欠く
1b面下	アカニシ			76.4+α	口唇・反対体層・螺塔を欠く
1b面下	アカニシ				螺塔のみ
1b面下	アカニシ			89+α	軸の一部
1b面下	アカニシ			49+α	軸の一部
1b面下	アカニシ		77	96+α	螺塔下体層を欠く
1b面下	アカニシ		91	？	外唇・反対体層・螺塔を欠く
1b面下	アカニシ		？	101.5+α	軸のみ
1b面下	バイ		27	47.5	外唇を欠く
1b面下	アカニシ		95.3	114	反対体層を欠く
1b面下	アカニシ			62+α	反対体層・螺塔を欠く
1b面下	アカニシ			124	反対体層を欠く
1b面下	アカニシ			107+α	反対体層・螺塔を欠く
1b面下	チョウセンハマグリ	73+α		61+α	
1b面溝6土壙5	アカニシ			114+α	螺塔・反対体層を欠く
1b面上	チョウセンハマグリ	73.5		58	片殻
1b面遺路3	アカニシ			117	外唇・螺塔反対体層を欠く
1面上	トコブシ	41+α			
1面上	アカニシ			116	外唇と反対体層を欠く
2面下	アカニシ			90+α	螺塔を欠く　体層一部残す
2面下	アカニシ			92+α	螺塔を欠く　軸のみ
2面下	アカニシ			72+α	外唇を残す
2面下	バイ			42	体層下半を欠く
2面下	バイ			36+α	螺塔と反対体層を欠く
2面下	ダンベイキサゴ		26	19	外唇を欠く
2面下	ダンベイキサゴ			15	外唇を欠く
2面下	アカニシ		81.5	98	螺塔下反対体層を欠く
2面下	アカニシ			110.5	軸のみ
2面下	アカニシ				軸上半真黒に焼ける
2面下	ダンベイキサゴ		31	23.5	外唇を欠く
2面下	ダンベイキサゴ			23.5	軸のみ
2面下	ダンベイキサゴ			20.5	軸のみ
2面下	サザエ				フタ
3面下	ボウシュウボラ		75	121.5+α	螺塔を欠く
3面下	チョウセンハマグリ				殻頂のみ
4号井戸	アカニシ			108+α	反対体層・軸下端を欠く
4号井戸	アカニシ			87+α	螺塔・反対体層を欠く
4号井戸	アカニシ			112+α	螺塔・反対体層を欠く
4号井戸	アカニシ			99+α	
1面上層土壙	チョウセンハマグリ			？	殻頂
1面上層土壙	ダンベイキサゴ		？	20	軸のみ
1面上層土壙	ダンベイキサゴ			17	軸のみ
1面上層土壙	ワスレガイ				殻頂
1面上層土壙	バテイラ		14+α	19	外唇を欠く

出土地点	種別	長	径	高	
1面上層土壙	バイ		33	57	外唇を欠く
1面上層土壙	ベンケイガイ				食用　片殻
1面上層土壙	アカニシ		80.5+α	101+α	螺塔・反対体層を欠く
1面上層土壙	アカニシ				焼けている　軸の一部
1面上層土壙	アカニシ		?	105+α	螺塔・反対体層を欠く
1面上層土壙	イボキサゴ		18.6	16	外唇を欠く
1面上層土壙	アカニシ			115	軸と外唇を残すのみ
1面上層土壙	アカニシ		?	92+α	軸のみ
1面上層土壙	アカニシ			129+α	螺塔と反対体層を欠く
1面上層土壙	アカニシ			114.5	軸のみ
1面上層土壙	アカニシ			70	軸のみ
1面上層土壙	ハマグリ				破片　幼貝～成貝
1面上層土壙	チョウセンハマグリ	69		56	
1面上層土壙	チョウセンハマグリ	61+α		51	
1面上層土壙	チョウセンハマグリ				
1面上層土壙	チョウセンハマグリ				
1面上層土壙	チョウセンハマグリ				
1面上層土壙	チョウセンハマグリ				
ピット12	ダンベイキサゴ			21.6	軸のみ
ピット13	チョウセンハマグリ	?		?	片殻
ピット13	アカニシ			106+α	螺塔・反対体層を欠く
ピット13	アカニシ			101+α	螺塔・反対体層を欠く　上部に被熱痕
ピット13	アカニシ			118	軸のみ
ピット204	ハマグリ	?	?		
ピット204	チョウセンハマグリ	?	?		
ピット209	クロアワビ				幼貝断片
ピット209	バテイラ		34		軸を欠く
ピット209	ダンベイキサゴ		20+α	19	外唇を欠く
ピット209	ダンベイキサゴ			14.5	軸のみ
ピット209	ダンベイキサゴ			17.5	軸のみ
ピット209	サザエ			52	軸のみ
ピット209	アカニシ			68+α	軸の一部
ピット209	アカニシ		?	114+α	下端を欠き軸と外唇部のみを残す
ピット209	アカニシ			80+α	軸のみ
ピット209	アカニシ			108+α	螺塔・反対体層を欠く
ピット209	アカニシ				軸の一部
ピット209	アカニシ			79.5	軸のみ
ピット209	アカニシ		?	?	軸下端のみ
ピット209	ハマグリ	68		62	片殻
ピット209	チョウセンハマグリ	62+α		51+α	片殻
ピット209	バイ		32+α	49	外唇・反対体層を欠く
ピット24	アカニシ		103	92+α	螺塔を欠く
ピット3	アカニシ			105	反対体層を欠く
ピット52	アカニシ			95+α	螺塔と反対体層を欠く
ピット53	アカニシ		54+α	79+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く　反対体層に被熱痕あり
ピット80	チョウセンハマグリ				
ピット86	アカニシ			112+α	螺塔と体層のほとんどを欠く
溝12	ツメタガイ	?		32	軸上半
溝13	ツメタガイ				
溝13	ハマグリ	51+α		41+α	片殻のみ
溝14	サザエ				フタのみ
溝14	ダンベイキサゴ		25	15.5	外唇を欠く
溝14			32	15.5	外唇を欠く
溝14	アカニシ			123.5+α	軸のみ
溝14	アカニシ		95	109.5	螺塔下体層を欠く
溝14	アカニシ				上半部のみ
溝14	アカニシ		106＋α	121＋α	螺塔と反対体層を欠く
溝18	アカニシ			91	螺塔下反対体層を欠く
溝18	サザエ				フタのみ
溝18	アカニシ			42	軸のみ
溝18	アカニシ			132	軸のみ外唇を一部残す
溝18	アカニシ			80+α	軸上半
溝18	アカニシ			103	螺塔と反対体層を欠く
溝18	アカニシ			97+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く

出土地点	種別	長	径	高	
溝18	アカニシ		84+α	115	螺塔下体層・外唇を欠く
溝201	アカニシ		77	88	螺塔下体層を欠く
溝201	サザエ				フタ
溝202	アカニシ			114	軸のみ
溝202	アカニシ			137	軸のみ
溝203	アカニシ			122	軸のみ
溝205	アカニシ			125	反対体層を欠く
溝205	アカニシ			123	反対体層を欠く
溝207	アカニシ			113	反対体層を欠く
溝210	アカニシ			100	反対体層を欠く
溝210	アカニシ			92	反対体層を欠く
溝213	アカニシ		93	104	螺塔下反対体層を欠く
溝213	アカニシ		88	99	螺塔下反対体層を欠く
溝213	アカニシ		100	119	
溝213	アカニシ		83	94	
溝213	アカニシ		81.5	103.5	
溝213	アカニシ			129+α	螺塔を欠く　軸・外唇を欠く
溝213	アカニシ			121+α	螺塔を欠く　軸・外唇を欠く
溝213	アカニシ			88+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			97+α	螺塔・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			111.5	外唇・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			111	外唇・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			76.5	外唇・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			67	外唇・反対体層を欠く
溝214	アカニシ			94	軸のみ
溝214	アカニシ			82	軸のみ
溝214	アカニシ			114	軸のみ
溝214	アカニシ			107	軸のみ
溝214	アカニシ			104	軸のみ
溝214	アカニシ		90	115	螺塔下反対体層を欠く
溝214	アカニシ		84	102	螺塔下反対体層を欠く　体層焼ける
溝214	アカニシ		90	115	螺塔下反対体層を欠く　焼ける
溝214	チョウセンハマグリ	84		69	片殻
溝214	チョウセンハマグリ	72+α		60	片殻
溝214	メカイアワビ				
溝214	アカニシ		81	98	螺塔下反対体層を欠く
溝214	チョウセンハマグリ	72+α		62+α	片殻のみ
溝214	アカニシ			109	軸と外唇の一部を残す
溝214	アカニシ	12	95.4	122.5+α	螺塔・螺塔下体層を一部欠く
溝214	アカニシ		?	110	外唇と反対体層を欠く
溝214	ツノキガイ？			115+α	螺塔を欠く　軸のみ
溝214	サザエ				フタ
溝214	アカニシ			37+α	螺塔を欠く　軸
溝214	マダカアワビ				
溝214	ツメタガイ		29	44	外唇を欠く
溝214	サザエ				フタのみ
溝214	アカニシ			109	外唇と反対体層を欠く
溝214	チョウセンハマグリ	93		69	片殻
溝214	アカニシ			86+α	螺塔を欠く　軸
溝214	アカニシ			42+α	螺塔を欠く　軸
溝214	アカニシ			129	反対体層を欠く
溝215	アカニシ			127	被熱を受け反対体層を欠く
溝215	アカニシ			89+α	反対体層を欠く
溝22	アカニシ			107+α	螺塔・反対体層を欠く　外唇に被熱痕あり
溝23	サザエ				フタのみ
溝27	アカニシ			109+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く
溝28	マガキ	109		79	片殻
溝3	アカニシ		88.3	92+α	螺塔と螺塔下体層を欠く
溝3	アカニシ			76+α	螺塔と反対体層を欠く
溝3	アカニシ				軸上半
溝33	チョウセンハマグリ	56+α			片殻
溝33	サザエ		88	97	外唇を欠く
溝5	サルボウ	61		51	片殻
溝5	チョウセンハマグリ	?		?	片殻

貝類観察表

出土地点	種別	長	径	高	
溝5	チョウセンハマグリ	59		51	片殻
溝5	カガミガイ	69		66	片殻
溝6	ウチムラサキガイ	75		63	片殻
溝6	アカニシ	?	48	54	外唇を欠く
溝6	サザエ	?		?	フタのみ
溝6	ツメタガイ	?	27+α	20	外唇を欠く
溝6	アサリ	27		20	片殻
溝7	アサリ	26		19	片殻
溝8	ダンベイキサゴ	?		21	
溝9	アカニシ			112+α	螺塔を欠く軸と外唇を残すのみ
溝9上層	アカニシ			99+α	下端を除く　軸と外唇を残す
溝9上層	アカニシ		58.4	61.5+α	外唇・螺塔を欠く
溝9上層	アカニシ			145.7	口唇・反対体層を欠く
試掘壙	バイ		14.5	38.5	外唇を欠く
試掘壙	チョウセンハマグリ	81.3		64.3	片殻
試掘壙	チョウセンハマグリ	?			片殻
試掘壙	チョウセンハマグリ	?			片殻
試掘壙	ダンベイキサゴ		36	23.5	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		31	19	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		30	22	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		26+α	19.5	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		28.5	19	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		14.5+α	19.5	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		25	18.7	外唇を欠く
試掘壙	ダンベイキサゴ		25	20	外唇を欠く
土壙15	ダンベイキサゴ				外唇を欠く
土壙16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土壙16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土壙16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土壙207	アカニシ		82＋α	97＋α	螺塔と外唇、螺塔下体層を欠く
土壙210	サルボウガイ	60.5		50.5	片殻
土壙210	バイ			43.5	外唇を欠く
土壙210	ダンベイキサゴ		29	20	外唇を欠く
土壙210	サザエ				フタ
土壙212	アカニシ			121	軸のみ
土壙212	アカニシ		90	101＋α	螺塔下反対体層を欠く　軸下端を欠く
土壙219	アカニシ		87.5	107	螺塔下体層を一部欠く
土壙219	サザエ				軸のみ
土壙219	バイ			47	外唇を欠く
土壙219	ツメタガイ		32	21	外唇を欠く
土壙22	サルボウ	68.6		62	片殻
土壙26	マガキ	86		69.5	片殻
包含層	アカニシ			110	外唇・反対体層を欠く
包含層	アカニシ			73.5	外唇・反対体層を欠く
包含層	アカニシ			100+α	螺塔と体層を欠く
包含層	サザエ		?	?	フタのみ
包含層	ダンベイキサゴ			19.5	軸のみ
包含層	マガキ	87		170	片殻
包含層	アカニシ			120	反対体層を欠く
包含層	アカニシ			112	
包含層	サザエ				フタのみ
包含層	チョウセンハマグリ	89		71	
包含層	チョウセンハマグリ	82		61	
方竪1	チョウセンハマグリ	89		68.4	片殻
方竪1裏込め	ハマグリ			60+α	片殻
方竪1裏込め	ハマグリ				片殻　幼貝
方竪1裏込め	サルボウ	80		64	片殻

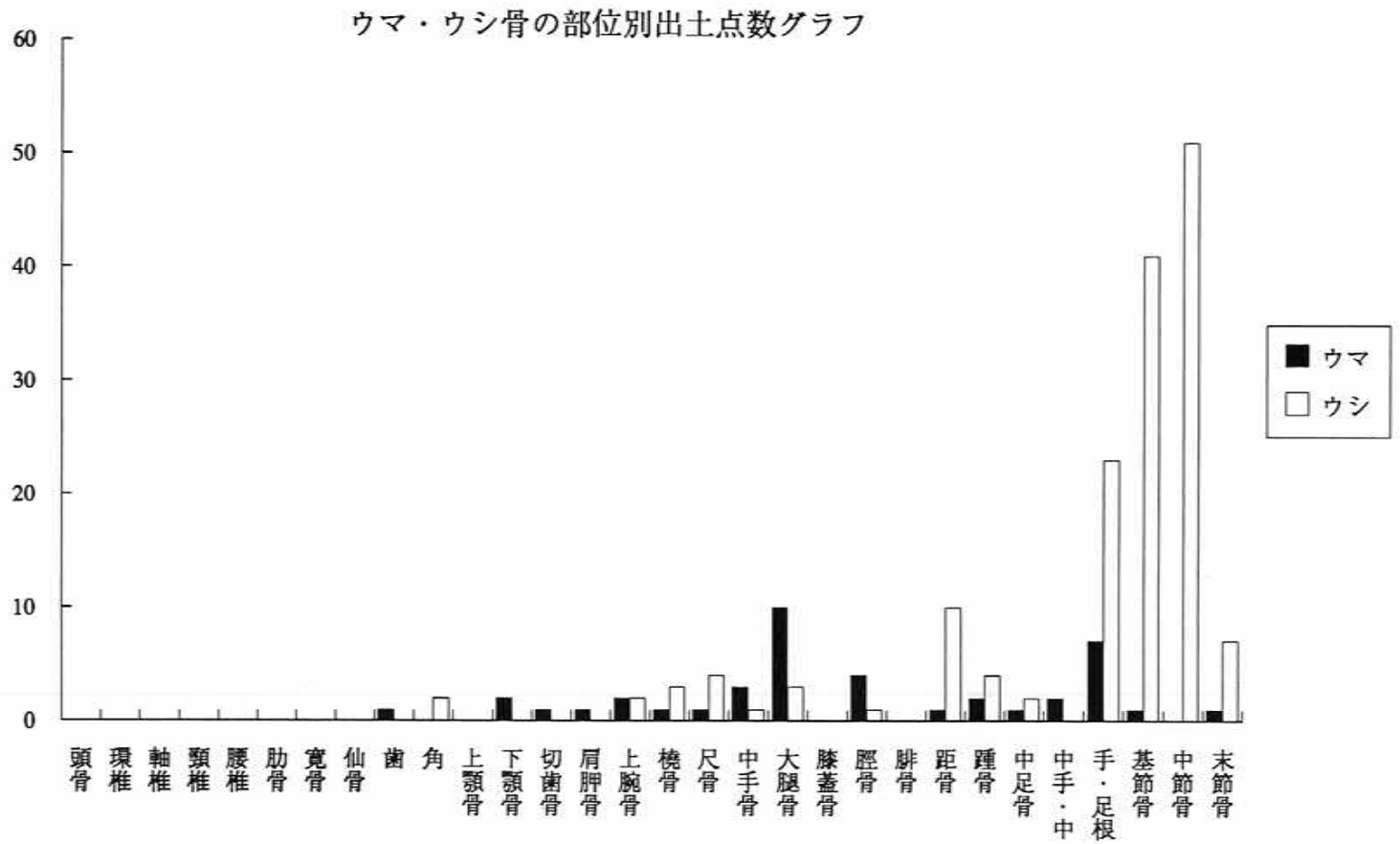
反対体層：外唇の裏側の体層を示す。

貝の出土数表

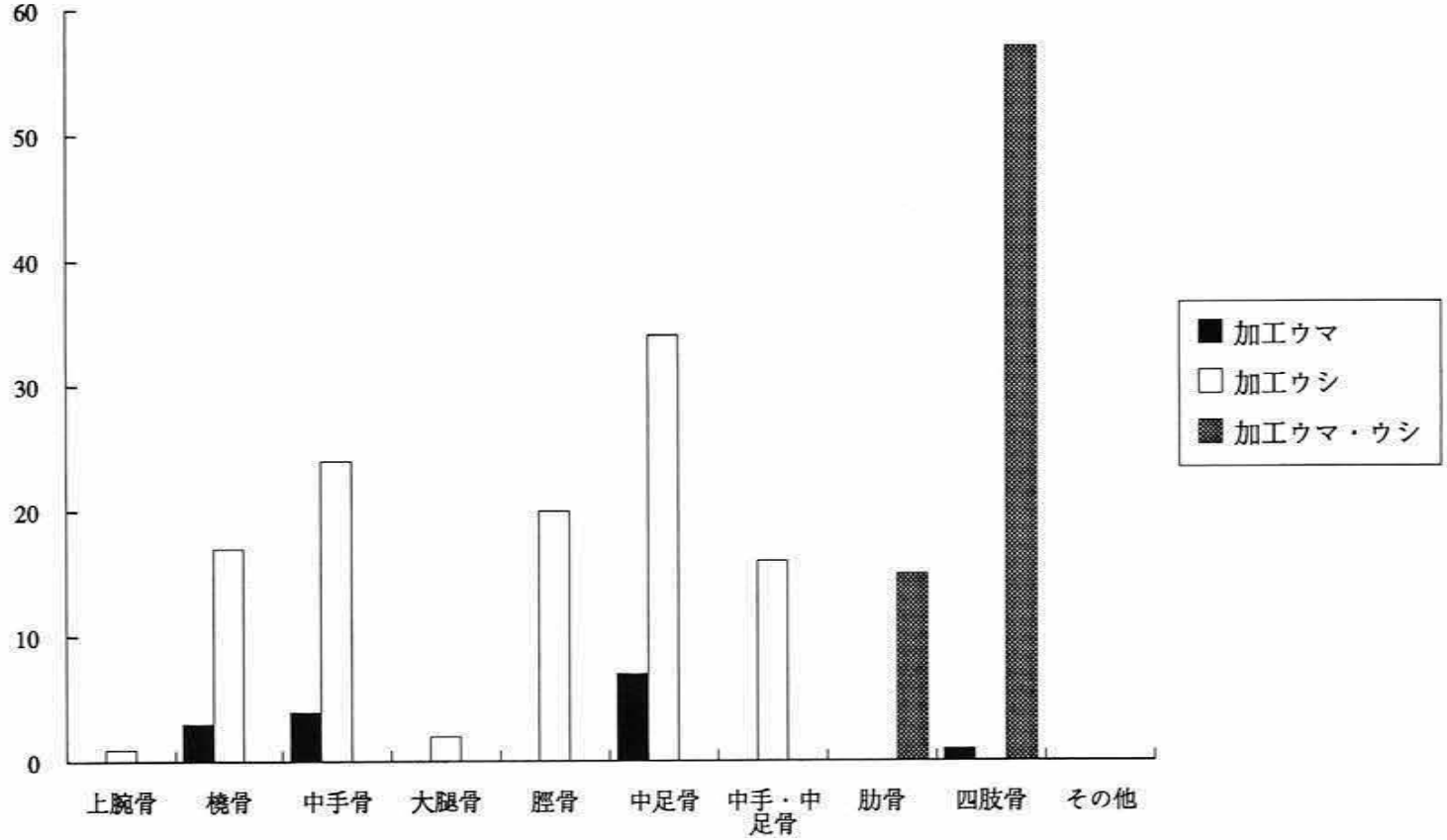
		干潟群集	内湾泥底群集		内湾砂底群集					湾外砂底群集		
	アサリ	カガミガイ	アカニシ	バイガイ	イボキサゴ	ハマグリ	サルボウ	ツメタガイ	ウチムラサキガイ	チョウセンハマグリ	ウスレガイ	ダンベイキサゴ
1a面下			12					1				
1b面			1									
1b面下			13	3				1		1		
1b面溝6土壌5			1									
1b面上										1		
1b面道路3			1									
1面上			1									
2面下			6	2								5
3面下										1		
4号井戸			4									
ピット12										1		
ピット13											1	2
ピット204				1								
ピット24			1									
ピット3			1				1					
ピット52			1									
ピット53					1	1						
ピット80			1									
ピット86			1									
ピット209				1						3		12
1面上層土壌			6			6				8		4
溝12			1									
溝13			2									
溝14			4	1		1				1		
溝18			5					2		1		
溝201						1						
溝202												2
溝203			1									
溝205			2									
溝207			1									
溝210			1									
溝213			7									
溝214			29							2		
溝215			1							1		
溝22			1									
溝23			1									
溝27			1									
溝28								17				
溝3			1									
溝33								11				
溝5			3							1		
溝6			4									
溝7			1									
溝8												
溝9			1									
溝9上層			2							1		
試掘壌	2	1	1				1	1	1	2		1
土壌15			1									
土壌16			3									
土壌207			1									
土壌210				1			1					1
土壌212			2									
土壌219			1	1				1				
土壌22							1					
土壌26												
包含層			5							2		1
方竪1										1		
方竪1裏込め										1		
総計	2	1	133	10	1	9	4	17	1	28	1	28

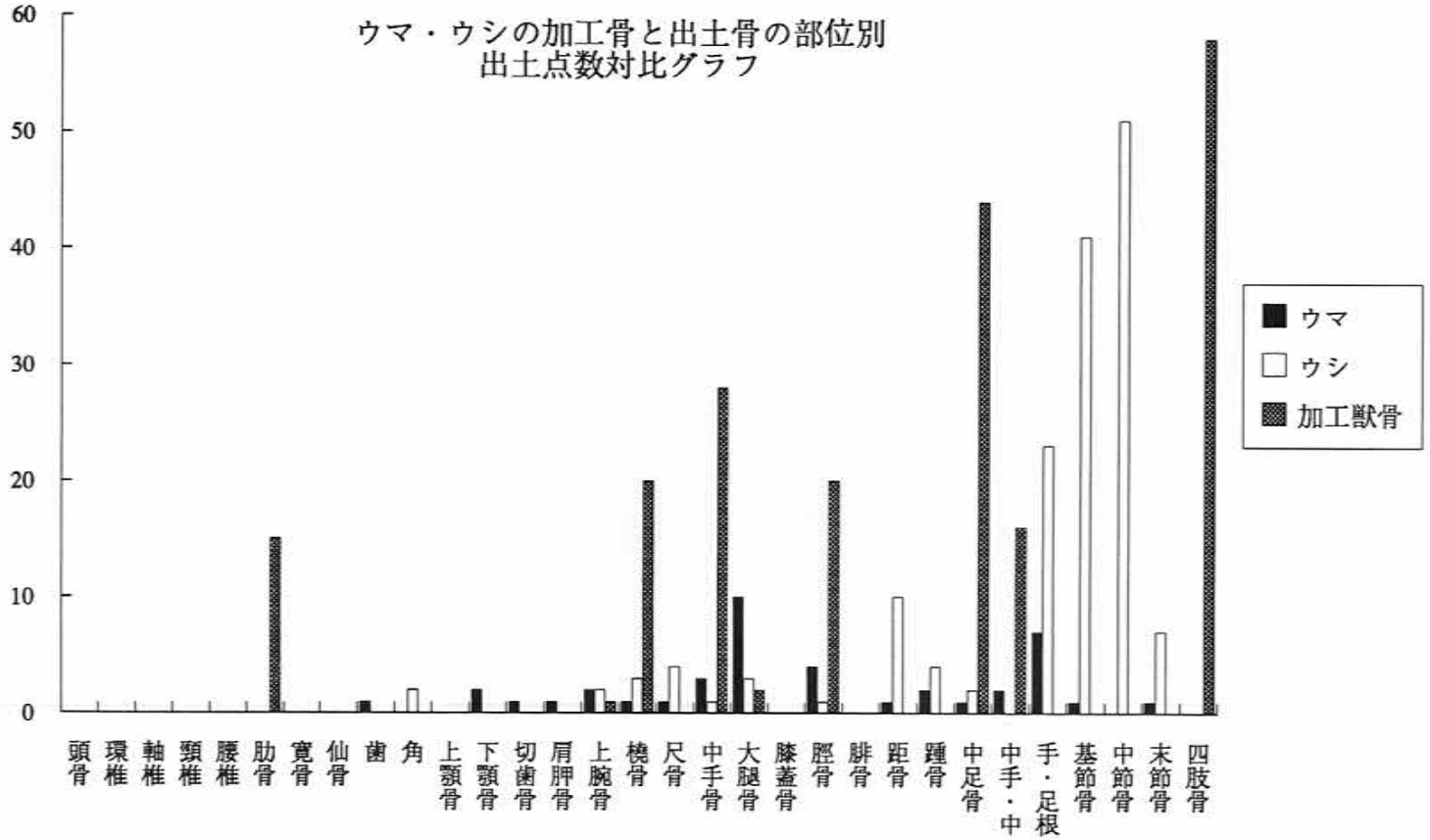
貝の出土数表

	湾外砂底群集			岩礁群集						
	マガキ	ツノキガイ	ベンケイガイ	クロアワビ	トコブシ	マダカアワビ	メガイアワビ	サザエ	バテイラ	ボウシュウボラ
1a面下		17						1		
1b面										
1b面下										
1b面溝6土壙5										
1b面上										
1b面遺路3										
1面上					1					
2面下								1		
3面下										1
4号井戸										
ピット12										
ピット13			1						1	
ピット204										
ピット24										
ピット3										
ピット52										
ピット53										
ピット80										
ピット86										
ピット209										
1面上層土壙				1				1	1	
溝12										
溝13										
溝14										
溝18										
溝201								1		
溝202										
溝203										
溝205										
溝207										
溝210								1		
溝213								1		
溝214							1			
溝215										
溝22										
溝23										
溝27										
溝28										
溝3						1		1		
溝33								1		
溝5										
溝6								1		
溝7										
溝8	1									
溝9										
溝9上層										
試掘壙								2		
土壙15										
土壙16										
土壙207										
土壙210								1		
土壙212										
土壙219								1		
土壙22										
土壙26	1									
包含層	1							3		
方竪1										
方竪1裏込め										
総計	3	0	1	1	1	1	1	16	2	1

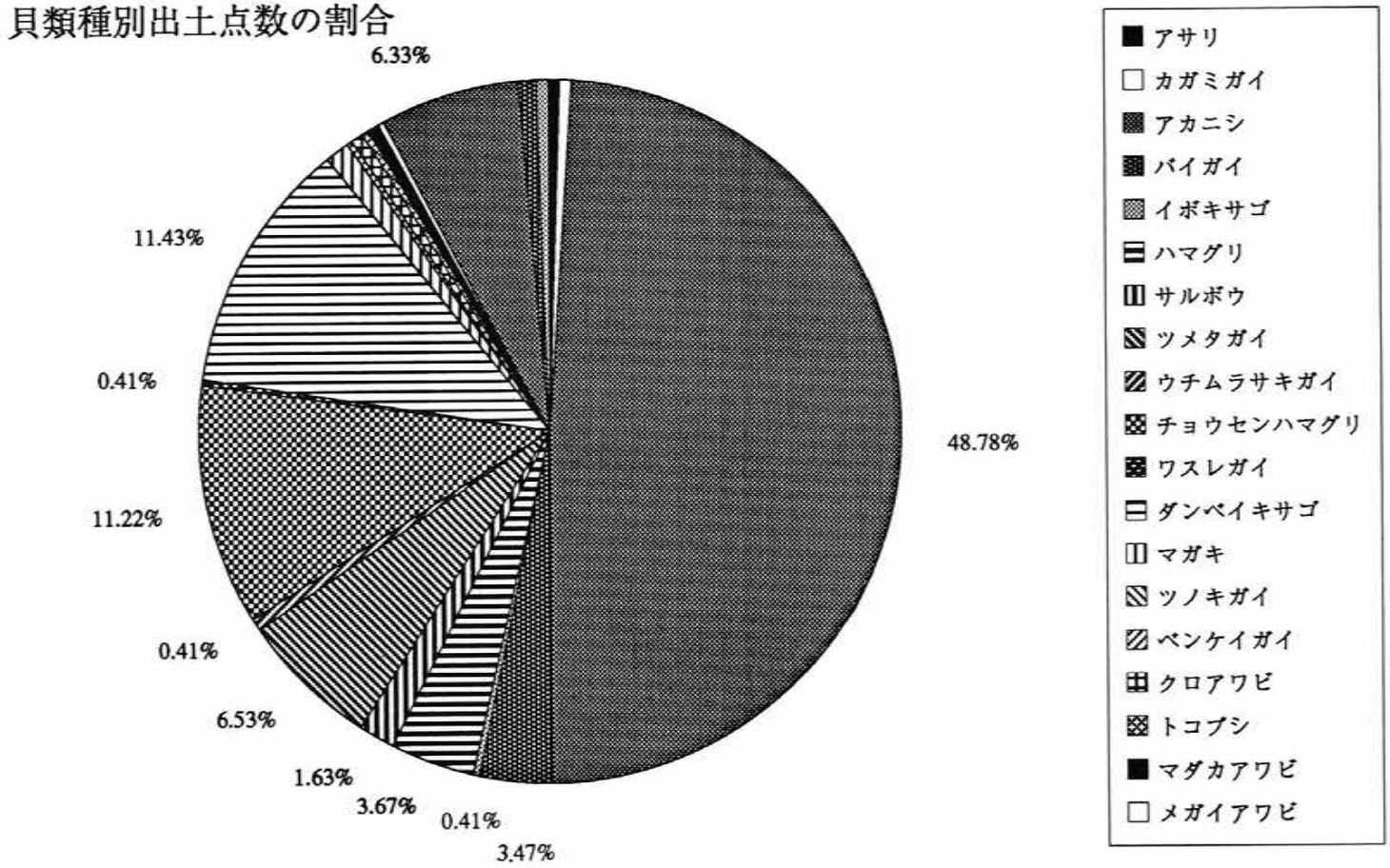

ウマ・ウシ骨の部位別出土点数グラフ
60
50
40
30
20
10
0
ウマ
ウシ
頭骨
環椎
軸椎
頸椎
腰椎
肋骨
寛骨
仙骨
歯
角
上顎骨
下顎骨
切歯骨
肩胛骨
上腕骨
橈骨
尺骨
中手骨
大腿骨
膝蓋骨
脛骨
腓骨
距骨
踵骨
中足骨
中手・中
手・足根
基節骨
中節骨
末節骨

加工ウマ・ウシ骨の部位別出土点数グラフ



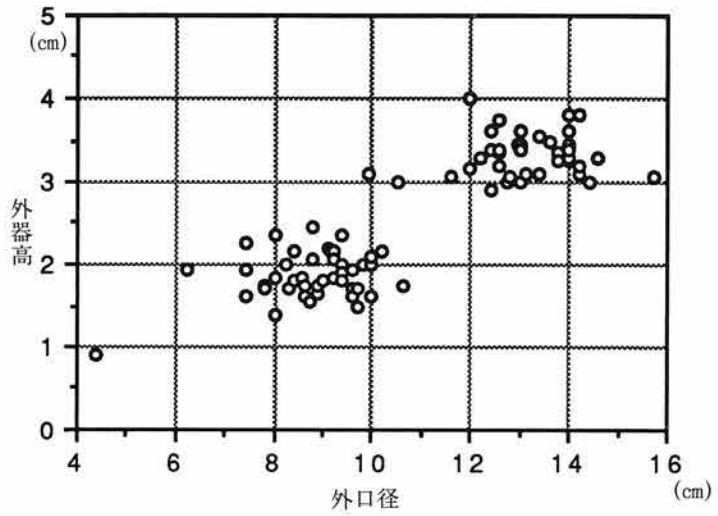

ウマ・ウシの加工骨と出土骨の部位別
出土点数対比グラフ
60
50
40
30
20
10
0
ウマ
ウシ
加工獣骨
頭骨
環椎
軸椎
頸椎
腰椎
肋骨
寛骨
仙骨
歯
角
上顎骨
下顎骨
切歯骨
肩胛骨
上腕骨
橈骨
尺骨
中手骨
大腿骨
膝蓋骨
脛骨
腓骨
距骨
踵骨
中足骨
中手・中
手・足根
基節骨
中節骨
末節骨
四肢骨

貝類出土点数グラフ

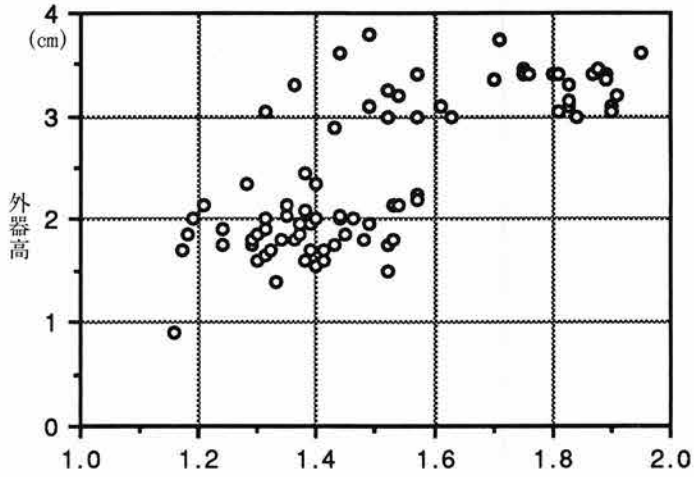

貝類種別出土点数の割合
6.33%
11.43%
0.41%
11.22%
0.41%
6.53%
1.63%
3.67%
0.41%
3.47%
48.78%
アサリ
カガミガイ
アカニシ
バイガイ
イボキサゴ
ハマグリ
サルボウ
ツメタガイ
ウチムラサキガイ
チョウセンハマグリ
ワスレガイ
ダンベイキサゴ
マガキ
ツノキガイ
ベンケイガイ
クロアワビ
トコブシ
マダカアワビ
メガイアワビ

2面　遺構出土糸切りかわらけ

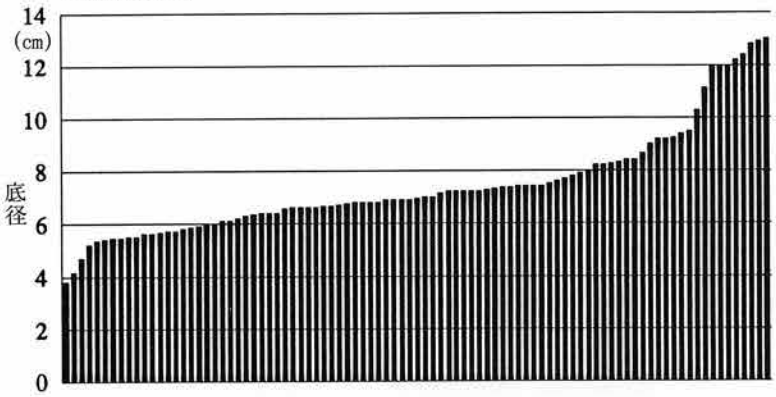
▼外器高－外口径



▼外器高－底径口径比

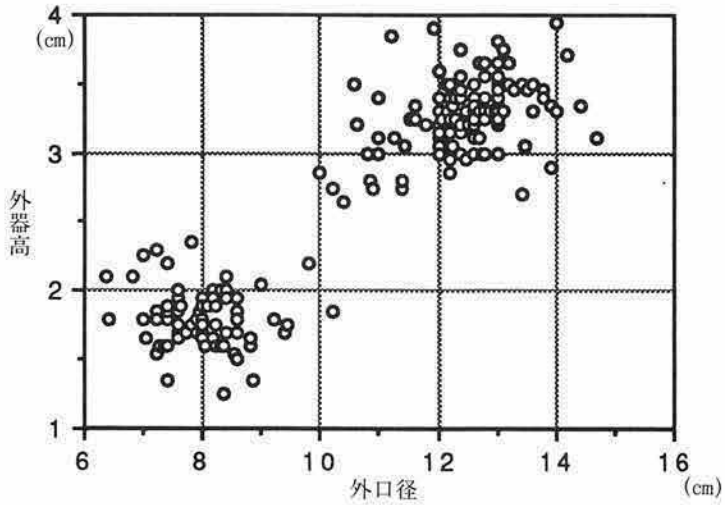


▼底径値分布

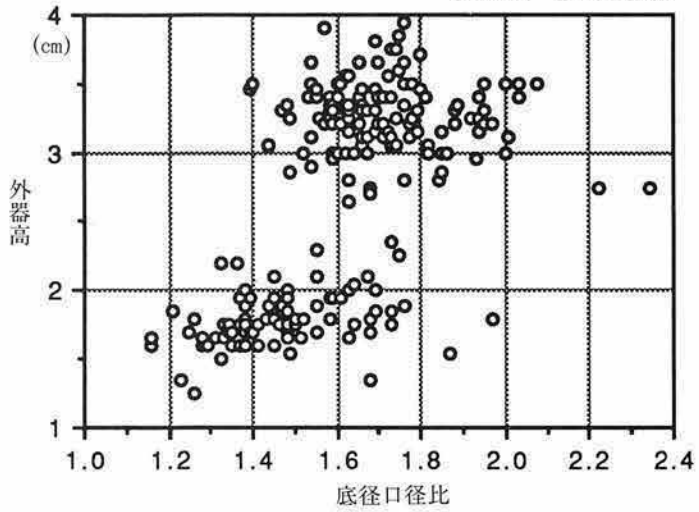


1b面　遺構出土糸切りかわらけ

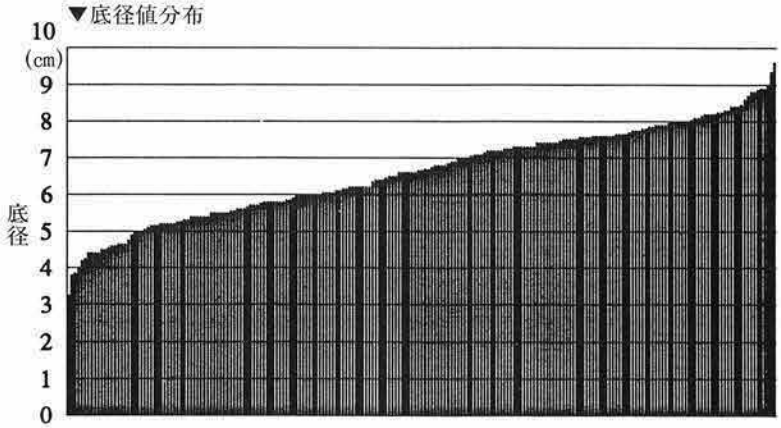
▼外器高－外口径



▼外器高－底径口径比

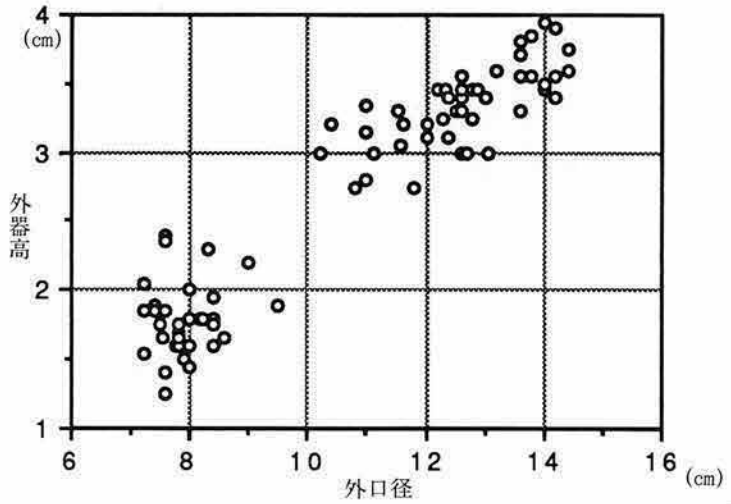


▼底径値分布

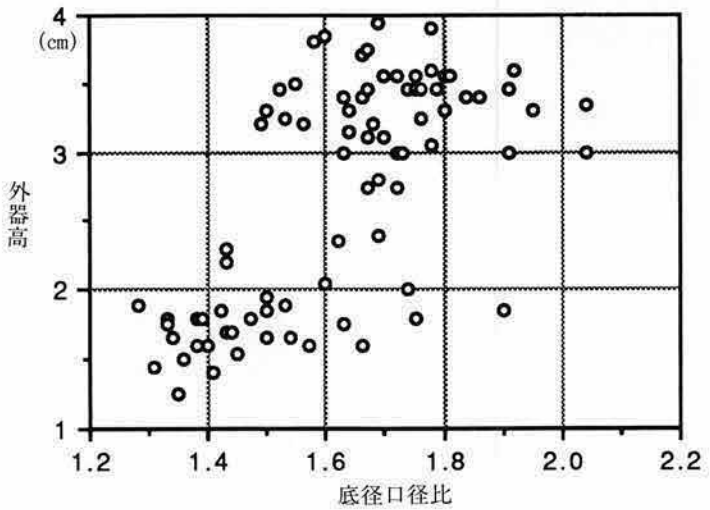


1a面　遺構出土糸切りかわらけ

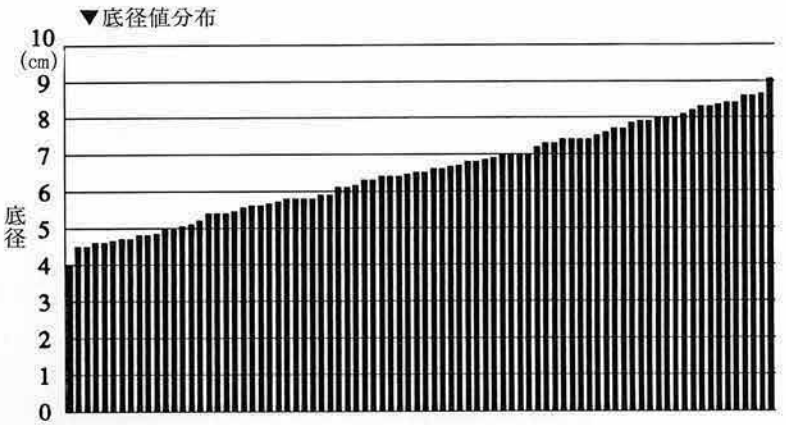
▼外器高－外口径



▼外器高－底径口径比



▼底径値分布

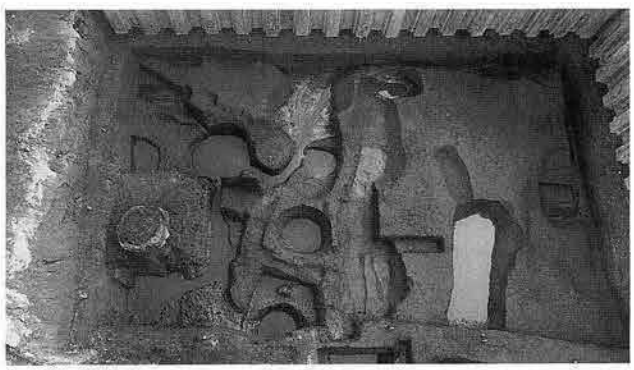


図版 1

▲調査地から海岸を望む

▼古代排水溝（東から）

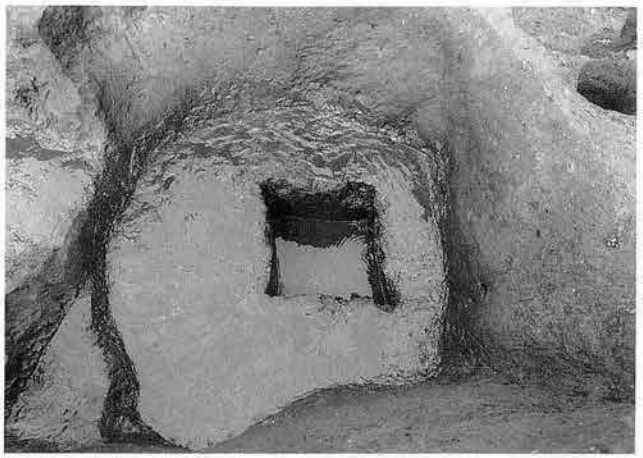
▶2面全景西部（東から）



▶同上東部（西から）

◀土壙墓（東から）

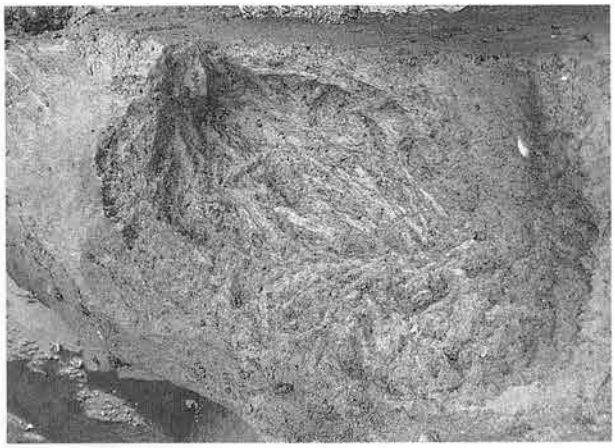
▲溝214内ヒト下顎骨とアカニシ出土状況



◀井戸4全景（南から）

▶井戸4井戸枠（南から）

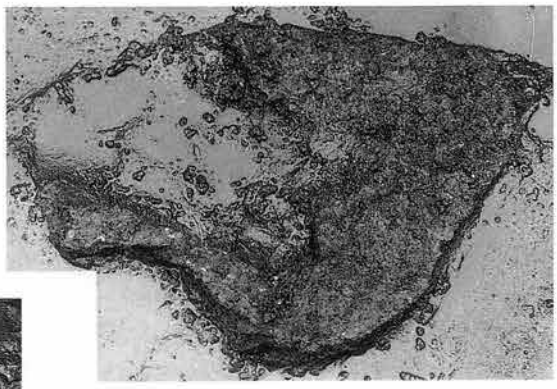
図版 3



▲土壙28内編み籠遺存状況

▼土壙28土層堆積

▲土壙18完掘状態



▲土壙18内編み籠痕

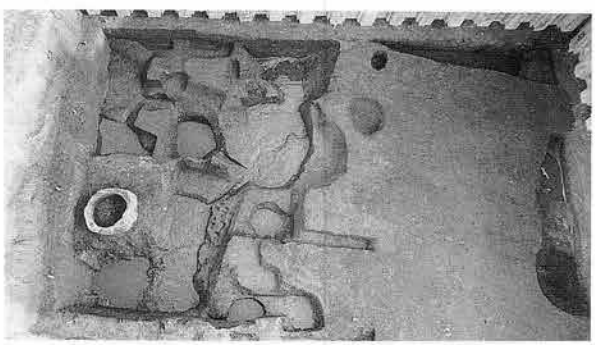
▲土壙18かわらけ出土状況

▲土壙18内かわらけ出土状況

▼1b 面西部全景（東から）

▼方形竪穴建築址 1 全景（西より）

▼1b 面東部全景（西から）



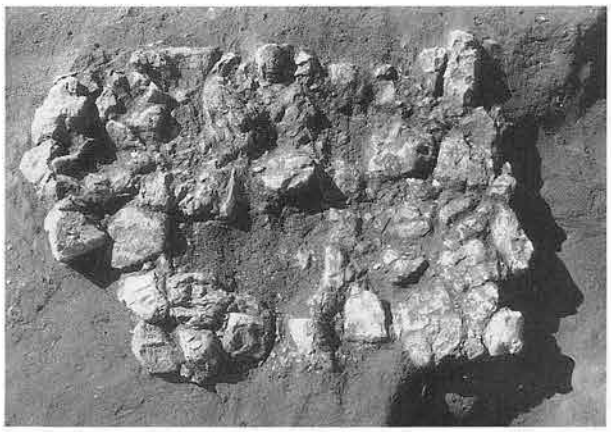
図版 5

▲方形竪穴建築址 1
北東部配石状況と土台角材痕

▼ 1 a面全景（東から）
左上方：大仏方面　右上方：御成方面

▲ 1 a面道路

▼1 b 面下 B－5 グリッドかわらけ
出土状況

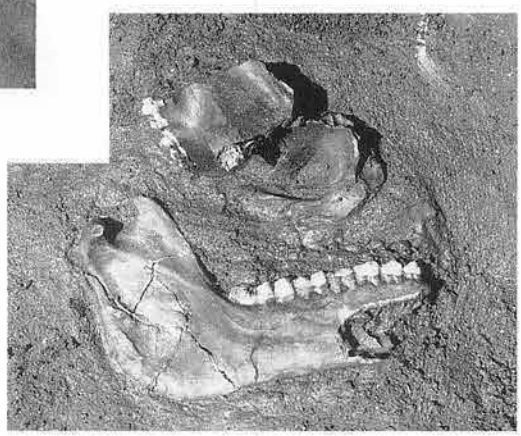


◀ 1 a面Ⅳ区
泥岩敷

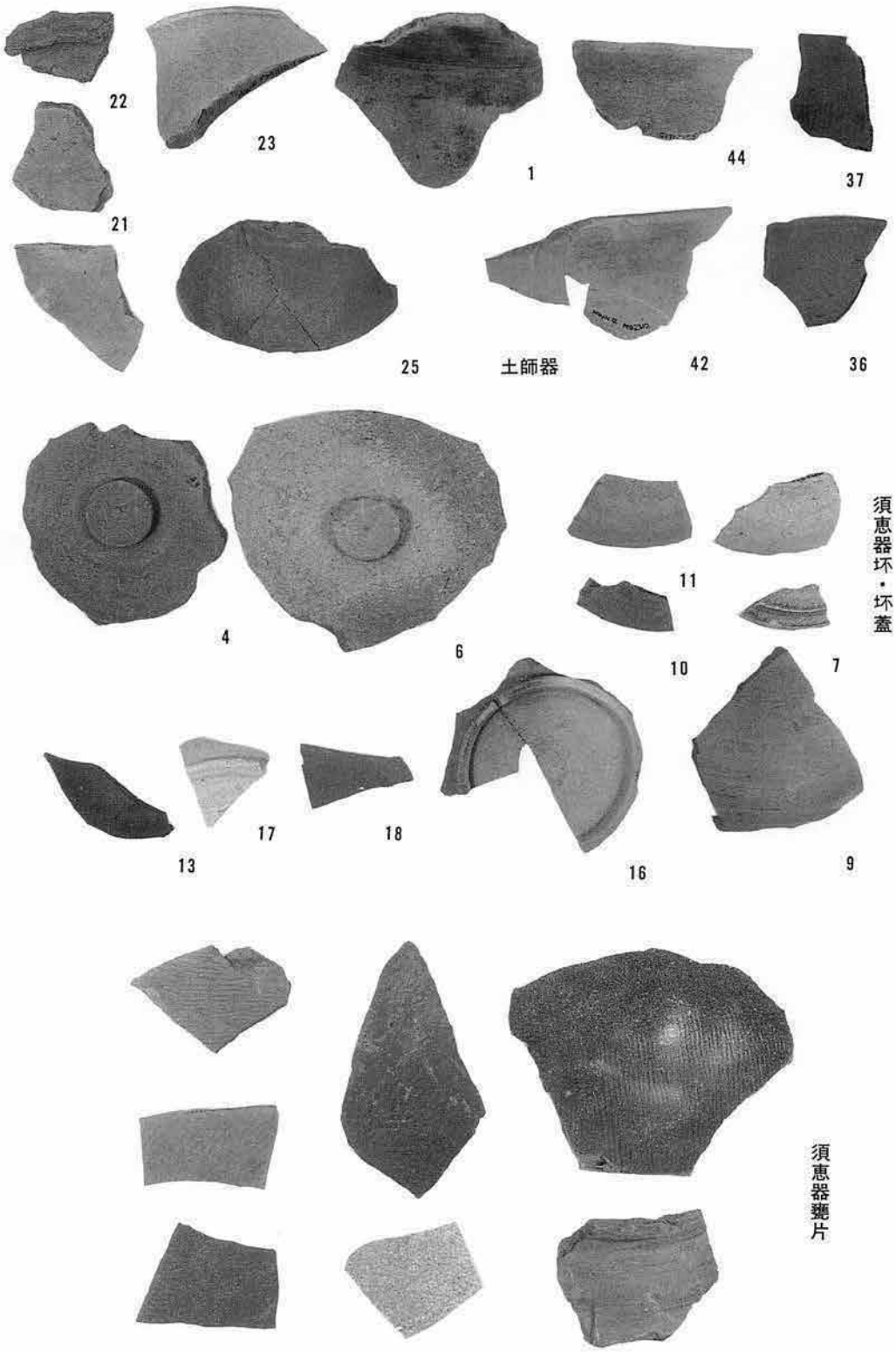
1 a面道路面上▶
イルカ椎体
出土状況

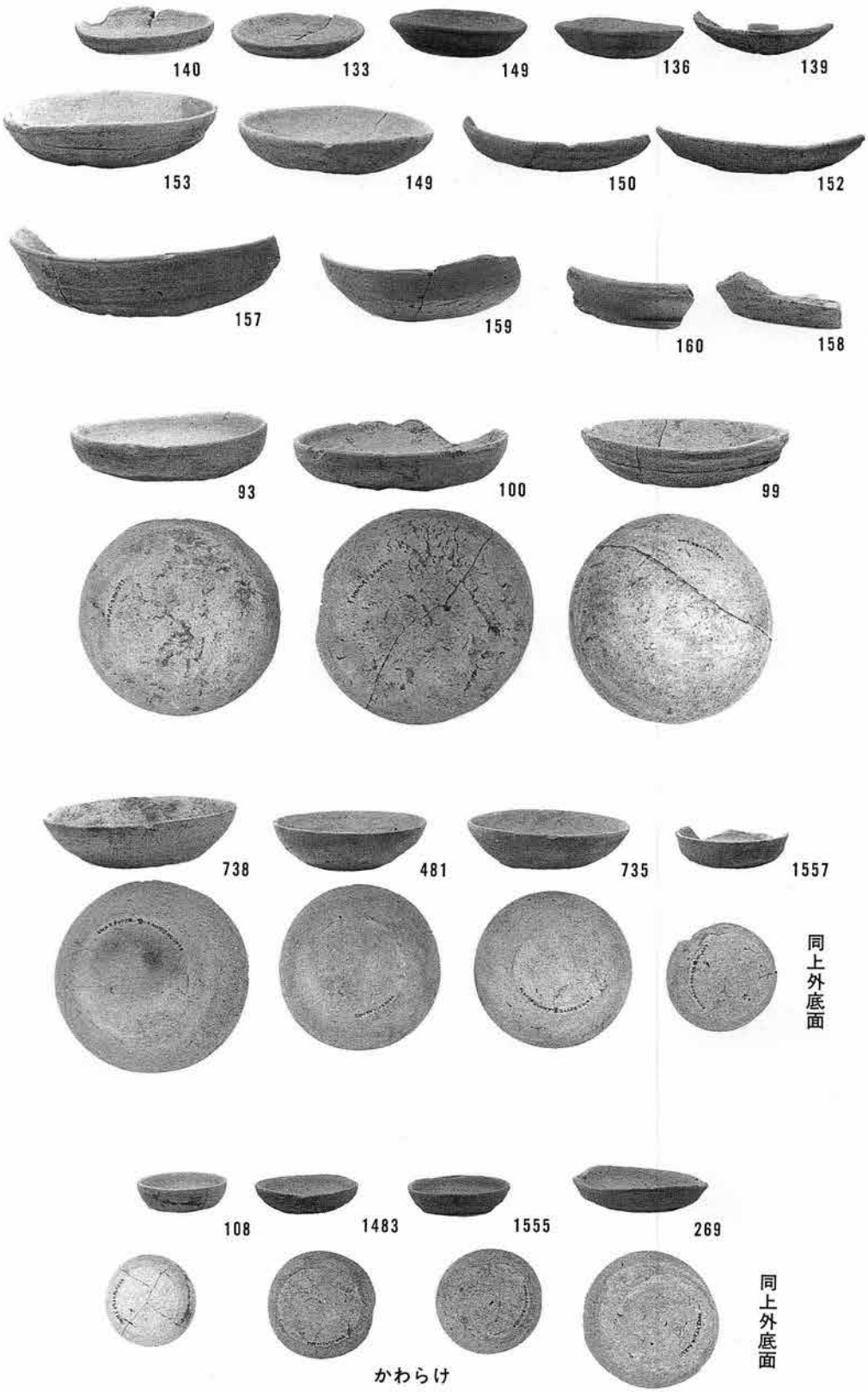
▲ 1 a面溝 9 内
ハナゴンドウイルカ出土状況

▼ 1 a面 イノシシ下顎・上顎骨



図版 7




140
133
149
136
139
153
149
150
152
157
159
160
158
93
100
99
738
481
735
1557
同上外底面
108
1483
1555
269
同上外底面

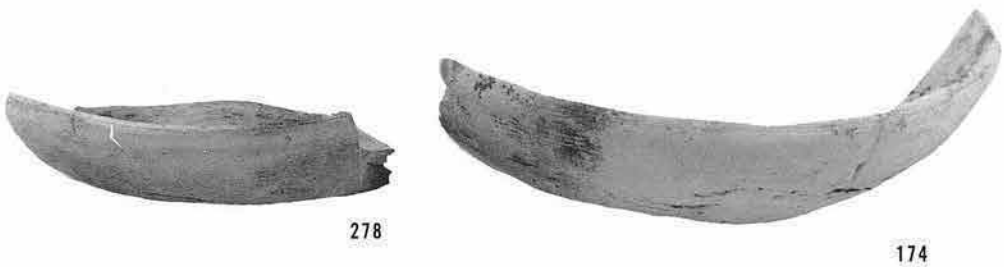
かわらけ

図版 9

450　89　91　273

同上外底面

かわらけ



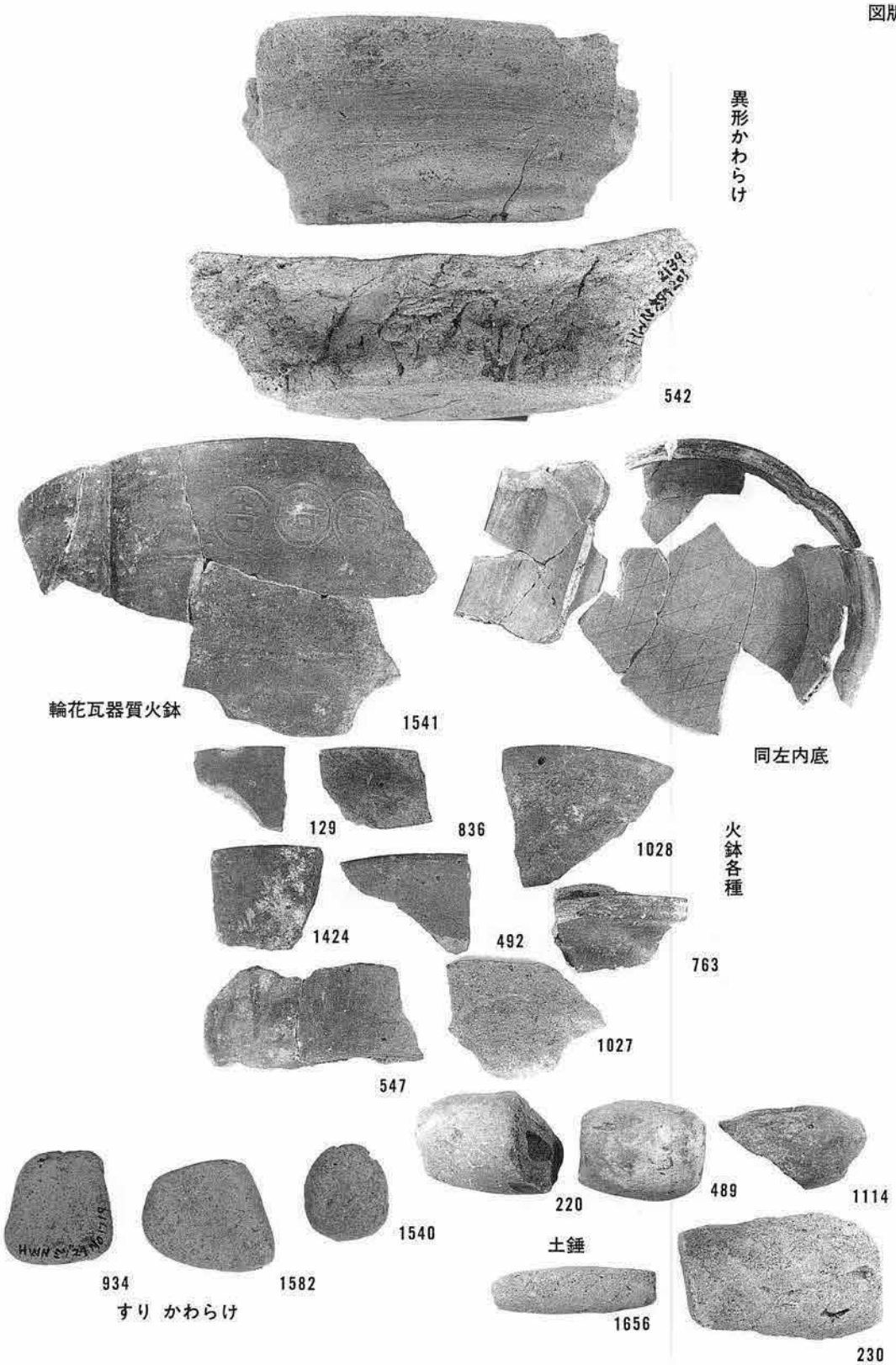
278　174

白かわらけ

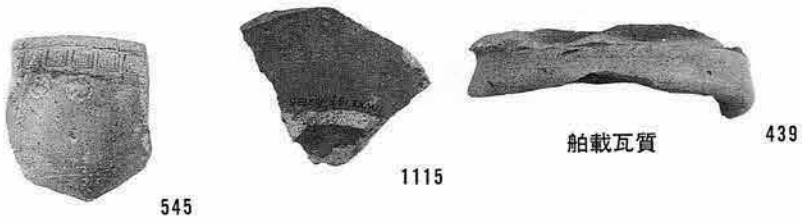
102　101　787

底部穿孔
かわらけ

墨書らくがき


異形かわらけ
542
輪花瓦器質火鉢
1541
同左内底
129
836
1028
火鉢各種
1424
492
763
1027
547
220
489
1114
1540
土錘
934
1582
すり かわらけ
1656
230

図版11



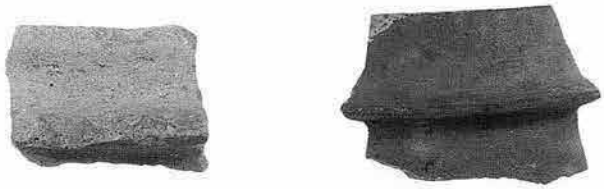
545　1115　舶載瓦質　439

瓦質・土器質各種

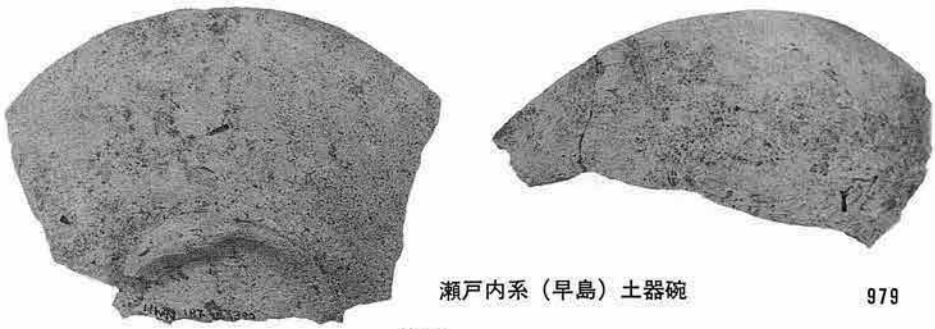
464

1464　1112

伊勢系土鍋

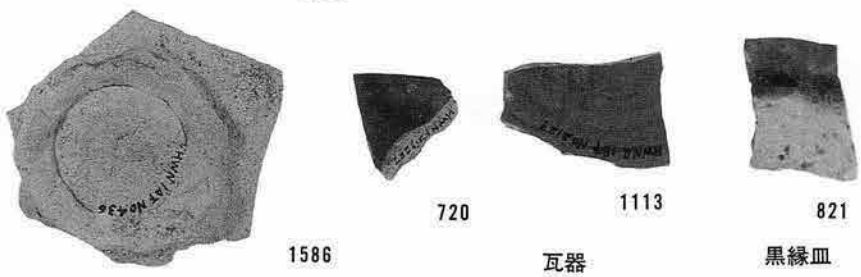


1111　土釜　418



瀬戸内系（早島）土器碗

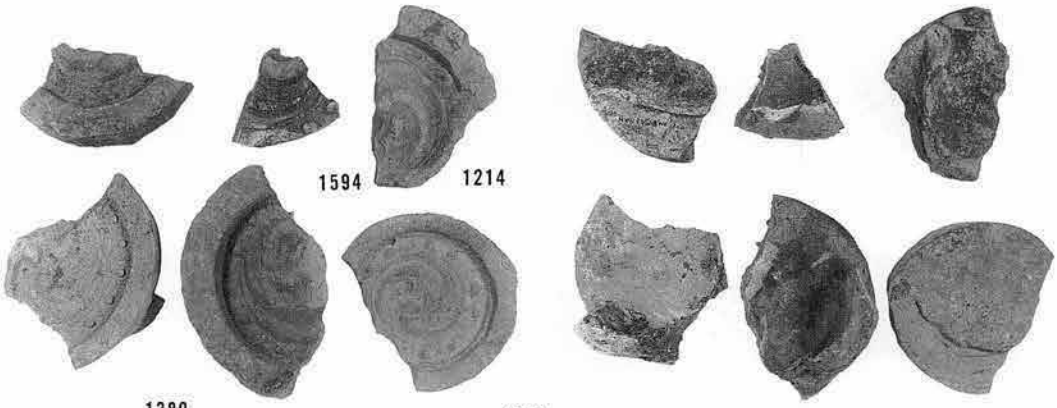
1110　979



720　1113　821

1586　瓦器　黒縁皿

513　232　1673



1594　1214

1389　1213　同左裏側

軒丸瓦

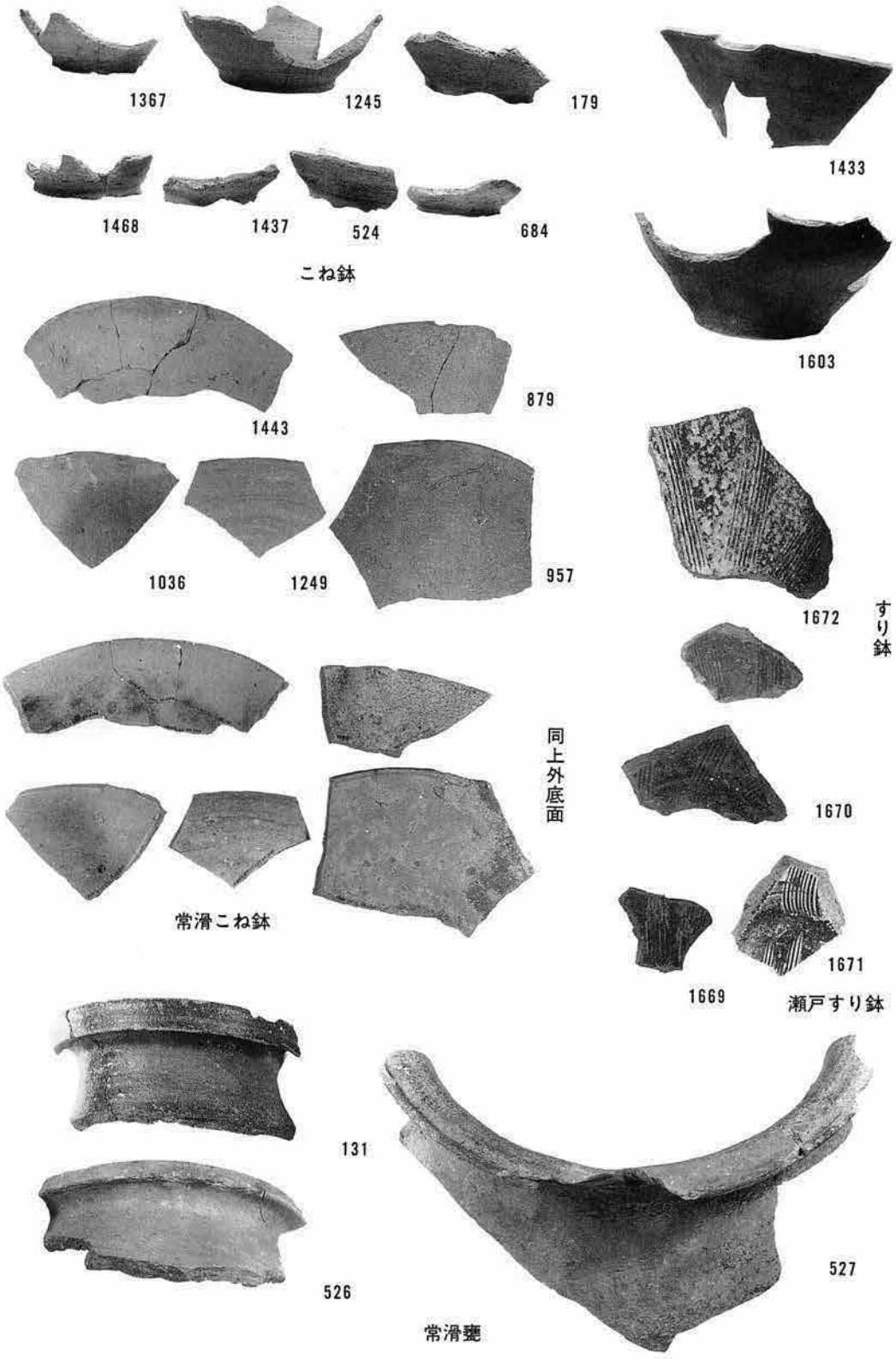
452　419　1596　1216　744

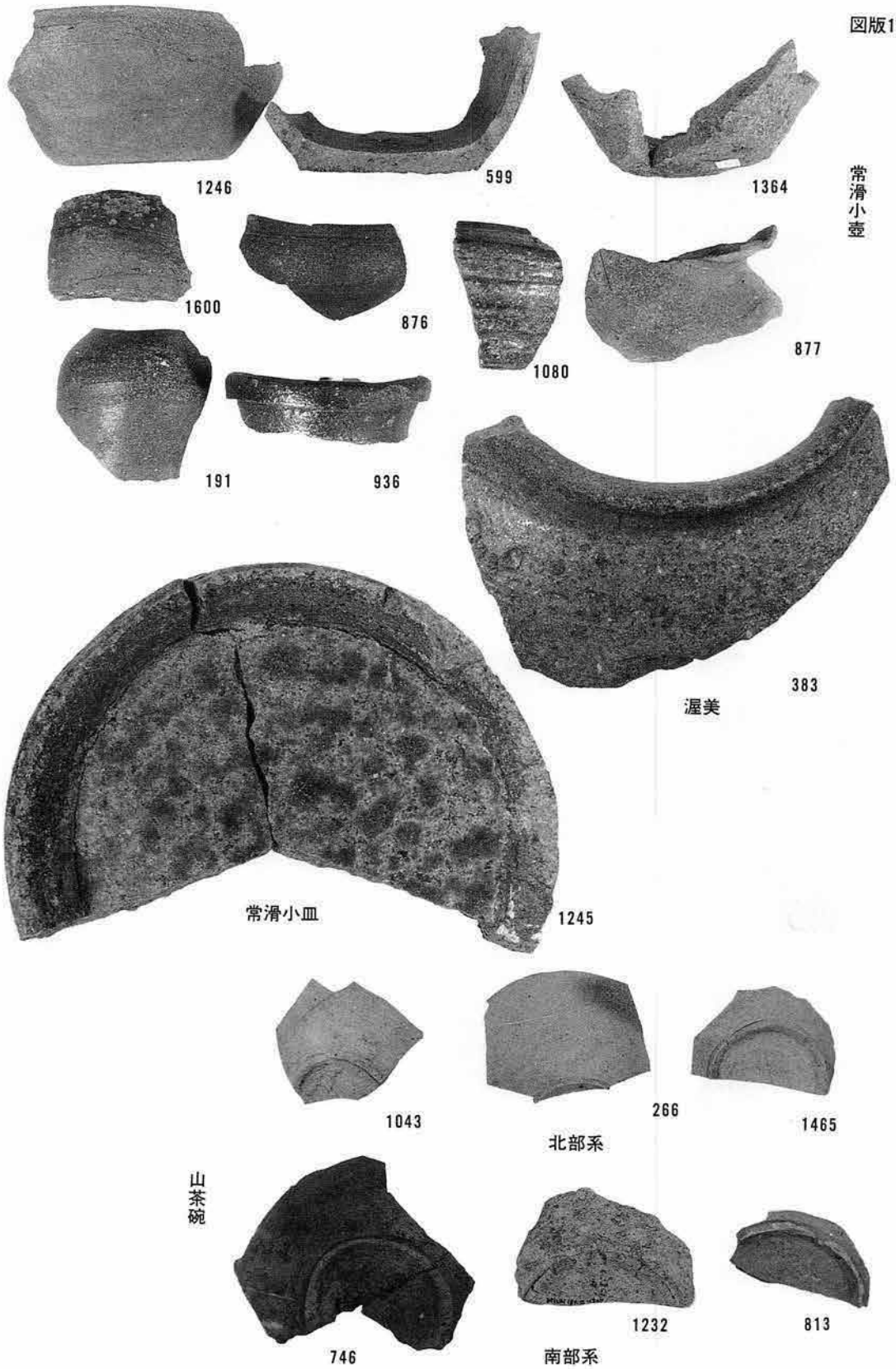
軒平瓦

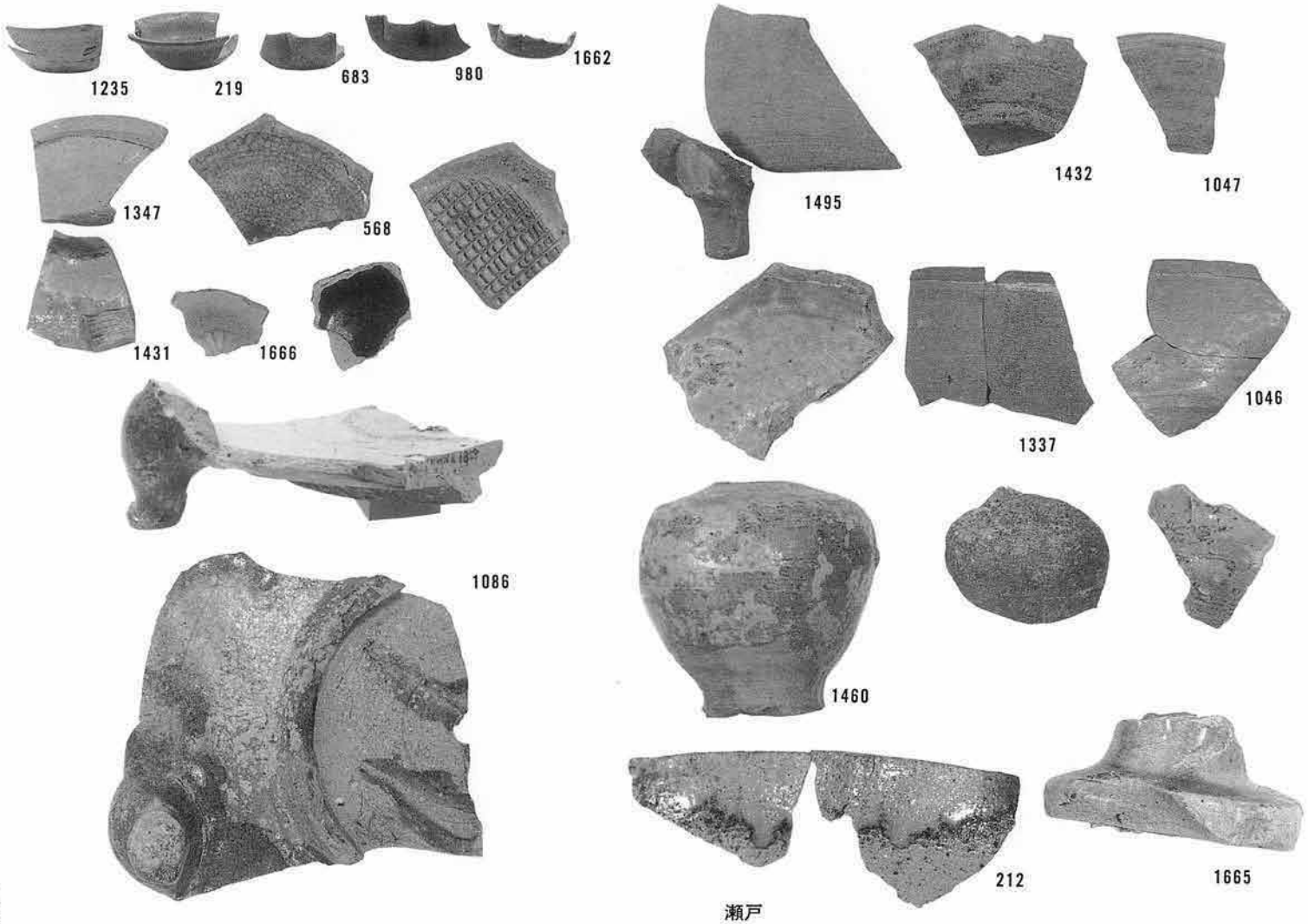
1429　1336　1597　350　978

東海系瓦

図版13


1367
1245
179
1433
1468
1437
524
684
こね鉢
1603
1443
879
1036
1249
957
1672
すり鉢
同上外底面
1670
常滑こね鉢
1671
1669
瀬戸すり鉢
131
526
527
常滑甕


1246
599
1364
常滑小壺
1600
876
1080
877
191
936
383
渥美
常滑小皿
1245
1043
266
1465
北部系
山茶碗
746
1232
813
南部系


1235
219
683
980
1662
1347
568
1431
1666
1086
1495
1432
1047
1337
1046
1460
212
1665
瀬戸

図版15

456　1612　1051　1262

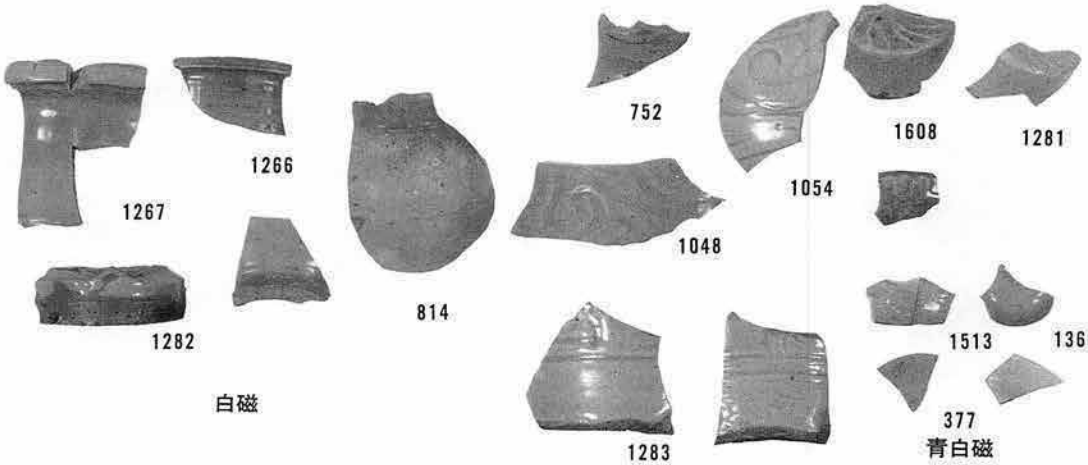
白磁口兀皿

1109　1053　423

181　1108　475　423　1675

同上外面

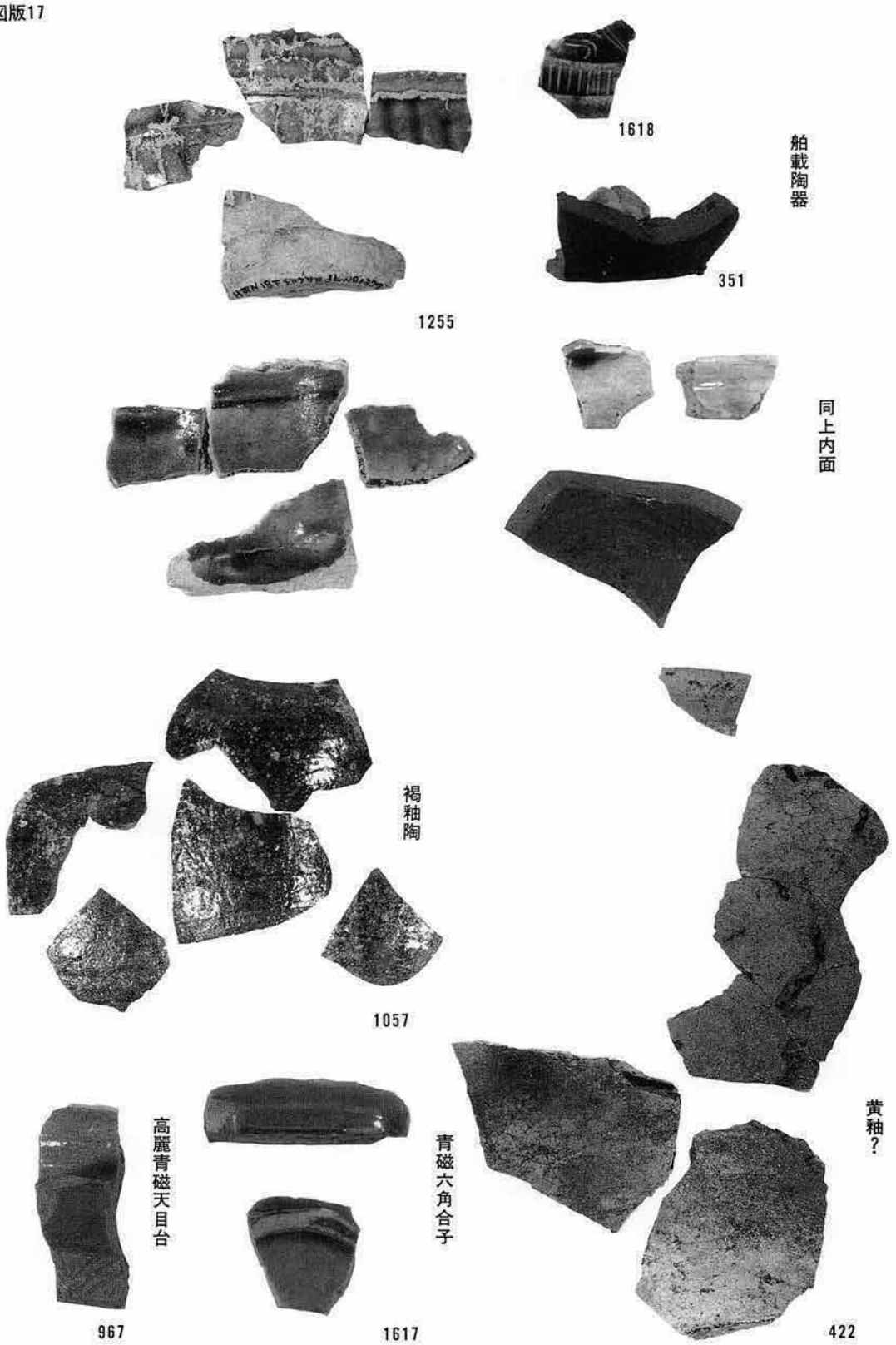
974　青磁　211　1280　474

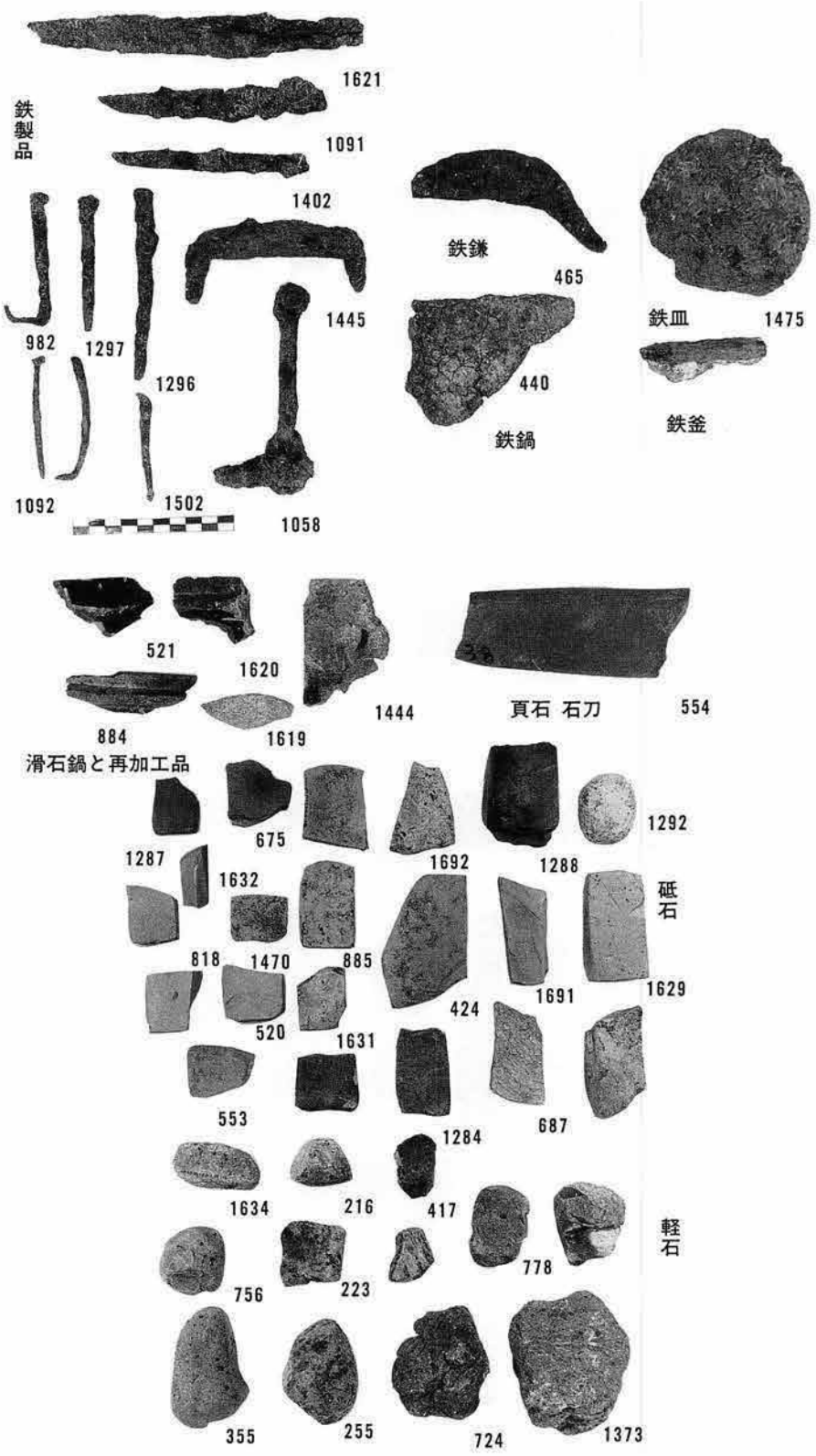


1267　1266　752　1608　1281　1054　1048　1282　814　1513　1368　377

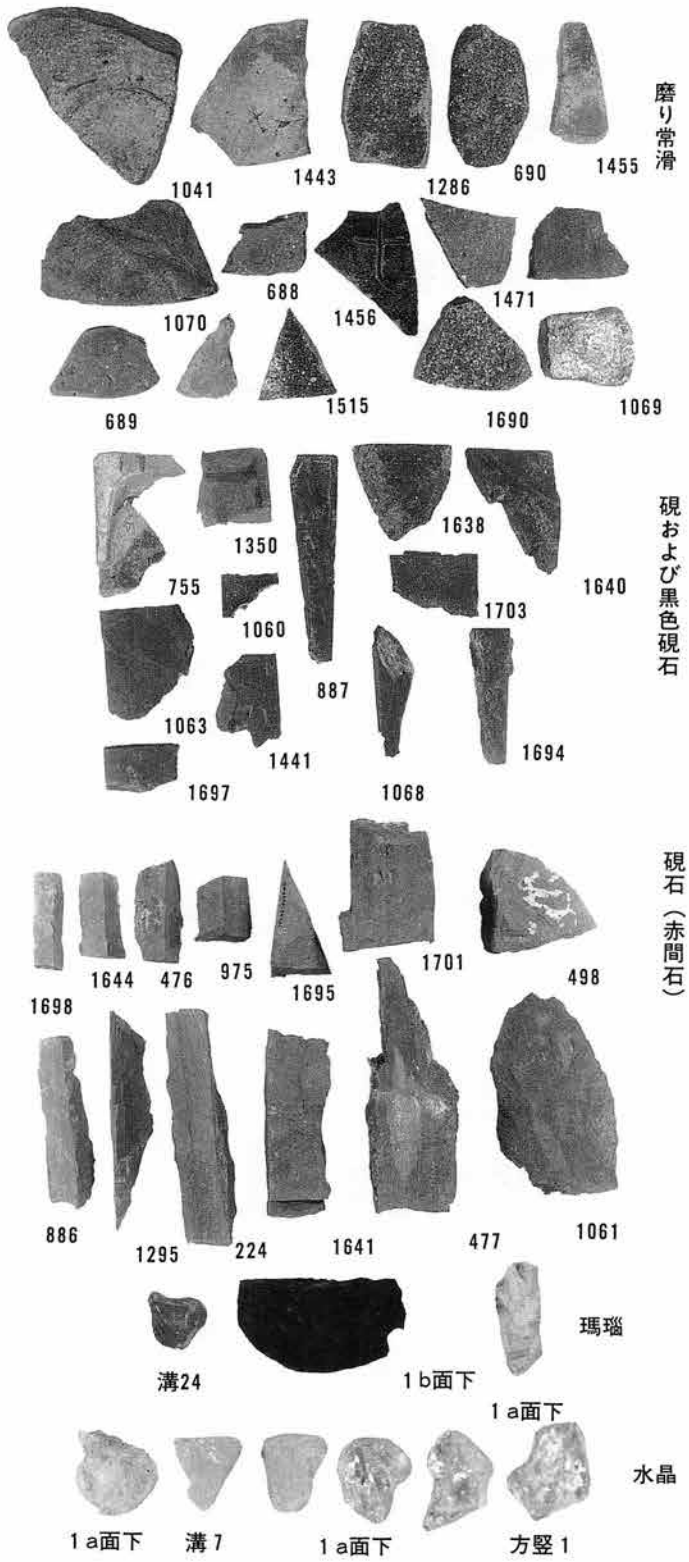
白磁　1283　青白磁

図版17


1618
船載陶器
351
1255
同上内面
褐釉陶
1057
黄釉?
高麗青磁天目台
967
青磁六角合子
1617
422


鉄製品
1621
1091
1402
982
1297
1296
1445
1092
1502
1058
鉄鎌
465
440
鉄鍋
鉄皿
1475
鉄釜
521
1620
884
1619
1444
頁石 石刀
554
滑石鍋と再加工品
1287
675
1692
1288
1292
1632
砥石
818
1470
885
424
1691
1629
520
1631
553
687
1284
1634
216
417
軽石
778
756
223
355
255
724
1373

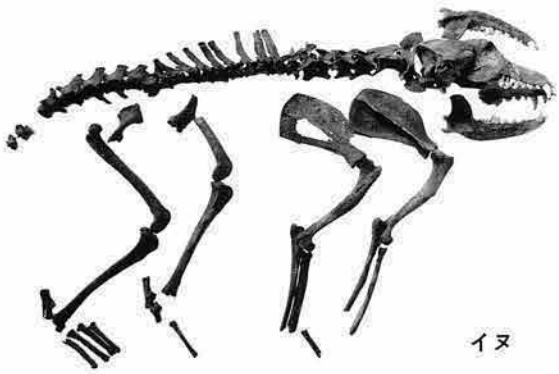
図版19


磨り常滑
1041
1443
1286
690
1455
688
1070
1456
1471
689
1515
1690
1069
硯および黒色硯石
1350
1638
755
1640
1703
1060
887
1063
1441
1694
1697
1068
硯石（赤間石）
1644
476
975
1695
1701
498
1698
886
1295
224
1641
477
1061
瑪瑙
溝24
1b面下
1a面下
水晶
1a面下
溝7
1a面下
方竪1

ネズミ
上腕骨
R-per
寛骨
L
大腿骨
下顎骨R
尺骨
R-per
R-per
L-per

ウサギ
上腕骨
尺骨
橈骨
寛骨
大腿骨
脛骨
R-p
R-d
L
R
L-p
R-p
R-per
R-per

ネコ
頭骨
上腕骨
大腿骨
脛骨
上顎骨R
下顎骨R
R-d
L-d
R-per
L-p
L-p



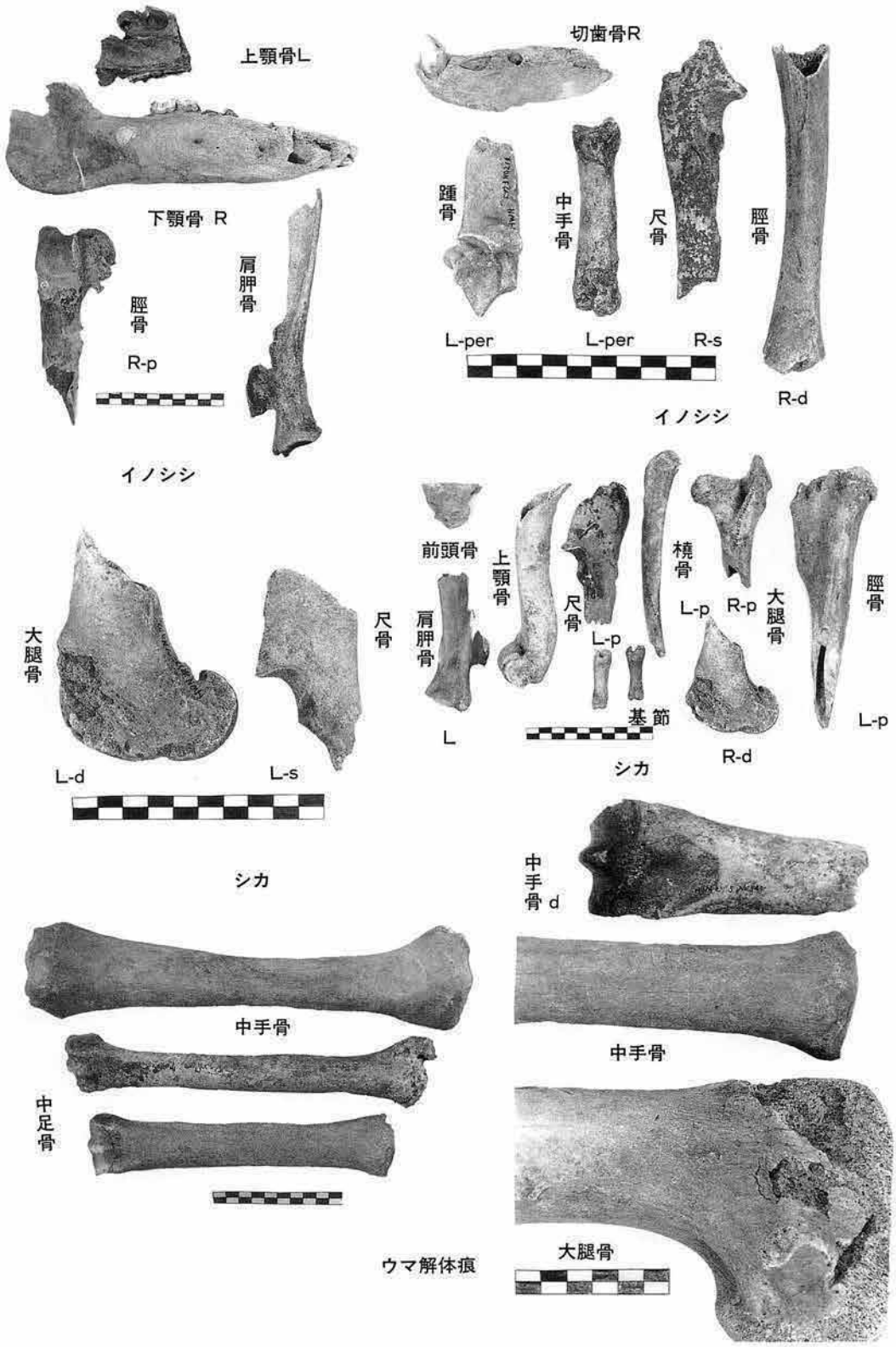
井戸１掘り方内出土犬

イヌ
頭骨
上腕骨
R-per
肩胛骨
R-s
幼犬
下顎骨L

図版21

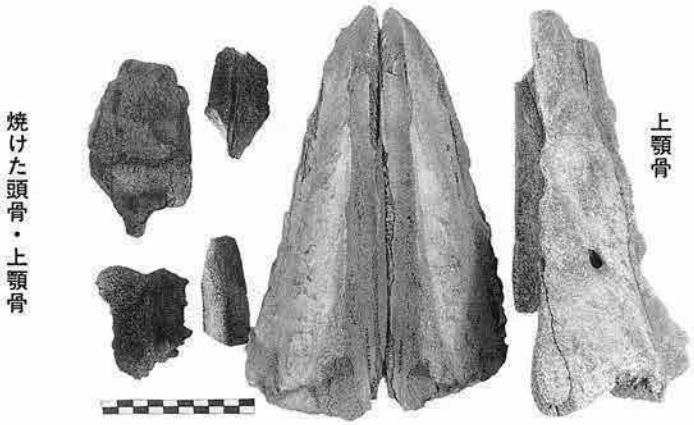
ウシ
角
上腕骨
L
R
軸椎
寛骨L
橈骨
尺骨
L
上腕 焼けている
中手骨
中足骨
距骨～末節R

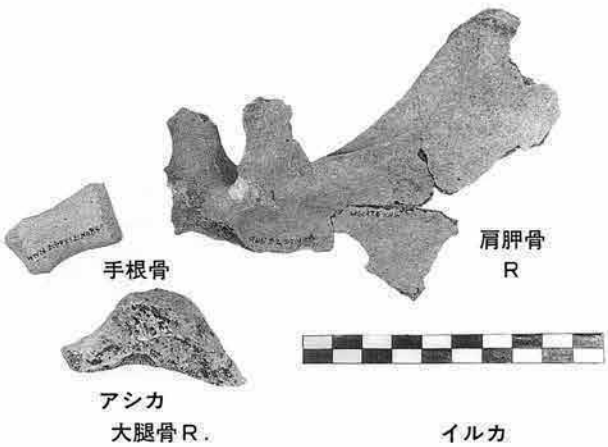
図版23

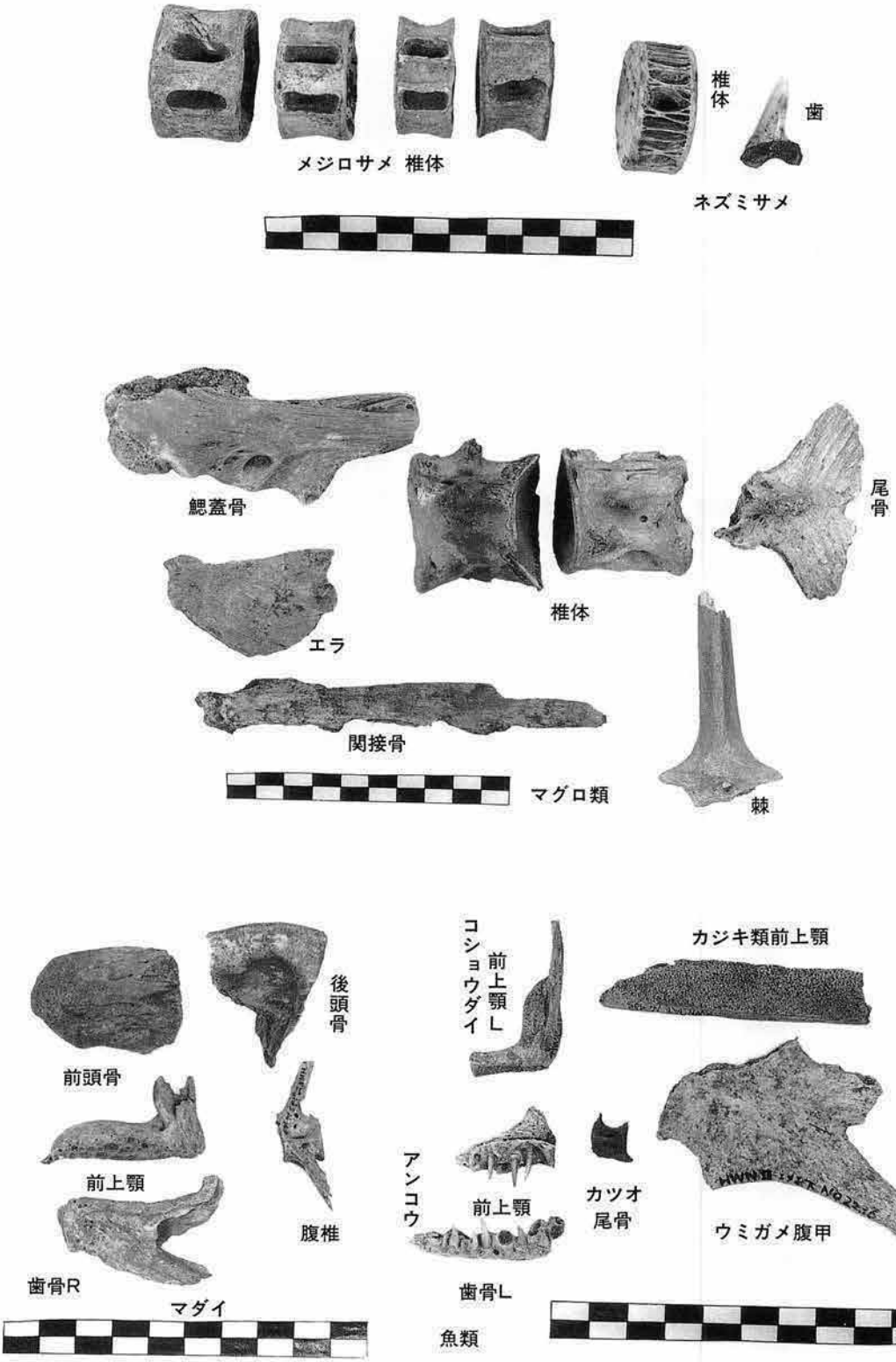

上顎骨L
下顎骨 R
肩胛骨
脛骨
R-p
イノシシ
切歯骨R
踵骨
中手骨
尺骨
脛骨
L-per
L-per
R-s
R-d
イノシシ
前頭骨
上顎骨
尺骨
肩胛骨
L
橈骨
L-p
R-p
大腿骨
脛骨
基節
L-p
R-d
シカ
大腿骨
尺骨
L-d
L-s
シカ
中手骨 d
中手骨
中手骨
中足骨
ウマ解体痕
大腿骨

9 発掘出土ハナゴンドウイルカ

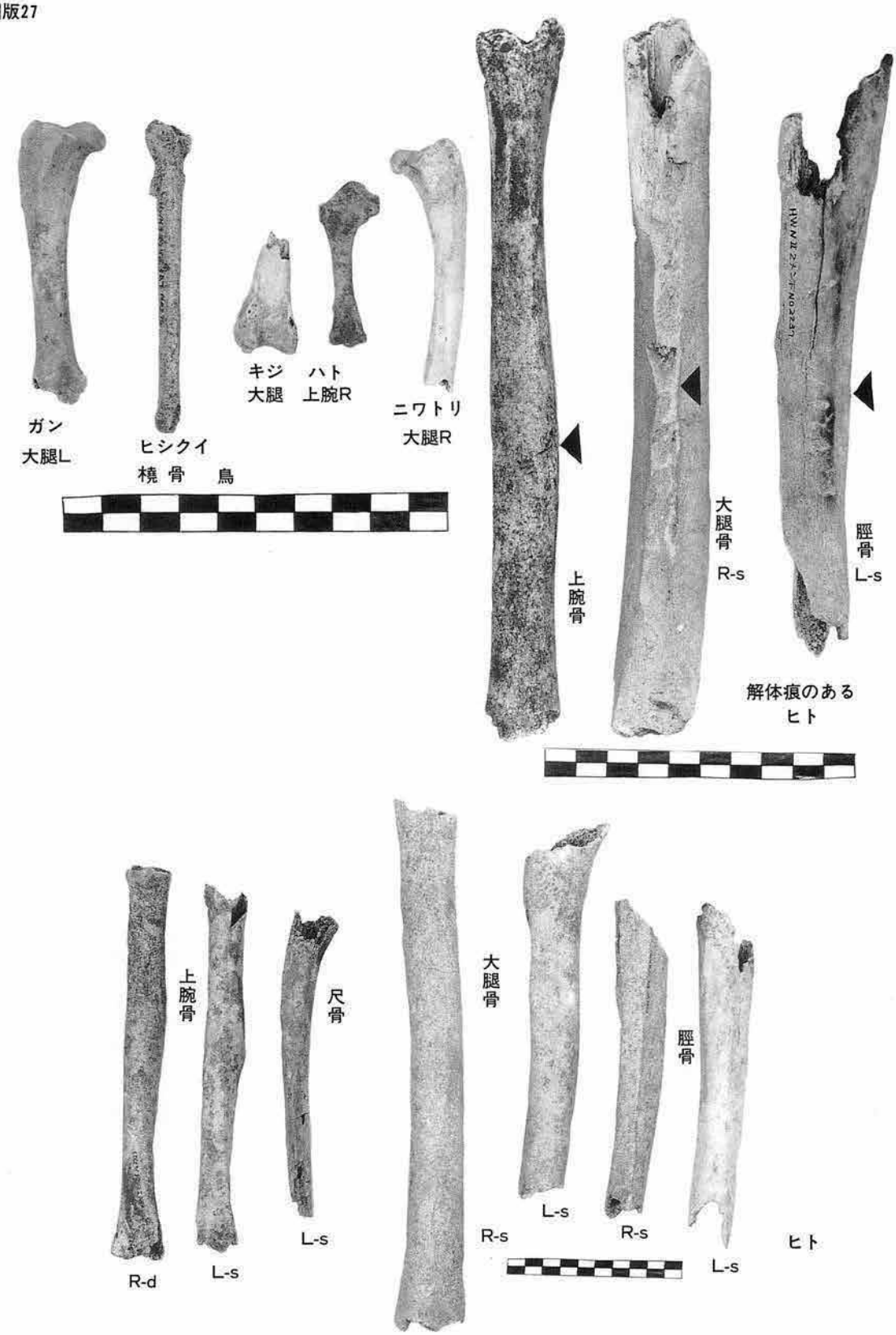
図版25

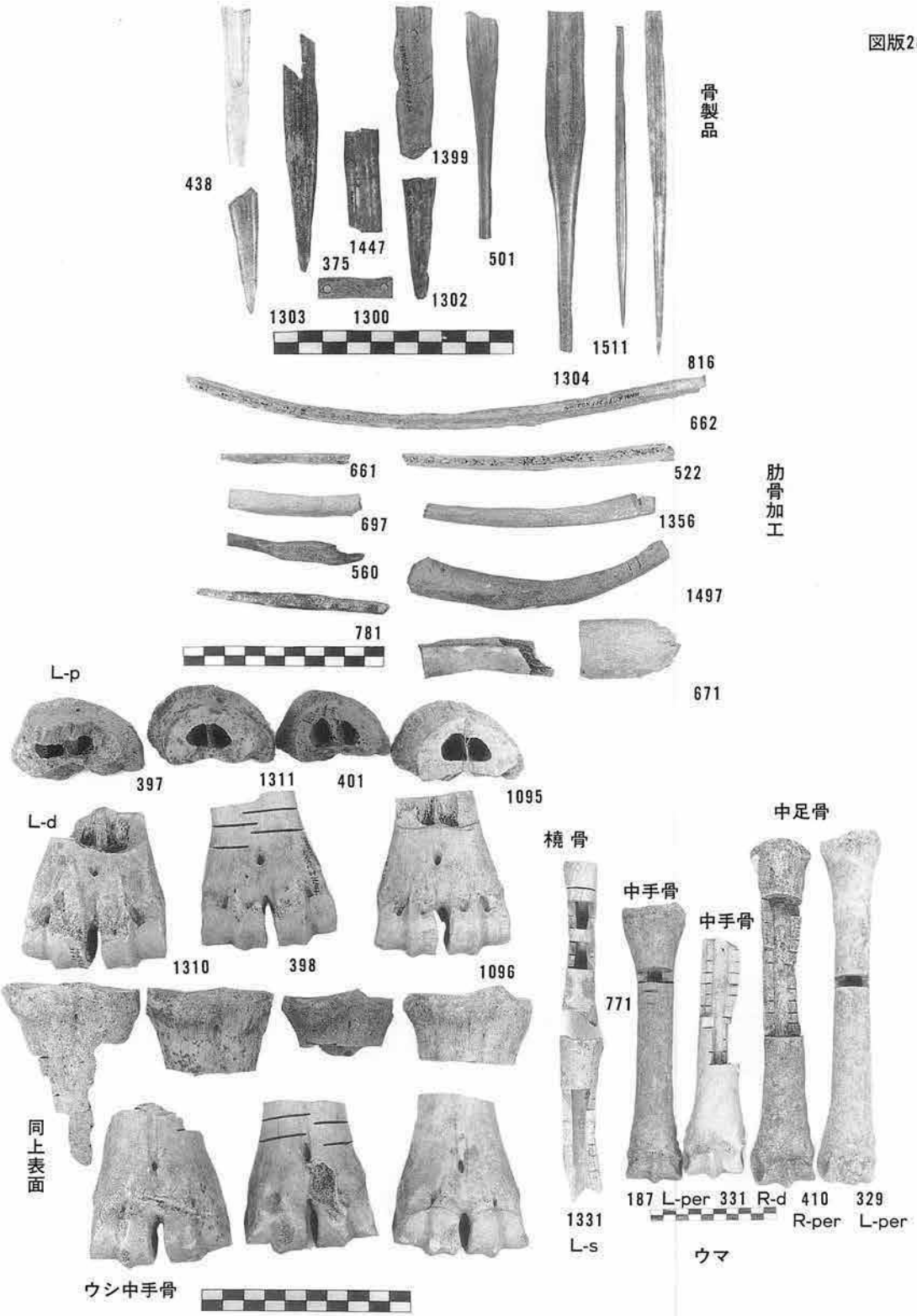




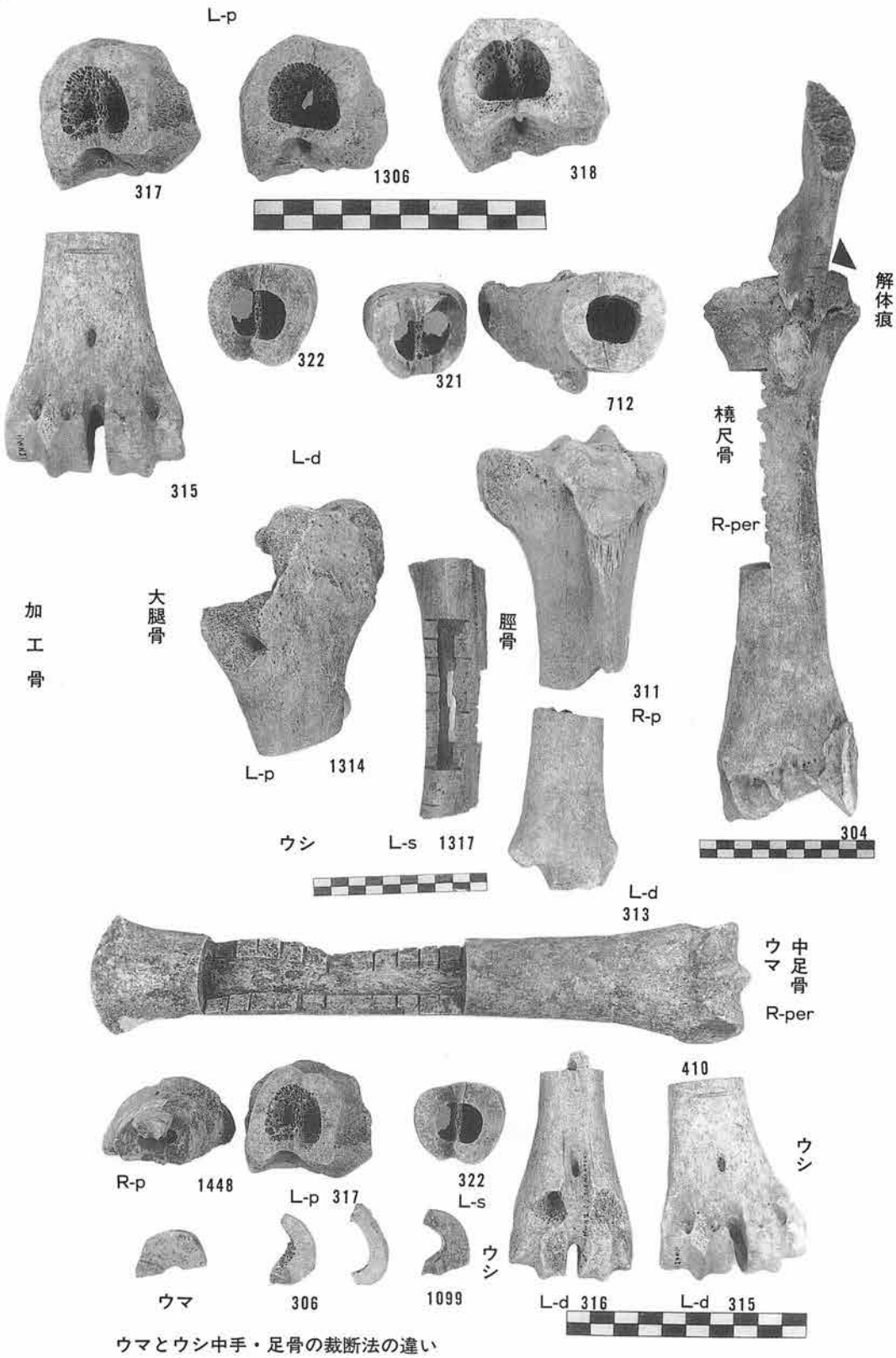

メジロサメ 椎体
椎体
歯
ネズミサメ
鰓蓋骨
尾骨
椎体
エラ
関接骨
マグロ類
棘
後頭骨
前頭骨
前上顎
歯骨R
マダイ
腹椎
前上顎L
コショウダイ
アンコウ
前上顎
歯骨L
魚類
カツオ
尾骨
カジキ類前上顎
ウミガメ腹甲

図版27

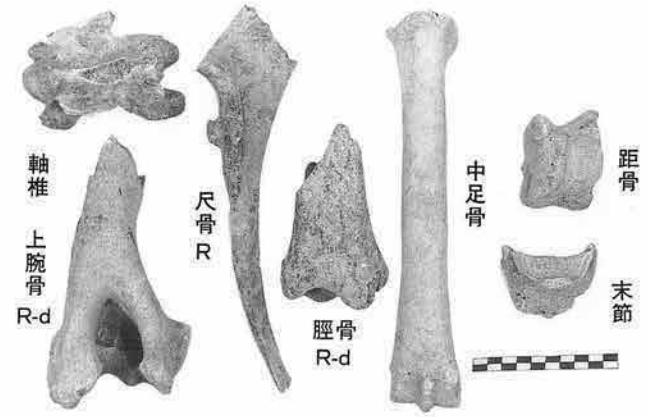

ガン
大腿L
ヒシクイ
橈骨
鳥
キジ
大腿
ハト
上腕R
ニワトリ
大腿R
上腕骨
大腿骨
R-s
脛骨
L-s
解体痕のある
ヒト
上腕骨
尺骨
R-d
L-s
L-s
大腿骨
脛骨
L-s
R-s
R-s
L-s
ヒト


骨製品
438
1399
1447
375
501
1302
1303
1300
1511
816
1304
662
661
522
肋骨加工
697
1356
560
1497
781
671
L-p
397
1311
401
1095
L-d
1310
398
1096
同上表面
ウシ中手骨
橈骨
771
1331
L-s
中手骨
中手骨
中足骨
187 L-per 331 R-d 410 329
R-per L-per
ウマ

図版29

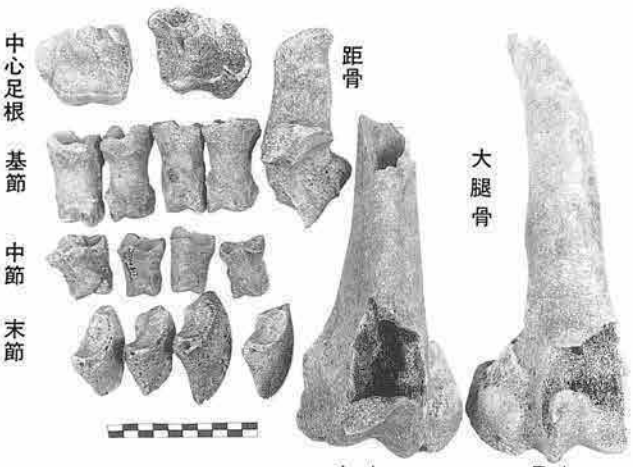


ウマとウシ中手・足骨の裁断法の違い



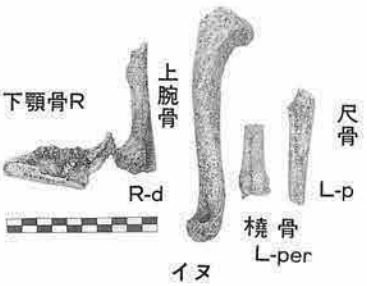
ウマ

ウマ解体痕



ウシ

ウシ角



イヌ

サメ歯

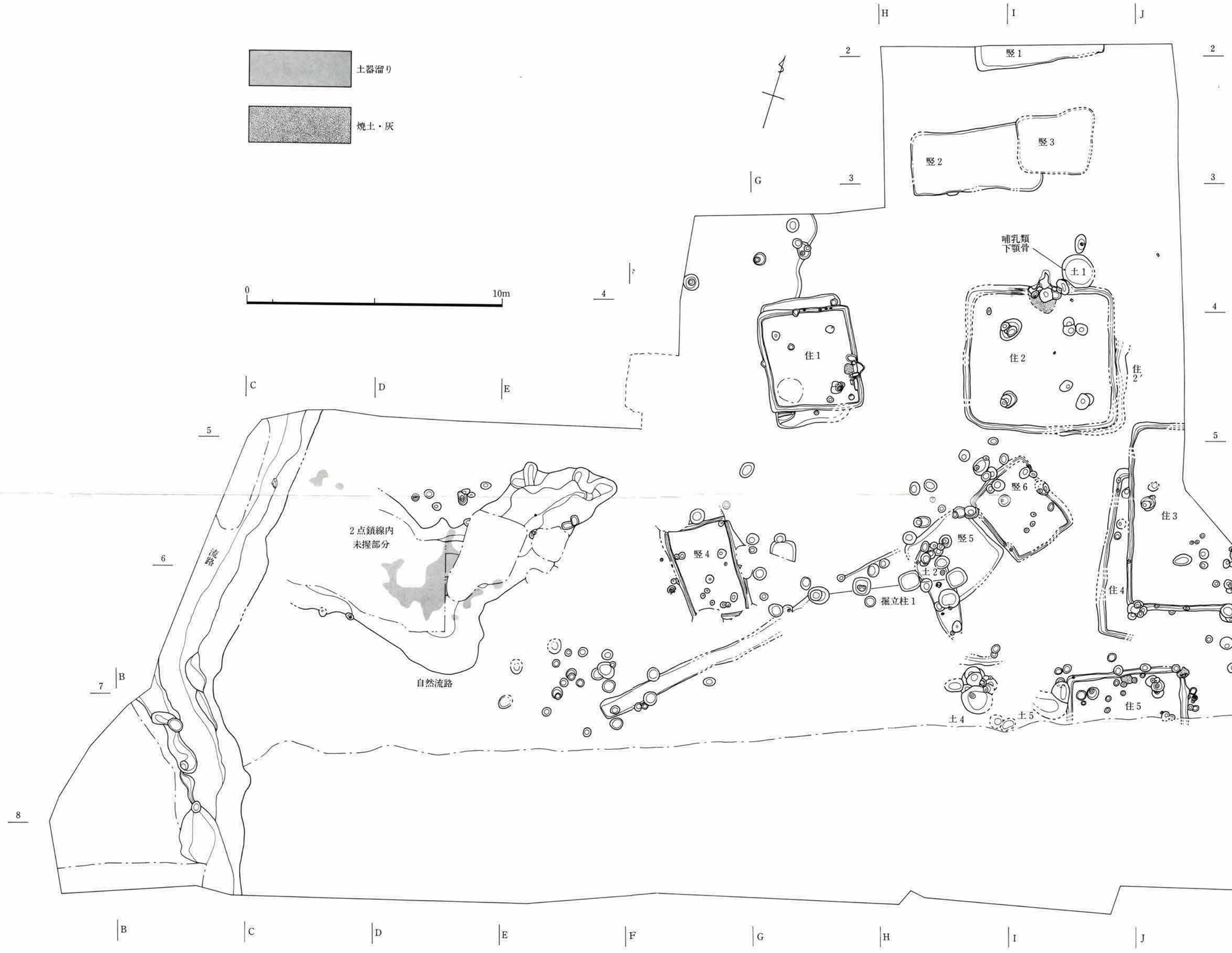
溝214出土

図版31

アカニシ

溝214出土貝

大倉幕府周辺遺跡群　付図１　中世遺構全図



大倉幕府周辺遺跡群　付図2　原始・古代遺構全図

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　9
平成４年度　発掘調査報告(第２分冊)
発 行 日　平成５年３月
編集
発行　鎌倉市教育委員会
印　刷　㈱グラフ